# 國譯大藏經

經部
第七卷

# 目次

國譯大方廣佛華嚴經……………一—五九一

## 漢譯原文

大方廣佛華嚴經……………一—三〇

以上

# 國譯大方廣佛華嚴經

## 巻の第四十

### 離世間品第三十三の四

『佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の金剛心を發して㈠大乘を莊嚴する有り。何等をか十と爲す。所謂る菩薩摩訶薩は是の如きの念を作さく、「一切の諸法は分際有ること無く、究竟す可からず」と。菩薩は是の如きの心を發すらく、「我當に三世の一切諸法を覺了して悉く餘り有ること無からしむべし」と。是は爲菩薩摩訶薩の第一の金剛心を發して大乘を莊嚴するなり◎菩薩摩訶薩は是の如きの念を作さく、「一毛端の處に於て無量無邊にして數ふ可からざる菩薩有り、何に况んや一切法界をや」と。菩薩は是の如き心を發すらく、「我當に大莊嚴を發して自ら莊嚴し、衆生を化度して、皆阿耨多羅三藐三菩提を成ぜしめ、大般涅槃を以て般涅槃すべし」と。是は爲菩薩摩訶薩の第二の金剛心を發して大乘を莊嚴するなり◎菩薩摩訶薩は是の是きの念を作さく、「十方の世界は無量無邊にして、分際有ること無し」と。

【一】既に衣住貴ぶ可きが故に能く大乘無限齊の法に於て、堅固の心を以て其の玄際を窮盡するを大乘を莊嚴すと云ふ。

菩薩は是の如きの大願を發すらく、「我當に無上なる清淨の莊嚴を以て、此等の一切の世界を莊嚴し、彼の諸の莊嚴は皆實にして虛しからざるべし」と。是は爲菩薩摩訶薩の第三の金剛心を發して大乘を莊嚴するなり◎菩薩摩訶薩は是の如きの念を作さく、「衆生は無量無邊にして分際有ること無く、窮盡す可からず」と。菩薩は是の如きの心を發すらく、「我當に諸の善根を以て、一切の衆生に回向し、無上なる大智慧の光を以て、普く一切の衆生を照すべし」と。是は爲菩薩摩訶薩の第四の金剛心を發して大乘を莊嚴するなり◎菩薩摩訶薩は、是の如きの念を作さく、「一切の諸佛は無量無邊にして、窮盡す可からず」と。菩薩は是の如きの心を發すらく、「我が種ゑし所の善根を、一切の諸佛に回向し、奉給し供養したてまつり、然して後に、我乃ち等正覺を成ぜん」と。是は爲菩薩摩訶薩の第五の金剛心を發して大乘を莊嚴するなり◎菩薩摩訶薩は一切の佛を見たてまつり、說きたまふ所の法を聞きて、大歡喜の心を發し、自身及び如來身に著せず、佛身は實に非ず虛に非ず、有に非ず無に非ず、有性に非ず無性に非ず、色に非ず無色に非ず、相に非ず無相に非ず、生に非ず滅に非ずと解知し、如來は實に所有無く亦有相を壞せずと解知す。何を以ての故に、一切を攝取するが故なり。是は爲菩薩摩訶薩の第六の金剛心を發して大乘を莊嚴するなり◎菩薩摩訶薩は、若し衆生有りて、訶罵し毀辱し、或は手足耳鼻を截ち、或は其の目を挑り、或は其の頭を級らんも、菩薩は此に因るが故に恚害の心を生ぜず、不可說不可說の劫に於て、菩薩の行を修して衆生を攝取し、心に廢捨せず。何を以ての故に、菩

薩摩訶薩は不二の法に住して、善く菩薩の所學を學び、清淨の直心をもつて、一切の衆生に於て瞋恚の心無く、衆苦を忍住して心に加報無く、自身に一切の衆苦を堪受すればなり。是は爲菩薩摩訶薩の第七の金剛心を發して大乘を莊嚴するなり◎菩薩摩訶薩は是の如きの念を作さく、「未來世の劫は無量無邊にして、分際有ること無く窮盡す可からず」と。菩薩は是の如きの心を發すらく、「我當に一切の未來世の、法界虛空界に等しき、劫を盡して、一世界に於て菩薩の道を行じて衆生を敎化すべし、一世界の如く、盡法界虛空界に等しき一切の世界も亦復た是の如し、心亦驚かず、怖ぢず、畏れずして菩薩の行を行ぜん。何を以ての故に、菩薩の法は應に是の如く、一切衆生の爲めに菩薩の行を修すべければなり」と。是は爲菩薩摩訶薩の第八の金剛心を發して大乘を莊嚴するなり◎菩薩摩訶薩は是の如きの念を作さく、「阿耨多羅三藐三菩提は心を以て本と爲す。心清淨なるが故に、能く一切の善根を積集し成滿す。若し心自在なるを得ば、則ち能く無上の菩提を成就し、菩薩の行を行じ、諸願を滿足し、究竟じて一切の衆生を敎化せん」と。是は爲菩薩摩訶薩の第九の金剛心を發して大乘を莊嚴するなり◎菩薩摩訶薩は佛の不可得、菩提の不可得、菩薩の不可得、一切法の不可得、衆生の不可得、心の不可得、行の不可得、過去の不可得、未來現在の不可得、一切衆生の不可得、有爲無爲の不可得なることを知る。菩薩摩訶薩は是の如くして、寂靜に住し、甚深に住し、寂滅に住し、無諍に住し、不可得に住し、無二に住し、無等に住し、眞實に住し、成就に住し、解脫に住し、

涅槃に住し、實際に住して、而も亦一切の大願を捨てず、一切の智心を發すことを捨てず、菩薩の行を修することを捨てず、衆生を敎化することを捨てず、諸佛を恭敬し、供養したてまつることを捨てず、法を說くことを捨てず、一切の世界を莊嚴することを捨てず。何を以ての故に、菩薩摩訶薩は大願を出生するが故なり。菩薩は善く是の如きの法相を知りて、大悲の無量なる功德を長養し、衆生を攝取して衆生を捨てず。一切の諸法は眞實有ること無し、凡愚の衆生は知らず覺らざるなり。一切の諸佛は寂滅に安住して、正法を演說し、衆生を敎化し大悲を捨てたまはず。一切衆生は未だ菩提を得ず、佛法未だ足らず、大願未だ滿せざるなり。我本一切衆生に請ふて、無上の大法施の主と爲り、實語、不虛語、一切諸佛の種姓の語を唱へ、大願門の心を發し、一切衆生を饒益する心を發し、一切の善根を長養する心を發し、善巧方便に安住する心を發し、內身に一切衆生を含受する心を發し、一切衆生の所に平等を生ずる心を發して、一切衆生をして所願を成滿せしめん。我當に云何んが未だ衆生を度せざるに而も大悲を捨つべき。是は爲菩薩摩訶薩の第十の金剛心を發して、大乘を莊嚴するなり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の金剛心を發して大乘を莊嚴すと爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる金剛智明を得ん。

【二】所作の大事に於て發起現前せしむる義。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の(三)大事を發す有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の諸佛を恭敬

し供養したてまつらん。是は爲菩薩摩訶薩の第一の發大事なり◎一切の菩薩の善根を長養せん。是は爲菩薩摩訶薩の第二の發大事なり◎一切如來の滅度の後に、悉く舍利を取りて無量の塔を起し、種種の妙寶を以て莊嚴と爲し、一切の華、一切の鬘、一切の香、一切の塗香、一切の末香、一切の衣、一切の蓋、一切の幢、一切の旛を以て之を供養し、諸佛の正法を守護せん。是は爲菩薩摩訶薩の第三の發大事なり◎一切衆生を教化し成就して、阿耨多羅三藐三菩提を得しめん。是は爲菩薩摩訶薩の第四の發大事なり◎諸の佛刹の無上清淨の莊嚴を以て、一切の世界を莊嚴せん。是は爲菩薩摩訶薩の第五の發大事なり◎菩薩摩訶薩は是の如きの念を作さく、「我當に一りの衆生の爲めに一一の世界に於て、未來際の阿僧祇劫を盡して、菩薩の行を修すべし。一りの衆生の爲めの如く一切衆生の爲めにも亦復た是の如く、大悲を出生して、一切衆生をして菩提に安住せしめ、乃至一念疲厭の心を生せざるべし」と。是は爲菩薩摩訶薩の第六の發大事なり◎「我當に不可思議阿僧祇劫に於て、彼の諸の如來」を恭敬し供養したてまつるべし」と。是は爲菩薩摩訶薩の第七の發大事なり◎「彼の諸の如來の滅度の後は、我當に悉く舍利を取りて塔廟を起し、其の塔の高廣なること、不可說の諸の世界と等しくし、如來の像を造りて、巍巍高大なること、不可思議の世界の如くし、不可思議劫に於て、衆の妙寶、幢旛、繒蓋、華香を以て之を供養したてまつり、乃至一念休息の心を生ぜず。衆生を教化し、正法を受持し、守護し讚歎して、亦一念休息の心無かるべし」と。是は爲菩薩摩訶薩の第八の發大事な

り⦿「彼の諸の善根を修習して、阿耨多羅三藐三菩提を成し、悉く一切諸の如來と等しく、一切諸の如來地を逮得せん」と。是は爲菩薩摩訶薩の第九の發大事なり⦿「我菩提を成じ已りて、一切の世界に於て不可說の劫に、微妙の法を說き、如來の不可思議なる自在神變を示現し、其の身口意は未だ曾て暫くも疲厭の想を生ぜず、但專ら正法を念ずるの心、如來力の心、一切衆生の願を充滿する心、大慈悲の心、諸法の眞實を觀察するの心を發し、實語に安住して寂滅の法を證し、一切の衆生は悉く不可得にして、而も亦一切諸の業に違はず、三世の一切諸佛に隨順して、一切の法界虛空界を究竟し、諸法の所有の相無くして不生不滅なることを觀察し、一切諸佛の無上なる大願を具足し成就して、一切諸佛の大事を施作し、悉く能く一切の衆生を化度せん」と。是は爲菩薩摩訶薩の第十の發大事なり⦿佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の發大事と爲す。若し菩薩摩訶薩此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる智慧を得て、一切の菩薩の所行を斷せざらん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の大事を（三）究竟する有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の如來を恭敬し供養したてまつりて、大事を究竟し。請ふ所の衆生に隨ひて皆悉く度脫して、大事を究竟し。專ら一切諸佛の正法を求めて、大事を究竟し。一切の善根を長養して、大事を究竟し。一切諸の如來の法を出生して、大事を究竟し。一切の淸淨なる大願を成滿して、大事を究竟し。一切の菩薩の行

【三】前は大事を發起現前せしむるなり、今は所作の成滿を明かすが故に究竟と云ふ。

を行じて、大事を究竟し。一切の善知識を恭敬し奉事して、大事を究竟し。一切世界の佛の所に往詣して、大事を究竟し。一切諸佛の正法を聞持し、深く一切諸佛の大衆に入りて、大事を究竟す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の究竟大事と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち阿耨多羅三藐三菩提を得て智慧の大事を究竟せん。◎

(四)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(五)不壞信有り、何等をか十と爲す。所謂る、一切の佛に於て信を壞せず。一切の佛法に於て信を壞せず。一切の聖僧に於て信を壞せず。一切の菩薩に於て信を壞せず。一切の善知識に於て信を壞せず。一切の衆生に於て信を壞せず。一切の菩薩の大願に於て信を壞せず。一切の菩薩の行に於て信を壞せず。一切の諸佛を恭敬し供養したてまつりて信を壞せず。一切の衆生を敎化し、菩薩の巧妙なる方便を成就して信を壞せず。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の不壞の信と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる智慧の不可壞の信を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の(六)受記有り。何等をか十と爲す。所謂る、專ら解脫を求めて、菩薩は記を受く。菩薩の善根を諦滿し諦辯して、菩薩は記を受く。廣く菩薩の無量なる諸行を行じて、菩薩は記を受く。現前に菩薩は記を受く。秘密に菩薩は記を受く。自心に因つて菩提を得て菩薩は記を

【四】次の七十門は行體障を離れて諸の勝德を攝することを明かす。中に於て初め四十門は信慧善を明かし、後の三十門は心行攝德を顯はす。

【五】深入の法に於て不壞の淨信を得、不信の障を破するなり。

【六】既に内に堅固不壞の信を得れば、外に佛の記別を蒙るが故に次に之を明かす。

受く。法忍を得て菩薩は記を受く。衆生を教化し成就して、菩薩は記を受く。一切劫を究竟して、菩薩は記を受く。一切の菩薩の自在の修行にて、菩薩は記を受く。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の受記と爲す。若し菩薩摩訶薩此の法に安住せば、則ち一切の佛の所に於て受記を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（七）善根回向有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の善根を回向して善知識の願に同じ。一切の善根を回向して、善知識の正直心に同じ。一切の善根を回向して、善知識の行に同じ。一切の善根を回向して、善知識の善根に同じ。一切の善根を回向して、善知識の善根に隨順し。一切の善根を回向して、善知識の正念に同じ。一切の善根を回向して、善知識の清淨に同じ。一切の善根を回向して、善知識の住に同じ、一切の善根を回向して、善知識の入成滿平等に同じ。一切の善根を回向して、善知識の不壞の深心に同ず。若し是の如く同せば、則ち無異の同なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の善根回向と爲す。若し菩薩摩訶薩此の法に安住せば、則ち一切の無上なる善根回向を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（八）智慧を得る有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切施に於ける自在の智慧。一切の佛法解脱を樂ふ、自在の智慧。深く一切如來の無量無邊なるに入る、自在の智慧。問に隨ひて能く答へ、一切の疑を滅する自在の智慧。深く實義を解る自在の智慧。一切如來の巧妙なる方

【七】己が善根を以て、善友に順同することを明かす。

【八】回向の德成熟して智慧自在なることを得るなり。

便を解り、深く一切諸佛の解脱に入る自在の智慧。一切の佛の所にて、少しの善根を種ゑ、必ず能く一切の白淨なる善根を滿足して、如來の一切智を出生することを解る自在の智慧。菩薩の不思議住を具足し成就する自在の智慧。一念の中に於て、悉く能く不可説の佛の所に往詣する自在の智慧。一切諸佛の菩提を覺悟して、深く一切の法界に入り、一切の佛法を聞持して、深く一切如來の莊嚴せる語言に入る自在の智慧なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の智慧を得と爲す。若し菩薩摩訶薩此の法に安住せば、則ち一切如來の無上なる自在の智慧を得ん◎

(九)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(一〇)無量無邊の廣心を發す有り。何等をか十と爲す。所謂る、無量無邊の廣心を、一切の佛に於て發し。無量無邊の廣心を發して、一切衆生を度脱す。無量無邊の廣心を發して、一切の衆生、一切の世、一切の刹をして悉く法界に入らしむ。無量無邊の廣心を發して、一切の法は悉く虚空の如しと觀ず。無量無邊の廣心を發して、一切の菩薩の諸行を觀察す。無量無邊の廣心を發して、三世の一切諸佛を正念す。無量無邊の廣心を發して、不可思議なる諸業の果報に了達す。無量無邊の廣心を發して、一切諸の如來の刹を嚴淨にす。無量無邊の廣心を發して、深く一切如來の大衆に入る。無量無邊の廣心を發して、一切如來の妙音を觀察す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の無量無邊の廣心を發すと爲す。若し菩薩摩訶薩此の心に安住せば、則ち一切諸佛の無量無邊の智慧の大海を得ん。

【九】次の三十門は心行攝德を明かす。

【一〇】無限の境に於て其の境に相應する廣大の心を發こすことを示す。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（二）藏有り。何等をか十と爲す。所謂る、分別して一切の法を數へ知る藏。一切の法を出生する藏。普く一切の陀羅尼法を照す藏。一切の法辯を分別し解說する藏。一切の法に於て、不可說の巧方便を覺る藏。一切の佛の自在力、大神變を示現する藏。一切の法に於て、平等なる巧方便を出生する藏。常に一切の佛を見たてまつることを離れざる藏。不思議劫に入りて、皆悉く幻の如き巧方便の藏。一切の諸佛菩薩に於て、歡喜し恭敬する藏なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の藏と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の藏に安住せば、則ち一切諸佛の大智慧の藏を得て、悉く能く一切の衆生を度脫せん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（三）調順有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の佛法を謗らざるの調順。一切の佛に於て、信壞す可からざるの調順。一切の菩薩を尊重し恭敬する調順。一切の善知識に親近する調順。一切の聲聞緣覺を遠離する調順。菩薩の一切の三昧を長養する調順。平等に一切の衆生を觀察する調順。究竟じて一切の善根を成滿する調順。悉く能く一切諸魔を降伏する調順。一切の波羅蜜を成滿する調順なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の調順と爲す。若し菩薩摩訶薩此の法に安住せば、則ち無上なる大智の調順を得ん。

【二】大心普周に依りて、其の德の深廣なることを明かす。藏とは含攝、蘊積の義なり。

【三】既に積德盈滿するが故に諸の麤剛を離れ、諸事に調順なることを得るを以て、今之を示す。調順とは所作の行成熟して至順調柔なるの謂なり。

(三)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の自在有り。何等をか十と爲す。所謂る、壽命自在なり、無量無邊の不可說劫に壽命を住持するが故に。心自在なり、阿僧祇の三昧を出生して深智に入るが故に。莊嚴自在なり、大莊嚴を以て悉く能く一切の刹を莊嚴するが故に。業自在なり、隨時に報を受くるが故に。受生自在なり、一切の刹に於て生を示現するが故に。解脫自在なり、一切の世界に一切の諸佛の充滿したまふを見るが故に。願自在なり、時に隨ひ刹に隨ひて菩提を成ずるが故に。神力自在なり、一切の大神變を示現するが故に。法自在なり、無量無邊の法門を示現する故に。智自在なり、念念の中に於て、如來の十力無所畏を覺悟することを示現するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の自在と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛菩薩の究竟成滿せる一切智の自在を得ん。

(四)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(五)自在有り。何等をか十と爲す。所謂る、衆生自在なり、刹自在なり、法自在なり、身自在なり、願自在なり、境界自在なり、智自在なり、通自在なり。神力自在なり、力自在なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の自在とす。

佛子よ、何等をか菩薩摩訶薩の衆生自在と爲す。佛子、菩薩摩訶薩に十種の衆生自在有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切衆生を度脫する自在。一切衆生の想を持する自在。一切衆生の爲めに法を

【三】第二に、以下百二十門は行用自在を明かす。初の十門は總じて自在を顯はし、後の百十は別して自在を顯はす。

【四】以下別顯の中に初めに十章を列擧し、後次第に十門を開いて之を釋す。

【五】作用無礙にして延促已にあるを自在と云ふ。

説きて、未だ曾て時を失はざる自在。一切の衆生に變化する自在。一切衆生を一毛道に安置して、迫迮せざる自在。一切の世界の、一切の衆生の中に於て示現して、王と爲るの自在。一切衆生の中に於て帝釋梵王を示現する自在。一切衆生の中に於て、聲聞緣覺の不轉の威儀を示現する自在。一切衆生の中に於て、菩薩の行を行ずることを示現する自在。一切衆生の中に於て、佛身の相好端嚴なるを示現して、一切智力を覺悟する自在なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の衆生自在と爲す。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の剎自在有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の剎をして一剎と爲さしむるの自在。一切剎をして一毛道に入らしむるの自在。一切の剎に於て深く無盡の方便に入る自在。一切の剎に於て、一身結跏趺坐して充滿することを示現する自在。一切の剎をして、現に己が身に入らしむる自在。神力をもつて一切の佛剎を振動して、衆生をして恐怖せしめざる自在。一切剎の莊嚴を以て、一剎を莊嚴する示現自在。一剎の莊嚴を以て、一切の剎を莊嚴する示現自在。一如來の身、及び其の眷屬は、皆悉く一切の佛剎に充滿して、衆生に示現する自在。一切の剎・小剎・中剎・大剎・廣剎・深剎・翻覆剎・俯剎・仰剎・平正剎・此等の剎を以て、衆生に示現する自在なり。佛子是を菩薩摩訶薩の十種の剎自在と爲す。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の法自在有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の法は卽ち是れ一法なり、一法は卽ち是れ一切法にして、而も衆生の法相に違はざる自在。般若波羅蜜は一切の法を出生し

て、一切衆生を覺悟し、了知せざること無き自在。一切の法に於て悉く法の相を離れ、普く衆生をして勝法に入らしむる自在。一切の諸法は、一方便に入りて無量の方便を分別し解說する自在。一切の諸法は言語の道斷え、而も能く無量の法門を演說する自在。一切の法に於て、巧方便をもつて普門の法輪を轉ずる無盡の自在。一切の諸法は一法門に入り、不可說の劫に於て、分別し解說するも窮盡す可からざる自在。一切の法は悉く佛法に入りて、衆生を殊勝にする自在。一切の法を無量無邊に示現する自在。一切の法は無礙實際にして、無量無邊なること、猶ほ幻網の如く、無量劫に於て衆生の爲めに說くとも、窮盡す可からざる自在なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の法自在と爲す。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の身自在有り。何等をか十と爲す。所謂る一切衆生をして己身に入らしむる自在。己身を一切衆生の身に示現する自在。一切の佛身を一佛身に示現する自在。一佛身を一切の佛身に示現する自在。一切の刹を己が身內に置く自在。一法身、三世に充滿して衆生に示現する自在。一身、三昧に入れば、無量の身、三昧を起つ自在。一身最正覺を成ずれば、衆生に等しき身を示現する自在。一切衆生の身は一衆生身と作りて、一切衆生の身を示現する自在。一切衆生の身は法身を示現し、法身、一切衆生の身を示現する自在なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の身自在と爲す。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の願自在有り。何等をか十と爲す。一切菩薩の願をば、卽ち是れ己が願となす願自在。一切の佛の願力の菩提を以て、衆生に示現する願自在。其の所應に隨ひて、悉く阿耨

多羅三藐三菩提を成就せしむる願自在。數ふ可からざる阿僧祇劫に於て、大願斷えざる願自在。識心を遠離して智身に著せず、而も一切の身を示現する願自在。己が事を捨てずして而も能く一切の他の事を成滿する願自在。一切衆生を敎化し成就して、退轉せざらしむる願自在。一切の阿僧祇劫於にて、菩薩の行を修し、未だ曾て斷絶せざる願自在。一毛道に於て等正覺を成じ、願力をもつて一切の佛刹に充滿し、一一の衆生の爲めに、不可說不可說の世界に示現する願自在。一句の法を說きて、法雲普く一切の法界を覆ひ、實法の雷音を震ひ、解脫の電光を耀明し、甘露の法雨を注ぎて、一切衆生の心願を充滿せしむる願自在なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の願自在と爲す。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の境界自在有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩は法界の境界に在りて、而も衆生の境界に在ることを示現し。佛の境界に在りて、而も衆魔の境界に在ることを示現し。涅槃の境界に在りて、而も生死の境界を離れず。一切智の境界に在りて、而も菩薩の境界を離れず。寂滅の境界に在りて、而も散亂せる衆生の境界を捨てず。一切の虛妄を離れたる境界に在りて、而も虛妄の境界を離れず。莊嚴力の境界に在りて、而も一切智に非ざる境界を示現し。衆生無き實際の境界に在りて、而も一切の衆生を化度する境界を捨てず。諸禪三昧、解脫の通明智、離欲の境界に在りて、而も一切の世界の受生の境界を示現し。如來の行菩提をもつて莊嚴せる境界に在りて、而も聲聞緣覺の寂靜なる威儀の境界を示現す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の境界自在と爲す。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の智自在有り。何等をか十と爲す。所謂る、無盡辯の智自在。一切の陀羅尼に惑はざる智自在。決定して一切衆生の諸根を知る智自在。一念の中に於て、無礙の心智を以て、悉く一切衆生の心心の數法を知る智自在。一切衆生の心心の使、煩惱習氣と、病に隨ひて對治するの法とを知る智自在。一念の中に於て深く如來の十力に入る智自在。無礙の智をもつて、三世の衆生を隨時に度脱せしむることを知る智自在。一念の中に於て等正覺を成じ、一切の衆生に示現する智自在。一衆生の想に於て、一切衆生の業行を了達する智自在。一衆生の音聲に於て、一切衆生の音聲を示現する智自在なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の智自在と爲す。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の通自在有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切世界に示現する身は、一身の境界なる通自在。一如來の大衆の中に於て坐し、正法を聽受して、悉く能く一切諸佛の大衆會の法を聞持する通自在。一衆生の一念の境界に於て、不可説の無上菩提を成就し、一切の衆生知らざる者無き通自在。一妙音を出だして皆能く一切の世界に充徧し、一切の音聲を出生して、各各別異なるを、一切の衆生開解せざること無き通自在。一念の中に於て、盡過去際劫の、一切衆生の諸業の果報を示現して、知らざる者無き通自在。一切の世界をして皆悉く莊嚴せしむる通自在。三世の平等なることを觀察する通自在。一切諸佛の菩提と、及び衆生の願とを出生して、大法の光明を放つ通自在。一切の天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・四王・帝釋・梵王、及び一切の聲

聞・緣覺・諸の菩薩等、悉く恭敬し尊重して、善能く諸の如來力と、一切の善根とを護持する通自在なり。佛子、略して菩薩の平等に一切の諸法を觀察する通自在を說けり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の通自在と爲す。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の神力自在有り。何等をか十と爲す。所謂る不可說の世界を以て、一微塵に入る神力自在。一微塵の中に於て、一切の法界に等しき一切の佛刹を顯現する神力自在。一毛孔に於て皆悉く一切の大海を容受し、能く持して一切の世界に遊行し、衆生をして恐怖の心有らしめざる神力自在。一切の世界を以て己が身中に內れ、悉く能く一切の衆事を顯現する神力自在。一毛を以て不可思議なる金剛圍山を繫ぎ、悉く持して一切の世界に遊行し、衆生をして恐怖の心有らしめざる神力自在。不可說の劫に一劫を示現し、一劫に不可說の諸の成敗劫を示現して、衆生をして恐怖の心有らしめざる神力自在。一切の世界に於て、水火風災の成敗を示現して、衆生をして恐怖の心有らしめざる神力自在。一切世界の水火風災に壞するの時、悉く能く一切衆生の資生の具を住持する神力自在。不可思議の世界を以て、掌の中に置き、遠く他方に擲ちて不可說の世界を過ぎ、衆生をして恐怖の心有らしめざる神力自在。一切の衆生をして、一切の佛刹は猶ほ虛空の如しと解らしむる神力自在なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の神力自在と爲す。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の力自在有り。何等をか十と爲す。所謂る、衆生の力自在なり。衆生を

捨てずして、教化し調伏するが故に。佛刹力自在なり、不可說の莊嚴具を以て、諸佛の刹を莊嚴し顯現するが故に。法力自在なり、一切の身をして、無身に入らしむるが故に。劫力自在なり、一切の菩薩の行を斷せざるが故に。佛力自在なり、生死に長く寢れる衆生を覺悟するが故に。行力自在なり、一切の菩薩の行を攝取するが故に。如來力自在なり、一切の衆生を度脫するが故に。無師智の力自在なり、自然に一切の法を覺悟するが故に。一切智の力自在なり、一切智の人は智をもつて覺悟するが故に。大悲の力自在なり、一切衆生を捨てざるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の、十種の力自在と爲す。

佛子よ、是を菩薩摩訶薩の衆生自在等の十種の自在と爲す。若し菩薩摩訶薩の此の十種の自在を成就せん者は、無上菩提を成じ、また無上菩提を成ぜざらんと欲するも自在にして意に隨はん。菩提を成ずと雖も、而も亦菩薩の諸行を斷たず、何を以ての故に、菩薩摩訶薩は、諸の大願を出生するが故に、善巧の方便をもつて、無量なる自在の法門を示現すればなり◎

【三】三に、以下の七十門は行德圓備を明かす。中に於て、初の二十門は行德殊勝を明かし、後の五十門は行德圓滿を明かす。

(二〇)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の遊戲神通有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩摩訶薩は、衆生身に於て佛刹の身を作し、而も衆生身を壞せず。是を第一の遊戲神通と爲す◎菩薩摩訶薩は佛刹の身に於て衆生の身を作し、而も佛刹の身を離れず。是を第二の遊戲神通と爲す◎菩薩摩訶薩は佛身に於

て聲聞緣覺の身を示現し、而も如來の身を滅せず。是を第三の遊戲神通と爲す。菩薩摩訶薩は聲聞緣覺の身に於て如來の身を示現し、而も聲聞緣覺の身を增長せず。是を第四の遊戲神通と爲す。菩薩摩訶薩は菩薩の身に於て無上菩提の身を示現し、而も菩薩の行を捨てず。是を第五の遊戲神通と爲す。菩薩摩訶薩は無上菩提の身に於て菩薩の身を示現し、而も菩提の身を滅せず。是を第六の遊戲神通と爲す。菩薩摩訶薩は涅槃界に於て、生死相續して絕えざることを示現し、而も涅槃界に著せず。是を第七の遊戲神通と爲す。菩薩摩訶薩は生死界に於て涅槃界を示現し、亦無餘涅槃を究竟せず。是を第八の遊戲神通と爲す。菩薩摩訶薩は正受三昧して、行住坐臥に諸の威儀を現じ、而も正受三昧を捨てず、是を第九の遊戲神通と爲す。菩薩摩訶薩は一佛の所に於て法を聞きて受持し、悉く能く不可說の佛の所に往詣して、正法を聽受し、而も本座を離れず、亦分身せず、三昧を起たずして念念に一一の三昧身門に於て、不可說不可說の三昧身門を出生し、一切の諸劫は猶ほ窮盡す可くとも、菩薩の出生する三昧身門は窮盡す可からず。是を第十の遊戲神通と爲す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の遊戲神通と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば則ち一切諸佛の無上なる大智の遊戲神通を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(二七)勝行有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の法界は無量の方便門を以て、普く衆生に現ずる勝行。無量の莊嚴を以て一切の世界を莊嚴し、普く衆生に現ずる勝行。

【二七】遊履自在なるが故に所作悉く精微なるを勝行と云ふ。

一切の衆生界を出生して、皆悉く化の如きを知る勝行。如來の身に於て菩薩の身を出生し、菩薩の身に於て如來の身を出生する勝行。虛空界に於て世界を出生し、世界に於て虛空界を出生する勝行。生死界に於て涅槃界を出生し、涅槃界に於て生死界を出生する勝行。一衆生の音聲に於て、一切の佛法の音聲を出生する勝行。無量の身門に於て一身を示現し、一身門に於て分別一切の諸身を示現する勝行。一身を以て一切の世界に充徧する勝行。一念の中に於て、一切衆生をして無量無邊の法門を出生せしめ、等正覺を成ずる勝行なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の勝行と爲す。若し菩薩摩訶薩此の行に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる大智の勝行を得ん。◎

(一八)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(一九)力有り。何等をか十と爲す。所謂る、直心の力、一切の世界に於て染著すること無きが故に。深心の力、一切諸佛の法を壞せざるが故に。方便の力、菩薩の一切の行を究竟ずるが故に。智慧の力、一切衆生の諸の心行を知るが故に。願の力、一切衆生の願を滿足せしむるが故に。行の力、一切未來際を盡す劫に斷絕せざるが故に。乘の力、普現の一切諸乘を出生して大乘を轉せざるが故に。遊戲神通の力、一毛道に於て一切の淸淨なる世界を示現し、一切の如來、世に出興したまふが故に。菩提の力、菩提を覺悟して一切衆生の念と等しきが故に。轉法輪の力、一句の法に於て、一切衆生の希望する諸根を說くが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の力と爲す。若し菩薩摩訶

【一八】次の五十門は行德圓滿を明かす。

【一九】德勝れ、智用の堪能なるを力と名づく。

薩此の力に安住せば、則ち一切諸佛の一切智の無上なる十力を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の〔三〇〕無畏有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩摩訶薩は、悉く能く一切の問難を聞持して、是の如きの念を作さく、「十方の一切世界來りて我に問ふこと有らんに、若し答ふること能はざらんは、是の處有ること無けん、乃至微畏の相をも見ず」と。微畏の相を見ざるが故に、菩薩は一切の無畏を究竟し、無畏に安住して、一切衆生の其の問ふ所に隨ひて、悉く疑惑を斷つ。是を第一の無畏と爲す。菩薩摩訶薩は、一切の語言音聲、一切の文字、如來の授記無礙の辯才において、彼岸を究竟し、是の如きの念を作さく、「十方世界の一切衆生、來りて我に問難せんに、若し答ふること能はざらんは、是の處有ること無けん。乃至微畏の相をも見ず」と。微畏の相を見ざるが故に、悉く能く一切の疑惑を除滅して無畏に安住す。是を第二の無畏と爲す。菩薩摩訶薩は一切の法は空にして、我我所を離れ、造無く造者無く、知者無く、命者無く、長養者無く、補伽羅無く、陰・界・入を離れ、諸の邪見を離れ、心虚空の如しと知り、是の如きの念を作さく、一切の衆生、若し能く我に身口意の惡を起さしめんは、是の處有ること無けん。何を以ての故に、菩薩は常に我我所を離るるが故なり。若し怖畏を生ぜしめんは是の處有ること無けん。乃至微畏の相をも見ず」と。微畏の相を見ざるが故に、菩薩の行を行じて沮壞す可からず。是を第三の無畏と名く。菩薩摩訶薩は諸佛の爲めに護られて、如來の力を成じ、如來の行を行じ、如

〔三〇〕智力强勝なるが故に外に懼るる所なきなり。

來の威儀を未だ曾て轉易せず。是の如きの念を作さく、「若し能く來りて、我が威儀を訶すること有らんは、是の處有ること無けん。乃至微畏の相をも見ず」と。微畏の相を見ざるが故に、大衆の中に於て微妙の法を說く。是を第四の無畏と爲す。菩薩摩訶薩は身口意淨くして、衆惡を遠離し、是の如きの念を作さく、「若し能く來りて我が身口意の惡を訶すること有らんは、是の處有ること無けん。乃至微畏の相をも見ず」と。微畏の相を見ざるが故に、悉く能く一切衆生を敎化す。是を第五の無畏と爲す。菩薩摩訶薩は、金剛力士、常に隨ひて侍衞し、一切の天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・帝釋・梵王等、常に隨ひて侍衞し、尊敬し、供養し、一切の諸佛は常に之を護念したまふ。菩薩は是の如きの念を作さく、「一切の衆魔の眷屬、及び諸の外道、有見の衆生は、我が所に來詣して、能く我が無上菩提を障礙せんは、是の處有ること無けん。乃至微畏の相をも見ず」と。微畏の相を見ざるが故に、無畏に安住し、歡喜して菩薩の行業を修行す。是を第六の無畏と爲す。菩薩摩訶薩は癡を離れて正念し、如來に隨ひて生れ、第一の意根を成就し、是の如きの念を作さく、「一切の諸佛の說きたまふ所の正法の句身味身は菩提に隨順す。我若し法の如く受持すること能はざらんは、是の處有ること無けん。乃至微畏の相をも見ず」と。微畏の相を見ざるが故に、如來の正法を受持し守護す。是を第七の無畏と爲す。菩薩摩訶薩は巧方便の智慧を具足し成就して、菩薩の諸力の彼岸を究竟し、清淨の直心をもつて、衆生を敎化し、大菩提の願を發して、衆生の所に於て大悲を起すが故に、煩惱の

濁世に於て而も現じて生を受け、現に五欲を受け、妻子及び諸の眷屬を畜養す、衆生を化せんが爲めの故なり。菩薩は復た是の念を作さく、「我此に在りと雖も、惑亂を生じて菩提の解脫、三昧の法門、辯才を障へざらん。若し能く障礙せんは、是の處有ること無けん。何を以ての故に、菩薩は一切の法に於て自在を得て彼岸を究竟し、菩薩の行を修して、菩提に安住し、一切の世間に生を受けて、惑亂せんとするも亂すこと能はざる所なり。若し能く惑亂せんは、是の處有ること無けん。乃至微畏の相をも見ず」と。微畏の相を見ざるが故に、一切の世界に於て受生を示現す。是を第八の無畏と爲す。菩薩摩訶薩は、愚癡を捨離して、一切智を知り、菩薩の道に住して、大乘に乘じ、一切智の心力に住し、聲聞緣覺を示現して威儀を改めず。菩薩は是の如きの念を作さく、「我終に、聲聞辟支佛の道を證せじ、我若し證を受けんは、是の處有ること無けん。乃至微畏の相をも見ず」と。微畏の相を見ざるが故に、無畏に安住して、悉く能く一切の諸乘を示現して、究竟平等の大乘を具足す。是れを第九の無畏と爲す。菩薩摩訶薩は一切諸の白淨法を成就し、善根を積集し、一切の諸願通明を成滿して、菩提に堅住し、菩薩の諸行を具足し成滿し、一切の佛の所に於て、如來の一切智の記を頂受して、衆生を教化し、菩薩の行を捨てず。是の如きの念を作さく、「其れ衆生の應に化を受くべき者有りて、若し時に應じて如來の境界を示現すること能はざらんは、是の處有ること無けん。乃至微畏の相をも見ず」と。微畏の相を見ざるが故に、無畏に安住して、化を受くる者に隨ひ、普く爲めに如來

の境界を應現し、而も亦菩薩の願行を斷たず。是を第十の無畏と爲す◎佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の無畏と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる無畏を得て、而も亦菩薩の無畏を捨てざらん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の不共法有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を修習し、他に由りて悟らず、平等の心をもつて施して慳吝する所無く、持戒清淨にして惡戒を遠離し、忍辱を成就して、心動ず可からず、精進を勤修して、一切劫に於て、未だ曾て退轉せず、深く禪定に入りて一切の亂を離れ、智慧を出生して邪見を遠離せり。是は爲菩薩摩訶薩、六波羅蜜を修習して、波羅蜜の道に隨順し、他に由りて悟らざる、第一の不共法なり◎菩薩摩訶薩は、一切の衆生を攝して之を饒益するに、常に法施を以てし、一切衆生に於て、和顏をもつて愛語して、惡言を遠離し、一切衆生に於て常に樂心を起し、眞實に利益して、一切衆生をして菩提を解悟し、惡心を遠離し、平等の實義を具足し成就せしむ。是は爲菩薩摩訶薩、衆生を攝取して、攝道に隨順し、他に由りて悟らざる第二の不共法なり◎菩薩摩訶薩は善く回向を解りて、果報を求めず、隨順して諸佛菩提に回向し、一切世間の三昧に著せず、佛智に回向して、衆生を饒益す。是は爲菩薩摩訶薩、善く回向を解りて、專ら一切諸佛の善根と無上の智慧とを求めて、衆生を饒益し、他に由りて悟らざる第三の不共法なり◎菩薩摩訶薩は、善巧の方便をもつて彼岸を究竟し、世間に隨順し、世間に親近して疲厭無く。正しく

聖行に向ひて、一切の聲聞、緣覺の出要の道を遠離し。一切衆生を敎化し成就して、己が樂に著せず。善く一切の諸禪解脫、三昧を知り。正受三昧より起ちて諸の三昧に於て自在を得。生死の中に於て心に疲厭無く、生死に遊ぶこと、園觀の想の如くし。一切諸魔の宮殿に安住して、帝釋梵王の無量の自在を示現し。一切の生死に於て、慧の光明淨くして癡暗を照除し、一切衆生に於て家を捨てて出家し、異見に著せずして、一切世間の書疏、文頌、談論、語言、算術、印法、一切の娛樂を示現し。現じて女身と爲りては才術巧妙にして、能く人心を轉じ。世間の法、離世間の法に於て、悉く能く問答して、彼岸を究竟し。世間の事、離世間の事に於て、亦悉く究竟して彼岸に到り。常に衆生を觀じて、一切の聲聞緣覺を示現し、威儀を轉せず、大乘を忘れず。念念の中に於て如來の無上菩提を成ずることを現じ、而も亦菩薩の所行を斷たず。是は爲菩薩摩訶薩の巧妙の方便を具足し修習して、彼岸に到り、他に由りて悟らざる第四の不共法なり。菩薩摩訶薩は、善く俱變三昧、翻覆三昧を知り。智慧の通明に遊戲して、智慧の彼岸を究竟し。常に涅槃に在りて而も生死の門に現じ。無衆生の際を知りて而も一切の衆生を敎化し成就し。常に究竟寂滅の彼岸に在りて、而も示現して熾然の煩惱に處し。常に金剛の一妙法身に在りて、而も衆生の無量なる身門を現じ。常に能く諸禪三昧を正受して而も衆生の五欲の娛樂を現じ。常に寂靜を樂ひ、三界を遠離して、而も一切衆生を敎化し。善根を長養して、常に正法を樂ひ、而も百千の天女に圍繞せられて共に相娛樂することを現じ。百福の相好をもつて其

の身を莊嚴し、而も貧賤鄙陋の形を現じ。常に諸惡を離れ善業を長養して、而も現じて一切の惡道に受生し、究竟じて佛智の彼岸に到りて、而も亦菩薩の智身を捨てず。菩薩は是の如き等の無量の智慧を成就して、一切の聲聞緣覺の能く知る者無し。何に況んや一切の童蒙なる衆生をや。是は爲菩薩摩訶薩第五の不共法なり。◎菩薩摩訶薩は身口意の業に於いて智慧を首と爲し、一切の威儀、諸業清淨にして、大慈を成就し。永く殺心を離れ、乃至邪見を遠離して、正見を具足す。是は爲菩薩摩訶薩の、身口意の業は智慧に隨ひて行ずる第六の不共法なり。◎菩薩摩訶薩は大悲を成就して、一切衆生を捨てず、一切衆生に代りて諸の地獄・畜生・餓鬼・閻羅王の苦を受け、衆生を利益して心に疲厭無く、一切諸の群生界を度脫す。一切の欲樂に於て、心染著すること無く、常に衆生の爲に諸の苦陰を滅して、大悲を捨てず。是は爲菩薩摩訶薩の第七の不共法なり。◎菩薩摩訶薩は一切衆生の爲に愛敬せられ、帝釋・梵王・四天王等、皆恭敬し供養し。一切の衆生は心に常に見んことを樂ひて、厭足有ること無し。何を以ての故に、菩薩の本より修せし行業は、心に染著無く、皆悉く清淨にして、威儀具足するが故に、一切の衆生は見んことを樂ひて厭くこと無し。是は爲菩薩摩訶薩の第八の不共法なり。◎菩薩摩訶薩は、一切智の心は、堅固正直にして、大莊嚴を以て之を莊嚴し、難處、諸の惡人の處、聲聞緣覺の處に至ると雖も、終に一切智の心、清淨の妙寶を退失せず。譬へば水珠の名けて淨光と曰へるは、濁水に處すと雖も寶性異ること無く、能く濁水をして皆悉く清淨ならしむるが如し。

菩薩も亦復た是の如く、衆の難、諸の惡八の處、聲聞緣覺の處に在りと雖も、終に一切種智、淸淨の寶心を捨離せず。一切の衆生をして邪見、煩惱の垢濁を滅除して、一切智、淸淨寶の心に住せしむ。是は爲菩薩摩訶薩の第九の不共法なり。菩薩摩訶薩は自覺の智法をもつて彼岸に到り、無師の記を受け、離垢の法繒を以て其の頂に冠むり、如來の所に於て恭敬し供養するの心を捨てず、亦諸の善知識を捨離せず。是は爲菩薩摩訶薩の第十の不共法なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の不共法と爲す。若し菩薩摩訶薩此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる大不共の法を得ん。

# 巻の第四十一

## 離世間品第三十三の五

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（一）業有り。何等をか十と爲す。所謂る、世界の業、悉く能く一切の世界を嚴淨するが故に。如來の業、一切の佛に奉給し供養したてまつるが故に。菩薩善友の業、善根同じきが故に。衆生の業、一切衆生を敎化し成就するが故に。未來世の業、一切の盡未來際を攝取するが故に。神力の業、本處を捨てずして而も能く一切の世界に遊行するが故に。淨光の業、無量無邊の色光を放ち、一一の光端に、悉く七寶淸淨の蓮華有り、一一の華臺に各菩薩の結跏趺坐する有りて、悉く顯現するが故に。三寶不斷の業、一切諸佛の滅度の後、正法を受持し守護するが故に。變化の業、十方に遊行して法を說き衆生を化するが故に。持の業、發心する所に隨ひて衆生に示現し、一切諸の大願を滿せしむるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の業と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の業に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる大業を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に（二）十種の身有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩

【一】內德不共なるが故に所作を必然ならしむるを業と云ふ。

【二】業因已に備はれば、身果現前するが故に、今之を明か

薩の不來身、一切の趣に於て受生せざるが故に。菩薩の不去身、一切の趣に求むるも得可からざるが故に。菩薩の不實身、一切世間の得る所の如くなるが故に。菩薩の不虚身、諸の世間は眞實なりと解るが如くなる故に。菩薩の不盡身、未來際に斷ず可からざるが故に。菩薩の堅固身、一切の衆魔も壞すること能はざるが故に。菩薩の不動身、一切の衆魔、及び諸の外道も動ずること能はざるが故に。菩薩の相身、清淨なる百福の相を示現するが故に。菩薩の無相身、法相究竟じて衆相無きが故に。菩薩の普至身、悉く三世の如來と等しきが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の身と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の身に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる無盡の身を得ん。

（三）佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の身業有り。何等をか十と爲す。所謂る、一身を以て、一切の世界に充徧する菩薩の身業。一切衆生の前に於て、悉く爲めに身を現ずる菩薩の身業。趣趣の中に於て悉く受生を現ずる菩薩の身業。一切の世界に遊行する菩薩の身業。一切の佛の所、及び諸の大衆に往詣する菩薩の身業。一手掌を以て、悉く能く普く一切の世界を覆ふ菩薩の身業。一切の金剛圍山をば、能く手を以て摩でて、悉く微塵の如くなす菩薩の身業。己が身中に於て、一切の衆生と、一切の佛刹の成壞とを示す菩薩の身業。能く一身を以て、徧く一切の衆生を覆ふ菩薩の身業。己が身中に於

す、是れ回向位の成滿する時に得る所の十身なり。

【三】第五、以下五百句は前の十地位の行五十問に答ふ、大いに四に分つ、(一)初の百二十問は十地位の中の三業殊勝の行を明かす、これ初地に寄在す。中に於て初の二十は身業の行、次の四十は語業の行、後の六十は意業の行を明かす。

て、普く一切の嚴淨せる佛刹を現じ、一切の衆生究竟じて無上菩提を成就する菩薩の身業なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の身業と爲す。若し菩薩摩訶薩此の業に安住せば、則ち一切諸佛の無上の大法を得て、悉く能く一切衆生を開悟せしめん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の㈣身有り。何等をか十と爲す。所謂る、波羅蜜の身、正しく菩提に向ふが故に。四攝の身、衆生を捨てざるが故に。大悲の身、一切の衆生に代りて無量の苦を受け、疲厭無きが故に。大慈の身、一切の衆生を救護するが故に。功德の身、一切の衆生を饒益するが故に。智慧の身、一切諸佛の金剛の身なるが故に。淨德の身、諸趣の生死を遠離するが故に。方便の身、普く能く一切の衆生に示現するが故に。神力の身、一切の自在力を示現するが故に。菩提の身、一切の時に隨ひて菩提を成ずるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の身と爲す。若し菩薩摩訶薩此の身に安住せば則ち一切諸佛の無上なる大智慧の身を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に㈤十種の口有り。何等をか十と爲す。所謂る、柔輭の口、一切諸の衆生を安樂にするが故に。甘露の口、一切の衆生を清涼にするが故に。不虚の口、眞實を說くが故に。如實轉の口、乃至夢中にも虚言無きが故に。尊重の口、一切の釋・梵・四天王等、恭敬し尊重するが故に。甚深の口、眞實の法を顯現するが故に。堅固の口、無量の法を說きて盡す可からざるが故に。正直

【四】前の門に準ぜば淨身業と名づくべきなり。
【五】此の十は口業の體を明かす、語業と名づくべきなり。

の口一切の音聲に辯を具足するが故に。莊嚴の口、時に隨ひ、業報に隨ひて普く示現するが故に。一切智の口、其の所應に隨ひて衆生を度するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の口と爲す。若し菩薩摩訶薩此の口に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる清淨の妙口を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩は、十種の〔六〕清淨業有りて、菩薩の口業を莊嚴す。何等をか十と爲す。所謂る、如來の清淨なる音聲を樂聞して、菩薩の口業を淨くし。菩薩の清淨なる音聲を樂聞して、菩薩の口業を淨くし。一切衆生の樂聞せざる語を說かずして、菩薩の口業を淨くし。過去世に於て口の四過を離れ、菩薩の口業を淨くし。如來を歡喜し讃歎して、菩薩の口業を淨くし。如來の塔廟に於て、高聲に佛の如實の功德を讃めて、菩薩の口業を淨くし。一向に普く衆生に正法を施して、菩薩の口業を淨くし。音樂歌頌をもつて如來を讃歎して、菩薩の口業を淨くし。諸佛の所に於て身命を惜まず、正法を聽受して、菩薩の口業を淨くし。一向に菩薩の法師を捨てずして、正法を聽受し、奉給し、供養して、菩薩の口業を淨くす。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の十種の淨業にして、菩薩の口業を淨くし、菩薩の清淨の口業を出生するなり。

佛子よ、菩薩摩訶薩は、是の如きの清淨の口業を出生すれば、則ち十種の守護を得ん。何等をか十と爲す。所謂る諸の天王・及び諸天の守護・龍王・夜叉王・乾闥婆王・阿修羅王・迦樓羅王緊那羅王・摩睺羅伽王・梵王、及び諸梵天王、一切諸佛法王の共に守護する所なり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の清

【六】語業の淨因を顯はして其の語を莊嚴するなり。

淨の口業を出生して十種の守護を得るなり。

若し菩薩摩訶薩、是の如き清淨の口業を出生して、十種の守護を得ば、則ち能く十種の（七）大事を成辦せん。何等をか十と爲す。所謂る、一切の衆生界をして皆悉く歡喜せしめ。一切の刹界聞知せざること無く。悉く能く一切の諸根を發起し。悉く能く一切の性界を清淨にし。一切諸の煩惱界を拔出し。一切諸の習氣界を遠離し。一切諸の直心界を明淨にし。一切諸の深心界を長養し。一切諸の法性界を充滿し。一切の大涅槃界を照明にす。是を十と爲す。

【七】既に內因誠實にして、外緣の加護を被るが故に、語力を廣大ならしめ、其の所作の事を成就することを明かす。

【八】次の六十門は意業を明かす、初の十は意業の體、後の五十は意業の用を顯はす。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（八）心有り。何等をか十と爲す。所謂る、大地等心、一切衆生の諸の善根を持するが故に。大海等心、無量無邊の諸佛の智慧大法の海を受持するが故に。須彌山王等心、一切衆生をして無上の善根に安住せしむるが故に。摩尼寶心、煩惱を遠離して直心を淨むるが故に。金剛心、決定して一切の法を了知するが故に。堅固の金剛圍山心、一切の諸魔外道も壞すること能はざるが故に。蓮華等心、一切の世法は染むること能はざるが故に。優曇鉢華等心、一切劫に於て値遇すること難きが故に。淨日等心、一切衆生の愚癡曀障の闇を除滅するが故に。虛空等心、一切衆生能く量ること無きが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の心と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の心に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる清淨の大心を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の發心有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切衆生を度脫する心を發し。一切衆生の煩惱を拔出する心を發し。一切の習氣を斷除する心を發し。一切の疑惑を斷除し、具足清淨にして疑惑無き心を發し。一切衆生の苦惱を除滅する心を發し。一切の惡道の諸難を除滅する心を發し。一切諸佛の教に隨順する心を發し。一切の菩薩の所學の心を發し。一切諸佛の菩提を覺悟し、一切の衆生に示現し、凡愚の入る所に非ざる心を示現し。大法鼓を撃ちて、音聲一切の世界に聞え、普く一切衆生の諸根を照す心を發す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の發心と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の心に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる發心を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の〔九〕滿心有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の虛空界に滿つ、衆生無邊なるが故に。一切の法界に滿つ、深く無量無邊に入るが故に。一切の三世に滿つ、一念の中に於て悉く解脫するが故に。一切の佛に滿つ、降神し、受胎し、出生し、捨家して、道を得、正法輪を轉じ、乃し大般涅槃に至るまで悉く明了なるが故に。一切の衆生界に滿つ、決定して希望、習氣、及び諸根を了知するが故に。智慧の光に滿つ、隨順して一切の法界を了知するが故に。無量無邊に滿つ、一切の法は幻網の如しと解るが故に。無生に滿つ、一切の諸法は自性無きが故に。無礙に滿つ、自心他心障礙無きが故に。自在に滿つ、念念の中に於て現じて菩提を成ずるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の心滿と爲す。若し菩薩摩訶薩此の心

【九】既に心を發し所作を修行し、心法界に遍滿するを滿心と云ふ。

に安住せば、則ち能く一切の佛法の無上なる無量の莊嚴を成滿せん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（一〇）根有り。何等をか十と爲す。所謂る、歡喜の根、一切の佛に於て信不壞なるが故に。樂菩薩の根、一切の佛の菩提を覺悟するが故に。不退菩薩の根、一切の事を究竟するが故に。住菩薩の根、一切の菩薩の行に安住するが故に。甚深の根、般若波羅蜜の巧方便を覺るが故に。不休息の根、一切衆生の事を究竟するが故に。金剛等の根、決定して一切の法を了知するが故に。金剛光明炎の根、普く一切の佛の境界を照すが故に。不雜の根、一切の如來は同一の身なるが故に。無礙際の根、深く如來の十種の力に入るが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の根と爲す。若し菩薩摩訶薩此の根に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる淨根を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の直心有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の世閒の法に染まざる直心。聲聞緣覺に染まざる直心。菩提に隨順する直心。一切智の道に違はざる直心。一切の衆魔、及び諸の外道も沮壞すること能はざる直心。如來の圓滿なる淸淨の智慧に染まざる直心。聞く所の法に隨ひて、悉く能く攝取し受持する直心。一切の受生の處に於て選擇する所無き直心。深く細微の智慧に入る直心。善巧をもつて一切の佛法を修習する直心なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の直心と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の心に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる淸淨の

【一〇】前の心滿に由りて法器たるに堪へ、諸の行德を出生するが故に根と名づく。根とは出生の義なり。

直心を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の深心有り。何等をか十と爲す。所謂る、不退の深心、一切諸の善法を長養するが故に。離疑の深心、一切の佛の微密語を解るが故に。正持の深心、菩薩の大願行を捨てざるが故に。無上正直の深心、深く一切諸佛の法に入るが故に。了達の深心、一切の佛法に於て自在を得るが故に。殊勝の深心、深く種種の方便法に入るが故に。爲首の深心、一切の境界に於て悉く究竟するが故に。自在の深心、一切の三昧を莊嚴して、自在に斷絶せざるが故に。具足の深心、本の大願を攝取するが故に。不捨の深心、一切の群生の類を教化するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の深心と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の心に安住せば、則ち一切諸佛の無上清淨の深心を得ん。

【二】二、以下九十門は造修離障の行を明かし二三地に寄在す、中に於て初の三十は智慧方便行、次の三十は慈悲方便行、後の三十は悲智究竟の行を明かす。

(二)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の方便有り。何等をか十と爲す。所謂る布施の方便、悉く一切を捨てて報を求めざるが故に。一切の學を學び、一切の戒を持し、具さに頭陀を行じ、威儀清淨なる方便、他を輕ぜざるが故に。一切の纏、顚倒、瞋恚、我慢を離れ、一切衆生の諸惑を忍ぶ方便、一切の彼我の想を遠離するが故に。精進不退の方便、身口意の業を究竟して、一切の境界を忘失せざるが故に。一切の諸禪三昧、解脫諸通の方便、一切の五欲、諸の煩惱を遠離するが故に。正向智慧の方便、一切の功德を長養して心に厭足無きが故に。大慈の方便、一切の衆生に衆生無

きことを説くが故に。一切衆生に代りて諸の苦惱を受け大悲を捨てざる方便、一切の法は自性無きことを解るが故に。十力覺悟の方便、決定無礙の智をもつて一切の衆生に示現するが故に。不退轉の法輪を轉ずる方便、轉じて衆生心に至るが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の方便と爲す。若し菩薩摩訶薩此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる大智の方便を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の（二）樂修有り。何等をか十と爲す。所謂る、最勝を樂修す、方便諸の善根を尊重するが故に。莊嚴を樂修す、種種諸の莊嚴を出生するが故に。廣事を樂修す、心彌廣きが故に。寂滅を樂修す、深く甚深の方便法に入るが故に。無邊を樂修す、無量の心を發すが故に。善持を樂修す、一切諸佛に護念せらるるが故に。不壞を樂修す、一切の魔業も壞すること能はざるが故に。決定を樂修す、一切諸の業報を解了するが故に。現在を樂修す、意に隨ひて能く自在の神力大變化を現ずるが故に。聽受を樂修す、一切の佛に於て授記を得るが故に。自在を樂修す、意に隨ひ時に隨ひて、菩提を成ずるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の樂修と爲す。若し菩薩摩訶薩此の修に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる樂修を得ん。

【二】善巧の方便無礙なるを以て、能く諸行を欣求し修習することを示す。

【三】樂修已まざれば能く解脫の勝力を以て、一切の世界をして互に相入して等しからしむるの義なり。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（三）解脫深入世界有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の世界は一世界に入り。一世界は一切の世界に入り。一蓮華座の一如來の身は、一切の世界に充滿し。一切の世

界は、皆悉く虚空なることを示現し。諸佛の莊嚴をもつて、一切の世界を莊嚴し。一菩薩の身は、一切の世界に充滿し。一毛孔の中に於て、一切の世界を安置し。一切の世界、一衆生の身に入り。一佛の道場の一菩提樹は一切の世界に充滿し。一の妙音聲は一切の世界に充滿し、其の所應に隨ひて開解せざる無くして皆歡喜を爲す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の解脱深入世界と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の出生する佛刹の無上解脱を得ん。

（一四）佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（一五）入衆生性有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の衆生界は無身の性に入り。一切の衆生界は、悉く一衆生の身に入り。一切の衆生界は、悉く菩薩の身に入り。一切の衆生界は、悉く如來の性藏に入り。一切の衆生界は、悉く一衆生界に入り。一切の衆生界は、悉く諸佛の法界に入り。一切の衆生界は、悉く帝釋梵王に入り、衆生の形類に隨ひて普く示現し。一切の衆生界は示現して一切の聲聞縁覺の不轉の威儀に入り。一切の衆生界は菩薩の功德莊嚴に入りて、一切の衆生を莊嚴し。一切の衆生界は如來の相好莊嚴の色身に入り、寂靜の威儀をもつて衆生に示現す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の入衆生性と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の性に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる自在の性を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（一六）習氣有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩提心の習氣。善根の習

【一四】次の三十句は慈悲方便行を明かす。

【一五】無緣の大悲を明かし、巧みに衆生の性を會するが故に入衆生性と云ふ。

【一六】善く衆生の性に入るが故に串習の氣分を成じ、以て行因と爲せば、習氣を熏習するなり。所謂、慣習の力、遂に性と爲るに至るなり。

氣。衆生を敎化する習氣。見佛の習氣。淸淨の土に於て受生する習氣。菩薩行の習氣。大願の習氣。波羅蜜の習氣。平等法を出生する習氣。種種に境界を分別する習氣なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の習氣と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち能く一切衆生の煩惱の習氣を除滅して、佛の無上なる大智の習氣を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の(一七)熾然有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の衆生界を熾然す、敎化究竟じて成就せしむるが故に。世界を熾然す、悉く嚴淨にするが故に。如來を熾然す、菩薩の一切の行を究竟するが故に。善根を熾然す、如來の功德、諸の相好を積集するが故に。大悲を熾然す、一切衆生の苦を除滅するが故に。大慈を熾然す、一切衆生をして如來の無上樂に安住せしむるが故に。波羅蜜を熾然す、菩薩の諸の莊嚴を積集するが故に。巧方便を熾然す、其の所應に隨ひて悉く示現するが故に。菩提を熾然す、無礙の智を得るが故に。略して說くに菩薩は皆悉く一切の諸法を熾然す、一切の法に明達し了知するが故なり。佛子、之を菩薩摩訶薩の十種の熾然と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、即ち能く究竟じて菩薩の諸行を斷たず、一切煩惱の熾然を除滅せば、則ち一切諸佛の無上なる熾然の正法を得ん。

(一八)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(一九)趣有り。何等をか十と爲す。所謂る、波羅蜜に趣き、學に趣

【一七】熾然とは前の習氣に由りて能く現行を發し、大用を増盛するを云ふ。
【一八】次の三十句は悲智究竟の行を明かす。
【一九】趣は趣向、至到の義。行に到り、果に到ることを示す。

き、智に趣き、實義に趣き、正法に趣き、出生善根に趣き、見佛に趣き、菩薩の諸行門に趣き、無上菩提に趣き、轉法輪に趣く。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の趣と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の趣に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる趣法を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の事有りて、則ち能く一切の佛法を具足す。何等をか十と爲す。所謂る、深く善知識を信じて佛法を具足す。深く佛教を信じて佛法を具足す。正法を謗らずして佛法を具足す。放逸の行を離れ、憍慢を摧滅し、巧妙の方便をもつて善根を回向して佛法を具足す。深く諸佛の境界の無量なることを信じて佛法を具足す。深く一切の世界に入りて佛法を具足す。法界に安住して佛法を具足す。諸の魔海を離れて佛法を具足す。一切の佛を正念して佛法を具足す。深く如來を信じ十力を成就して、佛法を具足す。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の十種の事にして、則ち能く一切の佛法を具足す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる大智を具足することを得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の佛法を退失する有り、應當に遠離すべし。何等をか十と爲す。所謂る、善知識に於て憍慢の心を生せば、佛法の道を失ふ。生死の苦を畏るれば、佛法の道を失ふ。菩薩の行を厭はば、佛法の道を失ふ。受生を厭ひ惡まば、佛法の道を失ふ。三昧に樂著せば、佛法の道を失ふ。諸の善根に於て疑惑の心を起さば、佛法の道を失ふ。正法を誹謗せば、佛法の道を失ふ。菩薩の行を斷たば、佛法の道を失ふ。聲聞、及び緣覺乘を樂ひ求めなば、佛法の道を失ふ。瞋恚の心を起さ

ば、佛法の道を失ふ。應當に遠離すべし。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の退失佛法と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法を遠離せば、則ち一切の菩薩の正趣離生と、聖行の正道とを得ん。

(二〇)佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の(二一)離生有り。何等をか十と爲す。所謂る、般若波羅蜜を出生するは、菩薩の離生なり。一切の衆生を觀察して一切の邪見を遠離し、一切の縛を斷じ、一切衆生を度脱するは、菩薩の離生なり。一切の相を念ぜず、亦著相の衆生を捨離せざるは、菩薩の離生なり。三界に著せず、亦復た一切の世界に著せざるは菩薩の離生なり。永く煩惱を離れて、衆生に親近するは菩薩の離生なり。諸法の中に於て離欲の法を得、常に大悲を以て衆生を哀念するは、菩薩の離生なり。現じて眷屬に處して寂靜を樂はしむるは、菩薩の離生なり。世界の生を離れ、此に沒し彼に生ることを現じて、菩薩の行を行ずるは、菩薩の離生なり。一切世間の事を行じて、而も世法に染まざるは、菩薩の離生なり。決定して無上菩提を了知し、而も亦菩薩の行願を捨てざるは、菩薩の離生なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の離生と爲す。永く世間を離れたる大聖の正法は、一切の衆生、及び聲聞緣覺と共ならず。

若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切菩薩の十種の決定法を得ん。何等をか十と爲す。所

【二〇】 三、以下九十句は四地以上七地に至る間の修造純熟行を明かす。中に於て初の三十句は因行の體廣きを明かし、次の二十句は行用の殊勝なることを明かし、後の四十句は行德成就を顯はす。

【二一】 離生とは有爲の行を離れ無生を得るを云ふ。

謂る、一切如來の種姓の中に於て生れ。深く一切の如來の境界に入り。深く一切諸の菩薩の行を解り。正しく一切諸の波羅蜜に向ひ、一切諸佛の善根を出生し。一切如來の無上姓の中に安住し。一切諸佛の淨力に安住し。一切如來の菩提に隨順し。一切の佛と共に同一身となり。一切の佛と同じく住して異り有ること無し。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の決定法と爲す。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の佛の道法を出生する有り。何等をか十と爲す。所謂る、善知識に隨順すれば、佛の道法を出生す、善根を同うするが故に。深く一切の佛法を信ずれば、佛の道法を出生す、如來の無盡なる自在を樂ひ求むるが故に。一切の大願に於て正しき希望を得れば、佛の道法を出生ず、廣心を修習するが故に。決定して己身の善根を了知すれば、佛の道法を出生す、行ずる所の諸業は虛妄無きが故に。一切の劫に於て菩薩の行を修すれば、佛の道法を出生す、盡未來際に疲厭無きが故に。阿僧祇の世界に於て諸處に生を受くれば、佛の道法を出生す、善巧の方便をもつて一切の衆生を敎化するが故に。修習して菩薩の所行を斷せざれば、佛の道法を出生す、大悲を長養するが故に。無量の心を以てすれば、佛の道法を出生す、一念の中に於て一切の虛空界に充滿するが故に。深く甚深なる諸の大願行に入れば、佛の道法を出生す、本生せし善根は壞せず失はざるが故に。一切如來の種姓を善く持して守護すれば、佛の道法を出生す、一切衆生をして菩提心を發し、志常に無上菩提を樂ひ求め、一切の善根を長養せしむるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の出生佛道法と爲す。

（三）若し菩薩摩訶薩、此法に安住せば、則ち善男子の十種の（三三）名號を得ん。何等をか十と爲す。所謂、菩薩の名號、菩提の智身なるが故に。摩訶薩の名號、大乘に住するが故に。第一薩埵の名號、最も第一なる無閒道の法なるが故に。勝薩埵の名號、勝菩提を覺るが故に。無比薩埵の名號、智慧比無きが故に。上薩埵の名號、上精進の故に。無上薩埵の名號、無上の法を開示し顯現するが故に。力薩埵の名號、廣く十力を知るが故に。無等薩埵の名號、一切衆生に與等無きが故に。不思議薩埵の名號、其心念に隨ひて菩提を覺るが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩、善男子の十種の名號を得たりと爲す。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の道有り。何等をか十と爲す。所謂る、一道は是れ菩薩の道なり、菩提心を捨てざるが故に。二道は是れ菩薩の道なり、智慧と方便とを出生するが故に。三道は是れ菩薩の道なり、空方便、無相際、無願の三昧をもつて三界に染無きが故に。四行は是れ菩薩の道なり、過を悔いて罪を除き、功德に隨喜し、無量の諸佛を恭敬し勸請して、善く回向を知るが故に。五根を長養するは、是れ菩薩の道なり。有信の根に住して沮壞す可からず、大精進を發して一切の事を究竟して退轉せず、正念に安住して亂想を除滅し、三昧の方便をもつて、決定して智慧の境界を了知し、善巧に分別するが故に。六通の自在なるは是れ菩薩の道なり。天眼をもつて悉く一切世界の有色の衆生、此に死し彼に生ることを知り。天耳をもつて、悉く一切諸佛の說きたふ所の經法を聞きて、

【三】次の二十句は行用の殊勝を顯はす。

【三三】實德内に充滿するを以て嘉名外に響くを名號と云ふ。

皆悉く受持して、廣く一切衆生の爲めに解說して、無礙の知を出生し。他心智をもつて、悉く一切衆生の心念を知り。宿命智通をもつて、悉く過去の一切阿僧祇劫を知りて善根を長養し。身通自在にして其の所應に隨ひて大神變を現じ。漏盡智通をもつて實際を知見す、菩薩の道を生じて斷絕せざるが故に。七念は是れ菩薩の道なり。佛を念じて、一毛道に於て一切の佛を見たてまつりて衆生を敎化し。法を念じて、一如來衆を離れず、一切佛の所に於て對面して法を聞き、悉く能く受持して、衆生の諸根希望に隨應して之を度脫し。僧を念じて、不退轉の菩薩の大衆を見、一切衆生をして常に菩薩の大衆を見しめ。施を念じて、一切の菩薩の布施を行じ、正念に菩薩の布施の功德を長養し。戒を念じて、菩提心を離れずして、一切の善根を衆生に回向し。天を念じて、兜率陀天の一生補處の菩薩を念じ。一切の衆生を念じて、善巧の方便智慧をもつて敎化し、悉く安隱ならしむ、無上菩提に隨順するが故に。八正道分は是れ菩薩の道なり。所謂る、正見は邪見を遠離し。正思惟は一切智を正念して虛妄を遠離し。正語は聖敎に隨順して口の四過を離れ。正業は一切衆生を饒益し敎化して、未だ曾て時を失はず。正命は四聖の種に安住して、頭陀の功德を成じ、淨き威儀を具足して、一切の惡を遠離し。正精進は一切の菩薩の苦行を勤修し、佛の十力を修して罣礙する所無く。正念は悉く能く一切の音聲を憶持して、世間の一切の亂想を除滅し。正定は善巧の方便をもつて、一三昧に於て菩薩の不可思議の法門、一切の三昧を出生するが故に。(二四)九次第定

【二四】九次第定とは四禪と四無色定と滅盡定となり、智慧漸

次に深く、次第相續するが故に次第定と云ふ。

【三五】次の四十句は行德成就を明かす。

は是れ菩薩の道なり。所謂る、慾惡不善の法を離れ、覺觀に因りて一切の口業を起して、障礙する所無く、法を說きて一切の衆生を敎化し。一切智を得て喜悅し、退過を遠離し。喜悅を休息して。世の苦樂を離れ、常に諸佛を見たてまつりて無上菩提の快樂を逮得し。不動三昧は四無色の定を出生し、亦欲界・色界の受生を離れず。滅盡三昧を正受するも、而も亦菩薩の行を息めざるが故に。如來の十力は是れ菩薩の道なり。所謂る、巧方便をもつて善く是處と非處とを知り。善く一切衆生の去來現在の業因と果報とを知り。善く一切衆生の種種の諸根を知りて、彼の諸根に隨ひて爲めに法を說き。善く衆生の無量なる諸性を知り。善く一切衆生の種種の欲樂を知りて、應に隨ひて法を說き、菩薩の淨身は、皆悉く一切の衆生、一切の刹、一切の世、一切の劫に充滿し、普く如來の具足せる威儀を現じて、而も亦菩薩の所行を捨てず。善巧の方便をもつて一切の禪三昧、解脫、垢淨の起ることを知り。時と非時とを知りて菩薩の無量なる法門を出生し。善く一切衆生の此に死し彼に生るるを知り。一念の中に於て善く三世一切の阿僧祇劫を知り。善く一切衆生の一切の煩惱、結使、及び諸の習氣を除滅することを知り、而も亦菩薩の行を捨てざるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の道と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の道に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる巧方便の道を得ん。

（三五）佛子よ、菩薩摩訶薩に無量の道、無量の道具、無量の修道、無量の莊嚴道有り。何を以ての故

に。菩薩摩訶薩に十種の無量道有るが故なり。何等をか十と爲す。所謂る、虚空界は無量なり。法界は無量なり。衆生界は無盡無量なり。世界は無分齊無量なり。阿僧祇劫は無盡究竟無量なり。衆生の語法は無量なり。如來身は無量なり。佛の音聲は無量なり。如來力は無量なり。一切智は無量なり。

佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の無量道と爲す。何を以ての故に。虚空界の無量なるが如く、菩薩の積集道具も亦復た是の如し。法界の無量無邊なるが如く、菩薩の積集道具も亦復た是の如し。衆生界の無盡無量なるが如く、菩薩の積集道具も亦復た是の如し。世界の無分齊無量なるが如く、菩薩の積集道具も亦復た是の如し。一切劫は算數して盡す可からざるが如く、菩薩の積集道具も亦復た是の如し。一切衆生は悉く共に算數するも、盡す能はざる所なり。一切衆生の語言の無量なるが如く、菩薩の積集道具の智慧を出生する、諸の語言法も亦復た是の如し。如來身の無量なるが如く、菩薩の積集道具の、一切の衆生、一切の刹、一切の世、一切の劫に充滿することも、亦復た是の如し。佛の音聲の無量にして、一言音を出だして皆悉く一切の法界に充滿し、一切の衆生聞知せざること無きが如く、菩薩の積集道具も亦復た是の如し。如來力の無量なるが如く、菩薩の積集道具の如來力を長養することも、亦復た是の如し。一切智の無量なるが如く、菩薩の積集道具も亦復た是の如し。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の道具と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無量無邊の智慧を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の修道有り。何等をか十と爲す。所謂る、不著不出の修、身口意に忘失無きが故に。無增減の修、諸法の眞實を知るが故に。非有非無の修、非有非無の性に入るが故に。幻の如く、夢の如く、電の如く、響の如く、鏡中の像の如く、熱時の炎の如く、水中の月の如き修、一切法に於て所著無きが故に。空・無相・無願の修、三界を見て捨てず諸の善根を長養するが故に。不可言說の修、法の施設に著せざるが故に。不壞法界の修、決定して一切の法を了知するが故に。如實の際不可壞の修、如如の虛空際は平等にして一切に至るが故に。菩薩智の修、勇猛精進の力を捨てざるが故に。如來の十力、四無所畏、一切智の平等修、一切の法に於て悉く疑惑を除くが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の修道と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる一切智巧方便の修を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の莊嚴道有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩摩訶薩は欲界を離れずして、悉く能く色・無色界の禪定解脫を正受し、亦此に因りて彼に於て生を受けず。是を第一の莊嚴道と爲す。菩薩摩訶薩は聲聞道に入りて、亦此の道に乘じて三界を出でず。是を第二の莊嚴道と爲す。菩薩摩訶薩は緣覺道に入るも、亦大悲を捨てず。是を第三の莊嚴道と爲す。菩薩摩訶薩は百千の天女の眷屬に圍繞せられ、端嚴殊特にして、顏容倫無く、技術悉く備はり、音樂巧妙なりと雖も、菩薩此の妙音を聞きて、未だ曾て暫くも諸禪の解脫三昧を捨てず。是を第四の莊嚴道と爲す。菩薩摩

訶薩は一切衆生と與に衆の伎樂を設け、共に相娛樂するも、乃至一念も諸禪の解脫三昧を捨てず。是を第五の莊嚴道と爲す。菩薩摩訶薩は一切世間の諸法に著せず、世間を究竟して彼岸に到ることを得て、衆生を度脫す。是を第六の莊嚴道と爲す。菩薩摩訶薩は正智に安住して正道を修習し、邪道に趣きて衆生をして邪道を遠離せしめんと欲するも、此の邪道に於て眞實清淨の相を取らず。是を第七の莊嚴道と爲す。菩薩摩訶薩は身口意の惡業を遠離し、常に淨戒を持ち、一向に正しく如來の淨戒を求め、一切の凡愚童蒙の衆生に、持戒の威儀を示現す。犯戒の衆生を敎化し成就せんが爲めの故なり。菩薩は一切の清淨の功德を具足し成滿して、正しく菩薩の趣に趣き、而も現じて地獄・畜生・餓鬼・閻羅王、及び諸の難處に受生す。彼の衆生をして惡趣を離れしめんが故なり。而も實に菩薩は彼の趣に攝せられず。是を第八の莊嚴道と爲す。菩薩摩訶薩は、一切の佛法に於て、他に由りて悟らず、無礙の辯と、明淨の智慧とを得て、普く一切諸佛の正法を照し、一切諸佛の自在に安住し、一切の佛の清淨法身を共にし、一切堅固の大人の明淨なる正法を具足し成就し、一切の平等なる諸乘に安住し、一切の佛の境界の法門に向ひ、一切衆生の應に讃歎し、恭敬し、供養すべき所にして、一切衆生の爲めに無上の師と作り、專ら正法を求めて未だ曾て捨離せず、法に疑有ることを示現し、師受を示現して、和尚　(三六)の阿闍梨を恭敬し供養し、而も實には一切の天人無上の法師と爲る。何を以ての

【三六】阿闍梨。又は阿遮利耶(Acārya)軌範師と譯す。軌範となつて弟子を指導し其の行爲を矯正する高德の僧を云ふ。

故に。菩薩摩訶薩は、善く方便を知りて菩薩の道に住し、其の所應に隨ひて、方便をもつて示現すればなり。是を第九の莊嚴道と爲す。◎菩薩摩訶薩は甚深の智慧を具足し成就し、菩薩の一切無上なる法行を究竟し、一切の如來は甘露の法を以て其の頂に灌ぎ、一切法の自在なる彼岸を究竟し、離垢無礙の清淨なる法繒を以て其の首に冠り、一切の世界に於て普く如來の無礙法身を現じ、不可壞の清淨法輪を轉じ、清淨の法身は、一切世界に於て處として至らざること無く、一切法の自在の彼岸を究竟し、一切の菩薩の自在の法を具足し成就し、巧妙の方便をもつて一切の刹に於て受生を示現し、三世の佛と共一の境界にして、而も亦菩薩の所行を斷たず、菩薩の法を捨てず、菩薩の業を轉せず、菩薩の道を捨てず、未だ曾て菩薩の威儀を廢捨せず、菩薩の熾然を捨てず、善巧の方便を捨てず、菩薩の事を離れず、菩薩の行を修して心に疲厭無く、菩薩の受持法行を離れず。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は速かに阿耨多羅三藐三菩提を成せんと欲するが故に、菩薩の行を捨てずして、衆生を觀察すればなり。是を第十の莊嚴道と爲す。◎佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の莊嚴道と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の道に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる道寶の莊嚴を得て而も菩薩の道を捨てず。◎

（三七）佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（三八）足有り。何等をか十と爲す。所謂る、淨戒の足、一切の大願を

【三七】四、以下二百門は報相圓滿行を明し、八地以上の報得純熟行を說く、中に於て五に分つ、初の二十句は手足の外用行、次の三十句は內德の盈滿行、次の二十句は外相の嚴備の行、次の七十句は六根の業用行、後の六十句は四威儀の動止行を明かす。

【三八】足。足は行用の進涉を表す。

積集し成滿するが故に。精進の足、一切の菩提の枝を積集して不退轉に至るが故に。諸通の足、衆生の願に隨ひて歡喜せしむるが故に。身通の足、一坐を離れずして而も能く悉く一切の佛刹に詣るが故に。深心の足、一切の勝妙の法を究竟するが故に。堅誓の足、求むる所の諸事は悉く究竟するが故に。攝善法の足、一切の尊重する教に違はざるが故に。聞法無厭の足、一切の佛の說きたまふ所の法を聞持して、疲倦無きが故に。如法資生具の足、一切衆に入りて諸根異ること無きが故に。正向菩薩行の足、一切の惡を離るるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の足と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の足に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる勝足を得て、能く一たび足を擧げなば、皆悉く徧く一切の世界に至らん。

【三九】手。手は行用の取捨を表す。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(三九)手有り。何等をか十と爲す。所謂る、信の手、一切の佛の說きたまふ所の正法に於て一向に信じ、心に究竟して受持するが故に。財施に著せざる手、來りて乞ふ者有らば歡喜せしむるが故に。先意善來問訊の手、右の掌相顯現するが故に。一切の佛を恭敬し供養する手、無量の功德を長養して疲厭無きが故に。善解多聞の手、一切衆生の諸の疑惑を除くが故に。三界を遠離する離生寂靜の手、欲の汚泥より衆生の類を拔くが故に。彼岸に安置する手、四流に漂沒せる衆生を救濟するが故に。吝を離れたる法手、盡く能く一切の法を開說するが故に。一切の世間離世間の諸論智の手、一切身心の病を除滅するが故に。智慧寶の手、一切の煩惱の癡暗を除滅して、一

切の稱說す可からざる法の光明を示現するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の手と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の手に安住せば、則ち一切諸佛の無上の手を得て、能く一掌を以て、普く十方一切の世界を覆はん。

# 卷の四十二

## 離世間品第三十三の六

(一)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(二)腹有り。何等をか十と爲す。所謂る、諂曲を離れたる腹、直心清淨なるが故に。幻僞を離れたる腹、身口意の業皆眞正なるが故に。事を爲さざる腹、藏惡を離れたるが故に。窮盡すること無き腹、一切の法に於て所著無きが故に。煩惱を滅する腹、智明淨なるが故に。清淨心の腹、一切の惡を離れたるが故に。一切の食想を觀察する腹、眞實の法を正念するが故に。一切の行を觀察する腹、善く緣起を覺るが故に。一切の道を覺る腹、正希望を具足し成就するが故に。一切の煩惱邪見を離れたる腹、一切衆生をして如來の腹を得しむるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の腹と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の腹に安住せば、則ち一切諸佛の無上の腹を得、悉く能く一切の衆生を容受せん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(三)藏有り。何等をか十と爲す。所謂る、如來の種姓を斷せざるは、是

【一】次の三十句は内德盈滿を明かす。

【二】腹。世人の腹は不淨を含容するも菩薩の腹には淨德を持することを明かす。

【三】藏。前は總じて腹を擧げ、今は腹内の五臟の相を明かし、攝藏の義に似たることあるを示す。

れ菩薩の藏なり、廣く佛法を説きて無量なる諸の善法を長養するが故に。如來の正法を受持し守護するは、是れ菩薩の藏なり、衆生に大智明を開示するが故に。僧寶を長養するは、是れ菩薩の藏なり、不退の正法輪を攝取するが故に。正定の衆生を覺悟するは、是れ菩薩の藏なり、衆生を度脱して時を失はざるが故に。不定の衆生を敎化し成就するは、是れ菩薩の藏なり、善根相續して因斷せざるが故に。大悲心を發して、邪定の衆生を救護するは、是れ菩薩の藏なり、彼の未來の善根の因緣を起すが故に。如來の十力を滿足して、沮壞す可からざるは是れ菩薩の藏なり、衆魔を降伏して不退の善根を具足し成就するが故に。四無畏に住して大師子吼するは、是れ菩薩の藏なり、一切衆生をして悉く歡喜せしむるが故に。佛の十八不共法を得るは、是れ菩薩の藏なり、一切の智慧至らざること無きが故に。平等に一切の衆生、一切の刹、一切の法、一切の佛を覺悟するは、是れ菩薩の藏なり、一念の中に於て深く平等に入るが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の藏と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の藏に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる善根の大智慧藏を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に、十種の(四)心有り。何等をか十と爲す。所謂る、勇猛の心、發す所の事業悉く究竟するが故に。無懈怠の心、相好諸の善根を積集するが故に。勇健力の心、一切諸の惡魔を摧伏するが故に。正思惟の心、一切の煩惱垢を除滅するが故に。不退轉の心、道場に往詣して菩

【四】心。諸藏の中の最勝なる心藏を明かす。

提を究竟するが故に。性清淨の心、覺心所至無く、所著無きが故に。衆生を知る心、衆生の性に隨ひ、彼を覺悟して解脱を得しむるが故に。大梵天に入りて佛法に住するの心、種種の衆生の性を悉く救護するが故に。空・無相・無願・無行の心、相見を遠離して三界に著せざるが故に。金剛莊嚴の心、衆生數に等しき魔も、乃至一毛だも動かすこと能はざるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の心と爲す。若し菩薩摩訶薩此の心に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる金剛藏の心を得ん。

(五)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(六)莊嚴有り。何等をか十と爲す。所謂る、大慈の莊嚴、一切衆生を救護するが故に。大悲の莊嚴、一切の苦を堪忍するが故に。大願の莊嚴、發願す可き所は悉く究竟するが故に。回向の莊嚴、一切諸佛の功德妙莊嚴を建立するが故に。功德の莊嚴、一切の衆生を饒益するが故に。波羅蜜の莊嚴、一切の衆生を度脫するが故に。智慧の莊嚴、一切衆生の煩惱愚癡の闇を除滅するが故に。方便の莊嚴、普門の諸の善根を出生するが故に。一切智の心堅固にして亂れざる莊嚴、異乘を樂はざるが故に。決定の莊嚴、正法の中に於て疑惑を滅するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の莊嚴と爲す。若し菩薩摩訶薩此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる莊嚴を得て一切の魔を降さん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(七)器仗有り。何等をか十と爲す。所謂る、慳吝を遠離して惠み施す心

【五】次二十句は外相莊嚴行。
【六】莊嚴。世人の美服、莊飾具を以て身を嚴飾するが如く、德を以て莊嚴することを明かす。
【七】器仗。外難を防ぐに武器を持するが如く、行障を除くに德を以てすることを示す。

の仗、一切の慳貪の垢を除滅するが故に。持戒の仗、一切の諸の惡戒を拔出するが故に。平等に一切の法を觀察する仗、一切の虚妄の法を遠離するが故に。智慧の仗、衆生の諸の煩惱を除滅するが故に。正命の仗、一切諸の邪命を遠離するが故に。方便の仗、一切に示現するが故に。貪恚癡の一切の煩惱を略說するは是れ菩薩の仗なり。煩惱の門を以て衆生を化するが故に。生死の仗、菩薩の行を斷たずして衆生を敎化するが故に。實法を說く仗、一切無著の故に。一切智門の仗、菩薩の行門を離れざるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の器仗と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち能く一切衆生の長夜に積集せる煩惱、結使、習氣を除滅せん。

(八)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(九)頭有り。何等をか十と爲す。所謂る、涅槃の首、頂を見ること無きが故に。恭敬尊重の首、一切世界の天人恭敬供養するが故に。深妙の首、一切の三千大千世界に於て最も第一なるが故に。一切善根の首、三界の衆生應に供養すべきが故に。一切の衆生を荷負する首、無上の金剛頂を得るが故に。無量無邊の首、一切の最勝の法を攝取するが故に。般若波羅蜜の首、法王の法を樂ふが故に。方便の首、一切の衆生に平等の首を示現するが故に。一切衆生を敎化し成就する首、一切衆生の無上の師と爲るが故に。如來の正法を守護する首、三寶を斷ぜざるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の頭と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上智の頂を得ん。

【八】次の七十句は六根業用行。
【九】頭。頭は上位を表す。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（一〇）眼有り。何等をか十と爲す。所謂る、肉眼、一切の現色を見るが故に。天眼、一切衆生の此に死し彼に生ることを見るが故に。慧眼、一切衆生の諸根を見るが故に。法眼、一切法の眞實の相を見るが故に。佛眼、如來の十力を見るが故に。智眼、一切の法を分別するが故に。明眼、一切の佛の光明を見るが故に。出生死の眼、涅槃を見るが故に。無礙の眼、一切の法を見て障礙無きが故に。普眼、平等の法門をもつて法界を見るが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の眼と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の眼を成就せば、則ち一切諸佛の無上なる大智慧の眼を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（一一）耳有り。何等をか十と爲す。所謂る、讃歎の聲を聞きては、貪愛を斷除し。毀呰の聲を聞きては、瞋恚を斷除し。聲聞緣覺の聲を聞きては、求むるの心を起さず。菩薩道の聲を聞きては、歡喜奇特の心を發起し。地獄・畜生・餓鬼・閻羅王・阿修羅・一切の難處の貧苦の音聲を聞きては、大悲の莊嚴を發起して自ら莊嚴し。天人趣の勝妙なる音聲を聞きては、一切の法は皆悉く無常なりと觀じ。佛の功德の音聲を聞きては、精進を勤修し、究竟して一切の功德を滿足し、波羅蜜、四攝、菩薩の經藏の音聲を聞きては、究竟の心を發して彼岸に到る。十方世界の一切の音聲を聞きては、悉く響の如しと了る。菩薩摩訶薩は初發心より、乃し道場に至るまで、常に法耳を正受して、而も亦一切衆生を敎化し成就することを捨てず。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の

【一〇】眼。眼は行德淨勝にして緣を照了することを表す。
【一一】耳。理の如く聽き、聞に依りて行を起こすの義。

耳と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の耳を成就せば、則ち一切諸佛の無上なる大智慧の耳を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の〔三〕鼻有り。何等をか十と爲す。所謂る、聞ぐ所の穢氣を不臭なりと觀察し。聞ぐ所の香氣を不香なりと觀察し。聞ぐ所の香臭を平等なりと觀察し。非香非臭を聞ぎては捨離を觀察し。衣服・牀褥・臥具・及び身支節の香を聞げば、則ち彼の人の貪・恚・愚・癡・等分の煩惱を知り、大寶藏の諸の藥草の香を聞ぎては、悉く能く一切の寶藏を了知し。下は阿鼻地獄に至り、上は非想非非想處に至る衆生の香を聞ぎては、悉く能く諸の根本行を了知し。聲聞の施戒聞慧の香を聞ぎては、一切智に住して、心未だ曾て散亂せず。一切の菩薩の行香を聞ぎては、如來の智地を攝取し、一切の佛の智境界の香を聞ぎては、菩薩の所行を斷たず。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の鼻と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の鼻を成就せば、則ち一切諸佛の無量無邊なる無上淸淨の鼻を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の〔三〕舌有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切衆生の無盡行を分別し解說する舌。無盡の法を分別し解說する舌。諸佛の無盡の功德を讃歎する舌。無盡辯の舌。無盡の大乘法を演說する舌。普く十方の虛空界を覆ふ舌。普く一切の佛の世界を照す舌。平等に一切衆生を讃歎する舌。諸佛に隨順して歡喜せしむる舌。一切の魔、及び諸の外道を降し、一切の生死の煩惱を除滅して、悉く衆生をして涅槃に至らしむる舌。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の舌と爲す。若し菩薩摩

【三】鼻。行香に依つて道行を增進する義。

【三】舌。語業自在にして善を增すの義。

訶薩、此の舌を成就せば、則ち諸佛の無上なる大金剛の舌を得て、普く一切の世界を覆はん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（四）身有り。何等をか十と爲す。所謂る、人身、一切の人を敎化し成就するが故に。非人の身、地獄・畜生・餓鬼・閻羅王を敎化し成就するが故に。天身、欲界・色界・無色界の衆生を敎化し成就するが故に。學身、學地に示現するが故に。無學の身、阿羅漢地に示現するが故に。緣覺の身、敎化して緣覺地に入らしむるが故に。菩薩の身、大乘を積集するが故に。如來の身、如來智の記を受くるが故に。魔兔摩の身、巧方便をもつて無量の功德を出生するが故に。無漏法の身、少方便を以て普く一切の衆生身を現ずるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の身と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の身を成就せば、則ち一切諸佛の無上なる法身を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（五）意有り。何等をか十と爲す。所謂る、上首の意、一切の善根を出生するが故に。佛の敎に隨順する意、說の如く修行するが故に。深入の意、一切の佛法を解るが故に。內意、深く衆生の希望に入るが故に。不亂の意、煩惱の爲めに亂されざるが故に。清淨の意、垢染を受けざるが故に。善調伏の意、時を失はざるが故に。正思惟業の意、一切の惡を遠離するが故に。諸根を調伏する意、境界の中に於て諸根馳騁せざるが故に。深定の意、佛の三昧は稱量す可からざるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の意と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の意を成就せば、則ち一切諸

【四】身。身業自在にして、機に應じて形を現ずるの義。

【五】意。意業の自在を明かす。

佛の無上の意を得ん。

（一六）佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（一七）行有り。何等をか十と爲す。所謂る、聞法の行、樂ひて法を聽受するが故に。說法の行、衆生を利益するが故に。愛瞋癡怖に隨はざる行、自心を調伏するが故に。義法欲界の行、欲界の衆生を敎化し成就するが故に。色・無色界の三昧行、速かに轉せしむるが故に。義法の行、速かに淨慧を成就するが故に。一切趣の行、衆生を敎化するが故に。一切の佛刹の行、一切の佛を恭敬し禮拜し供養するが故に。涅槃の行、生死の相續を斷つが故に。諸佛を成滿する行、菩薩の行を斷ぜざるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の行と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の行に安住せば、則ち一切諸佛の行・非行の如來行を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（一八）住有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩提心の住、未だ曾て忘失せざるが故に。波羅蜜の住、功德を厭はざるが故に。正義を樂聞する住、明淨なる智慧の故に。阿練若處の住、諸の大三昧を成就するが故に。一切智に隨順する頭陀の威儀、四聖種の住、少欲にして足ることを知るが故に。隨順の住、正法に順ふが故に。如來に親近する住、佛の威儀を成滿するが故に。諸明の住、大智を滿足するが故に。無生忍の住、受記滿足するが故に。道場菩提の住、力・無畏・一切の佛法を滿足するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の住と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の住に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる一切智の住を得ん。

【一六】次の六十句は四威儀動止行を明かす。
【一七】行。發動遊行の義。
【一八】住。行に止息あることを示す。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(二九)坐有り。何等をか十と爲す。所謂る、轉輪王の坐、十善を興すが故に。四天王の坐、一切の世界の諸佛の正法に於て、自在を得んと欲するが故に。帝釋の坐、一切の衆生に於て、最も第一なるが故に。梵天の坐、自心と他心とに自在を得るが故に。師子の坐、甚深の義を分別し演說するが故に。正法の坐、陀羅尼・諸力・辯を明さんと欲するが故に。堅固なる三昧の坐、大誓を究竟するが故に。大慈の坐、惡心の衆生をして悉く歡喜せしむるが故に。大悲の坐、能く一切諸の苦惱を忍ぶが故に。金剛の坐、衆魔と、諸の外道とを調伏するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の坐と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の坐に安住せば、則ち一切諸佛の無上の尊坐を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(三〇)臥有り。何等をか十と爲す。所謂る、寂靜の臥、身心憺怕なるが故に。禪定の臥、正念に思惟して、諸法を觀察するが故に。諸の三昧の臥、身心柔輭なるが故に。梵天の臥、自他を惱まさざるが故に。思惟業の臥、後心に悔ゆること無きが故に。正法に順ふ臥、傾動す可からざるが故に。正道の臥、善知識覺悟するが故に。妙願の臥、善く回向を知るが故に。一切の事畢るの臥、所作究竟するが故に。方便を捨つるの臥、本事を究竟するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の臥と爲す。若し菩薩摩訶薩此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる道臥を得て、悉く能く一切の衆生を覺悟せん。

【二九】坐。住に或は疲倦あるが故に安坐を明かす。
【三〇】臥。憩息歸靜の義。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の〔二〕住有り。何等をか十と爲す。所謂る、大慈の住、等心に一切の衆生を觀察するが故に。大悲の住、未だ學ばざる衆生を輕ぜざるが故に。大喜の住、憂惱を滅するが故に。大捨の住、有爲無爲悉く平等なるが故に。一切の波羅蜜住、菩提心を首と爲すが故に。一切種空の住、善く諸法を解るが故に。無相の住、生を離れ證を受けて退轉せざるが故に。無願の住、受生を捨つるが故に。念慧の住、忍法成滿するが故に。一切法平等の住、授記の法を得るが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の住と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の住に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる無礙住を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の〔三〕行有り。何等をか十と爲す。所謂る、正念の行、四念處を滿足するが故に。諸趣の行、正しく法趣を覺るが故に。慧行、諸佛に隨順するが故に。波羅蜜の行、一切智を滿足するが故に。四攝の行、諸の衆生を敎化し成就するが故に。生死の行、一切諸の善根を長養するが故に。一切衆生の言戯の行、衆生を拔出するが故に。貪燄然の行、一切衆生の諸根を覺悟するが故に。巧方便の行、般若波羅蜜を長養するが故に。道場の行、一切智を覺りて菩薩の行を斷せざるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の行と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の行に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる大智慧の行を得ん。

〔二〕住。智に栖止あることを明かす、前の住は能住、此は所住を辨ず、又前は身住、此は心住なり。

〔三〕行。前の行は四威儀の行なれば身儀に約し、此は心行に約す。

(二三)佛子よ、(二四)菩薩摩訶薩に、十種の(二五)觀察有り。何等をか十と爲す。所謂る、善業を觀察す。乃至微色をも悉く照見するが故に。此に死し彼に生るることを觀察す、一切衆生に著せざるが故に。一切衆生の諸根を觀察す、決定して無根の法を了知するが故に。妙法を觀察す、法界壞す可からざるが故に。現前を觀察す、一切の佛法に於て佛眼を修するが故に。智慧を觀察す、器に隨ひて法を說くが故に。無上の法忍を觀察す、決定して佛法を得るが故に。佛地を退かざることを觀察す、一切の煩惱を除滅して三界と二乘地とを超出するが故に。甘露の灌頂法を觀察す、一切の佛法に於て自在を得て動ぜざるが故に。佛の三昧を觀察す、一切の十方に於て佛事を作すが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の觀察と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる大智の觀察を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(二六)周徧觀察有り。何等をか十と爲す。所謂る、周徧して諸の來り求むる者を觀察す、慈心をもつて施與して彼の意を滿たすが故に。周徧して諸の戒を犯す者を觀察す、如來の淸淨戒に安置するが故に。周徧して害心の衆生を觀察す、如來の堪忍力に安置するが故に。周徧して諸の懈怠の者を觀察す、彼の衆生をして

【二三】第六、以下五百十句は因圓果滿行を答ふ。中に於て初の三百二十句は因圓究竟の行を明かし、後の百九十句は現果圓滿行を明かす。前の中に三あり。

【二四】初の百四十門は因行の體性を明かす、此の中前の四十は行起の方便、後は十度の行體を明かす。

【二五】觀は解の方便に由るが故に善く所行の通塞の相に達するを云ふ。

【二六】審慮し周察して源底を窮め、解は能く行を起すが故に周徧觀察と云ふ。

精進を勤修し大乘を究竟せしむるが故に。周徧して亂心の衆生を觀察す、彼の亂心を除きて、如來の一切智地に安置するが故に。周徧して愚癡の衆生を觀察す、彼の疑惑と一切の有見とを除くが故に。周徧して諸の善知識を觀察す、如來の敎に隨ひて佛法に住するが故に。周徧して聞く所の法に隨ふことを觀察す、無上の義を具足し成就するが故に。周徧して一切衆生を觀察す、大悲を捨てざるが故に。周徧して一切の佛法を觀察す、一切智を覺るが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の周徧觀察と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる大智の周徧觀察を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(二七)奮迅有り。何等をか十と爲す。所謂る、色奮迅、天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽等の一切の衆中に於て、最勝なることを現ずるが故に。象奮迅、象の寶心を示現するが故に。龍奮迅、大法の雲を興して普く一切に覆ひ、解脱の電光を曜明し、實義の雷を震ひ、諸の根力、覺意、禪定、解脱、三昧の甘露の法雨を降すが故に。大金翅鳥王奮迅、愚癡闇瞖の瞉膜を壞滅し、愛水を消竭し、大苦の海に於て煩惱の諸の惡龍を搏撮するが故に。師子奮迅、無畏に安住して平等大智の鎧仗を被執し、衆魔と諸の外道とを摧伏するが故に。勇健奮迅、能く生死の大戰陣の中に於て、一切煩惱の大怨敵を摧滅するが故に。智慧奮迅、決定して陰・界・諸入・十二緣起を了知し、一切の佛の自在の法を現ずるが故に。陀羅尼奮迅、一切の法を聞持して、未だ曾て忘失せず、廣く群生の爲めに分別して說くが故に。辯才奮

【二七】威德外に溢れ、威肅勇健なるを奮迅と名づく。

迅、一切の句身味身を分別して、罣礙する所無く、問に隨ひて卽ち答へ、悉く歡喜せしめて言虛しからざるが故に。如來奮迅、師子の座に坐して衆魔を降伏し、外道を調伏し、一切智を滿足し、一念相應の慧を具へ、得る所、知る所、覺る所、成ずる所、皆悉く覺知して無上菩提を成ずるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の奮迅と爲す。若し菩薩摩訶薩。此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる自在の奮迅を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩、十種の〔三八〕師子吼有り。何等をか十と爲す。所謂る、我必ず成佛せんと、是れ菩提心の師子吼なり。一切の衆生に於て大悲心を起し、未だ度せざる者を度し、未だ脫せざる者を脫し、未だ安ぜざる者を安じ、未だ涅槃せざる者に涅槃を得しめんと、是れ大悲の師子吼なり。守護し受持して三寶の性を斷ぜざれと、是れ如來の恩に報ゆる師子吼なり。一切の佛刹をして皆悉く清淨ならしめんと、是れ究竟大誓の師子吼なり。一切の惡道の諸難を除滅せんと、是れ自ら淨戒を持つ師子吼なり。如來の身口意の相好莊嚴を滿足せんと、是れ功德を積集して厭き足ること無き師子吼なり。一切諸佛の智慧を成滿せんと、是れ智慧の衆具を積集して厭き足ること無き師子吼なり。一切の魔事を除滅して專ら正道を求めんと、是れ煩惱を除滅する師子吼なり。一切法は我無く、我所無く、命無く、福伽羅無く空・無相・願なるを知り、一切の法は淨きこと虛空の如しと觀せんと、是れ一切法に於て無生忍を得る

【三八】既に勇健にして畏る所なければ、能く決定して唱說するが故に、師子吼と云ふ。

師子吼なり。一切の補處の菩薩摩訶薩は、一切の佛刹を嚴淨し震動し、釋梵四天王は咸く降神し下生せんことを請ひ求めて、無礙の慧眼を以て、普く世間を觀ずるに、一切の衆生我に勝る者無ければ出生を示現し、遊行すること七步にして大師子吼すらく、「我は世間に於て最勝第一なり、我は永く生老死の法を究竟せり」と、是れ說の如く修行する師子吼なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の師子吼と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる大師子吼を得ん。

(三九)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の淨施有り。何等をか十と爲す。所謂る、平等心の施、惡衆生無きが故に。隨意の施、一切の願を滿ずるが故に。無亂心の施、退轉せざるが故に。隨應供の施、分別して福伽羅を了知するが故に。選擇せざる施、果報を求めざるが故に。一向施、一切の物に於て心著すること無きが故に。內外一切の施、究竟じて淸淨なるが故に。菩提に回向する施、有爲無爲を遠離するが故に。衆生を敎化し成就する施、乃し道場に至るまで捨離せざるが故に。三種の圓滿淸淨の施、施す者と、受くる者と、財物と平等にして淸淨なること虛空の如くなるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の淨施と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の施に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる淸淨の大施を得ん。

【三〇】次の一百門は十度の行を明かす。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の淨戒有り。何等をか十と爲す。所謂る、身の淨戒、身の三惡を防護するが故に。口の淨戒、口の四過を遠離するが故に。心の淨戒、永く貪・恚諸の邪見を離るるが故に。一

切を具する淨戒、天人の中に於て、最も勝妙なるが故に。菩提心を守護する淨戒、小智を樂はざるが故に。如來の所說を守護する淨戒、乃し微細の罪に至るまで大いに怖畏するが故に。微密の淨戒、善く戒を犯す諸の衆生を拔くが故に。一切の惡を作さざる淨戒、一切諸の善法を積集するが故に。一切の有見を遠離する淨戒、戒に於て著すること無きが故に。一切の衆生を守護する淨戒、大悲を出生するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の淨戒と爲す。若し菩薩摩訶薩此の戒に安住せば、則ち一切諸佛の衆惡を遠離する淨戒を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の淨忍有り。何等をか十と爲す。所謂る、若し他、罵辱せんも悉く能く堪忍せん、彼の心を護るが故に。若し他、刀仗をもつて害を加へんも亦能く堪忍せん、彼我を護るが故に。一切の瞋恚を知る忍、自然に動せざるが故に。自在處の忍、能く害不害の故に。衆生歸趣の忍、身命を惜まざるが故に。我慢を遠離する忍、未だ學ばざるを輕せざるが故に。支節を割截する忍、如幻なることを觀察するが故に。一切惡事の忍、自他の想を離るるが故に。煩惱の忍、煩惱の境界を遠離するが故に。一切の菩薩の方便智に隨順する忍、無生忍を得て一切智の境界に於て、他に由りて悟らざるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の淨忍と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の忍に安住せば、則ち一切諸佛の無上法忍を得て、他に由りて悟らじ。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の淨精進有り。何等をか十と爲す。所謂る、淨身業の精進、一切の諸

佛、菩薩、尊重の福田を供養し奉給して、退轉せざるが故に。淨口業の精進、一切諸佛の正法を聞持して未だ曾て忘失せず、如來を讃歎し、所聞の法に隨ひて、廣く人の爲めに說きて、疲倦無きが故に。淨意業の精進、巧方便をもつて慈・悲・喜・捨・禪定・解脫・三昧に入り、相續して起り退轉無きが故に。淨直心の精進、諂曲を遠離して正直に一切の事、一切の方便を究竟して退轉せざるが故に。淨深心の精進、常に勝趣に趣きて、無上の智慧と白淨の法とを積集するが故に。行虛妄ならざる淨精進、布施・戒・忍・多聞・及び不放逸を攝取して、乃し道場に至るまで中息せざるが故に。一切の衆魔怨敵を降伏する淨精進、悉く能く貪・恚・愚癡・煩惱・邪見・諸纒、障害を除滅するが故に。智慧の光を滿足する淨精進、施作する所有れば悉く善く思惟して、心に中悔すること無く、衆の事を究竟して、一切の佛の不共の法を得るが故に。染著する所無き淨精進、心の境界と、身口意の相と非相とを離れ、甚深の法門に普く境界を觀じ、決定して眞實如如を了知するが故に。法明を具足し成就する淨精進、次第に一切の諸地に進入して、諸佛の所に於て甘露の灌頂を得て法王の記を受け、無漏の法身は、天壽を捨てて世間に降神し、出家し成道して、淨法輪を轉じ、大涅槃に入ることを現じ、究竟じて普賢の行を具足するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の淨精進と爲す。若し菩薩摩訶薩此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる大淨精進を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の淨禪有り。何等をか十と爲す。所謂る、常に出家を樂ふ淨禪、一切の

有を捨離するが故に。善知識に親近する淨禪、正法の道を諮受し修習するが故に。阿練若の處を樂ふ淨禪、我我所の法を遠離するが故に。言戯潰閙の處を離るる淨禪、寂滅を樂ふが故に。心柔輭なる淨禪、諸根亂れざるが故に。智慧寂靜なる淨禪、一切の音聲も諸の禪定を刺して亂すこと能はざるが故に。七覺八道の淨禪、一切の境界に於て智慧決定するが故に。味禪等の諸の煩惱垢を離れたる淨禪、欲界を取せざるが故に。諸の通明の淨禪、決定して一切衆生の諸根を了知するが故に。少方便を以て現前に遊戯する神通の淨禪、如來の三昧は稱量す可からざるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の淨禪と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の禪に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる淨禪を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の淨慧有り。何等をか十と爲す。所謂る、因を知る淨慧、果報を壞せざるが故に。一切の緣を解る淨慧、和合を壞せざるが故に。一切の法は不常不斷なることを解る淨慧、緣起の如如なることを了るが故に。一切の邪見を拔出する淨慧、衆生の相を取らざるが故に。一切衆生の心心の所行を解る淨慧、一切の法は皆幻の如しと觀ずるが故に。諸辯勝智の淨慧、問に隨ひて能く答へ罣礙すること無きが故に。衆魔及び諸の外道を降伏して聲聞緣覺に出過する淨慧、深く如來の方便智に入るが故に。一切の佛の清淨の法身を見たてまつり、一切の衆生は皆悉く清淨なりと見、一切の法は皆悉く寂滅なりと見、一切の世界は皆悉く虛空なりと見る淨慧、一切の相に於て智慧無礙なるが故に。一切の陀羅尼の辯と諸の波羅蜜の巧方便とを攝取する淨慧、一切の勝智を得

るが故に。一念相應の金剛智をもつて一切法の平等なることを覺る淨慧、無上の智を具足し成就するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の淨慧と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の慧に安住せば一切諸佛の無上大智を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の淨慈有り。何等をか十と爲す。所謂る、等心の淨慈、衆生を選擇せざるが故に。饒益の淨慈、一切の衆生に於て施作する所有れば悉く能く辨ずるが故に。救護の淨慈、究竟じて一切の衆生を生死の險難より度脱するが故に。哀愍して一切の衆生を捨てざる淨慈、有爲の善根を長養するが故に。解脱の淨慈、一切衆生の諸の煩惱を滅するが故に。菩提を出生する淨慈、一切衆生をして菩提を樂ひ求めしむるが故に。一切衆生に於て無礙なる淨慈、無量の光明を放ちて、普く衆生を照すが故に。虚空の淨慈、一切の衆生を救護するが故に。法緣の淨慈、眞實の法を覺悟するが故に。無緣の淨慈、菩薩の離生の法を證取するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の淨慈と爲す。若し菩薩摩訶薩の此の慈に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる淸淨の大慈を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の淨悲有り。何等をか十と爲す。所謂る、不共の淨悲、自ら大悲なるが故に。不厭の淨悲、一切の衆生に代りて大苦を受くるが故に。一切の惡道に處する淨悲、生死を受けて衆生を度するが故に。一切の天人の中に生を受くる淨悲、一切の法は悉く無常なることを示現するが故に。邪定の衆生の爲めにする淨悲、無量劫に於て、大誓の莊嚴を捨離せざるが故に。己が樂に著

さざる淨悲、衆生に樂を與ふるが故に。報を求めざる淨悲、自心清淨なるが故に。一切衆生の倒惑を除滅する淨悲、實法を說くが故に。一切の法は自性清淨にして、空のごとく所有無けれども、客塵に染せらるることを知り、菩薩は彼に於て淨悲を起す、眞實の淨法を說くが故に。一切の法は虛空の足跡の如きを解るも、衆生は癡に覆はれて眞實を知らず、菩薩は彼に於て淨悲を起す、衆生をして大乘の心を發し、涅槃を究竟せしめんと欲するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の淨悲と爲す。

若し菩薩摩訶薩、此の悲に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる清淨の大悲を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の淨喜有り。何等をか十と爲す。所謂る、發菩提心の淨喜。一切の有する所を捨つる淨喜。戒を犯す人に於て惡心を生ぜずして教化し成就する淨喜。一切の諍訟する衆生に於て悉く和合して、無上の智を得しむる淨喜。身命を惜まずして正法を守護する淨喜。五欲を遠離して常に正法を樂ふ淨喜。一切衆生をして資生の具に著せず、常に正法を樂はしむる淨喜。一切の佛を見たてまつりて、恭敬し供養して厭足有ること無く、而も法界を壞せざる淨喜。一切衆生をして常に禪定、解脫、三昧の相續を樂はしむる淨喜。一切衆生をして專ら寂靜を求め、亂想を除滅し、無上の慧を得て邪見を遠離し、諸願を滿足し、菩薩の苦行を究竟せしむる淨喜なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の淨喜と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の喜に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる清淨の大喜を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の淨捨有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の衆生恭敬供養すれども愛著を生ぜず、一切の衆生輕慢毀辱すれども瞋恚を生ぜざる淨捨。常に世閒を行じて八法の爲めに染汚せられざる淨捨。器に於て時を知り、非器に於て惡心を生ぜざる淨捨。聲聞・緣覺・學無學を求めざる淨捨。五欲の一切の煩惱を遠離し、乃至一念の惡心をも生ぜざる淨捨。二乘を修行し、及び生死を厭ふことを歎ぜざる淨捨。世閒の語、非涅槃の語、非離欲の語、戲笑の語、他を惱ます語、聲聞緣覺の語、乃至一切の菩提を障ふる語を遠離する淨捨。若しくは衆生有り、時を待ちて化を受くる菩薩の淨捨。若しくは衆生有り、應に佛の化を受くべき菩薩の淨捨。菩薩摩訶薩は二法を遠離し、上無く、下無く、取無く捨無く、虛無く實無く、平等なることを觀察し眞實に安住して忍を得る淨捨なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の淨捨と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の捨に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる淸淨の大捨を得ん。◎

(三〇)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(三一)義有り。何等をか十と爲す。所謂る、多聞の義、說の如く修行するが故に。法の義、善巧の方便をもつて分別して解るが故に。空の義、第一空を解るが故に。寂滅の義、一切の衆生をして生死を離れしむるが故に。不可說の義、一切の語言は所著無きが故に。如の義、一切の三世を等しく觀察するが故に。入法の義、悉く一味なるが故に。如來の義、如來に順ふ

【三〇】次の八十門は修造方便行を明かす、中に於て前の四十は自分行、後の四十は勝進行なり。

【三一】義とは所詮の旨趣なり。義に依りて行を成ずるが故に今之を明かす。

が故に。實際の義、眞實を覺るが故に。大般涅槃の義、一切の苦を滅して菩薩の行を斷ぜざるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の義と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の義に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる一切智の義を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の法有り。何等をか十と爲す。所謂る、眞實の法、説の如く修行するが故に。無害の法、瞋恚を遠離するが故に。無諍の法、一切諸の煩惱を除滅するが故に。寂滅の法、熾然を離るるが故に。離欲の法、永く欲垢の諸の煩惱を離るるが故に。不虚の法、虚妄を離るるが故に。不生の法、一切の法は悉く虚空なるが故に。無爲の法、三相を離るるが故に。性淨の法、自然に清淨なるが故に。身を報ゆる煩惱の滅したる無餘涅槃の法、菩薩の行を行じ、受持して捨てざるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の法と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上の法を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の〔三〕功德の具有り。何等をか十と爲す。所謂る、衆生を勸發して菩提心を起さしむるは、是れ功德の具なり。三寶を斷ぜざるが故に。十種の囘向に隨順するは、是れ功德の具なり。一切の不善の法を斷じて、一切の善法を集むるが故に。智慧をもつて正しく敎ふるは、是れ功德の具なり。三界に於て功德最も殊勝なるが故に。心に疲厭すること無きは、是れ功德の具なり。一切の衆生を度脱して、彼岸に到らしむるが故に。悉く能く内外の所有を捨離するは、是れ功德

【三】福德を成ずる緣を功德の具と云ふ。

の具なり。一切の物に於て、悉く著すること無きが故に◎相好滿足して精進不退なるは、是れ功德の具なり。心の馳騁することを止むるが故に◎三品の善根を輕ぜざるは、是れ功德の具なり。善巧の方便をもつて菩提に囘向するが故に◎邪定犯戒の衆生に於て、輕慢を起さずして大悲を增長するは、是れ功德の具なり。大人の法を顯現するが故に◎一切の如來を恭敬し供養したてまつりて、一切の菩薩に於て如來の想を起し、一切の衆生に於て所作究竟するは、是れ功德の具なり。正直心を長養し守護するが故に◎菩薩摩訶薩は阿僧祇劫に於て、一切の善根を具足し修習し、皆悉く能く捨て、一りの衆生に與へ、心に憂悔無し、一りの衆生の如く、一切の衆生にも亦復た是の如し、是を第十の虛空界に等しき大功德の具と爲す。廣大の智慧を具足し成就するが故なり◎佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の功德の具と無す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる大功德の具を得ん。

【三】智を成ずる因緣を智具と云ふ、

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の【三】智具有り。何等をか十と爲す。所謂る、眞實多聞の善知識に親近し、恭敬し尊重し、禮拜し供養し、奉給し隨順して、其の敎に違はざるは、是れ第一の智具なり。諂曲を離るるが故に◎慢を離れて意を下し、心に放逸無く、身口及び意、皆悉く柔輭にして輕躁有ること無く、心常に歡喜して淨戒を護持し、和顏をもつて愛語し、先意問訊して、邪僞を遠離するは、是れ第二の智具なり。自然に佛法の器を成就するが故に◎念慧に安住して正覺を捨てず、亂想を除滅し

て六念を修習し、六和敬を行じて其の報を求めざるは、是れ第三の智具なり。十種の智を出生し長養するが故に。法を樂ひ、義を樂ひて、正法を勤修し、學に厭足無く、世論及び世間の語を遠離し離世間の語を聞かんことを樂ひ、小乘を遠離して大乘を樂ひ求むるは、是れ第四の智具なり。正念を修習して不可思議なるが故に。正しく六波羅蜜を求めて、受持し修習し、四種の梵住を具足し成就して、諸の明法に順ひ、能く智人に問ひ、惡趣を遠離して專ら善趣に向ひ、慈心をもつて調伏して、訶責議論を離れ、他心を防護するは、是れ第五の智具なり。說の如く諸佛の眞實の法を修行するが故に。常に出家を樂ひて三界を樂はず、自心を守護して三覺を遠離し、惡心を生せず、身口及び意、皆悉く柔輭となり、善く心性を知るは、是れ第六の智具なり。自他の心を倶に淸淨ならしむるが故に。陰は幻の如く、界は毒蛇の如く、入は空聚の如しと觀じ、一切の法は化の如く炎の如く、水月、鏡像のごとく、夢の如く、電の如く、呼聲の響の如く、旋火輪の如く、空中の雲の如く、因陀羅の陣の如く、日月の光の如く、常に非ず斷に非ず、來ることも無く、去ることも無く、住することも無しと觀じ、深心に信解して誹謗を起さざるは、是れ生住滅無き第七の智具なり。一切の法空の淨き智慧を具足し成就するが故に。我無く衆生無く、福伽羅も無く、思無く義無く、貪恚癡も無く、所有も無く、毀無く譽無く、取無く捨無く、主無く行無く、究竟じて涅槃なり、若し菩薩摩訶薩、此の深法を聞きて能く信じ能く解りて疑惑を除滅するは是れ第八の智具なり。深解脫を究竟し具足するが故に。

正方便を以て止觀を思惟して、諸根を調伏し、一切の諸法は造作する所無く、無生無爲にして皆悉く寂滅なり、衆生の我を計する者は、究竟じて所有無く、無縛無脱にして、身口心無く、亦精進も無し、一切の衆生、一切の法、一切の心、一切の行を觀察するに、前も無く後も無く、皆悉く平等なり、是れ第九の智具なり。一切の相を遠離して彼岸を究竟するが故に。菩薩摩訶薩は善く緣起を知るが故に、法の清淨なるを見る、法の清淨なるを見るが故に、刹の清淨なるを見る、刹の清淨なるを見るが故に、虚空の清淨なるを見る、虚空の清淨なるを見るが故に、法界の清淨なるを見る、法界の清淨なるを見るが故に、則ち智慧を見るは、是れ第十の智具なり。一切の智を積集するが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の智具と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の一切法の中の無上なる無礙清淨の大智を得ん。

# 巻の第四十三

## 離世間品第三十三の七

(一)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の明足有り。何等をか十と爲す。所謂る、深く佛法を知る明足。一切の法の中に癡暗を除く明足。邪見を遠離する明足。慧光清淨にして普く諸根を照す明足。正方便をもつて精進を勤修する明足。深く菩薩の眞諦に入りて正しく離生に趣く明足。煩惱業を滅して盡智と無生智とを成就する明足。淨慧を思惟する清淨なる天眼の明足。清淨の憶念をもつて宿命を念ふ明足。淨地の清淨なる諸明を具足して、諸漏を除滅する漏盡智の明足なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の明足と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の一切法の中の無上なる大明足を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の求法有り。何等をか十と爲す。所謂る、直心に法を求む、諂曲、虚僞の心を離るるが故に。精勤して法を求む、懈怠を離るるが故に。一向に法を求む、身命を惜まざるが故に。一切衆生の煩惱を斷せんが爲めに法を求む、資生の具を求めざるが故に。一切衆生を饒益せんが爲めに法を求む、自ら利せざるが故に。深く智慧に入らんが爲めに法を求む、彼を輕せざるが故

【一】次の四十句は勝進行を明かす。

に。正法をして常に堅固ならしめんと欲して法を求む、世間を樂はざるが故に。衆生を愍悼せんが爲めに法を求む、菩提心を捨てざるが故に。一切衆生の問ふ所に隨ひて能く答へんが爲めに法を求む、悉く能く諸の疑惑を除滅するが故に。具さに佛法を滿せんが爲めに法を求む、餘乘を樂はざるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の求法と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の法の中の無上なる無礙智を得て、他に由りて悟らじ。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の明了法有り。何等をか十と爲す。所謂る、世間に隨順する明了法、一切世間の凡夫の善根を長養せんと欲するが爲めの故に。無礙にして不壞なる信の明了法、法の眞性を解る信行の人なるが故に。法界に安住する明了法、法行の人を解るが故に。八邪を遠離して八正道に向ふ明了法、八人を解るが故に。衆の結を除滅し生死の漏を斷じ、眞實諦を見る明了法、須陀洹を解るが故に。味は是れ患なりと觀じて還り來りて生を受くる明了法、斯陀含を解るが故に。乃至、須臾も三界を樂はず受生に著せず、專ら漏の盡きんことを求むる明了法、阿那含を解るが故に。六通自在にして八解脫に遊び、隨意に九次第定を正受する諸辯の明了法、阿羅漢を解るが故に。常に寂靜を樂び外緣に因りて解り、少事に足ることを知り、他に由りて悟らずして智慧を成就する明了法、緣覺を解るが故に。勝智を成就し諸根明利にして心常に解脫し、無量の功德智慧を長養し、諸佛の十力、四無所畏、一切の佛法を滿足する明了法、菩薩を解るが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の明了法と爲す。若

し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる大智慧の明了法を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の〔二〕向法有り。何等をか十と爲す。所謂る、善知識に隨順し、恭敬する向法。諸天を覺悟する向法。一切の佛の所に於て、當に慚愧を懷くべき向法。衆生を哀念して、生死を斷ぜざる向法。一切の事を究竟して、虚妄の心を起さざる向法。餘乘を遠離して、專ら菩薩の大乘を修する向法。邪道を遠離して、專ら正道を求むる向法。衆魔を降伏して、煩惱を滅除する向法。佛地に安住して、一切衆生の諸根を知り、應に隨ひて法を聞き、廣く爲めに演説する向法。無量無邊の清淨の法界に安住する向法なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の向法と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の法に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる向法を得ん。

〔三〕佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の魔有り。何等をか十と爲す。所謂る、五陰魔、五陰に貪著するが故に。煩惱魔、煩惱染するが故に。業魔、能く障礙するが故に。心魔、自ら憍慢するが故に。死魔、受生を離るるが故に。天魔、憍慢放逸を起すが故に。善根を失ふ魔、心に悔いざるが故に。三昧魔、味に著するが故に。善知識魔、彼に於て著心を生ずるが故に。菩提の正法を知らざる魔、諸の大願を出生すること能はざるが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の魔と爲す、應に方便を作して速かに之を遠離すべし。

〔二〕向法とは普賢法界に順向するを云ふ。

〔三〕以下百門は離障の行を明かす、中に於て初の五十は離障成行、後の五十は離障加持を明かす。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の魔業有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩提心を忘失して、諸の善根を修する、是を魔業と爲す。惡心をもつて布施し、瞋心をもつて戒を持ち、惡性懈怠の衆生を棄捨し、亂心無智の衆生を輕慢し厭惡する、是を魔業と爲す。正法を慳惜して法器の衆生を訶責し、利養を貪り求めて人の爲めに法を說き、非器の人の爲めに深妙の法を說く、是を魔業と爲す。波羅蜜を聞かず、聞くと雖も修行せず、懈怠の心を生じて深妙の無上菩提を求めざる、是を魔業と爲す。善知識を遠離して惡知識に親近し、二乘を樂ひ求め、受生の處に於て離欲寂靜除滅の心を起す、是を魔業と爲す。菩薩の起す所の瞋恚の心に於て、其の過惡を說き、彼の利養を斷ちて常に罪釁を求め、惡眼をもつて之を視る、是を魔業と爲す。正法を誹謗して契經を聞かず、聞くとも讃歎せず、若し法師有りて法を說くとも、恭敬して意を下すこと能はず、自ら言はく、「我が說は是義なるも、彼が說は非義なり」と、是を魔業と爲す。世間の論を學び、文字に巧みにして、句味・手筆・文頌を善くし、樂ひて二乘を說きて深法を隱覆し、雜語を開演し、非器の所に於て甚深の法を說き、菩提を遠離して邪道に安住す、是を魔業と爲す。已に度り、已に安んぜる者は、親近し恭敬して之を供養し、未だ度せず、未だ安んぜざる者は、永く親近し恭敬し供養せず、亦敎化せず、是を魔業と爲す。增上慢に隨ひて諸慢を增長し、衆生を輕蔑し、正法の眞實智慧を求めずして、諸根散亂し、化度す可きこと難し、是を魔業と爲す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の魔業と爲す。菩薩摩訶薩、應に速かに遠離して正しく佛業

を求むべし。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の魔業を捨離する有り。何等をか十と爲す。所謂る、善知識に親近すれば、魔業を捨離す。自ら尊擧せず、自ら讃歎せざれば魔業を捨離す。佛の深法を信じ、誹謗を生ぜざれば魔業を捨離す。未だ曾て一切智の心を忘失せざれば魔業を捨離す。不放逸に安住し、甚深の法を修習すれば魔業を捨離す。菩薩の藏に安住して正しく一切法を求むれば魔業を捨離す。常に法を聽かんことを欲ひ、樂ひて深義を聞き、心に疲倦無ければ魔業を捨離す。十方の一切諸佛に歸依すれば魔業を捨離す。信心に一切諸佛の菩提樹を正念すれば魔業を捨離す。一切の菩薩は善根を出生して、皆悉く不二なれば魔業を捨離す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の魔業を捨離すと爲す。若し菩薩摩訶薩、此の業に安住せば、則ち一切諸魔の業道を離れん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(四)見佛有り。何等をか十と爲す。所謂る、無著佛、世閒に安住して正覺を成ずるが故に。願佛、出生するが故に。業報佛、信ずるが故に。持佛、隨順するが故に。涅槃佛、永く度るが故に。法界佛、處として至らざること無きが故に。心佛、安住するが故に。三昧佛、無量にして著すること無きが故に。性佛、決定の故に。如意佛、普く覆ふが故に。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の見佛と爲す。若し菩薩摩訶薩、此法に安住せば、則ち能く無上の如來を視見たてまつる。

【四】行障既に離るるが故に、佛の境界斯に現前す、故に見佛と云ふ。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の(五)佛業有り。何等をか十と爲す。所謂る、衆生を勸化する、是れ第一の佛業なり、諸佛の法を長養するが故に。夢中に佛を見たてまつる、是れ第二の佛業なり、過去の諸の善根を發起するが故に。多く聞くは、是れ第三の佛業なり、無礙の決定智を逮得するが故に。悔纏に纏はるる者の爲めには、善巧の方便をもつて悔過の法を説く、是れ第四の佛業なり、一切諸の疑悔を除滅するが故に。若し衆生有りて、慳心・無智心・聲聞心・縁覺心・害心・疑心・憍慢心を起さば、如來心の相好莊嚴を現じて、斯等の類を化す、是れ第五の佛業なり、過去の諸の善根を出生し長養するが故に。正法の難時に、廣く衆生の爲めに淨妙の法を説き、衆生聞き已りて、便ち陀羅尼、智慧、神通を具足することを得、應の如く示現して衆生を饒益す、是れ第六の佛業なり、心力清淨なるが故に。若し魔事起らば種種の方便をもつて、速かに之を遠離するに虚空界に等しき微妙の音聲を以てし、亦他人を輕蔑せず、一切の魔業を除滅し忍辱を具足す、是れ第七の佛業なり、正直の功徳の故に。無量の行を行じて、聲聞縁覺の離生聖行を證せず、諸根未だ熟せざる者には、彼の人の爲めに解脱の果を説かず、但愛の本を除く、是れ第八の佛業なり、本願を出生するが故に。一切生死の漏縛と、一切の諸結とを斷除して、菩薩の行を出生し、一切の衆生に於て大悲を長養し、深心に菩薩の所行を信解し、涅槃を究竟す、是れ第九の佛業なり、菩薩の行を斷せざるが故に。菩薩摩訶薩は自他の爲めの故に、解脱の道を求めて厭き足る

【五】前は所見の佛體を明かし、今は得佛の因を辨ず。

こと無く、一切の行、及び一切の法を離れ、如來の色身に於て染著する所無く。精勤に專ら無礙の智慧を求め、他に由りて悟らず、一切の佛刹を嚴飾して清淨ならしめ、決定して皆悉く虛空なりと了知し、一切の衆生を教化し成就して、而も無我の性を捨てず、法界に安住して諸通自在に、一切種智を具足し成就して、而も菩薩の行を捨てず、淨法輪を轉じて、一切の衆生をして皆歡喜を得しめ、廣く衆生の爲めに甚深の法を說き、如來の無量なる自在を示現して、而も菩薩の身を捨てず、大涅槃を現じて而も一切處生を捨離せず。佛子、菩薩摩訶薩は是の如き等の、乃至翻覆三昧を出生す、是れ第十の佛業なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の佛業と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の業に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる無師の大業を得て、他に由りて悟らじ。

(六)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の慢業有り。何等をか十と爲す。所謂る、尊重の福田なる和尙。阿闍梨。父母。沙門。婆羅門の處に於て、而も尊重し、恭敬し、供養せず、是を慢業と爲す。諸の法師有りて、勝妙の法を得、大乘に乘じて深く生死を出づるの道を知り、陀羅尼を得て多聞を成就し、智慧の藏を具へて善能く法を說くも、而も信受し、恭敬し、供養せず、是を慢業と爲す。法を聽受する時、若くは深法を聞きて離欲の心を發し、歡喜すること無量にして、法師を讚めて衆をして歡喜せしめず、是は爲慢業なり。憍慢の心を起して、自ら高ぶり彼を降し、己が過を省み

【六】次の五十句は離障加持の行を明かす、中に於て、前の二十は離障の行、後の三十は加持の行なり。

ず、自心を調へず、是を慢業と爲す。我を計する心を起して、功德智慧有る者を見るも、其の美を讃めず、德無き者を見て、反つて其の善を説き、若し他を讃むるを聞かば、彼の人の所に於て嫉妬の心を起す、是を慢業と爲す。若し法師有りて、是は法なり、是は律なり、是は實なり、是は佛語なりと知るも、憎嫉を以ての故に、説いて法に非ず、律に非ず、實に非ず、佛語に非ずと言ふ、他の信心を壞せんと欲するが故なり、是を慢業と爲す。自ら高座を敷きて、我は爲法師なり、應に執事すべからず、應に餘人を宗敬し供養すべからず、諸の梵行を修する尊長有德のものも、悉く應に我を恭敬し供養すべしといふは、是を慢業と爲す。頻蹙、惡眼をもつて視ることを遠離し、彼常に和顏を以て等しく衆生を觀、言常に柔輭にして麤獷有ること無く、恚恨の心を離るるも、而も彼の法師に於て其の過惡を求む、是を慢業と爲す。我慢の心を以て、多聞の者に於て往きて恭敬し、起ちて法を聞かず、留難も亦諮問せず何等をか善、何等をか不善、何等をか應作、何等をか不應作と爲し、何等の業を作してか長夜に一切の衆生を饒益し、何等の業を作してか衆生を益せざる、何等の業を作してか明より明に入り、何等の行を爲してか冥より冥に入ると(諮問せず)、是の如きの人輩、我心の爲に漂沒して、出要の正道を見ること得る能はず、是を慢業と爲す。慢心を起すが故に、諸佛の得難きの法に値はず、宿世に種ゑし所の善根を消盡し、説くべからざるを而も説きて訶責の心を起し、更に相讖論す、是の如きの法に住すれば、應に邪道に入るべし、但菩提心の力の故に、永く菩薩の所行を捨てず、菩薩の

道を捨てずと雖も、而も無量百千萬劫に於ても、尙ほ佛に値ひたてまつらず、何に況んや法を聞くべきをや、是を慢業と爲す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の慢業と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の慢業を離れなば、則ち一切諸佛の十種の無上なる清淨の意業を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（七）智業有り。何等をか十と爲す。所謂る、因緣を信解して因果を壞せず、是を智業と爲す。菩提心を捨てずして、常に一切の佛を念ず、是を智業と爲す。一切諸の善知識に親近して恭敬し供養し、心に懈怠無し、是を智業と爲す。法を樂ひ義を樂ひ、多く聞きて厭くこと無く、專ら正法を求めて、邪念を遠離し、正念を修習す、是を智業と爲す。一切の衆生に於て我の心を起さず、一切の菩薩に於て如來の想を起し、菩薩を愛樂すること、猶ほ己が身の如くし、正法を愛重すること、己が命を惜むが如くし、如來を愛敬すること己が目を護るが如くし、戒を持つ者に於ては諸佛の想を生ず、是を智業と爲す。身口意の諸の不善の業を離れ、清淨の身口意業を修行し、諸の賢聖を歎じ菩提に隨順す、是を智業と爲す。緣起に違はずして諸の邪見を離れ、癡暗を除滅して一切の法を照す、是を智業と爲す。十囘向に於て慈母の想を起し、諸の波羅蜜に於て慈父の想を起し、巧方便に於て菩提の想を起す、是を智業と爲す。布施、淨戒、多聞に於て、專ら止觀と、功德と、智慧とを求めて、心に疲厭無し、是を智業と爲す。若し業にして諸佛に讃められ、能く衆魔を降

【七】既に障惑を識りて、其を増長せしめず、情を制して理に從ひ、法を敬重する行を智業と名づく、卽ち對治行を顯はすなり。

し、煩惱、諸纏、障礙を滅除して衆生を敎化し、智律儀に順ひて正法を攝取し、佛刹を嚴淨にし、正しく通明に向ふ、是を智業と爲す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の智業と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の業に安住せば、則ち一切諸佛の出生する巧妙の方便、無上の智業を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の（八）魔に攝持せらるること有り。何等をか十と爲す。所謂る、懈怠の心は魔に攝持せらる。佛の正法を捨つれば魔に攝持せらる。貪り求めて厭くこと無ければ魔に攝持せらる。專ら自度を念へば魔に攝持せらる。大願を發さざれば魔に攝持せらる。煩惱を遠離して常に寂靜を樂はば魔に攝持せらる。生死の瀨を斷ぜば魔に攝持せらる。菩薩の行を捨つれば魔に攝持せらる。一切衆生を敎化し、成就する心を捨つれば魔に攝持せらる。正法の中に於て疑惑の心を生じ、佛法を誹謗すれば魔に攝持せらる。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の魔に攝持せらると爲す。應に速かに遠離すべし。

若し菩薩摩訶薩、能く此の魔に攝持せらるることを棄捨すれば、則ち一切諸佛の十種の攝持を得ん。何等をか十と爲す。所謂る、佛の攝持の故に、初めて菩提心を發す。佛の攝持の故に、常に生生に於て、未だ曾て菩提の心を忘失せず。佛の攝持の故に、一切の魔事を覺りて、能く悉く遠離す。佛の攝持の故に、六波羅蜜を聞きて、說の如く修行す。佛の攝持の故に、生死の苦を知りて、而も厭惡せ

【八】次の三十句は加持行を辨ず。內行理に乖くに由りて、外魔侵入の便を得るを攝持と名づく、或は又行理に乖けば卽ち是れ魔の攝なり。

す。佛の攝持の故に、甚深の法を觀じて、解脫の果を得。佛の攝持の故に、衆生の爲めに、聲聞緣覺の解脫を說きて、而も彼の乘を樂はず。佛の攝持の故に、無爲の法を觀じて、心に樂ひ住せず、有爲の法に於て二相を生ぜず。佛の攝持の故に、不相續をして、寂滅の相續を得しむ。佛の攝持の故に、一切智の自在を得て、而も衆生種性の所行を捨てず。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の佛の攝持と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の持に安住せば、則ち一切諸佛の十力の所持を得ん。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の法攝持有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切の法、無常なれば法に攝持せらる。一切の行、苦なれば法に攝持せらる。一切の法、無我なれば法に攝持せらる。寂滅涅槃なれば法に攝持せらる。法は緣より起る、緣無ければ則ち起らざるは、法に攝持せらる。正しく思惟せざるが故に、無明、行、乃至老死を起し、不正の思惟滅するが故に、則ち無明滅す、無明滅するが故に、乃至老死滅するは、法に攝持せらる。三解脫門は聲聞乘を出生し、決定無諍の法は緣覺乘を出生するは、法に攝持せらる。六波羅蜜、四攝法は大乘を出生するは、法に攝持せらる。一切の刹、一切の法、一切の衆生、一切の世間は是れ佛の境界なりと知れば、法に攝持せらる。一切の念を斷じ、一切の取を捨て、過去未來を離れ、涅槃に隨順すれば、法に攝持せらる。佛子、是を菩薩摩訶薩の、十種の法攝持と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の持に安住せば、則ち一切諸佛の無上なる法持を得ん。

【九】佛子よ、菩薩摩訶薩【一〇】兜率天に住して十種の事業有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩摩訶薩は欲界の諸天の爲めに、離欲の法を說き、「縱逸自在なるは皆悉く無常なり、一切の快樂は皆悉く苦惱なり」と、彼の諸の天子を勸發し開導して、菩提心を發さしむ。是は爲兜率天に住する第一の所行の事業なり。菩薩摩訶薩は色界の諸天の爲めに、諸禪の解脫三昧の、相續して起ることを說き。彼の諸禪の支に味著有る者は、味に因りて身見・邪見・無明・煩惱を起すをもつて、爲めに實習を說き。一切の妙色に於て顚倒の心を起し、妄想して淨を取るものには爲めに、不淨を說き、無常を觀察し、彼の諸天子を勸發し開導して菩提心を發さしむ。是は爲兜率天に住する第二の所行の事業なり。菩薩摩訶薩は、兜率天に住して三昧正受し、光明莊嚴と名け、自身の中に於て大光明を放ち、普く一切の三千大千世界を照し、其の所應に隨ひ、種種の音聲を以て爲めに法を說く。彼の諸の衆生說法を聞き已りて、皆大いに歡喜し、恭敬の心を起し、命終の後兜率天に生る。復た爲めに法を說きて、皆悉く菩提の心を發さしむ。是は爲兜率天に住する第三の所行の事業なり。菩薩摩訶薩は、無礙の淨眼を以て、普く十方の一切兜率天の菩薩摩訶薩を觀、彼の諸の菩薩も亦此の菩薩摩訶薩を見る。各相見し已りて、彼の菩薩の爲めに、廣く正法を說く。謂ゆる、神を母胎に降して世間に出生し、家を捨てて道を求め、道場に往詣し、大莊嚴を以て自ら莊嚴し、過去の

【九】二に、次の百九十門は果用圓滿行を明かす。多くは八相化現に就て佛の妙用を顯はす、中に六段あり。
【一〇】初の二十門は在天の行を明かす。

所行を發起し、過去の行を憶ひて、功徳を成就し、此の座を離れずして、是の如き等の一切の諸事を現ず。是は爲兜率天に住する第四の所行の事業なり。菩薩摩訶薩は兜率天に住して、十方一切の兜率天の菩薩は此の菩薩摩訶薩を見て、恭敬し供養し禮拜せんと欲するが故に、皆此に來詣す。爾の時に菩薩摩訶薩は、彼の諸の菩薩をして皆悉く歡喜し、其の願を滿せしめんと欲するが故に、大法門を説き。彼の菩薩の所住の地の、所行・所斷・所修・所證に隨ひて、具足して廣く説く。彼の諸の菩薩は説法を聞き已りて、皆大いに歡喜し、各本刹の住する所の宮殿に還る。是は爲兜率天に住する第五の所行の事業なり。菩薩摩訶薩は、兜率天に住して、正法を講説せんとす。時に欲界の主なる天魔波旬は眷屬に圍繞せられて、菩薩の所に詣り、説法を壞亂す。爾の時に菩薩、金剛智の所攝なる般若波羅蜜の巧妙方便深入智門に住して、甘露の法を説き、佛の神力を承けて如來の法を説き、皆悉く彼の諸魔の衆を降伏せり。時に彼の魔衆、菩薩の是の如きの自在神力を見、又説法を聞きて、皆阿耨多羅三藐三菩提の心を發す。是は爲兜率天に住する第六の所行の事業なり。菩薩摩訶薩は、兜率天に住して、欲界の天子は苦を知らざるが故に、聞法を樂はざることを知る。爾の時に菩薩摩訶薩は、大音聲を放ちて諸の天子に告げたまはく、「今日菩薩摩訶薩は内眷屬を出だす、若し見んと欲する者は、應に速かに此に詣るべし」と。是の音を聞き已りて無量億那由他の天子は、悉く彼に往詣せり。爾の時に菩薩摩訶薩は、普く宮内の一切の眷屬を現じたまふ。彼の諸の天子は未だ曾て見聞せざりき。見已り

て皆大いに歡喜せり。此の菩薩の眷屬は音樂の中より、是の如きの聲を出だして、之に告げて言はく「諸の天子よ、一切の衆行は皆悉く無常なり、一切の衆行は皆悉く大苦なり、一切の諸法は皆悉く無我なり、寂滅涅槃なり」と。又復た告げて言はく、「汝等皆應に菩薩の行を修し、菩提を究竟して一切智を具ふべし」と。時に諸の天子、是の音を聞き已りて、心大いに恐怖し、一向に正しく無上菩提を求めぬ。是は爲兜率天に住する第七の所行の事業なり。菩薩摩訶薩は兜率天に住し、兜率天の所坐の處を捨てずして、悉く能く一切の佛の所に往詣し、諸の如來を見たてまつり、恭敬し、禮拜し、供養して法を聽けり。爾の時に諸佛は菩薩の爲めに甘露の灌頂受記の法と、一切の諸明と、菩薩の行地とを說き、菩薩をして一念相應の慧を以て、一切枝、一切種を具足して深く一切智に入らしめんと欲す。是は爲兜率天に住する第八の所行の事業なり。菩薩摩訶薩、兜率天に住し、法界虛空界に等しき供養を以て、一切世界の諸佛を恭敬し供養せり。此の供養を見し時、無量無邊の衆生は、菩提心を發せり。是は爲兜率天に住する第九の所行の事業なり。菩薩摩訶薩、兜率天に住して無量無邊の法門を出生し、一切世界の中の種種の色、種種の形、種種の威儀、種種の方便を示現し、其の所應に隨ひて爲めに法を說けり。一切衆生をして悉く歡喜せしめんと欲するが故なり。是は爲兜率天に住する第十の所行の事業なり。佛子、是を菩薩摩訶薩の兜率天に住する十種の所行の事業と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の業を具足せば則ち能く人閒に下生せん。

佛子よ、菩薩摩訶薩、兜率天に於て命終らんとする時に臨んで、十種の示現事有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩は兜率天に於て、命終の時に臨み、足下の相輪に於て大光明を放ち、安樂莊嚴と名け、普く三千大千世界を照す。一切の諸難惡道の衆生、斯の光に觸るる者は一切の苦を滅して皆安樂なるを得。爾の時に衆生は皆是の念を作さく、「今日忽ちに奇特有り、大人世に出現したまはん」と。是は爲第一の示現する所の事なり。菩薩摩訶薩、兜率天に於て命終の時に臨み、眉間の白毫相の光を放つ、名けて覺悟と曰ひ、普く三千大千世界を照し、彼の宿世の同行の菩薩摩訶薩の身に觸る。觸れ已りて咸是の念を作さく、「彼の菩薩摩訶薩は、兜率天に於て今將に命終らんとす」と、時に諸の菩薩は、卽ち無量無邊の供養の具を化作し、疾かに彼の菩薩摩訶薩の所に往詣せり。是は爲第二の示現する所の事なり。菩薩摩訶薩は命終の時に臨み、右掌の中に於て大光明を出だし、淨境界と名け、悉く能く三千大千世界を嚴淨す。此の世界の中に、若し無漏の諸の辟支佛有りて、斯の光を覺せん者は、卽ち壽命を捨てん。若し覺せざらん者は、光明の力の故に、他方の餘の世界の中に徙し置かん。一切の諸魔、及び衆の外道と、有見の衆生とは悉く皆他方の世界に徙し置かん。如來の住持する所化の衆生をば除く。是は爲第三の示現する所の事なり。菩薩摩訶薩は其の兩膝より大光明を放つ、名けて離垢淸淨莊嚴と曰ひ、普く最下の諸天の宮殿を照し、上は淨居の諸天の宮殿に至り明了ならざる無し。時に諸の天子は、咸是の念を作さく、「今此の菩薩摩訶薩は、兜率天に於て將に壽

命を捨てんとす」と。時に諸の天子は、疾かに供具・香華・瓔珞・塗香・末香・衣蓋・幢旛、及び諸の音樂を辨じて、菩薩の所に詣り、恭敬し供養し、「我等は咸く皆隨侍し、守護して、此の命終より、乃し大般涅槃を示現するに至らん」と。是は爲第四の示現する所の事なり。菩薩摩訶薩は兜率天に於て命終の時に臨み、其の心中より大光明を放つ、名けて金剛淨妙莊嚴と曰ひ、普く一切世界の金剛力士を照す。爾の時に百億の金剛力士は、咸是の念を作さく、「此は是れ菩薩摩訶薩、兜率天に於て將に命終らんと欲するが故に、此の相を以て我等に示現す、我等は咸當に隨侍し守護して、乃し大般涅槃を示現するに至るべし」と。是は爲第五の示現する所の事なり。菩薩摩訶薩は兜率天に於て命終の時に臨み、一切毛孔より大光明を放つ、名けて分別一切衆生と曰ひ、普く三千大千世界を照し、徧く一切諸の菩薩の身に觸る。觸れ已りて復た一切の諸天、世人に觸る。時に諸の菩薩は咸是の念を作さく、「我等は當に彼に往詣して、如來を恭敬し供養し、並に復た彼の諸の衆生を教化すべし」と。是は爲第六の示現する所の事なり。菩薩摩訶薩は兜率天に於て、命終の時に臨み、摩尼寶藏の正法堂の中に於て、大光明を放ち、善調伏と名け、彼の菩薩の降神する所の處に隨ひて、普く王宮を照せり。彼の諸の菩薩は、各是の念を作さく、「此の菩薩の所生の處に隨はん、若くは其の家に於て、若くは聚落に於て、若くは城邑に於て、若くは閻浮提の内の受生の處に、我當に彼に生るべし。諸の衆生を教化せんと欲するが爲めの故に」と。是は爲第七の示現する所の事なり。菩薩摩訶薩は、兜

率天に於て命終の時に臨み、天の樓閣の中より大光明を放ち、淨莊嚴一切宮殿と名く。斯の光明を放ちて所生の母を照す。照し已りて彼の菩薩の母は安隱快樂となり、一切の功德を具足し成就し、其の母の身内には自然の樓閣七寶をもつて莊嚴せり。菩薩の身を安處せんと欲するが爲めの故なり。是は爲第八の示現する所の事なり。菩薩摩訶薩は、兜率天に於て命終の時に臨み、足下より光明を放ち、名けて安住と曰ふ。若し諸の天子及び諸の梵天にして其の命將に終らんとするも、斯の光を蒙るが故に、皆住壽することを得て、菩薩を供養し、此の命終より乃し大般涅槃を示現するに至る。是は爲第九の示現する所の事なり。菩薩摩訶薩は、兜率天に於て其の小相より大光明を放ち、嚴淨日眼と名け、菩薩の種種の諸業を示現す。時に人天有りて、或は菩薩兜率天に在るを見、或は命終るを見、或は處胎を見、或は出生を見、或は家を捨つるを見、或は成佛を見、或は轉法輪を見、或は如來の大般涅槃を見たてまつる。是は爲第十の示現する所の事なり。佛子、菩薩摩訶薩は、或は坐する處に於て、或は樓閣に於て、或は宮殿に於て、是の如き等の百萬阿僧祇の光を放つ。斯の光を放つ時に、無量なる諸の菩薩の業を顯現す。佛子、菩薩摩訶薩は是の如き等の一切淨業を具足するが故に、兜率天より世間に下生す。

【二】次の二十門は入胎住胎行を明かす。

(二)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の事有るが故に、神を母胎に降す。何等をか十と爲す。所謂る、小心の衆生を教化し成就せんが爲めの故に、處胎を示現し、小心の衆生をして是の如きの念を作さしめ

ず、菩薩は自然に化生して、善根智慧は行に從つて得ず」と。是は爲第一の事にして處胎を示現す。又復た父母諸親をして、宿世に同じく行ひたる善根を長養せしめんと欲するが故なり。是は爲第二の事にして處胎を示現す。菩薩摩訶薩は、初め受胎の時に、愚癡を遠離して、正念に思惟し、亂想を除滅して念慧を成就し、心未だ曾て亂れず。是は爲第三の事にして處胎を示現す。菩薩摩訶薩は母胎に處する時、常に法を講說し。十方の世界の諸の菩薩衆、釋梵、四天王來りて菩薩に詣づ。菩薩卽時に廣く爲めに法を說き、菩薩の自在神力を示現す。菩薩摩訶薩は、無量無邊の諸の智慧を具足し、成就するが故に、是の如き等の奇特の事を現ず。是は爲第四の事にして處胎を示現す。菩薩摩訶薩は、母胎の中に於て衆生を化せんが爲めの故に、彼の衆生の本願を滿せしめんが故に、是は爲第五の事にして處胎を示現す。菩薩摩訶薩は人中に於て成道し、應に人の法を具へて受生すべきが故に、是は爲第六の事にして處胎を示現す。菩薩摩訶薩は母胎の中に於て、三千大千世界の衆生、普く菩薩の母胎に處するを見るに、明鏡の中に其の面像を見るが如し。爾の時に大心の諸天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人・非人等は、悉く菩薩に詣で〻恭敬し供養す。是は爲第七の事にして處胎を示現す。菩薩摩訶薩は母胎に處する時、餘方の世界の一生補處にして、母胎に在る者は、悉く共に菩薩の無盡智慧の藏を講說す。是は爲第八の事にして處胎を示現す。菩薩摩訶薩は初め受胎の時、離垢三昧を正受し、一切の兜率天宮の一切の供養莊嚴の具は、悉く母胎に入る。三昧力の故に、其の母身を

して諸の苦患無からしむ。是は爲第九の事にして處胎を示現す。佛子、菩薩摩訶薩は母胎に處する時、無量無邊の功德藏を具足し成就するが故に、十方世界の一切の供具は、悉く以て一切の如來を供養したてまつる。彼の諸の如來は此の菩薩の爲めに、無量無邊の法界の法門を演說したまふ。是は爲第十の事にして處胎を示現す。佛子、若し菩薩摩訶薩、此の法門に住せば、則ち能く菩薩の十種の微細趣を示現せん。

何等をか十と爲す。所謂る、菩薩摩訶薩は、母胎に處する時に、初發菩提の心より、乃し甘露の灌頂授記の地に至るまでを示現す。母胎の中に在りて、又復た兜率陀天に處することを現ず。母胎の中に在りて、出生を示現す。母胎の中に在りて、童子地を示現す。母胎の中に在りて、宮殿の色味の間に在ることを現ず。母胎の中に在りて出家を示現す。母胎の中に在りて苦行を行じ、道場に往詣し、等正覺を成ずることを現ず。母胎の中に在りて、轉法輪を現ず。母胎の中に在りて、大般涅槃を示現す。母胎の中に在りて、微細の諸法と、一切の菩薩行と、一切如來の自在神力と、無量の行門とを示現す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の微細趣と爲す。若し菩薩摩訶薩、此の趣に安住せば、則ち一切諸佛、無上なる智慧の大微細趣を得ん。

【三】次には出胎行を明かす。

（三）佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の生有り。何等をか十と爲す。所謂る、愚癡を離れたる生。大光明網を放ちて、普く三千大千世界を照す生。一切の未來世の最後身を除滅する生。不生の生。三界の

諸劫は悉く幻の如しと知る生。十方の世界に於て、普く身を現ずる生。一切如來の光明を放ちて普く照し、一切衆生を覺悟する生。大智自在にして、諸禪三昧の身を正受する生なり。佛子、菩薩の生るる時、一切の佛刹は六種に震動し、一切の衆生は皆解脱を得、一切の惡道は皆悉く除滅し、一切諸魔の光明を映蔽して悉く聚墨の如くして、無量の菩薩は普く來りて雲のごとく集まる。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の生と爲す。衆生の類を化度せんと欲するが爲めの故に、是の生を示現す。◎

(三)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の大莊嚴有りて自ら莊嚴す。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩摩訶薩は、是の如きの念を作さく、「一切の世間は、五欲の泥に沒す、我一人を除きては彼を濟ふもの無し」と。是の如く知るが故に、大莊嚴を發して自ら莊嚴す。◎「煩惱愚癡は衆生の眼を覆ひて、皆悉く盲瞽なり、我、今、智慧自在なれば、當に普く衆生の慧眼を開導し、悉く清淨ならしむべし」とて、大莊嚴を發して自ら莊嚴す。◎「我今此の假名の身に因るが故に、如來の無上清淨の法身を得て、三世に充滿せん」とて、大莊嚴を發して自ら莊嚴す。◎菩薩摩訶薩は無礙の淨眼を以て、悉く徧く十方一切の諸の梵天の處、乃至大自在天の處を觀察するに、是等の衆生は、皆自ら謂へらく、「我自在の智慧の力を成就せり」と。菩薩は悉く能く彼の我慢の心を摧滅せんとして、大莊嚴を發して自ら莊嚴す。◎菩薩摩訶薩は、諸の衆生過去世に於て諸の善根を

【三】次の四十門は在家同俗の行を明かす。

種ゑ、今退沒せんと欲するを見て、「我今還つて彼の諸の衆生をして、不退地に住せしめん」とて大莊嚴を發して自ら莊嚴す。衆生をして、少しの善根を種ゑて、無量の果を得しめんと欲して、大莊嚴を發して自ら莊嚴す。佛の無量なる自在神力を見て、大莊嚴を發して自ら莊嚴す。過去の同行の菩薩は、餘事に染著して、正覺を成ぜざるを觀見して、大莊嚴を發して自ら莊嚴す。菩薩摩訶薩は、諸の天人の疲頓し厭倦して、正希望を退くを見て、大莊嚴を發して自ら莊嚴す。菩薩摩訶薩は、一切如來の光明に觸るるが爲めの故に、一切の大正希望を長養し、大莊嚴を發して自ら莊嚴す。佛子、是を菩薩摩訶薩の十種の大莊嚴と爲す。衆生を教化せんが爲めの故に、此の莊嚴を發して自ら莊嚴するなり。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の事有るが故に、七步を遊行す。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩の力を現ずるが故に、七步を遊行し。七寶を現ずるが故に、七步を遊行し。地神の願を滿せんが故に、七步を遊行し。三界を超出する相を現ぜんが故に、七步を遊行し。大象王、牛王、師子王の最勝なる行を現ぜんが故に、七步を遊行し。金剛地の相を現ぜんが故に、七步を遊行し。衆生に力を與へんと欲するが故に、七步を遊行し。七覺の寶相を現ぜんが故に、七步を遊行し。一切の佛法を具足し成就して、他に由りて悟らざるが故に、七步を遊行し。自ら我は世に於て最勝にして、倫匹無しと稱せんと欲するが故に、七步を遊行す。佛子、是は爲菩薩摩訶薩、十種の事の故に七步を遊行するなり。衆生を教化せんが故に是の示現を作すなり。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の事有るが故に、童子地を現ず。何等をか十と爲す。所謂る、書數、算計、刻印は方便して此の業を現せんが故に、童子地を現ず。乘象、馬車乘、弓射、諸の武藝を現せんが故に、童子地を現ず。一切世間の巧妙なる談論、諸の嬉戲を學ばんと欲するが故に、童子地を現ず。身口意の一切の惡業を離れんが故に、童子地を現ず。正しく般涅槃に向ひ、三昧を正受して、一切諸の世界に充滿せんことを現せんが故に、童子地を現ず。菩薩の力は、天・人・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・釋梵・四天王に過ぎたることを現せんが故に、童子地を現ず。殊妙の色は、一切の釋梵、四天王に出過することを現せんが故に、童子地を現ず。衆生をして五欲を遠離し、常に正法を樂はしめんと欲するが故に、童子地を現ず。正法を尊重し、一切世界の諸の如來を供養することを現せんが爲めの故に、童子地を現ず。常に正法を樂ひて、普く一切に現じ正法を受持せんが故に、童子地を現ず。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の十種の事の故に、童子地を現ずるなり。

佛子よ、菩薩摩訶薩、童子地を現じ已りて、十種の事有るが故に、中宮に處することを現ず。何等をか十と爲す。所謂る、同じく修行する者をして、善根を增長せしめんが故に、中宮に處することを現ず。菩薩の諸の善根を明かにせんと欲するが故に、中宮に處することを現ず。著樂する天人の爲めの故に、中宮に處することを現ず。五濁の世に於て、應に隨ひて化せんが故に、中宮に處することを現ず。深宮の內に於て三昧を正受し、菩薩の功德力を明さんと欲するが故に、中宮に處することを現

ず。宿世の同行の衆生をして、本願を滿せしめんと欲するが故に、中宮に處することを現ず。父母親屬をして、本願を滿せしめんと欲するが故に、中宮に處することを現ず。妓樂を以て妙法の音を出だし、一切の佛を供養せんと欲するが故に、中宮に處することを現ず。菩薩摩訶薩は其の宮內に於て、甚深の三昧に入り、等正覺を成じ、乃至大般涅槃を示現せんが故に、中宮に處することを現ず。隨順して法を守護せんが故に、中宮に處することを現ず。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の十種の事の故に中宮に處することを現ずるなり。此の事を以ての故に、最後生の菩薩は、出家を示現す。◎

【一四】次の六十門は出家期道の行を明かす。

(二四)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の事有るが故に出家を示現す。何等をか十と爲す。所謂る、衆生をして、家を厭離せしめんと欲するが故に、出家を示現す。家に著する衆生の爲めの故に、出家を示現す。諸の賢聖の道に隨順することを現せんと欲するが故に、出家を示現す。出家の法を宣揚し、讃歎せんと欲するが故に、出家を示現す。衆生をして二見を離れしめんと欲するが故に、出家を示現す。衆生をして欲樂我樂を離れしめんと欲するが故に、出家を示現す。三界を出づる相を現ぜんと欲するが故に、出家を示現す。自在にして他に由りて悟らざることを顯はさんと欲するが故に、出家を示現す。如來の十力、四無畏に隨順せんと欲するが故に、出家を示現す。一切の最後生の菩薩は、法應に爾るべきが故に、出家を示現す。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の十種の事の故に、出家を示現す。衆生を化せんが爲めの故なり。

佛子よ、菩薩摩訶薩は十種の事の爲めの故に、苦行を示現す。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩摩訶薩は、小心の衆生を教化し成就せんと欲するが故に、苦行を示現す。邪見に著する衆生を拔かんが爲めの故に、苦行を示現す。業報を無する邪見の衆生の爲めに、業報を知らしめんと欲するが故に、苦行を示現す。五濁の世界の衆生に隨順せんが爲めの故に、苦行を示現す。懈怠の衆生の爲めの故に、苦行を示現す。衆生をして法を樂ひ求めしめんと欲するが故に、苦行を示現す。欲樂我樂に著する衆生の爲めの故に、苦行を示現す。菩薩の殊勝の行を顯はさんが爲めの故に、苦行を示現す。未來の衆生をして精進を發さしめんと欲するが故に、苦行を示現す。諸天世人の諸根未だ熟せざるは、時を待ちて熟せしめんが故に、苦行を示現す。佛子、是は爲菩薩摩訶薩、十種の事の爲めの故に、苦行を示現するなり。

# 卷の第四十四

## 離世間品第三十三の八

『佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の事有るが故に、道場に往詣す。何等をか十と爲す。所謂る、普く一切の世界を照さんと欲するが故に。道場に往詣す。一切の世界を震動せんが爲めの故に、道場に往詣す。一切の世界に於て、普く身を現せんと欲するが故に、道場に往詣す。一切の菩薩、一切の衆生、一切の同行を覺悟せんが爲めの故に、道場に往詣す。道場莊嚴の事を示現せんが爲めの故に、道場に往詣す。應に化を受くべきに隨ひて、莊嚴せる菩提樹を示現せんが爲めの故に、道場に往詣す。十方世界の一切の佛を對見したてまつらんと欲するが故に、道場に往詣す。擧足下足に於て、念念に悉く無量の正受、諸の三昧門に入り、等正覺を成せんと欲するが故に、道場に往詣す。一切の天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・乃至、釋梵・四天王等の、恭敬供養を受け、各相ひ知らざらしめんが故に、道場に往詣す。無礙の智眼をもつて、普く一切の世界を觀じ、一切の佛を正念し、一切の刹に於て、成佛を現せんと欲するが故に、道場に往詣す。佛子。是は爲菩薩摩訶薩、十種の事の故に、道場に往詣す。衆生を教化せんが爲めの故なり。

佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の事有るが故に、道場に坐す。何等をか十と爲す。所謂る、種種に一切の刹を震動せんが故に、道場に坐す。普く一切諸の世界を照さんが故に、道場に坐す。一切諸の惡道を除滅せんが故に、道場に坐す。一切の刹を變じて金剛と爲さんが故に、道場に坐す。一切の佛の師子吼するを觀んが爲に、道場に坐す。一切の虛妄の心を離れ、淨きこと虛空の如くならんが故に、道場に坐す。淨身の威儀を示現し、隨順せんが故に、道場に坐す。圓滿なる金剛三昧に隨順せんが故に、道場に坐す。一切の佛の淸淨なる坐處を受けんが故に、道場に坐す。自の善根力をもつて、悉く能く一切の衆生を受持せんが故に、道場に坐す。佛子、是は爲菩薩摩訶薩、十種の事の故に、道場に坐するなり。

佛子よ、菩薩摩訶薩、道場に坐する時、十種の奇特未曾有の法有り。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩摩訶薩は道場に坐する時、十方世界の一切諸佛は、此の菩薩を觀て咸右の手を擧げて讃めて言はく、「善い哉、善い哉、無上の導師」と、是れ一の奇特未曾有の法なり。菩薩摩訶薩、道場に坐する時、一切の如來應供等正覺は、皆悉く護持したまふ。是れ二の奇特未曾有の法なり。菩薩摩訶薩道場に坐する時、宿世の同行の菩薩は、悉く來りて雲のごとく集り、種種莊嚴の具を以て恭敬し供養す、是れ三の奇特未曾有の法なり。菩薩摩訶薩、道場に坐する時、十方一切の世界の草木叢林のごとき非衆生の類も、皆悉く身を曲めて道場に歸向せり、是れ四の奇特未曾有の法なり。菩薩摩訶薩、

道場に坐する時、三昧を正受するを、善知法界と名く、此の三昧を得るが故に、菩薩の一切の諸行を究竟す、是れ五の奇特未曾有の法なり。菩薩摩訶薩、道場に坐する時、陀羅尼を得、名けて離垢勝妙海藏と曰ふ、菩薩摩訶薩は、此の陀羅尼に住するが故に、一切の諸佛は甘露の法を降らして、此の菩薩に雨ぐ、是れ六の奇特未曾有の法なり。菩薩摩訶薩、道場に坐する時、神通力を以て一切の諸佛を恭敬し供養す、是れ七の奇特未曾有の法なり。菩薩摩訶薩、道場に坐する時、無上智慧の法門に入り、善巧の方便をもつて、悉く一切衆生の諸根を知る、是れ八の奇特未曾有の法なり。菩薩摩訶薩、道場に坐する時、三昧を正受す、名けて善覺と曰ふ、菩薩摩訶薩、此の定に入り已りて、淨法身を得、虚空界の一切の三世に滿つ、是れ九の奇特未曾有の法なり。菩薩摩訶薩、道場に坐する時、清淨の身業は三世の無礙の智慧を攝取して、普く一切を照す、是れ十の奇特未曾有の法なり。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の道場に坐する時、十種の奇特未曾有の法を得るなり。

佛子よ、菩薩摩訶薩、道場に坐する時、十種の義有るが故に、降魔を示現す。何等をか十と爲す。所謂る、五濁惡世の衆生は、相ひ征伐せんことを樂ふ、菩薩の功徳力を顯はさんと欲するが故に、降魔を示現す。悉く天人の諸の疑惑を滅せんが故に、降魔を示現す。魔の眷屬を化度せんと欲するが爲めの故に、降魔を示現す。諸天世人の征伐を樂ふ者は、集めて化を受けしめんが故に、降魔を示現す。天人を集め已りて、菩薩の功徳力の破壞す可からざることを顯現して、衆生を調伏せんが故に。

降魔を示現す。一切衆生の力を發起せんが故に、降魔を示現す。未來の一切衆生を哀愍するが故に、降魔を示現す。乃至道場に魔事有ることを現じて、悉く能く衆魔の境を超出せんが故に、降魔を示現す。煩惱の力は勢羸劣にして、大悲善根の勢の强盛なることを顯現せんが故に、降魔を示現す。五濁世の諸の衆生に順ふが故に、降魔を示現す。佛子、是は爲菩薩摩訶薩、十種の義の故に、道場に坐する時降魔を示現するなり。◎

(二)佛子よ、菩薩摩訶薩に十種の覺如來力有り。何等をか十と爲す。所謂る、一切衆魔の事業を超出して、煩惱を除滅し、一切の菩薩の所行を究竟じて、如來力を覺る。一切の菩薩の三昧に於て自在を得、如來力を覺る。一切の菩薩の諸禪三昧を具足し成就して、如來力を覺る。一切諸の白淨法を滿足して、如來力を覺る。善法を分別し、世間の法を調伏して、如來力を覺る。淨法身を以て一切の刹に滿ちて、如來力を覺る。出だす所の淨音は、悉く一切衆生の心と等しくして、如來力を覺る。悉く能く一切の佛法を受持して、如來力を覺る。三世の如來の身口意と等しきことを得て、一念の中に於て三世の法を知りて、如來力を覺る。善覺三昧を得て、佛の十力、所謂る、是處非處の智、乃至、漏盡智を具へて、如來力を覺る。佛子、是は爲菩薩摩訶薩の十種の如來力を覺るなり。菩薩摩訶薩は此の力を具ふるが故に、如來と名くることを得。

【二】次の四十門は成佛攝化の行を明かす。

佛子よ、是の如くして如來應供等正覺を成ずることを得已りて、能く十行の清淨なる法輪を轉ず。何等をか十と爲す。一には清淨なる四無所畏を具足す。二には四辯の淨妙なる音聲を出生す。三には明かに四諦を了る。四には諸佛の無礙の法門に隨順す。五には清淨なる等心をもつて、悉く能く普く一切の衆生を覆ふ。六には說く所虛しからず、決定して衆生の苦際を濟度す。七には宿世の大悲に持せらる。八には妙法の音を以て世界に充滿し、一切の衆生聞知せざる無し。九には阿僧祇劫に常に正法を說きて、未だ曾て暫くも息まず。十には諸の根力、覺意、解脫、諸禪三昧を轉じて、相續して絕えず。佛子、如來應供等正覺は是の如き十行等の無量行の法輪を轉じたまふ。

佛子よ、如來應供等正覺の清淨なる法輪は、十種の白淨法に因るが故に、轉じて衆生の心に入り、無相を出生して決定して虛しからず。何等をか十と爲す。所謂る、過去の願力の故に。大悲の所持の故に。衆生を捨てざるが故に。智慧自在にして其の所應に隨ひて爲めに法を說くが故に。未だ曾て時を失はざるが故に。彼の法器に隨ひて增減せざるが故に。決定して三世の智を了知するが故に。身行最勝なるが故に。口行に虛無きが故に。智行は音聲に隨ひて悉く覺悟するが故に。佛子、是は爲十種の白淨法に因るが故に、能く法輪を轉じて、衆生の心に入り、無相を出生して決定して虛しからざるなり。

佛子よ、如來應供等正覺は、佛事を究竟じ已りて、十種の義有りて、大般涅槃を示現す。何等をか

十と爲す。所謂る、一切の行は悉く無常なることを明さんが故に。一切の有爲は安隱に非ざることを明さんが故に。般涅槃は最安隱に趣くことを明さんが故に。般涅般は一切諸の怖畏を遠離することを明さんが故に。諸の天人は色身に樂著するを以て、色身は無常なり、是れ磨滅の法なりと明して、常住の淨法身を求めしめんが故に。無常の力強くして、轉ず可からざることを明さんが故に。有爲の法は愛に隨はず、行自在ならざることを明さんが故に。三界の法は悉く杯器の如く、堅牢無きことを明さんが故に。般涅槃は最も爲眞實にして、壞す可からざることを明さんが故に。般涅槃は生死を遠離して、起滅に非ざることを明さんが故なり。佛子、此十種の義を以ての故に、如來應供等正覺は、大般涅槃を示現したまふ。佛子、一切の如來應供等正覺の法は、皆是の如く所願已に成じ、已に法輪を轉じて應に度すべき所の者は、皆悉く已に度し、已に菩薩の與めに尊き記號を授け、一切の佛事は皆悉く究竟し、不變に安住して、大般涅槃を示現したまふ。佛子、是は爲如來應供等正覺、十義を以ての故に大般涅槃を示現したまふなり。◎

【二】以上本會の正說二千の行法、六位の差別を辨じ竟る、次には結して修學を勸む。

㈢佛子よ、是を菩薩摩訶薩の清淨なる勝行の大妙法門と爲す。諸佛の說きたまふ所の無量の深義は能く一切諸の智有る者をして、皆悉く歡喜せしめ、一切の菩薩の大願を究竟し、所行を斷せざらしむ。佛子よ、若し衆生有りて、此經を聞かん者は、信心清淨にして誹謗を起さず、說の如く修行せば

彼の諸の衆生は、速かに阿耨多羅三藐三菩提を成ぜん。何を以ての故に、菩薩摩訶薩は說の如く行ずるが故なり。佛子よ、是の故に菩薩摩訶薩は應に說の如く行じ、一心に敬信して此の經を受持すべし。佛子よ、此の經は一切の菩薩の諸行の功德、深妙の義華を出生して深く智慧に入り、一切の法門を攝して、世間・聲聞・緣覺を遠離し、一切衆生の共にせざる所の法にして、悉く能く普く一切の法門を照し、善根を長養して衆生を度脫す。是の故に、菩薩摩訶薩は、應に一心に聽受して、此の經を護持すべし。若し菩薩摩訶薩、此の經を受持せば、則ち能く一切の諸願を出生し、少しの方便を以て、疾かに阿耨多羅三藐三菩提を得ん。』

【三】後に表瑞と證成とを叙す。

〔三〕此の「一切の菩薩の諸行の功德、深妙の義華を出生して、深く智慧に入り、一切の法門を攝して、世間・聲聞・緣覺を遠離し、一切衆生の共にせざる所の法にして、悉く能く普く一切の法門を照し、善根を長養して衆生を度脫する」經を說く時に、佛の神力の故に、此の經は法是の如くなるが故に、十方無量の阿僧祇の世界は六種に震動し、大光普く照せり。爾の時に十方の諸佛、面り普賢菩薩を觀し、歡喜して讃めて言はく、

『善い哉、佛子よ、乃ち能く此の「一切菩薩の諸行功德、深妙の義華を出生して、深く智慧に入り、一切の法門を攝して、世間・聲聞・緣覺を遠離し、一切衆生の共にせざる所の法にして、悉く能く普く一切の法門を照し、善根を長養して衆生を度脫する」經を說けり。佛子よ、汝已に善く此の法を學び、

善く此の法を知り、快く此の法を說けり。我等諸佛も亦此の法を說き、一切の諸佛も亦復た是の如し。是の故に、佛子よ、我等は悉く共に此の經を守護して、未來世の菩薩の未だ聞かざる者をして聞かしめん。』

爾の時に普賢菩薩、佛の神力を承けて、十方一切の大衆と、一切の法界とを觀察し、偈を以て頌して曰はく

【四】『無量無數劫に、諸の苦行を勤修して、無量の佛を供養したてまつりて、此の眞の佛子を生ず、
無量の衆を化度して、無上の道に安立する、菩薩の無等の行を、我說かん善く諦かに聽け。
無量の佛を供養するも、皆悉く染著無く、一切の衆を化度するも、衆生の想を起さず、
常に佛の功德を求めて、其の心に所依無し、彼の勝妙の行を說きて、衆をして悉く歡喜せしめん。
一切の魔を降伏し、三界の煩惱を滅して、已に聖の功德を具へ、童子地を示現す、
惡煩惱を滅し、其の心常に寂然として、無量の行を示現す、我彼の功德を說かん。
一切の惡を遠離して、究竟じて彼岸に到り、無量の衆生の中に、種種に變化を示現す、

【四】頌に二百三十二偈半あり、大に四段に分つ。第一、初め十六偈は德廣くして說き難きことを顯はす。

心の生住滅を知りて、一切の事を示現す、彼の妙功德を說き、衆をして悉く歡喜せしめん。

三有の衆生を見るに、無量の苦に逼迫せられ、生死に流轉し、煩惱の火熾んに燃ゆ、

彼をして解脫し、一向に菩提を求めしめんと欲し、略して彼の功德を說かん、一心に善く諦かに聽け。

施・戒・忍・精進・禪定自在を得、悲の方便を具足し、大慈をもつて衆生を度す、

無量無數劫に、悲喜捨を樂修す、我彼の功德を說かん、仁等は當に諦聽すべし。

枯稿せる無量の身は、常に正しく菩提を求め、其の壽命を惜まず、無上の道を究竟す、

常に衆生を利せんが爲めに、自の安樂を求めず、慈悲心の牟尼、我彼の勝行を說かん。

無量無數劫に、少分を說くとも盡きじ、虛空は度量す可く、海水は滴數ふ可くとも、

菩薩の功德の海は、譬喩を爲す可き無し、衆生を饒益せんが故に、略して其の少分を說かん。

(五)(六)衆生の善根を持して、自淨の法を長養し、憍慢の心を遠離し、法を求めて厭足無し、

【五】第二、次の百三十三偈半は略して行德差別の相を明かす。中に於て前の六十七頌は事に託して法を表し、以て行相の殊勝なることを顯はし、後の六十六頌半は行用の廣大を明かす。前の中に十五種の行相あり。

【六】初の八頌は法樹鳥獸行。

衆をして安止を得しめんとて、智慧の樹を長養す、菩薩の心は地の如く、一切の衆を饒益す、
柔輭なる慈心の根、無上なる大悲の莖、功德の葉、智の華、持戒を妙香と爲す、
如來の淨き慧光は、菩薩の華を開敷し、有爲の水に著せず、普く衆生を喜ばしむ、
直心を種子と爲し、慈悲を根芽と爲し、智慧方便を莖とし、五度を枝條と爲し、
禪を葉とし諸明を華とし、一切の智を果と爲し、法の樹の神力の鳥は、普く三世間を覆ふ、
眞實諦を足と爲し、白淨の法を身と爲し、正念を頸項と爲し、智の首、解脫の頂、
慈悲を明淨眼として、實義の幽谷を出づる、菩薩法師子は、一切の魔を調伏す。

【七】次の四頌は導迷治惑の行。
【八】次の四頌は法輪王の行。

(七)生死を曠野と爲し、煩惱は諸の惡道にして、邊見を賊難と爲し、癡盲正路に迷ふ、
菩薩大導師は、彼の迷冥の者を見て、其の正道を開示し、引いて安隱の處に至る、
貪恚諸の煩惱は、常に衆生を惱害し、無量の衆苦に患ひ、長夜に而も逼切す、
菩薩は彼の苦を見て、爲めに大悲の心を發し、具さに八萬四を說き、對治して之を濟度す。
(八)菩薩は法王と爲りて、正道をもつて衆生を化し、惡を遠ざけ衆善を修し、一向に菩提を求めしむ、

一切諸佛の所にて、自在智の記を受け、廣く賢聖に珍を施し、七覺の寶を具へしむ。
清淨の戒を轂と爲し、精進を以て輻と爲し、三昧正受の輞、三たび淨法輪を轉じ、
淸淨の心を盾と爲し、明利なる智慧の劒をもつて、諸の煩惱と、外道と衆の魔怨とを摧滅す。
(九)甚深の智慧の海に、正法の一味水あり、禪覺の寶充滿するも、一切能く知る莫し、
直心淨くして彌々廣く、一切智を潮と爲せる、菩薩の智慧の海は、演說すとも盡す可からず、
世間に高くして無上なる、彼に於て所著無く、禪明智慧の山は、堅正にして傾動せず、
若し親近する者有らば、疾かに彼の慧に同ずることを得、智の須彌頂に住して、普く一切世を觀ん。
(一〇)深心は金剛の如く、一切悉く堅固にして、三寶と一切智とに、信心壞す可からず、
一切の魔を降伏し、諸の煩惱を除滅して、無所畏に安住して、諸の群生を度脫す、
大慈の雲を興起して、普く一切を覆ひ、大悲の電を明曜して、雷のごとく法洪の音を震ひ、
四辯は法雨を澍ぎ、八正の甘露水は、煩惱の火を除滅して、一切の義に安住す。
(一一)白淨の法を城と爲し、智慧を牆壁と爲し、無上智の樓閣あり、慚愧を深塹と爲す、

【九】次の四頌は大海須彌の行。
【一〇】次の四頌は金剛法雨の行。
【一一】次の四頌半は法城金翅の行。

三空解脱の門あり、正念を防守と爲し、四道を正路と爲し、之に遊びて三界を出で、無上法の幢を建てて、一切の魔を摧滅す、

法身の金翅鳥は、四如意を足と爲し、慈悲の明淨眼ありて、一切智の樹に住す、

菩薩の金翅王は、生死大海の中に、天人の龍を搏撮して、涅槃の岸に安置す。

(二)淨戒圓滿の日は、清淨智の光明あり、神足を疾行と爲し、愛欲の水を消竭し、

長夜の衆生を覺し、根力の藥を長養す、菩薩の明淨の日は、一切照さざる無し、

圓滿なる法界の月は、衆生觀て厭くこと無く、二乘の、小智なる螢火の光を映蔽す、

菩薩清涼の月は、畢竟空に遊び、光を垂れて三界を照し、心法現せざる無し。

(三)自在なる諸の法王は、功德の色をもつて身を嚴り、方便淨智の眼有りて、勝妙の法に安住す、

相好莊嚴の身は、一切觀て厭くこと無く、彼の法自在の王は、法の如く衆生を治め、

欲煩惱を除滅して、三界を超出せしめ、常に樂ひ勤めて、慈悲喜捨の法を修習す、

菩薩の大梵王は、普く種種の身を現じて、(四)淨妙の音を演出し、三界に聞かざる無し。

【二】次の四頌は日月照臨の行。

【三】次の四頌は法王梵主の行。

【四】次の四頌は離過成德の行。

(一四) 一切の行を遠離して、境界常に淸淨に、不退の智を逮得して、法の自在を具足す、
永く二乘の道を離れて、諸佛に授記せられ、無上の乘に乘じて、一切智を究竟す、
心淨きこと虚空の如く、永く一切の有を離れ、世間の事を行じて、其の心に所依無し、
白淨の法を究竟し、亦衆生をして然らしめ。菩薩の慧は彌廣くして、淸淨なること虚空の如し。

(一五) 無量の方便地に、諸の群生を饒益し、淸涼なる慈悲の水をもつて、
熾なる煩惱を消滅す、
智慧の猛盛なる火は、煩惱習を燒き盡し、風のごとく馳せて十方に遊び、廣く諸の佛事を作す、
菩薩の如意寶は、衆の貧苦を除滅し、智慧は金剛の如く、諸の邪見を摧滅す、
無量の德をもつて莊嚴し、悉く衆生をして喜ばしめ、無上の行を究竟して、如來の處に安住す。

(一六) 菩薩の功德の華は、七覺に開敷せしめ、諸願を寶鬘と爲し、世間の頂を嚴飾す、
菩薩の淨戒の香は、諸の惡戒を遠離す、此の淨戒の香を以て、塗りて一切の衆に熏ず、
菩薩の無上の蓋は、普く諸の世間を覆ひ、智慧の幢を建立して、衆魔の幢を摧滅す、
菩薩の莊嚴の行、淨妙智慧の旛、慚愧功德の衣は、普く一切の衆を覆ふ。

【一五】次の四頌は四大珠寶の行。
【一六】次の四頌は華香幢蓋の行。

（二七）菩薩は無上の乘なり、之に乘じて三界を出づ、其の心善く調順して、安住すること寶象王のごとし、
菩薩は大龍王なり、自在力を具足して、普く甘露の法を降らし、諸の群生を澤潤す、
菩薩は甚だ値ひ難きこと、猶ほ優曇華のごとく、一切の魔を降伏し、諸の煩惱を除滅す、
佛の轉じたまふ所の法輪は、彼能く隨順して轉じ、慧の燈は衆の暗を除き、普く正道を見せしむ。

（二八）菩薩は功德の河なり、正道の流に隨順して、常に生死の橋と爲り、人を度して休息すること無し、
菩薩は正法の船なり、汎べて諸の願海に遊び、智慧悉く成滿して、人を度して彼岸に到らしむ、
菩薩は淨き園林なり、實の樂をもつて衆生を樂ましむ、正法は解脫の華、明淨の智は宮殿なり、
菩薩は雪山の頂のごとく、藥樹王を出生して、煩惱の病を除滅し、悉く一切のものを喜ばしむ。

（二九）菩薩は如來に等しく、諸の衆生を覺悟し、愚癡の暗を除滅して、等正覺を成ずることを得しむ、
最勝の從來したまふ所、菩薩も是の如くして來り、平等の智を逮得して、究竟じて彼岸に到る、

【二七】次の四頌は龍象希燈の行。
【二八】次の四頌は河船林藥の行。
【二九】次の六頌は等同佛果の行。

菩薩は大導師なり、諸の群生を教化し、自然に正覺を成じて、一切智の境界となる、
無量の力を具足して、一切能く壞る無く、無所畏に安住して、法を知り衆生を了る、
乃至色界の中の、所有る諸の衆生の、一切の語言音に、皆悉く能く隨順す、
色を過ぎて無色に至るも、彼の一切の事を現ず、一切諸の衆生は、之を說くとも盡すこと能はじ。

〔二〇〕菩薩は悉く、是の如き等の功德を成就して、性と非性とを解了し、所有に所有無し、
眞實の智を具足して、一切の縛を除滅し、一切智を究竟じて、其の心に著する所無し、
彼の甚深の行を說きて、衆をして悉く歡喜せしめ、一切の法は、皆悉く幻化の如しと了達す、
方便の悲を發起し、一切の佛に護持せられ、智の化門を出生して、普く無量の事を現ず、
仁等は當に、菩薩の諸の功德を諦聽すべし。

〔二一〕〔二二〕一身に邊際無く、普く無量の身を現じ、心に非ず心の境に非ずして、一切の衆に應現す、
一妙音を出だして、語言の法を究竟し、悉く衆生の類の、一切諸の言音を攝す、

【二〇】次の四頌半は障盡德圓の勝行。
【二一】次に行用の廣大を明かす、六十六頌半あり、分つて十と爲す。
【二二】初の六頌は三業深廣の行。

煩惱の身を遠離して、應に隨ひて身を示現し、無量の方便身は、一切の音をもつて法を説く、
其の心常に寂滅にして、清淨なること虚空の如く、心を以て刹を莊嚴し、一切の衆に示現す、
種種の身を示現して、彼に於て著する所無く、一切の生を遠離し、亦彼の因を壞せず、
一切の趣に隨順して、生を受けて著する所無く、身の虚空の如きを了り、其の所應に隨ひて現ず。

(三)菩薩の現ずること是の如く、無量無邊の事をもつて、彼の最勝の兩足尊を恭敬し、供養したてまつる、
塗香・末香・華・幢蓋・旛・音樂、無上なる供養の具をもつて、直心に諸佛に供へたてまつる、
一佛の會を離れずして、普く諸佛の所に在り、善巧に能く問難して、深妙の法を聽受す、
此の正法を聞くが故に、諸の三昧を逮得す、一一の三昧の中に、無量の定門を生じ、又復た能く普く現じて、無量の三昧より起つ、
智慧の巧方便をもつて、究竟じて彼岸に到り、一切の法は、皆悉く幻化の如しと覺悟す。

(四)種種の身を示現して、無量の音を出生し、衆生の想綱に入りて、其の心に染著無し、

【三】次の五頌半は供佛受法の定慧行。
【四】次の四頌は逆順行と成德滿行。

或時は衆生を現じて、世間の義に隨順し、或は菩提の行を示して、無量にして邊有ること無し、
布施し淨戒を持ち、忍辱にして精進を勤め、定慧、四無量、四攝法を修行す、
或は行成滿することを現じ、或は無生忍を得、或は灌頂の記を受け、或は一生補處となる。

(三五)或は聲聞乘を現じ、或は復た緣覺を現じ、無量の刹に涅槃すれども、菩薩の行を捨てず、
或は現じて帝釋と爲り、或は梵天王を現じ、或は天女に圍繞せられ、或は復た獨り宴默し、
或は比丘の像を現じて、淨戒をもつて諸根を調へ、或は自在王を現じ、或は現じて法網に入り、
或は巧術の女を現じ、或は苦行を修することを現じ、或は現じて五欲に在り、或は復た禪定に在り、
或は般涅槃を現じ、或は復た受生を現じ、或は童子身を現じ、或は復た衰老を現ず、若し思議する者有らば、迷亂して心發狂せん。

(三六)或は天の宮殿に在り、或は終に下生することを現じ、或は母胎に處することを現じ、成佛して法輪を轉じ、
或は復た出生を現じ、或は般涅槃を現じ、或は童子の術を現じ、或は復た出家を現じ、
或は道場に坐することを現じ、或は無上の道を成じ、或は復た、自在の正法輪を轉ずることを

【三五】次の五頌半は隨類現身難思の行。
【三六】次の八頌半は八相念劫法印行。

示現し、
或ひは正法を求むることを現じ、或ひは現じて佛身と爲り、無量の刹に充滿じて、菩薩の行を退かず、
深く無量劫に入り、究竟じて彼岸に到り、無量劫は一念、一念は無量劫なり、
一切劫は劫に非ずして、衆生に劫を示現す、來ること無く積集すること無くして、諸劫の事を示現す、
一微塵の中に於て、普ねく一切の佛を見たてまつり、一切諸の群生に、處として佛有さざる無し、
一切諸佛の刹と、及び衆生の境界とを、悉く能く分別して知り、一切の諸法印す、一切の劫は盡す可くとも、法印は窮め已ること無し。

【三七】次の七頌は衆生の根欲を知る行。

(三七)是の如くして衆生は、無量にして邊有ること無しと知る、彼の一りの衆生に、無量百千萬、那由他に等しき身有り、因縁も亦是の如し、彼の一りの衆生の如く、一切も亦復た然り、
是の如く究竟じて知り、亦一切をして學ばしめ、悉く衆生の根を知るに、上中下同じからず、
諸根常に流轉し、是器と非器とを知り、一根は一切根、展轉して相依持す、
菩薩の微細智は、皆悉く分別して知り、亦諸の欲性と、種種の煩惱垢とを知る、

過去の心行を了り、未來今現在、悉く衆生の行を知りて、究竟じて彼岸に到る、行と無所行とを知り、衆の爲めに妙法を說く、是の如くして心行の、染汚と及び淸淨とを知る。

(三八)菩薩は一念の中に、一切智を逮得して、深く如來の心に入り、究竟じて思議し難し、一念に悉く能く、諸佛の無上智を知り、神力の智を究竟じて、諸の通明を具足す、能く一念の中に於て、悉く十方の刹に詣る、是の如く疾かに遊行して、無量無數劫に、本の坐處を離れずして、甚深の法に安住す。

猶ほ工なる幻師の、種種に形色を現ずれども、色に非ず無色に非ず、幻化には所有無きが如く、菩薩も亦是の如く、深く廣き方便を知りて、衆の變化を示現し、一切世に充滿す、

譬ほ明淨の日の、世間に出現して、悉く能く衆冥を除き、一切照さざる靡きが如し、菩薩の智慧日も、明淨にして甚だ圓滿に、淨心の境界を出でて、普く一切の法を照す。

(三九)猶ほ人の夢中に、種種の事を造作するに、無量の劫は盡す可くとも、夢性は窮盡すること無きが如し、

菩薩は一念に於て、夢等の法を示現す、無量劫は盡す可くとも、智慧には終極無し、

【三八】次の七頌半は身心の迅用甚深の行。

【三九】次の六頌半は智慧廣大玄絕の行。

常に樂ひて山澤に居りて、世間の語を遠離し、語言の道を究竟して、其の心に染著無し、
菩薩は悉く、諸法の眞實性を了知し、普く衆生の音を說きて、虛妄の想を起さず、
譬へば春月の時に、衆生炎氣を見て、愚なる者は水なりと謂ひ、之を尋ねて渴愛を增すが如し、
菩薩は是の如く見る、「衆生の煩惱に覆はるるは、炎の渴愛を增すが如し」と、一向に解脫を求めて、衆生の實に非ざることを知るも、而も更に大悲を增す。

(三〇)色は聚沫の如く、受は水上の泡の如く、想は春時の炎の如く、衆の行は芭蕉の如しと觀じ、
心は工なる幻師の如く、種種の事を示現して、善く五陰を分別するも、其の心に所著無し、
諸入は悉く空寂にして、自在の事を遠離し、諸界は實性無くして、衆生界の分を示す、
第一の眞實諦は、決定して寂滅の性なり、廣く分別の法を演べて、而も心に染著せず、
菩薩は五陰を知るに、去來今有ること無し、煩惱業に因由りて、此の三苦の輪を轉ず、
緣起の法を演說するも、有に非ず亦無に非ず、深く眞實の義を解りて、彼に於て所著無し、
菩薩の淨き智慧は、三世の法を解脫して、諸の群生に示現するも、皆悉く是れ一念なり、
欲・色・無色界に、衆生の事を示現し、三乘の戒をもつて解脫し、一切智を究竟す、
處と非處とを了知し、業を知り諸根と、欲性と、諸の煩惱と、一切至處の道と、

【三〇】次の十一頌は智德圓明照法の行。

宿命智と、天眼とを知り、諸の煩惱を除滅して、佛の十種の力を知るも、而も尚ほ未だ究竟せず、
諸佛の法に隨順して、深く諸法の空を解り、悉く諸の煩惱を滅するも、而も諸漏を盡さず。

〔二一〕廣く甚深の道に入りて、諸の群生を教化し、佛子は無畏に住して、菩薩の行を捨てず、
謬無く漏失無く、亦正念を捨てず、精進して三昧を欲し、智慧に損減無し、
三種常に清淨にして、三世に明達し、大慈をもつて衆生を念ひ、一切障礙無く、深く諸の法門に入りて、是の如きの行を具足す、
我其の少分を説く、莊嚴功德の義は、無量無數劫に、之を説くとも盡す可からず、我が説く所の少分は、大地の一塵の如し。

〔二二〕常に如來の智に依りて、而も亦所依無く、常に奇特の想を修す、大悲堅强なるが故に、
清淨の戒に安住して、常に精進を勤修し、諸の群生を教化して、眞の佛子の記を受く、
佛の功德を究竟して、刹を知り衆生を知り、三世の劫を分別して、其の心に疲倦無し、
陀羅尼力を具して、深く眞實の義を解り、無等の法を思惟して、無上の道を逮得す。

〔二三〕一切の妙功德あり、發願して菩提を求め、慈悲因緣の力にて、菩提をして淨勝ならしめ、
波羅蜜を具足し、隨順して善く究竟し、諸の智力を決定して、無上の道を覺悟す、

〔二一〕次の五頌は功德殊勝なる無盡行の德用を結ぶ。
〔二二〕第三、以下四十四頌半は正しく前の二千の行法を頌す、前の六位に應じて六段あり。而して、初の四頌は信位の行。
〔二三〕次の四頌は十住位の行。

方便智を成就して、甚深の法を樂說し、隨順して常に守護し、法王の處を逮得す、
勝妙の法に安住して、彼に於て所著無く、智慧の華を出生して、勝れたる菩提を覺悟す。

(三四)一切劫に住持して、菩薩は正望を得、甚深の法に安住して、衆生の疑を除滅す、
甚深の智を修習して、善能く法を分別し、定慧の境を究竟して、一切智を覺悟す、
智は諸の解脫に入りて、究竟じて彼岸に到り、諸の通明を具足して、離垢の清涼園となる、
白淨の法を具足して、種種の行を具足し、普く莊嚴の法を現じ、皆悉く議る可からず、
善く衆生の心を知り、能く說きて究竟せしめ、淸淨なる菩提の印は、智光一切を照し、
一切能く稱る莫く、懈怠の法を遠離して、安住すること山王の如く、功德の智海を具ふ。

(三五)金剛妙寶の法は、大莊嚴に安住し、諸の大事を究竟して、一切能く壞すること莫し、

(三六)菩提は記を授かることを得て、廣大の心に安住し、佛の無盡藏を得て、一切の法を覺悟す、
世智常に自在にして、諸の神通に遊戲し、一切法の境界は、自在にして障礙無し、
身の願行自在にして、諸の神通に遊戲し、一切法の境界は、自在にして障礙無し、

【三四】次の六頌は十行位の行。
【三五】次の七頌は十廻向位の行。
【三六】此の一頌は鮮本に在りて餘本に脫す、探玄記も亦脫文の本に依るも唐經に存するが故に今之を加ふ。

身の願行自在にして、智慧も亦自在なり、無量億の自在をもつて、一切に示現す、
諸の自在を具足して、諸の神通に遊戯し、深く佛の境界に入りて、一切能く壞る莫し、
黠慧に莊嚴せられたる、無畏、不共の法は、佛子の業を修行して、一切の惡を遠離す。

(三七)清淨身の身業と、清淨口の口業とは、諸佛守護したまふが故に、十の大事を成辦す、
心心所の起住において、無上の事を顯現し、諸の根定を安住して、最勝の根を逮得す、
清淨の正直心は、諸の諂曲を遠離し、深く衆生性に入りて、種種の事を示現す、
煩惱習を除滅して、無上の行を究竟し、深智慧を具足して、一切智を逮得す、

【三七】次の十頌は十地位の行。

一切の惡を遠離し、方便をもつて寂滅に趣き、功德の道を出生して、善く一切の學を學ぶ、
無量道の心境を、修習して所著無く、深智慧に安住して、道の莊嚴を示現す、
手足及び心腹は、無上の智慧藏なり、其の心は金剛の如く、智慧を器仗と爲す、
智慧觀察の頂は、深く菩提の行に入り、清淨の戒を鼻と爲し、諸の熾然を除滅す、
四辯の廣長舌と、處として至らざる無き身と、淨妙なる智慧の身とは、諸の善行を行と爲す、
道場は安穩の住にして、師子の牀を座と爲し、梵住を安臥と爲すは、無礙の第一義なり。

〔三八〕善逝の智を觀察するに、普く一切を照し、薩婆若の光明は、生死の昏夜を照す、
徧く衆生の行を觀ずるに、種種の妙功德あり、此を以て奮迅と爲し、貪を離るるを淨施と爲す、
不慢は淸淨の戒、不動を淨忍と爲し、不轉は淨精進にして、自在を淨禪と爲す、
愚癡を行ぜざるは智にして、虛空を慈となして普く救ひ、憂惱せざるを悲と爲し、淸淨の法を喜と爲す、
諸の煩惱を離るるは捨にして、寂靜を深義と爲し、境界を正法と爲し、囘向は功德の具なり、
智具は利劍の如く、普く照すを衆明と爲し、法を聞きて厭き足ること無し、是は爲正しく法を求むるなり。
身と壽命とを惜まざるは、是を明正法と爲し、諸佛の敎に隨順して、諸の魔道を除滅するなり、
淸淨の正直心は、諸佛の業を攝取して、衆魔の業を遠離し、諸の智慧を長養す、
魔の所持を遠離して、諸佛の持に安住し、究竟じて法持を得、無住の智慧に住せん、
作業已りて命終し、神を降して母胎に入り、微細の趣を示現し、又復た出生を現じ、
獨り我最も勝れたりと稱へ、七步を行ずることを示現し、現じて童子地と爲り、復た深宮に處することを現ず、

【三八】次の十三頌半は因果圓滿究竟位の行。

出家學道を現じ、莊嚴して道場に詣り、普く無量の光を放ちて、諸の群生を覺悟し、一切の魔を降伏して、無上道を成ずることを得、

淨法輪を轉ずることを現じ、如來地を示現し、白淨の法を増長して、大般涅槃を現ず。

(三九)菩薩諸行を修すること、無量にして邊有ること無し、我向に説く所の如きは、略して其の少分を擧ぐるのみ。

(四〇)無量劫に修習して、衆をして菩提に住せしめ、衆生の諸の法行は、彼に於て染著無し、

是の如きの具足の行は、力自在を成就し、無量の諸刹を以て、一毛道に安置し、

常に無量の刹を持して、徧く諸の世界に遊び、還つて本處に置くも、衆生恐怖すること無し、

菩薩は一切の、嚴角せる諸佛の刹を以て、一毛孔に安置し、衆生見ざる無し、

能く一毛孔を以て、悉く一切海を受くるも、大海增減せず、衆生嬈害無し、

是の如き等の、一切諸事の相を示現す。

無量の金剛山を、手をもつて摩して微塵と爲し、此の一切塵を以て、徧く諸佛の刹に散じ、

【三九】第四、結して修學を勸む、三十八頌半あり、三に分つ、初の一頌は總じて所説を結し、次の三十三頌半は別して德用を結す、末後の四頌は廣を結して修を勸む。

【四〇】次の二十一頌半は別して德用の廣大を結す。

復た末塵を刹に下して、徧ねく餘の世界に布かんに、一切の塵は知る可くとも、智慧は盡す可からず。

一毛孔の中に於て、淨き光明を放演して、普く一切世を照し、悉く日月の光を蔽ふ、
珠火、天神の光も、隱沒して悉く現せず。惡道の苦を除滅して、爲めに無上の法を說く、
菩薩の一言の音は、一切の音を出生し、一切諸の衆生、悉く聞かざる者無し、
此の法音を聞くを以て、皆大歡喜を得、具足して廣く、諸佛の說きたまふ所の法を宣暢す。
過去の一切劫を、未來今に安置し、未來現在の劫を。同して過去世に置く、
十方一切の刹は、皆悉く成壞を現じ、一切の衆生を以て、一毛道に安置す、
過去及び現在の、一切諸の如來は、自在力を具足して、悉く身中に於て現じたまふ。
深く變化の法を知り、善能く所應に隨ひて、普く無量の身を現じ、彼に於て所著無し、
帝釋。梵王の身、四天。大王の身、諸天の淸淨身。一切衆生の身、
聲聞緣覺の身、如來の淸淨身は、普く一切の身を現じて、善く菩薩の行を修す、
現じて衆の想網に入り。上中下の諸品、一切智に持せられ、普く佛及び刹を現ず。
深智慧を具足して、諸の想網を除滅し、菩薩の行を示現して、究竟じて菩提を成ず。
是の如き等の、無量の自在力を示現して、一切現せざる無く、世を擧げて能く知る莫し、

示現するも所現無く、究竟じて上有ること無く、隨順して衆生に應じ、爲めに決定の行を說く。

（四二）淨身は虛空に等しく、妙音世閒に滿ち、淨戒を塗香と爲し、慚愧の衣普く覆ふ、
離垢正法の繒、一切智の摩尼、功德莊嚴の身は、無上王を拜署す、
波羅蜜の金輪は、諸通を象寶と爲し、神足を馬寶と爲し、淨慧は無上の珠なり、
妙行を女寶と爲し、四攝は寶藏の臣、方便は主兵の寶、無上の轉輪王は、
勝妙なる三昧の城、空觀の妙宮殿、慈悲の大莊嚴、智慧を利劍と爲し、
堅强正念の弓は、明利の根を箭と爲し、諸佛の護持は蓋にして、智慧の幢を建立し、直に諸魔の軍に入り、忍力をもつて悉く摧滅す。
陀羅尼は平地、淨妙の行は流水、深智を涌泉と爲し、淨慧は淸涼の林、
空を澄淨の池と爲し、七覺の妙華敷き、神足を以て莊嚴し、三昧を娛樂と爲し、
法門を歌頌と爲し、正法を思惟する女、甘露法の食、解脫の味を漿と爲し、調御して三乘に順じ、無上の園に遊戲す。
此等の諸の勝行と、及び餘の無上法とを、無量劫に修學するも、其の心に疲倦無し、
一切の佛を供養し、一切の刹を嚴淨し、普く一切の衆をして、一切智に安住せしむ。
一切刹の微塵は、悉く其の數を知る可く、一切の虛空界は、皆悉く度量す可く、

【四二】次の十二頌は別して行德の殊勝を結す。

一切衆生の心は、念念も數を知る可くとも、佛子の諸の功德は、之を說くとも盡す可からず。
此の功德と、及び餘の勝妙の法とを具へんと欲し、一切の苦を滅して、諸の群生を安樂にせんと欲し。
諸の如來の、身口意と齊等ならんと欲せば、應に金剛の心を發して、此の勝行を究竟すべし。』

# 卷の第四十五

## 入法界品第三十四の一

(一)爾の時に、佛、(二)舍衞城の(三)祇樹給孤獨園の、大莊嚴重閣講堂に在して、五百の菩薩摩訶薩と倶なりき。普賢菩薩、文殊師利菩薩を而も上首と爲し、(四)夜光幢菩薩、須彌山幢菩薩、寶幢菩薩、無礙幢菩薩、華幢菩薩、離垢幢菩薩、日光幢菩薩、正幢菩薩、離塵幢菩薩、明淨幢菩薩、(五)大地端嚴菩薩、寶端嚴菩薩、大慧端嚴菩薩、金剛智端嚴菩薩、離垢端嚴菩薩、法日端嚴菩薩、功德山端嚴菩薩、智光端嚴菩薩、普妙德端嚴菩薩、(六)大地藏菩薩、虛空藏菩薩、蓮華藏菩薩、寶藏菩薩、日藏菩薩、淨德藏菩薩、法印藏菩薩、明淨藏菩薩、臍藏菩薩、蓮華藏菩薩、(七)善德眼菩薩、普見眼菩薩、淸淨眼菩薩、離垢眼菩薩、無礙眼菩薩、普眼菩薩、善觀眼菩薩、靑蓮華眼菩薩、金剛眼菩薩、寶眼菩薩、虛空眼菩薩、善眼菩薩、(八)天冠菩薩、普照法界慧天冠菩薩、道場天冠菩薩、普照十方天冠菩薩、生諸佛藏天冠

【一】第一、第八本會の序說、三世開闡滿を叙す。

【二】舍衞城。室羅筏悉底(Śrāvastī)の訛略、譯して聞者城と云ひ、拘薩羅の國都なり。

【三】祇樹給孤獨園。梵に(Jetavanavihāra)と云ひ、普通には、祇園精舍と稱す、須達長者が佛に歸依して、其の說法修道の道場として、建立したる大伽籃なり。

【四】初の十を皆幢と名く、幢は行德の高出を表す。

【五】次の十を端嚴と云ふは福智の二嚴を表す。

【六】次の十を同じく藏と名く

菩薩、一切世間最上天冠菩薩、明淨天冠菩薩、無量法天冠菩薩、受一切如來師子座天冠菩薩、普照法界虛空天冠菩薩、(九)梵王周羅菩薩、龍王周羅菩薩、一切佛化光明周羅菩薩、道場周羅菩薩、一切願海音摩尼寶王周羅菩薩、出生如來光衆寶自在周羅菩薩、莊嚴一切虛空寶摩尼寶王周羅菩薩一切如來自在光幢摩尼王網普覆周羅菩薩、一切佛音轉法輪周羅菩薩、三世慧音周羅菩薩、(一〇)大光菩薩、離垢光菩薩、寶光菩薩、離塵光菩薩、夜光菩薩、法光菩薩、寂靜光菩薩、日光菩薩、自在光菩薩、天光菩薩、(一一)功德幢菩薩、智幢菩薩、法幢菩薩、諸通幢菩薩、光幢菩薩、華幢菩薩、摩尼幢菩薩、菩提幢菩薩、梵幢菩薩、普光幢菩薩、(一二)梵音菩薩、海音菩薩、大地音菩薩、世主音菩薩、山相擊音菩薩、充滿一切法界音菩薩、一切法海雷音菩薩、降伏一切魔音菩薩、大悲方便雲雷音菩薩、滅一切苦安慰音菩薩、(一三)法上菩薩、勝上菩薩、智上菩薩、功德須彌山上菩薩、功德珊瑚上菩薩、稱上菩薩、普光上菩薩、大慈上菩薩、智海上菩薩、如來性起上菩薩、光妙德菩薩、勝妙德菩薩、上妙德菩薩、明淨妙德菩薩、法妙德菩薩、月妙德菩薩虛空妙德菩薩、寶妙德菩薩、妙德幢菩薩、智妙德菩薩、(一四)娑羅林王菩薩、法王菩薩、衆生王菩薩、梵

ろは德備りて含攝せることを表す。

【七】次の十二を同じく眼と名くるは法界を照すことを明かす。

【八】次の十を天冠と名くるは淨德を心頂に冠むれることを表す。

【九】次の十を周羅(Cūḷaka 頂髻と譯す)と名くるは德重く學高きことを表す。

【一〇】次の十を光と稱するは身智の光を具することを表す。

【一一】次の十を幢と名くるは降伏の義を表す。

【一二】次の十を音と名くるは美音機を悦ばすことを明かす。

【一三】上とは德衆表に出でたる義。

【一四】法に於て自在なるを王と云ふ。

王菩薩、山王菩薩、寶王菩薩、離垢王菩薩、靜寂王菩薩、不動王菩薩、仙王菩薩、勝王菩薩、(一五)寂靜音菩薩、無礙音菩薩、說大地音菩薩、大海雷音菩薩、雲音菩薩、法光音菩薩、虛空音菩薩、一切衆生善根雷音菩薩、開悟過去願音菩薩、圓滿道音菩薩、智須彌山音菩薩、(一六)虛空覺菩薩、離垢覺菩薩、無礙覺菩薩、善覺菩薩、普照三世覺菩薩、廣覺菩薩、普光覺菩薩、法界光覺菩薩、是の如き等の五百の菩薩なり◎此の諸の菩薩は皆悉く普賢の行を出生す。境界無礙にして、一切諸佛の刹に充滿するが故に。無量身を持して、悉く能く一切佛に往詣するが故に。無礙の淨眼を具足して、一切の佛を見たてまつること、明自在なるが故に。無量處に至りて、一切諸佛の正覺を成じたまふ時、悉く能く往詣して、現前に佛を見たてまつり、休息無きが故に。無量智の光は、普く一切諸法の海を照すが故に。無量劫に於て說くとも盡す可からざる辯は、清淨なるが故に。虛空界を究竟する智慧の境界は、悉く清淨なるが故に。依止する所無くして、其の所應に隨ひて、色身を現ずるが故に。癡瞖を除滅し、善く分別して衆生界を知るが故に。虛空のごとき智慧は大光網を放ちて、普く一切諸の法界を照すが故なり。

　復た五百の大聲聞と俱なりき。悉く眞諦を覺し、如實の際を證し、深く法性に入り、生死の海を離れ、如來の虛空境界に安住し、結使の縛を離れ、一切に著せず、虛空に遊行し、諸佛の所に於て疑惑

【一五】音とは今は巧みに妙法を詮表する義を顯はす。
【一六】覺とは理を鑑み機を察する義。

悉く滅し、深く入りて諸佛の大海を信向せり。

復た諸の天王と倶なりき。悉く已に過去の諸佛を恭敬し供養したてまつりて、長夜に一切の衆生を饒益し、心常に慈を行じて未だ曾て忘失せず、群生を守護して勝智門に入らしめ、一切の衆生を捨てず、諸佛の正法の境界を出生し、佛法を守護し、佛性を受持し、如來の家に生れ、專ら一切の智門を求めたり。

(一七)爾の時に諸の菩薩、聲聞、天人、及び其の眷屬は、咸是の念を作さく、『如來の行、如來の智境界、如來の持、如來の力、如來の無畏、如來の三昧、如來の住、如來の勝妙なる功德、如來の身、如來の智。(一八)一切の天人能く知る無く、能く度る無く、能く底を得る無く、能く受くる無く、能く思惟する無く、能く觀察する無く、能く分別する無く、能く開發する無く、能く宣明する無く、能く人の爲めに如實に解說すること無し。(一九)佛の持力、自在力、威神力、如來の本願力、過去の善根力、善知識に親近するの力、淸淨信心の方便力、勝妙の法を樂ひ求むる力、淸淨正直の菩提の心力、深心の一切智願力をば除く。(二〇)又諸の大衆の種種の意、種種の欲、種種の解、種種の語、種種の地、種種の根、種種の方便、種種の心境界、種種如來に依るの功德、種種樂聞の法。(二一)世尊往昔一切、

【一七】第二、本會の請分。念所請の中に總じて六十句あり。初の十は果法。

【一八】次の十は深玄にして測り知り難きことを念請す。

【一九】次の十は緣會知る可きことを明かす、以上は念法の請なり。

【二〇】次の三十は念德の請、中に於て初の十は受くるに堪へたる德を歎す。

【二一】次の二十は佛の能說の德を歎す、中に於て前の十は因圓滿、後の十は果德圓備を說かんことを請ふ。

智の願を發して求めたまへる一切智、菩薩の諸願清淨の波羅蜜、菩薩の諸地、菩薩の滿足行、菩薩の莊嚴、菩薩の方便莊嚴、菩薩の道莊嚴、菩薩出生方便海の莊嚴、菩薩の自在莊嚴、菩薩の本生海、菩提門の自在海。如來の自在の轉法輪、如來刹の清淨自在、如來の方便をもつて衆生界を莊嚴したまへる如來法王の法、如來の道明普く一切を照し、如來は自在に一切衆生の處に入りたまひ、如來は一切衆生の爲めに最上の福田と作りたまふ、如來は一切衆生の爲めに功德ある〔三二〕噠嚫を說き、三輪をもつて一切の衆生を化度したまへること。唯願はくは、世尊よ、大悲慈愍をたれ、具足して顯現したへ。』

〔三三〕爾の時に世尊は諸の大衆の心に念ふ所を知りたまひ、大悲の身、大悲の門を以て、大悲を首と爲し、大悲方便の法に隨順して、師子奮迅三昧に入り、一切の衆生をして清淨の法を樂はしめたまふ。

〔三四〕三昧に入り已りし時に、大莊嚴の重閣講堂は、忽然として廣博なること無量無邊にして、破壞す可からず。金剛の寶地は清淨に莊嚴せられ、一切の摩尼寶王は、徧く其の地に布かれ、無量の寶華、奇妙なる衆の寶を散じ。瑠璃を柱と爲し、明淨の寶を以て之を莊嚴し、衆寶の莊嚴は微密にして間無し。閻浮檀寶を以て樓閣と爲し、衆寶の欄楯〔三五〕卻敵を撩廻し、阿僧祇の欄楯を以て嚴飾し、諸天王

〔三二〕噠嚫。檀嚫、達櫬拏(Dakṣiṇā)。右手、又は財施と譯す、蓋し右手を以て財施を受くるが故なり、今は報施の法なれば法施の意なり。
〔三三〕第三、入定を敍す(三昧分)
〔三四〕第四、淨土を現ずることを敍す、中に三世間の莊嚴を明かす、初に器世間の圓滿。
〔三五〕卻敵とは城の周圍に高く築かれたる塀なり。

の寶と、堅固の衆寶とをもつて之を莊嚴し。摩尼寶網を其の上に彌覆し。衆の寶幢を建て。諸の旛蓋を懸け。大光網を放ちて、普く法界を照せり。又不可說の衆の雜妙なる寶を以て、其の外を莊嚴し。四邊の階道は、衆の寶にて合成せられたり◎爾の時に佛の神力の故に、祇洹林は忽然として廣博となり。不可說の佛刹微塵數の世界と等しからしめたり。衆の寶にて莊嚴せられ、不可說の寶は徧く其の地に布かれ。阿僧祇の寶を以て垣牆と爲し。〔三六〕寶多羅樹は道の側に列べ植ゑられ。無量の香河には微流盈滿し、一切の寶華を以て波浪と爲し、皆悉く右に旋りて、一切佛法の音聲を演說し、不可思議の分陀利華は皆悉く開敷して水上に彌布し、衆の寶華樹は高顯榮茂して、其の岸に列べ植ゑられ。不可思議の樓閣は、摩尼の寶網其の上に羅覆し、阿僧祇の妙寶にて莊嚴せられ。光明は普く照せり。阿僧祇の摩尼寶王は其の地を嚴飾し、衆の妙香を出だし、無量の摩尼王の幢・香幢・衣幢・旛幢・繒幢・華幢・莊嚴具の幢・鬘幢・寶垂帶の幢・衆寶の蓋幢・大摩尼の幢・普照摩尼寶の幢・出佛音の幢・師子寶王の幢・出一切佛本生海の幢・一切法界の幢・摩尼寶王の幢を建立して、以て莊嚴を爲せり◎時に祇洹林の上の虛空の中に、不可思議なる天の寶宮殿雲、不可思議なる衆の香樹雲、不可說の須彌山雲有りて虛空を莊嚴せり。不可說不可說の衆寶の樂器は、妙なる法音を演べて如來を讚詠したてまつり、不可說の寶樹雲は虛空に彌覆せり。不可說の衆寶の座雲は覆ふに法衣を以てし、菩薩上に處して佛の功

【三六】 多羅樹(Tala)。岸樹又は高竦樹と譯し。其の形棕櫚に類し石榴の如き果實を結ぶと云ふ。

德を歎じ。不可說の天の寶像雲を以て莊嚴と爲し、不可說の白淨なる眞珠の網雲を以て莊嚴と爲し、不可說の解脫樓閣雲を以て莊嚴と爲し、不可說の妙解脫の音樂の雲雨を以て莊嚴と爲せり。何を以ての故に、如來の善根は、不可思議なるが故に。如來の白淨法は、不可思議なるが故に。如來の威神は、不可思議なるが故に。如來の一身は、一切の法界に充滿して自在なること不可思議なるが故に。一切佛刹の莊嚴は、一佛身に入りて不可思議なるが故に。一微塵の中に、一切の佛、一切の法界を現じて不可思議なるが故に。一毛孔の中に、過去際を盡して、一切の如來次第に顯現して不可思議なるが故に。一の光明を放ちて、一切の刹を照し、不可思議なるが故に。如來の一毛孔の中より、一切の佛刹微塵に等しき化身雲を出だし、一切の世界に充滿して不可思議なるが故に。如來の一毛孔の中より、一切の佛刹の成壞を現じて、不可思議なるが故なり。此の祇樹給孤獨園に、嚴淨の佛刹を見るが如く、一切の法界虚空界の一切の世界に、見る所の嚴淨も亦復た是の如し。

(二七)如來充滿して祇洹に來詣したまひ。(二八)菩薩は、一切如來の大衆海に充滿して安住し、普く一切妙莊嚴雲を雨らし、一切衆寶光明普照一切摩尼王雲を雨らし、一切蓋雲・莊嚴一切天身雲を雨らして、一切華樹雲・莊嚴一切雜色衣雲を雨らし一、切鬘雲・流注莊嚴一切摩尼寶王莊嚴雲を雨らし、一切衆生身の雜色香雲を雨らし、寶華雲・諸の天女雲を雨らし、各妙寶を持して、虚空の中に於て回轉し莊嚴

【二七】智正覺世間の圓滿。
【二八】衆生世間の圓滿。

し、一切衆寶の鉢曇摩華の雜寶の師子の座は虚空を莊嚴せり。

（二九）爾の時に東方、不可說の佛刹微塵に等しき世界海を過ぎて世界有り、金剛雲明淨燈莊嚴と名け、佛を明淨妙德王と號したてまつる。彼の大衆の中に菩薩有り、明淨願光明と名け、不可說の佛刹微塵に等しき菩薩と倶に來りて、此の土に向ひ、種種の雲を興して虚空を莊嚴せり。所謂る、天の華雲を興し、天の末香雲を散じ、天の鬘帶雲を垂れ、天の寶雲、天の莊嚴雲、天の寶蓋雲、天の寶衣雲、天の幢蓋雲を雨らして虚空に充滿し、悅樂す可き衆寶を以て莊嚴し、佛の所に來詣して、禮拜し供養せり。則ち東方に於て、一切莊嚴の樓閣と、寶蓮華藏の師子の座とを化作し、如意寶の網をもつて其の身を羅覆し、其の眷屬と與に結跏趺坐せり。

【二九】第五、新に十方より大衆の集まることを叙す。

南方、不可說の佛刹微塵に等しき世界を過ぎて、世界有り、金剛藏と名け、佛を普照妙德王と號したてまつる。彼の大衆の中に菩薩有り、不可壞精進勢王と名け、不可說の佛刹微塵に等しき菩薩と倶に來りて此の土に向ひ、皆悉く一切の好香を齎持し、神力持の故に、普く一切の佛の世界海に熏じ、一切の摩尼の寶網・華鬘・瓔珞・寶衣・寶像・妙德光明の諸の莊嚴具を執持し、一切妙師子の寶を以て莊嚴と爲し、神力持の故に、一切の諸の佛世界に充滿し、佛の所に來詣して、禮拜し供養せり。卽ち南方に於て、白淨妙寶の樓閣と、普照十方寶蓮華藏の師子の座とを化作して結跏趺坐し、寶華の網を以て其の身を羅覆せり。

西方、不可說の佛刹微塵に等しき世界を過ぎて世界有り、寶燈須彌山幢と名け、佛を法界智燈と號したてまつる。彼の大衆の中に菩薩有り、無上普妙德王と名け、世界海微塵に等しき菩薩と倶に來りて此の土に向ひ、不可說の佛刹微塵に等しき種種色の香の須彌山雲を興し、一切の法界に充滿せり。不可說の佛刹微塵に等しき種種色の香水の須彌山雲は、一切の法界に充滿し、不可說の佛刹微塵に等しき種種色の摩尼寶王の須彌山雲は、一切の法界に充滿し、不可說の佛刹微塵に等しき種種色の光明莊嚴寶幢の須彌山雲は、一切の法界に充滿し、不可說の佛刹微塵に等しき種種色の金剛藏摩尼寶王の須彌山雲は、一切の法界に充滿し、不可說の佛刹微塵に等しき閻浮檀寶幢の須彌山雲は、一切の法界に充滿し、不可說の佛刹微塵に等しき摩尼寶王徧照一切法界の須彌山雲は、普く虛空を覆ひ、一切如來の不可說の佛刹微塵に等しき、相好摩尼寶王普照の須彌山雲は一切衆生の境界に充滿し。一切如來の菩薩爲りし時の、不可說なる佛刹微塵に等しき所行の須彌山雲は、法界に充滿し、一切如來は不可說の佛刹微塵に等しき莊嚴の道場を示現し、佛の所に來詣して、禮拜し供養せり。即ち西方に於て、一切の香王樓閣を化作し、眞珠の寶網を以て其の上に羅覆し、帝釋幢の如き寶蓮華藏師子の座に結跏趺坐し、金色の寶網をもつて其の身を羅覆し、如意寶王を髻の明珠と爲せり。

北方、不可說の佛刹微塵に等しき世界を過ぎて、世界有り、寶衣光明幢と名け、佛を法界虛空妙德と號したてまつる。彼の大衆の中に菩薩有り、無礙妙德藏王と名け、世界海微塵に等しき菩薩と倶に

來りて此の土に向ひ、一切寶繒の雲を以て虚空を莊嚴し、神力持の故に虚空に充滿せり。雜寶の衣雲、雜香熏の衣雲、日幢摩尼寶の衣雲、金色の妙衣雲、衆寶網の衣雲、閻浮檀金色の莊嚴衣の雲、白淨寶の衣雲、明淨寶王の衣雲、妙光寶の衣雲、海莊嚴寶王の衣雲をもつて、虚空を莊嚴せり。神力持の故に、皆悉く一切の虚空に充滿し、佛の所に來詣して、禮拜し供養せり。卽ち北方に於て大海摩尼寶王の樓閣と、瑠璃の寶蓮華藏師子の座とを化作して、結跏趺坐し、妙寶王の網をもつて其の身を羅覆し、淸淨の寶王を髻の明珠と爲せり。

東北方、不可說の佛刹微塵に等しき世界を過ぎて、世界有り、放離垢歡喜光明網と名け、佛を無礙眼と號したまてつる。彼の大衆の中に菩薩有り、法界善化願月王と名け、世界海微塵に等しき菩薩と俱に來りて此土に向ひ、寶の樓閣雲を興し、皆悉く一切の世界に充滿せり。香の樓閣雲、香煙の樓閣雲、華の樓閣雲、旃檀の樓閣雲、金剛の樓閣雲、金の樓閣雲、寶衣の樓閣雲、鉢曇摩の樓閣雲は、皆悉く普く一切の佛刹を覆ひ、佛の所に來詣して、禮拜し供養せり。卽ち東北方に於て、一切法界門寶山の樓閣と、不可稱香王の寶蓮華藏師子の座とを化作して、結跏趺坐し、摩尼華網をもつて其の身を羅覆し、妙莊嚴藏摩尼寶王を以て天冠と爲せり。

東南方、不可說の佛刹微塵に等しき世界を過ぎて、世界有り、香雲莊嚴幢と名け、佛を龍自在王と號したてまつる。彼の大衆の中に菩薩有り、法義慧炎王と名け、世界微塵に等しき菩薩と俱に來りて此

の土に向ひ、無量の金色の圓滿光雲を興して、普く虚空を覆へり。無量寶色の圓滿光雲、佛の白毫相の圓滿光雲、衆寶雜色の圓滿光雲、寶蓮華藏の圓滿光雲、衆寶樹華の圓滿光雲、如來無見頂相の圓滿光雲、閻浮檀金色の圓滿光雲、日光の圓滿光雲、月光の圓滿光雲は普く虚空を覆ひ、佛の所に來詣して禮拜し供養せり。即ち東南方に於て、明淨摩尼寶王樓閣と、金剛寶蓮華藏の師子の座とを化作して、結跏趺坐し、寶炎光の網をもつて其の身を羅覆せり。

西南方、不可說の佛刹微塵に等しき世界を過ぎて、世界有り、名けて光藏と曰ひ、佛を法月普照智王と號したてまつる。彼の大衆の中に菩薩有り、壞散一切衆魔智幢王と名け、世界微塵に等しき菩薩と倶に來りて此の土に向ひ、一一の毛孔に、普く虚空界に等しき寶華の炎雲を興し、徧く一切の世界を照せり、放香の炎雲、衆寶の炎雲、金剛の炎雲、香煙の炎雲、大龍自在電光の炎雲、明淨摩尼寶の炎雲、金色寶の炎雲、妙德藏摩尼寶王網の炎雲、一一の毛孔に、各虚空界に等しき如來光明海雲を放ちて普く三世を照し、佛の所に來詣して、禮拜し供養せり。即ち西南方に於て、一切方門光網普照法界摩尼の樓閣と、香燈炎寶蓮華藏の師子の座とを化作して、結跏趺坐し、摩尼寶藏王妙光明の網をもつて其の身を羅覆し、一切衆生向解脫音摩尼寶王冠を冠れり。

西北方、不可說の佛刹微塵に等しき世界を過ぎて世界有り、淨願摩尼寶藏と名け、佛を普明淨妙德須彌山王と號したてまつる。彼の大衆の中に菩薩有り、明淨願智幢王と名け、世界微塵に等しき菩薩

と倶に來りて此の土に向ひ、念念の中に於て、一切の相好、一切の毛孔より、皆三世一切の諸佛の身雲を出だして、一切の虚空界に充滿せり。又一切の菩薩の身雲、一切如來の眷屬の身雲、一切如來の變化の身雲、一切如來の本生の身雲、一切の聲聞緣覺の身雲、一切如來の道場の菩提樹の雲、一切如來の自在の雲、一切の世界王の身雲、一切の嚴淨せる佛刹雲を出だせり。念念の中に於て、一切の相好、一切の毛孔より、皆是の如き等の雲を出だして虚空に充滿し、佛の所に來詣して、禮拜し供養せり。卽ち西北方に於て、諸方清淨摩尼妙寶樓閣と、清淨一切衆生摩尼寶蓮華藏の師子の座とを化作して、結跏趺坐し、堅固光明眞珠寶の網をもつて其の身を羅覆し、首に普覆摩尼寶の冠を冠れり。

下方、不可說の佛刹微塵に等しき世界を過ぎて世界有り、一切如來光圓滿清淨と名け、佛を無礙虚空智幢王と號したてまつる。彼の大衆の中に、菩薩有り、壞散一切障智慧勢王と名け、世界微塵に等しき菩薩と倶に來りて此の土に向ひ、一切の毛孔に於て、一切衆生の語海の音雲、三世の菩薩の行海の音雲、一切の菩薩願の音雲、一切の菩薩の成滿清淨波羅蜜の音雲、一切の菩薩の行妙音聲雲、一切の世界に充滿する一切菩薩の積集自在の音雲、一切菩薩の道場に往詣し衆魔を降伏し、最正覺を成ずる自在の音雲、一切諸佛の正法輪を轉ずる修多羅の音雲、其の所應に隨ひて衆生を化度する方便の音雲、一切衆生をして隨時に方便して妙智慧と善根とを得しむる音雲を出だし、佛の所に來詣して禮

拜し供養せり。卽ち下方に於て、諸佛寶光明藏莊嚴の樓閣と、寶蓮華藏の師子の座とを化作して、結跏趺坐し、普く道場を照し、摩尼寶王を髻の明珠と爲せり。

上方、不可說の佛刹微塵に等しき世界を過ぎて、世界有り、說無盡覺と名け、佛を圓滿普智光音と號したてまつる。彼の大衆の中に、菩薩有り、分別法界智通王と名け、世界海微塵に等しき菩薩と倶に來りて、娑婆世界の釋迦牟尼佛の所に向ひ、一切の相好、一切の毛孔、一切の支節、一切の身分、一切の莊嚴具、一切衣服の中より、盧舍那等の過去の一切諸佛と、未來の一切已に記を受けたる佛と、未だ記を受けざる佛と、現在の十方一切世界の一切諸佛と及び眷屬雲とを出だせり。皆悉く過去に行せし所の檀波羅蜜と、及び施を受けし者とを顯現し、皆悉く過去に修せし所の尸波羅蜜の持戒淸淨、過去の羼提波羅蜜にて支節を割截して心動亂せざりしこと、過去に修習せし毗梨耶波羅蜜、過去に修習せし一切如來の禪波羅蜜海、過去に修習せし一切如來の淨法輪を轉じたまひしこと、過去の一切悉く捨てて壽命に著せざりしこと、過去に歡喜して諸の菩薩道を樂ひ求めしこと、過去に菩薩の淸淨なる大莊嚴の願を出生せしこと、過去の一切菩薩の力波羅蜜と、過去の一切菩薩の圓滿なる智慧とを顯現して、皆悉く具足せり。是の如き等の諸の自在雲を出だして、法界に充滿し、皆悉く顯現して、佛の所に來詣し、禮拜し供養せり。卽ち上方に於て、金剛莊嚴藏の樓閣と、青金剛寶蓮華藏の師子の座とを化作して結跏趺坐し、一切の寶網をもつて其の身を羅覆し、三世佛號摩尼寶王を髻の

明珠と爲せり。

〔三〇〕是の諸の菩薩と、及び其の眷屬とは、皆悉く普賢の行願を具足せり。三世の諸佛の清淨智眼を成就し、一切の佛の淨妙の法輪を轉じ、諸佛の勝妙なる音聲の修多羅海を攝取し、一切の菩薩の自在を具足して彼岸を究竟し、念念の中に於て悉く一切如來の所に詣り、自在力を現じて、一身一切の世界に充滿し、能く一切如來の衆中に於て清淨身を現じ、一微塵に於て悉く能く一切の世界を示現し、應に化すべき所に隨ひて衆生を成就し未だ曾て時を失はず、一毛孔に於て一切の佛の妙法の雷音を出だせり。衆生界は皆悉く幻の如しと知り、一切の佛は悉く電光の如しと知り、一切の有趣は皆悉く夢の如しと知り、一切の果報は鏡中の像の如しと知り、一切の衆生は熱時の炎の如しと知り、一切の世閒は皆變化の如しと知り、如來の十力無所畏の法を具足し成就せり◎大衆の中に於て能く師子吼し、深く無盡の一切辯海に入り、決定して一切衆生の語言法海を了知し、淨法界に於て無礙の行を行じ、一切の法は皆悉く無諍なりと知り。菩薩の諸の通妙智を具足し、精進を勤修して諸の魔を摧伏せり。三世の勝妙なる智慧に安住して、染著する所無く、清淨の妙行は佛の莊嚴せる一切智地を得たり◎一切の有は悉く所有無しと知りて、深く一切法界の智海に入り、不壞の智を以て一切の世界に入り、一切の世界に於て普く自在を現じ、一切世界の受生を示現し、一切世界の種種の形色を知り微細の境界を以て廣き佛刹を現じ、廣き佛刹を

【三〇】次に來會の大衆の德を讚歎す。

以て微細の境界を現じ、一念の中に於て一切の佛住に住し一切の佛住を得て智身を持し、淸淨の慧を得て十方一切刹海を了知し、一念の中に於て悉く能く無量の自在を出生して徧く十方一切世界海に滿てり。此の諸の菩薩は、皆悉く是の如き等の無量の功德を成就して、祇洹林に滿てり。皆是れ如來の威神力の故なり。

(三一)爾の時に諸の大聲聞なる、(三二)舍利弗、(三三)目揵連、(三四)摩訶迦葉、(三五)離婆多、(三六)須菩提、(三七)阿泥盧豆、(三八)難陀、(三九)金毗羅、(四〇)迦旃延、(四一)富樓那彌多羅尼子、是の如き等の諸の大聲聞は、祇洹林に在りて、而も悉く如來の自在を見たてまつらず。如來の莊嚴、如來の境界、如來の變化、如來の師子吼、如來の妙功德、如來の自在行、如來の勢力、如來の住持力、淸淨の佛刹、是の如き等の事を、皆悉く見たてまつらず。亦復た不可思議の菩薩の大會を見ず。菩薩の境界の自在の變化、菩薩の眷屬の來る所の方に隨ふ妙寶莊嚴の諸の師子座、菩薩の宮殿、三昧自在にして周徧し觀察すること、菩薩の奮迅勤行し精進して諸佛を供養したてまつること、菩薩の記を受けて善根を長養すること、菩薩の受身、淸淨の法身、智身、願身、色

【三一】第六、二乘と菩薩と相對比して失を擧げ勝德を顯す。

【三二】舍利弗。具さに奢唎補怛羅(Śāriputra)と云ひ、身子又は鶖鷺子と譯す、智慧第一と稱せらる。

【三三】目揵連、具さに目犍羅夜那(Maudgalyāyana)と云ひ採菽氏、胡豆等と譯す、神通第一と稱せらる。

【三四】摩訶迦葉。具さに摩訶迦葉波(Mahākāśyapa)と云ひ大飲光と譯す、頭陀第一と稱す。

【三五】離婆多(Revata)。室星、奎宿等を譯す。

【三六】須菩提(Subhūti)。善吉と譯す、解空第一と稱す。

【三七】阿泥盧豆(Aniruddha)。無滅、如意等と譯す、天眼第一と稱す。

【三八】難陀(Nanda)。歡喜と譯

身、相好無量にして光明をもつて圓滿に莊嚴し大光網を放つ變化身雲、菩薩の一切方網に充滿せること、菩薩の諸行圓滿に具足すること、是の如き等の事を、一切の聲聞の諸の大弟子は皆悉く見ず。【四一】何を以ての故に、別異の善根行を修習せしが故なり。本能く如來の自在を見たてまつるべき善根を修習せず、亦佛土を淨むる行を修習せず。又佛の自在を見たてまつりて、得し所の功德を讚歎せず。生死の中に於て衆生を敎化し、阿耨多羅三藐三菩提心を發さず。亦衆生をして佛の菩提に安立せしめず。亦如來種姓を守護して斷絕せざらしめず。亦一切の衆生を攝取せず。亦諸の波羅蜜を成就せず。衆生の爲めに、勝妙なる智慧眼の地を稱歎せず。亦一切の智行を修習せず。諸佛の離世の善根を求めず。亦自在の淨刹を出生せず。菩薩の諸の通明眼を求めず。菩薩の境界の不壞の善根を修せず。亦佛力の住持せる菩薩の大願を出生せず。又亦諸法は幻の如く、菩薩の集會は悉く皆夢の如きを知らず。亦菩薩の離生聖行の心を修習せず。普賢の淸淨なる智眼を得ず。是の諸の功德は聲聞辟支佛と共ならず。是の因緣を以て諸の大弟子は見ず聞かず、入らず知らず、覺せず念せず、能く徧く觀せず、亦意を生せず。何を以ての故に。此は是れ菩薩の智慧の境界にして、諸の聲聞の智慧の境界に非ればなり。是の故に諸の大弟子は

す、調伏第一と稱す。

【三九】金毗羅(Kumbhira)。黃頭と譯す。

【四〇】迦旃延、具さに摩訶迦多衍那(Mahākātyāyana)、大剪髮種男、又は文飾、不空等と譯す、論議第一と稱す。

【四一】富樓那彌多羅尼子(Pūrṇa maitrāyaṇī-putra)滿慈子、滿願子と譯し、說法第一と稱す。

【四二】以下不見の所由を釋す、初に因行の時に見る可き廣大の因を修せざりしが故に見ること能はざるを明かす。

祇洹林に在りて、如來の自在神力を見たてまつらず。◎【四三】亦三昧の淸淨なる智眼ありて、微細の處に於て諸の境界を見ること無く、亦法門神力の境界無く、亦諸力の勝妙なる功德無く、亦是處の智無く、亦智眼の能く見聞覺知し、及び意念を生ずること無し。亦樂說せず、讃歎する能はず、顯現する能はず、施與する能はず、勸化して衆生を彼の妙法に安立せしむること能はず。何を以ての故に。聲聞乘を以て三界を出づるが故なり。又聲聞道に滿足し、聲聞の果に住して、無所有の智を具足して眞實諦に住すること能はず、常に寂靜を樂ひ、大悲を遠離して、常に自ら調伏し、衆生を捨離するを以てなり。是の故に如來と對面して坐すと雖も、神變自在を覺知すること能はざるなり。

【四四】譬へば餓鬼の裸形にして飢渴し、擧身燒然して、諸の虎狼毒獸の爲めに逼られて、恆河に往詣して水を求めて飮まんと欲するも、或は枯竭せるを見、或は灰炭を見るが如し。所以は何ん。悉く宿行の罪業障に由るが故なり。一切の聲聞も亦復た是の如し。祇洹に在りと雖も如來の自在神力を視たてまつらず。所以は何ん。無明の障曀、淨眼を覆ふが故なり。◎【四五】譬へば人有り、大會の中に於て昏寢し、夢に諸天の城郭、帝釋の宮殿、園觀、林池の、衆寶をもつて莊嚴し、諸の雜華を散じ、寶樹行列し、妙衣を上に覆

【四三】次には因行劣れるが故に果の時に亦小果を得て、此の廣大の法界身を見るべき分齊無きことを明かす。

【四四】以下十喩を擧げて、勝劣を示す、一に餓鬼恒河に對する喩、二乘の人は所知障有るが故に、佛の殊勝の境界を見ざることを示す。

【四五】二つの覺は夢境に對する喩、二乘の人は劣を守つて勝に乖くが故に見ざることを示す。

ひ、諸天の男女其の中に遊戯し、自然の妙音ありて共に相娯樂し、天の快樂を受けしことを見るに、其の人自ら親て此の處に安住し、天の宮殿の無量の莊嚴を見るも、其の餘の大會は悉く知見せざるが如し。所以は何ん。覺と夢と異るが故なり。一切の菩薩、世界の諸王も亦復た是の如し。彼の夢中に見ざる所無きが如く、深く菩薩の妙法の門に入るが故に、善根を積集して、一切の智願を出生するが故に、決定して明らかに佛の功德を了るが故に、正しく菩薩の弘誓の道に向ふが故に、一切の智を滿足するが故に、普賢の諸の行願を滿足するが故に、一切の菩薩の圓滿地を得るが故に、一切の菩薩の三昧自在を得るが故に、一切の菩薩の無礙智を行ずるが故に。是の故に、一切諸の大菩薩は悉く如來の不可思議なる神變の境界を觀てまつり、深く入り明かに達して彼岸を究竟するも、一切聲聞の諸の大弟子は、皆知ること能はず。◎(四六)譬へば雪山に諸の藥草有り、賢明なる良醫は、悉く分別して知るも、捕獵放牧人等有りて、彼の山に遊止すと雖も、悉く知ること能はざるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。一切智を具足し、一切の菩薩の自在を出生して、明かに如來の神足變化を了れり。彼の諸の聲聞の大弟子衆は、祇洹に處すと雖も、悉く覺知せず。所以は何ん。常に自ら安きことを求めて廣く濟はざるが故なり。◎(四七)譬へば地中に諸の寶藏有り、唯呪術者のみ、悉く能く別知して庫藏を記錄し、以て自ら資給して父母に奉養し、

【四六】三に愚人雪山に對するの喩、二乘の人は、狹心にして悲心なきが故に見ざることを示す。

【四七】四に呪者伏藏を見る喩、二乘の人は巧方便なきが故に見ざることを示す。

親屬を賑卹し、貧乏を拯濟するが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。淨慧眼を以て、佛の自在と不可思議なる神力の境界とに入り、普く無量の方便大海と、諸の三昧海とに入り、一切の諸佛を恭敬し供養して、正法を守護し、四攝法を以て衆生を攝取せり。諸の大聲聞は祇洹に處すと雖も、如來の自在神變を覩たてまつらず。(四八)譬へば盲人の大寶の洲に至るも、行住坐臥に、衆寶を見ざるが如し。此の諸の聲聞も亦復た是の如く、祇洹林の大法の寶洲に在りて、親しく世尊に侍するも、如來の自在神變と、菩薩の大衆とを覩たてまつらず。所以は何ん。菩薩の清淨眼を得ざるが故に。次第に法界を覺すること能はざるが故なり。(四九)譬へば人有り、明淨の藥を以て而も用ゐて眼を治し、夜の暗き中に於て、大衆に處在し、悉く衆人の行住坐臥を見るも、餘人は見ざるが如し。如來も亦爾なり、無礙淸淨の智眼を逮得して、悉く能く一切の世間を知見し、無量の自在神變と、及び菩薩衆とを示現したまふも、諸の大聲聞は如來の自在と菩薩衆とを覩たてまつらず。(五〇)譬へば比丘、大會の中に在りて、一切處の定、所謂る、地水火風、(五一)天(五二)衆生の境界に入も、其の餘の大衆は悉く地水火風、乃至境界と諸の一切處とを見ること能はざるが如し。如來の現ずる所の不可思議は、菩薩悉く見るも、諸の大聲聞は知らず見ざるなり。(五三)譬へば

【四八】五に盲人は寶を見ざる喩、二乘人は淨慧眼なきが故に見ざることを示す。
【四九】六に塗眼して身を隱す喩、二乘人は深智なきが故に見ざることを示す。
【五〇】七に遍處定の境の喩、二乘人は深定なきが故に見ざることを示す。
【五一】天とは空處識處なり。
【五二】衆生の境界とは青黄赤白の顯色なり。
【五三】八に竄身して自ら見る喩、二乘人は深行なきが故に見ざることを示す。

人有り、翳身藥を以て自ら其の目に塗り、行住坐臥に、能く見る者無く、唯彼の人のみ悉く能く觀見ること有るが如し。如來も亦復た是の如し。永く世閒を離れて能く見る者無し、唯一切智の菩薩のみの境界なり。諸の聲聞の能く知る所に非ず。◎（五四）人の生に從ひて二種の天有り、常に隨つて侍衞せり、一には同生と曰ひ、二には同名と曰ふ、天は常に人を見るも、人は天を見ざるが如し。如來の神變も亦復た是の如し。諸の聲聞の能く知見する所に非ず、唯諸の菩薩のみ乃ち能く觀見るなり◎（五五）譬へば比丘の大衆の中に於て、滅盡定に入るが如し。諸根を捨せず亦滅度せず、而も諸の大衆の事を知見せず。所以は何ん。滅定の力の故なり。諸の大聲聞も亦復た是の如く、祇洹林の大衆の中に處して、諸根現前するも、而も如來の神變を視見たてまつらず、入らず知らず、覺せず念せず、心意を生せず◎所以は何ん。如來の境界は甚深にして彌曠く、知り難く見難く、源底を得難く、限量有ること無く、世閒を遠離し、不可思議にして能く壞する者無く、諸の聲聞緣覺の境界に非ればなり。

（五六）爾の時に明淨願光菩薩、佛の神力を承け、十方を觀察して偈を以て頌して曰はく、

『堅固の人を瞻察せよ、菩提は思議し難く、祇洹林に、無量自在の法を顯現せり、

【五四】九に二天の人に隨ふ喩、二乘の人は密智なきが故に見ざることを示す。

【五五】十に滅定無見の喩、二乘の住位は求むることを息むるが故に見ざることを示す。

【五六】第七、頌を以て德を讃歎す、十方の菩薩の說を擧ぐ、故に十段あり、初めは十頌あり前の三昧の業用を明かす、前の六頌は佛の身土の無礙を歎じ、次の四頌は菩薩の衆德を歎じ、後の一頌は用の所依を結す。

如來の神力持にて、無量の德を顯現するも、世閒は悉く迷惑して、諸佛の法を知らず、

法王の甚深の法は、無量にして思議し難く、大變化を顯現して、一切能く測る莫し、

如來の莊嚴の相は、讃歎すとも盡す可からず、法は無相なるを以ての故に、一切の佛を宣明したてまつる、

最勝は祇洹に於て、自在力を顯現したまひ、甚深にして議る可からず、語言の道を遠離せり。

無量の德を觀察して、菩薩の衆は雲のごとくに集り、不思議の刹より來りて、最勝を供養したてまつる、

悉く諸の大願を滿たし、常に無礙の行を修し、一切の諸の世閒は、能く其の心を知る莫し、

一切諸の緣覺と、無量の大聲聞とは、皆悉く、菩薩行の境界を知ること能はず、

菩薩の大智慧は、一切能く壞る莫く、諸の亂想を遠離して、深智の地を究竟せり。

最大名稱の人は、深く無量の定に入り、自在力を顯現して、諸の法界に充滿したまへり。』

# 卷の第四十六

## 入法界品第三十四の二

爾の時に不可壞精進勢王菩薩、佛の神力を承けて、十方を觀察し、偈を以て頌して曰はく、

(一)眞の佛子を瞻察せよ、功德智慧の藏は、菩薩の道を究竟して、諸の世間を安穩にせり、
無量の智は明鑒にして、禪定の心動せず、智慧甚だ深廣にして、境界は測る可からず。
閑靜なる祇洹林に、無量の妙莊嚴あり、菩薩は皆充滿して、悉く正覺に依りて住せり、
無量の大衆海は、一切所著無く、十方より來りて此に會し、華の師子座に處せり。
衆の虛妄を除滅して、一切所染無く、垢を離れたる無礙の心は、諸の法界を究竟せり。
智慧の幢を建立して、動かざること金剛の如く、諸法に變化無くして、無量の變を示現せり、

【一】第二の頌に十偈あり、初の二は處と衆の具德を歎じ、次の二は處と衆の集まることを歎じ、次の一は障を斷じ理を證したることを頌し、次の二は不動にして而かも普遍なることを頌し、次の一は之を佛德に結歸し、後の二は佛法に了達せることを頌す。

一切十方界の、無量億の佛刹に、悉く能く徧く往詣して、而も亦身を分たず。
釋師子を瞻仰するに、無量力自在なり、佛の威神を以ての故に、十方より大衆集まれり。
佛子は悉く、一切の語言道を究竟し、佛法は壞す可からず、法界地に安住せり、
法性は壞す可からず、牟尼の甚深の法は、句身と及び味身と、分別するに窮盡すること無し。』

爾の時に無上普妙德王菩薩、佛の神力を承けて、十方を觀察し、偈を以て頌して曰はく、

〔二〕『堅固の人を瞻察せよ、智慧廣く圓滿にして、善く時と非時とを知り、
衆の爲めに法を演說せり、
諸の外道を遠離し、諸の論師を調伏し、其の所應に隨ひて化し、爲めに自在力を現ぜり、
正覺は量法に非ず、亦無量の法に非ず、牟尼は悉く、有量無量の法を超越したまへり。
〔三〕譬へば明淨の日の、一切の闇を除滅するが如く、導師の智も亦然なり、普く三世の法を照す、
〔四〕譬へば十五日の、圓滿明淨の月の如し、最勝も亦是の如く、白淨の法圓滿なり、
〔五〕譬へば虛空の中に、淨日の光明曜きて、普く一切を照すが如く、佛の自在も亦然なり、
〔六〕譬へば虛空の性の、一切障礙無きが如く、世間の燈も是の如く、自在にして障礙無し、

【二】第三の頌に十偈あり、初の三は法說、後の七は喩況なり。
【三】一、智三際に達する喩。
【四】二、無漏圓德の喩。
【五】三、自在遍知の喩。
【六】四、德に限礙なき喩。

(七)譬へば大地の性の、能く諸の群生を持するが如く、世間燈の法輪も、能く持すること亦是の如し、
(八)譬へば大風の性の、飄疾にして障礙無きが如く、佛法も亦是の如く、速かにして諸の世間に偏し、
(九)譬へば大水輪の、世界の依住する所なるが如く、智慧輪も亦然なり、三世佛の所依となる。』
爾の時に無礙妙德藏王菩薩、佛の神力を承けて、十方を觀察し、偈を以て
(一〇)頌して曰はく、
(一)『譬へば大寶の山の、諸の群生を饒益するが如く、如來の功德の山の、饒益することも亦是の如し、
(二)譬へば大海の水の、清涼にして澄淨なるが如く、如來も亦是の如く、能く熱の渇愛を除く、
(三)譬へば須彌山の、大海に安峙するが如く、如來の山も亦然なり、深法の海に安住したまふ、
(四)譬へば大海の中に、能く一切の寶を出だすが如く、無師の智も亦然なり、難を覺し無難を覺す、

【七】五、法輪荷載の喩。
【八】六、無礙速遍の喩。
【九】七、智輪を本となす喩。
【一〇】第四の頌に十偈あり、九喩を擧ぐ。
【一】一、德山益物の喩。
【二】二、悲海除盡の喩。
【三】三、行高深證の喩。
【四】四、次の二頌は智海出生の喩。

導師の甚深の智は、無量にして數有ること無く、自在力を顯現して、能く思議する者無し、

(二五)譬へば工みなる幻師の、種種の事を示現するが如く、佛の智も亦是の如く、諸の自在力を現ず、

(二六)譬へば如意珠の、能く一切の意を滿たすが如く、最勝も亦是の如く、悉く諸の淨願を滿たす、

(二七)譬へば明淨の寶の、悉く能く一切を照すが如く、導師の智も是の如く、普く一切の法を照す、

(二八)譬へば隨方の寶の、正しく諸方に住して現ずるが如く、無礙の燈も亦然なり、諸法中に於て現ず、

(二九)譬へば淨水の珠の、諸の濁水を清淨ならしむるが如く、佛を見たてまつることも亦是の如く、諸根悉く清淨となる。』

爾の時に法界善化願月王菩薩、佛の神力を承けて、十方を觀察し、偈を以て頌して曰はく、

(三〇)『譬へば靑寶珠の、能く一切の色を靑からしむるが如く、若し佛を見たてまつる者有らば、皆悉く菩提に同せん。

---

【二五】五、巧現應機の喩。

【二六】六、隨願畢逐の喩。

【二七】七、種智普照の喩。

【二八】八、隨方現法の喩。

【二九】九、見佛淨根の喩。以上の九喩は次第の如く大福、大悲、大定、理智、量智、悲用、種智、鏡智、慈用を釋す。

【三〇】第五の頌に十偈あり、初の一は佛を見る益を歎じ、次の三は菩薩を益することを頌し、次の一は三世間を現はし、次の三は法を現じて益を成ずることを頌し、後の二は法輪を轉じて世を益することを頌す。

一一の微塵の中に、最勝は自在を現じて、悉く能く無量、無邊の諸菩薩を淨めたまふ、
甚深の法を逮得したる、種種の莊嚴の事は、唯諸の菩薩のみの境にして、世間能く測ること無し、
諸の莊嚴を具足せる、如來の淨妙の行は、菩薩の道を成就して、深く諸の法界に入らしむ。
正覺の示現する所の、不可思議の刹に、一切の現在の佛と、菩薩とは悉く充滿せり。
釋師子は、無量の自在法を成就して、大神變を示現すること、無量にして邊有ること無し、
菩薩の種種の行は、無量にして邊有ること無く、如來の自在力は、之が爲めに悉く顯現せり、
佛子、善く、甚深の諸の法界を修學して、無礙の智を成就し、一切法を明了せよ。
如來の威神力は、衆の爲めに法輪を轉じ、勝れたる功德を出生して、世をして悉く清淨ならしむ、
如來の淨き境界は、甚深なる圓滿の智、實智の大龍王にして、一切の衆を度脫す。』

爾の時に法義慧燄王菩薩、佛の神力を承けて、十方を觀察し、偈を以て頌して曰はく、

(三)『最勝は三世に有したまふも、聲聞の諸の弟子は、皆悉く、如來の擧足の事を知ること能はず、

【三】第六の頌に十偈あり、初め三は凡小の知ること能はざるを頌し、次の四は所不知の德を顯はし、後の三は能知の德を顯はす。

去來今現在の、一切の諸の緣覺も、亦復た、如來の擧足の事を知ること能はず、
何に況んや世の凡夫の、結使に纏縛せられ、愚暗淨眼を覆ひて、而も能く導師を知らんや。
最勝の無量の德は、諸の智慧を具足し、語言道を超出せるをもつて、一切能く知る莫し、
譬へば明淨の月の、光明は能く知るもの無きが如く、導師も亦是の如く、功德は議る可からず、
如來の一方便は、無量の化を出生し、無數劫に思算するも、少分をも知ること能はず、
如來の一方便は、無量の德を出生す、一切智の正法は、皆悉く能く知る無し。
若し菩提を求め、菩薩の行を修習するもの有らば、是れ彼の境界にして、能く分別して知る所なり、
不思議の方便をもつて、生死の海を超度せんは、若し吾我の心を滅せば、是れ則ち能く究竟するなり、
清淨の心無量にして、大願悉く成滿せば、佛の菩提と、最勝の境界とを逮得せん。』

爾の時に壞散一切衆魔智幢王菩薩、佛の神力を承けて、十方を觀察し、偈を以て頌して曰はく、

〔三〕『大智無礙の身は、非身にして思議し難く、如來の淨法身は、一切能く測る莫し、
不思議の行業は、此の淸淨身を起し、無量の妙莊嚴は、三界に染せられず、

【三】第七の頌に十偈あり、初の五は佛の體德圓備なることを歎じ、次の三は妙用測り難きを歎じ、後の二は總結す。

普く一切を明照し、諸の法界を清淨にし、菩提の門を開發して、深定智を出生す、
永く諸の垢染を離れ、一切の障を除滅して、世間の明淨の日のごとく、普く慧の光明を放てり、
永く生死の流を絶ち、悉く三界を淨からしめ、菩薩の德を具足して、佛の菩提を成就せり◎
無量の色を顯現して、彼に於て所染無く、現す可き所の衆色は、一切能く思ふ莫し、
人王の勝れたる智慧は、能く念念の中に於て、無量の菩提を具するも、一切能く知る莫し、
無盡の智を具足するも、一切能く壞ること莫く、彼の一念の中に於て、三世の佛に明達す。
一切の業を分別し、正念に菩提を思ふ、思に於て而も思に非ず、思の
法は寂滅なるが故なり、
甚深にして說く可からず、語言の道を遠離す、如來は此より起り、佛
の業は思議し難し。』

【三】第八の頌に十偈あり、初の二は智德を出だすこと、次の三は堅固の行、後の五は斷德の行を頌す。

爾の時に明淨願智幢王菩薩、佛の神力を承けて、十方を觀察し、偈を以て頌して曰はく、
〔三〕『癡を離れたる清淨の念は、一切の法を聞持し、深慧は能く、諸佛の無盡海を分別す、
菩薩の決定心は、菩薩の行を修習して、甚深の智を出生し、諸の疑惑を除滅す◎
其の心に疲厭無くして、懈怠を遠離し、常に精進を勤修して、諸佛の法を究竟す、
信と智慧とを具足し、安住して動かす可からず、常に甚深の法を樂ひ、觀察に所著無し、

無量無邊の劫に、諸の功德を積集し、專心に常に、諸佛の甚深の法に囘向す。
生死の中に在りと雖も、其の心に染著無く、諸佛の法に安住して、常に如來の行を樂ふ、
世間の諸の所有、陰界等の諸法を、無畏をもつて悉く除斷し、佛の正法に安住す。
世間は顚倒の惑にて、生死の輪常に轉ずれば、無礙の行を修習して、實に衆生を利益す、
菩薩の行は稱り難く、一切能く知る莫し、一切の苦を除滅して、諸の群生を安樂ならしむ、
善く菩提の智を覺して、善く諸の世間を照し、愚癡の暗を除滅して、
一切の衆を度脫す。』

爾の時に壞散一切障智慧勢王菩薩、佛の神力を承けて、十方を觀察し、偈を以て頌して曰はく、

〔三四〕『無量無數劫にも、佛音は聞くことを得難し、何に況んや親しく奉覲して、諸の疑惑を除滅せんをや、
如來は世間の燈にして、一切の法を究竟し、無上の勝福田をもつて、衆をして悉く淸淨ならしめたまふ。
如來の妙色身は、一切能く思ふ莫し、無量劫に諦觀するも、其の心に厭き足ること無し、
佛子、善く、如來の妙色身を觀察して、一切の障を除滅せば、究竟じて菩提を成ぜん。

【三四】第九の頌に十偈あり、初の二は佛の語業の利益、次の二は身業の利益、次の二は身語の雙益を歎ず、後の四は見聞の利益を頌す。

如來の妙色身は、淨妙の音を出生し、無礙の諸の辯才は、廣く菩提の門を開く、
普く一切の衆を照し、無量にして思議し難く、大乘の智を建立して、授くるに菩提の記を以てしたまふ。

功德圓滿の日、出興して世間を照し、一切世の、無量の功德身を長養す、
若し如來に値ひたてまつること有らば、諸の惡道を遠離し、一切の苦を除滅して、智慧の身を具足せん、
若し如來を見たてまつること有らば、能く無量心を發し、無數の智を長養して、諸の導師に値遇せん、
若し如來を見たてまつること有らば、定菩提心を得、能く自ら決定して、我は必ず菩提を成ずべしと知らん。』

爾の時に分別法界智通王菩薩、佛の神力を承けて、十方を觀察し、偈を以て頌して曰はく、

(三五)『菩薩は如來を見たてまつるに、無量の淨功德あり、皆悉く善く回向して、一切智を究竟す、
衆生を饒益するが故に、如來は世間に出で、大悲心を具足して、世の爲めに法輪を轉じたまふ。

【三五】第十の頌に十一偈あり、初の二は佛の菩薩を利益することを歎じ、次の五は佛の衆生の爲に苦を忍び給ふ大悲の深厚を歎じ、次の一は苦を忍び給ふ所以を述べ、後の三は佛を見て益を成ずることを明かす。

一切能く、大仙の普き慈恩に報ゆる無し、不可思議劫に、衆に代りて苦を受けたまふが故に、
無量億劫の中に、諸の地獄の苦を受け、一切の衆を捨てず、悉く佛を見たてまつることを得しむ、
普く能く衆生に代りて、具さに無量の苦を受くるも、其の心に疲倦無し、一切を度せんが爲めの故に、
一切諸の世間の、所有る惡道の苦、如來は常に中に處して、悉く正法を聞かしめたまふ、一一の地獄に住し、不可思議劫に、具さに無量の苦を受くるも、終に諸佛を離れず。
無量劫に、常に三惡道に在る所以は、諸の群生をして、智慧を長養せしめんと欲ふが故なり。
衆生は如來を見たてまつらば、諸の苦惱を除滅し、大智の、一切の佛の境界に安立せん、
若し佛を見たてまつる者有らば、一切の障を除滅して、功德藏を長養し、究竟じて菩提を成ぜん、
如來は能く、世間の諸の疑惑を除滅し、其の所應に隨ひて化し、悉く彼の大願を滿せしめたまふ。』

【二六】第八、普賢菩薩法界を開現して、信を生ぜしむることを明かす。

（二六）爾の時に普賢菩薩、一切の大衆を觀察して、重ねて開發し、顯現し、照明せんと欲し。法界に

等しき方便を以て、廣く師子奮迅三昧を說けり。法界に等しく、虛空界に等しく、三世に等しく、一切の衆生界に等しく、一切劫に等しく、一切の業性に等しく、衆生の希望に等しく、衆生の欲に等しく、法の光明に等しく、隨時の敎化に等しく、一切衆生の根に等しく、諸の菩薩の爲めに十種をもつて廣く獅子奮迅三昧を說けり。何等をか十と爲す。所謂る、廣く一切法界の中の、一切の佛刹微塵に等しき佛、次第に世に興り、正法を演說したまふことを說く。廣く虛空界に等しき一切の佛刹の中の、盡未來劫の一切の諸佛の所說を說く。廣く一切の佛刹の中の一切の如來、現じて正覺を成じたまふことを說く。廣く虛空界に等しき、一切佛刹の中の佛、道場に坐し眷屬に圍繞せられ、菩薩大衆皆悉く往詣することを說く。廣く一念の中の三世一切の佛、變化身を出だし、一切の法界に充滿したまふことを說く。廣く一身一切の世界海に充滿し、一切の佛刹海を平等に照持したまふことを說く。廣く一一の境界の中に、三世一切の諸佛の自在の功德地を顯現することを說く。廣く一一の微塵の中に、三世一切の佛刹微塵に等しき佛の、自在神力を顯現することを說く。廣く一一の毛孔より、三世一切の佛の大願海音を出だし、盡未來劫の一切の菩薩を開發し化導することを說く。廣く法界に等しき師子の座に處して、大衆に圍繞せられ、道場を莊嚴し、各其の處に隨ひて妙法輪を轉じ、盡未來劫にも、未だ曾て斷絕せざることを說く。佛子よ。此の師子奮迅三昧は、是の如き等の不可說の佛刹微塵に等しき廣說有り。唯是れ如來の智慧境界なり。

爾の時に普賢菩薩摩訶薩、重ねて師子奮迅三昧を明さんと欲し、佛の神力を承けて如來を觀察し、大衆を觀察し、如來の不可思議の境界を觀察し、諸佛の三昧を觀察し、不可思議の世界を觀察し、不可思議の智慧を觀察し、一切法の皆悉く如幻なるを觀察し、不可思議なる諸佛の平等を觀察し、無量無邊の一切の音聲語言道を觀察せんが故に、偈を以て頌して曰はく、

〔三七〕一一の毛孔の中に、普く最勝の海を現じ、佛は如來の座に處して、菩薩衆に圍繞せらる。

一一の毛孔の中に、無量の諸佛海あり、道場にて華坐に處し、淨妙の法輪を轉じたまふ。

一一の毛孔の中に、一切の刹塵に等しき、最勝は跏趺して坐し、普賢の行を演說したまふ。

最勝は一刹に坐して、十方界に充滿したまひ、無盡の菩薩は雲のごとくに、佛の所に來詣せり。

無量億の佛刹に、塵數の菩薩集まり、如來を圍繞して、爲めに諸の法界を說く。

諸の佛刹を顯現して、法界の智海に入り、普賢の行に安住して、諸佛の刹を滿足せり。

如來の、一切諸の世界に安住して、深く菩薩の行に入り、勝法雲を聞かんことを樂ふ。

一一の刹にて無量、億劫に諸行を修し、彼の行を修習し已りて、深法海を究竟し、大願海を滿足して、如來地に安住せり。

最勝の法を出生し、普賢の行を具足し、功德海を成就して、無量の自在を得。

【三七】頌に十偈あり、次第に前の十法を頌す。

如來身は雲の覆ふがごとく、一切諸佛の刹に、普く甘露の法を雨らし、衆をして佛道に住せしめたまふ。』

〔三八〕爾の時に世尊、諸の菩薩をして師子奮迅三昧に安住せしめんと欲するが故に、眉間の白毫相より光を放ちたまひ、普照三世法界門と名け、不可說の世界微塵に等しき光明を以て眷屬と爲し、普く十方一切の世界海を照したまへり。◎時に祇洹林の菩薩大衆、普く雲集せる者、悉く一切の法界虛空界に等しき、一切の佛刹、種種の色、種種の淸淨、種種の安住、種種の形、是の如き等の一切世界の諸大菩薩、現に道場に坐し、菩薩圍繞し、諸天供養し、等正覺を成ずることを見。或は不可說の佛刹微塵に等しき諸の眷屬の中に於て、妙音聲を出だし、法界に充滿して淨法輪を轉ずることを見。或は天の宮殿に在り、龍の宮殿・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人・及び非人等の諸の宮殿の中に在ることを見。或は人の聚落城邑、大王の京都に在りて、種種の身、種種の姓名、種種の色、種種の圓光、種種の光網、種種の辯、種種の眷屬、種種の持、種種の敎持、種種の音聲を現じて、爲めに法を說くことを見る。此間の如來、諸の菩薩の爲めに甚深の三昧・神力變化を現じたまへるが如く、一切法界虛空界に等しき十方一切の世界海の中に、國土身及び衆生身を現じ、諸業の起す所、乃至一毛孔の中に、一切悉く現ずるも、亦復た是の如し。而も三世を壞せず、衆生を壞せず、普く一切諸の衆生心を照

【三八】第九、放光の益を示し、法界に證入せしむることを明かす、初に放光見法を叙す。

し、色身清淨にして應に化すべき所に隨ひて、普く一切衆生類の前に現じ、一切諸佛の妙法を開示して、衆生を調伏し、如來の自在神力を顯現す。

(三九)其れ衆生の如來の自在神通力を見聞し念知する者有るは、皆佛の宿世の善知識なり。皆悉く四攝の善根を修習し、一向に專ら無上菩提を求め、諸の善根を攝して方便を成就せり。如來の不可思議なる自在三昧を逮得して、悉く法界虛空界と等しく、或は法身を得、或は色身を得、或は菩薩の具足せる諸行を得、或は清淨の諸波羅蜜を得、或は菩薩の圓滿なる淨行を得、或は菩薩の諸地を得、或は菩提の自在を得、或は如來の不壞の三昧を得、或は如來の諸行の智力を得、或は如來の無礙辯才を得たり。此の諸の菩薩は、是の如き等の十不可說の佛刹微塵に等しき諸の妙功德を得たり。所謂る、種種の道、種種の門、種種の入、種種の度、種種の方便、種種の至、種種の方、種種の光明、種種の功德、種種の功德具、種種の自在なり。深く菩薩の諸の三昧海に入れり。所謂る、普く法界を莊嚴する菩薩の三昧、普く三世を照して無礙なる三昧、不壞法界智の三昧、隨時に深く如來の境界に入る三昧、普く虛空を照す三昧、如來力を行ずる三昧、如來の無畏莊嚴師子奮迅三昧、一切法界の方便藏三昧、無礙法界の淨月三昧、清淨莊嚴の法雲三昧、癡障を除滅する法王幢三昧、一一の境界の中に悉く一切の佛海を見る三昧、一切世間不可壞の身の清淨なる光明智幢三昧、深く佛身に入る無壞三昧、一切世藏に隨順する三昧、諸法の無跡無依三

【三九】以下見法の因緣と所得の益相とを明かす。

味、圓滿なる普照寂滅三昧、無所有にして善く化し普く化して徧く照す三昧、一切の佛刹を攝持する三昧、一切の佛刹を莊嚴して成菩提を現ずる三昧、一切の正法を行ずる三昧、一切衆生の境界を行じて無礙なる三昧、一切の諸佛を生ずる三昧、一切の佛德海を究竟する三昧、一一の境界より盡未來際の功德を出生する三昧、一切如來の本生海を解了する三昧、盡未來際に一切如來の種姓を護持する三昧、現在の十方一切の佛刹海を悉く淨めしむる三昧、一念の中に於て普く一切の佛住を照す三昧、障礙を遠離して深く一切の境界に入る三昧、一切刹を一佛刹に入らしむる三昧、一切の佛の化身を出だす三昧、決定智慧の金剛王をもつて一切の根海に入る三昧、一切の佛身を住持するに皆一身藏にして差別無き三昧、一念の中に於て一切の佛の法界に住して方便盡くること無き三昧、一切法界の佛刹の中に於て涅槃を示現する三昧、無上地に住する三昧、一切世界の衆生をして、悉く其の身を見しめて別異無き三昧、一切の佛智現前する三昧、一切法の實相を知る三昧、一念の中に於て具さに分別して三世を知る三昧、一念の中に於て一切の法界藏を知る三昧、皆隨順して如來智の師子の行を知る三昧、一切の境界に於て慧眼圓滿なる三昧、十力の境界に等しき三昧、一切の境界に於て平等眼を以て示現する三昧、一切の妙色を出生して衆生見るに厭き足ること無き三昧、無動藏の三昧、一法に一切の法を攝する三昧、一言に普く一切の音聲を說く三昧、一切の佛の無二法の三昧、三世を離れたる三昧、一切劫を分別する不壞智の三昧、微細の方便をもつて十力に內る三昧、一切劫に菩薩の行を出

生して斷つこと無き三昧、一切十方に普雲現前する三昧、菩提は自在にして法界に無礙なる三昧、一切の覺を分別する正希望安隱幢の三昧、一切の莊嚴をもつて虛空を莊嚴する三昧、念念の內に於て化雲を出生する三昧、垢を離れたること空の如き如來の月光三昧、一切の佛持空の如き三昧、一切法の莊嚴法光三昧、一切法の義燈を開く三昧、十力の圓滿光三昧、三世一切の佛幢三昧、一切の佛の同一藏三昧、念念の中に於て一切事を發起し究竟する三昧、無盡の功德藏三昧、無量無邊の諸佛の境界を示現する三昧、一切法に住する金剛師子座の三昧、一切の如來の變化出生し顯現して知見せざること無き三昧、一切のもの如來日を念ずる三昧、一日に悉く三世を覺る三昧、自然に寂靜解脫する三昧、一切の佛を見る三昧、鉢曇摩華をもつて莊嚴せる一切法界の決定智三昧、一切法に著無き虛空淨眼三昧、一方に十方海を攝する三昧、深く無底の法界に入る三昧、一切の法海三昧、一切の光を放つ寂靜身の三昧、一念に一切の通明願を出生する三昧、一切時一切處に菩提を成ずる三昧、一切の法界一莊嚴に入る三昧、一切の佛の住持する三昧、一切衆生の勝地智明三昧、一念の中に一身法界に充滿する三昧、一身の中に清淨の法界を顯現する三昧、普門より法界に入りて大莊嚴を顯現する三昧、一切の佛法の圓滿なる輪智を住持する三昧、一切法の方便をもつて一方便を莊嚴する三昧、因陀羅網に衆生界の諸願を攝して精進住持する三昧、一切の世界輪を分別する三昧、蓮華の妙德自在の三昧、一切の衆生身を分別する三昧、一切の衆生身に對現する三昧、一切の音聲海を分別する三昧、一切の衆生地を

了別する三昧、不可壞の大悲藏三昧、一切の佛は如來際に入る三昧、一切の佛の法門を修習する三昧、師子奮迅を觀察する菩薩の三昧なり。是の如き等の不可說の佛刹微塵に等しき三昧門は如來海に入り、一切の佛の自在三昧に入り、念念の中に於て法界に充滿せり。

(三〇)彼の諸の菩薩には一一皆妙師子の座有りて、悉く十方世界と等し。(三一)大自在甚深の智慧を現じ、悉く諸地の明淨なる智慧を得、普く一切は智性より生ずと觀じ、專ら一切智を求め、離癡の慧眼を具足し成就せり。(三二)悉く衆生の爲めに調御師と作り、諸佛の平等なる正法を修行して、決定して一切の境界を了知し、分別して一切の世界を了知す。(三三)寂滅の法を樂ひて世間を遠離し、常に閑靜を好み、諸の佛刹に遊びて染著する所無く、一切法に於て心所依無し。(三四)莊嚴せる妙法の宮殿に安住して、一切の衆生を敎化し成就して、一切の衆生の爲めに佛刹を顯現し、無上の智門を具足し成就し、離欲際に順じて智慧身を得、一切諸の有爲海を消竭して、一切衆生の爲めに眞實際を顯はし、法海の慧光具足し圓滿して、皆悉く堅固なる三昧に安住せしめ、大悲心を以て常に衆生を念ひ。(三五)一切の衆生は皆悉く夢の如く、一切の如來は皆悉く電光の如く、一切の言音は皆悉く響の如しと解り、一切の法は皆悉く化の如しと解りて、諸願を滿足し、菩薩の行を具へ普智圓滿に、方便淸

【三〇】次に法に因りて德を成ずることを明かす、別して十德を擧ぐ。
【三一】一、深智を成就する德。
【三二】二、法を解了して師となる德。
【三三】三、緣に隨って著することと無き德。
【三四】四、衆生を成就する德。
【三五】五、解深くして行を具する德。

淨にして、心寂靜を樂ひ、一切諸の陀羅尼の智慧境界を成滿せり。(三六)十力を具足して、恐怖を遠離し、法界に安住して淨法眼を具し、一切法無所有の門を得て、無量智慧の大海を修行し、究竟して智慧の彼岸に到り、悉く般若波羅蜜の力を得、神通波羅蜜を成就して衆生海を度し、三昧と波羅蜜とに於て悉く自在を得、善く一切を知りて智に錯謬無し。(三七)巧妙の方便をもつて法藏を開示し、辯才を具足して大願を成就し、諸力を具足して法雲盡くること無く、大衆の中に於て能く師子吼して、畏る所無く、常に正法を求めて心に所著無く、淨慧眼を以て癡闇を滅除し、智月圓滿にして世の生滅を照し、智慧を成就して大光明を放ち、一切の諦を照し、善巧の方便と、智慧功德とは金剛の山のごとく、三世一切の法王を超出して、無所畏を覺し、智の功德幢は諸の魔幢を滅し、精進圓滿の智幢を建立して、無上の身を具足し成就せり。(三八)一切法の無礙の智慧を得、無盡智の眞實際を覺了して眞際に安住し、決定の無相三昧を修行し、巧方便は諸の菩薩行を生ず、無二の智慧は諦かに境界世間諸趣を見、普く佛刹を照して染著する所無く、一切法に於て癡闇を除滅し、智慧を究竟して皆悉く圓滿ならしむ。(三九)淨法の光を放ちて十方界を照し、一切衆生の爲めに不虚の福田と作る、若し見聞せん者は、願ふ所成滿し、一切世間の功德の須彌と爲り、恐怖を遠離し、諸の外道を伏し、微妙の音を以て一切刹に徧く、常に諸佛を見たてまつりて心に厭足無く、如來の自在なる法身を成就

【三六】六、得法の智能の德。
【三七】七、巧便勝智の德。
【三八】八、理智眞に契ふ德。
【三九】九、攝生見佛の德。

し、其の所應に隨ひて而も之を化度し、能く一身を以て一切刹に滿ち、少方便を以て清淨なる自在神力を具足し、普く十方に遊びて障礙する所無く、智慧圓滿にして徧く法界を照し、一切衆の爲めに明淨の日を曜かし、其の所應に隨ひて功德を讃歎し、一切衆生の諸根の希望を了り、一切法に於て無諍の境界を得、分別して諸法の自性と大小の相攝とを了知せり。(四〇)如來の甚深の地を決了して、句味身を說き、諸法の深義は窮盡有ること無く、一言の中に於て普く一切の修多羅海を說き、一切諸の陀羅尼の廣き智慧身を究竟じて、無量劫の陀羅尼を究竟し、一念の中に於て決定して不可說の劫を了知し、一念の中に於て三世の法陀羅尼に了達し、普く無量の諸佛の法海を照し、一切衆生の爲めに淨智慧を起して、正法輪を轉じ、能く壞する者無く、如來の智慧境界を成就して、常に善現三昧正受に入り、障礙を遠離して深く諸法に入り、一切法に於て勝智の自在を得、淸淨に一切の境界を莊嚴して、深く十方甚深の法界に入り、十方一切の法界を攝取し、一一の微塵の中に於て成正覺を現じ、無色の性に於て、一切の色を現じ、能く一方を以て一切方を攝す。彼の諸の菩薩は是の如き等の無量の功德智慧の藏を具足し成滿して、常に一切の諸佛の爲めに讃歎せられ、句味身を以て、其の功德を說くとも、窮盡すること能はず、皆悉く祇洹林に雲集せり。

(四一)爾の時に彼の諸の菩薩は、深く如來の功德大海に入る。入り已りて菩薩の身中、及び樓閣の中、

【四〇】十、照法圓融の德。
【四一】次に德に因りて用を起すことを明かす。

莊嚴具の中、師子座の中に於て、樂法の力を以ての故に、不可思議力の故に、念念の中に於て各無量の光明雲を放ち、普く法界を照して、衆生を覺悟せしめたり。所謂る、一切の寶香光明雲を出だして、三世の諸佛の功德を讃歎し、微妙の音聲、十方に充滿せり。一切衆生雲の境界の光明を出だして、一切衆生の淸淨の業報を說き、微妙の音聲は十方に充滿せり。一切の菩薩の願行莊嚴光雲を出だして、一切の菩薩の願行功德を說き、一切の佛の變化身雲を出だし、一切如來の微妙の音聲は、十方に充滿せり。一切菩薩身雲を出だして、相好莊嚴し、一切の佛刹に於て微妙の音を以て諸佛を讃歎し、十方に充滿せり。三世の佛の莊嚴道場雲を出だし、一切の佛の成等正覺を現じて、十方に充滿せり。一切境界の中に於て龍王雲を出だし、一切香を雨らして十方に充滿せり。一切の佛身雲を出だして普賢の行を歎じ、十方に充滿せり。一切佛刹の淨光明雲を出だし、一切如來の轉法輪の音は十方に充滿せり。時に諸の菩薩は、威神力の故に、此の法の力の故に、是の如き等の不可說の佛刹微塵に等しき雲を出だせり。

(四二)爾の時に文殊師利菩薩摩訶薩、佛の神力を承けて、十方を觀察し、祇洹林の中の無量の莊嚴を讃歎せんと欲して、偈を以て頌して曰く、

(四三)「祇洹の中を觀察するに、如來の自在力にて、一切の境界より、無量の功德雲を出せり、

【四二】第十、文殊菩薩讃歎して德を顯はすことを叙す。

【四三】述讃の頌に十三半偈あり、前の五は祇洹の中に顯示せられたる三世間の法を歎ず、餘頌は諸菩薩等の得法業用を歎ず。

無量の淨妙なる色にて、種種に莊嚴し、皆悉く普く、十方諸佛の刹を照現せり。
佛子の身の毛孔より、佛の音聲雲を出だし、種種の寶莊嚴は、十方の刹に充滿せり、
其の身は梵王の如く、威儀常に安靜にして、徧く十方の刹に遊び、妙なる音聲を演出せり。
如來の毛孔より、不可思議の身を出だし、皆悉く普賢の如く、衆妙の相をもつて莊嚴せり◎
菩薩は普く、三世の功德海を成就し、虛空に充滿して、莊嚴雲を出生せり。
此の祇洹の中に於て、妙なる音聲を演出して、普く一切衆の、善淨の業果報を說けり。
一一の境界の中に、悉く佛の刹海と、三世の諸の如來の、無量の自在力とを現せり。
如來の毛孔の中より、一切諸の世界の、微塵に等しき佛刹は、皆悉く分別して現せり。

【四四】次に顯德の益、中に三段あり、初に所得の行體を明す。

一切境界の中より、諸佛雲を出生し、無量の善方便をもつて、一切の衆を度脫せり。
華雲・香炎雲、淸淨の摩尼雲、種種の莊嚴雲は、十方に充滿せり。
三世一切の佛の、莊嚴せる妙道場は、此の祇洹林に於て、一切悉く顯現せり。
普賢等の佛子は、無量種に莊嚴し、衆生に等しき劫の中にて、修せし所の嚴淨の刹、是の如きの諸の世界は、悉く祇洹林に現せり。』

【四四】時に彼の一切諸の菩薩衆は、如來の三昧を以て照されしが故に、一一皆不可說の佛刹微塵に等

しき大悲の法門を得て、衆生を饒益し安樂にし攝取せり。(四五)彼の諸の菩薩は、一一の毛孔に於て各不可說の佛刹微塵に等しき光明を出だし、一一の光明の端に、各不可說の佛刹微塵に等しき菩薩を出だし、其の身は尊重にして、諸の世間に於て最も爲殊勝なり。(四六)其の所應に隨ひて皆悉く顯現し、法界に充滿して衆生を敎化し、未だ度せざる者を度し、未だ脫せざる者は脫せしむ。(四七)不可說の佛刹微塵に等しき諸天の宮殿の無常死の相と、一切諸法の皆悉く夢の如きとを現じ、道場を讃歎して一切菩薩の諸の大願門を說けり。◎或は一切世界に於て受生を示現し、一切の衆生の爲めに、廣く檀波羅蜜門を現じ、或は一切諸佛の圓滿なる淨戒の功德、尸羅波羅蜜門を現じ、或は一切の支節を斷ずる羼提波羅蜜門を現じ、或は精進を勤修する毗梨耶波羅蜜門を現じ、或は一切の菩薩の禪定三昧相續解脫の法門と、如來の圓滿なる智慧の光明とを現じて、專ら一切の佛法を求め、一一の句身味身の義の爲めの故に、能く無量無數の身を捨てて、諸佛の所に詣りて、無量の法門を問へり。善く時會を知り、其の所應に隨ひて爲めに法を說き、一切の衆生をして一切智に住して、方便智光海門を逮得せしめ、悉く能く諸の佛菩薩を供養し、衆魔を降伏し、諸の外道を制して、悉く能く菩薩の力門を顯現し、一切の技術と明淨の智地とを知り、衆生をして勝妙の法を得しめんと欲して、悉く能く衆生の諸根煩惱•習氣と、種種の

【四五】次に所得の行相を明かす。
【四六】後に行の勝用を明かす。
【四七】行用の中、以上は總じて大用を辯じ、以下別して悲用を顯はす、中に五門化益あり、一に欣厭門、二に十度門、三に三輪門、四に三世開身、五に三業門是れなり。

業報と、及び智慧地とを了知せり。是の如き等の不可說の佛刹微塵に等しき法門を以て、衆生を敎化せり。◎或は天宮を現じ、或は龍宮・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽等の宮を現じ、或は梵宮を現じ、或は人宮を現じ、或は閻羅王宮を現じ、或は地獄・餓鬼・畜生の處を現ぜり。大悲智慧と、及び諸の大願とは沮壞す可からず、衆生を攝取して方便を捨てず。或は名號を以て敎化し、或は憶念を以て敎化し、或は音聲を以て敎化し、或は圓滿の光明を以て敎化し、或は光明の網を以て敎化し、其の所應に隨ひて悉く其の前に現じ、處處の莊嚴を現じて佛の所を離れず、樓閣の座を離れずして而も普く十方に現じ◎或は化身の雲を放ち、或は無二の身を現じて、十方に遊行し、衆生を敎化し、或は聲聞の色像を現じ、或は梵天の色像を現じ、或は一切の苦行の色像を現じ、或は良醫の色像を現じ、或は商人の色像を現じ、或は正命の色像を現じ、或は伎人の色像を現じ、或は天の色像を現じ、或は一切の技術の色像を現じ、或は一切の城邑・聚落・京都の色像を現じ、其の所應に隨ひて其の所に往詣せり◎或は種種の色身音聲を現じて衆生を敎化し、或は諸の語言の法、種種の威儀、種種の菩薩行、種種の巧術を現じて、一切の智明は世間の燈と爲り、普く衆生の業報莊嚴を照し、諸方を分別し、悉く圓滿なる菩薩の諸行を行じ、悉く一切の城邑・聚落・京都を現じて衆生を化度せり。

〔四八〕爾の時に文殊師利童子は、善安住樓閣より出でて一切同行の諸の菩薩と倶なりき。金剛力士は

【四八】以上本會を竟り、以下は末會、初めに發起能化の緣を明かす。

常に隨つて侍衞せり。本願具の足天、樂つて法を聞く地天、常に大悲を習ふ泉池方天、愚癡を除滅する夜天、佛を出生する晝日天、正法界虛空を莊嚴する河天、衆生の生死を度する海天、一切の善根薩婆若を長養する山天、一切の衆生身を莊嚴し、諸願を滿足して一切の佛を供養する身天、一切の衆生を守護する城天、一切の衆生を守護する夜叉王、一切衆生をして歡喜せしむる乾闥婆王、一切の餓鬼趣を除滅する鳩槃茶王、生死海に於て衆生を拔濟する迦樓羅王、正しく薩婆若を求むる阿修羅王、佛を見たてまつりて歡喜し厭き足ること無き摩睺羅伽王、常に生死を厭ふ諸天王、常に佛を敬禮する諸の梵天王等、倶に佛の所に詣りて、頭面に足を禮し、諸の供養を設け已りて、南方に辭退せり。

(四九)爾の時に尊者舍利弗は、佛の神力を承けて、文殊師利童子の、菩薩の莊嚴を以て自ら莊嚴して、祇洹林を出でて南方に遊行するを見たり。見已りて是の如きの念を作さく、『我今當に文殊師利菩薩と倶に行くべし』と。爾の時に尊者舍利弗は、六千の比丘の眷屬の與めに圍繞せられ、(五〇)自房より出でて佛の所に來詣し、足を禮して辭退し、(五一)文殊師利に向へり。此の六千の比丘は是れ舍利弗の共行の弟子にして、皆新に出家せるなり。其の名を海智比丘・大善調伏比丘・功德光比丘・大童子比丘・電光與比丘・淸淨行比丘・天妙德比丘・因陀羅慧比丘・

【四九】次に敎化を成ずることを明かす、中に於て初は攝比丘會なり、第一に身儀の益を明かす。

【五〇】聲聞の小涅槃を捨つることを表示して自房より出づと云ふ。

【五一】文殊に向ふとは一乘道に趣向するの義を表す。

梵天比丘、寂靜慧比丘と曰へり。是の如き等の六千の比丘は、已に曾て過去の諸佛を供養し、諸佛の所に於て諸の善根を種ゑ、性樂清淨にして信心明徹し、諸の大願を行じ、佛の境界を觀じ、法の實相を了りて衆生を饒益し、常に樂つて專ら諸佛の功德を求めたり。此等の比丘は皆是れ文殊師利の化度する所なり。爾の時に尊者舍利弗、大衆を觀察して海智比丘に告げて言はく、

『汝は、文殊師利菩薩の淸淨の身は、相好莊嚴して、一切の天人の能く思議する莫く、光明圓滿にして、無量の衆生をして歡喜の心を發さしめ、大莊嚴の妙光明の網を放ちて、衆生の無量の苦惱を除滅することを觀察す可し。其の眷屬の善根を成就せることを觀ぜよ。其の遊步は、威儀庠序にして、遊行する處は、自然に平正にして、十方無礙なることを觀ぜよ。其の功德所行の道路は、其の傍に、悉く衆妙の寶藏有りて、自然に發はれ出づることを觀ぜよ。其の過去の諸佛を供養したる善根の依果は、衆の林樹より莊嚴藏を出だすことを觀ぜよ。彼の一切諸天の大王の恭敬し禮拜して供養したる雲雨を觀ぜよ。海智よ、汝、文殊師利を觀ぜよ、一切の如來の眉間の毫相より、無量の光を放ちて諸佛の法を說き、悉く其の頂に入る』と。

爾の時に尊者舍利弗、諸の比丘の爲めに文殊師利の無量功德と、諸の大莊嚴とを讃說せり。彼の諸の比丘は讃歎を聞き已りて皆悉く歡喜し、其の心淸淨にして諸の垢穢を離れ、身體柔輭にして諸根を調伏し、障礙を遠離して現に諸佛を見たてまつり、正しく菩提を求めて、菩薩の淸淨なる諸根

を逮得し、菩薩の力を具へ、大悲を長養し、諸の波羅蜜に入り、宏誓の願を發し、悉く十方の諸の如來海を見たてまつれり。時に諸の比丘、尊者舍利弗に白して言はく、

『唯然り、大師よ、願はくは倶に往いて文殊師利に詣でよ。』

爾の時に尊者舍利弗、諸の比丘と與に其の所に往詣せり。到り已りて文殊師利に謂へらく、

『此の諸の比丘は、皆新に出家して仁者を見んと欲す』と。

爾の時に文殊師利童子、卽ち爲めに菩薩の自在を顯現し、象王の回るが如く比丘を顧視たまへり。時に諸の比丘は、頭面に足を禮し、却きて一面に住し、合掌して立ち、是の如きの念を作さく、『我等は此の禮拜の功德を以て、法の實相を知ることは、和上舍利弗、釋迦牟尼世尊の如く、淸淨の身と、相好の音聲と、神力の自在とを得ることは、文殊師利の如くならん』と。

【五二】第二に以下語業の攝益を明かす。

【五二】爾の時に文殊師利、諸の比丘に告げたまはく、

『汝等當に知るべし、若し善男子、善女人、十種の大心を成就せば、則ち佛地を得ん。況んや菩薩地をや。何等をか十と爲す。所謂る、廣大の心を發して一切善根を長養し、不退を究竟して心に厭足無く、一切の佛を見たてまつりて、恭敬し供養して心に厭足無く。正しく一切の佛法を求めて、心に厭足無く、徧く菩薩の諸波羅蜜を行じて心に厭足無く。一切の菩薩の三昧を具足して心に厭足無

く、一切三世の流轉に於て心に厭足無く。佛刹を嚴淨し、十方に充滿して心に厭足無く、一切の衆生を教化し成就して心に厭足無く。一切の刹に於て、一切劫の中に菩薩の行を行じて心に厭足無く、廣大の心を發して一切の佛刹微塵に等しき諸波羅蜜を修習し、一切の衆生を度脫して佛の十力を具へしめて、心に厭足無し◎若し、善男子善女人、是の如き十種の大法を成就せば、則ち能く一切の善根を長養し、生死の趣と一切の世間性とを離れ、聲聞緣覺の地を超出して、如來の家に生れ、菩薩の大願を具足し成就し、菩薩の行を行じ、菩薩地に住し、如來の功德力を成就し、衆魔を降伏し、諸の外道を制せん。』

彼の諸の比丘此の法を聞き已りて、皆無礙の淨眼三昧を得て、悉く十方一切の如來と、及び其の眷屬と、無量の衆生とを見たてまつり。亦種種の世界の形類と、衆寶の宮殿と、及び諸の微塵とを見、乃至如來の十眼の境界をも皆悉く覩見たてまつり。彼の諸の如來の種種の句身味身と、種種の辯才微妙の音聲とを以て、說きたまふ所の法海を、皆悉く聞知し。彼の世界の中の一切衆生の心念と、諸根とを皆悉く了知し、彼の衆生の過去未來の諸趣の受生を知れり。又能く彼の過去未來、各十劫の事を知り、彼の如來の十種の本生、十種の菩提を成就する自在、十種の轉法輪、十種の神力、十種の教誡、十種の說法、十種の辯才を知れり◎此の三昧を得たる時、十種の實際菩提心と、一萬の三昧と、一萬の淨波羅蜜とを具足し成就して、大智慧の圓滿なる光明と菩薩の十明を得て菩提心に住せり。

(五三)爾の時に文殊師利菩薩は、諸の比丘を勸めて普賢の行を修し、普賢の行を行ぜしめたまひ。彼の諸の比丘は、大願海を出生せり。大願海を生じ已りて、身心清淨にして、不死の通明を得たり。是の明を得已りて、此の處を離れずして、一切如來の法身を出生して、十方に充滿し、一切の佛法を具足せり。

(五四)爾の時に文殊師利菩薩は、彼の諸の比丘の菩提心を建立し已りて、其眷屬と與に漸く南方に遊び、覺城の東に至り、莊嚴幢娑羅林の中の大塔廟の處に住したまへり。過去の諸佛の遊止せられし處にして、亦是れ過去の諸佛の菩薩たりし時、苦行を修せし所なり。此の處は常に一切の天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・人・非人等に供養せらる。時に文殊師利は、卽ち此の處に於て普照一切法界修多羅を說き、百萬億の修多羅有り以て眷屬と爲す。此の法を說きし時に大海の中に於て無量千億の龍王有り、眷屬と倶に文殊師利に來詣して、此の法を聞き已りて、龍趣を厭離し、正しく佛道を求め、龍身を捨て已りて天人の中に生じ、一萬の龍王は阿耨多羅三藐三菩提に於て、不退轉を得たり。

(五五)時に覺城の人、文殊師利莊嚴幢娑羅林の中の大塔廟の處に在すを聞けり。聞き已りて、優婆塞・優婆夷・童男・童女、皆悉く往いて文殊師利に詣でたり。時に優婆塞有り、名けて大智と曰ひ、千の優婆

【五三】以上は自分の法、以下は勝進の法を授くることを明かす。

【五四】次に攝龍王會。

【五五】以下は通じて善財會にして、善財童子五十三參の法門を說く。初に信位を明かす、四段あり、初に集衆を敍して所被の機を顯はす。

塞の眷屬と倶なり。其の名を須達多優婆塞・婆須達多優婆塞・功德光優婆塞・名稱德優婆塞・寂靜德優婆塞・歡喜德優婆塞・善慧優婆塞・大慧優婆塞・賢優婆塞・賢妙德優婆塞と曰へり。是の如き等の千優婆塞と倶に、頭面に足を禮して退きて一面に坐せり。復た五百の優婆夷有り、其の名を大慧光優婆夷・善光優婆夷・善身優婆夷・可樂身婆優夷・跋陀羅優婆夷・賢德優婆夷・賢光優婆夷・光明幢優婆夷・妙德光優婆夷・善眼優婆夷と曰へり。是の如き等の五百の優婆夷と倶に、頭面に足を禮して退きて一面に坐せり。復た五百の童子有り、其の名を善財童子・善行童子・善戒童子・善威儀童子・善精進童子・善心童子・善慧童子・善覺童子・善眼童子・善臂童子・善光 勝 童子と曰へり。是の如き等の五百の童子と倶に頭面に足を禮して退きて一面に坐せり。復た五百の童女有り。其の名を善行童女・跋陀羅童女・悅樂顏童女・堅固慧童女・妙功德童女・勝體童女・梵天與童女功德光童女・善光 明 童女と曰へり。是の如き等の五百の童女と倶に頭面に足を禮して、退きて一面に坐せり。

【五六】第二に機を觀察して爲に方便を說授することを明かす。

〔五六〕爾の時に文殊師利、覺城の大衆集り已れるを知り、其の所應に隨ひて、大慈の力を以て彼をして清涼ならしめ、大悲現前して、將に法を說かんが爲めに、甚深の智慧をもつて其の心を分別し、大辯力を以て爲めに法を說きたまはんとして。善財童子を觀察したまへり◎『何の因緣を以てか名けて善財と曰ふや』と。此の童子は、初め受胎の時、其の宅內に於て七大寶藏有り、其の藏より普く

七寶の樓閣を出だし、自然に金・銀・瑠璃・玻瓈・眞珠・硨磲・碼碯を周備せり。此の七寶より七種の牙を生ぜり。時に此の童子は、胎に處ること十月にして出生し、端正の支體具足せり。其の七種の寶牙は、高さ三尋にして廣さ七尋なり。又其の家の內に、自然に五百の寶器を具有し、衆寶を盛り滿たしたり。金の器に銀を盛り、銀の器に金を盛り、金剛の器に衆香を盛り、衆香の器に寶衣を盛り、玉石の器に上味饌を盛り、摩尼の器に雜寶を盛り、種種の寶器に酥油蜜、及び醍醐、資生するの具を盛り、瑠璃の器に衆寶を盛り、玻瓈の器に硨磲を盛り、硨磲の器に玻瓈を盛り、碼碯の器に赤珠を盛り、赤珠の器に碼碯を盛り、火珠の器に淨水の珠を盛り、淨水珠の器に火珠を盛れり、是の如き等の五百の寶器は自然に行列せり。又衆寶を雨らして諸の庫藏に滿てり。此の事を以ての故に、婆羅門の中の善く相を明す師は、字けて善財と曰へり。

【五七】第三に正しく所授の法を說くことを明かす。

此の童子は、已曾過去の諸佛を供養し、深く善根を種ゑ、常に淸淨を樂ひ、善知識に近づき、身口意淨くして、菩薩の道を修し、一切智を求め、諸佛の法を修し、心の淨きこと空の如くして、菩薩の行を具へたり。

〔五七〕爾の時に文殊師利菩薩、象王の囘るが如くに善財を觀察して、之に告げて曰はく、

『吾當に汝が爲めに微妙の法を說くべし。卽ち爲めに諸佛の正法を分別し、諸佛の次で世に興るの法、淨き眷屬の法、轉梵輪の法、諸佛の色身相好淸淨莊嚴の法、一切諸佛の法身を具するの法、諸

佛の音聲妙莊嚴の法を分別し、一切如來の平等の正法を說くべし。

(五八)爾の時に文殊師利は、善財等の一切大衆、此の法を說くことを聞きて、皆大いに歡喜し、菩提心を發せることを知り、過去の諸の善根を顯明し已りて、本座を捨てず、應の如く覺城の衆生を化度し已りて南方に遊行したまへり。

爾の時に善財童子は、文殊師利に從ひて、佛の是の如き諸の妙功德を聞き、專ら菩提を求めんとて、文殊師利に隨從し、偈を以て頌して曰はく、

(五九)『三有を城郭と爲し、高慢を垣牆と爲し、諸趣を却敵と爲し、染愛を深塹と爲し、

愚癡の闇に覆蔽せられ、三毒常に熾んに燃え、惡魔を君王と爲し、童蒙依止して住す、

貪愛に纏縛せられ、諂曲は正行を壞り、疑惑は慧眼を障へて、諸の邪道に流轉す、

慳嫉に纏縛せられ、餓鬼の難に趣向し、生老病死逼りて、愚癡は趣輪を轉ず。

(六〇)圓滿なる無上の悲と、淸淨なる智慧の日とは、煩惱の海を消竭す、願はくは顧みて少しく觀

【五八】第四に勝進行を引成することを明かす。

【五九】頌に三十四偈あり、初の四は自己の迷沒して出離することを能はざることを傷み、後の三十は文殊の德を歎じて救濟を垂れんことを請ふ。

【六〇】次の九頌は文殊の九種の德を歎じて凡夫の苦を離れしめんことを望む、九種の德とは卽ち悲智の德、慈慧の德、法化の德、願滿の德、救苦の德、自在の德、力用の德、善淨の德、淨明の德、是なり。

察したまへ、
圓滿なる無上の慈と、慧光とはもつて衆生を安んじ、一切曜らさざる無し。月王、願はくは我を照したまへ、
一切法界の法は、淨法を四兵と爲し、常に正法輪を轉じたまふ、願はくは我を化するに妙法をもつてしたまへ、
菩提の願を具足し、功德藏を積集して、一切の衆を饒益す、大師、願はくは我を度したまへ、
忍鎧をもつて身を莊嚴し、智慧の劒を執持して、魔の嶮惡道に於て、我を濟ひ衆難を免かれしめたまへ、
法の須彌頂に住し、妙定の天女侍べり、阿修羅を降伏す、帝釋、我を觀察したまへ、
離垢の力を具足して、一切有を分別したまふ、世間の明淨なる燈、願はくは我に正趣を示したまへ、
諸の惡道を遠離して、悉く善趣を淨からしめ、我に解脫の門を開きて、諸の世難を超出せしめよ、
常・樂・我・淨に著して、生死に迷惑するも、淸淨の智慧眼をもつて、願はくは解脫の門を開きたまへ。

（六一）諸の顚倒を遠離し、無畏にして正道を知り、諸の正趣に了達せり、我れに菩提を示現したまへ、

正見地に安住せる、諸佛の功德樹は、常に正覺の華を雨らす、願はくは我に菩提を示したまへ。

世間の明淨の日なる、三世の諸の如來は、法の如く來去したまふ、願はくは我をして悉く見しめたまへ。

一切の業を分別して、深く諸法の性を知れる、決定智慧の乘、我に摩訶衍を示したまへ、

諸願の輪成滿して、大悲盡す可からず、淨妙の德をもつて莊嚴せり、

我を菩提の乘に安んせしめたまへ、

淨法界を具足し　大慈をもつて觀察を爲し、功德の華にて莊嚴せり、

我に第一乘を賜へ、

梵行の座に安住し、三昧の女朝に侍べり、微妙法の音樂あり、我に法王の道を示したまへ、

無盡の四攝藏、功德莊嚴の智、光明は一切を照す、願はくは速かに勝道を示したまへ。

施慧の圓滿なる光あり、旃檀の戒を身に塗り、忍辱をもつて大莊嚴せり、願はくは速かに正道を示したまへ、

深く諸の禪定に入り、群生の類を敎化して、方便乘を具足せり、我を勝法の乘に安せしめ

【六一】後の二十偈は德を歎じて其の果法を求め、成行得果を希ふことを頌す。

たまへ、

諸願の圓滿なる輪は、永く生死の輪を絶ち、持智の力を具足せり、我を妙法の乘に安せしめたまへ、

一切悉く殊妙にして、大悲をもつて衆生を觀じ、勝妙の行を究竟せり、我を實智の乘に安せしめたまへ、

金剛の慧に安住し、一切智を究竟して、諸の障礙を除滅す、我を賢聖の乘に安せしめたまへ、

慈悲甚だ彌廣にして、諸の群生を安樂にし、法界に等しき淨眼あり、我を無上の乘に安せしめたまへ、

衆の苦陰と、諸の業煩惱の輪とを除滅し、一切の魔を降伏せり、我を正法の乘に安せしめたまへ、

智慧十方を照し、諸の法界を莊嚴し、衆生の願を滿足せしむ、我を勝妙の乘に安せしめたまへ。

心の淨きこと虛空の如く、邪見愛を除滅して、一切の衆を饒益す、我を勝法の乘に安せしめたまへ、

安住すること風輪の如くに、普く一切の剎を持して、衆をして定地に住せしむ、我を殊勝の乘に安せしめたまへ、

安住すること大地の如くに、大悲の力を具足して、智慧をもつて衆生を益す、我を最勝の乘に
安せしめたまへ、
四攝の光圓滿にして、群生の類を饒益し、總持淸淨の光あり、我に明淨の日を示したまへ。
淨慧眼を開發したる、莊嚴妙智の王は、冠むるに無上冠を以てしたまふ、法王、慈をもつて我を
顧みたまへ。』

〔三〕爾の時に文殊師利、象王の回るが如く、善財童子を觀じて、是の如きの言を作さく、
『善い哉善い哉、善男子よ、乃ち能く阿耨多羅三藐三菩提心を發し、善知識を求め、善知識に親近し、菩薩の行を問ひ、菩薩の道を求めんとせり。善男子よ、是は爲菩薩第一の藏にして、一切の智を具す。所謂る、善知識を求めて、親近し恭敬して、之を供養するなり。是の故に善男子よ、應に善知識を求めて、親近し恭敬し、一心に供養して厭き足ること無く、菩薩の行を問ふべし、「云何んが菩薩の道を修習し、云何んが菩薩の行を滿足し、云何んが菩薩の行を淸淨にし、云何んが菩薩の行を究竟し、云何んが菩薩の行を出生し、云何んが菩薩の道を正念し、云何んが菩薩の境界道を緣じ、云何んが菩薩の道を增廣し、云何んが菩薩の普賢行を具するや」と。』

【三】以下、文殊菩薩の攝受を明かす。

爾の時に文殊師利、善財童子の爲めに、偈を以て頌して曰はく、

(六三)『善い哉、功德の藏、能く我が所に來詣して、廣大の悲心を發し、專ら無上道を求めたり。

(六四)先づ諸の大願を發し、衆生の苦を除滅し、菩薩の行を究竟して、無上道を成就せよ。

(六五)若し諸の菩薩有り、生死の苦を厭はずして、普賢の行を具足せば、

一切能く壞ること莫けん、

功德の光勝れてより、淸淨の功德海となる、正しく普賢の行を求めて、一切の衆を饒益せよ。

(六六)無量にして邊有ること無き、世界の諸佛の所に、淨き法雲を說くを聞き、受持して忘失せざれ、

悉く十方界に於て、普く無量の佛を見たてまつり、諸の願海を成滿して、菩薩の行を具足せよ、

方便海を究竟して、如來地に安住し、諸佛の敎に隨順して、一切智を逮得せよ、

一切世界の中に、法王の積劫の行なる、普賢の道を具足して、佛の菩提を究竟せよ、

一切刹の劫海に、菩薩の行を修習し、諸の大願を滿足して、普賢乘を成就せよ、

無量なる諸の衆生、彼の名號を聞かん者は、普賢の願を修習して、無上道を成ずることを得ん。』

【六三】頌に十偈あり、初の一は善財の已成の行を歎じ、後の九は普賢の行を歎じて修せしむ。

【六四】此の一頌は發大願を敎へて行の本と爲さしむ。

【六五】次の二頌は普賢の行を擧げ、彼を勸めて求めしむ。

【六六】後の六偈は普賢の行を辯ず、次第の如く多く法を聞く行、多く佛を見る行、敎に順じて修行すること、一切時の行、一切處の行、大益を成ずる行を示す。

# 巻の第四十七

## 入法界品第三十四の三

(一)爾の時に文殊師利、此の偈を說き已りて、善財に告げて言はく、『善男子よ、此の南方に於て一國土有り、名けて可樂と曰ふ、其の國に山有り名けて和合と曰ふ、彼の山中に一比丘有り、功德雲と名く。汝彼に詣でて問へ、「如何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修し、乃至云何んが普賢の行を具するや」と。善男子よ、彼の比丘は善能く菩薩の所行を顯說せん。』

(二)時に善財童子は、文殊師利に從ひて法を聞き、觀喜して頭面に足を禮し、繞ること無數帀、瞻仰し悲戀し、泣涕して辭退し、漸漸に南に行けり。(三)可樂國に向ひて、和合山に登り。彼の山中に於て十方に周徧し、一心に觀察して、大師を求覓すらく、「爲めて何の所に在すや」と。是の如く尋求すること乃し七日に至る。(四)爾の時に善財、彼の比丘は乃し山頂に在し

【一】上來文殊菩薩の攝化に依りて信位成滿したるを以て、今は後の十住の初發心住を指示して進趣せしむ、文に五段あり、第一、法を舉げて修を勸む。

【二】第二、教に依りて趣入することを明かす。

【三】第三、推求簡擇を明かす。

【四】第四、正しく法界を得ることを明かす。中に於て初に人を見、二に禮を設け、三に諮問し、四に諮問し、五に正說す。

て、靜思して經行したまへるを見已りて馳せ詣り、頭面に足を禮し、右に繞りて住し、大聖に白して言さく、

『我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。我、大師の善能く宣揚したまふを聞けり。唯願はくは慈を垂れて、具足し演說したまへ』。

時に彼の比丘、善財に告げて言はく、

『善い哉善い哉、善男子よ、乃ち能く阿耨多羅三藐三菩提心を發して、菩薩の行を問へり。善男子よ、是の如き事は難中の難なり。所謂る、能く菩薩の所行を問ひ、菩薩の道を修し、菩薩の境界に入り、清淨なる菩薩の道を出生し、菩薩の清淨なる廣心を求め、諸願を具足し、世閒の應に化すべき所の者に隨順し、生死の中に於て解脫の門を求め、有爲無爲、心に染著せず。善男子よ、我（五）解脫の力に於て清淨なる方便の慧眼を逮得し。普く照して一切の世界を觀察するに、境界無礙にして、一切の障を除く。一切の佛の化の陀羅尼力は、或は東方の一佛・二佛・十・百・千・萬・十億・百億・千億・百千億の佛を見たてまつり、或は百億那由他・千億那由他・百千億那由他の佛を見たてまつり、或は無量阿僧祇・不可思議・不可稱・無分齊・無邊際・不可量・不可說・不可說不可說の佛を見たてまつり、或は閻浮提の微塵に等しき佛を見たてまつり、或は四天下の

【五】定に依りて發す所の作用無礙なるを解脫と云ふ。

微塵に等しき佛を見たてまつり、或は小千世界の微塵に等しき佛を見たてまつり、或は二千世界微塵に等しき佛を見たてまつり、或は三千大千世界の微塵に等しき佛を見たてまつり。南西北方四維上下も、亦復た是の如し。種種の形色、種種の自在、遊戯神通、種種の眷屬莊嚴、大光網を放ち、種種清淨に莊嚴せられたる佛刹は、受化の者に隨ひて、自在なる菩提の法門を示現し、諸の如來の大衆の中に於て師子吼したまふを見たてまつる。善男子よ、我は唯此の普門光明觀察正念諸佛三昧を知るのみ。◎（六）豈に能く菩薩の圓滿なる清淨の智行を了知せんや。諸の大菩薩は圓滿にして普く照す念佛三昧門を得て、悉く能く一切の諸佛と、及び其の眷屬と嚴淨の佛刹とを覩見し。一切衆生の顛倒を遠離する念佛三昧門を得て、一切衆生の所應に隨ひて、悉く清淨ならしめ。一切力究竟の念佛三昧門を得て、諸佛の十力を正念し修習し。諸法の中に心顛倒無き念佛三昧門を得て、悉く一切の佛雲を覩見たてまつることを得、彼の佛の所に於て聞法し受持す。十方一切の如來を分別する念佛三昧門を得て、悉く一切世界海中の諸の如來海を見たてまつり。不可見不可入の念佛三昧門を得て、微細の境界に於て、一切の佛の自在の境界を見たてまつり。諸劫不顛倒の念佛三昧門を得て、一切劫に於て常に諸佛を見たてまつり、未だ曾て遠離せず。隨時の念佛三昧門を得て、一切の時に於て常に諸佛を見たてまつり。佛刹を嚴淨する念佛三昧門を得て、一切の佛刹を起して能

【六】第五、仰推勝進を明かす。中に於て初の一句は總にして、後は別して顯す。二十一門あり前の十門は念佛の勝徳圓滿を明かし、後の十一門は念佛の妙用自在を顯はす。

く壞する者無く、普く諸佛を見たてまつり。三世不顚倒の念佛三昧門を得て、悉く三世の諸佛、及び其の眷屬を見たてまつる。無壞境界の念佛三昧門を得て、一切の境界に於て悉く諸佛を見たてまつり。寂靜の念佛三昧門を得て、一念の中に於て、悉く一切世界中の一切如來の涅槃を示現したまふことを見たてまつり。離月離時の念佛三昧門を得て、一日の中に於て、悉く一切如來の遊行し敎化したまふことを見たてまつり。廣大の念佛三昧門を得て、一佛身結跏趺坐して法界に充滿したまふことを見たてまつり。微細の念佛三昧門を得て、一毛孔に於て、一切の佛等正覺を成じたまふことを見たてまつり。莊嚴の念佛三昧門を得て、一念の中に於て、一切の佛の一切の世界に於て等正覺を成じ、神力自在なることを見たてまつり。淸淨事の念佛三昧門を得て、一切佛の慧光普く照し、妙法輪を轉じたまふことを見たてまつり。淨心の念佛三昧門を得て、自心明了にして、一切佛を見たてまつり。淨業の念佛三昧門を得て、一切衆生の諸業を見るに鏡中の像の如し。自在の念佛三昧門を得て、一切の莊嚴せる法界に諸佛の充滿したまふことを見たてまつり。虛空に等しき念佛三昧門を得て、如來の身は普く法界、及び虛空界を照したまふことを見たてまつるなり。』

(七)爾の時に功德雲比丘、善財に告げて言はく、

『善男子よ、南方に國有り、名けて海門と曰ふ。彼に比丘有り名けて海雲と曰ふ。汝應に彼に詣り

【七】次に第二治地住を明かす、五段あり、前に準じて知るべし。

て菩薩の行を問ふべし。善男子よ、彼の比丘は能く分別して善根と、(八)具因の善根と、(九)大地の善根と、(一〇)大力の善根とを説き、能く菩提の因緣を讃歎し、摩訶衍を廣め、波羅蜜力を增廣し、一切の菩薩の行海を顯現し、善能く大願を清淨圓滿ならしめ、能く清淨なる普門の莊嚴法門を出生せしめ、大悲の力を生ぜしめん。』

時に善財童子、功德雲比丘に從ひ、法を聞きて歡喜し、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、眷仰し顧戀して、辭退して南に行けり。◎一心に善知識の敎と、智慧光明の菩薩の法門と、菩薩の三昧とを正念し、一切菩薩の諸の方便海と、圓滿なる功德とを觀察し、心常に一切の菩薩を見んことを樂ひ、一切の佛の次第に世に興る清淨の功德を念じ、漸く南方の海門國土に趣き、海雲比丘に詣で、頭面に足を禮し、右に繞り畢りて、退いて一面に住し、白して言さく、

『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發し、一切智慧の大海に度らんと欲したるも、而も未だ知らず◎菩薩は云何んが生死の性を離れ、不退轉を得て如來の家に生れ。生死の海を度りて、如來の一切智海を逮得し。凡夫地を捨てて、如來地を得。生死の流を斷ちて、菩薩の流に入り。諸趣の輪を滅して、諸願の輪を滿じ。衆魔を降伏して、佛の功德を具し。愛欲の海を渇して、大悲の海を長じ。諸の惡道を閉して、天人の路、諸の解脫門を開き。三界の城を出でて、一切智の城に到り。一切

【八】具因の善根とは地前の善なり。
【九】大地の善根とは地上の善なり。
【一〇】大力の善根とは佛地の善なり。

玩好の具を捨離して、宏誓の願を發し、衆生を攝取せん。』

（二）爾の時に海雲比丘、善財に告げて言はく、

『善男子よ、汝已に阿耨多羅三藐三菩提心を發せしや。答へて言はく、「唯然り」と。善男子よ、若し深く善根を植ゑざれば、則ち能く阿耨多羅三藐三菩提心を發さじ。◎（三）普門の善根と、普照光明の法門とを得て、正道を長養し。三昧の慧光は、種種功徳の海藏を出生し、白淨の法を長じて、未だ曾て退失せず。善知識に親近して、恭敬し供養し。身命を惜まず、藏積する所無く。諸の憍慢を離れ。心安くして動せざること猶ほ大地の如く。大慈をもつて一切の群生を愍念し。一切諸の生死の門を遠離し、好んで佛の境界を樂はん者は、能く菩提心を發さん。◎（三）大悲の心、一切の衆生を救護するが故に。大慈の心、一切の衆生を安樂にするが故に。疲倦すること無き心、一切衆生の諸の苦惱を滅するが故に。饒益の心、一切衆生の不善の法を滅するが故に。無畏の心、一切諸の惱害を除滅するが故に。無礙の心、一切の障を滅するが故に。廣大の心、一切の法界に充滿するが故に。無邊の心、虚空界に等しきが故に。廣心、一切の如來を見たてまつるが故に。清淨の心、三世の法に於て智違はざるが故に。智心、一切の智海を究竟するが故に。

【二】以下、正しく當位の法界を示すことを明かす、二段あり、初に善財の法器を歎ず。

【三】次に別して徳を歎ずる中に、初に能發の徳を擧ぐ、此等の徳を具する者は方に能く發心す。

【三】次に所發の徳を擧ぐ、此の十徳を具するは即ち是れ菩提心なり。

(一四)善男子よ、我此の海門國に住すること十有二年、大海を境界として大海を觀察せり。大海の無量無邊なるを思惟し、大海は甚深にして源底を得難きを思惟し、大海の漸漸に深廣なるを思惟し、大海は無量の妙寶をもつて之を莊嚴せることを思惟し、大海は無量の水聚れることを思惟し、大海の水の色は種種不可思議なることを思惟し、大海は大身の衆生の依止する所なるを思惟し、大海は水性の所居なることを思惟し、大海は大雲彌覆せることを思惟し、大海は未だ曾て增減せざることを思惟せり。

善男子よ、我是の如く思惟せる時、(一五)復た是の念を作すらく、「世閒には頗し更に法の此の大海よりも廣く、此の大海よりも深く、此の大海よりも莊嚴せられたる者有りや、否や」と。是の念を作し已りて、即ち海底の水輪の際を見るに、妙法蓮華は自然に涌出せり。伊那尼羅の寶を莖と爲し、閻浮檀金を葉と爲し、沈水香の寶を臺と爲し、碼碯の寶を鬚と爲して、大海に彌覆せり。百萬の阿修羅王は、悉く共に百萬の摩尼寶をもつて莊嚴せる網羅を執持して、其の上に覆ひ、百萬の龍王は雨らすに香水を以てし、百萬の迦樓羅王は妙寶の繒帶を銜みて垂下し莊嚴し、百萬の羅刹王は慈心をもつて觀察し、百萬の夜叉王は恭敬し禮拜し、百萬の乾闥婆王は讃歎し供養し、百萬の天王は天の香華・末香・幢旛・妙寶の衣雲を雨らし、百萬の梵王は稽首し敬禮し、百萬の淨居天は各敬禮し已りて、

【一四】次に已が法界を示す、五段あり、初に大海を觀察して證行の方便となす。

【一五】二に海門既に開いて、法界の依正を見ることを明かす。

合掌して住し、百萬の轉輪王は七寶をもつて莊嚴し、百萬の海神王は大海より出でて恭敬し禮拜し。百萬の夜光は寶光明の網をもつて普く一切を照し、百萬の淨寶は百萬の明淨なる寶を以て莊嚴と爲し、百萬の寶藏は無量の光明を出だして普く一切を照し、百萬の閻浮檀寶は安住莊嚴し、百萬の金剛師子寶は沮壞す可からず清淨に莊嚴し、百萬の日藏寶は明淨なる光明をもつて普く一切を照し、百萬の不可壞の摩尼寶は一切の善行を出生し長養し、百萬の如意寶珠は無盡に莊嚴せり。彼の寶蓮華は如來の無上なる善根の起す所にして、悉く一切の菩薩の諸願を成滿せしめ、十方世界に顯現し出生せざる無く、一切の諸法は幻の如く、淨法より生じ、無諍の方便法の莊嚴する所、如夢の法を行じ、無爲の法印にして、究竟じて無礙の方便に到り、普く十方一切の法界を覆へり。唯佛のみの境界なり。世間に隨順して、無量阿僧祇劫に、歎ずとも盡す可からず。彼の華の上に、一りの如來在して結跏趺坐したまへるを見る。彼の佛の淨身は、上は非想非非想天に至りて充滿せざる無く、彼の如來は此の莊嚴せられたる寶蓮華の座に坐したまひ、不可思議の大衆に圍繞せられたるを見、不可思議なる圓滿の光明莊嚴を見、不可思議なる相好莊嚴を見、不可思議なる神力自在を見、不可思議なる如來の妙色を見、不可思議なる無見頂相を見、不可思議なる廣長舌相を見、不可思議なる清淨の音聲を念じ、不可思議なる圓滿の音聲を思惟し、不可思議なる如來の諸力を見、不可思議なる清淨の無畏を解了し、不可思議なる一切の諸辯を解了し、菩薩の過去の不可思議大劫の本行を憶念し、不可思議なる菩

提の自在を見、不可思議なる正法の雲を見、不可思議なる普門の莊嚴身を見、不可思議の身の左右の瑞嚴を見、一切の不可思議なる事を辨じて、衆生を饒益したまふを見たてまつる。

(二六)時に彼の如來、卽ち右の手を申べたまひて我が頂を摩で。普眼經を說きたまへり。唯是れ如來のみの境界にして、一切菩薩の淨行を出生し、普く一切の法界を照し、圓滿なる一切の法界を攝取し、普く一切の嚴淨なる佛刹を照し、一切の衆魔外道を降伏し、悉く一切の衆生をして歡喜せしめ、普く一切衆生の所行を照し、其の所應に隨ひて顯現せざる無く、普く一切衆生の根輪を照せり◎善男子よ、我佛に從ひて此の普眼經を聞き、皆悉く受持し、讀誦し、通利し、正念に思惟せり。

【二六】三に所流の無邊の敎法を領受することを明かす。

善男子假使人有りて、大海に等しき墨と、須彌聚の筆とを以て、此經を書寫せんとするも、一一の品、一一の法門、一一の方便、一一の生法門、一一の句の中の義味をも猶ほ盡すこと能はじ。善男子、我佛の所に於て千二百歲、此經を聞受せり。一一の日に於て、阿僧祇品を受けたるは、多聞陀羅尼の光明力の故なり。阿僧祇品を究竟したるは、百門陀羅尼の光明力の故なり。阿僧祇品を攝取したるは、無量旋陀羅尼の光明力の故なり。阿僧祇品を分別したるは、隨順分別諸地陀羅尼の光明力の故なり。阿僧祇品を淨めたるは、嚴勝陀羅尼の光明力の故なり。阿僧祇品を出生したるは、隨喩莊嚴陀羅尼の光明力の故なり。阿僧祇品を說きたるは、明淨音聲陀羅尼の光明力の故なり。阿僧祇品を照したるは、虛空藏陀羅尼の光明力の故なり。阿僧祇品を廣め

たるは、樹提涉陀羅尼の光明力の故なり。阿僧祇品を成じたるは、海藏陀羅尼の光明力の故なり。

(一七)其れ十方の諸天・天王・諸龍・龍王・夜叉・夜叉王・乾闥婆・乾闥婆王・阿修羅・阿修羅王・迦樓羅・迦樓羅王・緊那羅・緊那羅王・人・人王・梵天・梵天王有り、若し來りて我に問はば、我卽ち彼の爲めに開發し、顯現し、分別し、讃說して、悉く此の普眼經に安住せしめん。

(一八)善男子よ、我唯此の一の法門を知るのみ。(一九)豈に能く盡く菩薩の所行を知らんや。何を以ての故に、諸の菩薩等は一切の行を究竟したるが故なり。大願の海を究竟して、一切劫海にも斷絕せざるが故に。衆生海に入りて、應に化を受くべき者に、悉く隨順するが故に、深く一切衆生の心海に入りて、如來の十力智の光明を出生するが故に。悉く一切衆生の諸根を知りて、應に化すべき所に隨ひて時を失はざるが故に。一切の佛刹海に入りて、佛刹の堅固の願を出生するが故に。究竟して一切の佛海を恭敬し供養したてまつる大願力の故に。一切法海を度る解脫智の故に。深く功德海に入り、說の如く修行するが故に。一切衆生の語言海に度り、十方の刹に於て法輪を轉ずるが故なり。

(二〇)善男子よ、汝南方六十由旬に詣れば、一國土有り名けて海岸と曰ふ。彼に比丘有り名けて善住と曰ふ。應に往きて彼に問ふべし、「云何んが菩薩は淸淨の行を修するや」と。

【一七】 四に、衆生に傳授して同じく法界に入らしむ。
【一八】 五に己が所知を結す。
【一九】 以下仰推勝進を明かす。
【二〇】 第三修行住の善友を明かす。文段は前に準じて知れ。

時に善財童子、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、眷仰無量、辭退して南に行けり。◎爾の時に善財童子は、善知識の敎を正念し、普眼經を正念し、彼の佛の自在神力を思惟し、彼の佛の句味の法雲を受持し、正法を修習し、深法の海に入りて、法の源底を盡し、勝法を攝取して、癡瞖を除滅し、法寶の洲を了りて、海岸國に至り、十方に周徧して、大師を推求すらく、「今何の所にか在す」と。彼の比丘は、虛空を經行し、阿僧祇の天の眷屬に圍繞せられたまふを見る。時に諸の天衆、善住比丘を供養せんが爲めの故に、虛空の中に於て諸の天華を散じ、衆の妓樂を作し、微妙の音を出だし、阿僧祇の寶藏をもつて虛空を莊嚴せり。時に諸の龍王は、供養せんが爲めの故に、不可思議なる沈水香の雲を興して、徧く虛空に滿たしめ。緊那羅王は、供養せんが爲めの故に、諸の妓樂を作し、妙なる音聲を出だして虛空に充滿せしめ。諸の海神王は、供養せんが爲めの故に、和雅の音を嘯き。阿修羅王は、供養せんが爲めの故に、不可思議なる寶雲を興して虛空を莊嚴し、不可思議なる光明を放ちて普く一切を照し、不可思議なる珍玩の具を以て、虛空を莊嚴せり。不可思議の緊那羅王は、虛空に充滿して、殺害の心を離れて、善住比丘を恭敬し供養したてまつれり。不可思議の諸の羅刹王は、諸の惡形羅刹鬼等の眷屬の與めに圍繞せられて虛空に充滿せり、善住比丘の大慈力の故なり。不可思議の諸の夜叉王は夜叉衆と倶に、虛空に充滿せり、善住比丘を守護せんが爲めの故なり。周帀し圍繞せる不可思議の諸の梵天王は、虛空の中に在りて合掌し敬禮し、大音聲を以て彼の比丘を讚へ、一面に於て住せ

り。不可思議の諸の淨居天は、宮殿と倶に、供養せんが爲めの故に、善住比丘に詣でたり。

爾の時に善財童子、虚空の中の是の如きの供養を見て、合掌して善住比丘を敬禮し、白して言さく、

『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ、菩薩は云何んが正に佛法に向ひ、專ら佛法を求め、佛法を恭敬し、諸佛の法を修して、佛法を長養し、佛法を積集し、佛法を熏修し、諸佛の法を淨め、徧く佛法を淨め、諸佛の法に至るやを知らず。我、大聖は善能く諸の菩薩の法を教授したまふと聞けり。云何んが菩薩は佛法を修習して、常に諸佛を見たてまつりて未だ曾て遠離せず。常に菩薩を見て、其の善根を同うし、佛法を離れずして、智慧具足し、大願を捨てずして、一切の衆生に於て其の事を究竟し。一切劫に於て菩薩の行を修して心に疲倦無く。佛刹を捨てずして普く能く一切の世界を莊嚴し。悉く能く諸佛の自在を知見し、有爲を離れずして菩薩の行を修し、悉く如幻なるを了りて、一切趣に入り。生死を受くることを現じて而も起滅無く。常に正法を聞きて未だ曾て遠離せず。悉く能く諸佛の法雲を受持して慧光を離れず、普く三世を照すや。』

(二)爾の時に善住比丘、善財に告げて言はく、

『善い哉善い哉、善男子よ、乃ち能く阿耨多羅三藐三菩提心を發して、能く佛の法と、一切智の法と、及び無師の法とを問へり。善男子よ、(三)我已に菩薩の無礙の法門を成就せり。(三)我已に修習し分

【二】以下正しく法界を示す、中初め法器を歎ず。
【三】次に已が法界を示す、中に四段あり、初に、總じて法門を標し。
【三】次に之を釋す。

別して、明了に無礙の明淨慧光を逮得せり。慧光を得已りて、一切衆生の心行を觀察するに、障礙する所無く。一切衆生の、此に死し彼に生ずることを觀ずるに、障礙する所無く。宿命智に於て障礙する所無く。未來智に於て障礙する所無く。現在世に於て一切の衆生を知りて、障礙する所無く。一切衆生の語言法の中に於て、障礙する所無く。若し一切の衆生來りて問難せん者には、悉く能く應答して障礙する所無く。一切衆生の根を知りて障礙する所無く。衆生を敎化して障礙する所無く。一切の（二四）刹那、（二五）羅婆（二六）摩睺姤路を分別し了知して、障礙する所無く。三世海に於て障礙する所無く。己が身は十方の佛刹に充滿して、障礙する所無し。何を以ての故に。所有無き無作の神通力に依るが故なり。善男子よ、（二七）我此の神通力を得たるが故に、虛空の中に於て行住坐臥し、十方に遊騰す。一念の中に於て徧く東方の一佛世界・百佛世界・千佛百千佛無量佛世界・乃至不可說不可說の諸佛世界・閻浮提の微塵に等しき世界・乃至不可說不可說の佛刹微塵に等しき世界に至り、悉く彼の世界の中の一切の諸佛、及び其の眷屬を視見ることを得。一切の華香・末香・塗香・寶鬘・幢旛・雜綵の繒蓋・衆妙の寶網・一切の形像を、彼の如來・應供・等正覺に供養したてまつり。彼の諸の如來の開現し、宣明し、讃歎したまふ可き所は、悉く聞きて受持し、分別し通達せ

【二四】刹那(Kṣaṇa)とは最短の時間にして念頃と云ひ、一彈指の頃に六十刹那ありと云ふ、一百二十刹那を一怛刹那と名け、六十怛刹那を

【二五】羅婆(又は臘縛)(Lava)と名く、三十羅婆を

【二六】摩睺姤路(又は牟呼栗多)(Muhūrta)と名く、三十摩睺姤路を一日一夜と爲す。

【二七】三に法門の業用を明かす。

り。彼の佛の所有る過去の淨刹は、我悉く憶念せり。南西北方四維上下も亦復た是の如し。若し衆生有りて我を見ることを得ん者は、皆悉く阿耨多羅三藐三菩提を畢定せん。我が見る所の一切の衆生の如きは、若しは大、若しは小、若しは好、若しは醜、若しは苦、若しは樂なるも、化度せんが爲めの故に、其の所應に隨ひて彼に同じき身を現ぜん。若し衆生有り、來りて我が所に至らば、悉く此の正法に安住せしめん。

善男子よ、(二八)我唯此の一の無礙の法門を知るのみ。(二九)云何んぞ能く菩薩の大悲を修する戒、諸の波羅蜜戒、大乘に乘ずる戒、菩薩の道を捨てざる戒、障礙を滅す戒、菩薩藏の戒、菩提心を捨てざる戒、一切佛法の深心の戒、一切智を念じて忘失せざる戒、虚空の如き戒、一切世間の所依無き戒、壞す可からざる戒、譬喩無き戒、不濁の戒、不雜の戒、離疑の戒、清淨の戒、離塵の戒、離垢の淨戒を說かん。善男子よ、菩薩には是の如き等の無量の功德有るも、我豈に能く如實に解說することを知らんや。

(三〇)善男子よ、此の南方に於て一國土有り名けて自在と曰ひ、城を呪藥と名く。彼に良醫有り、名けて(三一)彌伽と曰ふ。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行に向ふや」と。」

時に善財童子、善住比丘の足を禮し、乃至辭退して南に行けり。爾の時に善財童子は、一心に法光

【二八】四に己が所知を結す。
【二九】仰推勝進。
【三〇】第四、生貴住の善友を明かす。
【三一】彌伽（Megha）は雲と譯す、能く法雨を注ぎ衆生を潤益するが故に名づく。

法門を正念して、法力を具足し。諸佛を正念して、三寶を斷ぜず、離欲の性を歎じ。善知識を念じて、普く三世を照し、諸の大願を念じて一切法界の衆生を究竟し。一切の有爲に於て心に所著無く、一切諸法の無常なるを觀察し。悉く能く一切の佛刹を嚴淨して、心に懈怠無く、一切の佛、及び其の眷屬に於て心に所著無く。漸く彼の國に至り、兜藥城に入りて、良醫彌伽を求むらく、『今何の所にか在す』と。爾の時に童子、彼の良醫の正法の堂に處して說法の師子の座に坐し、一萬の大衆の與めに前後に圍繞せられ、爲めに輪字莊嚴光經を說きたまふを見る。時に善財童子、良醫彌伽に詣でて、頭面に足を禮し、右に繞ること畢りて、退きて一面に住し、合掌して白して言さく、

『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行に向ひ、云何んが菩薩の行を學び、云何んか生死の中に於て常に能く菩提の心を失はざるや。云何んが平等の心を得て而も所趣無く、云何んが堅固正直の心を逮得して一切世間能く壞する者無く、云何んが大悲の力を生じて憂惱無く、云何んが淨普門の陀羅尼力を證し、云何んが智慧の光を生じて一切の法に於て癡闇を除滅し、云何んが諸の辯力を證して諸法の眞實の藏を分別し、云何んが正念の力を得て一切淸淨の法輪を受持し未だ曾て忘失せざるや、云何んが淨趣の力を得て一切趣に於て普く諸法を照し、云何んが智慧の力を得て一切法に於て決定智を得、眞實の義を了らんやを知らず。』

爾の時に良醫、善財に謂ひて言はく、

『善男子よ、汝已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せしや』。答へて言はく『唯然り』。

爾の時に良醫、師子の座を下りて、五體を地に投じ、善財を敬禮せり、禮し已りて妙金華、諸の雜寶華、無價の摩尼、勝末の旃檀を散じ、無價の寶衣を以て之を覆へり。是の如き等の衆妙の供具を以て之を供養し、敬重し讃歎して、是の如きの言を作さく、

『善い哉、善い哉、善男子よ、乃ち能く阿耨多羅三藐三菩提心を發せり。善男子よ、若し能く阿耨多羅三藐三菩提心を發す者有らば、則ち爲一切の佛を守護する性、一切諸佛の刹を嚴淨する性、衆生を化する性と爲り、一切衆生に如法を說く性、一切の業に順ずる性、一切の菩薩の行を成滿する性、一切諸の大願を斷ぜざる性、離欲を解る性、智慧明淨にして善く三世一切の法を照す性、解脫を建つる性と爲り。一切の佛の護持したまふ所と爲り、一切諸佛の常に共に護念し、善能く一切の菩薩に隨順し、一切の賢聖は皆悉く隨喜し、一切の梵天は恭敬し禮拜し、一切の諸天は恭敬し供養し、一切の夜叉王の建立する所と爲り、一切の羅刹王は恭敬し供養し、一切の龍王は之を頂戴し、一切の緊那羅王は敬心に讃歎し、一切の世界王は皆悉く敬念す。彼は一切の衆生を安慰せんが爲めに、三惡道を滅し、衆難を遠離し、一切貧窮の根本を救拔して、天人の快樂の處に安置し、善知識に遇ふて未だ曾て遠離せず、佛の妙法を聞きて菩提心を發し、淨菩提心の枝に因りて明淨の光を得、菩薩の道を照し、菩薩の智に順じ、菩薩地に住するなり。

善男子よ、當に知るべし、菩薩は能く一切衆生の爲めに甚だ難き事を作し、値ひ難く、見難し、一切の衆生の爲めに而も父母と作りて衆生を莊嚴し、一切の諸天と世人とを攝取し、衆生の無量の苦難を除滅し、衆生を守護して憂惱を遠離せしむ。菩薩は爲大風輪なり、衆生を安持して三惡道に墜落せしめざるが故に。菩薩は爲大地なり、一切諸の善根を生長するが故に。菩薩は爲大海なり、無盡の功德藏を具足するが故に。菩薩は爲日なり、明淨の慧光は普く世間を照して癡闇を滅するが故に。菩薩は爲須彌山王なり、功德善根最も高大なるが故に。菩薩は爲月なり、一切の衆生をして悉く淸涼ならしむるが故に。菩薩は爲大將なり、悉く能く一切の魔を降伏するが故に。菩薩は爲善丈夫なり、法城の中に於て君王と爲るが故に。菩薩は爲火なり、能く衆生の諸の貪愛を燒くが故に。菩薩は爲雲なり、甘露の法を雨らすが故に。菩薩は爲正見なり、悉く能く諸の妙根を長養するが故に。菩薩は爲方なり、法海を顯はすが故に。菩薩は爲橋なり、諸の衆生をして生死の海を度らしむるが故なり。』

爾の時に良醫は、善財童子、及び諸の菩薩を稱揚し讃歎し已りて、卽ち口中より大光の雲を放ち、普く三千大千世界を照せり。照し已りて、時に大千世界の大神力天、乃至諸の梵天等は、悉く良醫に詣でたり。時に彼の良醫は、卽ち爲めに方便して隨順し分別し、廣演し顯現して、輪字莊嚴光經を說きたまへり。時に彼の大衆此の經を聞き已りて、阿耨多羅三藐三菩提に於て不退轉を得。（良醫は）應に作すべき所已りて、還りて本座に升り、善財に告げて言はく、

『善男子よ、我已に所言不虛の法門を成就して、三千大千世界の諸天の語言、諸の龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人・非人等の一切語言を分別し了知せり。此三千大千世界の如く、十方無量無邊の不可說不可說の三千大千世界も亦復た是の如し。善男子よ、我唯此の菩薩の所言不虛の法門を知るのみ。云何んぞ能く諸の菩薩の行を說かんや。彼の諸の菩薩は、隨順して深く衆生の一切相海に入り、隨順して深く衆生の一切施設海に入り、隨順して深く諸の名號海に入り、隨順して深く諸の語言海に入り、隨順して深く諸句の相續海に入り、隨順して深く諸の解脫句の次第海に入り、隨順して深く諸の解脫句の相續次第海に入り、隨順して深く諸の如來海に入り、隨順して深く分別諸句海に入り、隨順して深く一切衆生の諸の語言海に入り、一切の圓滿莊嚴微妙の音聲を逮得して諸の文字輪を出生し分別せり。

【三】第五、方便具足住の善友を明かす。

(三)善男子よ、此の南方に於て一國土有り名けて住林と曰ふ。彼に長者有り、名けて解脫と曰ふ。汝彼に詣りて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の道に向ひ、菩薩の道を修し、菩薩の道を成じ、菩薩の道を思ふや」と。』

時に善財童子は、良醫の所に於て此の法門を聞き、深淨の信心を發して恭敬し、法に於て知見を決定し、善知識に因りて薩婆若を得、頭面に足を禮し、乃至辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、菩薩の所言不虛の法門を正念し、菩薩の語言海に入り、一切衆生の微細の方

便海を念じ、菩薩の諸の垢淨の法を思惟し、菩薩の善根光明を出生し、菩薩の衆生を敎化する巧方便門を淨修し、菩薩の衆生を攝する智を明淨にし、菩薩の正直心の力を堅固にし、菩薩の深心の力を長養し、菩薩の種種欲の力を淨修し、菩薩の心に諸惡を遠離せることを信じ、願心堅固にして大莊嚴を以て而も自ら莊嚴し、心に疲倦無く、勇猛精進して心退轉せず、壞す可からざる淨き信心の力を具へて、金剛那羅延も壞る能はざる所となり、一切の善知識の敎を攝取して、無礙の境界は皆悉く淸淨となり、無垢の境界は妙心に現前せり。普眼の方便光明陀羅尼地を逮得して、法界地を了し。心常に現前して、平等地と非地とを知り、莊嚴淸淨にして我所に著せずして、無二の境界に、淸淨無礙の智慧を逮得し。法地を了知して障礙する所無く、諸の方地を知りて而も退轉せず。一切の業地を分別し了知して、諸佛の大地を嚴淨し顯現し、智慧輪を得て三世を分別し、普樂光明三昧を逮得して、徧く身心を照し、一切諸の境界地に順至して、如來の智慧は普く境界を照し、一切智慧の波浪を興起して、身常に佛法の勢力を離れず。諸の如來の護持したまふ所と爲りて、其の心は悉く一切の佛と等しく。隨順智慧は普く一切を照し、其の身は一切の刹網に充滿して、大願を成就し、己が身に一切の法界を容受せり。是の如く念じ已りて、漸漸に遊行し、十二年を經て住林國に至り、周徧して解脫長者を推求せり。見已りて足を禮し、一面に於て住して、是の如きの念を作さく、『我は善利を得て善知識を見るも、善知識は世に出興すること難く、其の所に至ること難く、値遇を得ること

難く、見知を得ること難く、親近を得ること難く、共住を得ること難く、其の意を得ること難く、隨順を得ること難し』と。念じ已りて白して言さく、

『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發して、一切の佛に値ひたてまつらんと欲し、一切の佛を見たてまつらんと欲し、一切の佛の意を得んと欲し、一切の佛の心を知らんと欲し、一切の諸佛の三昧を得んと欲し、一切の佛の一切の大願に隨順して、一切の佛の一切の大願を滿せんと欲し、一切の佛の智慧光明を求めんと欲し、自身の中より一切の佛を出ださんと欲し、諸明を得て一切の佛の自在神通を知らんと欲し、一切の佛力無畏の法を淨めんと欲し。一切の佛の法を聞きて心に厭足無からんことを欲し、一切の佛の法を受けんと欲し、一切の佛法を持せんと欲し、一切の佛の法を分別せんと欲し、一切の佛の教を護らんと欲し、一切諸の菩薩と同じからんと欲し、菩薩と同じく善根の友たらんと欲し、菩薩の諸の波羅蜜を具へんと欲し、一切の諸の菩薩の行を滿せんと欲し、菩薩の清淨の大願を發さんと欲し。一切の諸佛菩薩の因緣法藏を得んと欲し。一切の菩薩の無量の法藏智慧光明を得んと欲し、一切の菩薩の諸の三昧藏を得んと欲し、一切の菩薩の諸の通明藏を出生せんと欲し、大悲藏を發し衆生を敎化して窮盡有ること無からんと欲し、分別して遊戲神通藏を知らんと欲し、分別して自在の藏を知らんと欲し、自在藏に於て心に自在を得んと欲し、十種の藏を淸淨にせんと欲し、一向に專ら此の諸の功德を求めて、長者の所に詣れり。諸願を滿せんと欲し、生死を超出せ

んと欲し、自在の法を得んと欲し、恭敬門を具へんと欲し、方便門を具へんと欲し、諸の垢を遠離せんと欲し、淸淨の莊嚴を欲し、身心の柔輭を欲し、諸根を調伏せんと欲す』と。白して言さく、『我聞く大聖は善く菩薩の方便正道を敎へて、普く一切を照し、妙法を顯現して、津濟を示導し、正法の門を開きて、顚倒を除滅し、疑惑の刺を拔き、心迷垢を離れて、重闇を照除し、諸の煩惱を離れて、永く淸涼を得せしめ、諂曲を棄捨して生死を超出し、不善根を離れて善根を長養し、諸趣を遠離して染著する所無く、一切の障を滅し、薩婆若を求めて、法王城に到り、其の心を大慈大悲に安住せしめ、菩薩の行を敎へて、諸の三昧を修めしめ、其の心は隨順の法門に安住して、廣大の心を發し、諸力を具足して一切諸の群生の心を照明したまふと。唯願はくは大聖、我が爲めに分別したまへ、云何んが菩薩は菩薩の道に向ひ、菩薩の行を修し、旣に修習し已りて、速かに菩薩の行を淸淨ならしめ、具さに菩薩の圓滿なる淨行を成ずるや。』

〔三三〕時に解脫長者は、過去の善根力と、佛の威神力と、文殊師利の憶念力とを以ての故に、菩薩の三昧門に入る。其の三昧門を攝一切佛刹無量旋陀羅尼と名く。◎ 〔三四〕入り已りて淸淨の身を得、其の身内に於て十方に各十佛世界微塵に等しき佛と、及び嚴淨せる刹とを見る。一切の大衆の過去の所行、彼の諸の如來の自在神力、一切の大願功德の具、諸の淸淨行、正道を莊嚴し、等正覺を成じ、淨法輪を轉じ、

【三三】以下已が法界を示す、初に入定瞟示。

【三四】法界の業用無礙の相を明かす。

衆生を敎化し、諸法を究竟することを、其の身内に於て皆悉く顯現して、而も雜亂無く、相障礙せず、本相の如く住し、形色同じからず、種種に莊嚴し、菩薩大衆圍繞し莊嚴して、一切諸佛の自在を顯現し、諸の願門を說き、無量の自在神力を示現せり。或は一刹に於て兜率天に處して佛事を作し、或は一刹に於て命終を示現し、或は受胎を現じ、或は處胎を現じて、自在力を顯はし、或は出生を現じ、或は中宮に處することを現じ、或は出家を現じ、或は莊嚴せる道場に往詣することを現じ、或は降魔を現じ、或は成佛を現じ、或は天宮・夜叉・乾闥婆の諸の世界王、大衆に圍繞せられ、請せられて法輪を轉ずることを現じ、或は諸趣に入ることを現じ、或は般涅槃を現じ、或は分舍利を現じ、或は塔を起して種種に彼の諸の如來を莊嚴し、種種の衆生、諸の衆生海の爲めに種種の方便、種種の根、種種の煩惱習氣を現じ、或は小衆に於て而も大衆を現ず。所謂る、一由旬の衆に十由旬の衆を現じ、乃至不可說の佛刹微塵に等しき由旬の衆に而も爲めに法を說く。彼の諸の如來は微妙の音を以て說きたまふ所の正法を、善財童子は悉く聞きて受持せり。又彼の佛の自在神力と、不可思議なる菩薩の三昧とを見たてまつれり。

(三五)爾の時に解脫長者、三昧より起ちて、善財に告げて言はく、

「善男子よ、我已に如來の(三六)無礙莊嚴の法門を成就せり。此の法門を得已りて、東方の閻浮檀光世

【三五】次には出定告示。

【三六】無礙に四義あり、一には一一の如來に各一切の無礙莊嚴を具す、二には一一の如來互に通じて無礙なり、三には一切の如來の莊嚴悉く皆此の長者の身内に入る、四には十方の佛海を徹見す、此の文に四義を具す、故に無礙といふ。

界に、星宿王如來應供等正覺と、明淨藏菩薩等の一切の大衆とを覩見たてまつる。又南方の諸力世界に、普香如來應供等正覺と、心王菩薩等の一切の大衆とを見たてまつる。又西方の香光世界に、須彌燈王如來應供等正覺と、無礙心菩薩等の一切の大衆とを見たてまつる。又北方の聖服幢世界に、自在神力無有能壞如來應供等正覺と、自在勢菩薩等の一切の大衆とを見たてまつる。又東北方の一切樂寶世界に、無礙眼如來應供等正覺と、無礙化菩薩等の一切の大衆とを見たてまつる。又東南方の香炎光世界に、香智如來應供等正覺と自在慧炎光菩薩等の一切の大衆とを見たてまつる。又西南方の普照慧日世界に法界輪幢如來應供等正覺と、散一切華幢菩薩等の一切の大衆とを見たてまつる。又西北方の普淨現世界に、一切佛寶無上幢如來應供等正覺と、法幢王菩薩等の一切の大衆とを見たてまつる。又上方の無盡佛性世界に、無量慧光圓滿幢如來應供等正覺と、法界地幢王菩薩等の一切の大衆とを見たてまつる。又下方の佛解脫光世界に、無礙慧幢如來應供等正覺と、一切衆生世界幢王菩薩等の一切の大衆とを見たてまつる。善男子よ、我十方に各一萬の佛刹微塵に等しき如來を見たてまつる。彼の諸の如來は此に來至したまはず、我彼に往かず。善男子よ、我若し安樂世界の無量壽佛を見んと欲せば、意に隨ひて卽ち見たてまつる。妙樂世界の阿閦如來、善住世界の師子如來、善現圓滿光明世界の月慧如來、寶師子莊嚴世界の毗樓遮那如來、善男子、是の如き等の一切の諸佛を、意に隨ひて卽ち見たてまつる。彼の諸の如來は此に來至したまはず、我彼に往かず。一切の佛は從來する所無く、我至

る所無きを知る。一切の佛と、及與我が心とは皆悉く夢の如しと知り、一切の佛は悉く電光の如しと知り、己が心は水中の像の如しと了知す、一切の佛は皆悉く幻の如しと知る、己が心も亦爾なり。一切佛の音聲は響の如しと知る、己が心も亦爾なり、是の如く知り、是の如く解し、是の如く入るは、善男子よ、當に知るべし、菩薩は皆己が心に由りて、諸佛の法を得、菩薩の行を修し、一切剎を淨め、衆生を教化し、諸の大願を出だし、一切の智城、遊戲の神通、不思議門、諸佛菩薩の一切の自在無礙の境界は皆己が心に由り、甚深の智を具し、一切の法を了る。是の故に、善男子よ、諸の善根を以て己が心を増長し、甘露の法を雨らして其の心を潤澤し、境界の中に於て心を清淨ならしめ、精進を勤修して心を堅固ならしめ、專ら正法を念じて心を不亂ならしめ、智慧明淨にして心垢を遠離し、明淨の慧光をもつて其の心を觀察し、自在の心を生じ、廣大の心を發して、諸佛と等しく、如來の十力を以て其の心を照すべし。

善男子よ、我唯此の如來の無礙法門を修するのみ。云何んぞ能く菩薩の諸行と、無障礙の智と、無礙の淨行とを說かんや。現在を觀察する諸佛の三昧に安住して、無涅槃の三昧を得、三世平等の正法を具足して、善く平等三昧の境界地を知り、淨身を具足して、諸佛の住したまふ不壞の境界に住し。一切諸方の法門の境界は、智門圓滿にして、智慧觀察し、普く一切を照し、己身の中に於て悉く一切世界の成壞を現じ、而も己身と及び諸の世界とに於て二想を生ぜず、衆の行を究竟して功德具足

せり。

（三七）善男子、此の南方に於て一國土有り、名けて莊嚴閻浮提頂と曰ふ、彼に比丘有り名けて海幢と曰ふ。汝彼に詣りて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の道に向ひ、菩薩の行を修するや」と。』

時に善財童子は、頭面に解脱長者の足を敬禮し、右に繞ること畢りて、無量阿僧祇の功徳を讃歎し、眷仰し觀察して、心に厭き足ること無く、悲泣して涙を流し、專ら善知識を念ひ、善知識に順じ、善知識を觀じ、善知識に由りて一切智を得、善智識に於て諂曲を遠離し、善知識に於て慈母の心を發せり、一切無益の法を遠離するが故に。善知識に於で慈父の心を發せり、能く一切諸の善法を生ずるが故なり。辭退して南に行けり。

【三七】第六、正心住の善友を明かす。

# 卷の第四十八

## 入法界品第三十四の四

爾の時に善財童子、解脱長者の教を正念し思惟し、不可思議なる菩薩の法門を念じ。不可思議なる菩薩の慧光を思惟し、隨順して深く不可思議なる甚深の法界に入り、菩薩の不可思議なる淨妙の功德を攝取し、如來の不可思議なる自在神力を顯現し。不可思議の莊嚴せる佛刹を解了し、佛の不可思議なる住持の莊嚴、安住の境界を分別して知り、不可思議なる菩薩の境界三昧の莊嚴を思惟し、不可思議なる世界の究竟無礙なるを分別し、不可思議なる菩薩の堅固の淨業深心に向ひ、不可思議なる淨業諸願を受持して、漸く南方に趣き、莊嚴閻浮提頂國に至り、周徧して海幢比丘を推求し、靜處に在して結跏趺坐したまへるを見る。

(一)三昧正受し、出入の息を滅して、身安んじて動せず寂然として覺無し。(二)其の足下より阿僧祇の長者と、阿僧祇の婆羅門とを出せり、皆悉く頂に衆寶の天冠を冠むり、各妙寶、上味の飲食、一切の寶衣・香華・寶鬘・末香・塗香・資生の具を齎し、諸の貧窮を攝して、安慰し、撫接し、衆の寶物を雨らし、

【一】以下、正しく法界を示す、七段あり、初に法體を辨す。

【二】次に法界の業用を明かす、十四門あり。

一切衆生をして皆大いに歡喜せしめ、十方に充滿せり◎其の兩膝より（三）剎利•婆羅門を出だせり、皆悉く聰慧にして形色•威儀•服飾•莊嚴、皆悉く同じからず、微妙の音を以て衆生を訓導し、惡を離れ善を修して、眞實の義に住し、四攝法を說きて衆生をして歡喜せしめ、十方に充滿せり◎腰の兩邊より一切衆生數に等しき五通の仙人を出だせり、或は草衣を服とし、或は樹皮の衣をつけ、皆澡瓶を執り、三岐の杖を持ち、威儀庠序として變異有ること無く、虛空に遊行して三寶を讃歎し、衆生の爲めに清淨の梵行を說き、善根を調伏して眞實の義を演べ、世間を攝取し、諸の衆生をして智慧の海に入らしめ、又復た世間の諸論を演說して、次第に一切の善根に住せしめ、十方に充滿せり◎其の兩脇より不可思議の龍と、不可思議の龍女とを出だし、不可思議なる諸の龍の自在を顯現して、衆生を攝取し、不可思議なる香の莊嚴雲、華の莊嚴雲、鬘の莊嚴雲、寶蓋の莊嚴雲、寶幡の莊嚴雲、衆寶の莊嚴雲、無價摩尼寶の莊嚴雲、寶瓔珞の莊嚴雲、寶座の莊嚴雲、寶宮殿の莊嚴雲、寶蓮華の莊嚴雲、寶冠の莊嚴雲、天形像の莊嚴雲、天女の莊嚴雲を雨らせり、是の如き等の雲を雨らし、各不可思議にして、普く十方一切の世界を照し、而も以て一切の如來を供養し、普く衆生をして皆大いに歡喜せしめ、法界に充滿せり◎胸の德字より無量阿僧祇の阿修羅王を出だせり、阿修羅王の不可思議なる自在神力を示現して、一切諸の大海の水、及び百千の世界を震動し、諸山王をして皆相衝擊せし

【三】剎利。具さに剎帝利(Kṣatriya)と云ひ、印度の四姓の一にして、婆羅門族の次に位する、國王及び武士の種族なり。

め、一切諸の天宮殿を震動し、一切諸魔の光明を映蔽して悉く聚墨の如くし、一切諸魔の軍衆を降伏し、衆生の放逸憍慢を除滅し、忿害の心を離れ不善の法を滅し、煩惱の山を壞し、戰諍を棄捨せり、又神力を以て衆生を覺悟し、諸惡を遠離して永く生死を絕ち、諸趣に著せず、普く衆生をして常に寂滅を樂はしめ、菩提心に住し、菩薩の行を淨くし、諸の波羅蜜に住し、菩薩地を究竟して、一切の法を照し、普く諸佛の方便の法を照して、法界に充滿せり。其の背より阿僧祇の聲聞緣覺を出だせり、二乘を以て化度すべきの衆生なるが故なり。我見に著する者には不淨觀を敎へ、貪欲多き者には慈心觀を敎へ、瞋恚多き者には緣起觀を敎へ、愚癡多き者には方便智をもつて諸法を觀察することを敎へ、等分を爲す者には無著の法を說き、境界に著する者には妙願の境界を說き、寂滅を樂ふ者には諸趣に入りて衆生を饒益することを敎へて、法界に充滿せり。其の兩肩より阿僧祇の諸の夜叉王、諸の羅刹王を出だせり、種種の惡身に、長短の形色あり、種種の乘に乘じて、各其の衆の與めに自ら圍繞せらる、其れ衆生有りて能く善を行ふ者、及び衆の賢聖、諸の菩薩等の、若しくは正道に向ひ、若しくは果證を得るものは、皆悉く防衛して之を守護せり。或は金剛力士と作りて、諸佛及び佛の住處を守護せり、若し衆生有りて諸の恐怖に遭ふも、亦之を防護して、悉く畏ること無からしめ、諸の疾病の者は除愈することを得しめ、諸の難に在る者は悉く解脫せしめ、橫死を除滅して諸の熱惱を離れしめ、衆生を敎化して實利を得しめ、生死の輪を壞して法輪を讚歎し、外道の輪を摧き

て、法界に充滿せり。其の腹より百千の阿僧祇の緊那羅王を出だせり。各百千阿僧祇阿僧祇の緊那羅女眷屬の與めに圍繞せらる。百千の阿僧祇の乾闥婆王を出だせり、各百千の阿僧祇阿僧祇の乾闥婆女眷屬の與めに圍繞せらる。百千の阿僧祇天の娛樂音を出だして實相の法を說き、諸佛を讃歎し、菩提及び菩薩の行を稱美し、菩提門を歎じ、法輪門に入り、好んで一切の自在の法門を樂ひ、一切の般涅槃門を演說し、一切の諸佛の教門を攝持し、一切諸佛の門を歡喜し、一切の諸佛の刹門を嚴淨し、一切諸の法界門を講說し、一切諸の障礙門を除滅し、一切諸の善根門を宣明して、法界に充滿せり。其の口より百千阿僧祇の轉輪聖王を出だせり。七寶具足して四兵に圍繞せられ、無慳の光を放ち、摩尼の寶を雨らし、諸の貧苦なる者は悉く富樂ならしめ、財施無き者は惠施を得しめ、諸の群生の爲めに殺盜・邪婬を離れたる法を歎じて、慈心を修習せしめ、常に愛語を說きて衆生を饒益し、妄語を除滅し、惡口を遠離して衆生を攝取し、兩舌を遠離して和合の語を說き、無義語を離れて甚深の法を說き、悉く衆生をして口過を遠離せしめ、大悲を讃歎して、衆生をして歡喜せしめ、瞋恚の心を離れ、世間の一切正法を分別し、因緣を觀察し、眞諦を照明し、諸の群生の邪見の毒刺を拔き、疑惑を除滅し、一切の障を離れ、法の實義を明して、法界に充滿せり。其の兩目より百千阿僧祇の日を出だせり。普く十方を照して一切の闇を滅し、悉く衆生をして垢曀を除滅せしめ、一切の惡道苦毒を遠離し、寒者をして溫を得しめ、垢濁の佛刹に於て明淨の光を放ち、廣く說かば乃至普く金銀瑠璃等の一

切世界、及び衆生の類を照し、衆生の心の重闇を除滅して、悉く歡喜せしめ、能く衆生の無量の事業を辨じ、一切世界の妙法の境界を莊嚴して、法界に充滿せり。其の眉間より百千阿僧祇の天主帝釋を出だせり。無量の雜寶を以て莊嚴と爲し、釋王の法を持して善く一切諸の天宮殿を照し、一切の須彌山王を震動して、悉く諸天をして天の境界に於て厭離の心を生ぜしめ、功德力を歎じ、智慧力を明し、直心の力を起し、深心の力を長じ、念力を嚴淨し、菩提心を堅固にし、欲樂を遠離し、一切の佛を樂見せんことを讃歎し、境界の樂を樂ふことを歎ぜずして聞法の樂を歎じ、世間の樂を離れて諸法の智慧の樂を觀察し、阿修羅の戰鬪恐怖を離れて、煩惱の軍を滅し、死の畏を遠離して衆魔を降さんことを願ひ、妙法の山を興して須彌山に等しき廣大の法句を説き、能く衆生の無量の事業を辨じて、法界に充滿せり。其の額上より無量の梵天を出だせり。妙色端嚴なること世界に倫無く、威儀庠序として、妙音を演出して諸佛を讃歎し、説法を勸請して衆生を歡喜せしめ、乃至能く衆生の無量の事業を辨じて、法界に充滿せり。其の頭上より阿僧祇の諸の菩薩衆を出だせり。種種の形色・相好の嚴身は、無量の光網を放ちて、檀波羅蜜を現じ、布施を讃歎し、慳吝を遠離して貪著する所無く、一切の世界を莊嚴して淨戒を稱揚し、惡戒を遠離して衆生を菩薩の律儀に安立せしめ、大乘戒を歎じて大悲の功德藏を出生し、一切の有は皆悉く夢の如しと説き、五欲の樂は滋味有ること無しと説きて、衆生を煩惱を離れたる法に安立せしめ、金色の身業を稱揚し讃歎し、慈心を讃歎し刹害を遠離し

て、畜生趣を滅し、多聞の力を歎じて衆生を忍辱力に安立せしめ、普照の自在を歎じ、放逸を遠離して衆生を不放逸に安立せしめ、禪波羅蜜を歎じて、心に自在を得て邪見の刺を拔かしめ、正見の般若波羅蜜を讃歎して、智自在を樂はしめ、世間に隨ひて生死を遠離して、而も諸趣に於て自在に生を受くることを歎じ願力滿足して諸の通明を出だし、自在の壽命を歎じて、一切の陀羅尼力を讃歎して、願力の淨三昧力を出生して、自在の生を現じ、智慧を讃歎して、普く一切衆生の諸根を照し、諸の心心の行を分別し演說し、十方智を照し、自在の薩婆若を讃歎して、法界に充滿せり。其の頂上より百千阿僧祇の佛を出だせり。身分具足し、相好莊嚴せること猶ほ金山の如く、普く一切を照し、妙音聲を出だして法界に充滿し、無量無邊の神力自在を顯現して、普く一切甘露の法雲を雨らせり。道場に坐する菩薩の爲めには平等の法雲を雨らし、灌頂の菩薩の爲めには普門の法雲を雨らし、深忍の菩薩の爲めには普莊嚴の法雲を雨らし、童眞の菩薩の爲めには堅固山の法雲を雨らし、不退の菩薩の爲めには海藏の法雲を雨らし、成就直心の菩薩の爲めには普境界の法雲を雨らし、方便道の菩薩の爲めには自性地音聲の法雲を雨らし、生貴の菩薩の爲めには隨順世間の法雲を雨らし、修行の菩薩の爲めには厭離の法雲を雨らし、治地の菩薩の爲めには長養法藏の法雲を雨らし、初發心の菩薩の爲めには精進の法雲を雨らし、信行の者の爲めには無盡門の法雲を雨らし、色界の衆生の爲めには無盡平等の法雲を雨らし、大梵天の爲めには普藏の法雲を雨らし、大自在天の爲めには生力の法雲を雨らし、魔

天王の爲めには心幢の法雲を雨らし、化樂天の爲めには淨念の法雲を雨らし、兜率天の爲めには淨意の法雲を雨らし、夜摩天の爲めには歡喜の法雲を雨らし、帝釋天の爲めには莊嚴虛空の法雲を雨らし、夜叉王の爲めには歡喜の法雲を雨らし、乾闥婆王の爲めには自在圓滿の法雲を雨らし。阿修羅王の爲めには大境界の法雲を雨らし、迦樓羅王の爲めには無量世界の法雲を雨らし、緊那羅王の爲めには饒益衆生勝智の法雲を雨らし、諸の人王の爲めには不可樂法雲を雨らし、諸の龍王の爲めには歡喜幢の法雲を雨らし、摩睺羅伽王の爲めには寂靜の法雲を雨らし、地獄の衆生の爲めには不亂念莊嚴の法雲を雨らし、諸の畜生の爲めには智慧の法雲を雨らし、閻羅王處の爲めには無畏の法雲を雨らし、餓鬼處の爲めには正希望の法雲の雨らし、悉く衆生をして賢聖門に向はしめ、法界に充滿せり◎彼の諸の如來は一一の毛孔より、各阿僧祇の淨光明網を放ち、阿僧祇の妙色。阿僧祇の莊嚴、阿僧祇の境界ありて、阿僧祇の事を辦じ、十方に充滿せり。

〔四〕爾の時に善財、一心に海幢比丘を觀察し。彼の三昧の法門を念じ、不可思議の菩薩の境界を思惟し、無量無作の現在莊嚴普門の法門を思惟し、法界莊嚴の智慧を觀察し、佛智に依りて住し、菩薩の力を出だし、菩薩の願力を建て、菩薩の諸行を增廣せり◎〔五〕是の如く正意に觀察すること、一日一夜、乃至、七日七夜、半月一月、乃至六月六日なり。此れを過ぎ已りて後、海幢比丘は三昧より

【四】三に善財をして法界を觀證せしむ。

【五】四に定を出でて德を歎ず。

起てり。

爾の時に善財は、未曾有なることを歎じ、合掌して白して言さく、

『甚だ奇なり、大聖よ、此の如きの三昧は最も爲甚深なり、此の如きの三昧は最も爲廣大なり、此の如きの三昧は境界無量なり、此の如きの三昧は不可思議なる神力自在なり、此の如きの三昧は稱量す可からず、此の如きの三昧は慧光明淨なり、此の如きの三昧は阿僧祇の莊嚴を以て莊嚴と爲す、此の如きの三昧は境界壞す可からず、此の如きの三昧は退轉有ること無し、此の如きの三昧は普く十方の一切世界を照す、此の如きの三昧は具さに無量の義趣方便を有す。大聖よ、其れ菩薩有りて此の三昧に入らば、能く一切の爲めに衆の苦を除滅し、永く地獄・餓鬼・畜生の一切の楚毒を絕ち、諸の難を遠離し、天・人趣をして悉く寂靜を得しめ、衆生をして歡喜せしめ、常に甚深なる禪定の境界を樂ひ、有爲を遠離して三界を超出せしめ、菩提心を發して、智慧功德の因緣を長養し、彌廣き無上の大悲を長養し、大願力を生じ、菩薩の道を照し、智慧をもつて六波羅蜜を莊嚴し、究竟じて大乘の境界を出生し、智慧徧くして普賢の所行を照し、菩薩の諸地の智慧光明を得、一切の菩薩の淸淨なる願行を具し、一切智の境界を證せしめん。

【六】五に、問答して名を顯はす。

(六)大聖よ、此の三昧は名けて何等とか爲す。』

『善男子よ、此の三昧は普眼捨得と名け、又淸淨光明般若波羅蜜の境界と名け。又淸淨莊嚴

普門と名く。

善男子よ、般若波羅蜜を修習するが故に、此の三昧を得たり。此の三昧を得たる時に、卽ち百萬阿僧祇の三昧を得たり。』

(七)『大聖よ、此の三昧は唯此の功德の境界有るのみなりや、復た餘有りや。』

『善男子よ、此の三昧は一切の世界を分別して障礙する所無く、一切の世界を究竟じて障礙する所無く、一切の世界に遊行して障礙する所無く、一切の世界を莊嚴して障礙する所無く、一切の世界を修治して障礙する所無く、一切の世界を嚴淨して障礙する所無く、一切の佛を見たてまつりて障礙する所無く、一切の佛の功德を觀じて障礙する所無く、一切の佛の自在神力を知りて障礙する所無く、一切の佛力を究竟じて障礙する所無く、一切の佛の功德大海を度りて障礙する所無く、一切の佛の淨妙なる法雲を雨らして障礙する所無く、一切佛法を度して障礙する所無く、一切の佛の轉法輪智の破壞す可からざるを得て障礙する所無く、一切の佛の清淨なる大衆海の源底を得て障礙する所無く、隨順して普く十方の世界に入りて障礙する所無く、隨順して十方の佛法を觀察して障礙する所無く、大悲をもつて十方の衆生を攝取して障礙する所無く、大慈をもつて十方の世界に充滿して障礙する所無く、十方の佛を見たてまつりて心に厭足無くして障礙する所無く、隨順して徧く衆生の大海に入りて障礙する所無く、衆生の一切根海を了知して

【七】六に問答して業用を顯はす。

障礙する所無く、一切の諸の衆生海を分別して障礙する所無し。

(八)善男子よ、我唯此の淸淨なる光明般若波羅蜜三昧の法門を知るのみ。云何んぞ能く諸の大菩薩の究竟の行を說かん。諸の大菩薩は皆悉く深く智慧の大海に入り、善能く淸淨の法界を分別し、智慧は一切の法趣を究竟し、慧光は無量にして一切に充滿し、大陀羅尼の自在光明を得、一切の三昧は圓滿淸淨にして一切の自在通明を出生し、深く一切の無盡辯海に入り、一切諸地の音聲を雷震して、悉く能く一切の衆生を救護せり。我尙ほ彼の所行を說くこと能はず、況んや其の功德をや。其の境界を顯し、其の境界を說き、其の法門を照し、其の積聚せる諸の功德藏を明し、其の正道諸の三昧海と、平等の智慧とを說かんや。

【八】七に唯一を知ることを結す。
【九】第七、不退住の善友を明かす。

(九)善男子よ、此の南方に於て一住處有り、名けて海潮と曰ふ。彼に園林有り、普莊嚴と名け、優婆夷有り、名けて休捨と曰ふ。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の道を修し、菩薩の道を淨めんや」と。』

時に善財童子、歡喜すること無量にして、海幢比丘の所に於て不堅固の中に而も堅固を得、不實の中に於て而も眞實を得て、功德妙藏の境界を究竟し、明淨の智を得て普く一切を照し、甚深なる三昧の光明を逮得して、淨解脫に到り、方便をもつて一切の世界を觀察し、諸の法門を淨め、明淨の智慧

は普く十方を照し、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、眷仰し觀察して、辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、海幢比丘を正念し思惟して心未だ曾て捨てず、見たてまつらんことを樂ひて厭くこと無く、聖音を顧戀し、慈顏を目想し、其の心の境界と、三昧の境界と、願行の境界とを正念し思惟し、明淨なる智慧を正念し思惟し、善知識を敬ひ、善知識に向ひ、善知識の教を念ひ、善知識に於て愛を起して恭敬せり。又是の念を作さく『善知識に因りて諸佛を見たてまつることを得たり、善知識は一切の佛法を開示し顯現したまへり、善知識は是れ奇特の法なり、人をして諸佛の法を見ることを得しむるが故に。善知識は爲明淨の眼なり、人をして佛の虛空の如きを見しむるが故に。善知識は爲善き津濟なり、人をして佛の華池に於て源底を得しむるが故に』と、漸漸に南に行けり。海潮の處に至りて、普莊嚴園林を見るに、七寶の垣牆は周帀圍繞し、諸の妙寶樹は行列して莊嚴し、一切の華樹は華を雨らすこと雲の如くに、其の地に布散し、香樹の芬馨は普く十方に薰じ、鬘樹は鬘を垂れ、寶樹は寶を雨らし、徧く布きて莊嚴し、衆の寶衣の樹は一切に彌覆し、諸の音樂の樹は微妙の音を出だせり。是の如き等の諸の珍玩具を以て而も以て莊嚴せり。此の園林の中に一萬の講堂有り、衆寶合成し、一萬の樓閣は閻浮檀金を以て其の上に覆ひ、一萬の宮殿は毗樓遮那の寶藏をもつて莊嚴し、一萬の浴池は衆寶合成し、七寶の欄楯は周帀圍繞し、八功德の水は湛然として盈滿し、閻浮檀金の沙と、淨水の寶珠とは徧く池底に布き、四面の寶階は端嚴にして齊正に、寶の多羅樹は周帀し

て行列し、凫・鴈・鴛鴦・孔雀・哀鸞のごとき、異類の衆鳥は其の中に遊戯して和雅の音を出だし、覆ふに金網を以てし、風は自然に起りて微妙の聲を出だし、衆寶の帳を設けて寶樹を周徧し、阿僧祇の殊勝なる寶幢を建て、大光明を放ちて百由旬を照し、百萬の池沼には黑栴檀の泥、池底に凝積し、寶蓮華を生じて其の中に充滿し、彼の蓮華よりは大光明を出だして普く一切を照せり。彼の園林の中に大宮殿有り、莊嚴幢と名く、海藏の妙寶を以て其の地と爲し、瑠璃の寶柱は莊嚴殊妙に、巍巍として高大なること、猶ほ金山の若く、衆生の見る者は喜樂せざる無し。阿僧祇の淨摩尼寶有りて、普く一切を照し、自然の香を出だせり。謂ゆる、明相香・香王香・覺語香等なり。衆寶の座を敷けり。謂ゆる蓮華藏の座、照諸方藏の座、明淨藏の座、衆生悅樂藏の座、師子藏の座、離垢寶藏の座、不思議の座、普門の摩尼妙寶藏の座、光嚴藏の座、大海藏の座、金剛師子藏の座ありて、無量の窗牖は妙寶をもつて莊飾せり。又一萬の衆の妙寶の帳を張れり。謂ゆる寶衣の帳、妙寶華の帳、寶樹枝の帳、摩尼寶の帳、金の帳、莊嚴の帳、香の帳、娛樂の帳、自在龍王の帳、馬王の帳、釋天の莊嚴寶の帳あり。一萬の寶網は其の上に交絡せり。謂ゆる金鈴の網、珍寶蓋の網、衆寶像の網、海藏珠の網、青瑠璃摩尼寶の網、師子吼の網、月摩尼の網、香像の網、衆寶山の網、寶玉の網あり。一萬の光明は普く世界を照せり。謂ゆる夜光摩尼の光明、日藏摩尼淨寶の光明、月幢摩尼妙寶の光明、香炎の光明、妙藏摩尼寶の光明、鉢曇摩の光明、夜光摩尼淨寶の光明、大燈摩尼淨寶の光明、普照諸方摩尼の光

明あり。又十種の大香電光を出だし、十種の雲を雨らして、諸天に出過せり。謂ゆる十種の黒旃檀の雲、十種の曼陀羅華の雲、十種の莊嚴の雲、十種の鬘の雲、十種の雜色衣の雲、十種の寶の雲、十種の天子の雲、十種の天女の雲、十種の菩薩の雲あり。常に聞かんことを樂へり。

爾の時に休捨優婆夷は金色藏の座に處して、海藏寶をもつて莊嚴せる網羅にて其の身を覆ひ、(一〇)吉由羅の莊嚴は諸天に出過し、大摩尼の網をもつて其の首を莊嚴し、師子珠寶と、無量の如意の淨摩尼寶とをもつて其の身を嚴飾し、無量億の衆は恭敬し圍繞し、合掌して住せり。東方の無量の衆生。諸の梵天王。梵身。大梵。梵輔。他化自在天王、乃至、人及び非人、一切の諸の王は、來りて其の所に詣でたり。南西北方四維上下も亦復た是の如し。其れ此の優婆夷を見ることを得る有る者は、一切衆の病皆悉く除滅す、心淨くして垢を離れ、邪見の刺を拔き、障礙を除滅し、無礙地を淨め、彼の地の中に於て善根を長養し、諸根の方便を成就し、一切の智を攝して、一切の陀羅尼門と、一切の三昧門とは、皆現在前し、一切の願門を發し、一切の行門を究竟し、一切の淨門を出生し、其の心廣大にして一切の通を出生し、無礙の身を得て至らざる所無し。

爾の時に善財童子は、普莊嚴園林に入り、周徧觀察して、休捨優婆夷の金色の座に處したまふを見、往きて其の所に詣り、頭面に足を禮し、繞ること無數帀にして、白して言さく、

【一〇】吉由羅。又は枳由邏(Keyura)は臂釧又は瓔珞と譯す、臂の莊飾具なり。

『大聖、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ知らず、菩薩は云何んが菩薩の行を學し、菩薩の道を修するや。唯願はくは我が爲めに具足して演說したまへ。』

答へて言はく、(二)『善男子よ、我唯一法門を成就せるのみ。若し我を見聞し、念知し、親近せん者は、皆悉く虛しからず。善男子よ、若し衆生有りて善根を種ゑず、善知識に親近せず、諸佛の爲めに護念せられざる者は、彼の諸の衆生、我を見ること能はじ。善男子よ、若し衆生有りて、能く我を見ん者は、則ち阿耨多羅三藐三菩提に於て不退轉を得ん。東方の諸佛は常に我が所に來り、寶師子の座に處して、我が爲めに法を說きたまへり。南西北方四維上下の一切の諸佛も、悉く我が所に來り、寶師子の座に處して、我が爲めに法を說きたまへり。善男子よ、我常に諸佛菩薩を見たてまつりて未だ曾て遠離せず。善男子よ、我が此の大衆に八萬四千億の菩薩有り、皆我と同行にして、阿耨多羅三藐三菩提に於て不退轉を得たり。此の普莊嚴園林の一切の衆會も、亦阿耨多羅三藐三菩提に於て不退轉を得たり。』

(三)善財白して言さく、『大聖よ、菩提心を發したまひてより來、爲めて久如しきや。』

答へて言はく、『善男子よ、我過去を念ふに、定光佛の所に於て出家求道して、梵行を淨修し、恭敬し供養して、法を聞きて受持せり。次に離垢佛の所に於て出家求道して、梵行を淨修し、恭敬し供

【二】正しく法界を示す、四段あり、初に法門の體用を擧ぐ。

【三】二に往因の厚薄を明かす。

養して、法を聞きて受持せり。次に妙幢佛・妙德佛・功德藏佛・毗樓遮那佛・普眼佛・梵壽佛・自在佛・善天佛に於てせり。善男子よ、我是の如き等の三十六恒河沙の佛の所に於て、出家求道して梵行を淨修し、恭敬し供養して、法を聞きて受持せり。一切諸佛の智慧を了知し、初めて菩薩の心を發して、法界に充滿し、無量の大悲をもつて衆生を攝取し、諸の菩薩の無量の大願を發して十方の法界を究竟し、無量の大悲は普く衆生を覆ひ、一切剎一切劫の中に於て、菩薩の無量の諸行を修習し、無量の三昧力は菩薩の正道を捨てず轉せず、菩薩の無量の陀羅尼力は善能く一切の衆生を護持し、菩薩の無量の淨智慧力は、方便し正念して、普く三世を照し、菩薩の無量諸の通明力は、徧く一切諸の世界網に遊び、菩薩の無量なる諸の辯才力は、能く一言を以て一切の衆を悅ばしむ。善男子よ、我は菩薩の無量の自在神力を有し、能く一身を以て一切の剎に滿せしむ。』

【三】 三に來果の久近を明かす。

(三) 善財白して言さく、『大聖よ、久如して當に阿耨多羅三藐三菩提を成ずべきや。』と

『善男子よ、菩薩は一りの衆生を教化せんが爲めの故に菩提心を發さず、百の衆生を教化せんが爲めにもあらず、乃至不可說不可說轉の衆生を教化せんが爲めの故に、菩提心を發さず、廣く說かば阿僧祇品の如し、一世界の衆生を教化せんが爲めの故に菩提心を發さず、乃至不可說不可說世界の衆生を教化せんが爲めの故に菩提心を發さず、閻浮提の微塵に等しき衆生を教化せんが爲めの故にもあら

す、三千大千世界の微塵に等しき衆生を敎化せんが爲めの故にもあらず、乃至不可說不可說の三千大千世界の微塵に等しき衆生を敎化せんが爲めの故に菩提心を發さず、菩薩は一りの如來を恭敬し供養したてまつらんが故に菩提心を發さず、乃至不可說不可說の諸の如來を恭敬し供養したてまつらんが爲めの故に菩提心を發さず、菩薩は一刹を淨めんが爲めの故に菩提心を發さず、乃至不可說不可說の刹を淨めんが爲めの故に菩提心を發さず、菩薩は閻浮提の微塵に等しき刹を淨めんが爲めの故に菩提心を發さず、乃至不可說不可說の三千大千世界の微塵に等しき刹を淨めんが爲めの故に菩提心を發さず、菩薩は一佛法を護持せんが爲めの故に菩提心を發さず、廣く說かば上の如し。菩薩は一願を滿せんが爲めの故に菩提心を發さず、一刹を莊嚴せんが爲めの故にもあらず、一佛の眷屬を知らんが爲めの故にもあらず、一佛法を受持せんが爲めの故にもあらず、一りの衆生の心海を知らんが爲めの故にもあらず、一りの衆生の根海を度せんが爲めの故にもあらず、一世界の諸劫の次第に成敗することを知らんが爲めの故にもあらず、一りの衆生の煩惱習氣を知らんが爲めの故にもあらず、一りの衆生の煩惱を斷せんが爲めの故にもあらず、一りの衆生の行を滿せんが爲めの故に菩提心を發さず、一切の諸佛を恭敬し供養せんと欲し、一切の佛刹を嚴淨せんと欲し、一切の佛法を守護し受持せんと欲し、一切の大願を滿足せんと欲し、一切の佛の眷屬を知らんと欲し、一切衆生の心海を知らんと欲し、一切衆生の心心の所行を知らんと欲し、一切衆生の諸根輪を知らんと欲し、一切の

世界、一切の劫數の次第に成敗することを知らんと欲し、一切衆生の煩惱習氣を知らんと欲し、一切衆生の煩惱を斷ぜんと欲し、一切衆生の行を滿ぜんと欲するが故に、菩提心を發す。善男子よ、略して說くに、菩薩に是の如き等の百萬阿僧祇の方便の法門有り、菩薩は悉く應に究竟して隨順智慧を了知し、究竟して菩薩等の行を修習し、一切の佛刹を淨くして心に倒惑無かるべし。善男子よ、是の故に、我此の願を發して、一切の刹を淨むれば、我が願乃ち滿じ、一切衆生の煩惱習氣を斷たば、我が願乃ち滿ず。』

(四)『大聖よ、此の法門は名けて何等と爲すや。』

『善男子よ、此の法門は離憂安隱幢と名く。我唯此の法門を知るのみ。諸の大菩薩は其の心海の如く、悉く能く一切の佛法を容受せり。我當に云何んぞ能く其の行を知るべき。諸の菩薩は心堅固にして、正直なること須彌山の如し。諸の大菩薩は則ち爲良藥なり、若し見る者有らば煩惱を除滅せん。諸の大菩薩は則ち爲淨日なり、一切の衆生の癡暗を除滅す。諸の大菩薩は則ち爲大地なり、悉く能く一切の衆生を載持す。諸の大菩薩は則ち爲智風なり、一切衆生の實義を長養す。諸の大菩薩は則ち爲自在なり、淨智の光を以て普く一切を照す。諸の大菩薩は則ち爲慶雲なり、其の所應に隨ひて甘露の法を雨らす。諸の大菩薩は則ち爲淨月なり、諸の功德の光明網を放つ。諸の大菩薩は則ち爲帝釋なり、悉く能く一切の衆生を守護す。我當に云何んぞ能く其の行を知るべ

【四】四に法門の名字を顯はす。

き。』

（一五）善男子よ、此の南方に於て一國土有り、名けて海潮と曰ふ。彼に仙人有り、（一六）毗目多羅と名け、善能く菩薩の諸行を解說す。汝彼に詣でて問へ。』

時に善財童子は、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、觀察して厭くこと無く、悲泣して涙を流し、正念し思惟すらく、『菩提を得ることは難く、善知識に遇ふことは難く、上人と共に同止することを得るは難く、菩薩の善根を得ることは難く、菩薩の正直心を滿足することは難く、同意の善知識に值遇することは難く、眞實を觀ずることは難く、法の如く正しく敎ふるは難く、妙心を出生することは難く、一切智を思ふことは難く、法明を長養することは難し』と。是の念を作し已りて、辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、菩薩の正敎に隨順して菩薩の行を淨めんことを思惟し、心に能く菩薩の德力を長養し、心に諸佛を見たてまつり、心に菩提を欲ひ、心に能く大願を發起し長養し、心十方の一切諸法を照し、心に法の實を見、心一切を覆ひて散亂有ること無く、心淨く智慧をもつて諸の法界を觀じて癡闇を除滅し、心淨く正直をもつて障礙を除滅し、心能く一切の衆魔を降伏し。漸漸に遊行して、海潮國に至り、周徧して仙人毗目多羅を推求せり。時に彼の仙人は大林

【一五】第八童眞住の善友を明かす。

【一六】毗目多羅。具さに毗目多羅涅懼沙（Vimaktaghoṣa）と云ひ最上無恐怖聲と譯す、蓋し一切智の微妙の音を以て無邊の衆生界を安慰するが故に此の名あり。

中に在せり。阿僧祇の樹は此の林を莊嚴し、寶葉普く覆ひ、諸の華果の樹は常に以て嚴飾し、寶樹は寶を雨らして徧く其の地に散じ、大旃檀の樹は周帀して行列し、諸の沈水の樹は常に妙香を出だし、（二七）尼拘律の樹、閻浮檀の樹は甘香の果を雨らし、優鉢羅・鉢曇摩・分陀利華を以て莊嚴と爲せり。

爾の時に善財、彼の仙人を見たてまつるに、此の林中に在して樹皮の衣を服け、縈髮にして草を座とし、一萬の仙人を以て眷屬と爲し、旃檀の林の如く、旃檀に圍繞せらる。往きて其の所に詣でて五體をもつて敬禮し、善知識は能く我を薩婆若門に開導せんことを念ひ、善知識は眞實道を現じたまはんことを念ひ、善知識は能く我を一切智地に安置したまはんことを念ひ、善知識は智寶の燈を然し、明淨の慧光は、十力の智慧の光明を長養せんことを念ひ。善知識の道は卽ち一切智の無盡の藏なり、善知識は爲燈なり、一切智の境界を照すが故に。善知識は爲橋なり、生死を度らしむるが故に。善知識は爲蓋なり、大慈の力を生じて一切を覆ふが故に。善知識は爲光の虚しからざるなり、一切法の眞實相を照すが故に。善知識は爲海潮なり、大悲を滿足するが故にと。是の念を作し已りて、繞ること無數帀にして、合掌して立ち、白して言さく、

『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。』

【二七】尼拘律。又は尼瞿陀、尼拘婁陀(Nyagrodha)等と云ひ無節又は縱廣樹と譯す、榕樹なり。

時に彼の仙人、大衆を觀察して是の言を作さく、

『汝等當に知るべし、此の童子は已に阿耨多羅三藐三菩提心を發し、一切の衆生に請ふて普く無畏を施して、一切の衆生を饒益し、深智の海に向ひて、一切諸佛の法雨を飲まんと欲し、一切法海の源底を盡さんと欲し、世間の智慧の大海を成ぜんと欲し、大悲の重雲を興さんと欲し、甘露の法雨を雨らさんと欲し、世間を出でて淨き智月を明らかにせんと欲し、世間の諸の煩惱の闇を滅せんと欲し、一切衆生の善根を長養せんと欲せり。』

爾の時に大衆は、各〻種種の金色の妙華香の悅樂す可きを持して、童子の上に散じ、頭面に足を禮し、躬を曲めて敬繞し、是の如きの言を作さく、

『此の童子は悉く能く一切の衆生を救護し、三惡道を滅し、閻羅趣一切の諸の難を離れしめ、欲の海を消渇して、苦陰を除滅し、愚癡の闇を捨て、貪愛の縛を斷ち、能く功德の金剛圍山に昇りて、世間に智慧の須彌を建立し、世間に於て明淨の智月を出だして、一切善根の諸法を顯曜し、世間を示導して、明らかに善惡を知らしめん。』

時に彼の仙人、大衆に告げて言はく、『若し能く阿耨多羅三藐三菩提心を發す者有らば、一切智を得、一切の佛の功德の地を淨めん』

時に彼の仙人、善財に告げて言はく、『善男子よ、我已に菩薩の無壞幢智慧の法門を成就せり。』

善財白して言さく、『大聖よ、彼の法門は〔一八〕境界云何ん』と。時に彼の仙人は、即ち右の手を申べて善財の頂を摩でたまへり。摩で已りて善財の手を執れり。即時に善財自ら其の身を見るに、十方の十佛世界の微塵に等しき佛の所に在り。彼の諸佛の相好莊嚴を見たてまつるに、阿僧祇の寶珍玩の具を以て其の刹を莊嚴せり。又彼の佛の眷屬大海を見るに、從つて聞く所の法は悉く能く受持し、乃至一句一味をも失はず。正法の梵輪を分別し受持し、諸の法雲を受けて佛の大願に入り、諸力を淨修し、願行を清淨にし、諸の功德藏を究竟せり。彼の諸佛の應化に隨ひて、一切の衆生を度したまふことを見、一切の佛の清淨圓滿なる大光明の網を見たてまつる。見已りて、無礙の智慧光明に隨順して佛力を究竟せり。或は自ら身一佛の所に於て一日一夜なるを見、或は復た自ら餘佛の所に於て七日七夜なるを見る。是の如く次第して餘佛の所に於て、或は半月・一月・一歲・百歲・千歲、或は百千歲・百千億歲、或は百億那由他歲、或は半劫・一劫・百劫・千劫・百千劫、或は百億那由他劫、乃至不可說不可說那由他劫、或は閻浮提の微塵に等しき劫、乃至不可說不可說の世界の微塵に等しき劫有り。爾の時に善財は、無壞幢智慧の法門の爲めに照さるるが故に、明淨藏三昧を得。無盡法門三昧に照さるるが故に、一切方に遊ぶ陀羅尼の光明を得。金剛圓滿光明の法門に照さるるが故に、分別智意樓閣三昧を得。平地の莊嚴法藏に住する般若波羅蜜の精進に照さるるが故に、佛の虛空藏三昧の光明を得。一切諸佛の法輪三昧の光明の相に照さる

〔一八〕 境界とは業用の分齊を云ふなり。

るが故に、三世圓滿智無盡の光明を得たり。
時に彼の仙人、善財の手を放てり。爾の時に善財、即ち自ら身を見るに還つて本處に在り。
時に彼の仙人、善財に問ふて言はく、『汝憶念するや』と。
答へて曰はく、『唯然り、大聖の善知識力の故に』と。『善男子よ、我唯此の菩薩無壞幢智慧の法門を知るのみ。我豈能く大菩薩の行を知らんや。諸の大菩薩は皆一切衆生の自在三昧を得たり。一切時輪に於て自在を得、諸佛の無盡の智慧を出生して、一切の佛の嚴淨なる慧燈を證し、一念の中に於て三世の事を了り、一切の世間に於て淨慧の身を現じて、法界に充滿し、衆生の所應に隨ひて悉く其の前に現じ、一切衆生の所行を了知し、圓滿清淨にして悉く愛樂す可し。我豈能く大菩薩の行を知らんや。妙功德の願、嚴淨の佛刹、善く輪機を察すること、智慧の境界、甚深の三昧、神力の自在なること、解脫の境界、遊戲神通、法身の音聲、究竟の智慧、是の如き等の事は、我が境界に非ず。

【一九】第九法王子住の善友を明かす。

〔一九〕善男子よ、此の南方に於て一國土有り、名けて進求と曰ふ。婆羅門有り、方便命と名く。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の道に向ひ、菩薩の道を修するや」と。』
時に善財童子、歡喜すること無量にして、恭敬し禮し已りて、繞ること無數帀、瞻仰し觀察して、辭退して南に行けり。

# 卷の第四十九

## 入法界品第三十四の五

爾の時に善財童子、無壞幢智慧法門の爲めに照されて、諸佛の不可思議なる自在神力を決了し、善く菩薩の不可思議なる法門を知れり。又不可思議なる菩薩の三昧の智慧を以て其の心を照し、一切時三昧の光明を得、一切相三昧の境界の光明を得、明淨智を得て、一切の衆生をして勝妙の處を得しめ、一切至處道の法門を得て世閒の行に隨順し、心に二有ること無く、明淨の智を以て普く境界を照し、一切聲聞の明淨なる忍藏を得、無生忍を得て法の實相を知り、常に菩薩の行を行じて、菩薩の心を捨てず、薩婆若心を增長し、十力の明を得て普く一切を照し、妙法の音を樂ひて心に厭き足ること無く、說の如く修行して薩婆若に住し、一切智の境界を究竟して、無量の菩薩の莊嚴心を出生し、菩薩の清淨なる大願を滿足し、一念の頃に於て徧く一切の諸佛の刹網に至り、無量の衆生海を敎化し成就して心に懈倦無く、悉く菩薩の無量なる行の境界を見、悉く分別して一切の世閒を見、諸の佛刹の種種に莊嚴せられたるを見、微細の境界に於て悉く能く無量の世界を安置し、又能く彼の種種の莊嚴を見て、悉く能く無量の世界の諸の語言の法を分別し、又無量の衆生の欲樂を知り、諸の衆生

の無量の所行を知り、無量の方便を以て衆生を教化し、善く殊れる方を知り、其の所應に隨ひて衆生を化度し、善知識を念じ　漸漸に遊行して進求國に至り、周徧して彼の婆羅門を推求せり。時に婆羅門は諸の苦行を修して一切の智を求め、四面の火聚は猶ほ大山の如く、中に刀山有り高峻なること極まり無し、彼の山上より自ら火聚に投じたり。爾の時に善財は婆羅門に詣でて、頭面に足を禮し、合掌して立ち、白して言さく、

『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず、願はくは我が爲めに說きたまへ。』

(二)答へて言はく。

『善男子よ、汝今若し能く此の刀山に登り、火聚に投ぜば菩薩の諸行は皆悉く清淨ならん。』

(三)爾の時に善財、是の如きの念を作さく、『人身を得ること難く、諸難を離るること難く、無難を得ることは難く、淨法を得ることは難く、佛世に値ふことは難く、諸根を具することは難く、佛法を聞くことは難く、善知識に遇ふことは難く、與に同止することを得るは難く、正敎を聞くことを得るは難く、正命を得ることは難く、正法に順趣するは難し。此れ將た魔または魔の使ふ所に非ざるか。善知識に非ずして而も善知識の相を現じたるか。將た惡菩薩に非ざるか。而も今我が爲めに壽命の難

【一】以下正しく法界を示す、六段あり、初に法を示して修を勸む。
【二】二に善財これに對して疑を起す。

を作し、善根の難、薩婆若の難を作す、此れ正しき敎に非ずして險惡の道なるのみ。法門薩婆若等の一切の佛法を遠離せり』と。

(三)是の念を作せる時、十萬の梵天虚空の中に在りて、是の如きの言を作さく、

『善男子よ、是の念を作すこと莫れ。是の念を作すこと莫れ。此は是れ大聖なり。金剛智慧の光明を具足し、精進して退かず、悉く已に一切の境界を究竟して、一切衆生の貪愛の大海を竭さんと欲し、一切諸の邪見の網を裂かんと欲し、一切衆生の煩惱を燒き、愚闇を除滅して、普く一切を照し、一切の衆生をして生死の險難を離れしめ、三世の愚癡闇冥を除滅し、淨光明を放ちて普く一切を照さんと欲したまへり』と。

時に諸の梵天、及び自在天、衆生主天等の諸の邪見天は、是の如きの言を作さく、

『我は衆生を造れり、我は爲一切世間の最勝なり、我は爲最上なり、我は爲第一なり。』

是の諸天等は婆羅門の大苦行を修して、五熱に身を炙ることを見たり。是の如きを見已りて、各諸禪に於て慈味を得ず、來りて其の所に詣でたり。時に婆羅門は自在力を以て、爲めに法を說き、邪見を滅し、我心を捨離し、大慈悲を發して普く衆生を覆ひ、菩提正直の心を長養し、四種の道を開きて、佛の法身を求め、所應化に隨ひて悉く能く示現し、佛の微妙の音は一切悉く聞きて障礙有るこ

【三】三に菩薩加被し勸めて修せしむ、中に欲界の梵天と色界の六天と龍神八部との勸誡あり。

と無からしめたまへり。
復た一萬の魔有り、虛空の中に在りて、種種の摩尼寶の華を以て、婆羅門に散じ、善財に告げて言はく、
『善男子よ、此の婆羅門は苦行の力の故に、大光明を放ち、我が宮殿、諸の莊嚴具をして、悉く聚墨の如くならしめ、我復た樂まず、卽ち無量の諸天、天女眷屬の與めに圍繞せられ、來つて其の所に詣でたるに、我が爲めに法を說き、悉く阿耨多羅三藐三菩提に於て、不退轉を得しめたまへり』と。
復た一萬の他化自在天有り、虛空の中に在りて各天華を持し、恭敬し供養して、是の如きの言を作さく、
『善男子よ、此の婆羅門は苦行の力の故に、大光明を放ち、我が宮殿、諸の莊嚴具をして悉く聚墨の如くならしめ、我復た樂まず、卽ち眷屬と與に來りて其の所に詣でたるに、我が爲めに法を說き、我をして心に於て自在を得、煩惱の中に於て自在を得、受生の中に於て自在を得、障礙を除滅して自在を得、一切の三昧に於て自在を得、莊嚴具に於て自在を得、壽命の中に於て自在を得しめたり。乃至我をして一切の佛法に於て自在を得しめたまへり』と。
復た一萬の化自在天有り、虛空の中に在りて、天の妓樂を以て恭敬し供養して、是の如きの言を作

さく、

『善男子よ、此の婆羅門は五熱に身を炙りし時、大光明を放ちて、我が宮殿、及び莊嚴具を照し、照し已りて悉く我等をして五欲を樂まず、欲樂を求めず、身心を柔輭ならしめたれば、眷屬と倶に來りて其の所に詣でたるに、我が爲めに法を説きて、心を淨くし、心を明淨にし、善く心を奇特にし、心を柔輭にし、心を歡喜せしめ、乃至清淨の十力を逮得し、離生を長養して、無量の清淨の身を出生し、乃至佛の清淨なる法身を得、清淨の口を得、微妙の音聲は徧く一切に至りて障礙する所無からしめ、乃至一切智を得しめたまへり。』

復た一萬の兜率陀天有り、其の眷屬と與に虛空の中に在りて、一切の末香の雲を雨らし、恭敬し供養して、是の如きの言を作さく、

『善男子よ、此の婆羅門は五熱に身を炙りし時、我自ら宮殿に於て須臾を樂はず、來りて其の所に詣でたるに、我が爲めに無著の法を解説したまひ、少欲にして足ることを知り、善根を長養し、菩提心を發し、乃至一切の佛法を究竟せしめたまへり』と。

復た一萬の諸天、三十三天、及び阿修羅有り、眷屬と倶に虛空の中に在りて、曼陀羅華の雲、摩訶曼陀羅華の雲を雨らし、恭敬し供養して、是の如きの言を作さく。

『善男子よ、此の婆羅門は五熱に身を炙りし時、我天の樂に於て須臾も樂著せず、來りて其の所に

詣でたるに、我が爲めに法を說きて、欲樂を遠離せしめ、乃至我が爲めに無常の法は變易して住せざることを說きて、一切の放逸憍慢を斷除し、菩提を發起するの心を長養せしめたまへり。又善男子よ、我此の婆羅門を見たてまつりし時、須彌山の頂は六種に震動せり、我爾の時に於て心大いに恐怖し、專ら一切智を求めたり。』

復た一萬の大龍王、伊那槃那難陀、跋難陀等有り、黑旃檀香の雲を興し、諸の龍王女は妙なる樂音を出だし、天華の雲、天香水の雲を雨らし、恭敬し供養して是の如きの言を作さく、

『善男子よ、此の婆羅門は五熱に身を炙りし時、大光明を放ちて普く一切の龍王の宮殿を照し、諸の龍王をして熱沙の苦と、金翅鳥の怖とを離れしめ、瞋恚の熱を滅して身體淸涼となりて、歡喜の心を發さしめたまへり。喜の心を發し已りしとき、爲めに法を說きて、惡龍趣を厭ひ、至誠に過を悔い、業障を除滅して、阿耨多羅三藐三菩提心を發し、乃至一切智に住せしめたまへり。』

復た一萬の夜叉王有り、種種に此の婆羅門、及び善財を供養し、是の如きの言を作さく、

『善男子よ、此の婆羅門は五熱に身を炙りし時、我及び羅刹、鳩槃茶等は、悉く衆生に於て大慈心を發して嬈害する所無し、慈心の力の故に、宮殿を樂まず、眷屬と倶に來りて其の所に詣でたるに、彼の婆羅門は大慈の心を以て、我等を蔭覆し、我をして歡喜し、身心柔輭にして、安隱快樂ならしめ、我が爲めに法を說きて、乃至無量の夜叉・羅刹・鳩槃茶等をして、阿耨多羅三藐三菩提心を發さしめ

たまへり。』

復た一萬の乾闥婆王有り、虛空の中に在りて、是の如きの言を作さく、

『善男子よ、此の婆羅門は五熱に身を炙りし時、大光明を放ちて我が宮殿を照し、悉く我等をして不思議の樂を得しめたれば、來りて其の所に詣でたるに、我が爲めに法を說きて、乃至阿耨多羅三藐三菩提心を發し、不退轉を得しめたまへり。』

復た一萬の阿修羅王有り、虛空の中に在りて右膝敬跪し、一心に合掌して、恭敬し供養して、是の如きの言を作さく、

『善男子よ、此の婆羅門は五熱に身を炙りし時、一切の阿修羅の宮殿、大地、大海は皆悉く震動せり。我等爾の時に高心を除滅したれば、來りて其の所に詣でたるに、我が爲めに法を說きて、一切の諂曲幻心を遠離し、深き法忍を得、不動に安住して、十力を具足せしめたまへり。』

復た一萬の迦樓羅王、勇力持等有り、化して外道の童子と爲り、虛空の中に在りて是の如きの言を作さく、

『乃至我が爲めに法を說きて、大慈に安立し、大悲を讚歎し、生死海にて五欲の泥に沒する者を度し、淨き直心門を歎じ、慧方便の翅を生せしめ、其の所應に隨ひて皆悉く化度したまへり。』

復た一萬の緊那羅王有り、虛空の中に在りて、是の如きの言を作さく、

『善男子よ、此の婆羅門は五熱に身を炙りし時、我が寶多羅樹の中、金鈴網の中、寶瓔珞の中、諸の寶樹の中、種種の樂器の中に於て、自然に微妙の音聲を演出せり。佛の聲、法の聲、比丘僧の聲、不退轉の諸の菩薩の聲、菩提心の聲、某の方の某の國に、某の菩薩有りて菩提心を發し、苦行を修行し、大布施を修し、道場を莊嚴し、道場に往詣して正覺を成じたりといふ聲なりき。善男子よ、我是の聲を聞きて卽ち大いに歡喜し、來りて其の所に詣でたるに、我が爲めに法を說きて、無量の衆生をして、阿耨多羅三藐三菩提に於て不退轉を得しめたまへり。』

復た無量の欲界諸天有り、虛空の中に在りて供養し恭敬して、是の如きの言を作さく、

『善男子よ、此の婆羅門は五熱に身を炙りし時、大光明を放ち、乃至、普く阿鼻地獄を照して苦痛を除滅せり。若し衆生有りて斯の光を見ん者は命終りて天に生ぜん。報恩を知るが故に、五欲の樂を捨てん。來りて其の所に詣で、觀んことを樂ひて厭くこと無かりしに、我が爲めに法を說きて、乃至無量の衆生をして菩提心を發さしめたまへり。』

【四】四に善財疑を除き過を悔ゆ。

〔二〕爾の時に善財童子は、奇特の法を聞きて、心大いに歡喜し、婆羅門の所に於て、眞實の善知識の心を發起し、頭面に足を禮し、是の如く白して言さく、

『向に聖教を疑ひ、知識の教に違へり。唯願はくは大聖、我が悔過を受けたまへ。』

時に婆羅門、善財童子の爲めに偈を說きて言はく、

『菩提を求めんと欲する者は、當に知識の敎に順ひ、諸の疑惑を除滅して、一心に常に恭敬すべし。

正道を修習し、法の眞實相を知らば、道場に安住して、佛の菩提を成就せん。』

(五)爾の時に善財童子は、卽ち刀山に登りて、自ら火聚に投じ、未だ中間に至らざるに卽ち菩薩の安住三昧を得たり。旣に火聚に至れば、復た菩薩の寂靜にして安樂なる照明三昧を得たり。三昧を得已りて、白して言さく、

『甚だ奇なり、大聖よ、是の如きの刀山、及び大火聚も、我が身觸るるの時、安隱にして快樂なり。』

(六)時に婆羅門、善財に告げて言はく、

『善男子よ、我唯此の菩薩の無盡法門を成ぜるのみ。法王諸菩薩の行を明淨にし、諸の願を滿足し、悉く衆生の煩惱邪見を滅し、不退轉、不可盡の心を得て、懈怠の心を離れ、一切畏るること無く、金剛那羅延藏を得て、大心の境界を究竟し、疲倦有ること無く、諸垢を遠離し、動ぜざること風輪の如く、精進して退かず、大莊嚴を以て自ら莊嚴し、衆生を饒益せり。是の如きの法門は、我當に云何んが能く知り能く說くべき。』

【五】五に說の如く修行し、正しく法界を證す。

【六】六に唯一を知ることを結す。

『(七)善男子よ、此の南方に於て城有り、師子奮迅と名け、一童女有り、(八)彌多羅尼と名く、汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、觀察して厭くこと無く辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、不可思議なる恭敬の心を起し、好んで淨法を樂ひ、專ら大乘に向ひ、諸佛の智を求め、如來に親近し、法の境界を觀じて障礙する所無く、實際を決定して實の境界に住し、三世の際に至りて、三世を解了するに虛空際の如く、決定して三世の法際を了知して、法際に住せず、無礙際に住して、業際に違はず、決定して佛の際と非際とを了知して、如來の住に住し、一切の妄想を滅し、一切の佛、一切の眷屬、一切の世界に著せず、一切の衆生は非我無實にして、一切音聲は語言の道を離れたることを知り、一切の色は猶ほ電光の如しと解り、漸漸に南に行けり。彼の城に至り已りて、周徧して彌多羅女は爲めて何の所にか在すやと推問せり。時に人有り答ふらく、『今は師子幢王宮內に在す』と。聞き已りて、卽ち門下に詣り、彼の女に見んことを求めたり。時に無量の人衆は悉く宮中に入れり、善財問ふて言はく、

『諸人よ、今、何の所にか詣でたまふ』と。

答へて言はく、『我等は彌多羅女に詣でて、正法を聽受せんと欲す。』

【七】第十灌頂住の善友を明かす。

【八】彌多羅尼(Maitriyani)は譯して慈女と云ふ、智德內に圓かにして慈心外に彰るが故に名づく。

爾の時に善財は是の如きの念を作さく『此王宮門は自在に出入して障礙する所無し』と。善財卽ち入りて彼の女人を見たてまつるに、明淨なる寶藏の法堂に處在せり。地は玻瓈の色にして、瑠璃を柱と爲し、金剛を壁と爲し、閻浮檀金の欄楯あり、牕牖は光明普く照し、阿僧祇の摩尼寶にて之を莊挍せり。又千の寶藏摩尼寶の鏡は、圓滿に莊嚴し、衆生の樂ふ所の明淨なる妙寶を以て嚴飾と爲せり。又阿僧祇の摩尼寶の網を其の上に羅覆し、百千の金鈴は微妙の音を出だせり。是の如き等の不可思議なる衆寶の挍具有りて、講堂を莊嚴せり。彼の女人を見たてまつるに、身は眞金の如く、目髮は紺色にして、淨水香の寶師子の座に處して、覆ふに金網を以てし、衆寶の衣を敷き、大衆に圍繞せられ、梵音聲を以て爲めに法を說きたまへり。見已りて頭面に足を禮し、繞ること無數帀、合掌し恭敬し一面に於て住し、白して言さく、

『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發したるも、而も未だ菩薩は、云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。』

答へて言はく『善男子よ、汝此の法堂の莊嚴を諦聽せよ。』

爾の時に善財、一一の瑠璃の柱の中、一一の金剛の壁の中、一一の摩尼の鏡の中、一一の形像の中、一一の寶の中、一一の莊嚴の中、一一の金鈴の中、一一の寶樹の中、一一の寶形像の中、一一の寶瓔珞の中を見るに、悉く法界に等しき一切の如來、初發心より菩薩の行を修し、大願を成滿して、

功德に莊嚴せられ、等正覺を成じ、淨法輪を轉じ、乃至無餘涅槃を示現したまふことを見る。淨水の中に月の影像を見るが如く、善財童子は、一切の境界莊嚴具の中に於て、一切の佛の、初發心より、乃し無餘涅槃を示現するに至るまでを見ることも、亦復た是の如し。皆是れ彼の女の過去の善根の果に依る力の故なり。

爾の時に善財、諸佛を正念し、恭敬し合掌して白して言さく、『大聖よ。此れ何の法門なるや。』

答へて曰はく、『善男子よ、是れ般若波羅蜜普莊嚴の法門なり。我三十六恒河沙の佛の所に於て此の法門を修せり。彼の諸の如來は、各異門を以て我をして此の般若波羅蜜普莊嚴法門に入らしめたまへり。』

善財白して言さく、『大聖よ、此の法門は境界云何ん。』

【九】次に別して所得を顯はす中に於て百十六門あり、分つて十位となす、初の八門は所理の理事を明かす總持。

【一〇】二、次の十門は願行の總持。

【一一】三、次の八門は業の總持。

答へて言はく、『善男子よ、我此の法門に入りて、正念し思惟し、分別し受持して平等を生せし時、普門陀羅尼等の百萬阿僧祇の陀羅尼門を得て、以て眷屬と爲せり。(九)所謂る、佛刹陀羅尼門・佛陀羅尼門・法陀羅尼門・衆生陀羅尼門・過去陀羅尼門・未來陀羅尼門・現在陀羅尼門・實際に安住する陀羅尼門。

(一〇)功德陀羅尼門・功德具陀羅尼門・智陀羅尼門・智具陀羅尼門・諸願陀羅尼門・諸願を分別する陀羅尼門・行陀羅尼門・修集行陀羅尼門・淨行陀羅尼門・滿足行陀羅尼門・(一一)業陀羅尼門・業に違はざる陀羅

尼門。業流陀羅尼門。業所作陀羅尼門。惡業を遠離する陀羅尼門。正業に向ふ陀羅尼門。業自在陀羅尼門。善行陀羅尼門。（一二）善行三昧陀羅尼門。三昧陀羅尼門。三昧に隨順する陀羅尼門。三昧を分別する陀羅尼門。無壞三昧陀羅尼門。諸通明陀羅尼門。（一三）心海陀羅尼門。種種心陀羅尼門。淨心地陀羅尼門。普く重惡の心を照す陀羅尼門。心に調御師を喜ぶ陀羅尼門。（一四）衆生を發起する陀羅尼門。煩惱陀羅尼門。習氣陀羅尼門。煩惱方便陀羅尼門。欲陀羅尼門。衆生の所行陀羅尼門。衆生の種種の業行陀羅尼門。衆生世間の自性陀羅尼門、衆生相陀羅尼門。方便陀羅尼門。說法陀羅尼門。（一五）大悲陀羅尼門。大慈陀羅尼門。寂滅陀羅尼門。諸の言語道陀羅尼門。方便非方便の陀羅尼門。隨順陀羅尼門。分別陀羅尼門。攝取陀羅尼門。無礙實際陀羅尼門。普陀羅尼門。佛法陀羅尼門。菩薩法陀羅尼門。緣覺法陀羅尼門。聲聞法陀羅尼門。世間法陀羅尼門。出世間法陀羅尼門。（一六）世界起陀羅尼門。世界滅陀羅尼門。世界形色陀羅尼門。淨世界陀羅尼門。垢世界陀羅尼門。淨世界に於て垢濁の刹を現ずる陀羅尼門。垢世界に於て淸淨刹を現ずる陀羅尼門。純淨世界陀羅尼門。純垢世界陀羅尼門。平等世界陀羅尼門。翻覆世界陀羅尼門。伏住世界陀羅尼門。入因陀羅網陀羅尼門。回轉世界陀羅尼門。住相陀羅尼門。小處に大を置く陀羅尼門。大處に小を置く陀羅尼門。（一七）佛身を分別する陀羅尼門。佛の莊嚴光明網を放つ陀羅尼門。如來の圓滿な

【一二】四、次の六門は定用の總持。
【一三】五、次の五門は他心を知る總持。
【一四】六、次の十一門は所化を知る總持
【一五】七、次の十五門は能化を起す總持。
【一六】八、次の十七門は利海の自在を知る總持。
【一七】九、次の二十七門は佛海の自在を知る總持。

る音聲を分別する陀羅尼門。佛正法輪陀羅尼門。佛の法輪を生ずる陀羅尼門。佛の法輪を分別する陀羅尼門。佛の法輪を壞すること無き陀羅尼門。佛辯法輪陀羅尼門。佛の法輪に向ふ陀羅尼門。能く佛事を作す陀羅尼門。諸佛衆に向ふ陀羅尼門。諸佛の大衆を分別する陀羅尼門。諸佛の無量なる大眷屬海陀羅尼門。普照佛力陀羅尼門。如來三昧陀羅尼門。如來三昧神力自在陀羅尼門。佛事を究竟する陀羅尼門。佛の所住に住する陀羅尼門。佛持陀羅尼門。佛化陀羅尼門。佛衆生の心心の所行を知る陀羅尼門。佛神力自在陀羅尼門。兜率天に住する陀羅尼門。乃至入般涅槃を示現する陀羅尼門。無量の衆生を饒益する陀羅尼門。諸の甚深法陀羅尼門。諸の莊嚴法陀羅尼門。(一八)菩提の心色方便陀羅尼門。菩提心の起色陀羅尼門。願色陀羅尼門。行色陀羅尼門。通明色陀羅尼門。出生死色陀羅尼門。淸淨智色陀羅尼門。淸淨慧色陀羅尼門。菩提無量色陀羅尼門。自心淨色陀羅尼門なり。善男子よ、我、唯此の般若波羅蜜普莊嚴法門を知るのみ。◎諸の大菩薩の心は虛空の如く、深法界に入りて功德成滿し。出世の法に安住して、世間の行を遠離し、淸淨なる離癡の慧眼を具足し、決定して無量の法界を了知し、智慧無量にして虛空と等しく、無礙の眼を得て、一切の境界に於て障礙地藏に住し、普く一切を照して、善能く一切の法義を分別し、一切世間に能く壞する者無く、世間の行を行じて染著する所無く、善巧の方便をもつて一切の衆生を饒益し攝取し。其の所應に隨ひて悉く能く示現し、一切時に於て正法輪を轉じて自在を得たり。是の如きの功德

【一八】十、末後の十門は色海の無礙を知る總持。

は、我當に云何んぞ能く知り能く說くべき。

(一九)善男子よ。此の南方に於て一國土有り、名けて救度と曰ふ、彼に比丘有り、名けて善現と曰ふ。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。(二)

時に善財童子、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、辭退して南に行けり。爾の時に善財童子は、甚深の法門を正念し思惟し、甚深の法界を思惟し、甚深の報地を思惟し、甚深の衆生を思惟し、甚深の諸行を思惟し、甚深なる衆生心の流注を思惟し、甚深なる衆生の光影の如きを思惟し、甚深なる諸法の性を思惟し、甚深なる衆生の語法を思惟し、甚深なる法界の圓滿莊嚴を思惟し、甚深なる種の諸の業行を思惟し、甚深なる世間業の莊飾する所を思惟し、漸漸に遊行して救度國に至り。城都・聚落・村邑・市里・仙人の住する處の山林曠野に於て、周徧して善現比丘を推求し。彼の比丘、林に在して經行したまへるを見る。形貌端嚴にして、顏容殊妙なり、其の髮は右に繞りて紺靑色の如く、頂に肉髻有り、身の色は紫金にして、其の目は長く廣くして、靑蓮華の如く、脣口は丹色にして(二〇)頻婆果の如く、頸項は圓直にして修短所を得、胷に德字有り、勝妙に莊嚴せられ(二一)七處平滿せり、其の臂は纖く長く、手の指に縵網あり、金輪にて莊嚴せられ、腨膍鹿蹲にして、腰腹は師子上に現はれず、身は淨居天の如く、其の身圓滿なること尼拘樹王

【一九】自下十行位の善知識を明かす、第一歡喜行の善友。

【二〇】頻婆果(Bimba)。又は頻羅婆頻螺等と記す、相思と認し林檎に似たる赤色の果實。

【二一】七處平滿。如來三十二相の一にして兩足下、兩手、兩肩、頂の七處皆平滿端正なり。

の如く、相好莊嚴せられたるは雪山王の諸の良藥を出すが如く、圓光一尋にして、諸根は調伏せられ、目視安諦にして、智慧の無礙なること猶ほ大海の如し。其の心動ぜす、一切の世間壞する能はざる所なり、天龍八部恭敬し圍繞せり。彼の比丘の經行せる時、地天は地を持し歩天は寶蓮華を出だして隨ひて其の跡を覆ひ、無盡圓滿天は衆闇を除滅し、覺天は雜華の雲を雨らし、不動藏天は諸の寶藏を現じ、普光勝虛空天は虛空を莊嚴し、妙德海天は寶を散じて供養し、離垢藏須彌山天は合掌して禮侍し、恭敬し供養し、無礙力天は香華風の雲を起して之を供養し、夜天は莊嚴せる身を以て五體敬禮し。常覺日天は明淨の寶幢を持して虛空を莊嚴し、闇冥を除滅せり。

爾の時に善財童子は、往きて其の所に詣で、頭面に足を禮し、白して言さく『大聖よ、我は阿耨多羅三藐三菩提に向ひ、菩薩の行を求む。我、大聖は善能く諸の菩薩の道を開導したまふと聞けり。云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや。願はくは分別して說きたまへ。』

(三)答へて言はく、『善男子よ、我年既に少くして出家の日近きも、我生れてより來、三十八恆沙の佛の所に於て、梵行を淨修せり。或は一佛の所に於て七日七夜梵行を淨修し、或は餘佛の所にて半月一月、一歲百歲、那由他歲、乃至不可說不可說歲、或は一小劫、半劫一劫、或は阿僧祇劫、乃至不可說不可說の阿僧祇劫に梵行を淨修せり。彼の諸佛の所にて法を聞きて受持し、其の敎に違はず。諸の

【三】以下、己が法界を示す。初に緣に依りて法を得たることを明かす。

願を莊嚴し、究竟じて菩薩の諸行を淨修し、六波羅蜜を具足して、菩提の境界を知り、種種の法輪を知り、佛法を守護して、乃し正法の滅盡するに至る。一切諸佛の世界を莊淨せり、三昧を出生する大願力の故に、菩薩の一切の淨行を究竟せり、菩薩の一切の行を出生する願力の故に。一切の佛の諸波羅蜜を淨めたり、普賢の諸行を出生する力の故に。(三)善男子よ、我此の經行の處を離れずして悉く十方を見る、智慧無礙なるが故に。一切の法界に悉く現じて前に在り、一念の中に於て不可說不可說の諸の世界を過ぐるが故に。一念の中に於て不可說不可說の諸佛の世界を嚴淨す、大願力を出生するが故に。不可說不可說の衆生の方便門は悉く現じて前に在り、十力智を具して普賢菩薩の行願力を出生するが故に。不可說不可說の諸佛悉く現じて前に在すことを見たてまつり、一念の中に於て不可說不可說の世界微塵に等しき佛を恭敬し供養す、如來を恭敬し供養する願力の故に。不可說不可說の諸佛の法雲を能く聞きて受持し、阿僧祇の諸法の趣を分別し了知す、法輪の陀羅尼力を出生するが故に。不可說不可說の菩薩行は悉く現在前して、一切の諸行は皆悉く清淨なり、菩薩の因陀羅網の行願力を滿足するが故に。不可說不可說の諸の三昧海は悉く現在前して、一切の三昧は皆悉く清淨なり、一三昧を滿じて一切の三昧力を出生するが故に。不可說不可說の諸根海は皆現じて前に在り、一切の根輪、隨順時輪は諸根際に安住する願力を出生するが故に。不可說不可說の時輪は悉く現在前して、能く一切時に淨法輪を轉

【三】　次に法の業用を顯はす。

ず、衆生を究竟する願力を出生するが故に。一切の三世海は悉く現在前して一切世界の三世を分別す、隨順智慧の光明願力を出生するが故なり。善男子よ、我唯此の隨順菩薩燈明の法門を知るのみ。諸の金剛燈菩薩は諸佛の家に生れ、不死の命根を具足し成就し、無盡の智慧ありて無壞の身を成じ、支體具足し、其の所應に隨ひて悉く能く顯現し、妙形色を具へて世に倫匹無く、毒刃火災も害すること能はざる所、身は金剛の如く沮壞す可からず、衆魔を降伏し諸の外道を制し、身は眞金色にして世間を超出し、其の所應に隨ひて見聞せざること無く、普く世間を觀じて甘露の法を雨らし、普く一切を照して諸の障礙を滅し、見る者厭くこと無く、一切諸の不善根を拔斷して、妙善根を起し。遇ひ難く見難し。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り能く說くべき。

（二四）善男子よ、此の南方に於て一國土有り。名けて（二五）輸那と曰ふ。彼に童子有り、釋天主と名く。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、專ら菩薩の莊嚴正道を求め、菩薩の諸の力は心を照し、菩薩の無壞無盡の諸の功德の行を修行し、菩薩の堅固なる大願を成滿し、大莊嚴を以て而も自ら莊嚴し、一切畏るること無くして、堅固なる正直の心を退かず、一切菩薩の行雲を受持し、菩薩の正法雲を受持して厭き足ること無く、一切の菩薩の功德を恭敬し、一切の衆生を攝取し、常に生死の曠野を超出せんと欲し、善知

【二四】第二饒益行の善友を明かす。
【二五】輸那（Cuna）。譯して善又は淨と云ふ、大江の名なり、持戒清淨の行を表す。

識を見聞し、恭敬し、親近せんことを樂欲して、心に厭倦無く、頭面に足を禮して、恭敬すること無量にして、教誨に隨順し、辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、天龍の大衆眷屬の與めに圍繞せられて輸那國に至り、周徧して釋天主童子を推求せり。時に虛空の中に諸の天龍有りて之に告げて曰はく、『善男子よ、此の童子は善城の門外、河水の側に在す。』と。

爾の時に善財は、釋天主、一萬の童子と與に、沙を弄びて嬉戲したまふを見て、卽ち其の所に詣でて、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、合掌し恭敬して、一面に於て住し、白して言さく、『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。唯願はくは解說したまへ。』

答へて言はく、『善男子よ、文殊師利は、我に相驫子の法・算數の法・印の法を敎へたり。我、此の三種の法を知るに因るが故に、一切の巧術智慧の法門を得たり。善男子よ、我、此の法門に因るが故に、驫子・算數・印性を知れり。疾病・中毒・鬼の爲めに著かれ、諸魔に持せらるるも、悉く能く消伏す。大小の城・都邑・聚落を立つる善惡の相・田業・商估・一切衆生の身肢節の相・善趣惡趣の行業の相、此の衆生の善趣に之くことを知り、此の衆生の惡趣に之くことを知り。此は聲聞、此は緣覺、此は如來地、諸の方便相、是の如き等の事は、我悉く了知し、普く衆生をして此の法を修學せしむ。

復た次に善男子よ、我亦菩薩の算數の法を了知せり。所謂る、百千を一羅叉と爲し、百千羅叉を一拘利と爲し、百千拘利を一那由他と爲す、廣く說くこと阿僧祇品の如し。善男子よ、若し無量百千由旬に等しき大沙聚有るも、我悉く分別して其の數を算知せん。善男子よ、算法の能く沙聚を知り、東方の一切世界を算知するが如く、南西北方四維上下も亦復た是の如し。一切世界の中の一切の劫。一切の佛。一切の菩薩。一切の業を算知す。一切世界の中の一切の四諦の名號を、算數し了知することも、亦復た是の如し。善男子よ、我唯此の巧術智慧法門を知るのみ。諸の大菩薩は深く一切の算數の法門に入りて、一切の法を算數し、深く三世の算數の法に入りて、一切の衆生を算數し、一切の法を算數し、一切の佛を算數し、一切の佛の名號を算數し、一切の菩薩を算數し、一切の轉自在輪菩薩を算數す。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り能く說き、境界を發明し、諸力を讚歎し、正直心を顯はし、功德の具を說き、諸の大願を說き、淸淨の諸波羅蜜を顯現し、功德藏の勝妙なる智慧を說くべき。

【三六】第三無恚恨行の善友を明かす。

(三六)善男子よ、此の南方に於て城有り、名けて海住と曰ふ。優婆夷有り、名けて自在と曰ふ。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、善知識の敎を聞きて、歡喜すること無量にして、未曾有の奇特なる正直心の寶を得、其の心彌廣くして普く衆生を覆ひ、諸佛の次第に出世する自在の法門を算數することを得、

淨法圓滿し、智慧究竟して、一切の諸趣を分別し顯現し、三世の境界に於て障礙する所無く、無盡の功德海の心を出生し、大智慧の自在光明を得て、三界の縛を斷ず、頭面に足を禮し、右に繞ること三帀、辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、善知識に於て心厭足無きこと、猶ほ大海の衆流を呑納するが如し。善知識は日のごとく、明淨なる慧光は其の心を開發す。猶ほ蓮華の敷くがごとく、一切の善根の萠芽・莖節・枝葉・功德の大樹を長養せり。善知識は月のごとく、能く淸涼なる敎法の光明を以て、衆の熱惱を除く。善知識は夏の雪山の衆獸の集り樂む所となるが如し。善知識の心は猶ほ大海の衆寶充滿せるが如し。善知識の敎は法身を長養すること、閻浮樹の華果具足して、心常に樂住するが如し。善知識の敎法は、譬へば龍王の虛空の中に於て神變自在なるが如し。善知識の敎は大寶山を起し一切を顯現す。善知識の敎を以て而も自ら圍繞するは、猶ほ帝釋の阿修羅を降して、能く壞する者無きが如し。是の如く思惟して漸漸に遊行して、海住城に至り、周徧して自在優婆夷を推求せり。時に人有り言はく『善男子よ、此の優婆夷は此の城中の深宮の內に在す』と。

善財聞き已りて、往きて宮門に詣り敬心して立てり。彼の優婆夷の所住の所は、廣博にして嚴飾し、衆寶の垣牆は周帀圍繞し、四門を開闢し、阿僧祇の寶を以て莊嚴と爲せり。善財進み入りて、優婆夷を見たてまつるに、師子の座に處して、年盛美に在り、容色は殊妙にして、觀る者厭くこと無

く、莊嚴の具を除きては、素服にして髮を被り、身色光明あり、佛菩薩を除きては餘の能く及ぶもの無し。其の宮內に於て十億の牀を敷き、天人に出過せり。菩薩の宿世の行業の造る所なり、衣服・飲食・衆妙の寶物・諸の莊嚴具を、常に四門を開きて周く一切に給し、而も窮盡すること無し。一萬の女衆の眷屬に圍繞せらる、容色威儀は悉く諸天の如く、猶ほ莊嚴せられたる衆妙の寶樹の如し。口常に天の妙なる音聲を演出し、敬ひ樂ひて此の優婆夷を觀察し、禮拜し供養せり。彼の諸の女は身常に妙香を出だし、普く大城に熏ず。若し聞ぐ者有らば、皆菩提を退かざるの心・怨害無き心・怨敵無き心・慳嫉無き心・幻僞無き心・諂曲無き心・貪愛無き心・瞋恚無き心・懈怠無き心・無量の心・平等の心・大慈の心・衆生を益する心・淨く戒を持つ心・求欲無き心を得ん。彼の音聲を聞かば皆悉く歡喜し、身心柔輭とならん。其れ見る者有らば、皆欲を離るることを得ん。爾の時に善財、頭面に彼の優婆夷の足を禮して、敬心に右に繞り、一面に於て住し、白して言さく、『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。』

答へて言はく、『善男子よ、我無盡功德藏莊嚴の法門を成就し、一器の食を以て百の衆生に施し、其の所欲に隨ひて皆充滿を得しめ、千の衆生、百千の衆生、億の衆生、千億の衆生、百千億の衆生、那由他の衆生、百那由他の衆生、百千那由他の衆生、乃至不可說不可說の衆生、閻浮提の微塵に等しき

衆生、乃至不可說不可說の佛刹の微塵に等しき衆生に、其の所欲に隨ひて皆悉く充滿せしめて而も損減無し。又復た上味の美膳・輦輿・衣服・華鬘・妙香・末香・塗香・寶莊嚴具を施與し、又牀座・車乘・妙蓋・幢旛を施し。是の如き等の種種諸の物を、其の所欲に隨ひて悉く充滿せしめ、皆大いに歡喜せり。善男子よ、東方の一世界、乃至不可說不可說の世界、閻浮提の微塵に等しき世界、乃至不可說不可說の佛刹の微塵に等しき世界の中に於て一切の聲聞緣覺は我が食を食し已りて、悉く道果を成ぜり。又東方の乃至不可說不可說の佛刹の微塵に等しき世界の中に於て、一生補處の菩薩は、我が食を食し已りて、降魔し成道せり。南西北方四維上下も、亦復た是の如し。善男子よ。汝我が此の一萬の眷屬女を見るや不や。』

『唯然り、已に見る。』

『善男子よ、是の如き等の百萬の阿僧祇の菩薩は、悉く我と行を同じうし、願を同じうし、善根を同じうし、修道を同じうし、欲性を同じうし、淨正念を同じうし、淸淨の趣を同じうし、善根の無量を同じうし、同じく諸根を得、心の依果を同じうし、境界を同じうし、正趣離生を同じうし、眞實義を同じうし、同じく正法を明し、同じく菩薩の淸淨なる妙色を具へ、無量力を同じうし、堅き精進を同じうし、正法の音を同じうし、語言の道を同じうし、諸の功德を同じうし、淸淨の業を同じうし、淸淨の報を同じうし、同じく淸淨の大悲をもつて一切を救護し、同じく淸淨の業、因緣に違はず、同

じく清淨の口業をもつて、一切の佛の衆に於て其の所應に隨ひて悉く爲めに法を說き、同じく諸佛を恭敬し供養し、同じく決定して一切の諸法を知り、同じく菩薩の清淨なる諸地を得たり。此の諸の菩薩は我が器の食を取りて、一念の頃に於て徧く十方に遊び、一切の聲聞・緣覺・菩薩・諸佛を供養し、及び餓鬼に施して悉く滿足せしめ、而も我が器の食は損減する所無し。善男子よ、我が此の器の食は應に隨ひて諸天を悉く充滿せしめ、乃至人に施すも亦復た是の如し。善男子よ、且らく須臾を待て。汝自ら之を見ん。』

善財は卽ち無量の人衆、四門より入り、彼の優婆夷は皆安坐せしめ、適樂する所に隨ひて充悅せしめたまふを見る。

【三七】第四、無盡行の善友を明かす。

『善男子よ、我唯此の無盡功德藏莊嚴の法門を得るのみ。諸の大菩薩の無盡功德藏海は、猶ほ虛空の如く、無量の功德を以て其の心を熏修せり。隨意の寶の如く、一切衆生の願を滿足せしむるが故に。大功德藏は悉く一切諸の貧苦を滅するが故に。功德の須彌は衆寶を雨らすが故に。大功德藏は法城の門を開くが故に。功德の燈明は貧の暗を滅するが故に。大功德の蓋なる、勝妙の善根は一切の衆生を覆ふが故に。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り能く說くべき。

(三七)善男子よ、此の南方に於て城有り、名けて大輿と曰ふ。彼に長者有り、甘露頂と名く。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや。」と。』

時に善財童子、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、憶念して捨てず、辭退して南に行けり。

# 卷の第五十

## 入法界品第三十四の六

爾の時に善財童子は、無盡の功德光明の法門を得て、正念に彼の功德海を思惟し、彼の虚空のごとき功德を觀察し、彼の功德聚に趣き、彼の功德山に登り、彼の功德藏を攝して、彼の功德の底を盡し、彼の功德の海に度り、彼の圓滿なる功德を淨め、周徧して彼の諸の功德を觀察し、彼の功德藏に隨ひ、彼の功德の教を持し、彼の功德の性を淨め、漸漸に遊行して、大興城に至り。周徧して長者甘露頂を推求し、善知識を樂ひ求め、善知識を以て其の身心に熏じ、善知識に於て正直心を起し、善知識を觀じて常に厭き足ること無く、善知識を學びて勇猛精進し、善知識の一切の善根を求め、善知識の一切の善根に同うし、善知識に於て嫌恨の心無く、功德藏を滿たし、善知識の種種の方便を學し、他に由りて悟らずと雖も、而も常に諸の善知識に親近して、諸の善根を長じ、菩提正直の心を淨修し、一切の菩薩の諸根を增長し、一切の善根を成就し、大願を滿足し、廣大の悲を發し、一切智に近づきて諸佛を離れず、普賢菩薩の所行を增長して、如來の光明常に其の心を照せり。爾の時に善財、甘露頂を彼の城內に見たてまつるに、七寶堂の阿僧祇寶師子の座上に處して、金剛伊尼羅寶

を以て座足と爲し、離垢の寶藏を以て校飾し、五百の寶像を以て莊嚴と爲し、衆の寶幢を建て、寶の繒旛を垂れ、衆寶の帳を張り、無量の寶網を其の上に羅覆せり。人有り手に閻浮檀金の蓋を執り、瑠璃を竿と爲せり。復た離垢の寶拂を執持するもの有りて、左右に侍立し、衆妙の雜香を以て之に熏じ、天華の雲を雨らし、五百種の勝妙なる妓樂を作して娛樂せり。城內の一萬の大衆は周帀し圍繞せり、顏容殊妙にして天人に倫無く、菩薩の直心の莊嚴を成就し、衆生悉く常に甘露頂の敎に隨順せり。宿世に同じく諸の善根を修したるが故なり。爾の時に善財、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、恭敬し合掌して、一面に於て住し、白して言さく、

『大聖よ、我一切の衆生を利益せんが爲めの故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發せり。所謂る、一切衆生の苦惱を滅し、安隱に住して快樂を究竟せしめ、生死の海を度りて法寶の洲に到らしめ、貪愛を銷竭して大悲の念を修め、五欲の渴を除きて一切智を樂はしめ、究竟して生死の曠野を度り、常に一切諸佛の功德を樂ひ、三界を超出して薩婆若城に至らしめん。而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修し、一切の衆生を攝するやを知らず。』

長者、答へて言はく、

『善い哉善い哉、童子よ、乃ち能く阿耨多羅三藐三菩提心を發せり。若し能く發心して菩薩の道を學び、菩薩の行を修すれば、此の人得難く、善知識を求め、善知識に見えて、親近し恭敬し、善知識に於

て其の心退せずして厭き足ること無けん。善男子よ、汝我が此の一萬の眷屬を見るや、不や。』

『唯然り、已に見る』。

『我本彼が爲めに種種の法を說きて、阿耨多羅三藐三菩提心を發さしめ、如來の家に生じ、白淨の法を修し、無量の諸波羅蜜を滿足して、佛の十力を具へ、世間の姓を離れて如來の姓を立て、生死の輪を壞りて淨法輪を轉じ、三惡道を滅して正法趣に立たしめたり。善男子よ、當に知るべし、菩薩は悉く能く一切の衆生を救護す。善男子よ、我此の如意功德寶藏の法門を成就して、其の須むる所に隨ひて悉く彼の願を滿せしむ。謂ゆる、衆寶の車乘・象馬・僮僕・衣服・飮食・香華・末香・燈明・湯藥・幢旛・繒蓋・隨意の眷屬・天冠・寶飾・一切の珍玩資生の具を以て、盡く之を給施し、乃至法を以て廣く衆生に施せり。善男子よ、且く須臾を待て、汝自ら之を見ん』と。卽時に善財、諸方の國城邑聚落を見るに、一切の衆生來りて其の所に詣で、悉く命じて坐せしむ。時に甘露頂、仰ぎで虛空を視、諸の來り會れる一切のものの須むる所に隨ひ、悉く空より下だして、其の願を滿足せしむ。既に願を充たし已りて、爲めに正法を說き、悉く諸の功德藏を長養せしめ、生死の愛を消して、佛法を渴仰せしめ、乃至大人の味味の相を具足して、貧窮の苦を滅し、甘露の財を富かにし、衆魔を降伏して能く壞する者無く、十力無上の智慧を成就せしめたり。是の如き等の類、悉く願を滿たし已りて、皆大いに歡喜し、來りし所の方に隨ひて各本處に還れり。『善男子よ、我唯此の如意功德寶藏の法門を知るのみ。諸の

大菩薩は、一切の自在功德を具足し、寶手を成就して一切刹を覆ひ、無量の雲を雨らす。謂ゆる、衆寶の雲・種種の色莊嚴の雲・種種の色寶天冠の雲・種種の色衣の雲・種種妙聲の雲・種種の華の雲・種種の周羅摩尼寶の雲・種種の色香の雲・種種の色蓋の雲・種種の色幢旛の雲なり。皆悉く一切の世界・一切の佛刹に充滿して、一切の諸佛、及び其の眷屬は一切の衆生を教化して、一切の佛を供養せしめんが爲めの故なり。我當に云何んが彼の菩薩の行を能く知り、能く說きて、其の自在を顯すべき。

(二)善男子よ、此の南方に於て城有り、師子重閣と名く。彼に長者有り、法寶周羅と名く。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、歡喜踊躍して、頭面に敬禮し、繞ること無數帀、弟子の法の如くして、是の如きの念を作さく、『善知識に因りて一切智を得、善知識に於て無壞の心を生じ、善知識の敎を聞きて、悉く能く隨順して諸根を調伏せり』と。是の念を作し已りて辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、如意功德寶藏の法門を正念し、彼の功德藏を守護し、彼の功德の須彌山王を淨め、彼の功德海の源底を得、彼の功德藏を開き、彼の功德藏の圓滿なることを觀じ、彼の功德藏を淸淨にし、彼の功德藏を攝し、彼の功德藏の力を出生し長養して、漸漸に遊行して彼の城に至り。周徧して長者法寶周羅を推求せしに、道に於て遇見たれば、頭面に足を禮し、合掌し恭敬して、一面

【二】第五離癡亂行の善友を明かす。

に於て住し、白して言さく、
『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。』
時に彼の長者、善財の手を執り、將ゐて其の家に歸れり。『善男子よ、且らく我が家を見よ』と。爾の時に善財、徧く舍宅を見るに、悉く閻浮檀金の色にして、七寶を牆と爲して周帀圍繞し、瑠璃をもつて莊嚴し、硨磲を柱と爲し、赤眞珠寶の師子の座を敷き、師子寶の幢を建て、瑠璃の寶帳を張り、如意珠の網を其の上に羅覆し、阿僧祇の寶にて之を莊嚴せり。碼碯寶の池には、八功德水其の中に盈滿し、一切の寶樹は周徧して圍繞し、其の宅の廣大なること十重にして八門あり。爾の時に善財、最も下重を見るに、衆の肴膳を設けて一切に惠み施せり。第二重を見るに雜寶の衣を施し、第三重を見るに一切の寶の莊嚴具を施し惠み、第四重を見るに內眷屬を施せり、悉く善行を履み語言に巧なり。第五重を見るに、乃至五住の菩薩は其の中に雲集して正法を結集し、世間の樂を離れ、一切の論、諸の陀羅尼、三昧法印を出だし、三昧の智慧光明を分別せり。第六重を見るに般若波羅蜜を得たる菩薩其の中に充滿し、甚深の智を具へ、寂靜明の智慧藏地、無礙の法門を得て、三有を超出し、境界無礙にして、不二の法を念じ、般若波羅蜜門を結集し、般若波羅蜜門を分別し解說せり。所謂る、寂滅藏般若波羅蜜門●一切の衆生を分別する般若波羅蜜門●不動轉般若波羅蜜門●離欲普照般若波羅蜜門●不可

壞藏般若波羅蜜門・一切衆生淨眼般若波羅蜜門・海藏般若波羅蜜門・普眼般若波羅蜜門・一切無盡方便海般若波羅蜜門・隨順衆生普照無礙般若波羅蜜門・慶雲漸下般若波羅蜜門なり、是の如き等の百萬阿僧祇の般若波羅蜜門を結集し、彼の菩薩衆は不可說の莊嚴にて之を莊嚴せり。第七重を見るに、響忍菩薩其中に充滿し、巧方便の智慧を出だし、悉く能く諸佛の法雲を聞持せり。第八重を見るに、常住菩薩其の中に充滿し、諸の神通を具へて一切刹に徧く、一切の衆生、一切の法界を照し、法身を具足し、一切の佛に詣でて障礙する所無く、悉く能く一切の佛法を受持せり。第九重を見るに補處の菩薩其の中に充滿せり。第十重を見るに、一切の如來其の中に充滿し、初發心より菩薩の行を修し、生死を超出し、大願を滿足し神力自在にして、一切の佛刹、及び其の眷屬は淨法輪を轉じて衆生を化度し、顯現し住持せり。

爾の時に善財、是の如き等の奇特の事を見已りて、白して言さく、

『大聖よ、我未だ曾て是の如き淸淨の大衆を見ず。昔何の處に於て諸の善根を種ゑたまひ、今是の如き勝妙の果報を得たまへるや。』

『善男子よ、我過去を憶ふに、無量光明法界普莊嚴王如來・應供・等正覺・明行足・善逝・世間解・無上士・調御丈夫・天人師・佛・世尊、世に出興したまひ、彼の佛、城に入りたまひしときに、我香華妓樂を以て之を供養したてまつりき。供養し已りて此の善根を持て三處に回向せり。謂ゆる貧苦を滅除し、

常に諸佛菩薩及び善知識を見たてまつり、恒に正法を聞かんとなり。故に斯の報を得たり。善男子よ、我唯此の大願を滿足する法門を知るのみ。諸の大寶海菩薩は不可壞の淸淨の法身と、不可壞の法雲とを得て普く一切を覆ひ、不可壞の功德と不可壞の大功德の網とを具足し、普く一切を覆ひ、不可壞の三昧の境界に入り、菩薩の不可壞の善根を具足し、不可壞の如來の所住に住し、不可壞の智慧をもつて三世を究竟し、一切劫に住して而も疲倦無く、不可壞の普眼の境界地に住せり。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り能く說くべき。

(三)善男子よ、此の南方に於て一國土有り、實利根と名け、城を普門と名く。彼に長者有り普眼妙光と名く。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

【二】第六善現行の善友を明かす。

時に善財童子は、頭面に法寶周羅の足を敬禮し已りて、辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、諸佛の無量の法門を思惟し、菩薩の無量の諸行と、菩薩の無量の妙方便道とを逮得し。普く身心を照し、無量の方便の法門を樂ひ求め、菩薩の淸淨なる解脫、菩薩の無量淸淨の諸根、菩薩の無量なる諸の淸淨力を成就し。心菩薩の無量の諸行に隨ひ、菩薩の無量の大願力を出生し、菩薩の沮壞す可からざる妙智慧幢を逮得して、普く一切を照し、漸漸に遊行して彼の國に至り、普門城を求めて心に休息無く、精進して退かず、善知識を念ひ、善知識を讚め、善知識に隨順

し、諸根專ら普門の法門に向ひ、一切諸の放逸行を遠離し、淨慧眼を開き、生死海を度り、普門城を見るに、百千の小城、周帀して徧く繞り、高峻堅固にして妙巧なること比無く、種種に莊嚴せられ、普眼妙香長者は此の城中に於て衆香の座に坐したまへり。往きて其の所に詣で、頭面に足を禮し、恭敬し合掌して、一面に於て住し、白して言さく、

『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。』

答へて言はく、『善い哉善い哉、善男子よ、乃ち能く阿耨多羅三藐三菩提心を發せり。善男子よ、我一切衆生の病を知れり。風寒熱病、及び諸の雜病・枉横病・鬼著病・毒病・諸の呪術病、是の如き等の類の一切の諸病を、我悉く了知し、其の所應に隨ひて皆能く療治す。善男子よ、十方の衆生の諸の病有る者は、來りて我が所に詣でなば、我悉く能く治せん。其の患を除き已りて、香湯に沐浴し、香華瓔珞、名衣上服をもつて之を莊嚴し、肴膳飮食をもつて之を供養し、無量の珍寶をもつて之に惠み施し、然して後に爲めに種種の法門を說き、貪欲多き者には不淨觀を教へ、瞋恚多き者には慈心觀を教へ、愚癡多き者には法相觀を教へ、等分行の者には勝れたる法門を教へん。諸佛の功德を稱揚し讃歎す、菩提心を發さしめんが故に。大悲を長養することを說く、無量の生死の苦に於て心厭はざらしめんが故に。諸の波羅蜜を分別し廣說す、無量の淨智慧を長養せしめんが故に。諸の大

願を說く、一切の衆生を敎化し成就せんが故に。普賢菩薩の行を說く、淸淨尸波羅蜜を顯現せんが故に。不可思議なる如來の功德を說く、羼提波羅蜜を顯現せんが故に。如來の壞すること無き淸淨の法身を說く、毗梨耶波羅蜜を顯現せんが故に。如來は與等の者無きことを說く、如來の禪波羅蜜を顯現せんが故に。淸淨の法身を說く、般若波羅蜜を顯現せんが故に。一切の淨法身を說く、一切衆生をして皆悉く覩見しめ、方便波羅蜜を顯現せんが故に。生死の中に於て一切劫に住することを說く、願波羅蜜を顯現せんが故に。嚴淨せる一切の佛刹を說く、諸の力波羅蜜を顯現せんが故に。淨法身は其の所應に隨ひ、悉く歡喜せしむることを說く、智波羅蜜を顯現せんが故に。常に淸淨の法身を樂見せんことを說く、一切の不善の法を遠離せんが故なり。善男子よ、我是の如き等の種種の法施を以て、悉く滿足し歡喜せしめて還へさん。善男子よ、我又善く衆の香を和する法を知れり。所謂る、不可稱王香・(三)新頭香・勝香・覺香・明相香・沈水香・堅固香・旃檀香・雲香・不動諸根香なり。是の如き等の一切諸香を知り、此の香を燒く時は一心に佛に向ひ、大誓の心を發し、一切の願を滿せん。所謂る一切の衆生を救護し、一切の佛刹を嚴淨し、一切の諸佛を恭敬し供養し、乃至一丸の香を燒く時は、十方一切の法界の一切の如來、及び其の眷屬に充滿し、香帳をもつて一切の法界を莊嚴せん。香の宮殿・香の垣墻・香の樓閣・香の欄楯・香の卻敵・香の牕牖・香の半月・香の蓋・香の幢・香の旛・香の網・香の形像・香

【三】新頭。具さに辛頭波羅(Sindhupāra)。信度河の河岸に生ずる香なり。

の光明・香の莊嚴具・香の雲雨は、十方一切の法界、一切の諸佛及び其の眷屬を莊嚴せん。善男子よ、我唯此の一切衆生をして歡喜せしむる普門の法門を知り、一切の佛身を見たてまつるのみ。諸の大藥王菩薩は、若し見聞し親近し憶念し、名號を執持するもの有らば皆悉く虚しからじ。其れ見ること有らん見は、煩惱悉く滅して、諸の如來法の源底を得ん。苦陰を除滅し、永く一切生死の恐怖を離れて、無所畏を得、一切智を具し、無量の生死の高山を破壞し、正法に安住せん。我當に、云何んが彼の功德の行を、能く知り能く說くべき。

(四)善男子よ、此の南方に於て城有り、名けて滿幢と曰ひ、王を滿足と名く。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、頭面に普眼妙香長者を敬禮して繞ること無數帀、辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、次第に諸の善知識を憶念して、善知識の敎を正念し思惟して、復た是の念を作さく、『善知識は能く我を攝取し、能く我を守護し、我をして阿耨多羅三藐三菩提を退せざらしむ』と。是の如く思惟して大歡喜の心、無量の歡喜心を得、淸淨の心、寂滅の心、廣大の心、莊嚴の心、無著の心、無礙の心、虚空の心、諸佛菩薩を見たてまつるの心、自在の心、諸法に順ふの心、一念の中に於て一切の佛刹に充滿する心、如來を見たてまつるの心、十力を念ずるの心、諸佛善知識を捨てざ

【四】第七無著行の善友を明かす。

るの心を發して、漸く人衆の城邑聚落を經て、滿幢城に至り、『滿足王は今何の所にか在す』と問ひしに、人有り答へて言はく、
『今は正殿に在して王法を行ひ、衆生を敎化して、應に攝取すべき者は之を攝取し、應に罰すべき者は罰し、應に治すべき者は治し、諸の諍有る者は其の諍訟を斷じ、恐怖有る者には施すに無畏を以てし、不殺・不盜・不邪婬・不妄語・不兩舌・不惡口・不無義語・無貪恚癡を讃歎したまへり』と。
爾の時に善財、遙に彼の王、金剛の師子座に處したまふを見るに、阿僧祇の寶を以て莊嚴し、無量の寶像を以て莊飾と爲し、種種の香雲をもつて普く之に熏じ、無量の寶衣を以て其の上に敷けり。又復た無量の寶幢、無量の寶旛を建立し、周徧して垂れ下り、衆寶の帳を張り、頂に如意摩尼寶の冠を冠むり、閻浮檀金の半月にて莊嚴し、髮は紺青の色、耳は普く垂埵し、身には無價の摩尼の瓔珞を佩び、百千の寶網を其の上に羅覆し、閻浮檀金の蓋あり、衆寶を鈴と爲して、常に妙音を出だし、瑠璃を竿と爲す、夜光の寶幢ありて普く諸方を照せり。彼の滿足王には大勢力有りて、諸の怨敵を離れ、無量自在なり。一萬の大臣は各常位に處して王事を修理し、勇將一萬、仗を持して侍衞せり。爾の時に善財、無量の衆生の王法を犯す者を見るに、身に五縛を被り、或は手足を斷ち、或は耳鼻を截ち、或は雙目を挑り、或は身首を斬り、或は沸灰に投じ、或は氈に纏ひて油を灌ぎ、火を以て之を焚けり。是の如き等の無量の楚毒をもつて之を苦治せり。爾の時に善財は是の如きの念を作さく、『我一切の衆生

の爲めの故に、菩薩の行を學び、菩薩の道を修す、今此の王を見るに大惡逆にして、諸の不善の法を行ふ、此れ乃ち惡中の惡にして第一の惡人なり』と。是念を作す時、虛空に天有り、之に告げて曰はく、『善男子よ、汝當に普眼妙香善知識の教を憶念すべし』と。

善財卽時に仰ぎて虛空を觀て、之に答へて言はく、『我常に憶念す』と。

天又語りて言はく、『若し常に憶念せば、何が故に疑ひ怪むや、善男子よ、菩薩の方便は不可思議なり、菩薩の智慧は不可思議なり、衆生を攝取すること不可思議なり、衆生を調伏すること不可思議なり、衆生を教化すること不可思議なり、衆生を愍念すること不可思議なり、衆生を度脫すること不可思議なり』。

爾の時に善財、天の教を聞き已りて、彼の王の所に詣で、頭面に足を禮して白して言さく、『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。』

時に滿足王は王の事訖已りて、手に善財を執り、將ゐて宮內に入り、命じて寶師子の座に就かしめ、而も之に告げて曰はく、『善男子よ、汝我が家を觀よ』と。

善財卽ち觀るに、廣大なること極まり無く、七寶の垣牆は周帀圍繞し、七寶の講堂は無量百千の衆寶の樓閣にて之を莊嚴し、乃至不可思議なる摩尼の寶網を其の上に覆覆し、五百の侍女は端嚴なるこ

と天の如く、上に説く所の如し。

『善男子よ、我が此の報の所因の業を見るや不や。』

答へて言はく、『已に見たり。』

『善男子よ、我菩薩の幻化の法門を成就せり。我が此の國土の殺生偸盗、乃至邪見の諸の群生の類は、教化して諸の惡業を離れしむ可からず。我調伏して解脱せしめんが爲めの故に、人衆の種種の苦治を化作し、十不善の道と、一切の諸惡とを捨てて、十善を具足し、究竟樂を得て、阿耨多羅三藐三菩提心を發し、一切智を具足せしむ。善男子よ、當に知るべし、我が身口意は、乃し蟻子に至るまでも害心を生ぜじ、何に況んや人をや。人は是れ福田にして諸の善根を生ず。

【五】第八章重行の善友を明かす。

善男子よ、我唯此の幻化の法門を知るのみ。◎諸の大菩薩は無生法忍を得て、一切の有趣は皆悉く幻の如しと知り、菩薩の行は悉く變化の如く、一切の世間は悉く電光の如く、一切の諸法は皆悉く夢の如しと知り、深く無礙の法界に入り、菩薩の妙行を具へ、境界礙ふる無く、一切の行を攝し、無量の旋陀羅尼に於て而も自在を得たり。我當に云何んが彼の功徳の行を能く知り能く説くべき。

㊄善男子よ、此の南方に於て城有り、名けて善光と曰ふ。王を大光と名く、汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、一心に彼の王の智慧幻化の法門を正念し、一切の法は皆悉く幻の如しと觀じ、諸業を分別して專ら正法を求め、一心に彼の王の變化して衆生を救度せしことを思惟し、世間の一切は幻の如しと思惟し、三世の願行は悉く幻化の如しと分別し了知して、淨法界に入り、漸く人衆の聚落城邑、曠野の諸難を經て心に疲倦無く、善光城に至りて衆人に問ふて曰はく、

『此の城を何とか名く』と。

答へて言はく、『善光なり』と。

爾の時に善財は是の如きの念を作さく、『我が善知識は此の城中に在せり。我今必定して善知識に見え、菩薩の行、菩薩の正法、及び諸の法門、菩薩の功德の不可思議なること、境界の不可思議なること、自在の不可思議なること、平等法門の不可思議なること、勇猛力の不可思議なることを聞かん。我今必ずや菩薩の究竟の境界を聞かん』と。是の念を作し已りて善光城に入れり。城を見るに七寶にて無量に莊嚴せられ、七重の深き塹は周帀圍繞し、八功德水は其の中に盈ち滿ちて、底に金沙を布き、優鉢羅・鉢曇摩・拘牟頭・分陀利華は徧く其の中に滿ち、七寶の垣牆は七重に圍繞せり。所謂る、金剛師子の垣牆、不可壞金剛の垣牆、精進金剛の垣牆、不可壞精進金剛の垣牆、無底金剛の垣牆、淨網金剛の垣牆、離欲清淨金剛の垣牆なり。是の七重の牆は阿僧祇の寶にて

之を莊嚴せり。其の城は奇特にして高峻廣大なり。十億の街巷あり、一一の街巷に各無量億那由他阿僧祇の人衆有り。阿僧祇の閻浮檀金の樓閣は、瑠璃の寶網を其の上に羅覆し、不可思議なる白銀の樓閣は、赤眞珠の網を其の上に羅覆し、不可思議なる瑠璃の樓閣は、莊嚴藏摩尼の寶網を其の上に羅覆し、不可思議なる玻瓈の樓閣は、離垢摩尼寶藏の網を其の上に羅覆し。不可思議なる明淨寶の樓閣は、日藏摩尼の寶網を其の上に羅覆し、阿僧祇の因陀尼羅寶の樓閣は、妙寶光明の網を其の上に羅覆し、阿僧祇の堅固寶の樓閣は、夜光寶炎網を其の上に羅覆し、不可思議なる金剛の樓閣は、不可壞幢摩尼の寶網を其の上に羅覆し、不可思議なる沈水旃檀の樓閣は、摩訶曼陀羅華網を其の上に羅覆せり。是の如き等の稱說す可からざる妙寶の樓閣は、種種の網を以て其の上に羅覆せり。不可思議なる妙寶の網、不可思議なる金鈴の網、不可思議なる香の網、不可思議なる華の網、不可思議なる衣の網を其の上に羅覆せり。又不可思議なる諸の妙寶の帳を張り、不可思議なる珍妙の寶蓋を以て其の上に覆ひ、不可思議なる雜寶の幢旛を建立して之を莊嚴せり。此の城中に當りて一樓閣有り、名けて衆生樂見無厭と曰ふ。阿僧祇の摩尼寶を以て莊嚴せり。彼の大光王は常に其の中に處したまふ。爾の時に善財、此の一切の嚴飾の珍妙なるに於て、心に染著無く、一心に善知識を見んことを樂欲せり。大光王、法堂の師子の座に處して結跏趺坐したまふを見るに、衆寶をもつて莊嚴し、敷くに寶衣を以てし、萬阿僧祇の寶像を以て莊嚴と爲し、種種の妓樂をもつて之を娛樂し、

（六）二十八大人の相有り、八十種好を以て莊嚴し、身は眞金色にして明淨の日の如く、普く一切を照し、盛滿の月の衆星の中に明かなるが如く、梵天王の大衆に處するが如く、大海の中に衆の珍寶有るが如く、雪山の中より諸の良藥を出だすが如く、大龍王の諸法實相の音聲を雷震するが如く、虚空の清淨にして、塵垢を受けざるが如く、須彌山の四種の寶色普く衆生の性海を照すが如く、譬へば寶洲の智寶充滿するが如し。彼の王殿の前、及び諸の街巷、城の四門の外には、處處に衆の珍寶聚、及び諸の寶衣を安置し、無量億那由他の諸の婇女衆あり、容飾端嚴にして、五欲倫無く、姿好巧妙にして天人を回動す、六十四術備さに擧さざる無し。無量の乳牛あり、其の角は金色、乳味甘くして香し、一穀に一石あり。又無量なる諸の莊嚴具・種種の甘香・百味の肴膳・無量の音樂・及び諸の湯藥資生の具有り。一一の街巷には兩邊に各二十億の菩薩有り、此の一切資生の具を以て、而も用ゐて惠み施せり。衆生を攝せんが故に、衆生を悅ばしめんが故に、衆生の心を淨めんが故に、衆生の煩惱を滅せしめんが故に、衆生をして實義を解らしめんが故に、衆生を一切智に安立せしめんが故に、衆生をして惡心を離れしめんが故に、衆生の邪見の刺を拔出せんが故に、衆生の業道を淨めんが故なり。爾の時に善財、五體にて大光王を敬禮し已りて、右に繞ること一帀、一面に於て住し、白して言さく、

「大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、

【六】因圓滿せるが故に三十二相の中無見頂、眉間、白毫、梵音長舌の四相を缺く。

菩薩の道を修するやを知らず。我大聖は善能く解說したまふと聞けり。唯願はくは敷演したまへ。』

答へて言はく、『善男子よ、我は菩薩の大慈幢の行を成就し、清淨に滿足せり。我無量・不可說不可說の諸佛菩薩の所に於て、此の妙法を聞きて、觀察して清淨に修習し莊嚴せり。善男子よ、我此の行に住して如法に國を治め、衆生を觀察して世間に隨行し、如法に衆生を敎化し、衆生を攝取し、衆生を安置し、衆生を饒益し、如法に衆生に熏じ、如法に衆生を敎へ、善根を修し、法の眞實を觀せしめ、諸の衆生をして慈心・大慈心・大慈力心・饒益心・離恐怖心、衆生を攝する心、衆生を捨てざる心、大願を發し諸の苦を滅せしむる心を得しめ、衆生を安樂にして快樂を得しめ、身心柔輭にして心の垢を遠離し、生死の樂を捨てて常に正法を樂ひ、煩惱の垢を除きて清淨心を得、一切の善を以て衆生の心に熏じ、生死の流を斷ちて深法海に入り、諸の有趣を滅して無礙の心を出だし、一切智を得て諸の心海を淨め、信力堅固にして能く壞する者無からしめたり。善男子よ、我是の如く此行に安住するを以て、如法に國を治め、諸の人民をして衆の怖畏を離れしむ。貧窮の者有り、來りて我が所に至らば、求索する所に隨ひて常に庫藏を開き、而も之に告げて曰はく、「意を恣にして之を取り、衆の惡を作すこと勿れ」と。此の城の衆生は悉く大乘に向へり。各此の城を見るに種種同じからず。或は垢穢なりと見、或は清淨なりと見、或は木石と見、或は瑠璃と見、我は無壞の幢牆周帀圍繞すと見、或は不可思議なる樓閣と見る。阿僧祇の寶を以て莊嚴し、正直心を以て諸の善根を修して諸佛の所に

於て一切智を求め、我が宿世の所攝たりし衆生にして菩薩の行を修する者は、乃ち此の城を衆寶嚴淨なりと見るも、餘は垢穢なりと見る。善男子よ、此の城の衆生は五濁惡の時に、諸の不善を行へり、我彼を愍念して、菩薩の大慈を首と爲し、世に順ずるの三昧に入らしめたり。此の定に入る時、彼の諸の衆生の惡心・惱心・諍心・害心は、皆悉く除滅せり。所以は何ん。此の三昧力は法是の如くなるが故なり。善男子よ、且らく須臾を待て、汝自ら之を見ん。』

時に王卽ち大慈を首と爲す順世の三昧に入れり。入り已りて善光の大城は六種に震動し、諸寶の垣牆・樓閣・宮殿・欄楯・牕牖・卻敵・半月の寶鈴・羅網・諸寶の形像は妙なる音聲を出だして彼の王を讃歎せり。其の城の內外一切の人民は、皆大いに歡喜し、一心に合掌して彼の王を敬禮し、諸の畜生等も慈心をもつて相向ひ、亦彼の王を禮せり。山原樹林も皆悉く躬を曲めて彼の王に向ひ、河池泉流も皆悉く王に向ひ、一萬の龍王は黑重雲を興し、雷震耀電して衆の香水を雨らし、一萬の釋天王・夜摩天王・兜率天王・化自在天王・他化自在天王等は虛空の中に於て、億那由他の妓樂音聲を作し。阿僧祇の天の婇女は衆の妙音をもつて歌頌し、阿僧祇の華雲・香雲・末香雲・鬘雲・蓋雲・雜色衣雲・阿僧祇の寶幢旛蓋をもつて虛空を莊嚴して彼の王を供養し。伊那槃那龍王は、大蓮華を敷きて普く虛空を覆ひ、阿僧祇の妙婇の繒帶を垂れ、阿僧祇の寶にて之を莊嚴し、阿僧祇の寶鬘瓔珞、天の莊嚴具、諸の妙華香は、虛空に充滿して彼の王を供養し。阿僧祇の天女は虛空に充滿して彼の王を稱讃し、阿僧祇の羅刹

鬼等は常に大海閻浮提に在りて住し、血を飲み肉を食ひ、水陸の惡獸は常に衆生を害したるも、皆慈心及び寂靜心を得て、明かに後世を信じ、諸の惡を遠離して心大いに歡喜し、五體を地に投じて彼の王を敬禮し、皆無量なる身心の快樂を得たり。阿僧祇の(七)毘舍闍鬼、及び四天下の毒害の衆生、三千大千世界、乃至十方の各百萬億那由他の世界の中の毒害の衆生も、亦復た是の如し。時に大光王、三昧より起ち、善財に告げて言はく、

『善男子よ、我唯此の菩薩大慈幢行三昧を知るのみ。諸の大菩薩は大慈の蓋を以て普く覆ひて、一切の衆生を救護し、上中下品無二なりと等觀し、慈は大地の如く衆生を載育す。菩薩は滿月のごとく功德の光を出し、衆の惱熱を除く。菩薩は淨日のごとく、智慧の光明は普く一切を照す。菩薩は明燈のごとく重闇を除滅し。菩薩は淨水の珠のごとく衆生の心海の煩惱垢濁を滅し。菩薩は如意寶珠のごとく、衆生の心に隨ひて悉く滿足せしめ。菩薩は疾風のごとく速かに衆生をして三昧を修習し、一切智の城に入らしむ。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り能く說き、彼の功德の山を讚歎し稱量し、彼の功德を觀じて大願の風輪を知り、眞實地を得て大乘を莊嚴せる普賢菩薩の修行する所、及び諸の三昧を分別し了知して大悲雲を讚むべき。

(八)善男子よ、此の南方に於て城有り、名けて安住と曰ふ。優婆夷有り、名けて不動と曰ふ。汝彼に

【七】毘舍闍（Piśāca）顚鬼、又は噉精鬼と云ふ、持國天所領の鬼の名なり。

【八】第九善法行の知識を明かす。

詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、彼の王を敬禮して、繞ること無數帀、辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、正念に大光王の教を思惟し、菩薩の大慈幢行の大慈を首と爲し、世間に隨順する三昧は、不可思議なる功徳の願力を出生し、菩薩の不可思議なる堅固の智慧を長養することをを思惟し、菩薩の不共の法を思惟し、不可思議なる諸法の實相を思惟し、菩薩の不可思議なる眷屬を思惟し、菩薩の不可思議の衆事を思惟せり。是の思惟を作し已りて、歡喜心・離欲心・極踊躍心・謙下心・離垢心・明淨心・堅固心・無畏心・無盡心を得たり。是の念を作せし時、悲泣して涙を流し、復た是の念を作さく、「善知識を見れば則ち能く一切の功徳を出生し、菩薩の行を起し、淸淨に陀羅尼を正念し、菩薩の三昧の光明を出生し、一切の佛を見たてまつり、諸佛の法雲を雨らし、菩薩の諸願を分別し解説し、菩薩の不可思議なる智慧光明を出生し、菩薩の堅固なる諸根を長養し、善知識は能く險道を離るることを念ひ、善知識は正路を開示することを念ひ、善知識は平等法に順ずることを念ひ、善知識は摩訶衍を顯はすことを念ひ、善知識は普賢菩薩の所行を究竟することを念ひ、善知識は一切智の城を現ずることを念ひ、善知識は一切法界海を度ることを念ひ、善知識は普く三世一切の法海を照すことを念ひ、善知識は一切諸の白淨法を長養することを念ひ、善知識は一切諸の賢聖法を成滿することを念へり。善財は是の如く

【九】如來使天とは佛力所攝の神なり。

悲心に念ずる時に、(九)如來使天、(一〇)隨菩薩天は、虚空の中に於て之に告げて曰はく、
『善男子よ、其れ善知識の敎に隨順する有らば諸佛歡喜したまひ、其れ善知識の敎に隨順する有らば一切智に近づかん。善知識の敎に於て心厭くこと無きが故に、一切の諸義は悉く現じて前に在らん。善男子よ、汝安住王城の不動優婆夷の所に詣でよ。是れ汝の善知識なり。久しからずして當に見るべし』と。
爾の時に善財、智慧光明三昧より起ちて、漸漸に遊行して安住城に至り、不動優婆夷は今何の所に在すやを推問せり。時に人有り言はく、
『善男子よ、不動優婆夷は其の家の内に在して、父母守護し、親近し、眷屬周帀圍繞し、無量の衆の爲めに正法を演說したまふ』と。

【一〇】隨菩薩天とは己が業行の神なり。

爾の時に善財、歡喜すること無量にして、即ち其の門に詣り、彼の家の内に入れり。其の宮殿を見るに金色の光明ありて皆悉く普く照せり、斯の光に觸るる者は身心柔軟となる。爾の時に善財は光明身に觸れて、即ち五百の三昧門を得たり。所謂る、覺一切三昧門・奇特幢三昧門・寂靜三昧門・遠離一切衆生三昧門・普眼三昧門・如來藏三昧門なり。是の如き等の五百の三昧門を得て身心柔軟なること、七日の胎の如し。又妙香を聞ぐに天人に出過せり。前んで其の所に詣で、合掌し恭敬し、一心に觀察して、彼の形色を見るに、天龍八部の諸の婇女衆の及ぶ能はざる所なり。十方世界の一切の天人も與

に等しき者無く、容色の妙絶なること十方に倫無し、況んや勝る者有らんをや。唯諸佛をば除く。其の宮殿の嚴飾も、十方世界に與等しき者無し。口より妙香を出だし、十方世界に與等しき者無し。其の莊嚴具も十方世界に與等しき者無し。其の眷屬衆も十方世界に與等しき者無し。何に況んや勝る者有らんをや。如來の衆をば除く。是の如きの勝妙は衆生をして染著の心を起さしめず。其の見る者有らば、煩惱を除滅すること、梵天王に欲界の煩惱現前せざるが如し。其れ此の優婆夷を見ることを得るもの有らば、一切の煩惱は皆悉く除滅し、十方の衆生樂觀して厭くこと無けん。唯明行足のものをば除く。

爾の時に善財、彼の女人の不可思議の法、不可思議の三昧、不可思議なる無比の妙色、無量の光明網は一切障ふること無く、不可思議に衆生を饒益し、窮盡す可からざる諸の眷屬海を見て、不可思議の身を觀察して厭足有ること無し。爾の時に善財、偈を以て頌して曰はく、

『常に清淨の戒を持ち、精進して忍辱を修せば、譬へば盛滿月の、星の中に獨り明曜なるが如し。』

爾の時に善財、偈をもつて讃歎し已りて、白して言さく、

『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず、我大聖は善能く解說したまふと聞けり。願はくは爲めに敷演したまへ。』

爾の時に彼の女、善語・愛語を以て、善財に答へて言はく、
『善い哉善い哉、善男子よ、乃ち能く阿耨多羅三藐三菩提心を發せり。我菩薩の無壞の法門を成就し、菩薩の堅固の行を修學して、一切法の平等地陀羅尼を得、一切法の平等法門を得、離有莊嚴三昧を得たり。』

善財白して言さく、『菩薩の無壞の法門、乃至離有莊嚴三昧の境界は云何ん。』

『善男子よ、是の處は知り難く說き難し。』

善財白して言さく、『唯願はくは大聖、佛の神力を承けて、我が爲めに解說したまへ。我當に善知識に因りて信知し分別し、正念に觀察して一心に隨順し、虛妄を遠離して平等を解了すべし。』

爾の時に優婆夷答へて言はく、
『善男子よ、過去世離垢劫の中に於て、如來・應供・等正覺有して、號けて修臂と曰ひ、世に出興したまひき。時に國王有り名けて電光と曰ひ、我は王女爲り。中夜寂靜にして音樂を廢するの時、五百の侍女は皆悉く昏寐せるも、我樓上に在りて仰いで星宿を見て、彼の如來の虛空の中に在したまふを見るに、寶山王の如くにして、天龍八部、不可思議なる大菩薩衆に恭敬し圍繞せられ、大光明の網を放ちて、普く十方を照したまへり。彼の佛の毛孔よりは微妙の香を出だせり。我是の香を聞ぎて、身體柔輭にして心大いに歡喜し、恭敬し禮拜して、一心に合掌し、仰いで彼の佛の不見頂相を觀、

身の左右を觀たてまつるに邊際を見ず、相好莊嚴せられて、見るに厭き足ること無かりき。善男子よ、我爾の時に於て是の如きの念を作さく、「何等の業を修してか是の如きの身を出生し、是の如きの身を長養し、是の如きの身の清淨、是の如きの身の自在、是の如きの身の光明を具足し、眷屬、諸の莊嚴具、功德智慧、三昧陀羅尼、諸の辯才藏ありて、譬喩す可からざるや」と。善男子よ、時に彼の如來、我が心念を知りたまひて、我に告げて言はく、「汝應に不可壞の心を發して煩惱を除滅し、勝妙の心を發して一切の有に著せず、不懈怠の心を發して隨順して深く方便の法に入り、忍辱の心を發して衆生の諸の惡心海を調伏し、離癡の心を發して一切諸の生死趣を遠離し、無厭の心を發して一切の佛を見たてまつりて心に厭倦無く、無知足の心を發して悉く一切諸佛の法雲を飮み、寂靜の心を發して一切の佛の方便を以て世間に隨順し、守護心を發して一切諸佛の法輪を護持し、分別心を發して其の所應に隨ひて法寶を演說し、皆歡喜せしむべし」と。善男子よ、我爾の時に於て、彼の如來に從ひて此の法敎、清淨の法門を聞き、一切智、如來の十力、所言の不虛、光明の莊嚴、清淨の法身、相好の莊嚴、如來の眷屬、嚴淨の佛刹、如來の威儀、如來の壽命を求めたり。我是の心を發せし時、一切の煩惱・聲聞・緣覺・金剛の諸山も壞すること能はざる所なり。善男子よ、我此の心を發し已りて、閻浮提の微塵に等しき劫に於て、欲想を生ぜず、何に況んや其の事をや。爾所の劫に於て、自ら眷屬に於て瞋心を生ぜず、何に況んや餘人においてをや。爾所の劫に於て我見の心を生ぜ

ず、況んや我所の心をや。爾所の劫に於て愚癡の心を生ぜず、無記の心を生ぜず、乃至胎中にも常に正念を起せり、何に況んや餘の時に於てをや。爾所の劫に於て、乃至夢中にも、一切の佛を見たてまつる、況んや十眼をもつて觀ずるをや。爾所の劫に於て一切諸佛の法雲を聞持して、未だ曾て一句をも忘失せず、乃至世間の語言をも尚ほ忘失せず、況んや如來の語をや。爾所の劫に於て悉く一切諸佛の法海を飲み、乃至世法をも亦分別して知り、一切の方便と、諸の三昧門とを出生して心に虛妄無し。爾所の劫に於て一切諸佛の法輪を受持し、法輪の中に於て一法をも失はず、乃至二智有ること無し、(但し)衆生を化することを除く。爾所の劫に於て一切の佛海、及び諸の化佛を見たてまつり、彼の佛の所に於て大願を滿足せり。爾所の劫に於て一切の菩薩海の所に於て、淸淨なる菩薩の行海を具足し出生せり。爾所の劫に於て若し衆生有りて我を見ることを得ん者は、皆阿耨多羅三藐三菩提心を發し、乃至一念も二乘の心を生ぜじ。爾所の劫に於て一切の佛法に於て、乃至一句一味にも疑惑を生ぜず、二想有ること無く、虛妄の想無く、種種の想無く、染著の想無く、好醜の想無く、愛恚の想無し。善男子よ、我初め發心してより來た、常に諸佛菩薩、及び善知識を見たてまつり、佛の大願を聞き、菩薩の行、諸の波羅蜜、智慧の諸地、無盡の法藏を修し、普く無量無邊の一切世界に入りて、無量の衆生界を分別し、淸淨なる智慧の光明を離れずして、一切衆生の煩惱を除滅し、衆生の善根を長養し發起し、其の所應に隨ひて悉く能く顯現して、未だ曾て捨離せず。微妙の音聲は其の聞く者有

らば皆悉く歡喜せん。善男子よ、我此の無壞の法門に入りて、一切法の平等陀羅尼を觀察し、無量の自在神變を顯現せり。汝見んと欲するや、不や。』

『唯然り見んことを欲す』と。

爾の時に不動優婆夷は、萬の三昧門に入り、正念に觀察せり。所謂る、專ら正法を莊嚴して心に疲厭無き三昧門・離癡莊嚴三昧門・十力三昧門・佛無盡藏三昧門を求め、是の如き等の三昧門に住せし時、十不可說の佛刹微塵に等しき世界は、六種に震動し、淨きこと瑠璃の如く、一一の世界の中に、各百億の如來を見たてまつり、一一の如來は大衆に圍繞せられ、大光明を放ちて普く十方を照し、或は兜率天に現じ、或は一切の世界に現じ、妙なる音聲を以て淨法輪を轉じ、乃至、大般涅槃を示現したまへり。時に優婆夷三昧より起ち、善財に告げて言はく、

『善男子よ、汝此を見しや不や。』

『唯然り已に見たてまつれり。』

『善男子よ、我唯此の無壞の法門を成就して、一切の衆生の爲めに微妙の法を說きて、皆歡喜せしむるのみ。諸の大菩薩は十方に遊行して障礙有ること無し。金翅鳥王の悉く衆生の大海の源底を得るが如く、若し衆生の菩提の因有るを見ば、生死海より之を攝取して菩提に安置せしめたまふ。譬へば商人の大寶の洲に入るが如く、專ら如來の十力の大寶を求めて生死海に遊び、衆生を敎化して煩惱を

除滅す。明淨の日の如く、愛水を消渇して一切衆生の蓮華を開敷せしむ。譬へば疾風の如く十方に遊行して一切衆生の邪見煩惱の樹枝を摧滅す。譬へば大地の如く、一切衆生の善根を長養し。轉輪王の如く、四攝法を以て衆生を攝取したまふ。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り能く說くべき。

【二】第十眞實行の善友を明かす。

〔二〕善男子よ、此の南方に於て一國土有り、不可稱と名け、城を知足と名く、出家外道有り、名けて隨順一切衆生と曰ふ。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、辭退して南に行けり。

# 卷の第五十一

## 入法界品第三十四の七

爾の時に善財童子は、一心に彼の優婆夷は是れ我が眞の善知識なりと正念し、彼の正教を念ひ、彼の所說を念ひ、彼の所發を念ひ、彼の所開を念ひ、彼の示現を念ひ、彼の所歎を念ひ、彼の所明を念ひ、彼の廣演を念ひ、彼の修習を念ひ、隨順し思惟して、徧修寂靜の寂滅を修し、照明に觀察して、漸漸に城邑聚落を經由し、日沒の時に於て、知足城に入り、周徧して隨順一切衆生外道は今何の所に在すやと推求せり。中夜の時に於て、彼の城の北を見るに一の大山有り、光明照り曜くこと、日の初めて出づるが如し。爾の時に善財、天明に城を出でて彼の山上に登り、遙かに外道を見るに、靜處に經行し、妙色を成就したまふこと梵王に超踰し、一萬の梵天眷屬に圍繞せられたり。往きて其の所に詣で頭面に足を禮し、卻きて一面に住し、白して言さく、『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。』

答へて言はく、『善い哉善い哉、善男子よ、乃ち能く阿耨多羅三藐三菩提心を發せり。善男子よ、我已に一切處に至る菩薩の行に安住し、普觀三昧の法門と、無依無作の神足とを成就し、平等なる般

若波羅蜜の光明を以て、一切の諸趣、一切の衆生此に死し彼に生じ、諸有に流轉し、種種の雜類、形色の好醜、種種の欲樂、諸趣の受生を觀察し分別せり。所謂る、天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・地獄・餓鬼・畜生・閻羅王の處、人非人の處なり。彼の諸の衆生、或は邪見に著し、或は二乘を好み、或は大乘を樂ひ、妙智慧の種種の方便を以て衆生を饒益し、或は世間の種種の技藝を教へて、衆生をして諸の巧術陀羅尼門を得しめんと欲し、或は四攝を以て衆生を攝取して、一切をして薩婆若を得しめんと欲し、或は諸の波羅蜜を歎じて、衆生をして一切智の回向を得しめんと欲し。或は發菩提心を歎じて、衆生をして諸の善根に於て、沮壞す可からざらしめんと欲し。或は菩薩の行を歎じて、衆生をして佛刹を嚴淨し、大願を滿足し、衆生を敎化せしめんと欲し。或は厭離の法を說きて、衆生をして惡行の果は三塗の苦を受ることを知らしめんと欲し。或は淨法を說きて、衆生をして歡喜心を發し、諸佛の所に於て衆の德本を植ゑ、一切智の果を得しめんと欲し。或は如來應供等正覺を歎じて、衆生をして弘誓の願を發し、一向に專ら淸淨の法身を求めしめんと欲し。或は如來の功德を歎じて、衆生をして一向に佛の無壞の身を樂ひ求めしめんと欲し。或は如來の無比の妙法を歎じて、衆生をして佛の一切の無壞の功德を得しめんと欲す。◎復た次に、善男子よ、此の知足城內の一切の人民、男女長幼をば、其の所應に隨ひて、我悉く化度せるも、彼の諸の衆生は我の誰なるやを知るもの莫し。此の閻浮提の九十六種の外道邪見は、我悉く彼の爲めに種種に說法し、其の邪見

を斷ち、三千大千世界、乃至十方一切の世界の諸の衆生海を、種種の智方便の法門と、種種なる諸事、色像・音聲とを以て、化度し饒益せることも亦復た是の如し。

善男子よ、我唯此の菩薩の一切處に至る行の法門を知るのみ。諸の大菩薩の身は一切衆生の數と等しく、悉く一切衆生の身を分別する三昧を得て、變化の輪を出生し、徧く一切世界の一切の諸趣に遊び、普く十方一切衆生の前に現ず。其の見る者有らば、樂觀して厭くこと無く、悉く能く一切の善根を長養し、一切の劫に住して大願を捨てず、因那羅莊嚴光明の行を得て、一切に著せず、專ら實義を求めて衆生に隨順し、三世平等にして無我界を照し、無盡大悲の藏を具足せり。我當に云何んが彼の清淨の行、功德智慧を能く知り能く說くべき。

【二】以下十廻向位の善知識を說く、第一救護衆生離衆生相廻向の善友を明かす。

(二)善男子よ、此の南方に於て一國土有り、甘露味と名く。彼に長者有り、青蓮華香と名く。汝彼に詣でて問へ、『云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや』と。」

時に善財童子は、頭面に彼の外道の足を敬禮して、遶ること無數帀、辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、身命を惜まず、財寶に著せず、熾然を遠離し、諸趣に著せず、世間の五欲の快樂に著せず、眷屬の勢力自在なるに著せず、常に樂ひて一切の衆生を化度し、一切諸佛の世界を嚴淨し、一切諸佛を恭敬し供養して、心に厭き足ること無く、一切法の眞實の相を知り、一切菩薩の

功德の巨海を得んと欲し、大願を滿足し、一切劫に於て菩薩の行を修し、一切の佛、及び眷屬海に詣でて、一切菩薩の三昧に入り、悉く能く一切の菩薩の神力自在を顯現し、一毛孔に於て一切の佛を見たてまつり、心に厭き足ること無く、悉く一切諸佛の正法輪の雲を聞きて受持し、心に厭き足ること無く。專ら此等の一切の菩薩、諸佛の功德を求め。漸漸に遊行して、甘露味國に至り、靑蓮華香長者の所に詣でて、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、一面に於て住し、白して言さく、

『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發し、無上道に向ひ、一切諸佛の智慧を志求し、一切諸佛の大願を滿ぜんと欲し、一切諸佛の色身を淨めんと欲し、一切諸佛の法身を見たてまつらんと欲し、一切諸佛の智身を知らんと欲し、一切菩薩の諸行を淨滿せんと欲し、一切菩薩の諸三昧門を照さんと欲し、一切菩薩の諸の陀羅尼を成就せんと欲し、悉く一切の障礙を除滅せんと欲し、徧く一切諸佛の世界に遊ばんと欲するも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修し、一切智を生ずるやを知らず。』

答へて言はく、『善い哉善い哉、善男子よ、乃ち能く阿耨多羅三藐三菩提心を發せり。善男子よ、我能善く一切の諸香を知れり。一切和香・一切熏香・一切塗香・一切末香・一切香王・一切天香・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人非人等の香、一切衆の疾病を除滅する香、憂惱を除滅する香、一切の衆生に諸の喜樂を生ずる香、諸の煩惱を長養する香、諸の煩惱を除滅する香、有爲を

喜樂する香、有爲を厭離する香、放逸の香、不放逸の香、諸佛を念ずる香、正法に順ふ香、賢聖人の香、一切諸の菩薩を分別する香、一切菩薩地の香、一切菩薩の住する香なり。是の如き等の香を、我悉く了知せり。彼の香の生起と、所行と、成就と、具足と、清淨と、安隱と、方便と、境界と、行業と、根本とを皆悉く了知せり。善男子よ、人中に香有り大象藏と名く、龍の鬪に因つて生ず。若し一丸を燒かば大光網雲を興して甘露味國を覆ひ、七日七夜香水の雨を降らさん。若し身に著けなば身則ち金色とならん。若し衣服宮殿樓閣に著けんも、亦悉く金色とならん。若し衆生有りて此の香を聞ぐことを得ば、七日七夜、歡喜悅樂して、一切の病を滅し、枉橫有ること無く、恐怖危害の心を遠離し、專ら大慈に向ひ、普く衆生を念はん。我彼を知り已りて、而も爲に法を說き、無量の衆生をして阿耨多羅三藐三菩提に於て、不退轉を得しむ。善男子よ、復た香有り牛頭旃檀と名け、離垢山より生ず、若し以て身に塗らば火も燒くこと能はじ。復た香有り不可壞と名け、大海より生ず、若し以て身に塗らば、妙音聲を出だし怨敵を降伏せん。復た香有り蓮華黑沈水と名け、阿耨達池の四岸の邊より生ず、若し一丸を燒かば、悉く能く普く閻浮提界に熏せん、若し衆生有りて此の香を聞ぐことを得ば、一切の惡を離れ、清淨の戒を具せん。復た香有り明相と曰ひ、雪山王より生ず、若し衆生有りて此の香を聞がん者は、諸の垢染を離れて心清淨なることを得、而も爲めに法を說き、彼をして悉く菩薩の離垢圓滿の三昧を得しめん。復た香有り名けて海藏と曰ひ、羅刹國より生じ、轉輪王に

應ず、若し一丸を燒かば、四種の兵をして虛空に列住せしめん。復た香有り淸淨莊嚴と名け、善法堂より生ず、若し一丸を燒かば、悉く諸天をして念佛三昧を得しめん。復た香有り名けて淨藏と曰ひ、夜摩天より生ず、若し一丸を燒かば、彼の諸天をして皆悉く雲集して夜摩王に詣り、正法を聽受せしめん。復た香有り先陀婆と名け、兜率天より生じ、常に補處の菩薩の座の前に在り、若し一丸を燒かば大香雲を興し、普く十方一切の法界を覆ひ、無量の莊嚴を雨らし、一切の佛、及び其の眷屬に供へん。復た香有り名けて轉意と曰ひ、化自在天より生ず、若し一丸を燒かば、化自在天に於て七日七夜莊嚴の雨を雨らしめん。善男子よ、我唯此の香を知るのみ。◎諸の大菩薩は一切不善の習氣を遠離し、永く五欲を離れ、煩惱を滅除し、衆魔を降伏し、一切の縛を斷ち、三有の趣を離れ、智慧の妙香をもつて自ら莊嚴せり。一切世間に染著する所無く、無礙の戒香を具足し成就して、障礙を除滅し、智慧の境界は通達して滯ること無く、心常に平等なり。我當に云何んが彼の功德の行と、淸淨の戒門と、身口意の業の一切の惡を離れたることとを能く知り能く說くべき。

【二】第二不壞廻向の善友を明かす。

二『善男子よ、此の南方に於て城有り、名けて樓閣と曰ふ。彼に海師有り名けて自在と曰ふ。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、頭面に彼の長者の足を敬禮して、繞ること無數帀、辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、樓閣城に向ひ、正道を觀察して專ら正道を求め、夷險の道、垢淨の道、安危の道を觀じて復た是の念を作さく、「善知識に因りて菩薩の道と、諸の波羅蜜の道とを得、衆生を攝取して無礙の法界に入らしめ、一切の衆生に隨順して、一切の煩惱の熾然なる一切の邪見を除滅し、一切の不善の刺を拔き、一切生死の海を度り、必ず一切智の城に至らしめん。何を以ての故に。善知識に因りて一切の善根を得、善知識に因りて一切智を得たればなり」と。是の念を作し已りて漸漸に遊行して樓閣城に至り、周徧して自在海師を推求せしに、海岸の船舶の處に在して住したまふを見る。十萬の商人、及び無量の衆は之を圍繞して、勝法の入大海の法、佛功德海の法を聞かんと欲せり。往きて其の所に詣でて頭面に足を禮し、郤きて一面に住し、白して言さく、『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。』

答へて言はく、『善い哉善い哉、善男子よ、乃ち能く阿耨多羅三藐三菩提心を發し、能く我に、大乘の妙寶生死の海を度り、一切智の洲に到り、不可壞の摩訶衍の法を得、二乘の難を離れ、寂滅の樂に住して、生死洄澓の流淵を遠離し、菩薩の至處道法陀羅尼輪、菩薩の莊嚴道、薩婆若の波浪を逮得し、普法門を成就して、一切法に於て、障礙する所無く、一切智の海に度ることを諮問せり。善男子よ、我大悲幢淨行の法門を成就して、此の海邊の樓閣城中に在り、貧窮の者の爲めに諸

の苦行を修し、一切をして意の求むる所に隨ひて悉く充足せしめ已りて、廣く爲めに法を說き、皆歡喜せしめ、善根を發起して功德智慧の藏を長養し、菩薩の根を利にして菩提心を發し、菩薩の直心を淨め、菩薩の深心を增益し、大悲の力を出生し長養して、生死の苦を除き、生死の海に遊びて而も疲倦無く、衆生海を攝取して功德の海に住せしめ、一切法の智海光明を得て、一切の佛海を見たてまつり、一切智海に度らしめんと欲す◎善男子よ、我此の城に住して、是の如く思惟し、是の如く正念して衆生を饒益せり。善男子よ、我海中の一切の寶洲、一切の寶相、一切の生寶、一切の淨寶、及び不淨寶を知れり。一切の寶價、一切の寶器を知り、一切寶の隨つて應用する所を知り、一切寶を作ることを知り、一切寶の境界を知り、一切寶の光明を知り、一切の龍宮殿を知りて、一切の龍難を滅し、一切の羅刹の宮殿を知りて一切の羅刹の難を滅し、一切の大身衆生の宮殿を知りて一切の大身衆生の難を滅し、趣を知り、洄澓の恐怖を捨てて能く波浪を離るることを知り、水の色を相することを知り、日月星宿を知り、諸の算數を知り、晝を知り、夜を知り、刹那・羅婆・摩睺姤路を知り、去を知り、安危に住するの法を知り、海の般船の牢不牢の法を知り、明かに風相を候ひて之を回轉し、所至の處を了せり◎善男子よ、我已に是の如きの智慧を成就して、衆生を利益せんが故に大海に入り、因りて爲めに法を說き、悉く歡喜して生死の怖を離れて一切智海に入り、愛欲の海を竭して、三世の光明智海を逮得し、一切の苦海を度らしめ、一切衆生の心海を淸淨にし、一切諸佛の刹海を嚴淨し、徧く一切

十方界の海に遊びて、障礙する所無く。一切衆生の諸根願海を知りて、一切衆生の行海に隨順し、一切衆生の隨所應海を知る。善男子よ、我此の大悲幢淨行の法門を成就せり、若し我を見聞し憶念する者有らば、皆悉く虛しからじ。善男子よ、我唯此の法門を知るのみ。諸の大菩薩の行は、生死煩惱の大海に於て、染著する所無く、邪見の海を離れて實法の海に入り、善方便を以て衆生海を攝し、一切智の海に住して一切衆生の諸の放逸海を滅し、善く分別して時と非時との海を知り、善方便をもつて衆生海を化することを知り、未だ曾て時を失はず。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り能く說くべき。

㊂善男子よ、此の南方に於て城有り、名けて可樂と曰ふ、彼に長者有り無上勝と名く。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

【三】第三、等諸佛廻向の善友を明かす。

時に善財童子は、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、悲泣して淚を流し、辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、大慈を增廣し、大悲潤澤して、功德智慧の莊嚴を長養し、煩惱の垢を離れて平等法に入り、心放逸ならずして不善の刺を拔き、一切の障を滅し、精進堅固にして、菩薩の不可思議なる三昧を修習し、慧光普く照し、寂靜を快樂とし、功德水の池に解脫の華敷き、大願を滿足し、法界に充滿して障礙する所無く、一切智に趣き、一向に專ら菩薩の正道を求め、漸漸に遊行して、可樂城に至り、周徧して無上勝長者を推求せり。城の東に林有り、離憂惱妙莊嚴幢と名く。時に彼の

長者此の林中に在し、無量の長者に、周帀圍繞せられて、國事を理斷し、因みに爲めに法を說きて、我我所及び一切有を離れ、嫉妬を遠離して心海を淸淨にし、淨心に安住して常に諸佛を見たてまつり、無垢の信力を得て諸佛の法を受け、菩薩の力を起して菩薩の行を行じ、菩薩の諸の三昧力を出生し、菩薩の諸の智慧力を顯現し、菩薩の正念の力を演說して、樂ひて無上菩提の心を發さしめたり。爾の時に善財、長者の所に詣でて、法を敬ふを以ての故に、五體を地に投じ、良久しくて乃ち起ちて、白して言さく、

『大聖よ、我は是れ善財なり、我は是れ善財なり。我已に先に阿耨多羅三藐三菩提の心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修め、衆生を敎化し、常に諸佛を見たてまつり、正法を諮問し、悉く能く諸佛の法雲を受持し、專ら一切諸の方便門に向ひ、一切の世界に於て、一切劫の中に菩薩の行を行じ、一切の佛の自在神力を知り、能く一切諸佛の持する所を受け、諸佛の力を得るやを知らず。』

時に彼の長者、善財に告げて言はく、

『善い哉、善い哉、善男子よ。乃ち能く阿耨多羅三藐三菩提心を發せり。善男子よ、我一切趣に至る菩薩の淨行莊嚴の法門と、無依無作の神足の力とを成就せり。善男子よ、何等をか一切趣に至る菩薩の淨行莊嚴の法門と爲すや。善男子よ、此の三千大千世界の、一切の阿修羅の世閒、一切の迦

樓羅・地獄・餓鬼・夜叉・羅刹・鳩槃茶・乾闥婆・人・非人等の世間、三十三天・須夜摩天・覩兜率天、乃至魔天の世間、欲界所住の一切生趣、一切の天宮・一切の龍宮・一切の夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽等の宮・人中の國土・城・邑・聚落中に於て法を說きて諍訟を滅除し、諸の恚害の心は悉く繫縛を解き、皆獄を出でしめ、諸の恐怖を離れしめ、不善の業、衆生を殺害すること、乃至邪見を滅し、諸の王事、及び國土の事を斷ち、不善の法を遠ざけ、悉く衆生をして諸惡を除滅せしめ、敎ふるに巧術、及び種種の論を以てし、一切を饒益して皆歡喜せしめ、一切諸の外道衆に隨順して、勝妙智を現じ、邪見を遠離して佛法を樂ひ、乃至梵天にも廣く爲めに法を說けり。此の三千大千世界の如く、乃至十方の不可說不可說の億那由他の佛刹微塵に等しき世界の中にも、廣く正法を說けり。所謂る佛法・菩薩法・衆生法・聲聞法・緣覺法なり。地獄・餓鬼・畜生・閻羅趣の法說きて、惡道の苦を現じ諸の天趣を說きて天趣の樂を現せしめ世間の法を說きて、世間の法を離れしめ菩薩の道を顯はして、生死の惡を離れしめ、一切智と、諸の妙功德とを說きて、愚癡の苦、及び諸の障礙を滅して、衆生をして離世の樂を得しめ、諸の虛妄を離れ、眞實の法を解り、惡業を遠離し、諸の煩惱を滅し、淨法輪を轉せしめんと欲す。善男子よ、我唯此の一切趣に至る菩薩の淨行莊嚴の法門と、無依無作の神通の力とを知るのみ。諸の大菩薩は諸の神通明と、佛刹に等しき身とを具足し成就して、普眼地を得、語言道を知り、神力自在にして智慧を具足し、諸の諍訟を離れ、大人の廣長舌の相を逮得して微妙の音

を出だして、能く壞する者無く、一切三世の諸佛を分別して、亦二想無く、明淨の智慧は三世の法を照し、境界無量にして、淨きこと虛空の如し。我當に、云何んが彼の功德の行を能く知り能く說くべき。

(四)善男子よ、此の南方に於て、一國土有り、名けて難忍と曰ひ、城を(五)迦陵伽婆提と名く、比丘尼有り、師子奮迅と名く。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子、頭面に彼の長者の足を敬禮して、繞ること無數帀、眷仰し觀察し、辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、漸漸に遊行して、彼の國の城に至り、周徧して彼の比丘尼を推問せり。時に無量の男女の大衆有り、善財に答へて言はく、『此の比丘尼は、今王の園なる日光林の中に在して、法を以て一切の衆生を饒益したまふ』と。爾の時に善財、彼の園林に詣りて、周徧して觀察し、一の大樹を見る、名けて滿月と曰ひ、大光明を放ちて百由旬を照せり。復た大樹を見る、名けて普覆と曰ひ、其の形は蓋の如くにして、靑光明を放てり。復た華樹を見る、名けて華藏と曰ひ、高きこと雪山の如く、衆の華雲を雨らすことは、天帝釋の(六)波利質多羅樹の如し。復た大樹を見る、名けて柔輭と曰ひ、光明

【四】第四至一切處廻向の善友を明かす。
【五】迦陵伽婆提(Kaliṅgavana)。譯して鬪諍時林と云ふ。
【六】波利質多羅(Pāriçitra)。香遍樹と譯し、忉利天上に在る樹名にして、其の枝葉華實皆香なるが故に此の名あり。

普く照して常に果實有り。復た大樹を見る、名けて明淨と曰ひ、譬喩をなす可からず、摩尼をもつて莊嚴し、阿僧祇の淸淨なる妙寶を出だせり。復た衣樹を見る、阿僧祇の妙寶衣藏を出だせり。復た歡喜樹を見る、自然に微妙の音聲を演出せり。復た普莊嚴香薰樹を見る、一切の香を出だし、普く十方に薰じて障礙する所無し。復た彼の園の泉流淵池を見る。旃檀の行樹は、周帀圍繞し、七寶の欄楯を以て莊嚴と爲し、黑旃檀の泥は其の底に凝停し、布くに金沙を以てし、八功德水は其の中に充滿し、優鉢羅・鉢曇摩・拘牟頭・分陀利華は、敷き榮え、鮮かに茂りて徧く其の上を覆ひ、寶樹周徧して、端嚴殊妙なり。一一の樹下に各無量の師子の座を敷き、布くに寶衣を以てし、薰ずるに衆香を以てし、衆寶の帳を張り、白淨の寶網を其の上に羅覆し、金鈴の網中より妙なる音聲を出だせり。或は樹下に蓮華藏師子の座を敷く有り。或は樹下に香藏の座を敷く有り。或は樹下に龍莊嚴藏の座を敷く有り。或は樹下に寶聚師子の座を敷く有り。或は樹下に明淨普照藏の座を敷く有り。或は樹下に師子樂藏の座を敷く有り。彼の一一の座に各十萬の寶師子の座有りて、眷屬圍繞し、無量に莊嚴し、無量の寶を散じて其の中に充滿すること、海の寶洲の如し。寶衣を地に布き、柔輭妙好にして蹈めば則ち足沒し、擧ぐれば則ち還た復す。異類の衆鳥は和雅の音を出だし、帝釋の歡喜の園に超越せり。種種の華樹は常に華雲を雨らし、帝釋の照明の園に超勝せり。妙香普く薰じ、帝釋の善法講堂に超えたり。寶樹・樂樹は微妙の聲を出だし、善口の天女の歌音に超過せり。無量百千の樓閣は莊嚴せられ、觀る者

厭くこと無く、帝釋の善現大城に超踰せり。此の園の一切諸の莊嚴具は、梵天の宮の如く衆生見んことを樂ふ。

爾の時に善財、此の園林を見るに、皆是れ菩薩の業行の成す所、諸の世間を出たる善根の起す所、不可思議の諸佛を供養して得る所にして、能く壞る者無し。此れ皆師子奮迅比丘尼の法の如幻なることを了り、功德藏を長養したる善根の成ずる所なり。三千大千世界の天龍八部、無量の衆生、悉く此の園に入りて、而も迫迮せず。何を以ての故に、此の比丘尼の不可思議なる威神力の故なり。◎爾の時に善財、比丘尼を見たてまつるに、徧く一切の寶師子の座に處して、端嚴殊妙にして、威儀庠序なり。其の心寂靜にして諸根を調伏すること、譬へば龍象の如く、澄淨の淵、如意寶珠の如し。五欲に染まざることは猶ほ蓮華の如く、心畏るる所無きは師子王の如く、淨戒に安住して傾動す可からざること須彌山の如く、衆生の諸の煩惱熱を除滅すること、涼香王の如く、衆の病を滅除すること、良藥王の如く、見る者虛しからざること、婆樓那天の如く、善根を長養することは、猶ほ良田の如し。一座に處すを見るに、淨居天衆の眷屬に圍繞せられ、爲めに不盡の法門を說き、又處座を見るに、悅樂梵等の梵衆に圍繞せられて、爲めに普妙音聲の法門を說き。又處座を見るに、無量の他化自在天王等の天子、天女の眷屬に圍繞せられて、爲めに菩薩の淸淨なる自在の法門を說き。又處座を見るに、化自在天王等の天子、天女の眷屬に圍繞せられて、爲めに淸淨なる一切莊嚴の法門を說き。又

處座を見るに、刪兜率天王等の天子、天女の眷屬に圍繞せられて、爲めに心藏旋復の法門を說き、又處座を見るに、夜摩天王等の天子、天女の眷屬に圍繞せられ、爲めに無量莊嚴の法門を說き。又處座を見るに、釋天王等の天子、天女の眷屬に圍繞せられて、爲めに厭離の法門を說き、又處座を見るに、娑伽羅龍王・十光明龍王・難陀跋難陀龍王・摩那斯龍王・伊那槃那龍王・阿耨達龍王等の龍子・龍女の眷屬に圍繞せられて、爲めに善方便救護衆生の法門を說き、又處座を見るに、(七)提頭賴吒天王等の乾闥婆の男女の眷屬に圍繞せられて、爲めに無盡の法門を說き。又處座を見るに、摩睺羅伽・阿修羅王等の眷屬に圍繞せられて、爲めに法界方便智莊嚴の法門を說き。又處座を見るに、大勢力迦樓羅王等の眷屬に圍繞せられて、爲めに生死海に於て無畏なる法門を說き。又處座を見るに、屯緊那羅王等の眷屬に圍繞せられて、爲めに佛行光明の法門を說き。又處座を見るに雲山摩睺羅伽王等の眷屬に圍繞せられて、爲めに佛喜の法門を說き。又處座を見るに、無量の男子女人、童男童女の眷屬に圍繞せられて、爲めに勝趣の法門を說き。又處座を見るに、常に衆生の命を奪ふ羅刹王等の眷屬に圍繞せられて、爲めに大慈大悲を起す法門を說き。又處座を見るに、聲聞を樂ふ者の眷屬に圍繞せられ、爲めに勝智光明の法門を說き。又處座を見るに、緣覺を樂ふ者の眷屬に圍繞せられて、爲めに明淨如來功德光明の法門を說き。又處座を見るに、大乘を樂ふ者の眷屬に圍繞せられて、爲めに普門三昧

【七】提頭賴吒（Dhitarāṣṭra）。譯して持國天と云ふ、四天王の一にして東洲を守護するが故に東方天とも云ふ。

智慧光明の法門を說き。又處座を見るに、初發心の菩薩の眷屬に圍繞せられて、爲めに一切の佛の大願の法門を說けり。又處座を見るに、二地の菩薩の眷屬に圍繞せられて、爲めに離垢三昧の法門を說き。又處座を見るに、三地の菩薩の眷屬に圍繞せられて、爲めに寂靜莊嚴の法門を說き。又處座を見るに、四地の菩薩の眷屬に圍繞せられて、爲めに一切智勢力境界の法門を說き。又處座を見るに、五地の菩薩の眷屬に圍繞せられて、爲めに淨心華藏の法門を說き。又處座を見るに、六地の菩薩の眷屬に圍繞せられて、爲めに明淨藏の法門を說き。又處座を見るに、七地の菩薩の眷屬に圍繞せられて、爲めに普地藏の法門を說き。又處座を見るに、八地の菩薩の眷屬に圍繞せられて、爲めに法界法身の境界の法門を說き。又處座を見るに、九地の菩薩の眷屬に圍繞せられて、爲めに無有無著莊嚴の法門を說き。又處座を見るに、十地の菩薩の眷屬に圍繞せられて、爲めに無礙三昧の法門を說き。又處座を見るに、金剛力士の眷屬に圍繞せられて、爲めに智慧金剛の法門を說けり。是の如き等の一切諸の座に處するを見て、一切諸趣の一切衆生の眷屬に圍繞せられ、善根を種うる者には、爲めに善根を說き、善根を長ずる者には爲めに一切の善根を增長することを說き、其の所應に隨ひて爲めに法を說き、乃至阿耨多羅三藐三菩提に於て不退轉を得しむ。何を以ての故に、此の比丘尼は百萬阿僧祇の般若波羅蜜門を成就せるが故なり。所謂る、普眼般若波羅蜜門、一切の佛法を說く般若波羅蜜門、法界を分別する般若波羅蜜門、一切の障礙を壞散する般若波羅蜜門、一切衆生の善法を出生し長養す

る般若波羅蜜門、勝莊嚴の般若波羅蜜門、無礙藏の般若波羅蜜門、法界圓滿の般若波羅蜜門、淸淨心藏の般若波羅蜜門、一切衆生の樂藏の般若波羅蜜門なり。是の如き等の百萬阿僧祇の般若波羅蜜門を得て、此の園中に於ける所有る衆生は、皆阿耨多羅三藐三菩提に於て不退轉を得たり。

爾の時に善財、師子奮迅比丘尼の諸の奇特の事を見たり。所謂る、園林の資生の具、經行の威儀、寶師子の座、大衆の眷屬、諸の妙功德、神力の自在、微妙の音聲、是の如きの一切諸の奇特事なり。又微妙淸淨の音聲を聞くに、不思議の法を宣揚し讃歎せり。無量の法雲に潤澤せられて、身心柔輭となり、五體を地に投じて、恭敬し禮し已りて、將に繞旋せんと欲して、比丘尼を見たてまつるに、一切の座に徧し、自ら己身、及び無量の衆の樹木園林を見るに、皆悉く右に旋り、繞ること無數帀なり。是の如き見已りて、合掌し恭敬して、一面に於て住し、白して言さく、

『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。唯願はくは大聖、我が爲めに解說したまへ。』

『善男子よ、我は菩薩の一切智底の法門を成就せり。』

『大聖よ、此の如きの法門は體性云何ん』。

『善男子よ、此の法門は智光莊嚴にして、一念の中に於て普く三世を照す』。

『大聖よ、此の智光莊嚴の法門は境界云何ん。』

『善男子よ、此の法門に入らば、現前に一切の法林三昧を正受せん。時に十方一切の世界の諸佛、兜率天に處す者は、彼の一一の佛の所に於て、其の自身より不可說不可說佛刹微塵に等しき摩兎摩身を出生して、恭敬し禮拜す。又不可說不可說の佛刹微塵に等しき華香瓔珞・諸の妙寶鬘・末香塗香・衣蓋幢旛・種種の寶華の雲、乃至一切莊嚴具の雲・寶網寶帳・莊嚴網等の種種の寶座を齎らし、是の如き等の諸の供養具を以て、如來を供養したてまつる。兜率天に興す所の供養の如く、神を母胎に降し、王宮に出生し、家を捨てて道を學び、菩提樹に詣りて最正覺を成じ、淨法輪を轉じて、諸の天上・人・非人中に在り、乃至般涅槃の興す所の供養も、亦復た是の如し。若し衆生有りて我が供養を知らば、皆阿耨多羅三藐三菩提に於て、不退轉を得ん。其れ衆生有り、來りて我が所に至らば、即ち彼が爲めに般若波羅蜜を說かん、我は衆生の想を起さず、衆生の想を取らず、一切の語言を知りて、而も語言に著せず、一切の佛を見たてまつりて、佛の想を取らず、深く法身を解るが故なり。一切諸佛の法輪を受持して、而も亦法輪の想を取らず、諸佛の眞實相を解了するが故なり。念念の中に於て悉く能く一切の法界に充滿して、而も亦法界の想を取らず、一切法は猶ほ幻の如しと了るが故なり。善男子よ、我唯此の菩薩の一切智底の法門を知るのみ。諸の大菩薩は法界を究竟して一切著すること無し。一身結跏趺坐して法界に充滿し、自身の中に於て悉く能く一切の佛刹を顯現し、一念の中に於て悉く能く一切の佛の所に往詣し、自身の内に於て悉く能く諸佛の神力を顯現し、能く一毛を以て不可

說不可說の諸佛世界を擧げ、一一の毛孔に於て不可說不可說の世界の成敗を現じ、一念の中に於て不可說不可說の衆生を攝取し、一念の中に於て不可說不可說の劫を攝取せり。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り能く說べき。

「(八)善男子よ、此の南方に於て一國土有り、名けて險難と曰ひ、城を寶莊嚴と名く。一女人有り、(九)婆須蜜多と名く。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、頭面に比丘尼の足を敬禮し、繞ること無數帀、眷仰し觀察して、辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、大慧の光明を以て其の心を照し、一切種智を具足し長養し、一心に諸法の實相を思惟し、一切語言の陀羅尼藏を建立し、廣く修して一切の法輪陀羅尼を受持し、衆生の歸と爲りて、大悲力を長じ、方便をもつて一切種智を觀察し、法界に等しき清淨の大願を滿じ、明淨の慧光普く十方の衆生を照し、一切の莊嚴と、諸の通明力とは十方一切の世界に充滿し、究竟じて菩薩の諸業を成滿し、漸漸に遊行して、險難國の寶莊嚴城に至り、婆須蜜多女は今何の所に在すやと推問せり。爾の時に人有り、彼の女の深き智慧を知らざる者は、是の如きの念を作さく、『今此の童子は威儀庠序にして、其の心寂靜に、諸根を調伏し、放逸・顚倒・惑亂を遠離し、念慧現前して、視瞻は詳審に、言音は和雅にして、形色に著せず、甚深の

【八】第五、無盡功德藏廻向の善友を明かす。
【九】婆須蜜多(Vasumitrā)。世友又は天友と譯す。

法相を正念し思惟して、懈倦を遠離し、心は大海の如し、此れ染欲顚倒の人に非ず、情欲の想無く、欲泥に沒せず、諸根に隨はず、行は魔界を出で、五欲に服せず、一切諸の魔の爲めに縛せられず、作すべからざる所をば已に能く作さず、何等の意有りてか而も此の女を求むるや』と。其の中に人有り、先に彼の女の智慧有ることを知れる者は、是の如きの言を作さく、

『善い哉、童子、大善利を得んとして、乃ち能く深智の女人を推求す。當に知るべし、童子は一向に佛を求めて、悉く一切の衆生を攝取し、諸欲の刺を拔き、淨想を壞散せんと欲す。善男子よ、今此の女人は此の城中の深宮の內に在す』と。

爾の時に善財、此の語を聞き已りて、心大いに歡喜し、往きて其の門に詣り、彼の宮宅を見るに嚴飾廣大にして、十重の寶牆は周帀圍繞し、十行の寶多羅樹を列べ植ゑ、十重の深き塹には、八功德水其の中に充滿し、底に金沙を布き、寶妙蓮華・優鉢羅・鉢曇摩・拘牟頭・分陀利は、敷き榮え、鮮かに茂りて、水上に彌覆し、微妙の香を出だして、能く人心を轉じて垢染を生ぜしめず。衆寶の宮殿、臺觀樓閣は、阿僧祇の寶を以て嚴飾と爲し、紺瑠璃の地には灑ぐに香水を以てし、熏ずるに沈香を以てし、塗るに旃檀を以てし、寶網を羅覆し、閻浮檀金を以て垂鈴と爲して和雅の音を出だし、衆寶の華を散ずること猶ほ降雪の如く、諸の妙莊嚴は說くとも盡す可からず、金剛の摩尼、眞珠の寶藏は宅內に充滿せり。十種の園林を以て莊嚴を爲せり。

爾の時に善財、彼の女人を見たてまつるに、寶師子の座に處して、顏貌端嚴にして、妙相成就し、身は眞金の如く、目髮は紺色にして長からず短からず、白からず黑からず、身分具足し、一切の欲界に與に等しき者無し。何に況んや勝る者有らんをや。言音は婉妙にして、世に倫匹無く、善く字輪技藝諸論を知り、幻智菩薩の方便を成就し、阿僧祇の寶を以て其の身を莊嚴し、寶網を羅覆し、首に天冠を冠り、大衆に圍繞せらる。皆悉く善を修し、其の願行を同うし、善根を成就して、沮壞す可からず、無盡の功德の寶藏を具足して身より光明を出だし、普く一切を照す。斯の光に觸るる者は、歡喜し悅樂して、身心柔輭となり、煩惱の熱を滅す。

爾の時に善財、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、恭敬し合掌して、一面に於て住し、白して言さく、

『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず』

答へて言はく、

『善男子よ、我已に離欲實際淸淨の法門を成就せり。若し天、我を見ば、我は天女と爲り。若し人、我を見ば、我は人女と爲り。乃至非人、我を見ば、我は非人女と爲らん。形體殊妙に、光明の色像も殊勝にして比無し。若し衆生有りて欲に纒はるる者、來りて我が所に詣でなば、其が爲めに法を

説きて、皆悉く欲を離れ、無著の境界三昧を得しめん。若し我を見ること有らば歡喜三昧を得ん。若し衆生有りて我と語らん者は、無礙の妙音三昧を得ん。若し衆生有りて我が手を執らん者は、一切の佛刹に詣る三昧を得ん。若し衆生有りて我と共に宿せん者は、解脫光明三昧を得ん。若し衆生有りて目に我を視ん者は、寂靜諸行三昧を得ん。若し衆生有りて我が嚬呻を見ん者は、壞散外道三昧を得ん。若し衆生有りて我を觀察せん者は、一切佛境界光明三昧を得ん。若し衆生有りて我を（一〇）阿梨宜せん者は、攝一切衆生三昧を得ん。若し衆生有りて我を（一一）阿衆鞞せん者は、諸功德密藏三昧を得ん。是の如き等の類の一切衆生、來りて我に詣でん者は、皆離欲實際の法門を得ん。』

善財白して言さく、『大聖よ、昔何の所に於て諸の善根を種ゑ、何等の業を修して、此の法門を得たまへるや。』

答へて言はく、『善男子よ、過去に佛有し、號して常住如來・應供・等正覺と曰ひ、世に出興したまひき。彼の佛は諸の群生を哀愍し饒益したまはんが故に、安樂城に入りて、足門閫を蹈みたまひしに、即時に大地六種に震動し、其の城は自然に奇妙廣博にして、衆寶をもつて莊嚴し、諸の雜華を散じ、自然に娛樂の音を演出し、大光明を放ち、一切諸天虛空に充滿せり、廣く說かば佛入城經の中に奇特の事を現ずるが如し。善男子よ、我爾の時に於て長者の婦と爲り、名けて善女と曰ひき。是

【一〇】阿梨宜(āliṅgita)。抱捺摩觸と譯し、攝受の相にして三昧を得しむ。

【一一】阿衆鞞(Ācumbhin)。唼口と譯し此の攝受に依りて言教密藏の定を得しむ。

の如き等の諸の奇特の事を見て、夫の長者に從ひ、道巷に出でて、彼の如來に妙寶の天冠を奉せり、時に文殊師利は佛の侍者と爲り、我が爲めに法を說き、阿耨多羅三藐三菩提心を發さしめたり。善男子よ、我唯此の離欲實際の法門を知るのみ。諸の大菩薩は無量の方便と、智慧廣大の智藏とを成就し、智慧の境界は能く壞する者無し。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り能く說くべき。

〔二〕善男子よ、此の南方に於て城有り、〔三〕首婆波羅と名く。彼に長者有り、名けて安住と曰ふ。彼は常に栴檀の佛塔を供養せり。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、頭面に彼の女人の足を敬禮して、乃至辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、漸漸に遊行して彼の城に至り、長者の所に詣でて、乃至白して言さく、

『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。』

答へて言はく、

『善男子よ、我已に不滅度際菩薩の法門を成就せり。此の法門に住するが故に、善く十方一切の世

【二】第六、隨順平等善根廻向の善友を明かす。

【三】首婆波羅　唐經に毘瑟胝羅（Veṣṭhila）と云ひ、善妙到彼岸又は安住と譯す。

界の去來今の佛の、涅槃したまふ者無きを見る、衆生を化する方便の滅度をば除く。善男子よ、我旃檀の佛塔の戶を開きし時、念念に無盡佛性三昧門を正受し、念念の中に於て無量無邊の勝妙なる諸法を得たり。』

白して言さく、『大聖よ、此の三昧は境界云何ん』。

答へて言はく、『善男子よ、我此の三昧に入りし時、此の世界の迦葉佛・拘那含牟尼佛・尸棄佛・毗婆尸佛・提舍佛・弗沙佛・無上勝佛・無上蓮華佛を見たてまつる。是の如き等の不可說不可說の諸佛の閻浮提の微塵に等しき佛、乃至不可說不可說の佛刹微塵に等しき佛を見たてまつる。此の諸佛は初發心より神力自在にして、一切の大願、清淨の妙行、諸の波羅蜜をもつて次第に菩薩の諸地を成就し、深法忍を得て、衆魔を降伏し、自在の菩提を長養し成就し、諸の佛刹の種種の大衆を淨め、衆生を敎化し、大光明を放ちて淨法輪を轉じ、神力變化したまふを見たてまつり。皆悉く受持し、正念し、思惟し、智慧をもつて彼の諸佛の法を分別し、衆生を顯現し、未來の彌勒佛等の一切諸佛、現在の盧舍那佛等の一切諸佛を見知することも、亦復た是の如し。此の世界の如く、十方三世の一切諸佛・聲聞・緣覺・菩薩を見知することも、亦復た是の如し。善男子よ、我は唯此の不滅度際菩薩の法門を知るのみ。諸の大菩薩は一念に悉く三世の諸法を知り、念際平等にして二有ること無く、佛の所住に住し、一切劫に於て而も劫の想無く、諸佛の平等なる正法に隨順し、如來、及び我と一切衆生と

は、等しくして二行ること無く、莊嚴智を淨め、三世間を照し、諸佛の不轉の威儀を成就し、一切法界の境界を分別せり。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り能く說くべき。

(四)善男子よ、此の南方の海上に於て山有り、名けて光明と曰ふ。彼に菩薩有り、觀世音と名く、汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、頭面に彼の長者の足を敬禮して、繞ること無數帀、眷仰し觀察して、辭退して南に行けり。

【四】第七隨順等觀一切衆生廻向の善友を明かす。

# 巻の第五十二

## 入法界品第三十四の八

爾の時に善財童子は、正念に彼の長者の教を思惟し、菩薩の解脱の藏に隨順し、菩薩の諸の憶念力を正念し、次第に一切の諸佛、及び諸佛の法を分別し、一心に諸佛の法流を正念し、彼の諸佛の法と、及び佛の莊嚴とは、菩提を長養することを憶念し受持し、一切諸佛の不思議の業を思惟し正念し、漸漸に遊行して光明山に至り。彼の山上に登り、周徧して推求し、觀世音菩薩、山の西阿に住したまふを見る。處處に皆流泉浴池有り、林木鬱として茂り、地草柔輭にして、金剛寶座に結跏趺坐したまひ、無量の菩薩恭敬し圍繞して、爲めに大慈悲經を演說し、普く衆生を攝したまへり。見已りて歡喜し踊躍して自ら勝ふる能はず。合掌し諦觀して目暫くも眴かず。是の如きの念を作さく、『善知識は則ち是れ如來なり、善知識は一切法雲なり、善知識は諸の功德藏なり、善知識は十力の妙寶なり、善知識は見難く遇ひ難し、善知識は無盡の智藏なり、善知識は功德の山王なり、善知識は一切の智門を開發し示導して、能く一切をして薩婆若海に入りて清淨なる無上菩提を究竟せしめたまふ』と。

時に觀世音、遙かに善財を見て、告げて言はく、

『善く來れり。童子よ。專ら大乘を求めて、衆生を攝取し、直心、深心をもつて佛法を希ひ求め。大悲を長養して一切を救護し、普賢の行に向ひて、清淨に一切の大願を成滿し、一切の諸佛の一切の法雲を聞きて受持せんと欲し、善根を增長して而も厭き足ることも無く、善知識に順じて其の教に違はず、文殊師利の智慧功德の大海より起る所、善根を成就して、佛の勢力光明三昧を得、懈怠の心を離れて、專ら正法を求め、常に諸佛を見たてまつり、衆惡を遠離して諸の善行を修し、智慧成滿して淨きこと虛空の如し。』

爾の時に善財、觀世音に詣でて、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、恭敬し合掌して、一面に於て住し、白して言さく、『大聖よ。我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。』

答へて言はく、『善い哉善い哉、善男子よ。乃ち能く阿耨多羅三藐三菩提心を發せり。善男子よ、我已に大悲の法門光明の行を成就し、一切の衆生を教化し成就して、常に一切諸佛の住する所に於て、應に化すべき所に隨ひて普く其の前に現じ、或は惠施を以て衆生を攝取し、乃至同事をもつて衆生を攝取し、妙身の不可思議なる色を顯現して衆生を攝取し、大光網を放ちて衆生の諸の煩惱の熱を除滅し、微妙の音を出して、之を化度し、威儀をもつて說法し、神力自在にして方便をもつて覺悟

し、變化身を顯し、同類身を現じ、乃至同止して衆生を攝取せり。善男子よ、我大悲の法門光明の行を行ぜし時に、弘誓の願を發せり。名けて攝取一切衆生と曰ひ、一切の衆生をして險道の恐怖・惱の恐怖・愚痴の恐怖・繋縛の恐怖・殺害の恐怖・貧窮の恐怖・不活の恐怖・諍訟の恐怖・大衆の恐怖・死の恐怖・惡道の恐怖・諸趣の恐怖・不同意の恐怖・愛不愛の恐怖・一切惡の恐怖・身に逼迫する恐怖・心に逼迫する恐怖・愁憂の恐怖を離れしめんと欲せり。復た次に善男子よ、我現在正念の法門を出生せり、字輪の法門と名くるが故なり。一切衆生に等しき身を出現し、種種の方便をもつて、其の所應に隨ひ、恐怖を除滅して、爲めに法を說き、阿耨多羅三藐三菩提心を發して、不退轉を得しめ、未だ會て時を失はず。善男子よ、我唯此の菩薩の大悲の法門光明の行を知るのみ。諸の大菩薩は、一切普賢の大願を成滿し、究竟して普賢の所行を成就して、一切諸の善根の流を斷たず、一切の菩薩の諸の三昧の流、一切劫の流を斷たず、菩薩の行を修して未だ會て斷絶せず、三世の流に順じて、善く一切の成敗、諸の世界の流を知り、一切衆生の不善根の流を斷ち、一切衆生の諸の善根の流を出生し、一切諸の生死の流を除滅せり。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り能く說くべき。

【二】第八、如相廻向の善友を明かす。

(二)爾の時に東方に一りの菩薩有り、名けて正趣と曰ふ。來りて此の土に詣でて、金剛山の頂に住せり。此の山に至りし時、娑婆世界は六種に震動し、衆寶をもつて莊嚴し、大光明を放ちて日月を映

蔽し、釋梵天龍八部の光明は悉く聚墨の如く、普く地獄・餓鬼・畜生・閻羅王の處に現じ、衆苦を滅除し、煩惱及び諸の病苦を斷除し、普く寶雨を雨らして佛刹に充滿し、乃至普く一切莊嚴の雲雨を雨らして如來を供養したてまつり、其の所應に隨ひて其の身を示現し、然して後に來りて觀世音の所に詣でたり。

時に觀世音、善財に告げて言はく、『善男子よ、汝此の衆中の正趣菩薩を見るや不や』と。

答へて言はく、『唯然り、已に見たてまつる』と。

時に善財童子、頭面に觀世音の足を敬禮して、繞ること無數帀、觀察して厭くこと無く、聖教を正念して、深く智海に入り、辭して正趣に詣で、頭面に足を禮し、右に繞ること畢り、恭敬し合掌して、一面に於て住し、白して言さく、

『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。』『善男子よ、我已に菩薩普門速行の法門を成就せり。』

『善男子よ、汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

白して言さく、『大聖よ、何の佛の所に於て、此の法門を得たまひ、從來したまふ所の刹は此を去ること幾何にして、發し來りたまへること久如しきや。』

答へて言はく、『善男子よ、此の處知り難し、一切諸の天・人・非人等の能く了らざる所なり。

唯精進して退かず、善知識に近づき、佛に護念せられ、善根を具足し、正直心を淨め、菩薩の根を得、智慧の眼を開き、多く聞き多く知れる菩薩のみの境界なり。』『唯願はくは大聖よ、我が爲めに解說したまへ、我は當に佛の神力と、善知識の力とを承けて信解することを得べし。』

答へて言はく、『善男子よ、我が從來する所の刹は、名けて妙藏と曰ひ、佛を妙德と號したてまつる。彼の佛の所に於て、此の法門を得たり。彼を發してより來、已に不可說の佛刹微塵に等しき劫を經たり。一念の中に於て不可說の佛刹微塵に等しき步を行き、一步にして不可說の佛刹微塵に等しき世界を過ぎ、經し所の諸國には、佛皆現在し、一切の菩薩の諸の供養の具を以て之を供養し、悉く能く彼の世界の中の諸の群生海を了知し、諸根を分別し、其の所應に隨ひて爲めに法を說き、大光網を放ちて普く十方を照し、妙なる音聲を出だして正法を演說し、彼の諸の衆生を饒益し度脫したまへり。乃至十方も亦復た是の如し。善男子よ、我唯此の菩薩普門速行の法門を知るのみ。㊁諸の大菩薩は、普く十方に於て至らざる所無く、境界無量にして能く壞する者無し。清淨の法身は法界に充滿し、諸の衆生の道を分別し了知して、一切刹に滿ち、一切法に順じ、三世を等觀して平等の法を說き、世閒に隨順して佛道に著せず、普く諸道に至りて著する無く礙ふる無し。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り能く說くべき。

㊂善男子よ、此の南方に於て城有り、㊂婆羅波提と名く。彼に一天有り、

【二】第九、無礙無著解脫廻向の善友を明かす。

名けて大天と曰ふ。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、頭面に正趣菩薩を敬禮して、繞ること無數帀、眷仰し觀察して、辭退して南に行けり。

爾の時に善財童子は、正念に菩薩の無障礙の行を思惟し、一向に專ら正趣菩薩の智慧の境界を求め、通明の境界を出生し、一切の功德は精進堅固にして、歡喜すること無量、不思議なる遊戲神通を得、決定して諸の功德地・諸の三昧地・陀羅尼地・諸の大願地・諸の辯才地を了知し、諸力地を具へ、漸漸に遊行して彼の城に至り、『大天は今何の所に在すや』と推問せり。時に人有り言はく、『善男子よ、此の城内の大法堂上に在して、其の身を化現したまひ、大衆に圍繞せられて、爲めに法を說きたまふ』と。

爾の時に善財は往きて其の所に詣で、頭面に彼の大天の足を敬禮し、繞ること無數帀、恭敬し合掌して、一面に於て住し、白して言さく、『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。』

爾の時に大天は四の長き臂を出だして、四海の水を取り、其の面を澡洗したまひ、洗ひ已って諸の

【三】婆羅波提、正しくは嚩羅披提又は嚩羅鉢底(Dvār pati)と云ひ、有門城又は門主と譯す。

金華を取り、以て善財に散じ。是の如きの言を作さく、
『善男子よ、菩薩は聞き難く見難し。乃ち是れ世間奇特の法なり。諸の善男子の中の芬陀利華は、衆生の歸依と爲りて、衆生を攝取し、饒益し、載育して、普く一切を照し、正道を顯現して愚癡を遠離し。衆生の師と爲りて正法を救護し、衆生の將と爲りて救護し安隱ならしめ、悉く一切の智城に至ることを得しめ。淨き身口の業を具足し成就して、永く衆惡を離れ、衆生の類に於て常に愛語を以て其の所應に隨ひ、悉く其の前に現じて、未だ曾て時を失はず。善男子よ、我已に菩薩の雲網の法門を成就せり。』

白して言さく、『大聖よ、此の法門は境界云何ん』。

爾の時に大天、善財の前に於て、天金聚を積むこと猶ほ山王の若く、白銀・瑠璃・玻瓈・硨磲・碼碯・夜光・離垢藏の寶・明淨の寶・諸の方便門の摩尼寶・周羅の寶、瓔珞の寶・吉由羅の寶・髮を莊嚴する寶・童子を莊嚴する寶・彌何羅莊嚴の寶・彌狗羅の寶・赤眞珠の寶・一切諸の肢節を莊嚴する寶・如意珠の寶・皆悉く積聚して、猶ほ山王の如し。一切の華、一切の香、一切の塗香・一切の末香・一切の鬘・一切の衣・一切の蓋・一切の幢・一切の旛・一切の娛樂具・五欲の境界・是の如き等の積みたるは、悉く山王の如し。又復た阿僧祇の諸の童女衆を顯現して、善財に語りて言はく、
『善男子よ、汝此の諸の物を取りて如來を供養し、一切惠施して、衆生を攝取し、悉く衆生をし

て檀波羅蜜を修し、檀波羅蜜を學び、一切を捨離せしめよ。善男子よ、我此の物を以て汝に惠施を敎へ、一切の衆生を敎ふることも、亦復た是の如く、悉く衆生をして無貪の善根を以て、普く身心に熏じ、善智識に近づき、諸佛菩薩を恭敬し供養して、一切の善根を出生し長養し、阿耨多羅三藐三菩提心を發さしめん。復た次に善男子よ、若し衆生有りて五欲を貪らん者には、彼が爲めに不淨の境界を顯現し。若し瞋恚・放逸・憍慢・諂誑ありて、羅殺鬼の血を飲み肉を食ふが如きものには、悉く彼等に大慈悲を修することを敎へ、皆永く瞋恚放逸を離れしめん。若し懈怠なる者には、爲めに水火・盜賊・惡王・怨敵等の難を現ぜん。善男子よ、是の如き等の類の諸の惡衆生には、種種の方便をもつて不善根を滅し、善根を長養し、一切の波羅蜜を障礙する怨敵を除滅して、諸の波羅蜜を具足し成滿し、障礙を超出して無礙の法を得しめん。善男子よ、我唯此の菩薩の雲綱の法門を知るのみ。諸の大菩薩は、帝釋天王のごとく、一切の煩惱、阿修羅の難を滅し。諸の菩薩の水は、煩惱の火を滅し。諸の菩薩の火は、能く一切衆生の貪愛を燒き。諸の菩薩の風は、能く一切諸の染著心を散じ。菩薩の金剛は、一切の吾我の相を摧滅す。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り能く說くべき。

(四)善男子よ、此の閻浮提の內に一國土有り、摩竭提と名く、道場地神有り、名けて安住と曰ふ。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

【四】第十、法界無量廻向の善友を明かす。

時に善財童子は、頭面に彼の大天の足を敬禮し、乃至辭退して摩竭提國に趣き、彼の道場安住地神に詣でたり。爾の時に一萬の地天、各此の言を作さく、『此に來る童子は能く衆生を攝す、即ち是れ佛藏なり。能く一切衆生の無明殼膜を破りて、法王の家に生れ、垢を離れたる無礙の寶繒を以て其の頂に冠り、智慧の寶藏は外道の輪を摧くべし』と。時に安住地天等の一萬の地天は、衆の香水を雨らし以て其の地に灑ぎ、掃ふに香風を以てし、而も以て莊嚴し、大光明を放ちて普く三千大千世界を照し、衆寶をもつて莊嚴し、一切の華樹は開敷し鮮茂し、一切の果樹は悉く果實を成じ、一切の泉源河池の流は相灌注し、種種なる娯樂の音聲を演出し、諸天の衆寶にて莊嚴せる樓閣あり、異類の衆鳥は皆悉く歡喜して、哀和の音を出だし、無量の寶藏は自然に涌出せり。爾の時に安住地神、善財に告げて言はく、

『善く來れり、童子よ、汝自ら曾て此の處に於て種ゑし所の善根の果報を見んと欲するや不や。』

爾の時に善財は、頭面に彼の地神の足を敬禮して、恭敬し合掌して、一面に於て住し、白して言さく、

『大聖よ、唯然り、見んと欲す。』

時に彼の地神、即ち足の指を以て地を案せしに、無量の阿僧祇那由他の寶藏開發し顯現せり。

『善男子よ、汝昔植ゑし所の善根の果報は此の寶藏を致せり。自在に汝に隨はん。善男子よ、我已に

菩薩不可壞藏の法門を成就せり。我然燈佛より來、常に菩薩を護り、菩薩の行を修して、深く智慧の境界に入り、其の源底を盡し、大願成滿して菩薩の行を淨め、菩薩の一切の通明を出生し、菩薩の諸力の功德を具足し、菩薩の不可壞の法を成就して諸佛の刹に遊び、一切の佛の受記したまふ所の法を聞きて、一切の法輪、一切の修多羅の法雲を轉じ、大法の光明を以て衆生を敎化し、諸佛の自在神力を受持せり。◎善男子よ、乃し往古の世、須彌山微塵に等しき劫を過ぎて、劫有り莊嚴と名け、世界を月幢と名け、佛を善眼と號したてまつりき。彼の佛の所に於て、此の法門を得、修習し長養して此の法門を淨め、其の中間に於て常に不可說不可說の佛刹微塵に等しき佛に遇ひたてまつりき。彼の諸の如來の道場に往詣したまふ自在の神力を皆悉く奉覲し、此の佛の所に於て善根を修習しき。善男子よ、我唯此の法門を知るのみ。諸の大菩薩は、常に能く一切の諸佛に隨侍し、悉く彼の諸佛の法を聞きて受持し、深く諸佛の祕密の教法に入り、念念の中に於て淨法身に等しき一切の佛と、佛の影藏とを出だし、一切の佛法を出だし、所行壞する無し。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り能く說くべき。

(五)善男子よ、此の閻浮提に城有り、名けて(六)迦毗羅婆と曰ふ。彼に夜天有り、(七)婆娑婆陀と名く。

【五】以下十地の善知識を說く、第一歡喜地の善友を明かす。

【六】迦毗羅婆。正しくは迦毗羅婆窣都(Kapilavastu)と云ひ黄衍城と譯す、釋尊誕生しまひし故城なり。

【七】婆娑婆陀。唐經には婆珊婆演底(Vasanti)(Vasantavayanti)と云ふ、春主當、又は依止不畏と譯す。

汝彼に詣で問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。」

時に善財童子は、頭面に安住地神を敬禮し、繞ること無數帀、辭して彼の城に詣でたり。爾の時に善財童子は、正念に安住天の敎なる菩薩不可壞藏の法門を思惟し、諸の三昧を修し、諸の三昧を明らめ、菩薩の諸の法律儀、菩薩の自在なる遊戲神通を觀察し、菩薩の一切の淨法を觀察して、深く菩薩の甚深の智慧に入り、菩薩の無壞の法門を究竟して、菩薩の無壞の法門に隨順し、深く菩薩の諸の法門海に入り、漸漸に遊行して彼の城に至り、東門より入りて、中城に住せり。

爾の時に善財、日沒して未だ久しからざれば、一切の菩薩の敎ふる所に隨順して、一心に婆娑婆陀夜天を見んと欲し、善知識に於て如來の想を發し、普眼の境界は諸方の智慧を顯現して、悉く一切の境界に至らしめ、淸淨の法眼は普く一切の諸の法界海を見、大智の慧眼は十方を觀察し、彼の夜天、彼の城の上の虛空の中に住したまふを見たてまつりしに、寶樓閣の香蓮華の座に處して、身は眞金の如く、目髮は紺色にして、端嚴殊妙なれば、見る者厭くこと無し。身に朱衣を服し、衆寶をもつて莊嚴し、頂上に髮を結びたるは、猶ほ梵王の如し。其の身上に於て一切の星宿、及び其の光明を現じ、無量の世界の衆生を化度して惡道を遠離せしめ、一毛孔に於て、皆悉く所化の衆生を覩見し、或は天に生ずる有り、或は聲聞・緣覺を得るあり、菩薩の行を修するあり。種種の方便・形色・音聲・諸の語言法にて說く所の正敎をもつて衆生を化度し、經し所の劫に隨ひて、諸の菩薩に等しく衆生を敎化し

て、悉く菩薩の諸の行を修習せしめ、勇猛に精進して、諸の三昧、諸の神力門、菩薩の自在神力の境界、菩薩の所住、菩薩の光明、菩薩の奮迅を修し、菩薩の法門を以て衆生を化し、一毛孔に於て皆悉く見聞せしむ。

爾の時に善財、此を見聞し已りて、心大いに歡喜し、頭面に彼の夜天の足を敬禮して、繞ること無數帀、恭敬し合掌して、一面に於て住し、白して言さく、

『天神よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發し、善知識に因りて諸の佛法を得んことを信解せり。唯願はくは天神、一切智の道を開示し顯現したまへ。若し菩薩有りて此の道に向はん者は、十力地を得ん。』

爾の時に夜天、善財に告げて言はく、

『善い哉善い哉、善男子よ。善知識を敬ひて其の教に隨順せよ。若し菩薩有りて其の教に隨はん者は、疾かに阿耨多羅三藐三菩提を得ん。

(八)善男子よ、我已に菩薩の光明普く諸法を照し、衆生の愚癡を壞散する法門を成就せり。善男子よ、(九)我惡衆生に於て大慈の心を發し、不善業の衆生に於て大悲の心を發し、善を修する衆生に於て歡喜心を發し、善惡の衆生に於て無二の心を發し、染汚の衆生に於て清淨の心を發し、邪道の衆生に於て正道の心を發し、不淨を樂ふ衆生に於て淨を樂ふ心を發し、生死を樂ふ衆生に於て、法輪に隨順

【八】以下、正しく己が法界を示す、初に名體を標す。
【九】次に業用を現す。

する心を發し、聲聞・緣覺を樂ふ衆生に於て一切智道に安立する心を發さしめん。善男子よ、我常に是の如く思惟して、衆生を敎化し、夜闇く人靜まりて、鬼神盜賊の遊行するの時、比丘の威儀を離るるの時、重雲煙塵の日月を昏蔽して色を見ざるの時に於て、若し衆生有りて、城邑・聚落・山巖・曠野・八方の大海に在らん、乃至一切水陸の衆生をも、此の衆生に於て種種の方便を以て其の恐怖を滅せん。若し衆生有りて海の難、雲の難、山の難、大風の洄澓、及以び波浪に遭ひ、迷惑して道を失ひ、邊岸を見ざる、是の如き等の種種の海難に遭はば、我爾の時に於て、或は船の形と作り、或は馬王・象王・狗王・師子獸王・阿修羅王・海神王の形と作り、是の如き等の形と作りて、方便をもつて衆生の海の難を度脫せしめん。陸地の衆生の爲めには、或は淨月、及び諸の星宿炬火・電光、諸寶の光明、天身の光明、菩薩の光明と作り、是の如き等の無量の方便を以て衆生を救護せん。是の如きの心を發して、我一切の衆生の爲めに常に歸依と作りて、煩惱を除滅し、死を畏る者をして無畏の法を得しめ、貧窮の者をして皆富樂を得しめ、山に在る衆生の爲めには或は果樹と作り、或は流泉・迦陵頻伽鳥等と作りて、妙なる音聲を出だし、或は山神と作り、或は平地と作り、是の如き等の無量の方便を以て、衆生を度脫せしめん。是の如きの心を發して諸の衆生をして此の山の難を免れしむ。又一切をして生死の山を越えしめ、曠野の衆生の爲めには、種種の方便をもつて其をして悅樂して、正見の道に入り、飢渴を除滅せしめん。是の如き等の無量の難の中に於て、衆生を救ひ已りて、復た是の

念を作さく、「願はくは衆生をして速かに衆苦を滅し、一切の安隱なる智道を究竟せしめん。國土に樂著する衆生の諸の苦惱を受くるを見ば種種の方便をもつて其の樂著を滅せしめん」と。是の如きの念を作さく、「願はくは衆生をして五陰の著を除き、一切の佛の薩婆若の境界に住せしめん。聚落に著する衆生の諸の苦惱を受くるを見ば、種種に方便して爲めに法を說き、其をして厭離し、法を以て之を攝せしめん」と。復た是の念を作さく、「一切の衆生をして六入の空聚を離れ、生死を超出し、究竟して一切智の城に得入せしめん」と。復た次に、善男子よ、若し衆生有りて十方に迷ひ東を以て西と爲し、西を以て東と爲し、乃至上を以て下と爲し、下を以て上と爲さば、此の衆生の爲めに無量の方便をもつて、其の迷惑を斷たん。若し出でんと欲せん者には門戶を開示し、若し道を失ふ者には正路を示導し、若し度らんと欲する者には示すに津濟を以てし、舟檝無き者には之を資給し、方域を知らざるものには其の樂ふ土を示さん。是の如き等の無量の方便を以て顯現し開導して之を度脫せしめん。是の如きの心を發すらく、「我已に長夜の昏冥を照除して、世間の衆事は宣敘せざる無し。又衆生をして永く癡暗を滅し、淸淨の眼を得、衆生相及び諸の邪見を離れしむ。常・樂・我・淨あり、衆生、及び福伽羅・陰界諸入に計著し、因果を了らず、不善の道を行ひ、衆生を殺害して乃至邪見にして父母に孝せず、沙門・婆羅門に供養せず、正道を遠離して不善の業を行ひ、正道を誹謗して法輪を壞らんと欲し、菩薩衆を毀り、大乘を憎惡して菩提を讃せず、賢聖を毀呰して惡人の法を行ひ、五逆の業

を造らん。是の如き等の類の諸の惡衆生をば、我明淨なる慧光を以て其の愚闇を除き、阿耨多羅三藐三菩提心を發さしめ、普賢菩薩の所行を究竟じて、十力の道を開き、生死を遠離して、一切智城と、諸佛の境界と、諸佛の神通とを現じ、諸力を具足し、總持力を現じ、諸佛の平等なる正法に安住して、一切の佛は悉く同一身なることを現せしめん。復た次に、善男子よ、我貧苦老病の衆生を見ば、種種に方便して之を救濟せん。復た是の念を作さく、「無上の法を以て彼の衆生を攝し、諸の煩惱を滅して解脱を得、生老病死・憂悲苦惱、惡道の諸難を離れしめ、善知識に近づき、深く法界に入り、諸の惡業を離れ、佛の法身を淨め、老病死無き常住の法界に置かん」と。復た次に善男子よ、我諸の惡衆生の正道を遠離し、邪徑に趣き、諸の倒見に著し、虛妄に迷惑して、具さに不善の身口意業を行ひ、種種放逸にして惡法に依止し、非正覺に於て正覺の想を爲し、正覺の所に於て非正覺の想をなし、惡知識に近づき、諸の苦惱を受くるを見んに、我之を見已りて、無量の方便をもつて其の邪惑を除き、正見を安立し、天人に於て最も殊勝と爲らしめん。」復た是の念を作さく、「諸の衆生をして出世閒無上の正道を得て、復た一切智より退轉せず、普賢菩薩の大願を滿足して、一切智を得、而も亦菩薩の諸地を離れず、衆生の性を壞せざらしめん。」』

爾の時に夜天、重ねて此の法門の義を宣明せんと欲して、佛の神力を承け、十方を觀察して、卽ち善財の爲めに偈を以て頌して曰はく、

(一〇)『我が成ぜし所の妙法は、時と諸門の地とを知り、愚癡の闇を照除して、普く一切の法を觀ず。

(一一)無量無數劫に、我常に大慈を修して、普く諸の群生を覆ふ、善財應に速かに具ふべし、
大悲海を成就して、三世の佛を出生し、一切の苦を除滅す、善財速かに究竟せよ、
佛子よ、心に歡喜して、世間の惡を遠離し、三界の苦を超出して、諸の賢聖の樂を受けよ、
有爲の惡を遠離し、聲聞の智を解脫して、如來力を滿足す、佛子應に究竟すべし。

(一二)我淨き天眼を以て、普く十方の刹を見るに、彼の世界の中に於て、佛の道場に處すを見たてまつる、
相好莊嚴の身は、無量の衆に圍繞せられて、大光明海を放ち、普く照して衆生を化したまふ、
諸の群生の類を見るに、此に死し彼に生れ、五趣の中に回り流れて、常に無量の苦を受く。
淨き天耳海を以て、普く十方の音を聞き、一切の語言海を、皆悉く能く受持せり、
一切諸の如來の、無量の微妙なる聲をもつて、轉じたまふ所の淨き法輪を、悉く聞きて能く受持せり。

【一〇】偈に二十一頌あり、初の一は法門の名體を頌す。
【一一】次の四頌は四無量心を明かす。
【一二】次の十頌は六度の殊勝を明かす。

我淨き鼻根を以て、法海の中に礙ふる無く、能く諸の法門に入れり。善財應に究竟すべし。
我大人の相を成じて、清淨の廣長舌をもつて、應に隨ひて妙法を演ず、佛子應に究竟すべし。
清淨なる妙法身は、三世如如に等しく、其の所應に隨ひて化し、一切現ぜざる無し。
我心に所染無くして、清淨なること虚空の如く、普く一切の佛を攝して、而も所著無し、
無量の刹の、群生の諸の心海を了知し、一切の根を分別して、諸の虚妄を遠離せり。
〔三〕我神通の力を以て、徧く無量の刹に遊び、普く一切の衆を覆ひて、諸の衆生を調伏す。
智慧は虚空の如く、無比の無盡藏なり、諸の如來を供養して、一切の衆を饒益す、
清淨なる廣き智慧は、諸法の海を分別し、衆生の惑を除滅す、佛子應に究竟すべし、
三世の法に通達して、深く諸佛の海に入り、明かに一切の法を了り、能く測量する者無し。
一一の微塵の中に、悉く佛刹海を見、又諸の如來を視たてまつる、此は是れ普力の地なり、
盧舍那佛、道場に正覺を成じたまひて、十方刹の微塵に、悉く正法輪を轉じたまふを見たてまつる。

〔四〕爾の時に善財童子、白して言さく、『天神よ、阿耨多羅三藐三菩提心を發してより幾時をか爲た

【三】後の六頌は業用の廣大を明かす。
【四】三に得法の因緣を明かす。

まへる、此の法門を得たまひて、其已に久如して、乃ち能く是の如く衆生を饒益したまふや。」』

答へて言はく『「佛子よ、乃し往古の世、須彌山の微塵に等しき如き劫を過ぎて、世界有り、寶德と名け、劫を寂靜と名け、五百億の佛有して、世に出興したまひき。時に大城有り蓮華光と名け、轉輪聖王有り、善法度と名け、聖王の法の如く七寶を成就したまへり。城の東に林有り、名けて妙德と曰へり。此の林中に於て、菩提樹有り、一切佛自在光明と名けぬ。爾の時に一切法雷王佛、此の樹下に坐して等正覺を成じ、大光明を放ちて、普く一切の世界を照したまひき。王の玉女寶を法慧月蓮華光と名けて。彼の城内に於て一夜天有り名けて淨月と曰へり。中夜の時に於て微妙の音を出だし、此の玉女に告ぐらく、「汝應當に知るべし、一切法雷王佛、世に出興して、彼の佛の功德を稱揚し讚歎したまひ、如來の自在なる神力を顯現して、阿耨多羅三藐三菩提心を發し、普賢菩薩の一切の願行を讚歎したまふ」と。

時に王の玉女は、彼の佛、及び諸の菩薩と、諸の聲聞衆とを供養しき。善男子よ、爾の時の玉女、法慧月蓮華光は豈異人ならんや。我が身是なり。善男子よ、我彼の佛に於て善根力を種ゑたれば、須彌山微塵に等しき劫に於て、地獄餓鬼畜生・閻羅王の處に墮せず、下賤の家に生れず、諸根を具足し、衆苦を除滅し、常に天人の中に於て勝れ、善知識と諸佛菩薩とを離れず、五濁劫の中に生せず。彼の諸佛菩薩の所に於て、善根を增長したれば、八十須彌山微塵に等しき劫に於て、安隱快樂

なるも、而も未だ菩薩の諸根を滿足せず。復た次に善男子よ、此の須彌山微塵に等しき劫を過ぎ已りて、復た一萬劫を過ぎて劫有り、離憂と名け、世界を離垢勝と名けき。須彌寂靜眼如來應供等正覺等の五百の如來有して、世に出興したまひき。其の佛の國土は或は淨あり、或は穢あり。彼の世界の中に一四天下有り、名けて離垢と曰ひ、城を莊嚴と名けき。我爾の時に於て明勝長者の女と爲り、勝慧光と名け、端正殊妙なりき。彼の淨月天の本願力を以て、此の城中に生れたり。復た夜天と作り、清淨眼と名けぬ。時に彼の夜天、復た中夜に於て來りて我が家に詣でて、妙色を顯現し、如來を讃歎したてまつり、又我を勸め導きて、彼の如來に詣でしめしとき、大光明を放ちて、前に在りて引導せり。我爾の時に於て父母と倶なりき。及び其の眷屬も往きて須彌寂靜眼如來の所に詣で、供養し恭敬して、佛の說法を聽き、菩薩の三昧を得、名けて、佛を見たてまつりて衆生を敎化し明淨の慧光普く三世を照すと曰へり。此の三昧を得已りて、過去の須彌山微塵に等しき劫に見たてまつりし所の諸佛を憶念し、又彼の佛の說きたまひし所の經法を聞きて、光明普く諸法を照して、衆生の愚癡を壞散する法門を得、大光明を放ちて十佛刹の微塵に等しき世界を照せり。彼の刹の中の一切の如來を見たてまつり、其の所に往詣して、彼の衆生の諸の語言法、心根欲性を知り、彼の衆生の爲めに善知識と作り、其の所應に隨ひて、其の身を顯現し、念念の中に於て此の法門を長養せり。一身は世界微塵に等しき世界に充滿し、乃至世界海微塵に等しき世界海に充滿して、悉く彼の世界海

微塵に等しき世界海の中の一切の如來を見たてまつり、往きて其の所に詣で、彼の佛の說法を我悉く聞持し、彼の諸の如來の本事の願海を分別し了知し、彼の諸の如來は佛刹を嚴淨し、我も亦嚴淨せり。彼の世界の中に於て、其の所應に隨ひて、其の身を示現して衆生を化度し、念念に此の法門を長養して法界と等し。善男子よ、我唯此の光明普く諸法を照し、衆生の愚癡を壞散する法門を知るのみ。(三)諸の大菩薩は、無量無邊の普賢の所行を究竟して、深く法界海に入り、智慧の幢を建て、諸の三昧、遊戲神通を得て、大願成滿し、十方世界の一切の佛法を守護し受持して、念念の中に於て悉く能く一切の佛刹を嚴淨し、功德海を滿じ、念念の中に於て一切諸の群生海を教化し、智慧の淨日は普く三世一切の世界を照し、一切の衆生を敎化し、離垢の淨月は、一切衆生の熱惱と疑惑と癡闇とを除滅し、一切有海に於て心に所著無く、清淨にして圓滿なる妙音を演出して、十方一切の法界に充滿し、一一の微塵の中に於て、一切の自在神力を顯現し、明淨の慧光は普く三世を照す。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り、能く說くべき。

【三五】第二離垢地の善友を明かす。

(三五)善男子よ、此の閻浮提摩竭提國に、一夜天有り甚深妙德離垢光明と名く。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

爾の時に善財、即ち偈を以て彼の夜天を讚めて曰はく、

【二六】『我清淨身を見たてまつるに、相好自ら莊嚴したまふこと、文殊師利の如く、亦寶山王の如し、

淨法身を具足して、三世悉く平等に、普く諸の群生を攝して、其の心に所著無し。

普く淨光明を放ちて、徧く一切の趣を照し、一毛孔の中に於て、悉く諸の星宿を見る、

垢を離れたる清淨の心は、空の十方に滿てるが如く、諸の法王の、明淨なる深智慧を攝取す。

一一の毛孔の中より、悉く無量の光を放ち、十方の諸佛の所に、普く功德の雲を雨らす、

一一の毛孔の中より、諸の變化身を出だして、十方界に充滿し、方便をもつて衆生を度す。

本菩薩爲りし時、不思議の刹を淨めしに、一一の毛孔の中により、皆悉く顯現することを得たり。

若し見聞する者有らば、悉く功德の利を獲、專ら菩薩の道を求め、佛の菩提を成就せん、

若し見聞する者有らば、大歡喜の心を發し、惡道の難を遠離して、諸の煩惱を除滅せん。

千刹の微塵劫に、其の功德を讃歎せんに、諸劫は猶ほ盡す可くも、功德は窮め已ること無し。』時に善財童子は、頭面に彼の夜天の足を敬禮して、繞ること無數帀、眷仰し觀察して、心に厭き足る

【二六】十偈あり、夜天の德を歎ず、初の二は身智甚深、次の二は身智廣大、次の二は毛光の化用、次の一は本因莊土、次の二は見聞得益、後の一は無盡を結歎す。

こと無く、辭退し遊行して、摩竭國に向へり。㊂爾の時に善財童子は、一心に彼の夜天神の初發の道心
の圓滿淸淨なることを思惟し、是を思惟し已りて、即ち深く諸の菩薩藏に入ることを得て、菩薩
の諸の大願海を出生し、諸の菩薩の波羅蜜道を淨め、菩薩の圓滿なる諸地を逮得し、諸の菩薩の圓
滿なる行業に住し、菩薩の發趣道海を窮盡し、善能く深く一切智の海に入り、皆悉く一切衆生を救
護して、大慈悲の雲を長養し增廣し、一切の刹に於て普賢の諸の大願行を出生し、漸漸に遊行し
て、甚深妙德離垢光明夜天の所に至り、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、恭敬し合掌して、一面
に於て住し、白して言さく、

『天神よ、我先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を修して、
諸地を具足するやを知らず。』

答へて言はく、『善い哉善い哉、童子よ、乃ち能く阿耨多羅三藐三菩提心を發し、菩薩の行は諸地
を具足することを問へり。善男子よ、菩薩は十法を成就すれば、則ち能く菩薩の所行を具足す。何等
をか十と爲す。一には現前三昧を得て一切の佛を見たてまつり。二には淸淨眼を得て一切の佛の相
好嚴身を見たてまつり。三には一切諸佛の無量無邊の功德の大海を分別し了知し。四には無量無邊の
佛の光明海は、悉く能く普く一切の法界を照し。五には一一の毛孔に於て一切衆生數に等しき大光
明海を放ちて、其の所應に隨ひて衆生を度脫し。六には一一の毛孔に於て悉く一切の寶光燄海を見。

七には念念の中に於て一切の佛の變化の大海を出だして、法界に充滿し、一切の諸佛の境界を究竟し、衆生を敎化して、而も障礙無く。八には一切の佛の妙音聲海を出だして、三世佛の清淨なる法輪を轉じ。九には一切の修多羅雲を演說し、佛音を究竟して深く一切の諸の如來海に入り。十には不可思議なる佛の自在神力を現じて、衆生を化度す。善男子よ、若し菩薩有りて、此の十法を具へなば、則ち能く菩薩の一切諸行を滿足せん。◎善男子よ、我已に菩薩の寂滅定樂精進の法門を成就して、悉く三世の嚴淨せる佛刹と、一切の諸佛、及び眷屬海と、無量無邊の佛の神力海とを見たてまつり、佛の名號海と轉法輪海とを分別し了知し、彼の諸佛の壽命は無量、音聲は微妙、法身は清淨にして法界に充滿せることを知り、亦如來の一切の諸相に著せず。何を以ての故に、如來は過去に非ず、世間の一切取を除滅するが故に。如來は未來に非ず、所起無きが故に。如來は現在に非ず、無生の身なるが故に。如來は滅に非ず、語言の道を離るるが故に。如來は實に非ず、幻の法を現ずるが故に。如來は虛妄に非ず、一切の衆生を饒益せんとして世に出興したまふが故に。如來は去るも至る所無し、此に滅死し彼に生ずるが故に。如來は壞す可からず、法性は無壞なるが故に。如來は一性なり、語言の道を離るるが故に。如來は無性なり、法性を究竟するが故に。◎善男子よ、我是の如く一切の如來を了知して、菩薩の寂滅定樂精進の法門を開發し增廣し、照明に莊嚴して。深く平等に隨順する堅固の境界に入り、分別し了知して虛妄を遠離し、大悲を發起して、衆生を攝取し、未だ曾て一心

の寂定を捨離せずして、初禪を正受し。意業を除滅し、寂智の力を得、衆生を攝取して、歡喜し悅樂して第二禪に入り。生死を捨離し、寂滅涅槃して衆生の性を觀じて、第三禪を修して。一切衆生の諸の煩惱苦を滅して第四禪を修して。一切智・菩提の心願を增長し、菩薩の一切の三昧海を出生し、巧妙の方便をもつて、菩薩の一切法門海を究竟し、菩薩の遊戲神通を成就し、菩薩の自在の所行を出生し、明淨の智慧は深く普門の法界に入れり。善男子よ、我是の如く菩薩の寂滅定樂精進の法門を修習し、種種の方便をもつて衆生を度脫す。在家の放逸にして貪欲なる衆生には、不淨の想・不樂の想・憂惱の想・逼迫の想・繫縛の想・羅刹の想・無常の想・苦の想・無我の想・空の想・不自在の想・老死の想を修せしめ、彼の衆生をして五欲を遠離し、常に正法を樂ひ、(二七)家も家に非らざることを信ぜしめ、出家して道を學び、思惟し坐禪するものには、爲めに亂聲を障へ、鬼神の怖を除き、若し中夜に於て出行せんと欲する時は、爲めに門戶を開き、光明をもつて路を照して闇冥を除滅し、佛法僧及び善知識を讚し、又復た善知識に近づくことを讚歎し、諸の衆生をして、未だ生ぜざる惡法は方便して生ぜざらしめ、已に生じたる惡法は方便して滅せしめ、未だ生ぜざる善法は方便して生ぜしめ、已に生じたる善法は方便して增廣せしめ、菩薩の行を行じ、波羅蜜を修し、大願を滿足して一切智を出生し、大慈悲を習して衆生をして人天の樂を得、妄想を除滅し、善法を增長し、薩婆若に順ぜしめんと欲す。善男子よ、我唯此の菩薩の寂滅定

【二七】俗家を捨てゝ非家に入らしむる義なり。

樂精進の法門を知るのみ。諸の大菩薩は、普賢の願を滿じ、普賢菩薩の所行を具足し、究竟じて癡闇を離れたる法界を得、善根を具足し、如來の智力の光明を成就し、佛の境界に於て障礙する所無く、生死の中に住して心に所染無く、薩婆若の願は具足し成滿して、深く一切諸佛の刹海に入り、一切諸佛の大海を攝取し、一切の佛の妙法雲海を受け、一切衆生の生死の闇海を滅し、薩婆若の光は生死の夜を照せり。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り能く說くべき。

(二八)善男子よ、此を去ること遠からずして、如來の右面に一夜天有り、名けて喜目觀察衆生と曰ふ。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

爾の時に甚深妙德離垢光明夜天、重ねて此の法門の義を宣明せんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

(二九)『現前定に入りて、普く三世の佛を見たてまつり、垢を離れたる淸淨の眼は、諸佛の海を分別す、

諸佛の身を觀察するに、相好自ら莊嚴したまひ、一念に無量の力ありて、自在に法界に滿てり。

(三〇)盧舍那如來、道場に正覺を成じ、一切の法界の中に、淨き法輪を轉じたまふ。

最勝は法相を知り、寂滅にして二有ること無く、妙色の相に莊嚴せられ、一切の衆に顯現した

【二八】第三明地の善友を明かす。

【二九】重頌十三偈あり、初の十二偈は正しく前法を頌し、後の一頌は後位を指示す、前の中に初の二は定に依りて三世の佛を見ることを頌す。

【三〇】次の十は舍那佛を見ることを明かす、中に於て、初の三は體の圓備、後の七は妙用自在を頌す。

まふ、
佛身は思議し難く、悉く諸の法界に滿ち、普く十方の刹に於て、應に隨ひて悉く現前したまふ。
一念に光明を放ちて、一切の刹塵に等しく、無量にして微妙なる色は、普く諸の法界を照す、
如來の一毛孔より、不思議の光を放ちて、普く諸の群生を照し、衆の煩惱を除滅す、
如來の一毛孔より、無盡の化海を出だし、諸の法界に充滿して、衆生の類に顯現す。
如來の一妙音は、諸の法界に充滿し、普く甘露の法を雨らして、菩提の心を發さしむ、
無量劫に修行して、諸の群生を攝取し、普く、諸の佛刹を見るに、皆悉く電光の如し。
如來世間に出でたまひ、普く群萠の類に現じて、衆生の性境界を、悉く能く分別して知りたまふ、
一切諸の菩薩の、住する所の諸の法門は、佛の一毛孔に於て、悉く能く分別して知りたまふ。
遠からずして夜天有り、喜目觀察と名く、汝往きて彼に詣でて、云何んが菩薩の行なると問へ。」
時に善財童子は、頭面に彼の夜天の足を敬禮して、繞ること無數帀、眷仰し辭退して、喜目觀察衆生夜天に向へり。

# 巻の第五十三

## 入法界品第三十四の九

爾の時に善財童子は、專ら善知識を求め、善知識に因りて諸の善法を生ぜんことを念ひ、『善知識は見難く遇ひ難く、善知識に見えて諸の亂想を滅し、善知識に見えて一切諸纏の障礙を除滅し、善知識に見えて薩婆若の智慧の光明を得、善知識に見えて深く佛海に入り、善知識に見えて正念法雲陀羅尼を得て一切の佛の淨法輪雲を受持し、善知識に見えて大悲海を具して衆生を救護し、善知識に見えて智慧明淨となり、悉く能く普く諸の法界海を照さん』と。㊂時に喜目觀察衆生夜天、威神力を以て、善財童子に加し、善知識を讃し、善知識に詣でて、恭敬し供養せしむ。善知識は則ち是れ菩提なり。善知識は則ち是れ精進なり。善知識は見難く遇ひ難し。善知識は是れ不可壞の力なり。善知識に因りて徧く十方に遊び、生死の流を斷ち、悉く能く一切の大事を成辦し、正道を莊嚴して普門の法門を得、一切礙ふる無し。善知識に見え、本處を離れずして、徧く十方の一切の佛の所に至らしむ。

爾の時に善財は、卽時に善知識に見えて、無量の諸の大願海を成滿し、一切智を得て衆生を饒益し、未來無量劫の苦を滅除し、大莊嚴を以て自ら莊嚴し、一一の微塵の中に一切諸の法界の法を修行し、

十方海を見、未來劫の諸の語言法、及び菩薩の行を知り、一切諸の菩薩の行を究竟して、念念の中に於て一切智と、神力自在と、諸の莊嚴道とを得、三世の佛の淨法界の流に等しく、法界の境界を離れずして、而も能く法界に充滿せる善知識の所に往詣することを了知せり。

爾の時に善財、往きて喜目觀察衆生夜天に詣でたり。(一)彼の夜天を見たてまつるに、如來の所に在して、大衆の中に於て寶蓮華の師子の座に處し、菩薩の普光喜幢の法門を正受したまひ。一切の毛孔より衆の妙雲を出だし、其の見ること有る者は、欣悅して厭くこと無し。所謂る、智慧行の雲は衆生を饒益して諍訟を離れ、諸法に著せずして、平等の心を以て普く衆生を攝し、三世の菩薩の布施を修行して、悉く内外捨て難き物を捨つることを顯はし、十方の衆生は皆悉く観見る。(二)又一切の毛孔に於て、衆生數に等しき菩薩の變化の身雲を出だして法界に充滿し、衆生の前に現じて不動三昧を顯示し正受し、衆生を覺悟して三界を樂はず、世間を遠離して生死を除滅し、天人の中の種種の成敗を現じて、諸の衆生に不淨觀を修して淨想の倒を除くことを教へ、有爲の行は無常にして變易苦惱の法なることを說きて、諸の衆生をして深く佛戒に入り、未だ曾て暫くも離れざらしめ、諸佛の淸淨なる禁戒を受持して、無疑の戒、及以び香戒を現じ、戒香は普く一切の衆生に熏ず。又一切の毛孔に於て、衆生數に等しき妙色身雲を出だして、衆生、諸の肢節を截つも、皆

【一】以下、己が法界を示す、先づ法門の體狀を示し、次に其の業用を明かす。

【二】次に業用を明かす中に、初に毛孔より身雲を出だし、十度を行じて衆生を化す。

悉く能く忍ぶことを顯示し、衆苦を堪受して一切の訶責惡罵も、皆悉く忍んで受け、彼の衆生に於て恚心を生せず、恭敬し讃歎して惡心を生せず、一切の衆生に於て我慢を起さず、諸法の自性の忍を顯現し、無盡の菩提心の智を顯現して、一切衆生の煩惱を除滅し、忍の法を修習し、菩薩の行を行じて、清淨なる金剛の身を顯現し、如來の清淨なる無上の色身を顯現し、其の所應に隨ひて衆生を敎化す。又一切の毛孔に於て諸趣の種種の色身雲を出だし、勇猛精進して一切智を現じ、勇猛精進して菩提の境界を現じて、退轉せず、勇猛精進して諸魔を降伏し、勇猛精進して生死の海に於て悉く能く一切の衆生を救度し、勇猛精進して一切の惡道の諸難を除滅し、勇猛精進して無智の山を壞り、勇猛精進して一切の如來を恭敬し供養して、心に疲倦無く、勇猛精進して諸佛の法輪を受持し守護し、勇猛精進して一切諸の障礙の山を壞散し、勇猛精進して一切諸の如來刹を嚴淨し、諸の如來の清淨なる精進を得て、一切の衆生を敎化し度脫す。又一切の毛孔に於て、種種の色身雲を出だして、諸の方便を以て衆生の愁憂・苦惱を除滅し、悉く歡喜せしむ、五欲を厭惡し、慚愧を讃歎し、諸根を調伏し、無上なる清淨の梵行、身口意の善を修行し、世間の一切所欲は皆樂む可からざることを顯現し、衆生を建立して正法を樂はしめ、九次第定を出生し正受して、衆生の一切の煩惱を除滅し、菩薩の諸の三昧海、通明自在神力の境界を顯現し、諸の衆生をして皆悉く歡喜し、身心柔輭にして、煩惱の熱を滅し、清涼の樂を得て正法を長養せしむ。又一切の毛孔に於て諸種の種種の身雲を出だし

て、一切刹の諸佛、師長、善知識の所に詣でて、恭敬し供養して、心に疲倦無く、一切諸佛の法輪を受持して一切の佛海を究竟し、一切の法海を顯現し、一切諸法の實相を顯現し、一切諸の三昧門を顯現し、清淨の智慧は一切衆生の心海を分別し、金剛の智慧は一切衆生の諸の邪見の山を壞散し、圓滿にして明淨なる慧日を出生し、一念の中に於て悉く能く一切衆生の愚癡闇冥を除滅して、諸の衆生をして皆悉く歡喜して薩婆若を得しむ。又一切の毛孔に於て、一切衆生の數に等しき身雲を出だし、種種の色身の不思議身を現じ、其の所應に隨ひて悉く其の前に現じ、無量の音を以て、諸の衆生の爲めに世間の功德の藏を演説し、世間の行業、一切の三界は皆樂む可からず、三界の諸の惡邪見を離ることを歎じ、邪道を遠離して一切智に向ひ、聲聞緣覺の地を超出して、有爲無爲に於て心に所著無く、生死を背捨して正しく涅槃に向ひ、而も亦諸趣の往來を捨てず、發菩提心を捨てずして等正覺を成じ、衆生を敎化して一切智を得しむ。又一一の毛孔に於て一切の佛刹微塵に等しき變化身雲を出だし、普く一切諸の衆生の前に現じ、普賢の行を修し、普賢の願を滿じ、一切の大願を讃歎し究竟じて、念念の中に於て一切諸の世界海を嚴淨し、念念の中に於て一切の諸佛を恭敬し供養し、念念の中に於て悉く能く一切の法海を受持し、念念の中に於て一一の微塵中に一切世界海の微塵に等しき法界の方便海を出生して一切刹を住持し、一切の劫に一切の智道を淨めて未だ曾て休息せず、念念の中に於て悉く一切諸の如來力に入り、三世の方便海を究竟し、一切の刹に於て自在力を現じ、一切

の衆生をして菩薩の行を修し、大願を成滿し、一切智を得しむ。又一一の毛孔に於て一切衆生身に等しき身雲を出だし、悉く一切諸の衆生の前に現じ、無量の一切智力を顯現して、窮盡す可からず、能く壞する者無く、不退轉の菩薩の諸行を修して、生死の法に於て心に所染無く、衆魔を降伏し、煩惱を滅する力、一切障礙の山を壞散する力、大悲を具する力をもつて、一切劫に於て菩薩の行を修し、心に疲倦無く、一切諸佛の世界を震動して、衆生をして淨法輪を轉じ、法幢を建立し、諸の外道を制することを喜び、菩薩の行、力波羅蜜を修して、一切智を得しむ。又一一の毛孔に於て、一切衆生の心に等き種種の色身雲を出だして無量の諸の衆生海に充滿し、其の所應に隨ひて、菩薩の行を現じ、智力精進して衆生海を度し、一切衆生の心心の所行界と、一切衆生の諸根海と、一切衆生の行海とを分別し了知して、衆生を敎化して未だ曾て時を失はず、

【三】次に夜天の本行を現ず。

明淨の智慧は法性を究竟し、念念の內に於て明淨の智慧は法界に充滿し、一切世界の成敗と、及び其の莊嚴と、自在の神力とを充滿し、諸佛の所に詣で、恭敬し供養して、正法輪雲を守護し受持す。是の如く智波羅蜜を顯現して、悉く衆生をして皆大いに歡喜し、熙怡快樂し、身心柔輭にして、熱惱を除滅し、憂感を遠離し、衆惡を棄捨し、諸根を調伏し、心に解脫を得、一切智に於て不退轉を得しむ。諸の波羅蜜を顯現して、衆生を化度するが如く、菩薩の一切の功德を顯現して、衆生を化度することも亦復た是の如し。◎ ㊂又一切の毛孔に於て、喜目觀察衆生夜天の初發心より爲す所の功德を顯現し、善

知識を求め、諸佛に往詣して、恭敬し供養して、善根を修習す。檀波羅蜜を行じて、捨て難きを能く施し。尸波羅蜜を行じて、天下の宮殿眷屬を棄捐し、出家學道して禁戒を淨修し。羼提波羅蜜を行じて、一切衆生悉く惡言無量の逼切を加ふるも皆悉く能く忍び。毗梨耶波羅蜜を行じて、諸の苦行を修して專ら菩提を求め、其の心堅固にして退轉せず。禪波羅蜜を行じて、諸の方便道は淸淨なる禪波羅蜜を滿足し、諸の三昧に於て而も自在を得、一切諸の三昧海を究竟し、相續次第して未だ曾て斷絕せず。般若波羅蜜を行じて、菩薩の圓滿なる智慧を淸淨にし、明淨の慧日を出だし、無盡の慧藏は智海を究竟し。方便波羅蜜を行じて一切諸の方便身・方便功德・方便淸淨・方便本事を出生し。願波羅蜜を行じて、一切の諸願、淨身の成滿する諸願、應に隨つて行ずべき願、及び願波羅蜜の本事とを出生す。力波羅蜜と、力波羅蜜の因緣功德と、力波羅蜜の方便海とを行じて、力波羅蜜の本事を分別し演說し。智波羅蜜、智波羅蜜の出生、智波羅蜜の淨身、智波羅蜜の說、智波羅蜜の境界、智波羅蜜の所攝、智波羅蜜の光明、智波羅蜜の本事、智波羅蜜の分別行、智波羅蜜の深入、智波羅蜜を行じて諸法を攝取し、隨順して法を知り、業を知り、刹を知り、劫を知り、三世を知り、佛の出世を知り、佛智を知り、菩薩を知り、菩薩智を知り、菩薩住を知り、菩薩の功德を知り、菩薩の回向を知り、諸の大願を知り、轉法輪を知り、分別法を知り、入法界を知り、方便海を知り、法の旋流を知り、諸法の趣を知る。是の如き等の一切の智波羅蜜は、一切の毛孔に於て、皆悉く顯現して衆生を化度す。」

㊃又一切の毛孔に於て無量の身雲を出だす。所謂る、阿迦尼吒天の身雲、淨居天の身雲、善現天の身雲、不熱天の身雲、果實天の身雲、徧淨天の身雲、無量淨天の身雲、少淨天の身雲、淨果天の身雲、無量淨果天の身雲、少淨果天の身雲、光音天の身雲、無量光音天の身雲、少光音天の身雲、大梵天の身雲・梵輔天の身雲。梵衆天の身雲。他化自在天王、及び他化自在の天子・天女の身雲。化自在天王・及び化自在の天子・天女の身雲・兜率天王、及び兜率の天子・天女の身雲。夜摩天王、及び夜摩の天子・天女の身雲。三十三天王、及び三十三天の天子・天女の身雲。提頭賴吒天王、及び一切乾闥婆の男女の身雲。毗樓勒叉天王、及び一切鳩槃茶の男女の身雲。毗樓博叉天王、及び一切龍の男女の身雲。毗沙門天王、及び一切夜叉の男女の身雲。緊那羅王、及び一切緊那羅の男女の身雲。摩睺羅伽王、及び一切摩睺羅伽の男女の身雲。迦樓羅王、及び一切迦樓羅の男女の身雲。阿修羅王、及び一切阿修羅の男女の身雲。閻羅王、及び一切閻羅王の男女の身雲。人王の身雲。男子・女人・童男・童女の身雲。是の如き等の一切諸趣の身雲を出だす。聲聞・緣覺・仙人の身雲。地水火風神・海神・河神・山神・林神・樹神・穀神・味神・藥草神・園觀神・城郭神・道場神・夜神・晝神・虛空神・方神・道路神・身形神・金剛力士神・是の如き等の一切の身雲を出だし、十方一切の世界法界に充滿す。㊄一切衆生の爲に喜目觀察衆生夜天の初發心より行ぜし所の功德を現じ、無量の諸の波羅蜜を積集し、次第に生を受け、此に死し彼に生れ、及び其の名號、善知識に近づき、諸佛に値遇し、

【四】次に諸趣の身雲を現じ夜天の本行を說く。

正法を聞持し、菩薩の行を行じ、諸の三昧を得、次第に一切の佛刹、及び諸の如來を覩見し、次第の諸劫に、淨き智慧を得て、深く法界に入り、衆生を觀察して衆生の此に死し彼に生ずることを知り、淨天耳を得て次第に悉く一切の音聲を聞き、他心を知る智にて、次第に衆生の心念を了知し、無依の神足にて、次第に自在に十方に充滿し、諸の菩薩の次第の法門を得て、菩薩の諸の法門海を究竟す。菩薩の自在、菩薩の精進、菩薩の得證、正趣離生、衆生の想、菩薩の想、菩薩の勝妙なる清淨の功德なり。是の如き等の類の一切の功德をば、彼の化身雲、悉く衆生の爲めに諸の音聲を以て、分別し解說し、開示し顯現せり。所謂る、風輪の音聲、水輪の音聲、火炎の音聲、大海の音聲、大地震動の音聲、山王相擊の音聲、天城震動の音聲、天寶の音聲、諸天の音聲、龍王の音聲、夜叉王・乾闥婆王・阿修羅王・迦樓羅王・緊那羅王・摩睺羅迦王等の音聲、人王の音聲、梵王の音聲、天女の歌頌する音聲、天樂の音聲、摩尼寶王の音聲、如來の音聲、菩薩の音聲、如來化身の音聲なり。是の如き等の種種の音聲を以て諸の衆生の爲に喜目觀察衆生夜天の初發心よりの一切の功德を分別し演說す。彼の一一の身雲は此の法を說く時、念念の中に一一の方に於て、不可說不可說の諸佛の世界を嚴淨し、無量無邊の衆生は惡道の苦を滅し、無量無邊の衆生は天の樂を成就し、無量無邊の衆生は生死海を度り、無量無邊の衆生は聲聞辟支佛地に安立し、無量無邊の衆生は菩薩の不可思議なる喜幢自在の法門を得、念念の中に於て、無量無邊の衆生は如來地に住せり。

爾の時に善財童子は、皆上の如き一切諸の奇特の事を見聞することを得、正念に思惟し、觀察し、分別して深く定智に入り、平等に安住せり。何を以ての故に、彼の夜天と先に行を同うせるが故に。佛護念したまふが故に。不可思議なる諸の善根を成就するが故に。菩薩の根を具足するが故に。佛家に生ずるが故に。善知識の力を得るが故に。一切諸佛の神力に持せらるるが故に。盧舍那佛の本願力の故に。善根熟するが故に。普賢菩薩の行を堪受するが故なり。

爾の時に善財は、菩薩の歡喜淨光明海を得、十方の一切諸の如來力を得、彼の夜天の離垢喜幢の法門を得て、卽ち恭敬し合掌して、偈を以て彼の夜天を讃歎して曰はく、

(五)『無量無數劫に、深く最勝の法を學び、應に隨ひて化を受くる所に、
妙色身を顯現す、
諸の群生の、愚癡轉倒の惑を了知して、種種の身をもつて方便して、
衆生の類を度脫す。
清淨なる妙法身は、煩惱の熱を除滅し、二に非ずして二有ることを現ず、衆生を化せんが爲の故なり。陰入及び諸界は、皆悉く所著無し、行及び色身を具して、一切の衆を度脫す。
內外の法に著せずして、生死の海を越度し、明淨なる智慧の光は、普く一切を照す、

【五】頌に十偈あり、初の二は勝因に依りて用を現ずる益、次の二は法身に依りて化を現ずる益、次の二は物を益して著なく、次の二は定に依りて奇を現ずることを歎じ、後の二は總じて現身說法の益を結す。

喜目天は著無く、衆の虚妄を除滅す、衆生は世に樂著す、爲めに佛の法力を現ず。
無礙の三昧力は、一一の毛孔の中より、諸の化身雲を出だし、十方の佛を供養す、
念念の中に、諸佛の方便力を出生して、諸の衆生を攝取し、一切の法を究竟せしむ。
諸の有海を觀察し、業行にて身を莊嚴し、無礙の法を演説す、衆をして清淨ならしめんが故なり、
相好自ら莊嚴すること、猶ほ普賢身の如く、應に化を受くべき者に隨ひて、無量の身を顯現す。』

（六）爾の時に善財童子、偈をもつて讃歎し已りて、白して言さく、
『天神よ、阿耨多羅三藐三菩提心を發してより幾時をか爲たまへる。此の法門を得たまひて、其れ已に久如しきや。』
爾の時に夜天、偈を以て答へて言はく、

（七）『過去の世、無量刹塵劫を憶念するに、爾の時に一劫有り、名けて寂靜音と曰へり、
都有り香水と名け、其の王を智慧と名け、十二億百千、那由の四天下なり、
彼の聖轉輪王の、清淨なる妙色身は、三十二相具はり、八十好に莊嚴せらる、
妙身は清淨の藏、閻浮檀金の色あり、光明一切を照し、庠歩して虚空に遊ぶ、
彼の王に千子有り、勇猛にして身は端正なり、大臣一億有り、智慧ありて悉く賢明なり、
婇女十億有り、端嚴なること天后の如く、大慈の心柔輭に、瞻奉して王に給侍せり、

【六】以下、得法の因縁を明かす。
【七】頌に八十九偈半あり、初の七十七頌半は發心の時節を答ふ。

彼の聖轉輪王は、常に正法を以て治め、諸の山地、一切の四天下を統領せり、
我は時に寶女と爲り、淨き梵音を具足し、身より金色の光を出だし、周く四萬里を照せり。
日光既に沒し已りて、中夜閑にして寂然たり、我爾の時に當り、神瑞にて善夢を降せり、
佛の世間に出でたまふを見る、號して功德海と曰ひ、自在力を顯現して、十方界に充滿したまへり、
大光明海を放ちて、一切刹の塵に等しき、無量自在の身は、十方に充滿せり。
大地六種に動き、自然に妙音を出だし、如來世に興出したまひて、天人悉く歡喜せり、
一切の毛孔の中に佛の化身海を出だして、十方海に充滿し、應に隨ひて法を說きたまへり、
我夢に是の如きを見て、如來の自在力にて、深妙の法を說くを聞き、其の心大いに歡喜せり、
一萬の夜天神は、虛空の中に充滿して、彼の如來を讃歎したてまつれり、聞き已りて卽ち覺悟しぬ、
彼の天我に告げて言はく、「賢慧女よ速かに起て、佛已に汝が國に興りたまへり、劫海にも値遇すること難し」と、
此の音を聞きて歡喜し、卽ち明淨の光を見て、何れより來りしやを觀察せしに、道場の樹王の所よりなり。

時に如來の身を見たてまつるに、猶は寶山王のごとく、一切の毛孔の中より、大光明海を放ちたまへり。

佛の自在力を見たてまつりて、其の心大いに歡喜し、卽ち弘誓の願を發すらく、「我をして此の德を獲しめたまへ」と。

我時に大王を覺まし、普く諸の眷屬に及びて、彼の佛の光明を見しめしに、歡喜の心無量なりき、

我時に彼の王と、無量那由他の、眷屬と四種の兵と與に、往きて如來の所に詣でたり。

我二萬歲に於て、彼の如來を供養したてまつり、七寶四天下の、一切のものを悉く施し奉れり。

時に彼の如來、功德普雲經を說き、大願海を莊嚴して、應に隨ひて衆生を度したまひき、

我是の如きの願を發すらく、「來世は夜天と作りて、諸の放逸有る者は、悉く之を遠離せしめん」と、

爾の時に我初めて、無上菩提の心を發し、生死有爲の中に、未だ曾て忘失すること有らざりき。

是より後、十億那由の佛を供養したてまつり、生死海に樂を受け、諸の群生を饒益せり、

初の佛は功德海、第二は功德燈、第三は寶幢佛、第四は虛空智、

第五は蓮華藏、六は無礙音月、第七は法月王、八は圓滿智燈、

第九は寶炎佛、無上なる天人の尊、第十は化音聲なり、我已に悉く。

是の如き等の諸佛を供養したてまつること、十億那由他なるも、猶ほ未だ慧眼を得て、生死海を究竟せざりき。

次第に復た却有り、名けて天妙勝と曰ひ、世界を寶光と名け、五百の佛世に興りたまひき、

初の佛は圓滿月、第二は明淨日、第三は光明佛、四は須彌山王、

第五は華炎佛、第六は智慧海、第七は然燈佛、第八は天德藏、九は光明王幢、第十は普智王なり、

是の如き等の諸佛を、我已に悉く供養したてまつりしも、未だ五陰を樂むことを離れずして、非樂に樂の想を生せり。

次第に復た劫有り、莊嚴梵音と名く、爾の時に世界有り、蓮華燈雲と名けき、

彼に無量の佛、及び其の大眷屬有り、我已に悉く供養したてまつりて、正法を聞きて受持せり、

初の佛は寶須彌、第二は功德海、法界須彌幢、第四は法須彌、第五は法幢佛、第六は法地佛、第七は法力佛、第八は虛空慧、第九は光炎山、第十は照明山なり、

是の如き等の諸佛を、我已に悉く供養したてまつりしも、猶ほ未だ眞實を了りて、諸法海を究竟せざりき。

次第に復た劫有り、名けて歡喜德と曰ひ、爾の時に世界有り、名けて功德幢と曰へり、

彼の劫に八十、那由他の諸佛有し、無量の供養の具を、彼の諸の最勝に奉りき、初は乾闥婆王、二は壽命樹王、三は功德須彌、第四は寶眼佛、第五は盧舍那、六は光明莊嚴、第七は法勝佛、第八は明淨德、第九は世閒主、十は一切法王なり、是の如き等の諸佛を、我已に悉く供養したてまつりしも、猶ほ未だ妙智を得て、深く法界海に入らず。

次第に復た劫有り、名けて寂靜慧と曰ひ、爾の時に世界有り、普光明雲と名けき、千佛有りて世に興りたまひ、無量の德に莊嚴せられ、煩惱の垢を除滅して、一切の衆は淸淨なりき。

初の佛は無諍と號し、第二は無礙力、三は法界光明、四は一切燈王、五は婆樓那天、第六は衆生歸、七は忍圓滿燈、八は法具足燈、九は光明嚴海、第十は光明王なり、是の如き等の諸佛を、我已に悉く供養したてまつりしも、猶ほ未だ眞法を解りて、一切の刹に遊行せざりき。

次第に復た劫有り、名けて香燈雲と曰ひ、爾の時に世界有り、名けて淸淨起と曰へり、一億の佛世に興りたまひて、一切の劫を嚴淨したまひ、彼の佛の說きたまひし所の法を、我悉く聞きて受持せり、

初の佛は無量稱、第二は法海佛、第三は勇猛王、四は功德法王、第五は勝法雲、第六は天冠佛、第七は智炎佛、第八は虛空音、
第九は等勝起、第十は妙德光なり、彼の諸佛を供し已りて、八正道を成就せり。
次第に復た劫有り、明淨堅固と名く、爾の時に世界有り、名けて寶幢王と曰へり、
五百の佛世に興りたまひ、彼の諸の如來等を、我已に悉く供養したてまつりて、無礙の法門を求めたり、
初の佛は圓滿德、第二は寂靜音、第三は功德海、第四は日王佛、第五は功德王、第六は須彌相、第七は法王佛、第八は功德王、第九は須彌山、第十は光明王なり、
是の如き等の諸佛を、我已に悉く供養したてまつり、
我皆悉く、一切の最勝の道を嚴淨せしも、猶ほ未だ、究竟の深法忍を具足することを得ざりき。
次第に復た劫有り、名けて勝主と爲せり、爾の時に世界有り、寂靜音聲と名け、
八千那由他の、諸佛世に興出したまひ、我已に悉く供養したてまつりて、彼に於て正道を修したり、
初の佛は華聚と號し、第二は海藏佛、第三は功德起、第四は天周羅、
第五は摩尼藏、第六は金山佛、第七は寶聚佛、第八は寂靜幢、第九は法幢佛、第十は智王佛なり、

是の如き等の諸佛を、我已に悉く供養したてまつれり。
次第に復た劫有り、名けて千功德と曰ひ、爾の時に世界有り、善化幢燈と名け、
六億那由他の。諸佛世に興出したまひ、我已に悉く、彼の一切の如來を供養したてまつれり。
初の佛は寂靜幢、第二は智慧幢、第三は百燈佛、四は功德雲王、寂靜光明王、第六は明淨日、第七は法燈佛、第八は光炎佛、九は天功德藏、第十は智慧燈なり、
是の如き等の諸佛を、我已に悉く供養したてまつりしも。未だ無生忍を得て、諸法海を究竟せざりき。

【八】後の十二頌は得法の久近を答ふ。

次第に復た劫有り、無著莊嚴と名け、爾の時に世界有り、無量勝光と名けたり、
時に三十六、那由他の佛有りて出でたまひ、是の如き等の諸佛を、我已に悉く供養したてまつれり、
初は功德須彌、第二は虛空心、第三は莊嚴智、第四は莊嚴藏、五は法音聲海、六は持法音聲、第七は化音聲、第八は功德海、
九は功德海燈、第十は功德幢なり、彼の諸の如來等に、我皆悉く値遇したてまつれり◎
(八)功德幢如來、世に出興したまひし時、我は功德天と爲りて、彼の最勝を供養したてまつれり。

時に佛我が爲めに、莊嚴大願海を說きたまひ、陀羅尼の念力にて皆悉く能く受持せり、
我明淨眼、三昧陀羅尼を得て、一一念の中に於て、悉く最勝海を見たてまつる、
大悲藏を出生して、深く方便雲に入り、心淨きこと虛空の如く、悉く諸佛の力を得たり、
諸の衆生を、觀察するに、常・樂・我・淨倒にして、愚癡の闇に覆はれ、煩惱は虛妄を起し、
邪見貪欲等、無量の諸の惡業あり、一切諸趣の中に、具さに不善の報を受け、
一切諸趣の中に、種種の業身を受け、生老病死の患、無量の苦に逼迫せられたり、
我無上心を發して、彼の衆生を安樂にし、諸佛の所に至り、如來の力を成滿せしむ、
大願雲を滿足して、常に一切の佛を見たてまつり、正道を修習して、諸の功德を具足し、
一向に廣く專ら、無量の功德雲を求め、法門波羅蜜、諸の法界に充滿せり、
佛子よ、我爾の時に、卽ち普賢の行を得、深法界を分別して、一切法を攝取す、
一切地を成滿して、三世の方便海に、無礙の行を修習し、一念に佛智を具へたり。』

『善男子よ、爾の時の智慧轉輪王は、豈異人ならんや、文殊師利童子是なり、轉輪王の姓を紹繼して、諸の如來種を斷絕せざらしむ。時の王の賢慧寶女は我が身是なり。爾の時の夜天我を覺悟せし者は、普賢菩薩の變化する所なり。我爾の時に於て初めて阿耨多羅三藐三菩提心を發せり。道心を發し已りて、佛刹微塵に等しき劫に於て惡道に墮せず、常に天人に生れて諸佛を覩見たてまつり、乃至功德幢

佛の所にて、此の普光喜幢の法門を得たり。此の法門を得已りて、無量の衆生を饒益し化度せり。善男子よ、我唯此の法門を知るのみ。諸の大菩薩は、念念の中に於て、普く一切諸の如來の所に詣でて、精進の大海を具足し成就し、念念の中に於て一切諸の大願海を滿足し、念念の中に於て一切未來劫の菩薩の諸行を出生し、一一の菩薩の行の中に於て、一切の佛刹微塵に等しき身を出生し、彼の一一の身は一切諸の法界海に充滿し、一一の法界の中に於て、一切の佛刹を顯現し、其の所應に隨ひて菩薩の行を現じ、一一の佛刹の中に於て、一切の佛刹微塵に等しき諸佛海を究竟し、一一の佛の所に於て一切法界に等しき如來の自在神力を究竟し、一一の如來の所にて、過去の諸劫に行せし菩薩の行を分別し、一一の如來の所にて一切の法輪を守護し受持して、三世の如來の諸の方便海を究竟せり。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り、能く說くべき。

【九】第四焔地の善友を明かす。

(九)善男子よ、此の佛の衆中に一夜天有り、名けて妙德救護衆生と曰ふ。汝彼に詣で問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の行を具し、菩薩の行を淨むるや」と。』

時に善財童子は、頭面に喜目觀察衆生夜天の足を敬禮して、辭退して行けり。

爾の時に善財童子は、正念に普光喜幢の法門を思惟し、分別して深く入り、開發し顯現して、善知識の敎に隨順し、一向に專ら善知識に見えんことを求め、身心諸根は、普く方面に遊びて、善知識を

求め善知識の道を思念し、勇猛精進して乃ち値遇することを得、善知識の一切の善根に同うし、深妙の方便を具足し成就し、善知識に因りて一切の善根を出生し長養し、諸の大願を發し、一切劫に於て善知識を離れず。往きて妙德救護衆生夜天の所に詣でたり。

爾の時に夜天は、善財童子の爲めに、菩薩の一切の世間を敎化する法門の境界を顯現して、相好をもつて身を嚴り、眉間の白毫相の中より大光明を放ち、名けて普慧炎燈淨幢と曰ひ、無量の光明を以て眷屬と爲し、普く一切の世界を照せり。照し已りて善財の頂に入り、其の身に充滿せり。爾の時に善財、卽ち菩薩の離垢圓滿三昧を得たり。此の三昧を得已りて、一切の地水火風の微塵に於て、衆寶の微塵、香の微塵、金剛の微塵、摩尼の微塵、碎末の微塵、一切莊嚴具の微塵、一切境界の微塵、是の如き等の一一の微塵の中に於て、悉く佛刹微塵に等しき世界の成敗、風輪・水輪・金剛輪・地輪・種種に莊嚴せる衆山に圍繞せられたる無量の大海、諸天の宮殿、諸の雜寶樹にて種種に莊嚴せられたる諸の龍王殿、夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人・非人等の城郭・宮殿、地獄・餓鬼・畜生・閻羅王の處を見る。悉く五道の衆生の此に死し彼に生ずることを見、彼の諸の世界を分別し了知するに、或は世界の淨き有り、或は世界の不淨なる有り、或は世界趣の淨なる有り、或は世界趣の不淨なる有り、或は世界の淨にして不淨なる有り、或は世界の不淨にして淨なる有り、或は世界の一向に淨なる有り、或は世界の其の形平正なる有り、或は世界の其の形伏せるが如き有り、或は世界の其の

形四方なる有り、是の如き等の一切の世界の、一切趣の中に、彼の夜天を見たてまつるに、一切時に於て、普く一切諸の衆生の前に現じ、其の所應に隨ひて之を度脫したまへり。地獄の衆生の爲めには諸の楚毒を滅し、諸の畜生の爲めには惱害の畏を滅し、餓鬼の衆生の爲めには饑渴の苦を除き、諸の龍等の爲めには一切の畏を滅し、欲界の衆生の爲めには欲界の苦を除き、諸の人類の爲めには、闇冥の畏、不活の畏、惡名の畏、大衆の畏、惡道の畏、死の畏、善根を失ふの畏、菩提心を失ふの畏、惡知識に近くの畏、善知識を失ふ畏、聲聞緣覺地の畏、生死の畏、不同意の畏、非時に生を受くる畏、惡人の家に生るる畏、惡業を行ふの畏、業障の畏、煩惱障の畏、報障の畏、諸の貪著の畏、諸の繫縛の畏を除き、是の如き等の一切の怖畏を滅せり。又復た四生の衆生を敎化す、所謂る、卵生・胎生・濕生・化生・有色・無色・有想・無想・非有想・非無想の衆生なり、常に其の前に現じ之を敎化せり、大願力を滿せんが故に、菩薩の三昧力の故に、諸の通明力の故に、普賢菩薩の行力を出生せんが故に、大悲海を出生し長養せんが故に、無礙の大慈をもつて一切の衆生を覆はんが故に、一切の衆生を安樂にせんが故に、一切の衆生を攝取せんが故に、深く菩薩の自在なる境界の法門に入らんが故に、普く一切諸佛の剎の中に現じて嚴淨を爲さんが故に、一切法中に在りて智慧覺悟せんが故に、一切の佛の所に在りて恭敬し供養せんが故に、一切の佛法の中に在りて正法を守護せんが故に、一切衆生の心海の中に在りて衆生を度脫せんが故に、一切衆生の諸根の中に在りて諸根を調伏せんが故に、

一切衆生の欲界の中に在りて障礙を除き、清淨を得しめんが爲めの故に、一切衆生の愚癡の闇中に在りて一切智の光明を出生せんが故なり。

爾の時に善財は、彼の夜天の自在神力の不可思議なる菩薩の境界は、一切の世界に衆生を敎化し、菩薩の一切法門の自在神力を成就するを見たてまつり、歡喜すること無量にして、頭面に足を禮し恭敬し合掌して一面に於て住し、一心に觀察せり。爾の時に夜天、卽ち相好妙莊嚴の身を捨て、夜天の形を現じ、而も自在の神力を捨離せず。

爾の時に善財、偈を以て頌して曰はく、

(一〇)『善財合掌して住し、諦觀して厭き足ること無く、無量の神力を見たてまつりて、其の心大いに歡喜せり◎

(一一)我尊き妙身を見たてまつるに、相好自ら莊嚴し、清淨なること虛空の如く、一切能く壞る莫し、

放つ所の殊妙の光は、無量の刹塵に等しく、種種なる微妙の色は、普く十方を照す、

一一の毛孔より、衆生に等しき光明を放ち、一一の光明の端に、寶蓮華を出生し、華より化身を生じて、衆生の苦を除滅す。

諸の香の光明を放ちて、普く十方界に熏じ、無量の華雲を雨らして、諸の最勝を供養した

【一〇】頌に二十偈半あり、初の一は總頌。

【一一】次の九頌半は夜天の身光の利益を歎ず。

てまつる、
無量の寶光を放ち、一一須彌の如くにして、普く一切の衆を照し、愚癡の闇を除滅す。
口より淨き光明を放ちて、猶ほ無量の日の如く、普く盧舍那の、無量の境界を照す。
眼より淨き光明を放ちて、猶ほ無量の月の如く、普く群生の類を照し、愚癡の瞖を除滅す。
妙相は衆生に等しく、化身の海を出生して、諸の法界に充滿し、三有の海を度脱す、
淸淨なる微妙の身は、一切見ざる無く、水火の賊、王等の一切の難を遠離す。

【三】以下は前說を頌す。

(三)喜目觀察天は、我を敎へて尊の所に詣でしめ、尊を見たてまつるに
白毫相より、明淨の光を演出したまふ、
普く十方海を照して、一切の闇を除滅し、自在力を顯現して、我が頂上より入る。
光明身に入り已りて、擧體柔輭にして樂しく、卽ち離垢定を得て、普ねく十方の佛を見たてまつる。
悉く能く分別して、一切諸の微塵を知り、一一の微塵の中に、普く十方の刹を見る、
或は淨き世界有り、或は不淨の刹有り、不淨の世界の中の、衆生は諸の苦を受く、
不淨世界の中の、衆生は苦を受くるが故に、三乘の像を示現して、往きて之を救度す。
淸淨なる佛の國土は、無量の寶にて莊嚴せられ、諸佛大菩薩は、常に樂ひて中に於て住せり。

一一の微塵の中に、普く淨き刹海を見る、盧舍那は積劫に、彼の土を淸淨ならしめたまへり、

一切の佛刹の中に、菩提樹に坐して、最正覺を成ずることを得て、淨き法輪を轉じたまふことを現ず、

我妙德天を見るに、彼の嚴淨せる刹の、一切の如來の所に詣でて、恭敬して供養したてまつれり。』

# 卷の第五十四

## 入法界品第三十四の十

(一)爾の時に善財、偈をもつて讃歎し已りて、白して言さく、

『天神よ、甚だ奇なり、甚だ特れたり、此の菩薩の法門は最も爲甚深なり、此の法門は名けて何等と爲し、此の法門を得て其れ已に久如しきや、本何の行を修したまひて、之を致せるや。』

『善男子よ、此の處甚深にして、一切の人天、聲聞緣覺の知る能はざる所なり。何を以ての故に、普賢菩薩の行を滿ずる者の境界なり。大悲の菩薩の境界なり、一切の衆生を救護する菩薩の境界なり。一切の惡道の諸難を除滅する菩薩の境界なり、一切の佛刹の中に、一切の佛法を守護して斷絶せざらしむる菩薩の境界なり、一切劫の中に、菩薩の行を修して大願海を滿ずる菩薩の境界なり、明淨の慧光を具足し成就して、一切衆生の愚癡の闇障を滅し、普く一切を照す菩薩の境界なり、一念の中に於て明淨の智慧は、普く三世の諸の方便海を照す菩薩の境界なればなり。善男子よ、諦聽せよ、諦聽せよ。我當に佛の神力を承けて汝が爲めに解説すべし。

【一】以下得法の因緣を明かす。

【二】佛子よ、乃し往古の世、世界微塵に等しき劫を過ぎて、劫有り離垢圓滿と名け、世界を明淨妙德幢と名け、須彌山の微塵に等しき如來有して、世に出現したまひき。其の佛の世界は七寶にて合成し、衆寶にて莊嚴せられ、其の土は圓滿にして、離垢淸淨の寶網をもつて羅覆し、金剛圍山は周帀圍繞し、十萬億那由他の四域の天下有り。或は天下淸淨にして衆生も亦淨なる有り、或は天下不淨にして衆生も不淨なる有り、或は天下淨•不淨雜り、衆生も亦雜る有り、或は天下淸淨にして、一切の衆生は善根具足し、諸の疾患無きもの有り、或は天下嚴淨殊勝にして、但諸の菩薩のみなる有り、彼の世界の東際金剛山に近く、四天下有り、華燈幢と名く。妙寶の樓閣•臺觀•宮殿•上味の飲食、自然に具足し、瞻蔔華樹は、普く一切を覆ひ、種種の香樹は妙香雲を出だし、諸寶の鬘樹は普く鬘雲を雨らし、諸の雜華樹は、不思議なる衆妙の華雲を雨らし、諸の末香樹は末香雲を雨らし、諸の香王樹は妙香雲を雨らし、摩尼寶樹は種種の寶を雨らし、諸の音樂樹は、微風に吹動せられ、和雅の音を出だして虛空に充滿し、日月明淨にして、妙寶の光明普く一切を照せり。彼の四天下に百萬億那由他の諸王の京都有りて、一一の王都に千の渠水有り、微流回り映じて衆華普く被ひ、自然に天の音樂の聲を演出し、岸に寶樹を植ゑ、行列莊嚴し、衆寶を地と爲

【二】以下、正しく因緣を說く中に於て三段あり、初に離垢圓滿劫の中に於て佛を供養し行を修したることを明かす、中に十科あり、一總じて本事を擧げ、二に本生の處を顯はし、三に本生の父母、四に本生の身、五に佛出世の利益、六に普賢の引導、七に德女の供養、八に經を聞いて益を得、九に宿因の堅固なこと、十に會の古今を結す。

せり。一一の水閒に十億千の城有り、彼の一一の城に十億百千那由他の聚落有りて圍繞せり。彼の一一の城、及び一一の聚落に各無量億那由他の妙寶の樓閣有りて之を莊嚴せり。彼の閻浮提に一王都有り、寶華燈と名け、安隱豐樂にして人民熾盛なりき。此の諸の衆生は十善の業道を具足し修行せり。

(三)時に彼の城中に轉輪王有り、名けて明淨寶藏妙德と曰ひ、大法王と爲りて、治むるに正法を以てし、蓮華より生じて、三十二の大人の相を具へ、七寶成就せり。王に千子有り、端正にして勇猛なり、十億の大臣有り。王に寶女有り、妙德成滿と名け、端嚴殊妙にして、目髮は紺色にして、身は天金の如く、梵音淸淨にして、身より光明を出だし、千由旬を照せり。

(四)彼に一女有り、妙德眼と名け、一切の諸行は皆悉く具足し、端正殊特にして觀る者厭くこと無し。十億百千那由他の諸の婇女衆有りて、皆聖王と善根の行を同うし、身は眞金の色にして一切の毛孔より皆妙香を出だし、衆寶にて莊嚴し、天女に超踰せり。爾の時に衆生の壽命は無量なりき。或は不定なる有り、或は中夭なる有り。形色同じからず、長短・名號・音聲・善根・精進・方便も亦悉く同じからず、好有り醜有り、讃むる有り毀る有り。爾の時に人有り、一人に謂ひて言はく、「我が色は端嚴なり、汝が形は鄙陋なり」と、共に相凌ぎ毀り、惡業を作し已りて、壽命・色力、受る所の快樂

【三】三、本生の父母を明かす。
【四】四、本生の身を明かす。

は皆悉く損減せり。

(五)時に彼の城の北に、道場樹有り、普光明妙法音幢と名け、衆寶を根と爲し、能く壞する者無し。莖節枝葉は衆寶をもつて合成し、皆悉く齊等にして、衆寶の光雲を出だして普く一切を覆ひ、衆の寶光を放ちて普く十方を照し、妙なる音聲を演べて、如來の自在神力を宣揚せり。其の樹の前に於て、香水の池有り、寶華光明眞法音雲と名け、衆寶を岸と爲し、十億百千那由他の寶樹有りて圍繞し、彼の一一の樹は菩提樹の如く、寶瓔珞樹周帀して垂れ下り、清淨なる妙寶を以て莊嚴と爲せり。衆寶の樓閣は無量無數にして道場を周徧せり。(六)彼の香池の中に、一蓮華有り、三世一切佛莊嚴境界雲と名け、最初の妙德幢佛は、彼の華の上に於て等正覺を成じたまひき。(七)衆生を化せんが故に大光明を放つ、名けて萬歲と曰へり。衆生の見ん者は、後萬歲にして佛當に世に出でたまふべきを知る。次で後に光を放つを、一切衆生離垢歡喜燈と名く、衆生の見ん者は、九千歲にして佛當に世に出でたまふべきを知る。次で後に光を放つを、離垢燈妙德藏と名く、衆生の見ん者は、悉く妙色を視て、八千歲にして佛當に世に出でたまふべきを知る。次で後に光を放つを、一切衆生業報音聲と名く、衆生の見ん者は、自己の業報を分別し了知し、七千歲にして佛當に世に出でたまふべきを知る。次で後に光を放つを、起一切善根音聲と名く、若し衆生の諸根具はらざる有りて、斯の光明に觸れ

【五】五、佛出世の利益を明かす、この中先づ道場を擧ぐ。
【六】次に興佛化を叙す。
【七】以下放光驚覺に十二種あり。

なば、皆悉く具足し、六千歳にして佛當に世に出でたまふべきを知る。次で後に光を放つを、名けて顯現不可思議諸佛境界音聲と曰ふ、衆生の見ん者は、悉く明淨自在の心を發し、五千歳にして佛當に世に出でたまふべきを知る。次で後に光を放つを、名けて嚴淨一切佛刹と曰ふ、衆生の見ん者は、一切如來の嚴淨せる佛刹を見て、四千歳にして佛當に世に出でたまふべきを知る。次で後に光を放つを、一切佛不可壞境界明淨燈と名け、衆生の見ん者は、佛は自在にして至らざる所無きを知り、三千歳にして佛當に世に出でたまふべきを知る。次で後に光を放つを、普照三世一切諸佛本事音聲と名け、衆生の見ん者は、一切如來の過去の本事の無量大海を知り、二千歳にして佛當に世に出でたまふべきを知る。次で後に光を放つを、離癡曀智如來淨燈と名け、衆生の見ん者は、平等の淨眼を得て、普く一切の嚴淨せる佛刹と、一切の如來と、一切の衆生とを見、一千歳にして佛當に世に出でたまふべきを知る。次で後に光を放つを、一切衆生見諸如來長養善根と名け、衆生の見ん者は、後七日にして佛當に世に出でたまふべきを知る。次で後に光を放つを、一切衆生歡喜音聲と名け、衆生の見ん者は、一心に歡喜して如來を見たてまつらんことを欲す。

【八】次に地を動かして衆を集む。

(八)佛子よ、彼の佛は一萬歳の中に於て、是の如き等の無量の光明を放ちて、衆生を教化し、七日を滿じ已りて、佛の神力の故に、一切の世界は六種に震動せり。爾の時に衆生念念の中に於て一切の佛刹

を見るに、皆悉く清淨にして、衆寶をもつて莊嚴せり。時に彼の世界の衆生は悉く道場に詣でたり。(九)一切の金剛圍山、須彌山王、一切の諸山、一切の變化、一切の音聲、一切の大地、一切の城邑・垣牆・宮殿、是の如き等の一切の諸物は微妙の音を出だし、歌頌をもつて佛を讃したてまつれり。又一切の香雲、一切の寶光明雲、一切の寶形像雲、一切の寶衣雲、一切の華雲、一切の末香雲、一切の寶莊嚴雲、一切如來の圓滿光雲、一切如來の大願聲雲、一切如來の妙音聲雲、一切如來の諸の相好雲、顯現不可思議如來の瑞應相雲を出だせり、是の如き等の一切の妙雲を出だして、如來を供養したてまつれり。(一〇)時に彼の三世一切佛莊嚴境界雲は、蓮華に周帀せられて、十佛世界の微塵に等しき衆寶蓮華を出生せり。彼の一一の蓮華の鬚上に、寶蓮華藏の師子の座有り、彼の師子の座の上に、十佛世界の微塵に等しき菩薩摩訶薩有り。爾の時に妙德幢佛、一切の世界に於て其の所應に隨ひて正法輪を轉じたまひ。無量の衆生をして惡道の苦を離れしめ、無量の衆生をして人天の中に生れしめ、無量の衆生をして聲聞緣覺の地に立て、無量の衆生をして勇猛精進の菩薩の行を立て、無量の衆生をして離垢幢精進菩薩の行を立て、無量の衆生をして法光明菩薩の行を立て、無量の衆生をして清淨根菩薩の行を立て、無量の衆生をして、平等諸力菩薩の行を立て、無量の衆生をして一向に專ら求めて正法城に入れる菩薩の行を立て、無量の衆生をして一切處に至りて破壞す可からざる神力自在の菩薩の行を立て、無量の衆生

【九】次に讃頌して供養を興す。
【一〇】次に會衆說法を明かす。

をして一切方便菩薩の行を立て、無量の衆生をして菩薩の三昧を出生する安住菩提を立て、無量の衆生をして一切の淨行を修する安住菩提を立て、無量の衆生をして發菩提心を立て、無量の衆生をして住菩薩道を立て、無量の衆生をして清淨諸波羅蜜を立て、無量の衆生をして菩薩の初地を立て、乃至無量の衆生をして菩薩の十地を立て、無量の衆生をして菩薩の大願殊勝の行を立て、無量の衆生をして普賢菩薩の清淨なる願行を立たしめたり。何を以ての故に、如來は不可思議なる自在の法輪を轉ずるが故に、念念の中に於て其の所應に隨ひ、種種の身・種種の方便・種種の說法を以て、無量の衆生を度脫したまへばなり。

【二】六、普賢の引導を明かす。

(二)爾の時に普賢菩薩、寶華燈城の王都の衆生は、自ら色貌を恃み、他人を陵懱するを知り、妙身の端嚴殊妙なるを化現して、彼の城に往詣し、大光明を放ちて普く一切を照せり。時に彼の聖王の身の光明、諸寶の光明、寶女の光明、寶樹の光明、日月星宿の光明は、皆悉く映蔽せられて、猶ほ聚墨の如し。眞金山に在る普賢菩薩の身色の光明の、衆光を映蔽することも、亦復た是の如し。爾の時に衆生各是の念を作さく、「今此の光明は悉く我等を蔽ひて復た顯現せず。是れ梵天、諸天の光と爲すや」と。爾の時に普賢菩薩、彼の聖王の寶宮殿上に在して、虛空の中に於て之に告げて言はく「大王よ、當に知るべし、佛世に興りて、今、普光明妙法音幢菩提樹下に在したまふ」と。時に彼の衆生普賢菩薩の相好嚴身と無量の光明とを

見、妙なる音聲を聞き、歡喜すること無量にして、是の如きの願を發すらく、「我等の作す所の善根にて、此の妙身の相好莊嚴を得て、威儀異ること無く、神力自在にして、一切衆生の愚闇を除滅し、一切の佛世に興りたまふを覺悟し、趣趣に生を受け、願はくは常に此の善知識を離れざらしめん」と。時に彼の聖王は、其の寶女及び諸の眷屬・千子・大臣・並に四種の兵と與に虛空に上昇して大光明を放ち、四天下を照し、普く衆生の爲めに偈を以て頌して曰はく、

『〔三〕如來世閒に出でて、普く諸の群生を救ひたまふ、汝等應に速かに起ちて、導師の所に往詣すべし。

無量無數劫に、或は佛有して世に興り、深妙の法を演說し、一切の衆を饒益したまふ、

普く諸の群生を見るに、愚癡顚倒の惑にて、生死の苦に流轉せり、彼に於て大悲を起したまふ、

無量無數劫に、菩薩の行を修習し、衆生を化せんが爲めの故に、無上の悲を發起したまふ、

頭目手足等の、捨て難きを悉く能く施し、無量無數劫に、專ら佛の菩提を求めたり、

無量無數劫にも、如來に値遇すること難し、其の見聞すること有らん者は、一切悉く虛しからじ。

【三】頌に十偈あり、初の一は總じて往詣を勸め、次の五は德を積んで出世し給ひ甚だ値ひ難きことを歎じ、次の三は佛已に出で、大利益現前することを頌し、後の一は供具を辦じて佛を供養せしむることを頌す。

如來道場に在りて、佛の正法の座に處したまひ、一切の魔を降伏して、最正覺を成ずることを得たまへり、

如來の身を觀察するに、無量の光を放演し、種種微妙なる色は、一切の闇を除滅す、

一一の毛孔の中より、光を放つこと不思議にして、愚癡の瞖を除滅し、衆をして悉く歡喜せしむ。

各衆の供具を辦じ、大精進の心を發して、咸如來の所に詣でて、恭敬して供養を設くべし。』

爾の時に轉輪聖王、佛を讃歎し已りて、轉輪王の功德善根を以て、十種の雲を興して、普く虛空を覆ひ、道場に往詣して如來を供養したてまつれり。所謂る、一切の寶雲・一切の華雲・一切の衣雲・一切の寶衣雲・一切の寶網金鈴雲・一切の堅固香雲・一切の如意珠雲・一切の妙寶幢雲・一切の寶宮殿雲・一切の莊嚴雲なり。普く一切を覆ひて虛空を莊嚴し、如來を供養したてまつりて、往きて佛の所に詣で、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、退きて普照寶藏の座に坐せり。

【三】七、德女の供を興すことを明かす。

〔三〕爾の時に妙德眼女は、即ち身上の諸の莊嚴具を解きて如來に散じ奉れり。時に莊嚴具は虛空の中に於て變じて寶蓋と成り、衆寶の莊嚴は悉く一切諸の宮殿と等しく、端嚴にして齊整なり。十寶をもつて莊嚴せる金剛圍山は周帀圍繞し、其の形猶は明淨なる樓閣の衆寶をもつて莊嚴せるが

如し。無量の龍王は、悉く共に寶樹を執持して圍繞し、妙香普く熏せり、其の蓋の中に於て菩提樹有り、枝葉榮え茂りて普く法界を覆ひ、無量の莊嚴を以て之を莊嚴せり。盧舍那佛、此の樹下に坐したまふを見たてまつるに、不可說の佛刹微塵に等しき大菩薩と倶にして、皆悉く普賢菩薩の一切の所行を具足し、菩薩の住に住して能く壞する者無し。又一切世界の諸王、如來を圍繞したてまつるを見る、又彼の佛の神力自在を見る、又一切諸劫の次第と、世界の成敗とを見る、又一切の諸佛次第に出世したまふことを見る、又普賢菩薩、一切佛の所に在りて、恭敬し供養して衆生を敎化することを見る、又彼の一一の世界の中に、悉く佛刹微塵に等しき世界、種種の安住、種種の莊嚴、種種の淸淨、種種の劫、種種の如來世に出興したまひ、種種の三世、種種の國土、種種の法界、種種の諸道、種種の入法界、種種の虛空、種種の道場、種種の佛光、種種の諸佛莊嚴の師子の座、種種の如來の眷屬、種種の如來の方便、種種の轉法輪、種種の如來の妙音、種種の音聲海を說き、種種の修多羅雲を說きたまふことを見る。時に彼の女人是の如きを見聞して歡喜すること無量なり。

【四】八、經を聞いて益を得たることを明かす。

(四)爾の時に妙幢德佛、大衆の中に於て修多羅を說きたまひ、一切如來法輪妙音と名け、十佛世界の微塵に等しき修多羅を以て眷屬と爲せり。時に彼の女人、此の經を聞き已りて、卽ち一萬の三昧を得、身心柔軟なること初めて受胎するが如し。又衆生の初に勝業の果報を受るが如く、又初生の堅固

吉樹の如し。所謂る、現在の一切諸佛を見たてまつる三昧、普く一切の佛刹を照す三昧、深く三世に入る三昧、一切如來の妙音轉法輪の三昧、一切の佛の願海を知る三昧、一切衆生の生死の苦惱を滅する三昧、一切衆生の癡闇を滅し大願を滿足し莊嚴する三昧、一切衆生の諸苦を滅する三昧、一切の衆生をして快樂を具足せしむる三昧、一切衆生を敎化して心に疲倦無き三昧、一切菩薩の無礙幢三昧、菩薩の降神母胎莊嚴三昧なり。是の如き等の一萬の三昧を得たり。復た淨三昧の心、不動の心、歡喜の心、正希望の心、廣大の心、善知識の敎に順ずる心、甚深なる薩婆若の心、方便海に隨順する心、一切に著することを無き心、一切世閒の境界を捨離する心、如來の境界を究竟する心、普く一切の色海を照す心、瞋恚を滅する心、愛念の心、平等の心、疲倦無き心、不退轉の心、懈怠を離るる心、一切法の寂靜なることを觀ずる心、一切の法海に隨順する心、隨順して一切法を分別する心、一切の衆生海を分別する心、一切衆生を救護する心、普く一切の世界を照す心、一切の佛の大願海を滿ずる心、一切障礙の山を壞散する心、無量の功德山を積集する心、佛の十力に向ふ心、普く一切の菩薩の境界を照す心、一切菩薩の諸の功德を長養する心、一切の十方海に充滿する心、平等を發すの心、佛刹微塵に等しき諸の願海を成滿する心、一切の如來刹を願ひ淨むる心を得たり、是の如き等の心は十佛世界の微塵に等しき法門を出生せり。所謂る、一切の衆生を敎化する法門、一切の法界を分別する法門、一切の法海を究竟する法門、一切の世界に於て盡未來劫に菩薩の行を出生す

る法門、一切の世界に於て盡未來劫に菩薩の行に住する法門、一切の佛の所に往詣する法門、一切の善知識に値遇する法門、一切の佛を恭敬し供養する法門、念念の中に於て一切智を出生し菩薩の行を斷せざる法門なり。是の如き等の十佛世界の微塵に等しき法門を出生し、普賢菩薩の願行を出生し、專ら一切智を求めたり。時に彼の女人は、諸の如來の初發心の願を得たり。

(一五)善男子よ、復た是より前に十大劫を過ぎて、世界有り日輪光照と名け、佛を因陀羅妙德幢と號けたてまつりき。此の妙德眼女は、普賢菩薩の善知識に因るが故に、蓮華の如來像を造り、衆寶をもつて莊嚴し、菩提心を發せり。

(一六)善男子よ、爾の時の明淨寶藏妙德轉輪聖王は、豈異人ならんや。今の彌勒菩薩是なり。時の寶女妙德成滿は、今の寂靜音夜天是なり。妙德眼女は我が身是なり。善男子よ、我莊嚴具を以て妙德幢如來を供養したてまつりしが故に、佛の無量の自在神力を見、正法を說きたまふを聞けり。正法を聞き已りて、卽ち一切の衆生を敎化する法門を得、須彌山の微塵に等しき一切の如來を恭敬し供養したてまつりて、彼の諸佛の說きたまひし所の經法を聞きて、皆悉く受持し、一念の中に於て彼の一切の佛刹の一切の如來、及び菩薩衆を見たてまつれり。

(一七)善男子よ、其の後に劫有り、大光明と名け、世界を種種莊嚴と名け、五百の佛有して世に出

【一五】九、宿因の堅固なることを明かす。
【一六】十、古今を結會す。
【一七】第二、大光明劫の供佛修を明かす。

興したまひ、我悉く此の諸の如來を恭敬し供養したてまつれり◎其の最初の佛を大悲幢と名け、我夜天と爲りて恭敬し供養したてまつれり。次後の如來を金剛那羅延幢と名け、時に我轉輪王と爲りて恭敬し供養したてまつれり。彼の佛我が爲めに修多羅を說きたまひ、起一切如來性と名け、十佛世界の微塵に等しき修多羅を以て眷屬と爲せり。次後の如來を金剛無礙妙德と號け、時に我轉輪王と爲りて恭敬し供養したてまつれり、彼の佛我が爲めに修多羅を說きたまひ、普照一切衆生諸根と名け、須彌山の微塵に等しき修多羅を以て眷屬と爲し、悉く聞きて受持せり。次後の如來を明淨炎妙德山莊嚴と名け、時に我長者と爲りて恭敬し供養したてまつり、彼の佛我が爲めに修多羅を說き、普照三世藏と名け、閻浮提の微塵に等しき修多羅を以て眷屬と爲し、悉く聞きて受持せり。次後の如來を一切法海起王と名け、時に我阿修羅と爲りて恭敬し供養したてまつり、彼の佛我が爲めに經を說きたまひ、分別一切法界と名け、五百の修多羅を以て眷屬と爲し、悉く聞きて受持せり。次後の如來を甚深妙法海光と名け、時に我龍女と爲りて、如意摩尼の寶雲を雨らして恭敬し供養したてまつり、彼の佛我が爲めに修多羅を說きたまひ、長養歡喜海と名け、百萬億の修多羅を以て眷屬と爲し、悉く聞きて受持せり。次後の如來を寶炎功德山燈と名け、時に我海神と爲りて、衆寶の華雲を雨らし、恭敬し供養したてまつり、彼の佛我が爲に修多羅を說きたまひ、法界方便海と名け、世界微塵に等しき修多羅を以て眷屬と爲し、悉く聞きて受持せり。次後の如來を功德海光圓滿妙德と名け、時に我仙人

と爲り雪山に在りて住し、六萬の仙人と倶に往きて彼の佛に詣で、寶華の雲を雨らし、恭敬し供養したてまつり、彼の佛我が爲めに修多羅を説きたまひ、法燈無所著と名け、六萬の修多羅を以て眷屬と爲し、悉く聞きて受持せり。次後の如來を明淨妙德藏と名け、時に我地天と爲り、出生平等義と名け、無量の地天と倶に往きて彼の佛に詣で、一切の寶、一切の寶藏、一切の莊嚴雲を雨らして、恭敬し供養したてまつり、彼の佛我が爲めに修多羅を説きたまひ、起一切如來智藏と名け、無量の修多羅を以て眷屬と爲し、悉く聞きて受持せり。佛子よ、是の如く五百の如來次第に世に興りたまへり。其の最後の佛を法界虛空寶山妙德燈と名けたてまつる。時に我妓人と爲り名けて善口と曰ひ、彼の佛の、城に入りたまひしとき、我空中に在りて一千の偈を以て如來を讃歎したてまつれり。爾の時に世尊、眉間の白毫相より大光明を放ち、普照法界莊嚴と名け、普く十方を照したまへり。照し已りて我が身中に入り、卽ち法界方便不退藏の法門を得たり。

【一八】第三、塵數劫の中の供佛修行を明して結す。

〔一八〕佛子よ 是の如き等の世界の微塵に等しき劫に、諸佛世に興りたまひ、我悉く恭敬し供養したてまつり、彼の諸の如來の説きたまひし所の正法を悉く聞きて受持し、未だ曾て一句一味をも忘失せず。一一の佛の所に於て三世甚深の法界と、淸淨の法身とを得、一切の智光普く一切を照して、普賢菩薩の所行を攝取し、念念の中に於て悉く無量無邊の諸佛を見たてまつりて、無量無邊の

淨慧の光明を得、普く一切を照し、先に未だ得ず、未だ證せざりし普賢の所行を、今悉く成滿せり。何を以ての故に、無量無邊を說くが故なり。

爾の時に妙德救護衆生夜天、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

〔一九〕善財應に諦聽すべし、甚深にして見難き法は、普く三世を照し、深法界を分別す。

我が初發心の如く。專ら無上の道を求め、隨つて得し所の法門を、諦聽せよ我今說かん。

〔二〇〕過去久遠の世、佛刹微塵の劫に、爾の時に一劫有り、離垢圓滿と名け、

時に世界有り、明淨妙德幢と名け、須彌の微塵に等しき、如來世に出興したまひき、

初の佛は妙德幢、二は普慧光炎、法幢德須彌、第四は師子佛、第五は寂靜王、六を除滅惡と號け、第七は功德聚、第八は須彌山、

第九は妙德佛、第十は明淨月なり、是の如きの十如來、彼の劫の初に世に出でたまひき。

次に復た十佛有せり、初は虛空方便、第二は普光明、三は安住諸方、

第四は功德海、第五は高無上、第六は最勝雲、第七は功德佛、

第八は光焰山、第九は蓮華佛、第十は法界化なり、是を第二の十と爲す。

【一九】重頌に三十八偈半あり、初の二偈は所得の法門を擧げ、說を許す。

【二〇】以下は、正しく前文を頌す。

初は光明幢王、第二は智慧佛、第三は心義佛、四は陀羅妙德、第五は妙天佛、第六は勇猛王、
第七は智慧德、第八は光明幢、
第九の如來を、超出一切世と號け、第十は蓮華佛なり、是を第三の十と爲す。
第一は光炎山、第二は功德海、第三は法光明、第四は妙蓮華、第五は衆生眼、第六は香光明、
七は妙德寶山、八は乾闥婆王、第九は明淨智、第十は寂靜色なり。
初の佛は光智慧、第二は寶光明、三は虛空妙德、第四は妙相佛、圓滿功德光、第六は那羅延、
第七は妙須彌、八は功德轉輪、九は不可壞王、第十は寶山佛なり。
初の佛は婆羅王、第二は妙德藏、第三は光明王、第四は眞實起、第五は光明德、六は陀羅尼
德、七は光明甚深、八は法海音佛、
第九は須彌幢、光明妙德佛、寶光燄如來なり、是を第十の佛と爲す。
初の佛は梵光燄、第二は虛空音、第三は法界光、第四は圓滿光、第五は分別光、第六は光明幢、
第七は虛空燈、第八は樂妙德、
第九は明淨光、妙功德如來、十は寂靜妙德、大悲雲如來なり。
初の佛は力光慧、二は衆生現前、第三は無上福、第四は妙德光、第五は法起佛、六は風速妙德、
第七は淨幢佛、第八は寶蓋佛、第九は妙德佛、十は普照三世なり。

初の佛は願海と號け、第二は光明德、第三は金剛身、四は須彌妙德、第五は正念佛、六は幢王妙德、第七は智慧燈、第八は無量寶、
第九は方便、明淨法界佛と號け、第十は法海、明淨智妙德と號く。
初の佛は法寶と號け、功德轉輪王、第三は功德雲、第四は忍辱燈、第五は寂靜音、第六は寂靜幢、第七は衆生燈、第八は大願佛、第九の如來は、不可壞幢王と號け、第十を智慧、炎起妙德佛と號けたり。
初の佛は法王と號け、第二は無礙智、三は照語言海、第四は妙音聲、第五は妙德音、第六は自在佛、七は十方一切、衆生現前佛、
第八は平等意、九は無上如來、第十を自然、賢妙德最勝と號けたり。
是の如き等の一切の、須彌の塵數の佛、彼の諸の如來等を、我已に悉く供養したてまつれり。
佛刹微塵劫に、出でたまひし所の諸の如來を、悉く恭敬し供養したてまつりて、此の法門を逮得せり。
我無量劫に於て、修行して法門を得たり、善財聞きて思惟し、應當に速かに究竟すべし。」

「善男子よ、我唯此の衆生を敎化する菩薩の法門を知るのみ。諸の大菩薩は、無量無邊の菩薩の所行を究竟し、悉く種種の性海の中より起り、種種の正直なる身心は諸根海に滿ち、一切諸の大

願門を具足し、無量の諸の三昧門を修行し、無量の神力を具足し成就し、無量の智慧の行を修行し、種種の智に入りて諸法の光明普く一切を照せり。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り、能く說くべき。

（二）善男子よ、此の道場に於て我を去ること遠からずして、一夜天有り、寂靜音と名け、寶幢蓮華藏の師子の座に處して、百萬阿僧祇の諸天の眷屬に圍繞せらる。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、頭面に妙德救護衆生夜天の足を敬禮し、繞ること無數帀、敬心に辭退して、往きて寂靜音夜天の所に詣で、頭面に足を禮して、繞ること無數帀、恭敬し合掌して一面に於て住し、白して言さく、

『天神よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せり、我善知識に依りて菩薩の行を學び、菩薩の行に入り、菩薩の行地に入り、菩薩の行住に住せんとす、唯願はくは天神、我が爲めに解說したまへ。』

爾の時に夜天、善財に告げて言はく。（三）『善い哉善い哉。善男子よ、乃ち能く善知識に依りて菩薩の道を求む。善男子よ、我菩薩の無量歡喜莊嚴の法門を成就せり。』

【二】第五難勝地の善友を明かす。

【三】以下、己が法界を示す、初に法の名體を顯す。

白して言さく、『〔三〕天神よ、此の法門は爲何の所作にして、境界は云何ん、何等の方便をもつて何等の行をか爲す。』

答へて言はく、『善男子よ、我能く一切衆生の心海を清淨にし、塵垢を除滅し、清淨莊嚴の心を斷せずして、境界を退せざる堅固の心、動ず可からざる心、決定して功德の寶山莊嚴を了知して染著無き心、常に前に現じて一切の衆生を護る心、一切の佛・諸の菩薩海を見たてまつりて厭足無き心、清淨なる菩薩の正直力の心、普く一切の智慧海を照す心を得たり。善男子よ、我衆生の爲に憂惱と無量の衆苦とを滅除して、其をして永く諸の惡の色聲香味觸意法を離れしめ、衆生の愛別離苦、怨憎會苦、及び餘の一切の諸の惡因緣、壞敗の大苦、住生死の苦、生老病死憂悲惱の苦を除滅して、如來の無上なる快樂を得せしめ。一切の城邑聚落の衆生を我悉く救護して安樂を得しめ。廣く爲めに法を說き、敎へて漸く一切種智を求めしむ。若し衆生の在家宮殿に心樂著する者を見ば、彼が爲めに法を說きて、諸法の眞實の性を知らしめ。若し衆生の父母兄弟と歡娛し讌集するを見ば、彼が爲めに法を說きて諸佛菩薩と共に會せしめ、若し衆生の妻子歡び會するを見ば、彼が爲めに法を說きて、生死愛欲の海を竭し、大悲を具足して、一切を等觀せしめ。若し衆生の王宮の殿に處するを見ば、彼が爲めに法

【三】次に業用を示す、問に四問あり、初に法門の所作を問ひ正しく其の業用を顯はし、二に法門の境界を問ひ、其の所觀を明かし、三に法門の方便を問ひて其の善巧を明かし、四に法門の因行を問ひて、正しく其の所因を顯はす、次の答は此の四門に應じて四段となす。

を說きて、悉く賢聖の快樂を逮得せしめ。若し衆生の境界に著する者を見ば、彼が爲めに法を說きて、如來の甚深なる境界を得しめ。若し衆生の瞋恚を起す者を見ば、彼が爲めに法を說きて、如來の羼提波羅蜜を得しめ。懈怠の者の爲めには、正法を演說して、菩薩の淸淨毗梨耶波羅蜜を得しめ。亂心の者の爲めには、正法を演說して、如來の禪波羅蜜を得しめ。邪癡の者の爲めには、正法を演說して般若波羅蜜を得しめ。三界に著する者の爲めには、正法を演說して三有を出でしめ。小法を樂ふ者の爲めには、正法を演說して、其をして菩薩の大願を滿足せしめ。自ら安んずる者の爲には、正法を演說して、大願を具して一切を饒益せしめ。心の劣れる者の爲めには、正法を演說して菩薩の力波羅蜜を得しめ。無智の者の爲めには正法を演說して菩薩の智波羅蜜を得しめ。無色の者の爲めには正法を演說して、如來の淸淨なる色身を得しめ。危脆の身の者の爲めには、正法を演說して、無上なる淸淨の法身を得しめ。惡色の者の爲めには、正法を演說して、如來の淸淨なる妙色を得しめ。苦み惱む者の爲めには、正法を演說して、如來の無上なる快樂を得しめ。貧窮の者の爲めには、正法を演說して、菩薩の諸の淸淨藏を得しめ。園觀にある者の爲には、正法を演說して、一向に諸佛の妙法を求めしめ。路に在る者の爲には、正法を演說して、一切智の道を得しめ。聚落にある者の爲には、正法を演說して三界を出でしめ。國土にある者の爲には、正法を演說して、聲聞緣覺及び菩薩地を過ぎて如來地に住せしめ。城郭に在る者の爲めには、正法を演說して、法王城に入りて普く一切

を照さしめ。隅に在る者の爲めには、正法を演說して、三世平等の智慧を得しめ。方に在る者の爲めには、正法を演說して、一切智常に現在前して一切法を觀ぜしめ。貪欲多き者の爲めには、正法を演說して、不淨を觀じて生死の愛を滅せしめ。瞋恚多き者の爲には、正法を演說して大慈の海を究竟せしめ。愚癡多き者の爲めには、正法を演說して、智慧を得て諸法海を觀ぜしめ。等分の者の爲めには、正法を演說して、其をして諸の勝れたる願海を分別し、生死の樂を離れ、生死の苦を滅し、佛の正法を顯はし、五陰に著せず、常に妙法を行ぜしめ。懈怠の者の爲めには、正法を演說して、莊嚴の勝れたる道を得しめ。憍慢の者の爲めには正法を演說して、一切諸法の平等なることを觀ぜしめ。諂曲の者の爲めには、正法を演說して、菩薩の淸淨なる直心を得しめん。善男子よ、我是の如き等の無量の法施を以て衆生を攝取し、惡道の苦を滅し、天人の樂に處し、永く三界を離れしめ、諸の功德を具して、種種の方便をもつて之を化度し、歡喜すること無量なり。

【二四】次に境界の問を答ふ。

〔二四〕復た次に善男子よ、我常に菩薩大海を觀察するに、種種の願行、種種の淨身、種種の淨光、種種の光炎あり、種種諸の道は薩婆若に趣き、種種の三昧海に入り、種種の自在神力を顯現し、種種の妙なる音聲海を出生し、種種の妙莊嚴身は種種の方便をもつて如來海に入り、種種の諸佛の刹海に往詣し、種種諸の如來海を究竟し、深く種種諸の辯才海に入り、普く種種なる如來の境界を照

し、種種諸の智慧海を成就し、種種の三昧印海を超度し、種種なる遊戲の法門に安住し、種種の門を以て薩婆若に趣き、種種に虛空法界を莊嚴し、種種なる莊嚴の雲は普く虛空を覆ひ、種種諸の大衆海と、十方世界の一切刹の中の諸の如來の所の菩薩眷屬とを觀察し、普く種種の妙莊嚴の雲を雨らし、皆悉く來會して種種の莊嚴の座に安處し、深く如來の方便大海に入り、諸の法海を行じ、種種の智海に度る。我此を見已りて、無量の歡喜を起して佛の力と等し。又善男子よ、盧舍那佛の不可思議なる清淨の色身は、相好莊嚴したまふ、我此を見已りて、無量の歡喜を起せり。盧舍那佛は念念の中に於て法界に等しき光を放ち、普く一切諸の法界海を照したまふ。我是を見已りて、無量の歡喜を起せり。盧舍那佛は念念の中に於て、一一の毛孔より無量の佛刹微塵に等しき光を放ち、一一の光明に無量の佛刹微塵に等しき光有りて以て眷屬と爲し、普く一切を照して法界に充滿し、衆生の一切の苦惱を除滅したまふ。我是を見已りて無量の歡喜を起せり。盧舍那佛は念念の中に於て頂の上、兩肩の上より、一切の佛刹微塵に等しき寶光山雲を放ち、普く一切を照して法界に充滿したまふ。我是を見已りて、無量の歡喜を起せり。盧舍那佛は一一の毛孔より、一切の佛刹微塵に等しき香雲を放ち、普く十方一切の佛刹に熏じたまふ。我是を見已りて無量の歡喜を起せり。盧舍那佛は一一の相の中より、一切の佛刹微塵に等しき相を出だし、一切諸の世界海に充滿したまへり。我是を見已りて、無量の歡喜を起せり。盧舍那佛は一一の毛孔より、一切の佛刹微塵に等しき自在力雲を

出だしたまひ、初發心等の淸淨の波羅蜜は、菩薩の諸地を莊嚴せり。我是を見已りて無量の歡喜を起せり。盧舍那佛は一一の毛孔より、念念に不可說不可說の佛刹微塵に等しき諸の龍王身を出生したまふ、龍身を見て化を受くるものの爲めの故なり。又不可說不可說の佛刹微塵に等しき諸の夜叉身・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽等の身を出したまふ、彼の身を見て化を受くるものの爲めの故なり。我是を見已りて無量の歡喜を起せり。盧舍那佛は一一の毛孔より、不可說不可說の佛刹微塵に等しき轉輪王の身雲を出だし、七寶成就し、神力自在にして法界に充滿したまふ、彼の身を見て化を受くるものの爲めの故なり。我是を見已りて、無量の歡喜を起せり。盧舍那佛は一一の毛孔より、不可說不可說の佛刹微塵に等しき梵王の身雲を出だし、淨き梵音を出だし、衆生の爲めに法を說く、彼を見聞して化を受くるものの爲めの故なり。我是を見已りて、念念の中に於て無量の歡喜を起し、悉く法界の薩婆若と等し。起る者も起るに非ず、得る者も得るに非ず、見る者も見るに非ず、入る者も入るに非ず、度る者も度るに非ず、滿つる者も滿つるに非ず、聞く者も聞くに非ず。何を以ての故に、法界の性を分別し了知するが故に、三世の法は悉く一性なりと解るが故なり。佛子よ、此の菩薩の無量歡喜莊嚴の法門には、是の如き等の無量の境界有り。

【三五】次に第三問に答へて法門の善巧方便を明かす。

(三五)佛子よ、此の法門は無量無邊なり、方便諸法海を究竟するが故に。此の法門は損減す可からず、

薩婆若の心は壞す可からざるが故に。此の法門は窮盡す可からず、衆生の妄想は盡す可からざるが故に。此の法門は最も爲甚深なり、寂靜智の境界なるが故に。此の法門は最爲廣大なり、一切の佛の境界なるが故に。此の法門は破壞す可からず、菩薩智の知る所なるが故に。此の法門は稱量す可からず、破壞す可からずして法界に滿つるが故に。此の法門は卽ち是れ普門なり、一相の中に於て一切の自在力を攝取するが故に。此の法門は是れ第一法なり、一切の法は身無く行に二無きが故に◎此の法門は生に非ず、一切の諸法は悉く幻の如くなるが故に。此の法門は電の如し、薩婆若の諸の大願を攝するが故に。此の法門は化の如し、善能く菩薩の行を變化するが故に。此の法門は大地輪の如し、一切諸の衆生を饒益するが故に。此の法門は大水輪の如し、廣大の悲を以て衆生を潤すが故に。此の法門は大火輪の如し、衆生の諸の貪愛を消竭する故に。此の法門は大風輪の如し、一切衆生を薩婆若に立つるが故に。此の法門は猶ほ大海の如し、功德をもつて一切の衆生を莊嚴するが故に。此の法門は須彌山の如し、一切の功德海中に起るが故に。此の法門は大城郭の如し、一切法の街巷にて莊嚴するが故に。此の法門は猶ほ虛空の如し、三世諸佛の自在最も無上なるが故に。此の法門は猶ほ慶雲の如し、普く衆生に甘露の法を雨らすが故に。此の法門は猶ほ白日の如し、普く一切を照して癡闇を滅するが故に。此の法門は猶ほ滿月の如し、衆生の功德海を滿足するが故に。此の法門は如の如し。一切に至るが故に。此の法門は影の如し、善能く諸の業報に應化するが故に。此の法門は

響の如し、其の所應に隨ひて爲めに法を說くが故に。此の法門は猶ほ電光の如し、其の所應に隨ひて悉く照知するが故に。此の法門は猶ほ樹王の如し、一切諸佛の功德の妙華は一切智の果實を成就するが故に。此の法門は猶ほ金剛の如し、一切世間能く壞する無きが故に。此の法門は隨意の寶王の如し、無量の自在力を出生するが故に。此の法門は離垢寶の如し、悉く分別して三世の佛を知るが故に。此の法門は猶ほ寶幢の如し、一切の佛の平等法輪、妙なる音聲を出すが故に。佛子よ、此の如きの諸の喩は喩に非ざるを喩と爲せるなり。』

【二六】次は再び問を擧げて、第四の法門の所因を明かす。

【二六】爾の時に善財、寂靜音夜天に白して言さく、『菩薩は何等の法を修してか此の法門を得たまへる。』

答へて言はく、『佛子よ、菩薩は十の妙法を修行するが故に此の法門を得たり。何等をか十と爲す。所謂る、菩薩は布施を修行して、一切の衆生海をして皆悉く歡喜せしめ。淨戒を修行して、諸佛の功德の大海に成滿し。忍辱を修行して、一切諸法の眞性を了知し。精進を修行して、薩婆若に於て堅固にして退かず。禪定を修行して、一切衆生の煩惱を除滅し。智慧を修行して、一切の法海を分別し、了知し。方便を修行して、一切の衆生海を教化し成就し。大願を修行して、一切の佛刹海に於て、未來劫を盡して菩薩の行を修し。諸力を修行して、念念の中に於て一切の刹に現じて等正覺を成じ。無盡智を修行して、三世の法を了知し障礙する所無し。佛子、是を十の妙法と爲す。菩薩摩訶

薩は此の法を修行し、此の法門を起し、此の法門を得、此の法門を淨め、此の法門を成じ、長養し增廣して沮壞す可からざるなり。

(二七)善財白して言さく、『天神よ、阿耨多羅三藐三菩提心を發してより爲めて久如しきや。』

答へて言はく、(二八)『佛子よ、乃し往古の世、二佛刹微塵に等しき劫を過ぎて、劫有り普照幢と名けき。此の蓮華藏莊嚴世界海の東に於て、十世界海を過ぎて、一世界海有り、名けて離垢、衆寶を莊嚴と曰へり。彼の世界海の中に世界性有り、一切佛光明願音と名けたり。

彼の世界性の中に一世界有り、離垢光金色莊嚴と名け、一切の寶雲にて之を莊嚴し、衆寶を地と爲し、堅固にして動せず、形は一切香妙德王の莊嚴せる樓閣の如く、皆悉く淸淨にして、諸天の宮殿其の中に充滿せり。

【二七】以上業用を明かし竟り、以下法根の淺深を示す。

【二八】初に過去の普照幢劫の中の發心修行を知ることを明かす。

彼に王都有り、名けて普滿妙德藏王と曰ひ、彼に道場有り、一切衆寶莊嚴藏月光明と名け、其の佛を不退法界妙音と號け、此の道場に於て、阿耨多羅三藐三菩提を得たまひき。我爾の時に於て、菩提樹神と爲り、功德燈無量光幢と名けたり。我彼の佛の等正覺を成じ、無量の自在神力を顯現したまふを見て、我爾の時に於て阿耨多羅三藐三菩提心を發し、彼の佛の所に於て三昧を逮得し、普照佛功德海と名けたり。彼の道場の上に、次に如來有して、世に出興したまひ、法樹功德山と名けたり。彼の菩提樹神、命終の後に、還りて此の處に生れ、菩提樹夜天と爲りて、妙德慧功德光明と名け、彼の如

來の正法輪を轉じたまひしを聞き。復た無量の歡喜を得て、普く一切の境界三昧を照せり。彼の道場の上に、次に如來有して世に出興したまひ、一切法海妙音聲王と號け、彼の如來に値ひたてまつりて、復た三昧を得、成就一切法地と名けたり。彼の道場の上に、次に如來有して世に出興したまひ、寶光燄燈幢王と號け、彼の如來に値ひたてまつりて、復た三昧を得、分別一切普照雲と名けたり。彼の道場の上に、次に如來有して世に出興したまひ、功德須彌光王と號け、彼の如來に値ひたてまつりて、復た三昧を得、照諸佛海と名けたり。彼の道場の上に、次に如來有して、世に出興したまひ、法雲妙音聲王と號け、彼の如來に値ひたてまつりて、復た三昧を得、一切法海燈と名けたり。彼の道場の上に、次に如來有して世に出興したまひ、智慧燈明淨燈王と號けたり。時に我は天女と爲りて、彼の如來に値ひたてまつりて、復た三昧を得、明淨燈滅衆生苦と名けたり。彼の道場の上、次に如來有して世に出興したまひ、法勇幢妙德と號け、彼の如來に値ひたてまつりて、復た三昧を得、三世佛普照藏と名けたり。彼の道場上に、次に如來有して復た三昧を得、明淨智普照一切無所障礙と名けたり。彼の道場上に、次に如來有して世に出興したまひ、智力山王と號け、彼の如來に値ひたてまつりて復た三昧を得、普照三世衆生根行と名けたり。佛子よ、彼の普照幢劫の離垢光金色莊嚴世界に、是の如く次第に十佛世界微塵に等しき如來有して、世に出興したまひ、我爾の時に於て、或は天王・龍王・夜叉王・乾闥婆王・阿修羅王・迦樓羅王・緊那羅王・摩睺羅伽王と爲り、或は人王・梵王・男子女

人・童男童女と爲りて皆悉く彼の一切の如來に値ひたてまつりて、恭敬し供養し、彼の佛の說法を悉く聞きて受持せり。(二九)彼の佛刹に於て二佛世界微塵に等しき劫に、菩薩の行を修し、佛刹微塵に等しき受生を經たり。

(三〇)最後に命終して、此の蓮華藏莊嚴世界海の娑婆世界の中に生れ、道場夜神と作りて、拘樓孫如來に値ひたてまつり、三昧眼を得、離垢一切香王光明と名けたり。次に拘那含牟尼如來に値ひたてまつりて復た三昧を得、隨順普照一切刹海と名けたり。次に迦葉如來に値ひたてまつりて復た三昧を得、妙音聲海分別一切衆生音海と名けたり。今復た盧舍那佛、道場に坐し、菩藏樹の下に等正覺を成じ、念念の中に於て無量の自在力海を顯現したまふに値ひ見えて、復た菩藏の無量歡喜莊嚴の法門を得たり。法門を得已りて、深く十不可說不可說の世界海微塵に等しき法界方便海に入れり。此の法界方便海を以て、一切の佛刹微塵に於て、一一の微塵の中に、悉く十方不可說不可說の佛刹に等しき世界、及び彼の諸佛を見たてまつり、彼の諸の如來の說きたまふ所の正法を悉く聞きて受持せり。又盧舍那佛は、念念の中に於て、一切世界の道場に坐して、等正覺を成じたまひ、無量の自在神力を出生し、一一の神力は法界海に滿つるを見たてまつりて、我悉く彼に詣でて說きたまふ所の正法を悉く聞きて受持せり。又復た彼の一切の諸佛、一一の毛孔より化身海を出して、法界海に

【二九】次に佛世界塵數劫の修行を明かす。

【三〇】次に此の賢劫の中に於て、修行して法を得しことを明かす。

無量の諸の劫海に、菩薩の行を修習し、心淨きこと虚空の如くして、一切智藏に入れり。
三世佛の法を聞き、一心に樂ひ專ら求め、彼の如來の所に於て、諸の功德を修習せり。
我過去の佛を見たてまつりて、恭敬して悉く供養し、佛の正法を說きたまひしを聞きて、歡喜の心無量なりき、
亦已に悉く恭敬して、父母を供養し。一心に樂ひ專ら求めて、此の法門を究竟せり。
老病貧窮等、諸根の具はらざる者には、彼の苦惱を除滅して、悉く安樂を得しめ、
水火官賊の難、怨敵諸の恐怖、及び海中の諸難は、我皆之を救濟す、
衆生の煩惱業、種種の受報の苦も、生死の山を摧破して、諸の群生を救護す、
一切諸の惡道、無量なる楚毒の苦、生・老・病・死の痛も、我當に悉く除滅すべし。
我願くは無量劫に、一切の衆を安隱にし、常に一切の佛を見たてまつり、生死の苦を滅除せん。』

『善男子よ、我唯此の無量歡喜莊嚴の法門を成就せるのみ。諸の大菩薩は、深く法海に入りて、一切劫を分別し、善く一切諸の世界海の成敗の事を知れり。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り、能く說くべき。

（三三）善男子よ、此の道場の上の如來衆の中に、一夜天有り名けて妙德守護諸城と曰ふ。汝彼に詣

【三三】第六現前地の善友を明かす。

でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』
爾の時に善財、寂靜音夜天を讃歎せんとして、偈を以て頌して曰はく、
『我知識の教を受け、來りて天神の所に詣で、無量の淨身を見たてまつる、天寶の座に安處したまふ。
虚妄に諸相を取り、一切法に染著する、無智の衆生等は、境界を知ること能はず、
清淨の妙色身は、一切諸天の衆、無量劫に諦觀するも、其の心厭き足ること無し、
五陰を遠離して、一切著する所無く、世の疑惑を超出して、自在力を顯現す、
内外の法に染まず、無礙の心動ぜず、明淨なる智慧の眼をもつて、佛の自在力を見たてまつる、
身は爲正法藏、心は是れ無礙の智なり、佛の智慧光を成じて、普く諸の群生を照す、
分別して心業を說き、諸の世閒を莊嚴し、心業の自性を知り、身を現ずること衆生に等し。
世は悉く夢の如きを知り、佛は電光の如く、一切の法は響の如しと了り、衆をして著する所無からしむ、
念念に悉く、三世の衆生の惑を除滅し、三世の相を取らずして、而も能く法を演說したまふ、
一切の佛刹海と、一切の諸佛海と、無量の衆生海とに、著すること無く法門を修す。』
時に善財童子は、頭面に彼の夜天の足を敬禮し、繞ること無數帀、敬心して辭退せり。

# 巻の第五十五

## 入法界品第三十四の十一

爾の時に善財童子は、正念に思惟し智慧をもつて分別し、隨順して正しく趣き、廣身を修し、無量の歡喜をもつて莊嚴せる法門を證し、往きて妙德守護諸城夜天の所に詣でて、彼の夜天を見たてまつるに、普照一切宮殿の寶師子の座に處したまひ、不可說の諸天の眷屬に圍繞せられ、隨方面の身、一切衆生色の身、普く一切衆生の前に現ずる身、一切衆生無所著の身、一切衆生身の身、一切衆生の無上身、隨順して一切衆生を敎化する身、十方に遊ぶ身、一切十方に至る身、究竟の佛身、究竟して一切衆生を敎化する身あり。善財此の身を見已り、歡喜すること無量にして、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、恭敬し合掌して、一面に於て住し、白して言さく、

「天神よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の道を學び、衆生を饒益し、無上の攝法を以て衆生を攝取し、如來の業に順ひ、法王に親近するやを知らず。」と。

時に彼の夜天、善財に告げて言はく、

『善い哉善い哉、佛子よ、一切衆生を救護せんが爲めの故に、菩薩の行を問へり。一切の佛刹を嚴淨し、一切の佛を供養し、一切劫に住し、一切衆生を救護し、一切如來の種姓を守護し、十方一切の法界海の平等の心を究竟して一切に充滿し、一切諸佛の轉じたまふ所の法輪を、悉く聞きて受持し、其の所應に隨ひて甘露の法を雨らさんが爲めの故に、菩薩の行を問へり。

(一)善男子よ、我已に甚深妙德自在音聲の法門を成就せり。(二)是の故に、佛子よ、我は爲勝れたる大法師にして、罣礙する所無く、一切法に於て心に著する所無く、如來の一切法藏を分別し、如來の大慈大悲に安住し、衆生を菩提心に建立して、一切の利を得、菩提心を捨てず、一切の善根を長養せしむ。一切衆生の調御の大師と爲る、衆生を一切智道に安立せんが故に。一切の世界に於て明淨の日と爲る、一切衆生の無量の善根を照すが故に。等心に一切衆生を觀察して、一切の衆生を捨てず、一切の善根を出生し長養せしめ、甚深の智慧をもつて淨爾炎を觀じ、一切不善の業を斷ち、諸の善業を行ぜしめ、衆生を救護して、一切諸佛の世界を顯現し、修行して諸の本事業を嚴淨し、一切衆生を淸淨の善根に立て、一切諸の善知識に値はしめ、能く壞る者無く、一切衆生を佛の正教に立たしむるが故なり。佛子よ、我常に法施を以て首と爲し、諸の白淨の法を出生し長養し、一切智の心堅固にして動ぜず、金剛藏の如く沮壞す可からず、心常に佛力・魔力・善知識力に依止し、心一切諸の結業の山を破し、心能く專ら一切智の

【一】以下正しく己が法界を示す。

【二】次は業用を明かす。

圓滿なる、白淨の法、無礙の法門の、一切種智を求めたり。佛子よ、我是の如きの智慧光明を以て、諸の衆生を淨め、無量の善法をもつて一切を饒益す。◎

㊂復た次に、佛子よ、我十行を以て法界を觀察し、法界に隨順し、法界を攝取す。何等をか十と爲す。所謂る、法界の無量なるを知る、智慧無量なるが故に。法界の無量無邊なるを知る、悉く一切諸の如來を見たてまつるが故に。佛の法界の無量無邊なるを知る、一切刹に詣でて一切の佛を恭敬し供養したてまつるが故に。法界の分齊無きを知る、一切の世界海に於て菩薩の行を行ずるが故に。法界の壞す可からざることを知る、如來の沮壞す可からざる圓滿智を究竟ずるが故に。法界は一なることを知る、如來の妙音は一切の衆生聞かざること無きが故に。法界は自然に淸淨なることを知る、一切衆生を敎化して、佛の願を滿ずるが故に。法界は徧く衆生に至ることを知る、深く普賢菩薩の行に入るが故に。法界の一切莊嚴を知る、普賢菩薩の行は自在に莊嚴するが故に。法界は滅す可からざるを知る、一切智の善根は法界に充滿して諸の衆生をして悉く淸淨ならしむるが故に。佛子よ、我此の十行を以て法界を觀察し、善根を增長し、佛の奇特の境界の不可思議なることを知る。◎

㊃佛子よ、我是の如く正念に思惟して、一萬の陀羅尼を以て衆生の爲めに法を說く。所謂る、一切諸法を攝取する圓滿陀羅尼、一切法を持する圓滿陀羅尼、一切法雲の雷震する圓滿陀羅尼、諸佛の起住圓滿陀

【三】以上は總說にして、以下は別して辨ず、中に四段あり初に甚深の義を釋す。

【四】二に妙德の義を釋す。

羅尼、一切の佛の名號輪を轉ずる圓滿陀羅尼、三世諸佛の大願海を分別し演說する圓滿陀羅尼、一切乘海を攝する圓滿多羅尼、一切衆生の業海を照す燈藏圓滿多羅尼、一切法現前して旋流勇猛なる圓滿陀羅尼、一切智の勇猛なる圓滿陀羅尼なり。是の如き等の萬の陀羅尼を以て、一切衆生の爲めに分別して法を說く。（五）復た次に、佛子よ、我或は衆生の爲めに聞慧の法を說き、或は衆生の爲めに思慧の法を說き、或は衆生の爲めに修慧の法を說き、或は一有を說き、或は一切有海を說き、或は一佛海を說き、或は一切佛の名號海を說き、或は一世界を說き、或は一切の世界海を說き、或は授一記を說き、或は授一切記海を說き、或は一佛の眷屬海を說き、或は一切佛の眷屬海を說き、或は一佛の法輪を說き、或は一切佛の法輪海を說き、或は一修多羅を說き、或は一切佛の修多羅海を說き、或は一會を說き、或は一切會海を說き、或は一薩婆若心を說き、或は一切の菩提心海を說き、或は一乘を說き、或は一切乘海を說く。（六）佛子よ、是の如き等の無量の方便を以て、諸の衆生の爲めに、不可說不可說の法を敷演す。佛子よ。我深く此の無壞の法界に入りて、皆悉く如來の正法を究竟じ、無上の法施を以て衆生を攝取し、未來劫を盡して普賢菩薩の所行を修習す。佛子よ、我已に此の甚深妙德自在音聲の法門を成就して、念念の中に於て悉く能く一切の法門を長養して法界に充滿せり。

（七）爾の時に善財、夜天に白して言さく、『妙なる哉、天神よ、此の如きの

【五】三に自在音聲の義を釋す。
【六】四に總結。
【七】次に得法の久遠なること

法門は最も爲甚深なり。此の法門を得たまひて其已に久如きや。」と』

答へて言はく、『佛子よ、乃し往古の世に、轉世界の微塵に等しき劫を過ぎて、劫有り離垢光明と名け、時に世界有り法界妙德雲と名け、四天下の微塵に等しき香須彌山有りて莊嚴し、蓮華の中に於て、一切の佛の妙願の音聲を出だせり。一切衆生の淨業の起す所なり。衆寶合成し、形蓮華の如く、淸淨無垢にして、須彌山微塵に等しき衆の妙寶樹有りて周帀圍繞し、須彌山微塵に等しき衆の妙寶香有り以て莊嚴を爲せり。須彌山微塵に等しき諸の四天下の莊嚴世界有り。一の四天下に、各不可說不可說の城有り、彼の世界の中に四天下有り、莊嚴幢と名け、彼の四天下に王の都城有り、普寶華光と名け、彼の城外に於て道場有り、法王宮殿光明と名け、其の道場の上に須彌山微塵に等しき佛有して、世に出興したまひき。其の最初の佛を法海雷音光明王と號けたてまつる。時に轉輪王有り、離垢光明と名け、彼の佛の所に於て正法を守護し、正法の修多羅海を聞持し、佛の滅度の後に出家學道せり。正法滅せんと欲して、大劫の中に於て惡劫の起ること有り、煩惱熾盛にして、衆生は恚怒し、忿毒し、交諍し、諸の比丘衆は功德の利に背き、心放逸を樂ひ、常に王論、賊論、女論、國論、海論、世間の論を好み、是の如き等の種種の諸論を樂へり。時に王比丘は是の如きの念を作さく、「如來は無量阿僧祇劫に妙法を修習したまへり、云何んぞ此の諸の比丘は而も共に毀滅するや」と。彼の王比丘、卽ち虚空に昇りて大光明雲を放ち、無量種の色は普く十方一切の

を示して、法根の淺深を明かす。

世界を照し、一切衆生の煩惱を除滅して、無量の衆生を無上菩提に立てしめ、復た正法をして六萬五千歳に於て興盛なるを得しめたり。時に比丘尼有り法輪化光と名けたり。是れ彼の轉輪王の女にして、十萬の比丘尼を以て眷屬と爲せり。父王比丘の光明神變を見て、卽ち阿耨多羅三藐三菩提心を發し、一切佛の燈明三昧と甚深の妙德自在音聲の法門とを得たり。得已りて身心柔輭にして、法海雷音光明王佛の神力自在と、一切の功德とは悉く現じて前に在りき。

佛子よ、時の轉輪王の彼の如來に隨ひて、正法輪を轉じ、法を興隆せし者は、豈異人ならんや、今の普賢菩薩摩訶薩是なり。法輪化光比丘尼は、我が身是なり。我爾の時に於て佛法を守護し、十萬の比丘尼衆を建立して、不退轉の地を得しめ、又一切如來の法門三昧と、法輪光明三昧とを攝取せしめ、又復た一切法海に入る方便般若波羅蜜を建立せしめたり。

佛子よ、次に如來有して世に出興したまひ、離垢法山と名け、我値遇したてまつることを得たり。次に如來有して法圓滿光明周羅と名け。次に如來有して法日妙德雲と名け。次に如來有して法海分別妙音聲王と名け。次に如來有して法日圓滿燈と名け、次に如來有して法化幢雲と名け。次に如來有して法炎山幢王と名け。次に如來有して甚深法妙德月と名け。次に如來有して法智普光明藏と名け。次に如來有して普智境界覺悟衆生と名け。次に如來有して妙德山王と名げ。次に如來有して普門普現須彌山と名け。次に如來有して一切法精進幢と名け。次に如來有して寶華妙德雲と名け。次に如來有

して寂靜甚深光明周羅と名け。次に如來有して法炎大慈光明月と名け。次に如來有して光炎明德海と名け。次に如來有して智慧日普照一切と名け。次に如來有して圓滿普智と名け。次に如來有して無上智覺明王と名け。次に如來有して功德炎華燈と名け。次に如來有して智慧師子幢王と名け。次に如來有して普日光明王と名け。次に如來有して須彌相莊嚴と名け。次に如來有して勇猛日普光明と名け。次に如來有して法網覺妙德月と名け。次に如來有して法蓮華敷善德妙音と名け。次に如來有して相日普光明と名け。次に如來有して普光妙德正法音聲と名け。次に如來有して無畏妙德那羅延師子と名け。次に如來有して普智健幢と名け。次に如來有して敷法蓮華身と名け。次に如來有して功德華妙法海と名け。次に如來有して道場覺妙德月と名け。次に如來有して法炬妙德月と名け。次に如來有して普照光明周羅と名け。次に如來有して法幢燈と名け。次に如來有して妙德海幢雲と名け。次に如來有して名稱山妙德雲と名け。次に如來有して栴檀妙德月と名け。次に如來有して明淨普妙德華と名け。次に如來有して普照衆生光明王と名け。次に如來有して鉢頭摩藥妙功德藏と名け。次に如來有して香炎光明王と名け。次に如來有して鉢頭摩因と名け。次に如來有して明淨相山と名け。次に如來有して普稱功德幢と名け。次に如來有して普門光明須彌山と名け。次に如來有して妙德法城光明と名け。次に如來有して明淨功德山と名け。次に如來有して勝相妙德と名け。次に如來有して法力勇猛幢と名け。次に如來有して法輪光明妙音と名け。次に如來有して功德光炎樓閣智光と

名け。次に如來有して無上妙法輪月と名け。次に如來有して明淨法鉢頭摩覺幢と名け。次に如來有して寶鉢頭摩光藏と名け。次に如來有して寶尸棄雲燈と名け。次に如來有して智覺華と名け。次に如來有して種種炎妙德須彌山藏と名け。次に如來有して圓滿炎妙德王と名け。次に如來有して功德雲莊嚴光明と名け。次に如來有して法山雲幢と名け。次に如來有して普明淨功德山と名け。次に如來有して法日雲燈王と名け。次に如來有して法雲名聲自在王と名け。次に如來有して法圓滿雲と名け。次に如來有して善覺明淨智幢と名け。次に如來有して法圓滿善覺妙德月と名け。次に如來有して金色山賢法と名け。次に如來有して明淨賢妙德須彌山と名け。次に如來有して普智慧雲妙聲と名け。次に如來有して法力妙德樓閣と名け。次に如來有して香餤妙德王と名け。次に如來有して金色摩尼山妙聲と名け。次に如來有して白毫藏一切法圓滿光明と名け。次に如來有して明淨法輪と名け。次に如來有して無上清淨尸羅山と名け。次に如來有して普精進炬光照雲と名け。次に如來有して廣三昧海天冠光明と名け。次に如來有して寶餤妙德王と名け。次に如來有して法炬寶帳妙聲と名け。次に如來有して法雲空光明師子と名け。次に如來有して、相好莊嚴幢月と名け。次に如來有して光明炎山電雲と名け。次に如來有して無礙虛空法光と名け。次に如來有して樂智華敷と名け。次に如來有して世間主光明妙聲と名け。次に如來有して法三昧光明妙音と名け。次に如來有して法音眞實藏と名け。次に如來有して法光明炎妙聲海と名け。次に如來有して普照三世相幢と名け。次に如來有して法圓

滿山光明と名け。次に如來有して法界師子光明と名け。次に如來有して法界師子炎と名け。次に如來有して明淨妙德須彌山と名け。次に如來有して一切三昧海師子と名け。次に如來有して普智光明燈と名けたり。

佛子よ、離垢光明劫の中に於て、是の如き等の須彌山微塵に等しき如來世に出興したまへり。其の最後の佛を法界城明淨智燈と名けたてまつる。彼の諸の如來を我悉く恭敬し供養して、法を聞きて受持し、出家學道して、佛法を守護し、彼の諸佛の所に於て種種の方便をもつて、此の甚深の妙德自在音聲の法門に入り、種種の方便を以て衆生海を化せり。

復た次に佛子よ、復た佛刹微塵に等しき劫の中に諸佛有して世に出でたまひ、我亦皆悉く恭敬し供養したてまつれり。是の故に、佛子よ、一切衆生は長く生死に寢むるも、唯我のみ獨り覺めたり。復た能く一切の衆生を覺悟し、心の城を守護して、三界の城を離れ、一切智無上法の城に入らしめむ。

善男子よ、我唯此の甚深の妙德自在音聲の法門を成就して、衆生の兩舌の口過を除滅し、淨實に語らしむるのみ。諸の大菩薩は、衆生の諸の語言道を決了し、一念の中に於て一切衆生の心を覺悟し、深く衆生の語言音海に入り、善く衆生の施設する語法を知り、一切の法海を分別し了知して、深く入りて一切諸法の陀羅尼海を攝取して善巧方便をもつて衆生の爲めに一切の法雲を出だし、究竟じて一切衆生を度脫し、衆生を攝取して無上業を立てしめ、淨智に隨順して業藏を分別し、能く師子吼して、

一切に法施し、諸法地圓滿陀羅尼を得しむ。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り、能く說くべき。

【八】第七遊行地の善友を明かす。

(八)善男子よ、此の佛の衆中に一夜天有り、開敷樹華と名く、汝彼に詣で問へ、「云何んが菩薩は一切智を學び、衆生を薩婆若に安立せしむるや」と。』

爾の時に妙德守護諸城夜天、重ねて此の法門の義を明さんと欲して、偈を以て頌して曰はく、

『佛子よ、深き法門は、虛空如如の性にして、三世の佛の、無量なる諸の法界を分別す、
無量の門、不思議の諸法を出生して、無礙の智を長養し、三世の法を了達す。
轉刹塵劫を過ぎて、劫あり離垢光と名け、世界は妙德雲、城は寶華光と名けき、
彼の劫に次第に、須彌の塵に等しき佛有せり、初の佛は法海、雷音光明王と號け、
後の佛は法界城、明淨智慧燈なり、我皆悉く供養したてまつりて、法を聞きて大いに歡喜せり。
法海雷音、光明王如來を見たてまつるに、衆の妙相に莊嚴せられたること、猶は須彌山の如し、
佛を見たてまつりて卽ち發心し、專ら一切智を求め、心の大なること虛空の如く、其の性は如如

に同じ、

三世に充滿する、諸佛菩薩の衆は、大悲の心をもつて普く、一切刹の衆生を覆ひたまひ、清淨の妙法身は、諸の佛刹に充滿し、其の所應化に隨ひ、悉く爲めに身を顯現し、我初發心の時に、一切刹を震動して、諸の群生を敎化し、悉く大いに歡喜せしめたり。次に第二佛に値ひたてまつりて、法を聞きて供養し、卽時に十刹海塵の佛を、覩見したてまつることを得たり、是の如く次第に、須彌の塵に等しき佛に値ひたてまつり、彼の一切諸の如來を、恭敬し供養し、法を聞きて悉く受持し、此の法門を逮得し、廣く一切の衆を度し、究竟じて彼岸に到らしめたり。轉刹の塵に等しき劫に、諸佛世に興出したまひ、我亦悉く彼に詣でて、恭敬し供養したてまつり、法を聞きて悉く受持し、此の法門を清淨にせり。』

爾の時に善財は、此の甚深の妙德自在音聲の法門を得て、菩薩の無量無邊の諸の三昧海に入り、無量無邊の陀羅尼海を出生して、菩薩の神通諸明の光曜を得、諸辯海に入りて一切の甚深法海を長養し、彼の妙德守護諸城夜天を讃歎せんと欲して、偈を以て頌して曰はく、

(九)『智慧の海成滿して、永く生死の海を度り、智慧藏を長養して、普く十方を照す、
內外の法は、皆悉く虛空の如しと了達して、無礙の淸淨の慧は、三世を究竟す、
念念に能く、無量にして邊有ること無き、一切諸の境界を分別して、心に著する所無し、
無量の大悲心をもつて、衆生海を度脫し、明淨なる智慧の眼をもつて、衆生の無性なるを了る。

深く佛の法海に入りて、其の源底を窮盡し、種種の巧方便をもつて、諸の群生を化度す、
普く一切法に於て、其の眞性を了達し、薩婆若を修習して、衆をして悉く淸淨ならしむ、
天は是れ調御師にして、一切智を究盡し、諸の法界に充滿して、法を說きて衆生を化したまふ、
盧舍那の願に順ひて、無礙に衆生を度し、至處の道に安住して、普く十方の佛を見たてまつる。
天の心は甚深にして妙なり、煩惱の熱を除滅して、淸淨なること虛空の如く、垢を離れて染著無し、
三世の、佛刹の諸の如來と、一切の菩薩衆と、一切群生の類とを攝取す。

【九】頌に十四偈あり、初の四は悲智甚深、次の四は度生廣大、次の二は障を離れて德を攝す、次の三は時衆の妄を除くことを見る、後の一は用佛果に同ず。

一念に分別して、刹那及び羅婆、晝夜・月・半月、乃至無量劫を知り、
十方の諸の群生、有色及び無色、有想無想等の、此に死し彼に生ることを知る、
一切衆の、虚妄顚倒の想を除滅し、善く語言の法を知り、菩提の道を顯現す。
盧舍那の願を出だして、一切の佛法海にいり、無礙の法身の心は、應に隨ひて衆生に現ず。』

時に善財童子、偈を以て彼の夜天を讃歎し已りて、頭面に足を禮し、繞ること無數帀、敬心し辭退せり。爾の時に善財童子、正念に甚深の妙徳自在音聲の法門を思惟し増廣して、往きて開敷樹華夜天の所に詣でたり。彼の夜天を見たてまつるに衆寶香樹樓閣の内に在して、寶樹の芽の師子の法座に處し、百萬の諸天眷屬に圍繞せられたまへり。爾の時に善財、頭面に彼の夜天の足を敬禮して、繞ること無數帀、恭敬し合掌して、一面に於て住し、白して言さく、

『天神よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せり。云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修し、薩薩若に趣くや。唯願はくは天神、我が爲めに解説したまへ。』

答へて言はく、〔一〇〕『善男子よ、我日沒に於て優鉢羅、鉢曇摩華皆悉く還り合す。若し諸の人衆の園觀に遊ぶ者は、縦逸を癈捨して其の家に歸る時、爲めに光明を放ちて、險しき徑に在る者には照して平かなる路を示し、彼をして專ら一切智の道を求めしめ、若し山巖・深水・曠野に於て、是の如き等

〔一〇〕以下己が法界を示す、中に於て、初に法の義を顯はす。

の種種の難處に在らば、悉く光を放ちて照し、衆苦を免れ安隱の樂を得しむ。又善男子よ、若し諸の衆生五欲に放逸なれば、其が爲めに生病死の苦を顯現して、悉く覩見して放逸を捨離し、善根を修習せしめ。慳貪の者の爲めには、布施を讃歎し。若し戒を犯す者には、淨戒を安立し。瞋恚の者の爲めには、大慈を讃歎して忍辱に安立し。若し懈怠の者には、教へて菩薩の精進を修行せしめ。若し亂心の者には、教へて諸禪の三昧を修習せしめ。若し愚癡の者には、其をして深く般若波羅蜜に入らしめ。小法を樂ふ者には、教ふるに大乘を以てし。三界に著する者には、菩薩の圓滿無著の諸波羅蜜に住せしめ。若し諸の衆生の功德羸弱にして、衆の結業に逼迫せらるるものの爲めには、菩薩の力波羅蜜に住せしめ、無智に順ふ者には、菩薩の智波羅蜜に住し、癡闇を捨離せしめん。◎善男子よ、(二)我已に無量の歡喜知足光明の法門を成就せり。』

(三)善財白して言さく、『天神よ、此の法門は境界云何ん。』

答へて言はく、『善男子よ、如來の方便光明は衆生を攝取したまふ。佛子、若し衆生有りて快樂を受ん者は、悉く佛力、諸の光明力を蒙らん。如來の教と佛の威神力とに隨ひ、佛道に隨順して佛の正法を聞き、佛の善根に入り、如來の圓滿なる明淨の智日と如來の性淨業力とは、普く一切を照し、悉く是の如きの功德力を蒙るが故に、普く衆生をして諸の快樂を受けしむ。◎佛子よ、我此の法門

【二】二に法の名を立つ。
【三】三に問を擧げて業用を明かす。

に入る時、正念に思惟して、深く盧舍那如來・應供・等正覺の過去に行じたまひし所の菩薩の行海に入れり。善男子よ、我れ菩薩本菩薩地の心を發せし時、諸の衆生の我我所に著し、無明に覆蔽せられて、諸の邪見に入り、貪愛に隨順して、欲恚に縛せられ、心亂れて顚倒し、慳嫉に纏はれ、貧窮に逼切せられ、生死の中に於て、衆の苦惱を受け、諸佛に値ひたてまつらざるを見んに、是の如きを見已りて、大悲の心を發して衆生を攝取し、諸の苦患を除きて普く之を饒益し、一切染著すること無き心を得しめ、諸の施物に於て果報を求めず、一切の因緣と、諸法の實相とを分別し了知して、大慈大悲の圓滿なる法蓋を具足し成就して、普く衆生を覆ひ、知足の法を以て智慧の力を養ひ、一切諸の煩惱の山を摧散して、衆生を安樂ならしめ、所應化に隨ひて甘露の法を雨らし、聖法の利を以て等しく衆生に施し、十力の果と、無上の快樂とを得しめ、菩薩の通力自在を成就して法界に充滿し、悉く一切諸の衆生の前に現じ、一切の物を雨らして悉く歡喜して其の意を充足せしめ、衆生を救護し、生死の苦を滅して、恩報を求めず、一切衆生の心寶を嚴淨し、悉く一切諸佛の善根に同じからしめ、薩婆若を增長し、一切の衆生を教化し成就し、無上の淨法を以て諸の佛刹を淨め、念念の中に於て一切の法界に滿ち、明淨の智を以て三世を分別して虛空に充滿し、一切時に於て淨法輪を轉じて衆生を教化し、諸の衆生をして一切智を生ぜしめ、諸持を清淨にし、一切諸佛の菩提を覺悟し、一切の未來の諸劫を分別して、一切劫に於て菩薩の行を行じ、心に二有ること無く、悉く能く徧く一

切の世界に遊び、其の身に一切の刹海を容受し、悉く能く一切の世界を攝取し、一切世界の種種の形色・種種の莊嚴・種種の依住を分別し解說し、或は不淨にして淨あり、或は淨にして不淨あり、或は純淸淨なるあり、或は純垢穢なるあり、或は廣或は狹なるあり、或は大或は小なるあり、或は覆ひたるあり、或は仰げるあり、是の如き等の諸の世界海の中に、菩薩の行を生じて菩薩の行を證し、念念の中に於て菩薩の諸の自在行を出生し、念念の中に於て衆生の爲めに三世諸佛の淸淨の法身を現じたまひしを知る。佛子よ、盧舍那佛は、過去世に於て菩薩の行を行じたまひし時、諸の群生を見るに、智の功德無くして愚癡に覆はれ、我我所に著して、無明に曀障せられ、正しく思惟せずして諸の邪見に入り、因果を識らずして煩惱の業に順ひ、聖道を修して無作の法を得ず、常に生死の險道に於て流轉し、種種の苦を受けたれば、大悲を發起して、諸の衆生をして菩薩の無量の諸行を出生し、一切諸の波羅蜜を修習し、堅固なる勝妙の善根に安立せしめ、衆苦を除滅して、功德の藏を長じ、因果を了知して業報に違はず、法の眞實を知りて、悉く分別して衆生の欲樂と、及び一切の刹とを知り、一切の佛法を守護し受持して、斷絕せざらしめ、不善の法を滅して薩婆若を滿せしめたまへり◎佛子よ、是の如き等の無量の法施を以て、衆生を攝取し、一向に薩婆若の法を求め、菩薩の諸波羅蜜を修行し、賢聖の利を具へ、薩婆若を長じ、善根海を滿じ、如來の無量自在を顯現せしむ。是の如き等の種種の方便を以て、衆生を攝取して、如來の無量の功德を顯現し、衆生を菩薩諸攝

の智慧に安立せしむ。』

(三)善財白して言さく、『天神よ、阿耨多羅三藐三菩提心を發したまひしより、其已に久如しきや。』

答へて言はく、『佛子よ、此の事知り難く、信じ難く、入り難く、說き難く、得難し。一切の諸天聲聞・緣覺の知る能はざる所なり。佛の神力をば除く。善知識に依りて善根を成滿し、正直心を淨めて、諂曲を遠離し、諸の染汚を滅して、普照智慧の光明を逮得し、衆生を哀愍し、諸魔を降伏し、煩惱の樹を拔きて、必ず一切種智を成就せんと欲し、生死の憂悲惱海を除滅して如來の樂を得、佛の功德精進の海に入りて佛地に安住し、如來の一切智力を滿足して十力を究竟する、是の如きの人は、乃ち能く信解し、能く知り、能く入り、能く說き、能く得ん。何を以ての故に、此は佛の境界にして、一切衆生、及び諸の菩薩の知る能はざる所なればなり。我當に佛の神力を承けて、衆生を調伏せんが爲めに、直心清淨に、廣く善根を修して甚深の心を得、此の法を樂ひ聞かん、是の如き等の爲めに其の所應に隨ひて分別し解說せん。』

爾の時夜天、重ねて此の義を明さんと欲して、三世の諸佛の境界を觀察し、偈を以つて頌して曰はく、

(四)『佛子よ、此の法門は、甚深なる佛の境界にして、不思の刹塵劫に、之を說くとも窮盡するこ

【三】四に法根の深きことを辨ず。

【四】頌に二十一偈半あり、初の一は境の甚深なることを擧げ、次の四は知ること能はざる人を明かし、次の十四頌半は能智の人を示し、次の二は勸學許說。

と無し。
貪欲・瞋恚・癡・高慢の衆生等は、皆悉く、最勝なる寂靜の法を知ること能はず、
慳嫉にして心諂曲、煩惱業に覆はるる者は、一切、甚深なる佛の境界を知ること能はず、
諸の陰入界に著し、及び吾我の見を起し、心の想見顚倒するものは、佛の境界を知らず、
清淨にして虚妄を離れたる、如來の深き境界をば、生死に依住する者は、皆悉く知ること能はず。

如來の家に出生して、諸佛常に守護したまひ、佛の法藏を奉持するものは、慧眼の境界なり、
善知識に親近して、白淨の法を滿足し、諸佛の力を究竟するものは、此の法を聞きて歡喜す。
心淨くして虚妄を離れたること、猶ほ虚空の性の如く、慧燈をもつて癡闇を除きたるものは、是れ彼の境界なり。
大慈悲心を以て、普く諸の衆生を覆ひ、等心に一切を觀ずるは、是れ彼の境界なり、
其の心大いに歡喜し、衆生の類を等觀して、一切を捨離するは、離垢の境界なり、
心を淨くして諸の惡を離れ、乃至微罪をも畏れて、諸佛の法に隨順するは、離垢の境界なり、
忍辱の法に安住して、其の心動ず可からず、實を知りて業に違はざるは、無盡心の境界なり、
勇猛に勤めて精進し、不退心に安住して、薩婆若を究竟するは、調伏の境界なり、

寂定心に入りて、煩惱の熱を除滅し、深く智慧海に入るは、寂靜起の境界なり、
群生の類と、諸法の眞實相と、深法の境界とを了達するは、是れ慧燈の法門なり。
衆生の性を覺悟して、諸の有海に著せず、普く一切の心を照すは、是れ導師の法門なり、
悉く三世佛の淸淨の願性より生じ、普く一切刹に於て、未來劫を窮盡し、菩薩の行を修習するは、是れ普賢の法門なり。
諸の方便海に入りて、徧く諸の刹海を觀じ、無礙の深智慧をもつて、悉く刹の成敗を知る、
一一の塵の中に、諸佛道場に坐して、成佛して衆生を化したまふを見たてまつるは、無礙眼の法門なり。
善財我が所に至り、善知識に親近して、此の甚深の法を聞き、精進し勤めて修習せよ。
此れ盧舍那の境にして、甚深にして思議し難し、我佛の神力を承けて、汝が爲めに分別して說かん。』

（三五）『佛子よ、乃し往古の世、世界海の微塵に等しき劫を過ぎて、一世界海有り、明淨山と名けき。彼に如來有して世に出興したまひ、智慧法界山諸方寂靜普照王如來・應供・等正覺と號けたてまつりき。彼の佛の菩薩爲りし時に、彼の世界海を淨めたまへり。彼の世界海の中に、佛刹の微塵に等しき世界

【三五】以下正しく發心の久近を說く、初に總じて時處等を擧ぐ。

性有り、彼の一一の世界性の中に、世界の微塵に等しき佛有して世に出興したまひ、一一の如來、世界の微塵に等しき修多羅を說き、一一の修多羅の中に、佛刹の微塵に等しき諸の菩薩に記を授け、如來の種種の神力を顯現し、無量の方便、種種の諸乘をもつて衆生を敎化したまひき。(二六)佛子よ、彼の世界海の中に一世界性有り、普門莊嚴と名け、彼の世界性の中に一世界有り、名けて一切寶色妙德普照と曰ひ、一切の寶華海を以て莊嚴と爲し、衆寶を體と爲し、狀は天城の如く、淸淨に嚴飾して、普く一切諸佛の道場を照し、諸佛の變化せる光明を顯現せり。彼の世界の中に須彌山の微塵に等しき四天下有り、彼の四天下の中に一四天下有り、寶山幢と名く、彼の四天下に閻浮提有り、縱廣十萬由旬なり。彼の閻浮提の內に十萬の大城有り、彼の諸城の中に一王都有り、堅固法莊嚴雲燈と名け、一萬の城有りて周布圍繞し、人壽は萬歲なりき。時に大王有り、一切法師子吼圓蓋妙音と名け、五百の大臣、六萬の彩女有り、七百の王子は端正にして勇健なり。爾の時に彼の王の威德は、普く一閻浮提を被ひて怨敵有ること無し。(二七)彼の大劫の中に惡劫の起る有りて五濁熾然なりき。爾の時に人民は十惡の業を行ひて、十善を遠離し、死しては惡道に入り、壽命は短促にして、形色は鄙陋に、貧窮下賤にして苦多く樂少く、更相諍訟し、互に相謗毀して、他の眷屬を離れ、深く邪見に入り、諸の貪著を以て非法を行ぜしが故に、風雨時ならず、卉木叢林・百穀苗稼・皆悉く枯稿せり。(二八)彼の時の

【二六】二に別して本處を擧ぐ。
【二七】三に惡劫起ること有るを明かす。
【二八】四に苦の人、救を王に求むることを明かす。

人民は饑饉に病み瘦せて、悉く王都に詣でて高聲に大呼せり。時に諸の人衆は無量無數に王城を圍繞して、或は兩手を擧げ、或は復た合掌し、或は天に號び地を扣き、或は身を擧げて自ら撲ち、或は右膝を地に著け、或は弊衣を著けて眼に光色無く、悲しき聲をもつて大いに叫び、咸大王に言さく、我等は今者大いに苦しむ、大いに苦しむ、飢渇・寒凍・疾病・危困して、歸依する所無く、救濟する者無く、牢獄に在るが如く、種種の苦に逼られ、轉た死路に趣く」と。是の如き等の無量の楚毒の悲聲を作して、上に訴へ、自の全濟と、安隱快樂とを求むらく、「大王は則ち是れ衆生の寶藏なり、清涼の池なり、善正の治法なり、大智大乘なり、大寶洲と爲りて眞實に利益し、能く衆生に天人の樂を與へたまへ」と。

（一九）時に彼の大王此の悲苦楚毒の音聲を聞きて、即ち百萬阿僧祇の大悲の法門を得、一心に思惟して、即ち十の大悲の語を發せり。何等をか十と爲す。所謂る、嗚呼痛しい哉、一切の衆生は底無き生死の深坑に墜ちて、歸依する所無し、我當に彼が爲めに歸依者と作りて、悉く如來の地を逮得せしむべし。哀れなる哉、衆生は煩惱の爲めに亂されて救濟有ること無し、我當に彼が爲めに救護者と作りて、悉く一切の善業を安立せしむべし。哀れなる哉、衆生は生老病死して、救護有ること無し、我當に彼が爲めに救護者と作りて、一切の身心の苦痛を除滅せしむべし。哀れなる哉、衆生は諸の恐怖有りて救護有ること無し、我當に彼が爲めに救護者と作りて一切智安隱

【一九】五に大悲の行を成ずることを明かす。

の處に住せしむべし。哀れなる哉、衆生は身見・疑の覆蔽する所と爲る、我當に彼が爲めに明淨の燈と作りて、普く一切を照し、明淨の智を現ぜしむべし。哀れなる哉、衆生は愚癡の爲めに覆はる、我當に彼が爲めに大明炬と作りて一切智正法の城を現ずべし。哀れなる哉、衆生は諸の慳嫉・諂曲・幻僞の爲めに其の心を濁亂せり、我當に彼をして悉く無上なる淸淨の法身を得しむべし。哀れなる哉、衆生は生死の長流の漂溺する所と爲る、我當に彼をして生死の海を度り、佛の彼岸に到らしむべし。哀れなる哉、衆生は生れてより盲瞽なり、我當に彼をして眞實の義を見しめ、一切の佛に同ぜしむべし。哀れなる哉、衆生は根調伏せず、我當に彼をして諸根を調伏し、障礙を除滅し、一切智を得しむべしと。時に彼の大王、是の如き等の十の大悲語を發して、鼓を撃ちて一切の衆生に宣令すらく、「安隱にして怖るること勿れ、汝の須むる所に隨ひて、我皆資給すべし」と。卽時に閻浮提の內の大小の諸城・都邑・聚落に班下して悉く庫藏を開くに、金銀・珍寶・衣服・肴膳・香華・瓔珞・牀席・被褥・宮殿・宅舍・諸の妙寶幢・夜光の寶幢・摩尼の寶幢・醫師湯藥あり、種種の諸器に衆の雜寶を盛り、諸の金剛の器に衆の妙香を盛り、種種の香器に諸の衣服を盛り、種種の車乘・旛綵・幢蓋あり。又復た鼓を撃ちて宣令すらく、「天下の一切の諸城・都邑・聚落は、今汝等に國土・城邑・聚落・妻子・頭目・齒舌・心肝・血肉・腸胃・手足、一切の肢節を施さん」と。時に城の東門外に大會の處有り、名けて明淨摩尼妙德と曰へり。其の地は平正にして、廣博淸淨、諸の雜穢無く、衆寶を地と爲し、雜寶

の華を散じ、熏ずるに衆香を以てし、一切の香雲は虛空に充滿し、寶樹圍繞し、無量の華網、及び諸の寶網は其の上に羅覆し、自然に無量億那由他の娛樂の音聲を演出せり。是の如き等の無量の珍妙有りて之を莊嚴せり、皆是れ菩薩の淨業の果報なり。彼の會中に於て王の住する所の處は、十寶を地と爲し、十寶の欄楯、十種の寶樹ありて周帀圍繞し、形色は金剛のごとくにして沮壞す可からず、衆寶をもつて莊嚴し、諸の寶旛を懸け、白淨の寶網、金鈴の寶網、衆華の寶網、摩尼の寶網、雜衣の寶網、其の上に羅覆し、熏ずるに名香を以てし、自然に無量の微妙なる歌頌の音聲を演出せり。時に彼の大王師子の座に處して、端嚴殊妙にして大人の相を具し、肢節周備し、那羅延身も沮壞す可からず。王姓の中に生れ、正を以て國を治め、財と法とに於て、悉く自在を得、功德無量にして命に違ふ者無く、衆妙の寶蓋を以て其の上に覆ひ、其の蓋は常に無量の光明を出だして、閻浮金色なり、覆ふに淨妙なる摩尼の寶網を以てし、金寶の諸鈴は和雅の音を出だして善行を宣揚せり。爾の時に閻浮提內の無量阿僧祇の衆生は、悉く來りて歸命し、大王を讃めて言はく、「王は是れ智人なり、天下の第一なり、功德は須彌のごとく、功德の明淨なること猶ほ滿月の如し、菩薩の心を得て衆生を等觀し、普く一切に施したまふ」と。時に王、見已りて歡喜すること無量にして、彼の大衆に於て大悲の心・善知識の心を發し、求むる所の者に隨ひて悉く充足せしめ、之を攝取せり。時に王卽ち無量の快樂を得、釋提桓因より、乃し化自在天王に至るまで、無量百億那由他劫に受る諸の快樂も及ぶ

こと能はざる所なり。他化自在天王の不思議劫に受る諸の快樂も、亦及ばざる所なり。大梵天王の不可思議劫に梵住の樂に住するも、亦及ばざる所なり。乃至淨居天の無分齊の劫に寂靜の樂に住するも、亦及ばざる所なり。復た次に善男子よ、譬へば人有り、仁慈至孝にして、世事の難に遭ひ、父母に違離し、年歳を經歴して、後忽ち遇會し、親の顏を瞻奉し、忻慰踊悅して、自ら勝ゆる能はざるが如し。時に彼の大王、來り求むる者を見て、心大いに歡喜することも亦復た是の如く、信心堅固にして菩提を長養す。何を以ての故に、此の菩薩は專ら一切智を求め、一切の衆生を饒益安樂にして、大願を成滿し、不善の法を遠ざけ、諸の善を修行し、衆生を救護して薩婆若の門を開き、一切智を攝して衆生の願を滿たし、一切の佛の諸の功德海に入り、一切の煩惱・魔・業障の山を壞り、一切諸の如來の敎に隨順して深智の流に入り、正道に違はずして諸法の流を出だし、大願を成滿し、大人の法に住し、普門善根の藏を滿足し、一切の惡心を離れて染する所無く、諸法に了達すること猶ほ虛空の如し。

　復た次に佛子よ、時に彼の大王、諸の衆生を見て、一子の想、父母の想・福田の想・恩を報い難きの想・師の想・佛の想を發し、大慈悲心をもつて悉く普く之を覆ひ、其の須むる所に隨ひて、衣服・飮食・華香・末香・塗香・鬘蓋・幢旛・諸の莊嚴具・牀座・被褥・舍宅・宮殿・園觀・浴池・車乘・輦輿・象馬・衆寶の住する所の宮殿、及び其の眷屬内の諸の庫藏・城邑・聚落、是の如きの一切を悉く衆生に施し、

普く充足せしめたり。

時に彼の會中に一童女有り、寶光明と名け、端正殊妙にして、顏容倫無く、身は眞金の如く、目髮は金色にして、口に妙音を演べ、身に妙香を出だし、衆寶をもつて莊嚴し、常に慚愧を懷ひ、正念にして亂るること無く、威儀庠序として、諸の師長に於て恭敬し尊重し、諸根寂靜にして念慧現前し、聞く所の諸法は能く持し能く解し、宿世に無量の善根を長養し、諸の妙善の法は其の身を潤澤し、善知識に近づき、好んで大乘を樂ひ、心虛空の如くにして、自ら安んじ彼を安んじ、常に樂ひて佛を見、薩婆若を求めたり。六十の童女と倶に、王を去ること遠からずして、一心に恭敬し合掌して住し、是の如きの念を作さく、「我善利を得て、善知識を見、善知識に遇へり、彼の王の所に於て大師の想・善知識の想・慈悲の人の想を起さん」と。此の念を生せし時、歡喜すること無量にして、莊嚴の具を脫ぎ、彼の王の前に置き、是の如きの願を發すらく、「今此の大王は無量無邊の衆生を安隱にしたまへり、願はくは我も來世に亦復た是の如くならん。大王の智慧、大王の正道、大王の所乘、大王の相好、大王の財寶は能く壞る者無し、願はくは我も來世に亦復た是の如くならん。所生の處に隨ひて、我も亦隨ひて生せん」と。時に彼の大王、此の女に告げて言はく、「我今悉く內外の珍とする所のものを捨てたり、恣に汝之を取れ」と。

時に彼の女人、倍增歡喜し、偈を以て頌して曰はく、

〔三〇〕大王未だ世に興りたまはざるときは、堅固莊嚴の都も、一切樂む可からざること、猶ほ餓鬼の處の如し、
衆生相殘害し、竊盜し縱に婬佚し、兩舌不實の語、無義麤惡の言あり、
他の財物を貪利し、瞋恚・害心を懷き、邪見にして不善を行じ、命終りて惡道に墮せり、
是の如きの衆生等、愚癡に覆蔽せられ、種種に諸の惡を行じ、天旱にして澤を降さず、
時雨無きを以ての故に、百穀悉く生ぜず、草木皆枯槁し、泉流も亦乾渇せり、
大王未だ世に興りたまはざるとき、一切諸の河池、皆悉く乾きて枯涸せるは、猶ほ大曠野の如し。
大王初めて生れし時、天は慶重の雲を起し、雨を降らして普く流澤し、河池悉く盈溢せり、
一切の惡を除滅し、諸の恐怖を遠離し、人民は皆歡喜せり、大王世に生れしが故なり。
往昔は諸の衆生、各各相殘害して、人の血肉を飲食したるも、今は悉く慈心を修む、
百穀昔は生ぜず、卉木皆枯燥し、飢渇に逼迫せられ、種種に苦惱を受けたるも、
大王既に世に興りたまひて、粳米自然に生じ、樹は妙衣服を出だせり、王は世の歸す所なるが故に、

〔三〇〕偈に五十二頌あり、初の二十五頌は總じて大王興世の利益を顯はし、後の二十七頌は別して本生利益の相を明かす。

故昔日は微利を競ひ、强弱相陵奪したるも、今は種種に莊嚴して、釋難陀の園の如し、
昔人は貪欲重く、種種なる放逸の行あり、他の妻色を浸犯し、而して共に相危害せり、
今日は諸の人民、衆寶をもつて妙に莊嚴し、貞潔にして邪婬無きこと、猶ほ兜率天の如し、
昔日は諸の衆生、妄言非法語をなし、口に無義の言を縱にし、諂曲にして人意を取れり、
今日は群生の類、諸の惡語を遠離し、愛眼をもつて衆生を視、口に柔和の音を發す、
昔日は諸の衆生、種種に邪見を行じ、合掌し恭敬して、牛羊犬豕の類を禮したり、
今は王の正法を聞きて、諸の邪見を遠離し、善く苦樂の法は、悉く因緣より起ると知る。
大王は妙音を演べたまひ、愛樂せざる者無く、梵・釋等の音聲も、皆悉く及ぶこと能はず、
大王の衆の寶蓋は、虛空の中に懸處し、覆ふに諸の寶網を以てし、普く妙香を出して熏せり、
金鈴は自然に、如來の和雅の音を出だして、甚深の法を宣揚し、衆の煩惱を除滅す、
次に復た廣く、十方諸佛の刹、一切諸劫の中の、如來及び眷屬を演說す、
又復た次第に、過去の十方刹、一切諸劫の中の、如來及び眷屬を說く、
又微妙の音を出だして、天下に充滿し、梵王と諸の群生は、悉く業の果報を聞く、
衆生音を聞き已りて、自ら諸の業藏を知り、惡を離れ衆善を修め、專ら無上の道を求む。
父王を淨光と名け、母を蓮華光と曰ひ、父は五濁世に於て、正法をもつて天下を治めたり、

五百の蓮華の池は、寶樹悉く圍繞し、底には布くに金沙を以てし、寶華悉く敷き茂れり、
彼の池の岸上に於て、諸の妙法堂有り、衆寶を欄楯と爲し、種種の寶をもつて莊嚴せり、
末世に惡法起り、積年雨降らず、池流皆枯渇して卉木悉く焦然す。
七日にして王當に生るべし、先つ靈瑞の相を降だし、諸人見て歡喜すらく、「救護のもの世閒に出でたまふ」と、

彼の時中夜に於て、大地六種に動き、自然に妙光を演べ、猶ほ明淨の日の如し、
浴池五百有り、功德の水充滿し、一切諸の寶樹は、本の如く悉く榮え茂り、
河流・諸の泉源は、一切皆盈滿し、靈澤普く津掖して、閻浮提を沾洽し、
樹木・諸の叢林、雜卉・衆の藥草、百穀苗稼等は、生長して普く滋え茂り、
巖崿たる諸の高山と、幽邃なる深き險谷と、普及び一切の地とは、自然に悉く平正となり、
山陵の諸の卉木、沙礫雜穢等は、悉く一念の中に於て、變じて衆の寶玉と成れり、
人此の奇特を見て、歡喜して言を發すらく、「快なる哉大善利、我淸涼の池を得たり」と。
時に彼の淨光王は、內眷屬と倶に、一切の大臣等と、歡喜して園觀に遊べり、
五百の浴池の中に、池有り歡喜と名く、池上の妙法堂に、王と眷屬と遊止せり、
時に王、夫人に語るらく、「我が願悉く成滿して、國土還つて豐樂に、人民普く安隱なり」と。

時の彼の浴池の中に、千葉の寶蓮生じ、普く清淨の光を放ち、明かに須彌頂を曜す、
明淨なる金剛の莖あり、衆寶を華葉と爲し、閻浮檀金を臺とし、諸の妙香を鬚と爲す、
彼の華華の中に於て、一童子を出生せり、相好莊嚴の身は、諸天悉く敬禮す、
王見て大いに歡喜し、池に入れて之を撫掬し、后の膝の上に安置し、「汝子應に欣慶すべし。」と
寶藏普く踊出し、寶樹妙衣を生じ、天の樂奏の妙なる聲は、虚空の中に充滿せり。
時に彼の諸の人民、合掌し恭敬して禮し、歡喜して是の如く言へらく、「此は是れ世の歸依なり」と、
身より大光明を放ちて、普く一切を照す、若し斯の光に遇ふもの有らば、諸漏悉く除滅し、
一切の惡鬼神、毒害の衆生の類も、悉く不善の心を捨て、自然に慈愍を生せん、
惡名にして善利を失ひ、疾病鬼持せらる、是の如きの衆の苦は滅して、一切皆歡喜し、
天下の諸の群生は、相視ること父母の如く、惡を離れて慈心を修め、專ら一切智を求めん、
諸の惡趣を遠離して、廣く天人の路を開き、無上の道を顯現して、諸の群生を度脱せん、
我等は善利を得、斯の大施主に遇ふ、衆生正路を失ふも、導師今世に出でたまへり。』

爾の時に寶光明童女、偈をもつて王を讃め已りて、頭面に足を禮して、繞ること無數帀、恭敬し合掌して、一面に於て住せり。王は女を讃めて言はく、「善い哉善い哉、乃ち能く他人の功德を信知せ

り。是は爲希有なり。若し愚癡有りて報恩を知らず、智慧有ること無く、濁心にして邪見なる、是の如き等の非法を具へたる衆生は、諸佛菩薩の淸淨の功德と、一切智の境とを知らず信ぜず。汝今專ら無上菩提を求め、菩薩の行を修し、衆生を攝取し、安隱にし、饒益すべし」と。王は女を讃め已りて、無價の衣を以て手自ら授與して之に告げて曰はく、「汝自ら之を著けよ」と。時に彼の女人、膝を以て地に著け、敬禮し合掌し、頂受して著けたり。時に王復た六十の女衣有り。彼衣を著け已りて、眷屬と俱に繞ること畢りて辭退せり。諸の女衣の中より、普く一切星宿の光明を出だし、衆人見已りて、咸之を歎じて曰はく、「此の諸の女等は皆悉く端正なること、淨夜の天の、星宿に莊嚴せられたるが如し」と。

善男子よ、爾の時の一切法師子吼圓蓋妙音王は、豈異人ならんや、今の盧舍那如來・應供・等正覺是なり。淨光王は今の淨飯王是なり。蓮華光夫人は、摩耶夫人是なり。時の國人は今の大衆是なり。悉く阿耨多羅三藐三菩提に於て不退轉を得、或は初地乃至十地に住し、大願成就し、諸の法門に住し、方便道を修し、一切智を求め、諸の解脫に住せり。」

爾の時に開敷樹華夜天、重ねて此の義を明さんと欲して、偈を以て頌して曰はく、

『我に淸淨眼有りて、悉く世界海の、生死五趣の中に、衆生は常に流轉するを見る、

諸佛菩薩、菩提樹に往詣して、道を得て法輪を轉じ、諸の群生を化度したまふを見る。

我淨天耳を以て、境界の一切の音、諸佛の說きたまふ所の法を、悉く聞き歡喜して持てり。
我に無二の智有り、一切無等等にして、能く一念の中に於て、衆生の心海を了る。
我宿命智を得て、一切の劫海を念ふに、自身及び他人を、分別して悉く了達す。
我一念に於て、諸の刹海塵劫の、諸佛及び菩薩と、五道の衆生類とを知る、
彼の佛初め願を發して、專ら佛の菩提を求め、究竟して悉く、無量の菩薩の行を滿足し、
等正覺を覺了して、種種の巧方便をもつて、淨妙の法輪を轉じ、諸乘海を顯現し、
衆の爲めに法を演說して、一切を度脫し、乃至遺法の住することを、
我悉く一念に知れり。
我無量劫に於て、此の法門を修習せり、眞の佛子よ應に速かに、此の法門を究竟すべし。』

【三】第八不動地の善友を明かす。

『佛子よ、我唯此の菩薩の無量歡喜知足光明の法門を知るのみ。諸の大菩薩は、一切佛の所に於て、一切諸佛の行海を修行し、一切智を求め、清淨に一切の大願を滿足し、一菩薩地に於て、一切の菩薩地海を修行し、一菩薩行に於て一切の菩薩行海を攝取し、一法門に於て自在に一切の法門を修攝す。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り、能く說くべき。

(三)佛子よ、此の道場に於て一夜天有り、願勇光明守護衆生と名く。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修し、衆生の無上菩提を成就し、諸の佛刹を淨め、一切の佛

に値ひたてまつり、一切如來の正法を修習するや」と。』

時に善財童子は、頭面に彼の夜天の足を敬禮し、繞ること畢りて辭退せり。爾の時に善財童子は、往きて願勇光明守護衆生夜天の所に詣でたり。㊂彼の夜天を見たてまつるに、大衆の中に在して、普照摩尼王藏の師子の座に處したまひ、摩尼王網をもつて其の身を羅覆し、光明普く一切の法界を照し、一切の日月星宿の光明を以て其の身と爲し、一切衆生の形類色像に、悉く中に於て現ぜり。又一切諸の色海身・諸の威儀身・諸の方面身・一切の衆生の前に應現する身・十方に遊行して自在力なる身・一切の時に於て衆生の前に現じ時を失はざる身・諸佛の所に詣でて之を敬禮する身・一切諸の善根を長養する身・一切佛の正法雲を受持して忘失せざる身・一切の菩薩の願を滿足する身・普く一切諸の世界を照す身・癡暗を除滅して普く一切を照す明淨燈の身・法の如幻を知り離垢の深慧をもつて諸法を了る身・一切を覺悟して普く意を現ずる身・熾然を離れたる身・不可壞の身・所住無くして佛の行持に住する身・染汚有ること無き清淨の法身を現ぜり。㊃善財見已りて、五體を地に投じ、佛世界の微塵に等しき念を起して、彼の天の身を念ひ、良久しくして乃ち起ち、恭敬し合掌して一心に善知識を諦觀して、十種の心を得たり。何等をか十と爲す。所謂る、自己の心を得、勇猛に精進して薩婆若を求め、能く受持するが故に。一切の智法を具する心を得、一切の正教道に隨順するが故に。自の受生の心を得、無上の正法門に安住するが故に。同行の心を得、普賢菩薩の諸の行願と共な

るが故に。一切の功徳藏を具する心を得、一切の白淨法を長養するが故に。勇猛の心を得、諸佛の大精進を長養するが故に。一切諸の善根を具する心を得、一切の諸大願を成滿するが故に。一切の大利益を辨ずる心を得、菩薩の自在力を具足するが故に。是を善知識に於て十種の心を得たりと爲す。

(三二)爾の時に善財、一心に彼の夜天を觀察し已りて、世界の微塵に等しき菩薩の(三三)共法を得たり。所謂る、正念の共法、十方三世の一切の佛を念ずるが故に。大慧の共法、一切の法海を分別し了知するが故に。諸趣の共法、一切の佛の法輪は壞す可からざるが故に。覺悟の共法、智は虚空の如く普く三世の一切方便海を照すが故に。諸根の共法、明淨の慧を以て普く衆生の一切根海を照すが故に。淨心の共法、菩薩の道を修して一切智の無礙の功徳莊嚴を得るが故に。境界の共法、明淨の智慧は佛の境を照すが故に。方便に隨順するの共法、一切智の方便海を究竟して普く一切を照すが故に。義を知るの共法、一切法の眞實性を知るが故に。法無畏の共法、一切諸の怨敵を壞散するが故に。清淨なる色身の共法、其の所應に隨ひて淨身を現ずるが故に。諸力の共法、薩婆若に於て退轉せざるが故に。無畏の共法、淨き正直心は虚空の如くなるが故に。精進の共法、一切劫に於て菩薩の行を行じて退轉せざるが故に、辯才の共法、明淨の智慧は深く諸法に入り

【三二】以下、現に法界を證することを明かす、中に四段あり、第一、法體を證得することを示す。

【三三】共法。通じて論ずるに四義あり、一に人法無二、一切の法界と共同す。二に因果無二、一切の諸佛と共す。三に自他無二、一切の菩薩と共す。四に染淨無二、一切の衆生と共す。此の處に八十四種の共法を列す、一一皆初に名を標し、次に義を釋す。

て一切を照すが故に。無比の共法、一切の衆生能く勝るもの無きが故に。語言の共法、大衆の中に於て淨妙の法を說きて畏るる所無きが故に。妙聲の共法、能く師子吼して微妙の聲を出だし、一切の法海に滿つるが故に。淨音の共法、一切衆生悉く樂ひ聞くが故に。淨德の共法、一切衆生をして悉く清淨ならしむるが故に。智地の共法、一切の佛に於て法輪を受くるが故に。梵行の共法、一切の佛の境界に安住するが故に。大慈の共法、念念の中に於て普く一切の衆生海を覆ふが故に。大悲の共法、甘露の法を雨らして一切衆生を救ふが故に。身業の共法、一切衆生に於て所作に隨ふが故に。口業の共法、一切の語言法を分別するが故に。意業の共法、一切の衆生に薩婆若心を立てしむるが故に。莊嚴の共法、一切の諸佛の刹を嚴淨するが故に。詣一切佛の共法、一切の佛の世に出興したまふを見たてまつるが故に。勸請の共法、諸の如來に法輪を轉ぜんことを請ふが故に。供養の共法、一切の諸の如來を供養するが故に。敎化の共法、一切諸の衆生を度脫するが故に。光明の共法、一切法を照すが故に。三昧の共法、一切衆生の心海に於て不動を得るが故に。充滿の共法、諸の菩薩等の自在神力は諸の佛刹に滿つるが故に。菩薩の法門の共法、菩薩の自在力を出生するが故に。眷屬の共法、菩薩と共に同止することを樂ふが故に。深入の共法、一切諸の世界を分別するが故に。了心の共法、廣く佛刹を淨むるが故に。隨順の共法、一切の佛の世界海に入るが故に。充滿方便の共法、一切の世界を分別し了知するが故に。無上の共法、普く一切諸の佛刹に現ずるが故に。不退の共法、十方に遊行し

て障礙無きが故に。一切の愚癡を除滅する共法、一切の佛の圓滿智を得るが故に。不生の共法、一切の佛の爲めに眷屬と爲るが故に。一切の佛刹網に滿つる共法、一切の佛を恭敬し供養するが故に。決定智の共法、諸の法海を分別し了知するが故に。說の如く修行する共法、順じて一切諸の法門に入るが故に。專求の共法、一切諸の淨法を求めんと欲するが故に。清淨の共法、諸佛の功德は身口意を莊嚴するが故に、淨意の共法、一切法に於て智滿淨なるが故に。勇猛の共法、一切の事を究竟して善根を滿ずるが故に。淨行の共法、一切の菩薩の行を滿足するが故に。無礙の共法、諸法の相を分別し了知するが故に、方便の共法、自在智の法門を具足するが故に。淨入の共法、其の所應に隨ひて境界を現ずるが故に。菩薩門の共法、一切諸佛の法を修行するが故に。護持の共法、一切諸佛に護持せらるるが故に。離生の共法、次第に菩薩地を逮得するが故に。安住の共法、一切の菩薩住に安住するが故に。演說の共法、諸佛の授記法を了知するが故に。禪定の共法、一念の中に於て悉く一切諸の三昧に入るが故に。三昧起の共法、一切の佛事は種種の相なるが故に。淨念の共法、一切の念を知るが故に。菩薩行の共法、盡未來劫に菩薩の行を行じて、斷絕せざるが故に。淨信の共法、歡喜して佛の智慧を增長するが故に、長養の共法、一切諸の障礙を除滅するが故に。不退智の共法、一切の佛の智慧と等しきが故に。受生の共法、隨時に一切の衆生に應化するが故に。住の共法、一切智に住するが故に。境界の共法、法界の境界の故に。無著の共法、心一切の有に染著せざるが故に。善く

法相を知るの共法、等心に一切の法を觀察するが故に。容受の共法、己の身內に於て一切諸佛の法を受持するが故に。通明の共法、一切の世間を分別し了知するが故に。神力の共法、小方便を以て一切の佛刹海に遊行するが故に。陀羅尼の共法、普く一切の陀羅尼海を照すが故に。一切の佛の法輪を持するの共法、悉く能く一切の修多羅法を受持するが故に。深入の共法、一切の法は虚空の如しと解るが故に。淨光の共法、普く一切諸の世界を照すが故に。明淨の共法、其の所應に隨ひて衆生に現ずるが故に。震動の共法、諸の佛刹を動して諸の衆生の爲めに自在を現ずるが故に。不虚の共法、見聞し念ずる者は悉く虚しからざるが故に。聖道の共法、一切願と十力智とを滿ずるが故に。是の如き等の佛刹微塵に等しき菩薩の共法を得たり。爾の時に善財、是の如き等の菩薩の共法に入りて、善知識に於て無量無邊の淨き正直心を得、偏へに右の肩を袒ぬき、恭敬し合掌して、偈を以て彼の夜天を讃歎して曰はく、

〔三四〕『我無上心を以て、專ら佛の菩提を求め、今善知識に於て、自己の心を起せり、
諸の惡業を遠離して、清淨の行を成就し、善知識を見るに由りて、無盡の白法を得たり、
我知識を見已り、功德をもつて心を莊嚴し、未來の刹劫を盡して、菩薩の道を修行せん。
唯願はくは善知識よ、哀愍して我を攝取し、我が爲めに悉く、正教眞實の法を顯現したまへ、
諸の惡趣を閉塞して、廣く天人の路を開き、佛の一切智の道を、我が爲めに悉く顯現した

【三四】十偈あり、初の三は前の法を頌し、餘の七は後の行を請す。

まへ、

彼の善知識の、一切の功德藏を念ひ、我念念に於て、虛空のごとき功德海を得たり、

我に波羅蜜の、不思議なる功德を授け、諸の善福を長養し、智緒を速かに頂に冠らしめたまへ、

我れ善知識の、一切種の智道を念ひ、善知識に依止して、白淨の法を滿足せん、

衆の善利を具足して、功德普く成滿し、一切法を究竟して、薩婆若を成就せん、

知識は爲大師なり、無上の法に安立せしめたまふ、無量無數劫にも、其の恩や報ゆること能はじ。」

# 巻の第五十六

## 入法界品第三十四の十二

(二)爾の時に善財偈を説きて讃し已りて、白して言さく、『天神よ、向に顯現したまひし所の不思議の法、此の法門は名けて何等とか爲す。道心を發してより來、幾時を爲たまへるや。久如して當に無上菩提を成じたまふべきや』と。

答へて言はく、『善男子よ、此の法門は應化に隨ひて衆生を覺悟し善根を長養すと名く。善男子よ、我此の法門に入りて一切諸法の平等を覺悟し、一切法の眞實の相を知り、世間を遠離して染著する所無く、一切の色は一に非ず異に非ざることを解り、色は非色なりと了りて、而も能く無量の諸色を顯現す。所謂る、種種の色、清淨の色、莊嚴の色、一切の莊嚴を放つ色、普現の色、一切衆生に同ずる色、一切世間現前の色、普照の色、見て厭くこと無き色、相好の淨き色、離惡の色、勇猛を現ずる色、甚深の色、一切世間能く盡すこと無き色、歎無盡の色、種種雲の色、諸の形像色、無量の自在神力を顯現する色、愛樂す可き色、一切の善の起す色、應に隨ひて現前する色、應に隨ひて衆生を度する色、普く照して無礙なる色、離垢の色、淨身を壞せざる色、不思議

【二】第二、法の名義を顯はす。

の法方便光明の色、比に非ず無比に非ざる妙絶の色、明闇に非ざる色、一切の闇を滅する色、一切の白淨法を積集する色、功德大海の生ずる所の色、過去に修行せし恭敬より生じたる色、淨直心より生じて虛空の如き色、勝れたる廣大の色、無斷無盡の色、海光明の色、一切世間依止する所無く壞す可からざる色、一切十方に充滿して無礙なる色、念念の色、海色、一切衆生をして大いに歡喜せしむる色、一切衆生を攝取して堅固なる色、一切の毛孔の中の如來の功德師子吼の色、一切衆生の深心を淨むる色、一切法の義を顯現する色、圓滿なる光明無礙の色、垢を離れたること虛空に等しき色、垢に依らざる無著の色、普く離垢の法界を照す色、不可稱の色、眼に隨ひて見る色、諸方を照す色、時に隨ひて顯現し衆生に應ずる色、寂靜の色、一切の煩惱を滅する色、一切衆生の功德福田光明の色、見て虛しからざる色、大智光の色、無礙の法身一切に滿る色、威儀を顯現して虛しからざる色、大慈海を積集する色、功德を具足する須彌山の色、普く一切趣を照す色、淨き大智の色、一切の世間を正念する色、一切寶光の色、淨き寶藏の色、淨き衆生を壞せざる色、薩婆若に趣く色、衆生の眼を悅ばしむる色、一切の寶をもつて莊嚴せる勝れたる光明の色、一切衆生を取らず捨てざる色、決定すること無く究竟すること無き色、自在に諸の持力を顯現する色、一切の自在神足の色、佛の種姓の色、衆惡を遠離して法界に滿る色、悉く一切の諸佛大衆に詣でて一切を照す色、諸海を成ずる色、善行の果に依る色、隨ひて化し授る色、一切世間見て厭くこと無き色、種種の光明普く照す色、三世の一切

を顯現する色、一切海を顯現する色、一切の光明海を放つ色、種種の光色、一切の世間を過ぎたる一切香の光色、圓滿なる諸の日雲を顯現する色、圓滿なる淨月雲を持する色、須彌山妙華雲を放つ色、種種の鬘雲を出だす色、一切の鉢曇摩華雲を顯現する色、一切の香像雲法界に充滿する色、一切の末香雲を散ずる色、一切の佛の淨願身を現ずる色、一切の音聲師子吼の法界海を出だす色、普賢菩薩の淸淨身の色、念念の中に於て是の如き等の色を現じて十方に充滿して、衆生を敎化す。或は見或は念じて得度を得しめ、或は轉法輪を現じ、或は隨時の應を現じ、或は親近を現じ、或は覺悟を現じ、或は自在神力を現じ、或は種種の變化を現じ、或は不可思議なる自在神力の變化を現じて、衆生を度脫し、不善の法を滅して善法を安立し、大願一切智の勢力と菩薩の法門の勢力とを滿足し、大慈大悲を具足し成就せしむ。

【三】第三、法根の深厚を明かす、中に於て、初に五喩を擧げ、歎じて甚深なることを顯はす。

佛子よ、我此の法門に住して無量の色身を現じ、一切の色界を分別し了達して、無量無邊の法雲を放ち、普く一切諸佛の世界を照して、無量無邊の諸佛を現じ、無量無邊の自在神力を現じて衆生を覺悟し、善根を長養し、念念の中に於て、不可思議の衆生をして阿耨多羅三藐三菩提に於て不退轉を得しむ。

(三)佛子よ、汝の問ふ所の如く、此の法門を得しより幾時を爲たるやといはば、我今佛の神力を承けて

汝が爲めに解說せん。佛子よ、菩薩の圓滿なる智慧は、一切の虛妄を離れ、本性淸淨の一切種智は、一切諸の障礙の山を超出し、應に化すべき所に隨ひて皆悉く普く照す。佛子よ、譬へば日の性は闇冥有ること無けれども、但日沒し已れば、天下則ち闇となり、出づれば則ち大いに明なるが如し、菩薩の圓滿なる明淨の智日も、亦復た是の如く、一切の虛妄を離れて普く一切を照し、衆生を敎化す。佛子よ、譬へば淨日閻浮提に出でて、普く天下の衆寶の山樹を照し。影は一切の大海河池に現じ、衆生の類對見せざること無けれども、日も亦來りて此の池流に入るにあらざるが如し。菩薩の智日も亦復た是の如く、三有の海を出でて、佛の實法は虛空の中に於て行き、寂滅に住して一切趣趣の生處に應現し、衆生身に同じて之を化度するもの實には生死せず、染著する所無く、一切の虛妄を離れ、修短の想無し。何を以ての故に、佛子よ、菩薩摩訶薩は、諸の顚倒を離れ、一切世は悉く夢幻の如しと了り、眞實の法を解り、衆生有ること無く、圓滿なる大悲をもつて皆悉く一切衆生に對見して之を敎化すればなり。佛子よ、譬へば大船の此の岸に依らず、彼の岸を樂はず、中流に著せず、大海の中に於て衆生を濟度するが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、波羅蜜力の船を以て、生死の海に於て衆生を濟度し、此の岸に依らず、彼の岸を樂はず、而も衆生を度して、一切劫に於て菩薩の行を修し、劫想を起さず、亦劫に修短の相有るを見ず。佛子よ、譬へば虛空の法界を出過し、一切の世界には成有り敗有るも、而も彼の虛空の本性は淸淨にして染汙する所無く、沮壞す可からず、恐

怖と一切の障礙とを遠離して、能く普く未來の諸劫の一切の佛刹を持するが如し。菩薩摩訶薩の心も亦復た是の如く、虚空に等しき圓滿の智慧を以て其の心を莊嚴し、一切の大願の風輪を發起して、一切衆生を持し、惡道を滅して諸の善趣を生じ、心に憂喜無く、衆生を一切智道に安立せしめ、煩惱生死の過患を除滅せしむ。佛子よ、譬へば化人の實形の生老病死飢渇等の苦有ること無きが如し。菩薩の如化の智慧の沮壞すべからざる妙色を出生する法身も亦復た是の如く、一切劫の諸の生死の中に於て衆生を化度して、而も著する所無く、亦恐怖無く、無貪無恚にして、一切熾然の煩惱を除滅し、心に一切の趣生を貪樂せず。佛子よ、菩薩の智慧は復た是の如く甚深にして、測り難しと雖も、我當に佛の神力を承けて、汝が爲めに解說し、未來世の諸の菩薩等をして大願を滿足し諸力を成就せしむべし。

【三】次に正しく問に答ふ。

㈢佛子よ、乃し往古の世、世界海の微塵に等しき劫を過ぎ、復た是の數を過ぎて劫有り、善光と名けき。彼に世界有り名けて寶光と曰ひ、彼の劫の中に於て、萬の如來有して、世に出興したまひき。最初の如來を法輪音聲虚空燈と號けたてまつる。彼の閻浮提の中に寶莊嚴の王都有り、彼に大林有り善光明と名け、此の林中に於て一道場有り、名けて善華と曰ひ、彼の道場の上に寶蓮華の師子の座有り。時に彼の如來此の座上に於て阿耨多羅三藐三菩提を成じたまひき◎爾の時に人民の壽は十千歲にして、殺◦盜◦淫佚◦妄言◦兩舌◦惡口◦綺語◦貪◦恚◦邪見、是の如き等の十不善道を行へり。◎時に彼の如

來、百歲の中に於て道場に坐したまひ、諸の菩薩、及び諸の天王、幷びに閻浮提の宿殖の德者の爲めに、說法を爲し、其の餘の衆生の善根の熟するを待ちたまひぬ。爾の時に國王を名けて勝光と曰へり。時に彼の人民は十不善を行ひ、五欲に貪著し、種種の惡を作して、善法を遠離し、父母に孝せず、沙門・婆羅門を敬はず。無量の衆生有りて王の治法を犯し、囹圄に囚執せられ、諸の楚毒を受けたり。爾の時に彼の王に一りの太子有り、名けて善伏と曰ひ、端正殊特にして妙色を成就し、二十八の大人の相を具へ、中宮に處在して婇女に圍繞せられ、彼の獄人の楚毒の音聲を聞けり。聞き已りて憂惱し、大悲の心を起して彼の獄中に入り、諸の罪人を見るに、裸形にして髮を亂し、繫縛し榜笞せられ、悲み號びて涙を流し、苦毒無量なり。太子見已りて、大悲の心を發し、之を慰喩して曰はく、「恐るること莫れ、怖るること莫れ、我今能く汝等をして解脫せしめん」と。是に於て太子は往きて王の所に詣でて、白して言さく、「大王よ、獄中の罪人に願はくは無畏を施したまへ、大王、哀愍して、幸に矜赦を垂れたまへ」と。時に彼の大王諸の群臣を召して共に參議すらく、「此の事云何ん」と。群臣答へて言さく、「彼の諸の罪人は官物を竊盜し、大王を謀殺し、宮人を侵犯せり。是の如きの罪有り、必ず應に刑戮すべし。若し彼を救はば罪應に死に至るべし」と。時に彼の太子、大悲深至にして彼を救護せんが故に、是の如きの言を作さく、「我代はりて獄に囚はれ、諸の楚毒を受けん、願はくは我を苦治せよ、我彼を救はんが爲めには身命をも惜まず、罪囚をして悉く解脫を得しめんと欲す。所以

は何ん。若し我此の衆生を救はざれば、云何んぞ能く三界の牢獄を濟はん。諸の生死の牢獄に在る衆生は、悉く貪愛の爲めに纏縛せられ、愚癡に蔽はれて、種種の苦を受け、身形鄙陋に、心常に放逸にして、出要の道を知ること能はず。智慧の光無くして諸の法界に著し、福慧有ること無くして、實智を遠離し、結垢に染縛せられて苦獄に幽閉し、惡魔に隨順して生老病死し、常に憂惱の逼迫する所と爲る。我當に云何んが彼をして解脫せしむべき。我今應當に自の身命を捨てて之を救拔すべし」と。

爾の時に五百の大臣、咸聲を發して言はく、「大王當に知るべし、太子の意の如く獄囚を放たば、王法を毀壞し、危きこと我等に及ばん。太子を治せざれば、國久しく立たず」と。王此の言を聞きて卽ち威怒を發して、太子を誅せしむ◎王后之を聞きて容を毀ち服を降し、千の婇女と與に馳せて王の所に詣り、頭面に足を禮して、是の如く請ふて言はく、「大王當に知るべし、太子罪有るも、願はくは慈恕を垂れたまひて、其の壽命を賜へ」と。時に彼の大王卽ち太子を召す、太子旣に至る、復た王に白して言はく、「願はくは哀を垂れて、獄囚に苦める人を赦したまへ。若し矜赦したまはずんば、我代りて苦を受けん」と。王の言はく、「隨意なれ」と◎爾の時に太子は、卽ち獄中に入りて諸の罪人を放ち、代りて楚毒を受け、曾て中に悔ゆること無く、一向に一切種智を正念し、大悲を首と爲し、衆生を饒益せり◎夫人王に白すらく、「願はくは太子外に在ること半月、施を布き福を修することを聽したまへ。然る後に王に隨ひ法の如く苦治したまへ」と。王卽ち聽許したまへり。

時に彼の都城の北に一大林有り、名けて日光と曰ふ。太子、彼に詣りて大施會を設け、食を須めば食を與へ、衣を須めば衣を與へ、乃至車乘・華鬘・塗香・末香・幢旛・繒蓋、及び餘の一切の寶莊嚴の具を與へたり。期限既に滿ちたり。爾の時に國王、及び諸の群臣・長者・居士・男女・大小、並びに諸の外道皆悉く雲のごとく集れり。爾の時に法輪音聲虚空燈如來、諸の衆生の應に化すべき時の至れるを知して、大衆と與に天王に圍繞せられ、龍王は供養したてまつり、夜叉王は守護したてまつり、乾闥婆王は讃歎したてまつり、阿修羅王は禮侍し、迦樓羅王は清淨の心を以て諸の雜寶を散じ、緊那羅王は歡喜して過去の諸佛を讃歎し供養し、摩睺羅伽王は悲泣正歡し、是の如き等の無量の大衆の與めに前後に圍繞せられて、彼の會に來詣したまへり。爾の時に太子、及び諸の大衆は、遙かに佛の來りたまふを見たてまつるに、端嚴殊特にして、諸根寂定なること大象王の如く、神心澄明にして、淨きこと淵海の若く、如來の自在の境界と、勝妙の功徳とを顯現し、相好に身を嚴り、圓滿の光明は普く一切を照し、十方無量の世界を震動し、一切の毛孔は普く如來の微妙なる香雲を出だし、普く種種の莊嚴雲を雨らし、佛の威儀を行ひ、一切衆生の煩惱を除滅せり。爾の時に太子、既に如來を見たてまつりて歡喜すること無量にして、五體を地に投じ、合掌して白して言さく、「善來・世尊よ、念哀して我を取りたまへ、唯願はくは世尊、摩尼の座に處したまへ」と、諸の菩薩衆皆寶座に就きて、周帀圍繞せり。時に佛坐し已りて、一切衆生の苦患を除滅し、諸の障蓋を離れ、聖法の器に堪へしめ

たまへり。爾の時に如來、諸の衆生の應に化を受くべき者を知して、爲めに圓滿因緣修多羅を演說したまひき。時に彼の大衆正法を聞き已りて、八十那由他の衆生は皆離垢清淨法眼を起して無學地を得、一萬の衆生は大乘道を得、普賢菩薩の行願を滿足し、十方の佛の正法輪を轉じて、自在力を現じたまふを見たてまつり、百佛世界の微塵に等しき衆生は、摩訶衍を具へて、十方世界の無量の衆生の惡道の苦難を滅し、天人の趣に生せり。時に彼の太子は應に化すべきに隨ひて衆生を覺悟し善根を長養するの法門を得たり。

佛子よ、爾の時の太子は豈異人ならんや、我が身是なり。我一切衆生に於て大悲の心を起し、普く之を饒益して、三界に著せず。又亦名譽果報を求めず、憍慢を捨離して他人を輕しめず、彼に惡を加へず、財利を貪らず、三有を遠離して大乘を莊嚴し、一切の智門を開き、普く菩薩の無量の諸行を行へり。佛子よ、我爾の時に於て此の法門を得たり◎時の諸の大臣は、今の五百の惡人、調達の眷屬是なり。彼の諸人等を佛は皆敎化して阿耨多羅三藐三菩提心を發さしめたまへり。未來世須彌山の微塵に等しき劫を過ぎて等正覺を成せん。所住の世界を同じく寶光と名け、國界莊嚴し、父母種姓、受胎し出生し、家を棄てて道を學び、道場に往詣して正法輪を轉じ、修多羅を說く、語言・音聲・光明・眷屬・壽命・法住、及び其の名號は、皆悉く同じからず。其の最初の佛を饒益月と號け、第二の佛を大悲師子と號け、第三の佛を救護衆生と號け、最後の如來を大醫王と號けん◎佛子よ、當に知るべし、

本の諸の罪人の、我が救ひし所の者は、卽ち拘樓孫等の賢劫の千佛、及び百萬阿僧祇の諸の大菩薩なり。無量精進妙德慧佛の所に於て、阿耨多羅三藐三菩提心を發し、今悉く十方の國土に現在して菩薩の行を行じ、此の應に化すべきに隨ひて衆生を覺悟し、善根を長養するの法門を修習し增廣せる者是なり。◎佛子よ、時の王勝光は、今の薩遮尼揵子大論師是なり。時の王・宮人・諸の眷屬は、卽ち彼の尼揵の六萬の弟子、師と倶に來りて、佛と共に論議し、悉く之を降伏して、阿耨多羅三藐三菩提の記を授けたる者是なり。此の諸人等、當に正覺を成ずべし。世界と劫號とは皆悉く同じからず。

佛子よ、我爾の時に於て罪人を救ひ已りて、父母は我の國土・妻子・眷屬を捨離して、法輪音聲虛空燈佛の所に於て、出家學道することを聽したまひ、五百歲の中に梵行を淨修せり。此の中間に於て、一萬の三昧、一萬の陀羅尼門、一萬の諸明、一萬の法藏、一萬の薩婆若勇猛精進、一萬の淸淨忍門、一萬の寂滅禪定、一萬の方便般若波羅蜜を得たり。各十方に於て現前に一萬の如來を對見し、一萬の菩薩の大願を出生し、菩薩の一萬の諸力を長養し、又菩薩の一萬の神通を得て、念念の中に於て各十方の一萬の佛刹に遊び、念念の中に於て各十方の一萬の佛海を憶ひ、彼の如來の一萬の化海を見、普く十方に遊びて衆生を敎化し、念念の中に於て十方世界の衆生を見、諸趣の中に於て此に死し彼に生れ、或は好あり或は醜あり、或は善處に之き、或は惡道に入り、彼の衆生の諸の心心の法、心意の所行、及び諸根海を知り、行業善根に皆悉く明達せり。

佛子よ、我爾の時に於て命終の後に、卽ち復た彼の閻浮提の中の王宮に於て生を受け、轉輪王と作り、彼の法輪音聲虛空燈如來の滅度の後は、我爾の時に於て正法を守護し、次に法虛空妙德王佛に値ひ。次に釋王と爲りて、卽ち彼の道場にて天藏佛に値ひ。次に炎摩天王と爲りて、卽ち彼の世界にて大地功德山佛に値ひ。復た法輪光音聲王佛に値ひ。次に化樂天王と爲りて、卽ち彼の世界にて虛空燈智王佛に値ひ、次に阿修羅王と爲りて、卽ち彼の世界にて一切法雷震王佛に値ひ。次に他化自在天王と爲りて、卽ち彼の世界にて不可壞力幢佛に値ひ。次に梵王と爲りて、卽ち彼の世界にて法輪化普光音佛に値ひたてまつれり。佛子よ、彼の寶光世界に於て、善光劫の中に一萬の如來世に出興したまひ、我悉く値遇したてまつれり。

次に復た劫有り名けて日光と曰ひ、六十億の佛、世に出興したまへり。時に我王と爲り、大智慧と名け、最初の相好功德山佛に値ひたてまつり、復た妙音聲佛に値ひたてまつり、次に大臣と爲りて離垢童子佛に値ひ、次に阿修羅王と有りて、勇猛精進佛に値ひ、復た究竟相好佛に値ひ、次に商人と爲りて、離垢臂佛に値ひ、次に城天と爲りて、師子行佛に値ひ、次に毘沙門天王と爲りて、天周羅佛に値ひ、次に乾闥婆王と爲りて、法上名稱佛に値ひ、次に鳩槃茶王と爲りて光明天冠佛に値ひたてまつりて恭敬し供養せり。佛子よ、我諸趣に身を受けて、是の如き等の六十億佛を供養したてまつり、一一の佛の所に於て、無量無邊の衆生を敎化し、我一一の佛の所に於て、種種の三昧門、種種の

陀羅尼門を得、諸辯種種の智慧、種種の法を具足し、光は十方海と、諸佛刹海とを照して、諸佛海を見、一劫の中に諸佛に値遇して、恭敬し供養したてまつりしが如く、世界の微塵に等しき劫に於て、一切世界の中の諸佛世に興りたまふに、我悉く値遇して、恭敬し供養し、法を聞きて受持し、正法を守護することも、亦復た是の如くにして、諸佛の所に於て此の法門を修せり。』

爾の時に願勇光明守護衆生夜天、重ねて此の義を明さんと欲し、佛力を承けて、偈を以て頌して曰はく、

『歡喜恭敬の心をもつて、能く甚深の法を問へり、我當に佛力を承けて、汝が爲めに分別して說くべし。

不可思議の、世界海塵劫を過ぎて、爾の時に一劫有り、名けて善光と爲す、

彼の時に世界有り、名けて寶光と爲す、彼の世界の中に於て、十千の佛世に興りたまへり、

我彼の諸佛に値ひたてまつりて、恭敬して悉く供養し、彼の如來の所に於て、此の法門を修習せり、

爾の時に王都有り、名けて可愛樂と曰ひ、廣博にして悉く平正、種種に妙莊嚴せり、

衆生の雜行起り、世界に淨穢有り、時に彼の諸の衆生、多く不善の法を行へり。

爾の時に大王有り、號けて勝光と爲す、正法をもつて天下を治め、一切に等心なりき。

彼の王に太子有り、號を名けて善伏と曰ひ、端嚴にして甚だ殊妙に、相好をもつて身を莊嚴せり、

時に彼の諸の人民、王法を犯す者有りて、幽閉せられて牢獄に在り、太子悉く之を救へり、
爾の時に諸の臣等、倶に大王に白して言さく、「太子は王を危くせんと欲す、宜しく應に苦治を加へたまふべし」と、
時に王は臣の言を用ひて、法の如く太子を治し、諸臣は太子を送りて、彼の刑戮の處に往けり、
王后此を聞き已りて、來りて大王に白して言さく、「願はくは十五日、布施して功徳を修することを聽したまへ」と、
時に王即ち聽許したまひ、其をして福業を修せしめ、肴膳・車乘等、欲するに隨ひて悉く之を給せり、
期する所の日已に盡きて、將に刑戮の處に至らんとす、彼の時に一切衆、悲感して悉く號泣せり。
時に法輪音聲、虛空燈如來、衆生の根の熟せるを知りたまひ、大衆の所に往詣し、
自在力を顯現して、圓滿經を演說したまひ、無量なる諸の衆生に、悉く菩提の記を授けたまへり、
爾の時に王の太子は、即ち菩提心を發すらく、「願はくは我悉く、一切諸の群萠を度脫せん」と、
彼の如來を供養して、即ち佛に隨ひて出家し、勇猛なる精進の力をもつて、專ら無上道を求

めたり、
此の法門を具足して、大悲をもつて衆生を念ひ、法の眞實相を知り、劫海に菩提を修せり。
一切諸の導師、次第に世に出興したまふも、我皆悉く恭敬し、供養して法を護持すべし。
刹海の微塵に等しき、一切諸劫の中に、如來世に出興したまふも、恭敬して悉く供養すべし。
善伏我が身は是れ、大悲心を修習して、身と壽命とを惜まず、彼の苦める人を救護し、
此の法門を逮得して、劫海に常に修習し、念念に悉く、無量なる諸の功德を增長せり、
見る所の諸の最勝は、方便をもつて我が爲めに說き、聞き已りて卽ち、此の寂滅の法門を修習せり、
無量劫に此の、不思議の法門を修し、佛は甘露海を雨らし、我已に悉く之を飲めり。
此の法門に依止して、普く十方海に遊び、一念に悉く、三世諸佛の刹を分別せり、
此の法門に依るが故に、三世の佛海を見、諸の最勝の所に於て、身を現ずること電光の如し、
此の法門に依るが故に、徧く十方の佛に詣でて、各大神力と、勝妙なる威儀の法とを現ぜり、
此の法門に依るが故に、能く問難海を爲し、不思議の諸佛の、說きたまふ所を聞きて受持せり、
此の法門に依るが故に、十方の世界の、諸佛大衆の中に於て、自在に神變を顯はせり、
此の法門に依るが故に、種種に色身を現じ、能く一身の中に於て、諸佛の身を顯現せり、

此の法門に依るが故に、一一の毛孔の中より、大光明海を放ちて、衆生の煩惱を除けり、
此の法門に依るが故に、一一の毛孔の中より、無量の身を出化し、法雨をもつて衆生を濟へり。
此の法は思議し難く、菩薩の修學する所なり、此の法門に依住して、來劫を盡して修行せり、
諸の邪見を除滅して、應化の衆生に隨ひ、悉く一切種智の地に、安住することを得しめ、
不可思議の趣に、種種の身を顯現し、其の所應化に隨ひて、爲めに法を演說せり。』

『佛子よ、我唯此の法門を成就せるのみ。諸の大菩薩は、世間を超出して普く諸趣を照し、悉く能く一切の境界を究竟して、障礙の山を壞り、法相に了達して、善巧の方便をもつて諸法を分別し、法の無我なることを解りて、衆生を攝取し教化し度脫し、皆悉く三世の法界を了知し、善く一切の語言道海を知る。我當に云何んぞ能く、是の如き大智慧の海・大智の境界・三昧解脫の法門自在に入るべき。

(四)善男子よ、此の閻浮提に一園林有り、(五)流彌尼と名け、彼に天有り妙德圓滿と名く。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を行じ、如來の家に生れ、世間の燈と爲り、盡未來劫に菩薩の行を修して、心に疲倦無きや」と。』

時に善財童子は、頭面に彼の夜天の足を敬禮し、繞ること畢りて辭退せり。爾の時に善財童子、正

【四】第九、善慧地の善友を明かす。

【五】流彌尼(Lumbini)又は藍毗尼とも書く、釋尊の降誕し給ひし園林の名なり。

念に彼の夜天の教を思惟し、應に化すべき所に隨つて衆生を覺悟し善根を長養する法門を、修習し增長して、漸漸に遊行して、彼の林中に至り、周徧して妙德圓滿林天を推求せしに、衆寶の樓閣の上に坐したまふを見る。二萬那由他の諸天に圍繞せられ、爲めに菩薩受生海經を說き、如來の家に生れ、菩薩の功德を長養せしめたまへり。爾の時に善財頭面に足を禮し白して言さく、『天神よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せり、云何んが菩薩は菩薩の行を行じ、如來の家に生れ、世間の燈と爲るや。』

答へて言はく、『〔六〕佛子よ、菩薩に十種の受生法有り、若し菩薩有りて是の法を行ぜん者は、如來の家に生れ、念念の中に於て善根を長養し、退かず怖れず、惱まず亂れず、懈らず悔いず、一切智に至り、法界を順知し、解脫の道を修し、一念の中に於て一切の諸波羅蜜を長養し、世間を捨離し、佛地を具足し、智慧猛盛にして佛法現前し、眞實の義に順じて薩婆若を滿せん。何等をか十と爲す。所謂る、一切の佛を供養する方便虛空願藏菩薩の受生法。菩提心の枝藏を滿ずる菩薩の受生法。現前に方便して寂滅虛空藏を觀察する菩薩の受生法。淨直心を以て普く三世藏を照す菩薩の受生法。普く一切藏を照す菩薩の受生法。如來の家藏に生ずる菩薩の受生法。佛の光明力藏の菩薩の受生法。薩婆若門藏を具足し分別する菩薩の受生法。一切法界に莊嚴藏を化する菩薩の受生法。勇猛精進して佛地の藏に至る菩薩の受生法なり◎佛子よ、何等

【六】以下、正しく己が法界を授く、文段前に准じて知れ。

をか一切の佛を供養する方便虚空願藏の受生法と爲す。此菩薩摩訶薩は、是の如きの願を發すらく、「我當に一切の諸佛を恭敬し供養し、無量の喜心をもつて佛を見たてまつりて厭くこと無く、不壞の信を具へ、功德を積集し、諸佛を供養したてまつりて、心に厭足すること無からん」と。佛子、是を初の受生法と爲す、薩婆若の初門にして、善根を長養するが故なり。

佛子よ、何等をか菩提心の枝藏を滿足する受生法と爲す。此の菩薩摩訶薩は、阿耨多羅三藐三菩提心を發して、大悲の心を起す、一切の衆生を救護するが故に。佛に値遇するの心、常に佛を見たてまつるが故に。正法を求むる心、惜む所無きが故に。大莊嚴の心、薩婆若に向ふが故に。大慈を發す心、普く一切の衆生を覆ひ攝取するが故に。一切衆生を捨てざる心、薩婆若の莊嚴は壞す可からざるが故に。諂曲を離るるの心、實智を得るが故に。說の如く行ずる心、菩薩の道を得るが故に。一切の佛を欺かざる心、諸佛の大誓願を滿足するが故に。薩婆若の爲めに大願を發す心、未來の一切衆生を敎化するが故に。是の如き等の佛刹の微塵に等しき菩提心の枝、滿足して如來の家に生れん。佛子、是を第二の受生法と爲す。

佛子よ、何等をか現前に方便して寂滅虚空藏を觀察する受生法と爲す。此の菩薩摩訶薩は、寂滅なる一切の法海を觀察する心。一切智の道を究竟し滿足して疲倦せざるの心。善法の業海を正念するの心。一切の菩薩の諸の三昧海の淸淨心。一切の菩薩の諸の功德を具する心。一切の菩薩の莊嚴道を

出生する心。無量劫に於て勇猛精進して休息せざる心。普賢の行を出生して一切衆生を化する心、善く威儀を學び、菩薩の德に住し、一切の諸有は悉く有に非ざる心を起す。佛子、是を第三の受生法と爲す。

佛子よ、何等をか淨直心を以て普く三世藏を照す受生法と爲す。此の菩薩摩訶薩は、淨き直心界に佛の菩提を照し、深く菩薩の方便法海に入り、深心壞せざること猶ほ金剛の如く、一切の有と、諸の生死の趣とに背き、一切の佛に向ひ、自在力を具へ、諸の勝道に趣き、菩薩の根を增長し、垢を離れたる淨心は動轉す可からず、大願を長養して常に諸佛の護念する所と爲り、一切諸の障礙の山を壞散して、悉く衆生の爲めに歸依と作る。佛子、是を第四の受生法と爲す。

佛子よ、何等をか普く一切藏を照す受生法と爲す。此の菩薩摩訶薩は方便を具足して、衆生を教化し、財利を貪らず、清淨の心を以て悉く一切を捨て、無量の淨戒を持ち、佛の境界に住し、忍法を具足して、一切の佛の忍光明の法を得、勇猛精進して一切智の境界を究竟し、諸禪を修習して清淨圓滿なる普門の三昧智慧を具足し、明淨の慧日を以て普く法界を照し、無礙の眼を得て、一切の佛海を見、深く一切諸法の源底に入り、智者に讚められ、衆生をして歡喜して正法を修習し、眞實相を見しむ。佛子、是を第五の受生法と爲す。

佛子よ、何等をか如來の家藏に生ずる受生法と爲す。此の菩薩摩訶薩は如來の家に生れ、諸佛の教

に隨ひ、一切の甚深の法門を具足し、三世の一切諸佛の大願に同うし、三世の一切諸佛の善根に同うし、三世の一切諸佛の法身に同じうし、世間を遠離して、離世間の趣に向ひ、白淨の法を長養して、大功德の法門に住し、佛の持定を得て諸の如來を見たてまつり、應に化すべき所に隨ひて諸の衆生を淨め、大願を捨てず、法を聞きて受持す。佛子、是を第六の受生法と爲す。

佛子よ、何等をか佛の光明力藏の受生法と爲す。此の菩薩摩訶薩は、深く佛力に入り、徧く十方に遊び、諸佛を供養して心に疲倦無く、一切の法は幻の如く夢の如く、色は電光の如しと知り、化の如き自在の通明を成就し、一切の有と、生趣とは影の如しと知り、一切の佛の轉じたまふ所の法輪は皆悉く響の如しと知り、悉く究竟して一切の法界を說く、佛子、是を第七の受生法と爲す。

佛子よ、何等をか薩婆若門藏を具足し分別する受生法と爲す。此の菩薩摩訶薩は、童子の身を以て菩薩の住に住し、薩婆若を觀じ、無量劫に於て一一の諸の智慧門を觀察し、劫は猶ほ盡す可くとも、諸の智慧門は窮盡す可からず、菩薩の自在の境界と、諸の三昧門とを究竟し、念念に悉く十方の佛の所に詣で、不可壞の三昧の境界、不可壞の法、不可壞の智に入り、無邊の境界に非境界を得、少境界に於て悉く具足して不可說の地を得、無量の中に於て有量の法を得、諸の世間は假名の施設なりと知り、一切の語言の法を分別す。佛子是を第八の受生法と爲す。

佛子よ、何等をか一切法界に莊嚴藏を化する受生法と爲す。此の菩薩摩訶薩は、種種に無量の佛剎

を莊嚴し、衆生究竟し、諸の變化身と、佛の應化身とに依止する所無く、淸淨の法化は悉く一切の無礙法界に行はれ、應に化を受くべき者には、彼が爲めに身を現じて、種種諸の菩薩の行を敎示し、善能く諸の障礙を離れたる一切智の門を出生し、淨き智慧藏をもつて衆生を敎化し、未だ嘗て時を失はず。佛子、是を第九の受生法と爲す。

佛子よ、何等をか勇猛精進して佛地の藏に至る受生法と爲す。此の菩薩摩訶薩は、悉く三世の諸の如來の所に於て灌頂の法を受け、一切世界の境界に障礙無く、菩薩は悉く三世の衆生の此に死し彼に生ることを知り、菩薩の行を修し、諸の衆生の心の次第に起ることを知り、三世の佛の次第に正覺を成じたまふ善巧の方便を知り、法の次第を知り、一切劫の次第に成敗することを知り、應に隨ひて衆生に莊嚴を顯現して、等正覺を成じ、次第に正法輪を轉ずることを顯現して、無量無邊の衆生を敎化す。佛子、是を第十の受生法と爲す。

菩薩摩訶薩は是の法に住し已りて、種種に一切の佛刹を莊嚴し、無量の億劫、無量の法海、無量の境界に衆生を敎化し、無量なる諸の法界流を覺悟し、諸佛の不可思議なる虛空に等しき如き深法の境界を顯現し、無量の諸行をもつて、衆生を攝取して轉法輪を現じ、一切の世界に於て佛法を護持し、悉く一切の境界に於て、微妙の音を以て不可說の佛の正法雲を說き、諸の法門に住し、無礙の道に趣き、一切法を以て道場を莊嚴し、應に度すべき所に隨ひて、佛と成りて世に興り、無邊の衆生を敎

化し成就す。』

時に彼の林天、重ねて此の義を明さんと欲して、偈を以て頌して曰はく、

〔一〕『清淨なる正直心は、先に是の如きの願を發すらく、「普く一切の佛を見て、供養したてまつりて厭足無けん」と。

【七】重頌、次第に前の十法を頌す。

皆悉く淨く、三世の諸の佛刹を莊嚴し、願を以て心を莊嚴し、諸の群生を度脱す。

寂滅の法を修習して、其の心に厭足無く、三世に障礙無く、身心は虛空の如し。

深く大悲の海に入り、直心は須彌の如く、大智の海を窮め盡す、是を人中の雄と爲す。

大慈一切を覆ひて、諸度の海を增廣し、諸の群生を教化す、此は是れ無上の人なり。

法の眞實相を知り、三世の佛の家に生れ、諸の法海を究竟す、是を智慧の者と爲す。

清淨の妙法身は、其の心に障礙無く、己身は十方に滿ちて、如來の力を具足す。

甚深の智慧の中に、自在の力を逮得して、專ら一切智を求め、三昧海を究竟す。

諸の佛刹を嚴淨し、一切の衆を教化して、自在の力を顯現す、是を稱莊嚴と爲す。

淨く最勝の力に入り、薩婆若を長養し、法界に障礙無し、此は是れ眞の佛子なり。』

『佛子よ、菩薩摩訶薩は、此の十法を具へて、如來の家に生れ、世間の燈と爲る。佛子よ、我此の無量の境界自在の法門を成就せり。』

爾の時に善財白して言さく、『天神よ、此の法門は境界云何ん。』

答へて言はく、『佛子よ、我已に一切の菩薩の受生の大願を具足せり。是の故に、我此の林中に來生す。本願力の故に、菩薩の受生の法を正念し、後百年に於て、菩薩は彼の兜率陀天より、降下して下生せん。時に此の林中に十種の瑞相有り。何等をか十と爲す。一には此の林は忽然として廣博となり地の平なること掌の如し。二には土石雜穢は變じて金剛衆妙の莊嚴と爲る。三には寶婆羅樹周匝して行列す。四には時に此の林中に沈水末香、諸天の種種の莊嚴に出過す。五には諸の妙華鬘の寶莊嚴具は皆悉く充滿す。六には諸の寶樹の中より、自然に種種の妙寶を流出す。七には諸の池水の中より芙蓉の華を出だす。八には時に此の林中の娑婆世界に、欲色の諸天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽は、恭敬して禮を作し、合掌して住す。九には天女、乃至摩睺羅伽女は供養の具を齎し、合掌し恭敬して一面に於て住す。十には十方一切の佛の齋中より、光明を放つ、名けて菩薩の受生自在燈と曰ひ、普く此の林を照す。彼の一一の諸の光明の中に於て、一切の佛の受生自在、出家自在、一切の菩薩の功德自在を現ず。又如來の微妙なる音聲を出だす。佛子よ、是は爲林中の十種の瑞相なり。此の相の現ずる時、諸の天王等は必ず當に菩薩有りて下生すべしと知る。我此の瑞を見て歡喜すること無量なり。』

佛子よ、摩耶夫人は迦毘羅城を出でて、此の園林に入り、太子を生みし時、自然に十種の光明有

り、此の光に因るが故に。一切の衆生は法の光明を得たり。何等をか十と爲す。所謂る、寶芽藏の光、一切香の光、鉢曇摩の光、微妙の聲を出だして善生を讃ずる光、十方の菩薩の初發心の光、一切の菩薩諸地に得入する自在法の光、一切菩薩の諸波羅蜜大智慧の光、菩薩の無量の大智願を出生する光、方便をもつて衆生を化度する智光、普く一切の法界を照す諸佛の受胎・出生・棄家・學道・成正覺の光なり。佛子、是は爲十種の光明なり。此の光は普く無量無邊の諸の衆生の心を照せり。

佛子よ、摩耶夫人は此の林中に於て、(八)畢利叉樹下に在りて坐せる時、菩薩の十種の受生自在を現ず。何等をか十と爲す。爾の時に欲界の一切の天王・天子・天女、色界の諸天及び龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽、並びに其の眷屬は、皆悉く雲のごとく集れり。彼の菩薩を供養せんと欲するが爲めの故なり。爾の時に摩耶夫人は大功德妙色の光明を放ちて、普く一切を照し、其の餘の光明は悉く蔽はれて現はれざること、猶ほ聚墨の如く、衆生の一切の煩惱、一切の惡道の苦を除滅せり。又一切諸の毛孔の中に於て大光明を放ち、普く十方を照して障礙する所無し、是を菩薩の第一の受生自在と爲す。◎復た次に佛子よ、摩耶夫人の腹内に、悉く能く三千大千世界を容受し、又能く百億の四天下を顯現し、彼の百億の閻浮提の中に於て、王都・京邑・所住の園林、名字各異れり。摩耶夫人は徧く彼の處に坐して、諸天に圍繞せられ、悉く爲めに不可思議なる智慧の自

【八】畢利叉。鉢刺叉、又は畢刺叉(Vilaksa)と云ひ、義翻して高顯樹となす、釋尊は此の樹下に於て生れ給ひしなり。

在を顯現す。是を菩薩の第二の受生自在と爲す。復た次に佛子よ、摩耶夫人の一一の毛孔の中に、如來過去世に於て菩薩爲りし時、諸佛を恭敬し尊重し供養し、彼の諸の如來の說きたまひし所の正法を、毛孔の中に於て皆悉く聞くことを得るを顯現す。譬へば明鏡、淨地水の中に日月の像を見るが如し。摩耶夫人の諸の毛孔の中に、如來の過去世に於て菩薩爲りし時、諸佛を恭敬し尊重し供養し、彼の諸の如來の說きたまひし所の正法を、皆悉く聞くことを得るを顯現するも亦復た是の如し。是を菩薩の第三の受生自在と爲す。復た次に佛子よ、摩耶夫人の一一の毛孔の中に、如來の、過去世に諸の世界の中の城邑・聚落・山林・河池、一切諸の所に於て、菩薩の行を行ぜしことを顯現し、彼の諸劫に隨ひて値ひたてまつりし所の諸佛の淸淨の善根・壽命・名號と及び善知識との是の如き等の事を皆悉く顯現し、菩薩は彼の諸の受生の時に於て、摩耶夫人は常に其の母と爲る。是を菩薩の第四の受生自在と爲す。復た次に佛子よ、摩耶夫人の一一の毛孔の中に、如來の過去世に於て菩薩爲りし時、其の身色の相、行業の威儀、受けし所の苦樂を顯現す。是を菩薩の第五の受生自在と爲す。復た次に佛子よ、摩耶夫人の一一の毛孔の中に、如來の過去世に於て菩薩爲りし時、行ぜし所の布施を顯現し、身體・手足・眼耳鼻舌・骨齒髓腦・心血皮肉・妻子眷屬・城邑聚落・宮殿寶物、一切の內外のもの、幷びに諸の受けし者を、皆悉く顯現し、又求むる者の言ひし所の音聲を聞く、是を菩薩の第六の受生自在と爲す。復た次に佛子よ、摩耶夫人の身中より、普く過去の諸佛の本菩薩の最後生と爲り、

し時、莊嚴せる佛刹・衆生・樹林・華鬘・諸の香・塗香末香・摩尼寶王、娛樂讃歎を出だし、是の如き等の事は此の林に充滿して、皆悉く見聞す。是を菩薩の第七の受生自在と爲す。復た次に佛子よ、摩耶夫人の身中より、又諸天の宮殿・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽、及び人の宮殿を出だし、衆寶をもつて莊嚴し、妙香普く熏じ、能く壞る者無く、諸天に出過す、彼の菩薩を供養せんと欲するが爲めの故に、此の林に充滿す。是を菩薩の第八の受生自在と爲す。復た次に佛子よ、摩耶夫人の身中より、又十不可說の億那由他の世界の微塵に等しき菩薩を出だし、其の身の色像は相好をもつて莊嚴し、光明自在なり、及び其の眷屬も、皆悉く彼の盧舍那佛に同じ。是の諸の大士は彼より出で已りて、菩薩を讃歎す。是を菩薩の第九の受生自在と爲す。復た次に佛子よ、菩薩の生る時、摩耶夫人の前の地の金剛輪の中に於て、大蓮華を生じ、金剛を莖と爲し、十世界微塵に等しき寶葉有り、摩尼寶王を以て其の臺と爲す、衆寶香鬘あり、阿僧祇の寶網を以て、其の上に羅覆し、一切の天王共に執持する所なり、一切の乾闥婆王は、普く香雲を雨らして過去の諸佛の功德を讃歎し、一切の夜叉王は圍繞し守護して、自然に衆の妙寶華、娛樂の音聲を出生し、一切の阿修羅王は皆悉く降伏して頭面に敬禮し、一切の迦樓羅王は寶の繒旛を以て虛空を莊嚴し、一切の緊那羅王は歡喜し諦觀して、心に厭足無く、菩薩の功德を讃歎し歌頌し、一切の摩睺羅伽王は歡喜踊躍して、普く種種の莊嚴の雲を雨らす。是を菩薩の第十の受生自在と爲す。佛子よ、摩耶夫人、菩薩を生みし時は、虛空の中に

明淨の日を現じたるが如く、雷電の光の如く、山の雲を起すが如く、闇中の燈の如し。菩薩爾の時に生を現出すと雖も、而も悉く一切の諸法は電・夢・幻の如く、不來不去、不生不滅なりと解達せり。佛子よ、我一念の中に悉く菩薩の此閻浮提に受生すること自在、出生すること自在なるを知る。亦百億の閻浮提に受生すること自在、出生すること自在なるを知る。亦三千大千世界の微塵に等しき佛刹、十佛世界の微塵に等しき佛刹をも知る。乃至悉く一切世界の微塵に等しき佛刹に、菩薩の受生すること自在、出生すること自在なるを知るも、亦復た是の如し。』

爾の時に善財、圓滿妙德林天に白して言さく、『天神よ、此の菩薩の受生自在の法門を得たまひてより、其已に久如しきや』。

答へて言はく、『佛子よ、乃し往古の世、億の佛刹の微塵に等しき劫を過ぎて、劫有り可悅樂と名け、彼に世界有り一切寶と名け、彼の劫の世界の中に八十那由他の佛有して、世に出興したまひ、其の最初の佛を不可壞自在幢王と號けたてまつりき。彼の世界の中の一閻浮提に、一王都有り莊嚴幢と名け、王を寶炎眼光と名け、第一の夫人を善喜光と名けたり。此の世界にて摩耶夫人は盧舍那佛の母と爲るが如く、彼の世界の中にて、善喜光夫人は最初の如來の母と爲ることも亦復た是の如し。善喜光夫人の菩薩を生みし時、二百萬那由他の諸の婇女衆と與に金色園林に詣り、寶樹の枝を攀て彼の如來を生みたまへり。時に乳母有り離垢光と名く。諸の天王等は雜香の湯を以て太子を洗浴し、抱きて

乳母に授く、乳母敬ひて受け歡喜すること無量にして、卽ち菩薩の普眼境界の三昧を得たり。三昧を得已りて、十方の佛を見たてまつるに障礙する所無く、復た菩薩の受生自在の法門を得たり。佛子よ、譬へば初め受胎の識の、速疾に無礙なるが如く、此の法門を得て、一切の佛の受生自在を知ることも亦復た是の如し。佛子よ、意に於て云何ん。彼の乳母は豈異人ならんや。我が身是なり。我是より來、念念に常に菩薩の受生自在の法海と、盧舍那佛の衆生を敎化したまふ自在の神力とを見たてまつる。佛子よ、我念念の中に悉く三千大千世界の微塵に等しき淨智慧の眼を得て、常に一切世界の微塵に等しき刹と、及び彼の諸佛とを見たてまつり、彼の如來の自在受生を知る。又復た盧舍那佛の初發の大願を了知し、乃至悉く十方の諸佛の初發の大願を知ることも亦復た是の如し。亦彼の諸の如來を恭敬し供養し、彼の佛の說法を我悉く聞くことを得て、受持し修行せり。』

時に彼の林天、佛の神力を承けて、十方を觀察し、重ねて此の一切の境界菩薩の受生自在の法門の義を明さんと欲するが故に、偈を以て頌して曰はく、

『佛子よ汝が問ふ所の、最勝の寂滅の境を、一心に善く諦聽せよ、我今因緣を說かん。
億の刹塵劫を過ぎて、劫あり可悅樂と名け、八十那由他の、如來世に出興したまひき、
最初の如來を、無壞自在幢と名く、我時に彼の佛の、金色林の中に生れたまへるを見たてまつりき、

乳母は離垢光なり、今は則ち我が身是なり、太子の金色の身を、天王抱きて我に授けたり、無上人を敬愛して、不見頂を觀察したてまつり、圓かなる體は思議し難く、之を觀るに厭き足ること無し、

離垢の淸淨身は、相好をもつて自ら莊嚴し、我妙寶の像を見たてまつりて、歡喜の心無量なり、

思惟をもつて思議し難く、功德海を長養し、彼の自在力を見たてまつりて、我菩提心を發せり、

專ら佛の功德を求め、諸の願海を具足し、諸の世界を嚴淨し、三惡道を遠離す、

諸の世界の中に於て、一切の佛を供養したてまつり、專ら大願海を求めて、衆生の苦を除滅し、彼の初の佛の法を聞きて、此の法門を成就せり。

我億刹の塵、一切諸劫の中に於て、菩薩の行を修習し、此の法門を嚴淨せり、

彼の劫中の諸佛を、我已に悉く供養して、其の正法を守護し、法門海を淨修せり、

億刹の塵に等しき劫に、諸佛世に出興したまひ、彼の正法輪を持して、議り難き法門を修せり、

一念に悉く、一切刹の微塵を了知し、一一の微塵の中に、無量の刹海を見る、

彼の佛の初め生れたまひし時、自在力を顯現したまへるを、我一念の中に於て、皆悉く分別して見る、

不可思議の刹に、彼の諸の菩薩は、或は兜率天に處して、専ら佛の菩提を求むるを見る、
無量刹海の中に、彼の生は自在にして、無量の衆に圍繞せられ、其が爲めに法を說きたまふを見る、
一念の中に悉く、無量なる諸の刹海の、一切諸の菩薩は、出家して道場に詣り、
不可思議の刹に、最正覺を成ずることを得、諸の方便を顯現して、衆生の苦を除滅し、
一一の微塵の中に、無盡の法輪を轉じ、無盡の妙音海をもつて、普く甘露の法を雨らすを見る、
念念の中に悉く、一一の微塵の中の、億刹の塵に等しき佛は、般涅槃を示現したまふを見たてまつる、
無量の刹海に、如來の初めの受生を見たてまつり、一一の諸佛の所にて、無量の身をもつて供養せり、
不思議の刹海の、無量なる諸の群生に、我諸の方便を以て、爲めに甘露の法を說けり。
佛子よ、我此の、不思議の法門を知る、無量なる諸の劫數に、稱讃すとも盡す可からず。』
『佛子よ、我唯此の菩薩受生自在の法門を知るのみ◎ 諸の大菩薩は、能く諸劫を以て一念の藏と爲し、一切諸の妙方便を顯現し、諸佛を供養し、大願を滿足し、一切諸佛の正法を覺了し、一切諸趣の受生を示現し、諸佛の所に生れて衆生を敎化し、未だ曾て時を失はず。衆生の爲めに受生の自在を

現じ、諸佛の刹に於て自在雲を現じ、常に一切諸の如來の家に生る。我當に云何んぞ彼の諸の功德を能く知り、能く說くべき。

(九)佛子よ、迦毘羅城に釋迦女有り、名けて(一〇)瞿夷と曰ふ。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は生死の中に遊びて衆生を敎化するや」と。』

時に善財童子は、頭面に彼の林天の足を敬禮して、繞ること畢りて辭退し、彼の城に向ひ、正念に明淨なる菩薩の受生自在の法門を思惟し增廣し、漸漸に遊行して、菩薩會の莊嚴講堂の離憂妙德天の所に至れり。爾の時に彼の天は一萬の諸天を以て眷屬と爲し、來りて善財を迎へ、白して言さく、『善く來れり、大智慧の人よ、不思議なる菩薩の法門を修し、淨直心を以て大願を滿足し、菩薩の行を廣め、正法の城に向ひ、菩薩の無量の方便を究竟す。我仁者を觀るに、勇猛精進して、菩薩の道を修し、心に懈倦無く、威儀庠序として、諸根調伏せり。久しからずして必す當に無上淸淨に莊嚴せる佛の身口意を逮得すべし。相好をもつて身を嚴り、十力の智慧をもつて其の心を莊嚴し、十方に遊行して衆生を敎化すべし。我仁者を觀るに、修行の勇猛精進力の故に、必す當に三世の諸佛を見たてまつりて、諸の如來の一切法雲を受け、菩薩の禪定の法門、寂滅の法を修習し、甚深の如來の法門に入ることを得べし。何を以ての故に、善知識に詣でて親近し供養し、正念に善知識の敎を思惟

【九】第十、法雲地の善友を明かす。

【一〇】瞿夷（Gopikā）又は瞿毘耶、瞿比迦と書し、明女と譯す、悉達太子の夫人なり。

し、退轉疲倦の心有ること無く、障礙を除滅し、諸魔を降伏して能く壞する者無く、一切の衆生をして歡喜を得しむるが故なり』と。

善財答へて言はく、『天の說きたまふ所の如し。我が願は是の如し。一切の衆生をして歡喜して、煩惱・諸の不善法を除滅し、善法を具足し、安隱の樂を得しめんと欲するなり。一切の衆生は、衆の惡業と煩惱の結とを以ての故に、三惡道に入りて無量の苦を受く、菩薩見已りて憂悲の心を起す。譬へば人有り、唯一子のみ有りて、愛念の情重きに、忽ち人有り來りて其の身の肢節手足を割截せんに、慈父見已りて、悼惻悲念するが如し。菩薩若し衆生の惡業の緣、煩惱の結を造るが故に、三惡道に入りて無量の苦を受くるを見ば、是の如きを見已りて、痛心悲念することも亦復た是の如し。菩薩若し衆生の身口意の諸の善業を具ふるが故に、天人の中に生れ、身心の樂を受くるを見ば、是の如きを見已りて、歡喜すること無量なり。何を以ての故に、菩薩摩訶薩は自の爲めの故に薩婆若を求めず。生死の五欲の快樂を貪らず、心想の諸見・顚倒・結使・纏縛・貪愛・邪見に隨はず、衆生の種種の樂想に著せず、禪味に著せず、結礙を爲して生死に流轉せず。菩薩は但諸の有海の中の一切衆生、無量の苦を受るを見て、大悲の願を發して之を攝取す。常に大悲大願の力を以ての故に、菩薩の行を行じ、諸佛を供養し、薩婆若を求め、衆生をして煩惱を遠離し、佛の世界を淨めしめ、一切の惡心の衆生を調伏して、悉く淸淨の身心を具足し、菩薩の行を行じて疲倦無からしめんと欲す。若し菩薩有りて是の如く行

せば、悉く能く一切の衆生を莊嚴せん。天人の樂を出生し長養するが故に。父母と爲りて、皆菩提心を安立せしむるが故に。養育と爲りて、皆菩薩の道を究竟せしむるが故に。衞護と爲りて、皆三惡道を遠離せしむるが故に。大船師と爲りて、皆生死の海を度ることを得しむるが故に。歸依と爲りて、諸魔煩惱の怖を捨てしむるが故に。導師と爲りて、皆淸涼の處を逮得せしむるが故に。知濟と爲りて、皆佛刹海に度ることを得しむるが故に。主藏臣と爲りて、皆法寶の洲に入ることを得しむるが故に。淨妙の華と爲りて、一切の佛の功德の華を開かしむるが故に。大光明と爲りて、普く功德の智慧光を放つが故に。歡喜と爲りて、皆端嚴にして勝殊妙ならしむるが故に。所尊と爲りて、一切諸の惡業を遠離するが故に。普賢と爲りて、一切諸の功德を具足するが故に。燈明と爲りて、常に智慧の淨妙なる光を放つが故に。慶雲と爲りて、常に一切の甘露の法を雨らすが故なり。天神よ、菩薩摩訶薩は、是の如く行せば、一切の衆生悉く皆愛念せん、正法を樂ふが故に。』

爾の時に善財は、將に法堂に昇らんとす。彼の離憂妙德天は、百萬の眷屬と與に、各各妙香華鬘、及び諸の雜寶を齎持し、善財の上に散じて、偈を以て頌して曰はく、

〔二〕『無量無數劫に、世燈或は出世し、普く衆生の爲めの故に、正しく佛の菩提を求む、
無量億の諸劫にも、見難く値遇し難き、功德日は今出でて、世閒の闇を照除したまふ、

【二】十偈あり、初の三は利生行、次の一は求友行、次の三は無礙行、後の三は勇猛行を歎ず。

諸の衆生の類を見るに、愚惑癡に覆はるるに、廣く大悲の心を發して、專ら無師の道を求む。
淸淨の正直心は、身と壽命とを惜まず、善知識に親近して、專ら佛の菩提を求む。
一切所依無く、世間に著せず、離垢の淸淨心は、無礙なること虚空の如し、
諸の菩薩の行を行じて、妙功德を具滿し、大智慧の光を放ちて、普く一切世を照す、
世間を離れず、亦世間に著せず、世を行くに障礙無きこと、風の虚空に遊ぶが如し。
譬へば火災起りて、一切能く滅する無きが如く、勇猛精進の火の、道を求むるも亦是の如し、
勇猛の大精進は、一切能く壞る莫し、金剛慧の師子、遊行するに畏る所無し、
一切法海の中の、一切の諸佛海に、善知識に親近して、速かに彼の諸佛を見たてまつらん。』

# 卷の第五十七

## 入法界品第三十四の十三

爾の時に離憂妙德天、偈をもつて讃歎し已りて、法を恭敬するが故に、倶に法堂に昇る。法堂に昇り已りて、周徧して彼の釋迦女を推求するに、卽ち寶蓮華藏の師子の座に坐したまふを見る。八萬四千の衆女に圍繞せらる。皆是れ貴族王者の女にして、悉く過去に彼の菩薩の所に於て、諸の行を修行し、彼の菩薩の一切の善根に同じうし、常に布施愛語を以て衆生を攝取し、薩婆若を求めて、一切を利益し、諸の衆生をして佛の菩提に同せしめ、大悲を首と爲し、普く衆生を念ふこと一子を想ふが如く、大慈を修習して普く一切を覆ふ。過去に已に曾て菩薩の所に於て、不思議の勝妙なる智慧を修し、阿耨多羅三藐三菩提に於て不退轉を得、諸の波羅蜜を具足し成滿し、心に所著無く、直心智慧皆悉く淸淨にして薩婆若を求め、障蓋の網を離れ、諸難を超出し、淨法身を得、普賢の行を行じ、菩薩の一切の諸力を長養し、圓滿なる淨き智慧日を成就せり。爾の時に善財、五體を地に投じ、罹夷を敬禮し、禮すること已りて、合掌して一面に於て住し、白して言さく、

『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ知らず、菩薩は云何んが生死の

中に行きて而も所染無く、一切諸法の實相を覺了して、聲聞緣覺の地を超出し、如來地に住するも、而も菩薩の所行を捨離せず、菩薩の行を修して佛地を離れず、世閒を超出し、法身圓滿にして世に應じて受生し、普く種種諸の方便身を現じ、法の無性なるを知り、一切衆生の身を示現し、甚深の法を解り、妙なる音聲を以て爲めに法を說き、衆生の空なるを知るも、能く諸の世閒を化することを捨てず、一切の佛の不生不滅なるを知るも、而も能く供養して心に退轉無く、業報無きことを知るも、而も善業を行じて休息有ること無きや。』

爾の時に瞿夷、是の如きの言を作さく、『善い哉、善い哉、善男子よ、能く諸の菩薩摩訶薩の所行の法を問へり。普賢の諸の行願を修習する者は、能く是の如く問ふ。諦聽せよ諦聽せよ。善く之を思念せよ。我當に佛の神力を承けて、汝が爲めに解說すべし。善男子よ、若し菩薩有りて十法を成就せば、則ち能く因陀羅網普智光明菩薩の行を滿足せん。何等をか十と爲す。所謂る、善知識に依りて、廣く無量なる諸の弘誓の願を發し、淨き勝妙なる正眞の希望を修し、一切智の功德を集め、佛の出世を聞きて歡喜すること無量にして、心常に樂ひて三世佛の所に住し、一切諸の大菩薩に隨順し、悉く一切の佛の護持する所と爲り、清淨の大悲をもつて、生死を遠離す。是を十法と爲す。若し菩薩有りて、此の法を成就せば、則ち能く因陀羅網普智光明菩薩の行を滿足せん。佛子よ、若し諸の菩薩勇猛精進して、心に退轉無ければ、佛の無盡の法を出生し修習せん。善知識に値ふが故なり。佛子よ、菩薩に

十法有りて善知識に値ふ。何等をか十と爲す。所謂る、身命を惜まず、世の樂を求めず、諸法の相を知りて、而も一切智願を捨離せず、法界を觀察して、三有の海を離れ、依住する所無く、深く一切の菩薩の諸願に入り、普く一切諸佛の世界を照し、菩薩の圓滿なる智慧を淨修す。是を十法の善知識に値ふと爲す。』

爾の時に瞿夷、佛の神力を承けて、十方を觀察し、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

〔二〕知識に諂ふこと無く、智慧廣く無量にして、專ら佛の菩提を求め、
諸の衆生を利益す。
善知識を恭敬して、其の心に佛の想の如くし、勇猛精進の力にて、
因陀網の行を具す。
解脱の心を增廣し、其の量虛空に均しく、三世の佛刹と、及び衆生とを攝取す、
直心は虛空の如く、煩惱の垢を遠離し、佛の功德を出生す、是は爲身雲の行なり、
不思議の智慧は、功德海を積習し、淸淨の福業藏は、世間に染まず、
一切諸佛の所にて、法を聞きて厭き足ること無く、智慧の燈普く照す、是を照世の行と爲す、
一念に皆能く、十方刹海の佛に詣でて、法を聞きて分別して知る、是は爲隨順の行と爲す、

〔二〕十三偈あり、初の二は前次の善知識に依ることを頌し次の九は餘の行を頌し、後の二は行用を結歎す。

佛の眷屬海を見、三昧海を究竟し、諸の大願を滿足す、是れ因陀網の行なり、
未來劫に修行して、諸佛に護念せられ、普く諸の世界を照す、是を法光の行と爲す、
大悲をもつて衆生を見、智日世閒に出で、法光癡闇を除く、是を智日の行と爲す、
諸趣の衆生を見るに、生死の中に回流せり、爲めに淨法輪を轉ず、是を普賢の行と爲す。
智慧の身は無量にして。應に隨ひて示現し、普く一切趣に於て、諸の群生を度脫す、
大慈悲を發起して、普く一切を覆ひ、徧く諸の群生を照し、佛の菩提を得しむ。』

『善男子よ、我已に一切菩薩の三昧海を分別し觀察する法門を成就せり。』

善財白して言さく、『大聖よ、此の法門は境界云何ん。』

答へて言はく、『善男子よ、我是の法門に入りて、此の娑婆世界の衆生、佛刹の微塵に等しき劫の中に此に死し彼に生じ、惡善の業を作して諸の果報を受くることを知る。生死道に在りて生死を出づる者に正定、邪定、及び不定聚あり、有使の善根、無使の善根有り、具足の善根、不具足の善根、不善の善根、善根に攝せらるる不善根、不善根に攝せらるる善根、善根の所起、不善根の所起、一切の善惡を皆悉く了知す。後の諸劫の中に佛世に興りたまふも、我悉く了知す。彼の諸佛の初め道心を發し、菩薩の行を行じ、一切諸の大願海を出生することを行じ、彼の一切の諸佛を供養し、菩薩の行を具し等正覺を成じ、正法輪を轉じ、自在力を現じて衆生を化度することを知る。彼の眷屬の聲

聞緣覺の修行する所、過去に一切の善根を修習して、明淨の智を得、寂滅自在の法門を成就し、種種の自在神力を顯現して、衆生を敎化して般涅槃することを知る。彼の眷屬の諸の菩薩衆、初め道心を發し、善根を修習し、種種諸の大願行を出生し、諸波羅蜜を成就し滿足し、種種菩薩の道を莊嚴し、菩薩の諸地の自在力、菩薩の諸地の住、諸の菩薩地を分別し修習し、菩薩地を淨め、菩薩地、菩薩の諸地の相を修し、菩薩の諸地の智、菩薩の諸攝の智、菩薩の善巧方便をもつて衆生を敎化すること、菩薩の諸住、菩薩の圓滿なる淨行、菩薩の自在行、菩薩の三昧海、菩薩の方便を知り、念念の中に於て悉く菩薩の三昧海、一切種智、電光法雲、諸法忍を得て、一切智底を盡すことを知る。彼の菩薩の諸佛の刹海を知り、法海を究竟し、衆生海を知り、一切の菩薩の法門を修習し、大願を滿足し、種種の自在神力を顯現す、是の如き等の事を、我悉く了知す。此の娑婆世界の如く、十方世界・世界性・世海界・世界輪・世界圓滿・世界分別・世界旋・世界轉・世界蓮華・世界須彌・世界相の中の事を知るも、亦復た是の如し。盧舍那佛の本願力の故に、我悉く深く入り、分別し念知す。何を以ての故に、此の法門は悉く一切衆生の心海を知り、一切衆生の積集する善根を知り、一切衆生の有垢・有淨を知り、一切衆生の性を知り、一切聲聞の三昧自在の法門を知り、一切の緣覺・菩薩・諸佛の三昧、自在の法門を知る。是の如き等の事を悉く分別して知る。』

善財白して言さく、『大聖よ、阿耨多羅三藐三菩提心を發してより來、其已に久如しきや。』

答へて曰はく、「佛子よ、乃し往古の世、世界の微塵に等しき劫を過ぎて、劫有り勝光明と名け、時に世界有り離恐怖と名けき。彼の世界の中に四天下有り、彼の閻浮提の中に一王都有り、妙德樹須彌山と名け、八十の王都に於て最も爲殊勝なり。彼に王有り一切寶主と名け、六萬の婇女、五百の大臣、五百の王子有り、端正勇健にして怨敵を摧伏す。其の王太子を增上功德主と名け、顏貌殊妙にして、相好をもつて身を嚴り、萬の婇女と與に、倶に妙幢蓋を持し、諸の寶華を散じ、諸の妓樂を作し、妙寶の車に乘りて、香牙山に詣り、園林に遊戲せり。時に彼の道路坦然として平正に、種種に莊嚴して、衆の妙華を散じ、寶樹行列し、衆の妙寶の帳を以て其の上に覆ひ、彼の路の側に於て、衆の寶樹、雜種の寶衣、諸の莊嚴具、肴饍飲食を積み、是の如き等の事を、其の須むる所に隨ひて、皆之を給施す。時に母人有り、名けて善現と曰ひ、一りの童女を將ふ、名けて離垢妙德と曰ふ、端嚴姝妙にして、修短所を得、顏容倫無く、目髮は金色にして、脣齒は丹素、口より梵音を出だし、才能は巧妙に、言論は聰辯にして、慈心を修習し、見るもの厭くこと無く、貪恚癡少く、常に慚愧を懷ひ、心に諂曲無し。妙寶の車に乘り、婇女に圍繞せられ、母に從ひて遊觀せり。太子の前むに先ちて、香牙園に至る。太子見已りて、染愛の心を生じ、其の母に語りて言はく、「賢女を娉し以て我が妻と爲さんと欲す」と。母、女に語りて言はく「太子今汝を求めて妃と爲さんと欲す、意に於て云何ん」と。女、母に白して言はく、「若し我をして彼の妃たらしめんと欲せば、當に自ら殞滅すべし」と。母、女に報げて曰はく、「此の言を作

すこと勿れ。所以は何ん。今此の太子は悉く已に轉輪王の相を具足せり、必ず聖主と爲らんには、玉女寶有らん。汝爾の時に當り給使にも堪へず。此の處尊勝なり、難心を生ずること莫れ」と。◎時に彼の園外に一道場有り、法雲光と名く、勝日光如來・應供・等正覺有して、世に出興したまひ、彼の道場に於て、無上道を成じたまへり。時に女は夢に彼の如來の身を見たてまつれり。◎夢より覺め已りて、空中に天有り之に告げて曰はく、「汝夢に見る所は是れ勝日光佛なり。成道したまひてより已來、始めて七日を經、今道場に在して無量の菩薩大衆に圍繞せられたまふ。彼の佛の衆會には、一切の天龍八部鬼神、乃至無量の淨居の諸天・地神・風神・海神・火神・山神・樹神・叢林・藥草・城廓等の神、皆悉く雲のごとく集り、世尊を奉覲したてまつりて正法を聽受せり」と。

【二】十偈あり、初の三は自ら已が德の行侶たるに堪ふることを述べ、後の七は太子の德を歎じて、受納を請ふ。

時に彼の女人、是の語を聞き已りて、太子の所に詣で、合掌して立ち、偈を以て白して言はく、

〔三〕我が色は世間に最れ、智慧倫匹無く、才妙にして言論を善くし、觀る者厭き足ること無し、
太子應當に知るべし、我が心は善く貞潔にして、志尙く心端直に、淸淨にして所染無し、
瞋恚・貪欲及び愚癡を遠離し、眞淨の直心を以て、諸の群生を饒益す。
我太子の身を見たてまつるに、相好自ら莊嚴したまふ、見已りて喜ぶこと無量にして、諸根悉く

調伏す、
妙體は猶ほ淨き金のごとく、髮は美しく紺青の色、額は廣く目は明徹せり、必ず自在王と爲りたまはん、
其の身は金山を踰え、相好自ら嚴飾す、我今太子の所に、合掌し恭敬して住す、
其の目は淨く修くして廣し、方臆は師子の如く、觀る者厭き足ること無し、妙音をもつて應に我を納れたまふべし、
舌相は廣長にして妙なること、猶ほ赤銅色の如く、梵音の聲を演出して、聞く者踊躍して喜ぶ、
口は方に牙は深くして固く、齒は白くして齊密なり、若し觀見るもの有らば、一切皆歡喜せん、
離垢の淸淨身、相を具すること三十二、此の妙相を成就せば、必ず轉輪王と爲らん。』
爾の時に太子、彼の女に語りて言はく、『汝は是れ誰の女にして、誰が爲めに守護せらるるや。若し他に先に屬せば我則ち宜しく染愛の心を起すべからず』と。
爾の時に太子偈を說きて問ふて言はく、
〔三〕『淸淨功德の身、見るもの厭き足ること無し、誰か爲汝の父母にして、誰が爲めに守護せら

【三】十一偈あり、初の四は、己が過を離れたることを彰はし、後の七は勸めて勝行を成ぜしむ。

るや、
若し先に屬する所有らば、我欲想を起さじ、分に非ずして婬心を生ずれば、命終りて惡道に墮せん、
豪貴、種種の富樂の爲めの故に、是の如き等の、放逸貪亂の心を發起すべからず。
種種に邪見を生じ、幻誑にして諸の諂曲あり、是の如くにして諸惡を造らば、世間に流轉せん。
父母知識の所に、應に恭敬の心を起し、慈悲は廣く、一切諸の群萠を覆ひ護るべし、
若し一切處に於て、從ひて法を聞く所の者は、能く諸善を生ずるが故に、應に恭敬の心を起すべし、
一切諸の導師と、正法の菩薩衆と、聖僧の功德海とを、皆悉く應に恭敬すべし、
諸の功德を修習し、一切の惡を遠離し、正法に安住して、廣く菩薩の道を行せよ、
若し歸依無き者には、應に大慈の心を起すべし、諸の三惡道に在るものには、應に大悲の念を發すべし、
一切諸の法界は、成る有れば必ず敗るること有り、捨心をもつて平等に觀じ、煩惱魔に隨ふこと莫れ、
應に菩提心を發して、諸の群生を覺悟し、無量劫に修行して、疲倦の心を起さざるべし。』

時に彼の女の母、偈を說て白して言はく、

〔四〕『唯願はくは太子よ、此の女生れてより來、乃し今長成するに至るまでの、一切諸の因緣を聽きたまへ、

太子よ、所生の日に、女は蓮華より生れ、其の目は淨くして修く廣く、肢節悉く具足せり。

我曾て春月に於て、娑羅の園に遊觀し、諸の卉木を觀見るに、種種の華榮え茂れり、

同遊の八百の女は、容儀悉く端嚴にして、皆已に具足して、諸の巧技能法を知れり、

彼の園に浴地有り、名けて衆莊嚴と曰ふ、我池の岸に於て坐し、婇女衆に圍繞せられき、

時に彼の浴池の中より、千葉の蓮華生じ、寶の葉、瑠璃の莖、閻浮檀金の臺あり、

衆の妙寶の香鬚は普く淨き光明を放ちて、徧く閻浮提を照すこと、猶ほ日の初めて出づるが若し、

時に此の王女、彼の蓮華より生れたることを見、觀る者皆念言すらく、「此れ則ち善業の報なり」と。

目髮は紺青の色にして、其の身は紫金の如く、衆寶を以て莊嚴し、觀る者心に厭くこと無し、

垢を離れ淨くして穢無く、肢節悉く具足せるは、猶ほ眞金の像の、寶蓮華に安處せるが如し、

【四】二十四偈あり、初の二は總じて女の緣を說き、次の六は女の生處を說き、次の五は勝れたる色聲を具へたること、次の四は智德人に過ぐれたること、次の二は世患を遠離したること、後の五は出世の行を具へたることを說く。

毛孔の旃檀香は、普く一切に熏じ、口より蓮華の香を出だし、妙なる梵音の聲を演ぶ、
此れ是の玉女寶は、世間に希に有る所、身相悉く具足し、種種妙に莊嚴す、
一切諸の技術と、世間の言論の法とは、究竟じて悉く縷練せり、願はくは哀みを爲て納受したまへ。
此れ是の玉女寶は、身分悉く圓滿し、功德具はりて莊嚴せるは、宿行の得る所なり、
善く衆生の病と、患を起す所由とを知り、又對治の法を知りて、衆の疑惑を除滅す。
一切の閻浮提の、衆生の語言の法と、種種の妓樂の音とに、善く通達せざる無し、
此の女は功德を修め、女人の法を遠離し、能く衆生の心を轉ず、唯だ願はくは哀みて納受したまへ。
嫉妬の心を捨離し、五欲に醉はず、瞋恚の心を起さず、忍智慧を修習す、
精進にして淨戒を持ち、能く一切の事を辦じ、專ら諸の功德を求む、太子願はくは納受したまへ。
若し諸の貧窮、老病にして衆苦に逼られ、歸依する所無き者を見ば、大悲をもつて普く慈念す、
常に衆生を利せんことを欲ひて、自ら安樂を求めず、功德をもつて身を莊嚴し、一切を饒益す、
諸の威儀の中に於て、常に不放逸を修して、諸の善法を修習し、見る者悅ばざる無し、

功德普く莊嚴し、染汚の心を遠離し、常に善知識を求めて、恭敬し樂ひて供養す、
大慈の法を修習し、怨結の心を棄捨し、智慧與等無し、唯願はくは哀みて納受したまへ。』

爾の時に太子答へて言はく、

「善女よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發し、無量劫に菩薩の行を行じ、一切の功德智慧を積習し、一切の諸波羅蜜を淨修し、一切の諸佛を恭敬し供養し、正法を護持し、一切諸佛の世界を嚴淨し、如來の種をして相續して斷せざらしめ、衆生を敎化して生死の苦を滅し、究竟樂に住せしめんと欲す。衆生をして智慧の眼を淨め、菩薩の道に住し、菩薩の行を修し、一切菩薩の諸地を具足せしめ、一切衆生をして、心大いに歡喜せしめんと欲して、我當に未來劫を盡して檀波羅蜜を行じ、悉く一切の國城妻子、肢節手足、頭目髓腦を捨て、或は家に在ては布施し、家を出でては道を修むべし。汝爾の時に於て障礙を作し、我が道心を壞ること莫れ。」

爾の時に太子重ねて彼の女の爲めに偈を說きて言はく、

【五】七偈半あり前說を頌す。

(五)『衆生を哀愍するが故に、我菩提心を發し、無量無數劫に、智と功德とを積集せん、
無量劫海の中に、諸の大願を修習し、廣く菩薩の行を修め、一切地を具足せん、
三世の諸佛の所にて、六波羅蜜を學び、法を聞きて能く修行し、專ら菩薩の道を求め、
十方垢濁の刹を、我悉く嚴淨ならしめ、諸の群生の、三惡道の苦患を除滅し、

諸の方便力を以て、廣く一切の衆を度し、愚癡の闇を除滅して、一切智の道に住せしめん、
諸佛海を供養し、一切地を淨修し、大慈悲を發起して、内外の一切を捨てん、
若し我、來り求むるものに、妻子諸の眷屬、在家及び出家に施さんに、汝障礙を作すこと莫れ、
若し能く是の如くならば、我則ち汝を納受せん。』
時に女答へて言はく、「敬んで來教に從ひ、乃至出家したまふとも、敢て礙ふること有らじ」。卽ち偈を說きて言はく、

(六)『一切劫海の中に、地獄の火身を燒くとも、若し能く我を眷納したまはば、甘心じて此の苦を受けん、
一切生死の身を、碎末にして微塵の如くするも、若し能く我を眷納したまはば、甘心じて此の苦を受けん、
無量劫に頂に、一切の金剛山を戴くとも、若し能く我を眷納したまはば、甘心じて此の苦を受けん。
一切の生死海に、我を以て施したまふとも悔ゆること無し、若し法王の處を得ば、願はくは我も亦然らしめたまへ、
無量無數劫に、菩薩の道を修行し、來りて我を求むる者有らば、歡喜して願はくは施與した

【六】十四偈あり、初の三は求慕の心堅きこと、次の六は勝行を同じうせんと希ふこと、後の五は佛を說きて往詣を勸む。

まへ、
太子衆苦を見て、菩提の心を發起し、無量の大慈悲をもつて、衆生及び我を攝したまへ、
我豪富を求めず、五欲の樂を貪らず、但願はくは共に法を行じて、太子の妻と爲らん、
廣明の淨眼を修して、慈愍をもつて衆生を觀じ、染汚の心を起さざれば、必ず菩薩の道を成ぜん、
太子遊行の時、地より衆の寶華を出だす、此の相は疑有ること無く、必ず轉輪王と爲りたまはん、
我昔夢に於て、正覺勝日光、菩提樹下に坐したまひ、大衆悉く圍繞したるを見たてまつりき、
夢中に彼の佛を見たてまつるに、手を以て我が頂を摩でたまへり、覺め已りて大いに歡喜し、踊躍すること量有ること無かりき、
空中に時に天有り、名けて淸淨身と曰ふ、彼の天我が爲めに、道場に佛世に興りたまふと說けり、
我是の如きの願を爲せり、「若し太子を見たてまつらば、當に爲めに分別して、勝日光佛の興りたまひしことを說くべし」と、
我昔志願せし所は、今に於て悉く成滿す、唯願はくは倶に往詣して、彼の如來を供養したてま

つらん。』

爾の時に太子、彼の如來世に出興したまひたるを聞き、心大いに歡喜し、踊躍すること無量にして、彼の佛を見たてまつらんと欲し、五百の寶を以て彼の女人に散じ、又妙德光藏淨冏羅寶、並びに妙衣の服を與へたり。時に彼の女の母は、卽ち太子の爲めに偈を說きて言はく、

(七)『今此の玉女寶は功德をもつて身を莊嚴す、我昔志樂せし所の、此の願は今成滿したり、

戒を持ちて放逸ならず、智慧諸の功德は、普く一切世に於て、最勝にして倫匹無し、

此の女は蓮華より生れ、種姓に譏嫌無く、諸の不善を遠離して、太子と志願を同じうす。

此の女の身は柔輭なること、猶ほ天の繒纊の如し、彼の手摩を蒙る者は衆の患悉く除滅せん、

毛孔より出だす所の香は、芬馨倫比無し、衆生若し聞ぐ者あらば、悉く淨戒に住せん、

其の身は淨くして垢無し、譬へば眞金の像の如し、若し視見するもの有らば、害を離れ慈心を具へん、

口より微妙の聲を出だし、聞かんことを樂はざる者無し、若し斯の音を聽くこと有らば、諸の惡業を遠離せん。

【七】十偈あり、初の三は德は太子と同じきことを歎じ、餘の七は三業の勝れたることを歎ず。

心淨くして瑕穢無く、質直にして諂曲無し、其の聞く所の法に隨ひて、說の如く能く修行す、
善知識、及び尊重せらるる者を恭敬して、貪欲の心を遠離し、專ら正法を求む、
此の女の心は、妙色の蓮華より生れたると、世間の諸の榮樂とを恃まず、唯無上道を求むるのみ。』

時に彼の太子、此の女と倶に、幷びに一萬の婇女ありて、香牙園を出で、各寶車に乘り、往きて道場に詣り、車を下りて步を進め、遙かに如來の相好嚴身を見たてまつり、其の心澄淨なること、鏡・淵渟の如く、諸根の調伏せること、猶ほ象王の如くにして、心大いに歡喜し、踊躍すること無量なり。婇女衆と往きて佛の所に詣で、頭面に足を禮して、恭敬し供養し、繞ること無數帀、各各五百の衆妙の寶華を持して、彼の佛を供養したてまつり、彼の如來の爲めに五百の衆香の樓閣を興立し、雜寶をもつて嚴飾せり。時に彼の如來、爲めに普門燈明修多羅を說きたまふ。經を說きたまふを聞き已りて、一切法の中に於て三昧海を得たり。所謂る、諸佛願海三昧、普く三世を照す光藏三昧、一切の諸佛を對見する三昧、普く一切衆生を照す三昧、普く世界海を照す淨智の燈光明三昧、普く衆生の根海を照す智の光明三昧、衆生を救護する光雲三昧、衆生を敎化する現前の智燈明三昧、諸佛の法輪を聞持する三昧、普賢行を具する淨雲三昧なり。一切法の中に於て是の如き等の諸の三昧海を得たり。時に彼の玉女は、諸法の中に於て、不可壞寂靜の法門を得、阿耨多羅三藐三菩提に於て不退轉を得たり。

時に彼の太子、諸の眷屬と彼の如來を禮し、繞ること無數帀にして、辭退して宮に還り、父王の所に詣でて頭面に敬禮して、白して言さく、「大王よ、彼の道場の上に、勝日光佛、始めて正覺を成じたまへり」と。王、太子に問ふ、「誰より聞きしや」と。答へて言はく、「彼の離垢妙德女より聞けり」時に王聞き已りて、歡喜すること無量なるは、猶ほ貧人の大寶藏を得たるが如くにして、是の如きの念を作さく、「佛は無上の寶にして、難値難遇なり、能く衆生の惡道貧苦を滅したまひ、無上醫と爲りて對治の法を善くし、衆生の諸の煩惱の患を除滅し、善導師と爲りて、生死海に於て衆生を濟度し、涅槃の處に置きたまふ」と。是の念を作し已りて、諸の小王、及び諸の群臣、幷びに婆羅門・刹利・居士を召すに、皆悉く集會せり。而して之に告げて曰はく、「我太子の無上なる吉語を聞けり、云はく勝日光佛世に出興したまへり」と。我是を聞き已りて、歡喜すること無量、以て酬報する無し。今王位を捨てて太子に授與すべし」と。王位を捨て已りて、諸の眷屬と與に往きて道場の勝日光佛の所に詣でて、頭面に足を禮し、退きて一面に坐せり。

爾の時に如來、彼の王、及び諸の眷屬を觀察して、白毫相の中より大光明を放ちたまふ。名けて一切衆生心燈と曰ひ、普く十方無量の世界の一切の諸王を照し、如來の不可思議なる自在神力を顯現し、應に化を受くべき者には彼の心を淨めしめ、不可思議の功德を具足して、世間を超出し、其の身淸淨にして、微妙の音を以て、大衆の爲めに離癡翳の法、眞實燈陀羅尼門を說きたまひ、佛刹の

微塵に等しき陀羅尼を以て眷屬と爲す。彼の王聞き已りて、即ち廣大の智慧の光明を得たり。閻浮提の微塵に等しき菩薩も、此の陀羅尼を得、六十那由他の人は諸漏盡くることを得、一萬の衆生は皆離垢清淨の法眼を得、無量の衆生は悉く阿耨多羅三藐三菩提心を發せり。又不可思議なる自在神力を以て、十方刹に於て三乘の法を以て衆生を化度したまへり。

爾の時に彼の王、是の如きの念を作さく、「此の諸の功德は、若し出家せざれば即ち辨ずること能はず。我今應當に如來の所に於て、出家修道すべし」と。前んで佛に白して言さく、「今世尊に從ひ出家學道せん」と。佛、王の言に答へたまはく、「宜しく此の時を知るべし」と。時に王即ち一萬の眷屬と倶に出家して道を修し、皆離癡翳の法、眞實燈陀羅尼門、及び世界の微塵に等しき陀羅尼を得、又菩薩の十明、及び無量の辯と、淨無礙の身とを得たり。諸佛の所に詣でて、悉く佛の正法輪を聞きて受持し、大法師と爲り、神通力を以て、諸の世界に徧く化すべき所に隨ひて、彼が爲めに身を現じ、佛の法と、幷びに諸の過去の菩薩の所行と、菩薩の本生とを讃歎し、又佛の無量無邊の自在神力を讃歎して正法を守護せり。爾の時に太子は、月の十五日、王の道を得たる時に、其の正殿に於て婇女に圍繞せられ、七寶自ら至れり。一に金輪寶、勝自在と名く。二に象寶、名けて靑山と曰ふ。三には紺馬寶、勇疾風と名く。四に神珠寶、光藏雲と名く。五に主藏臣寶、名けて大財と曰ふ。六に玉女寶、淨妙德と名く。七に主兵臣寶、離垢眼と名く。是の七寶を得て閻浮提に於て轉輪王と作れり。時に千の子有り、端正に

して勇猛、能く怨敵を伏す。時に彼の人民は熾盛にして豐樂自在なり。八萬の王城有り。城に各五百の樓閣と、大なる僧伽藍とを建立して、衆寶をもつて莊嚴し、一一の僧伽藍に廣大の塔を起し、一切の衆寶を以て莊嚴と爲し、香華繒蓋をもつて之を供養せり。一一の王城に次第に佛を請し、不思議なる衆妙の供具を以て如來を供養したてまつれり。時に佛城に入りたまひ、無量の衆生は皆大いに歡喜して、善根を長養し、菩提心を發して廣大の悲を以て衆生を饒益し、正しく佛法を求めて眞實の義を知り、平等に三世の諸法を觀察し、明淨の智慧は普く三世を照して、三世の佛の次第に世に出でたまふことを知り、衆生を攝取して菩薩の道に向ひ、菩薩の行を行じ、菩薩の平等の正法に安住し、如來の法輪の智光を逮得し、深く法海に入り、能く己が身に於て一切の刹を見、能く諸根と弘誓の願海とを知り、一切智を得たり。

爾の時に如來次第に彼の諸王の請を受けたまひし時、是の如く無量の衆生を饒益せり。

佛子よ、爾の時の太子増上功德主は、豈異人ならんや。今の釋迦無尼佛是なり。爾の時の王、寶主は、寶華佛是なり。寶華如來は今東方に在す。世界海の微塵に等しき世界海を過ぎて、一世界海有り、法界虚空光雲と名け、中に世界有り佛圓滿光妙德燈と名く、彼に道場有り、名けて一切天王光幢と曰ふ。彼の佛始めて正覺を成じ、不可說の佛刹微塵に等しき菩薩大衆の爲めに圍繞せられて法を說きたまふ。彼の寶華佛、菩薩爲りし時、彼の刹海を淨めたり。彼の刹海の中に三世の諸佛世に出興した

まふは、皆寶華佛の菩薩爲りし時に、敎化して阿耨多羅三藐三菩提心を發さしめたまひしなり。爾の時の女の母善現は、今の我が母善目是なり。王の眷屬は彼の如來の所の大衆是なり、皆悉く普賢の諸行を具足し、大願成就して、淸淨の法身は普く世間を照し、其の心壞すること無く、菩薩の諸の三昧門を逮得し、淸淨の眼を以て皆悉く一切の諸佛を對見したてまつり、一切の如來は虚空に等しき妙音聲雲を以て、正法輪を轉じたまひ、悉く聞きて受持し、諸法の中に於て自在力を得、出入の息の頃に、偏く一切諸佛の世界に遊び、微妙の音を以て衆生の爲めに法を說き、而も未だ曾て一切の佛の所を離れず、未來劫を盡して菩薩の行を修し、化すべき所に隨ひて悉く爲めに身を現ず。爾の時の離垢妙德寶女は、增上功德主轉輪王と共に、四事をもつて勝日光佛を供養したてまつりしは、我が身是なり。

彼の佛の滅度の後に、其世界の中に六十百千億那由他の佛有して世に出興したまへり。其最初の佛を明淨身と名け、次を淨月普照智と名け、次を智觀幢と名け、次を廣智光明王と名け、次を精進金剛那羅延と名け、次を不壞智と名け、次を智普緣と名け、次を淨德智雲と名け、次を師子智光と名け、次を周羅光明と名け、次を功德光幢と名け、次を智日幢と名け、次を開寶蓮華身と名け、次を功德光と名け、次を智光雲と名け、次を普明淨月と名け、次を莊嚴蓋妙音と名け、次を師子勇猛智照と名け、次を法界慧月と名け、次を覺衆生身虚空電光と名け、次を善鼻妙香と名け、次を寂滅響と

名け、次を甘露山と名け、次を法海雷音と名け、次を無壞智音と名け、次を覺空電光周羅と名け、次を月光白毫相雲と名け、次を圓面淨慧と名け、次を善覺智華光と名け、次を寶炎山妙德王と名け、次を廣德夜光と名け、次を妙寶月幢と名け、次を具三昧身と名け、次を勝寶光王と名け、次を現普智光と名け、次を炎海門燈と名け、次を離垢妙音王と名け、次を無等功德と名け、次を勝幢と名け、次を修臂と名け、次を本願淨月と名け、次を眞實智燈と名け、次を法上妙音と名け、次を明淨妙德藏王と名け、次を乘幢と名け、次を法海蓮華と名けたてまつる。佛子よ、彼の一劫の中に是の如く次第に六十百千億那由他の佛世に出興したまひ、我悉く親近し恭敬し供養したてまつれり。其の最後の佛を廣解脫光と名け、彼の佛の所に於て、淨智の眼を得たり。佛子よ、爾の時に彼の佛、初め正覺を成じ、城に入りて敎化したまへり。我時に王の夫人と爲り、彼の大王と與に恭敬し供養したてまつりて、彼の佛の如來性起燈修多羅を說きたまひしを聞けり。聞き已りて淨智眼を得、又觀察菩薩三昧海の法門を得たり。

佛子よ、我此の法門を得已りて、世界の微塵に等しき劫に於て受持し修習し、是の諸劫の中に、無量の佛の世に出興したまひしに値ひて、我悉く恭敬し供養したてまつれり。佛子よ、我或は一劫に一如來世に出興したまひしに値ひて、恭敬し供養し、或は二、或は三、或は不可說、或は一劫に於て世界の微塵に等しき佛の世に出興したまひしに値ひて、我悉く恭敬し供養したてまつり、而も未だ

諸の大菩薩の身量像貌、及び其の身業・心行・智慧三昧の境界を知ること能はず。佛子よ、我若し菩薩の行を修する者を見ば、歡喜すること無量にして、恭敬し供養し、諸の方便を以て之を攝取し、阿耨多羅三藐三菩提に於て不退轉を得しめん。佛子よ、我世界の微塵に等しき劫に於て、諸佛に値遇したてまつりて恭敬し供養し、彼の佛の說法を悉く聞きて受持せん。時に彼の諸佛は、各種種の修多羅を以て我が爲めに此の法門を說きたまへり。我之を聞き已りて、悉く三世の佛刹海の中の諸の如來の所、佛の眷屬の所に於て、此の法門を修し、又菩薩の行を行じ、菩薩の大願海種種の法門の中に此の法門を修せしも、猶ほ未だ普賢菩薩の所行の法門を知ること能はず。何を以ての故に。佛子よ、普賢の法門は猶ほ虛空の無量無邊なるが如く、又衆生及び三世海、十方刹海、及び諸の法界の無量無邊なるが如し。佛子、普賢菩薩の法門は、諸佛の身の境界と齊等なり。我世界の微塵に等しき劫に於て菩薩の身を觀じて心に厭き足ること無し。何を以ての故に。我菩薩の一一の毛孔の中に於て、念念に悉く無量無邊の莊嚴せる世界に、佛道場に坐して等正覺を成じ、大衆の中に於て微妙の音を以て正法輪を轉じ、種種の修多羅、種種の諸乘、種種の清淨を說きたまふを見たてまつるなり。復た次に佛子よ、我菩薩の一一の毛孔の中に於て、念念に悉く、諸の衆生海、各所住有り、及び其の境界諸根は同じからず、三世の中に於て菩提心を發し、菩薩の行を行じ、大願海を具し、諸の菩薩の無量無邊の波羅蜜海、及び諸の菩薩の本生海を淨め、無量無邊の大慈悲海をもつて衆生を攝取し、悉く歡喜せ

しむることを見る。乃至悉く一切の菩薩中宮に現處し、婇女に圍繞せらるることを見る。佛子よ、我菩薩の一一の毛孔の中に於て、皆悉く是の如き等の事を觀見す。

佛子よ、我唯此の法門を知るのみ。諸の大菩薩は、皆悉く諸の方便海を究竟し、一切衆生に等しき身を顯現して、世間に隨順し、一切の毛孔に於て普く一切相海の光明を放ち、法は無性にして、諸の衆生の類は等しく虚空の如く、一切至る處皆悉く如如なりと了り、神變を顯現して、諸の法界に於て自在力を得、普門の一切諸地の法門海中に遊戯せり。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り能く說くべき。』

(八)爾の時に瞿夷、善財に語げて言はく、『善男子よ、此の迦毘羅城に(九)摩耶夫人あり、汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は諸行を修習し、世法に染まず、諸佛を供養し、菩薩の行に於て不退轉を得、障礙を除滅し、他に由りて悟らず、諸の法門に入りて常に能く一切の佛の所に應現し、衆生を攝取して、盡未來劫に菩薩の行を修して退轉せず、究竟じて大乘の諸願を滿足し、一切衆生の善根を長養するや」と。』

爾の時に瞿夷、佛の神力を承けて、重ねて此の義を明さんと欲して、偈を以て頌して曰はく、

『我樂ひて、菩薩の諸行を修行する者を見ば、歡喜の心無量にして、皆悉く之を攝取す。

【八】上來總じて四十一人寄位修行相の善友を明かし竟り、以下會緣入實相の善知識十人を明かす。

【九】摩耶(Māyā)。幻生、大智母等と譯す、釋尊の生母の名なり。

乃昔、久遠の世に、百の刹塵劫を過ぎて、劫有り淸淨と名け、世界を光明と名けき、
爾の時に彼の劫の中に、六十百千億、那由他の諸佛、世間に出興したまひき、
最後の等正覺を、號して法幢燈と名けたてまつる、彼の佛の滅度の後に、王有り智山と名く、
大自在力を以て、王閻浮提を領し、悉く能く廣く、一切諸の怨敵を降伏せり、
王子五百有り、端正にして身は姝妙、其の體は淨く圓滿にして、見る者厭き足ること無し、
深く諸佛の法を信じ、恭敬し供養したてまつり、正法藏を守護し、受持し樂ひて修習せり、
彼の王に太子有り、名けて善光明と曰ひ、三十相をもつて身を嚴り、諸の群生を饒益せり、
五百億の人と倶に、出家して學道を行じ、勇猛精進の力にて、彼の佛の法を護持せり、
王都を智樹と名け、一億の城圍繞す、林有り靜徳と名け、衆寶の樹をもつて莊嚴せり、
善光此の林に住して、廣く佛の正法を說き、辯才究盡すること無く、衆をして悉く淸淨ならしむ、
或は乞食の爲めの故に、彼の王の都城に入るも、庠序として威儀有り、見る者欣ばざる莫し、
遊歩することは師子の如く、志意常に安諦にして、諸根悉く調伏し、念慧現じて前に在り、
爾の時に長者有り、名けて歡喜幢と曰ひ、我は長者の女と爲り、名けて隨順光と曰ふ、
時に我城中に於て、善光明に遇ひ見えしに、相好をもつて身を莊嚴し、歡喜の心無量なり、

次に乞ふて我が門に至る、我染心を以て施し、摩尼莊嚴の具を、彼の善光の鉢に投じぬ。
染愛の心を以て、彼の佛子を供養すと雖も、二百五十劫に、三惡道を經ず、
常に天人の中に於て、尊貴なる王の家に生れ、恒に善光明の、妙相莊嚴の身を見る。
後過る所の劫、二百有五十に於て、善現女の家に生れ、離垢妙德と名く、
我勝自在のものを見て、供養の心を發起し、身と壽命とを惜まず、其の所に隨ひて施與せり。
時に太子と倶に、佛勝日光を觀たてまつり、歡喜の心無量にして、菩提心を發起せり、
彼の劫の最後の佛を、廣解脫光と名けて、世間に出興したまひ、我値ひたてまつりて悉く供養せり。
彼の最後の佛に從ひて、淨智慧の眼を得、諸の法相を了知し、虛妄の倒を除滅せり。
菩薩の、三昧海の法門を觀察することを得て、一念に悉く、不可思議の刹を覩見す。
彼の諸佛の刹を見るに、或は淨く或は垢穢なり、淨に於ても貪り樂はず、穢に於ても憎惡せず、
普く諸の世界に、如來道場に坐したまふを見、一念に諸佛の、不思議の光海を見たてまつる、
亦佛の眷屬を見るに、一切の三摩提と、一切の諸の法門とは、皆悉く障礙無し、
又彼の業行を知り、其の所住の地、及び諸の大願海に隨ひて、一念に悉く了知せり。
我菩薩の身に於て、諸の菩薩等を見、無量劫に修行して、一切能く測る無し。

一一の毛孔に、阿僧祇劫の刹、風輪、水火輪、一切の大地輪、種種の所依の住、世界の形類の相、
諸の妙莊嚴の具、衆生身の差別を見る、
又世界海の、一切諸の世界に、諸佛世に出興したまひ、法を説きて衆生を度したまふを見る、
我無量劫に於て、菩薩の行を修習するも、猶ほ未だ菩薩の、身業心の智慧を知らず。』
時に善財童子は、頭面に彼の瞿夷の足を敬禮し、繞ること畢りて辭退せり。爾の時に善財童子は、是の如きの念を作さく、『我當に云何んぞ善知識に見ゆべき。善知識は世間を遠離して無所住に住し、諸入に著せず、障礙を超出して、無礙の道に趣き、淨法身と、善業の化身とを具へ、明淨の智を以て諸の世間を觀じ、大願成滿して、佛の法身、如意の法身、非生滅の身、非來去の身、非虛實の身、非聚散の身、一切諸相卽一相の身、邊見を離れたる身、所著無き身、窮盡無き身、衆の虛妄を滅して電光の如き身、幻夢の如き身、鏡像の如き身、淨日の如き身、一切諸方に充滿する化身、三世の中に於て壞すること無き法身。非身の身を持し。是の如き等の身は一切世間の見ること能はざる所、唯是れ普賢菩薩のみの所見なり。彼の善知識は無礙の行を行ず。我當に云何んぞ能く見えて親近し、其の相貌を知り、法を聞きて、受持すべき』。是の念を作し已りて、時に城天有り、名けて寶眼と曰ひ、眷屬に圍繞せられ、虛空の中に在りて、善財の爲めに妙莊嚴の身を現じ、天の寶冠と、寶莊嚴の具とを以て善財を供養し、是の如きの言を作さく、

『善男子よ、應に心城を守護すべし、生死を離れんが故に。應に心城を莊嚴すべし、十力を得んが故に。應に心城を淨むべし、慳嫉と諸の諂曲とを遠離せんが故に。應に熾然猛炎の心城を滅すべし、諸禪三昧の法門相續して自在を得んが故に。應に心城を照すべし、常に般若波羅蜜の光を以て、如來海、及び眷屬を照さんが故に。應に心城を長養すべし、諸佛の方便道を攝取せんが故に。應に心城を堅固にすべし、普賢の諸の行願を出生せんが故に。應に心城を修すべし、諸魔・魔民、及び餘の怨敵能く壞ること莫きが故に。應に心城を明かにすべし、諸の如來の智光明を得んが故に。應に無壞の心城を修すべし、能く如來の正法雲を受けんが故に。應に心城を具足すべし、己が心に悉く一切如來の功德海を受けんが故に。應に心城を廣くすべし、大慈普く一切の衆生を覆はんが故に。應に心城を蓋ふべし、法を以て普く不善を覆障するが故に。應に心城に進むべし、無量の大悲をもつて一切衆生を救はんが故に。應に心城の門を開くべし、正しく一切三世の佛を念ぜんが故に。應に心城に達すべし、悉く諸佛の轉じたまふ正法輪修多羅の法門は因緣より起ると知るが故に。應に心城の道を知るべし、一切智の道を開示し顯現せんが故に。應に心城を持すべし、三世佛の諸の願海を具するが故に。應に心城の力を知るべし、法界の功德力を長養せんが故に。應に心城の普照の光明を放つべし、一切衆生の諸根・欲性・結業・習氣・諸の垢淨を知らんが故に。應に心城の自在力を知るべし、一切諸の法界を攝取せんが故に。應に心城を瑩すべし、佛の念に住せんが故に。應に心城の實相を知るべし、

諸法は實性無しと了達せんが故に。應に心城の如幻なることを知るべし、一切智の正法城に入らんが故に。菩薩摩訶薩、若し是の如く諸の心城を知らば、則ち能く一切の善根を積集せん。何を以ての故に。無量の諸の障礙を蠲除するが故に。所謂る、佛を見たてまつるの障、法を聞くの障、佛を供養するの障、衆生を攝するの障、佛刹を淨むるの障なり。佛子よ、菩薩摩訶薩に、若し是の如きの無障礙の心有らば、少方便を以て、能く一切諸の善知識に見え、一切種智を究竟し成就せん。』

爾の時に天有り法妙德を名け、虛空の中に在りて、妙なる聲をもつて摩耶夫人を讃歎し、又種種の色光明網を放ちて、廣く無量の諸佛の世界を照せり。爾の時に善財、光明網を見るに、諸佛の身を照し、繞ること一帀し已りて、然して後に還り來りて善財の頂に入り、其の身に充滿せり。爾の時に善財、則ち離垢の淨光明眼を得て、一切の愚癡の闇障を除滅し。翳眼を離るることを得て、一切衆生の實生を了知し。離垢眼を得て一切法の性を觀じ。淨慧眼を得て、一切刹の性を觀じ。淨光眼を得て佛の法身を見たてまつり。普明眼を得て、不思議なる如來の色身を觀じ。無礙光眼を得て、一切世界の成敗を觀察し。徧光眼を得て、一切の佛の正法輪を轉じたまひて修多羅を出生することを見。普境界眼を得て、無量なる諸佛の神力をもつて衆生を教化することを觀察し。普見眼を得て、一切の世界は因緣に隨ひて起り、諸佛の世に興りたまふことを觀ず。

時に菩薩の法堂を守護する羅刹鬼王を、名けて善眼と曰ひ、妻子と倶なりき。一萬の羅刹の眷屬に

圍繞せられ、虛空の中に在りて衆の妙華を散じ、善財に語りて言はく、『善男子よ、若し菩薩有り、十法を成就せば則ち能く諸の善知識に親近せん。何等をか十と爲す。所謂る直心清淨にして諂曲を遠離し。大悲を壞せずして衆生を攝取し。衆生の眞實性に非ざることを觀察し。薩婆若に於て心退轉せず。佛の大衆に於て堅き信心を得。淨慧眼を以て諸法の性を觀じ。無壞の大悲をもつて普く衆生を覆ひ。明淨の慧光をもつて諸の法界を了り。對治の法を善くし、甘露の法を雨らして生死の苦を除き。善知識に順ひ、明淨眼を以て、諸法の性は相續して斷せざることを觀ず。菩薩此の十法を成就せば、則ち能く諸の善知識に親近せん。復た次に佛子よ、菩薩は十の三昧門を成就せば、則ち能く諸の善知識を覩見せん。何等をか十と爲す。所謂る、淨法虛空圓滿三昧、一切の方海を觀察する三昧。一切の境界を分別する三昧、十方の諸佛に對見する三昧、功德藏海を長養する三昧、念念に善知識を捨てざる三昧、現前に一切如來の功德と善知識とを見る三昧、善知識に詣づる三昧、常に一切の善知識を離れざることを得る三昧、善知識を恭敬し供養して過失無き三昧なり。善男子よ、菩薩此の十の三昧門を成就せば、則ち能く諸の善知識を覩見せん。又諸の善知識の微妙なる音聲をもつて正法輪を轉ずる三昧の法門を得ん。若し菩薩有りて此の法門に住せば、悉く一切諸佛の平等を知り、常に能く諸の善知識を覩見せん。』

爾の時に善財、羅剎に答へて言はく、『善い哉善い哉、哀愍を以ての故に、方便して我を敎へて善知

識に見えしむ。願はくは我が爲めに説きたまへ、云何んが往きて善知識の所に詣で、何の方處・城邑・聚落に於て、善知識を求むべきや。』

答へて言はく、『善男子よ、十方を敬禮して善知識を求め、正念に一切の境界を思惟して善知識を求め、勇猛自在に徧く十方に遊びて善知識を求めよ。身を知り行を知ること、夢の如く電の如くにして善知識に詣でよ。』

爾の時に善財、其の敎に隨順して卽時に大寶蓮華を覩見す、地より涌出し、金剛を莖と爲し、摩尼を葉と爲し、淨寶を臺と爲し、衆の妙香鬚あり、阿僧祇の摩尼寶の網を以て其の上に羅覆せり。蓮華臺の上に一樓觀有り、名けて攝取法界方藏と曰ひ、金剛を地と爲す。樓に千柱有り、一切摩尼の衆寶をもつて合成し、種種に莊嚴して阿僧祇の妙寶の瓔珞を懸け、阿僧祇の寶を以て欄楯と爲せり。爾の時に善財、樓觀の中を見るに摩尼寶の師子の座有り、衆寶をもつて莊飾し、雜寶の欄楯あり、衆の妙衣を敷き、寶網を上に覆ひ、寶幢の蓋を建て、金鈴の中に於て妙なる音聲を出だし、妙香華を雨らし、諸の寶鈴の中より諸の菩薩の願行の音聲を出だし、寶月幢の中より佛の化身を出だし、淨摩尼の中より如來の次第受生を顯現し、日摩尼の中より無量の光を放ちて十方の刹を照し、摩尼寶王光明幢の中より一切の佛の圓滿なる光明を放ち、明淨寶の中より衆の供具と一切衆生燈佛正法雲を出だし、如意寶の中より念念に普賢の自在を出生して法界に充滿し、須彌幢の中より天の妙聲を出だして如來を

讃歎したてまつる。

爾の時に善財は、此の不可思議の莊嚴せる高座と、不可思議の眷屬の圍繞することを見、摩耶夫人彼の座上に處したまふを見る。端正姝妙にして淨き色身を具へたまひ、三世間を出づる色身、一切の世間に對現する色身、一切の有趣を遠離する色身、其の所應に隨ひて敎化する色身、一切衆生に染せられざる色身、廣大を起す色身、一切衆生に等しき色身、一切衆生無等の色身、一切衆生見るに虛しからざる色身、種種の色身、化すべき所に隨ひて顯現する色身、無量の形像の色身、普門の形像の色身、一切衆生に對現する色身、廣大の自在門にて莊嚴する色身、一切衆生を敎化する色身、一切衆生に對現して形を垂るる色身、一切時に現じて種種不壞の色身、一切衆生究竟不究竟住の色身、不去の色身、一切の趣に於て滅する所無きが故に。不來の色身、一切趣に於て生ずる所無きが故に。不起の色身、起らず現せざるが故に。不滅の色身、一切世間の語言道を離るるが故に。不虛の色身、所得に隨ふが故に。不欺の色身、世間に隨應するが故に。至る所無き色身、生せず死せざるが故に。不壞の色身、法性は無壞なるが故に。無相の色身、三世に語言斷ゆるが故に。一相の色身、無相にして善く相を說くが故に。如電の色身、一切衆生の心に隨應するが故に。如幻の色身、智幻滿ずるが故に。如炎の色身、衆生の想を持するが故に。如影の色身、一切衆生の本願は相續して斷せざるが故に。如夢の色身、衆生に隨應して壞す可からざるが故に。法界を究竟する色身、淨きこと虛空の如くなるが故に、大悲を現

する色身、一切の衆生を成就するが故に。無礙の門を顯現する色身、念念の中に於て法界に滿つるが故に。無量無邊の色身、一切世間を淨め語言の道を離るるが故に。所依無き色身、衆生を教化して願を究竟するが故に。住持の色身、能く一切衆生の事を辨ずるが故に。不生の色身、幻願滿ずるが故に。無比の色身、世間を出づるが故に。隨應の色身、應に隨ひて度するが故に。不雜の色身、業に隨ひて相續するが故に。如意珠の色身、一切衆生の願を滿足するが故に。虛妄を離れたる色身、一切衆生は虛妄に起るが故に。覺觀を離れたる色身、一切の衆生思察すること能はざるが故に。不究竟の色身、生死を除滅するが故に。淸淨の色身、如來の覺觀を離れたるが故に。是の如きの色は色に非ず、色は電の如くなるが故に。受も受に非ず、世間の苦受を除滅するが故に。一切の想を離る、一切衆生の想を分別するが故に。出生の行は行に非ず、諸の業は幻の如くなるが故に。識の境界を離る、菩薩の智慧の願を滿足するが故に。空にして所有無し、一切衆生の語言斷ゆるが故に。色身成就す、妙色滅せざるが故に。爾の時に善財、摩耶夫人の衆生に隨應して是の如き種種無量の色身を示現したまふことを見る。衆生或は他化自在天王女の身に過ぎ、乃至四天王女の身に過ぎたるを見。或は龍王女の身に過ぎ、乃至人王女の身に過ぎたるを見る。

爾の時に善財、是の如き等の種種の色身を見て、一切衆生の善根を長養し、不可壞の檀波羅蜜を行じて、大悲普く一切衆生を念ひ、如來の無量の功德を出生し、勇猛精進して薩婆若を求め、一切の

法は皆寂滅の相なることを知りて、深忍海に入り、一切無壞の禪定を具足して、一切の三昧の境界を修習し、如來の圓滿なる禪定を逮得し、一切衆生の諸の煩惱海を滅し、皆悉く一切の法界を嚴淨して、諸佛の法輪を分別し了知し。明淨の智を以て一切の法海を觀じ、一切の佛を見たてまつりて心に厭足無く、次第に三世の如來を觀察して、一切の佛の門を開き、三世の佛の次第に世に興りたまふを見たてまつり、佛の道戒を淨め、如如なること空の如く、一切衆生を攝して之を教化し、淨き法身を得て、一切の佛刹を淨め、諸の大誓願をもつて究竟じて一切衆生を化度し。一念に徧く諸佛の境界を充し、菩薩の自在神力を出生し、無量の淸淨なる色身を顯現し、一切の魔力を降し、功德力を增長し、善法力を生じて、一切の佛力を得、菩薩力を具へ、一切智力を生ず。如來の智慧は普く一切を照して、悉く無量の衆生の心海を知り、衆生の諸の根・欲・性を了知し、一身にして十方の無量無邊の佛刹に充滿し、悉く分別して佛刹の成敗を知り、淨智の眼を開きて、三世海・諸佛の法海を見て、一切如來の功德を出生し、一切の菩薩の修する所の功德を知り、初發心より乃し究竟に至るまで、一切衆生の善根を長養し、一切の世間に於て、一切諸佛の功德を讃歎し、一切の菩薩の母願を成滿せり。

爾の時に善財は、摩耶夫人に是の如き等の閻浮提の微塵に等しき未曾有なる事有るを見て、即ち己身を變化すること、悉く摩耶夫人と等しく、合掌し敬禮して五體を地に投じ。即ち無量無邊の諸の三昧門を得、正念し修習し、分別し觀察し、隨順し、出生し印證せり。證し已りて三昧より起つ。

起ち已りて摩耶夫人及び諸の眷屬を敬ひ繞り、恭敬し合掌して、一面に於て住し、白して言さく、『大聖よ、文殊師利菩薩は、往昔我に阿耨多羅三藐三菩提心を發し、善知識を求めて親近し供養することを敎へたまひき。我已に漸く求めて大聖の所に至れり。願はくは爲めに、云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを演說したまへ。』

答へて言はく、『佛子よ、我已に大願智幻の法門を成就せり。此の法門を得たるが故に、盧舍那如來の母と爲りて、此の閻浮提の迦毘羅城なる淨飯王の宮に於て、右脇より悉達太子を生み不可思議なる自在神力を顯現せり。善男子よ、菩薩兜率天に於て命終する時、一一の毛孔より大光明を放ち、一切如來受生と名けて、功德を圓滿し、不可說不可說の佛刹微塵に等しき菩薩の受生の莊嚴を顯現して、普く一切の世界を照す。照し已りて、來りて我が頂に觸れ、徧く我が身の一切の毛孔に入れり。入り已りて、普く菩薩の受生自在の莊嚴を見る。又出家し道場に往詣し、等正覺を成じ、菩薩・天人・大衆に圍繞せられ、恭敬し供養せられて正法輪を轉ずることを見る。彼の諸の如來は、過去世に於て菩薩の行を行じ、諸佛の所に於て恭敬し供養して菩提心を發し、諸佛の刹を淨め、無量の化身は法界に充滿して、衆生を敎化し、乃至大般涅槃を示現せり。是の如き等の事を皆悉く親見る。又善男子よ、彼の妙光明來りて我が身に入る。我が身爾の時に世閒を超出して虛空と等しく、亦人身に過ぎずして、悉く能く十方の菩薩の莊嚴せる宮殿を容受せり。

# 卷の第五十八

## 入法界品第三十四の十四

爾の時に菩薩、兜率天より降神して下りたまひし時に、十佛刹の微塵に等しき菩薩と倶なりき。皆悉く、行と、大願と、善根と、莊嚴と、法門とを同うし、智慧の自在なること、一切諸地の清淨の法身、無量の色身、普賢の諸の大願行を究竟すること、悉く皆同等なり、是の如きの菩薩の眷屬に圍繞せらる。又八萬の諸の龍王と倶なりき。娑伽羅龍王等及び諸の夜叉八部神等、恭敬し供養したてまつり、降神して下りたまひし時、大光明を放ちて普く世界を照し、自在力を現じて一切諸の惡道の苦を除滅し、巧方便を以て不可思議の衆生を敎化し、皆悉く宿世の業行を知らしめ、諸の菩薩をして不放逸を修しめ、染著する所無く、衆生を救護し、悉く此の菩薩の身は是の如き等の諸の奇特の事を現ずることを覩見しめ、大衆と倶に來りて我が胎に處れり。彼の諸の菩薩は、我が胎内に於て遊行すること自在なり。或は三千大千世界を以て一歩と爲し、或は不可說不可說の佛刹微塵に等しき世界を以て一歩と爲し。又念念の中に十方一切世界の一切の佛の所の、不可說不可說の菩薩の眷屬、及び四天王・忉利天王・乃至梵王、是の如き等の一切の天王、皆我が胎に入りて、菩薩を見て恭敬し供

養し、正法を聽受せんと欲へり。悉く皆是の如き等の衆を容受して、而も胎廣大ならず、亦迫迮せず。此の世界に於て是の如きの神變受生を示現し、十方一切の閻浮提の中も亦復た是の如し。亦身を分たずして、種種に現化し、其の所應に隨ひて菩薩の母と爲る。何を以ての故に、此の大願智幻の法門を修するが故なり。善男子よ、我盧舍那佛の母と爲り、拘樓孫佛・拘那含牟尼佛・迦葉佛・彌勒佛・師子佛・法幢佛・善眼佛・淨華佛・妙德華佛・提舍佛・弗沙佛・歡喜意佛・自在佛・離垢佛・明淨月佛・執炬佛・樂靜佛・金剛楯佛・清淨義佛・阿私陀佛・度彼岸佛・高炎山佛・執燈佛・寶蓮華佛・功德稱佛・無量德持佛・妙德燈佛・莊嚴身佛・善威儀佛・妙德慈佛・善幢佛・智盛佛・無量音佛・無諍佛・散疑佛・清淨佛・廣光佛・速淨佛・妙德雲佛・莊嚴頂髮佛・樹王佛・莊嚴寶冠佛・智海佛・淨寶佛・堅天冠佛・具諸願佛・大自在佛・妙德王佛・勝妙德佛・旃檀雲佛・廣淨眼佛・殊勝慧佛・修習智佛・高王佛・自在慧佛・離色佛・師子喜佛・無上王佛・妙德頂佛・金剛智山佛・妙德藏佛・寶網嚴身佛・善慧佛・自在天佛・大地天佛・無著功德佛・衆牙佛・慧光佛・妙德天佛・無上座佛・無上德佛・仙人伏根佛・隨順語佛・自在德幢佛・明淨幢佛・分別支佛・毘舍佉佛・放一切衆生香光明佛・金剛寶嚴佛・歡喜眼佛・滅欲塵佛・高大身佛・善天佛・無上天佛・向寂滅佛・覺智佛・離塵垢佛・光炎王佛・安住佛・毘舍佉天佛・金剛山佛・智炎盛妙德佛・安隱佛・優波提舍佛・具淨德佛・樂賢德佛・第一義勇佛・百光炎佛・一增上佛・深音聲佛・大地王佛・白淨佛・山音聲佛・殊勝佛・不可壞佛・無上醫佛・功德月佛・不違逆佛・功德聚佛・月出佛・功德天佛・光明盛佛・娑羅陰佛・藥王

佛・勝寶佛・金剛慧佛・八十妙德佛・一切無壞佛・大名稱王佛・勇健進持佛・無量光佛・大莊嚴炎佛・法王不虛佛・不退地佛・明淨天佛・苦行佛・淨天佛・同意佛・解脫音佛・無壞王佛・滅諸僞佛・淨薝蔔光佛・善勝月佛・執明炬佛・淨嚴身佛・不可說佛・觀衆生佛・無量光佛・無畏音佛・最勝天佛・無畏智盛佛・妙德華佛・月光炎佛・不退慧佛・離愛佛・不著慧佛・長養德聚佛・滅惡道佛・無量化佛・師子吼佛・義不退佛・見無礙佛・降衆魔佛・不著相佛・離虛妄海佛・淸淨海佛・不可沮壞須彌山佛・無著智佛・無量座佛・與魔戰佛・隨師行佛・無上調佛・常月佛・饒益王佛・不動陰佛・饒益名佛・饒益慧佛・壽持佛・壽名佛・滿稱佛・無壞盛佛・色明淨佛・無相智佛・勇無動佛・難思妙德佛・同月行佛・無量身佛・隨順王佛・增壽天佛、佛子よ、是の如き等の賢劫の一切の佛、此の世界に於て等正覺を成したまふは、我悉く母と爲り、亦十方一切の世界に於て衆生を敎化す。』

爾の時に善財白して言さく、『大聖よ、此の法門を得たまひて其已に久如しきや。』

答へて言はく、『佛子よ、乃し往古の世、不可思議にして諸の菩薩の通明の境界に非ざる不可數の劫を過ぎて、劫有り淨光明と名けき。彼に世界有り、名けて妙德須彌山王と曰ひ、其の土は淸淨にして諸の垢壞無く、衆寶をもつて合成し、種種に嚴飾して、見る者厭くこと無し。彼の世界の中に千億の四天下有り、諸の四天下の中に一四天下有り。彼の一四天下の中に、八十億の大王の都有り。彼の王都の中に一王都有り、名けて智幢と曰ひ、轉輪王有り、名けて勇盛と曰へり。彼の王都の北に一

道場有り、月光明と名け、其の道場神を慈妙德と名けき。時に菩薩有り離垢幢と名け、道場に坐して正覺を成ぜんとするに臨み、時に惡魔有り、金剛光明と名け、眷屬と倶に、菩薩の所に至り、其の道行を壞らんとせり。時に勇盛王、菩薩の神力自在を具足し、兵衆の彼の魔軍より多くを化作して之を摧伏せり。時に彼の菩薩正覺を成ずることを得たりき。時に道場神此の事を見已りて、歡喜すること無量にして、是の如きの願を發すらく、「此の轉輪王は乃し成佛に至るまで、我其の母と爲らん」と。善男子よ、我曾て彼の道場に於て十那由他の佛を供養したてまつれり。善男子よ、彼の道場神は豈異人ならんや。我が身是なり。轉輪王は盧舍那佛是なり。善男子よ、我爾の時願を發してより已來、盧舍那佛、一切有に於て菩薩の行を行じて、衆生を敎化し乃し最後の受生に至るまで、我常に母と爲れり。復た次に善男子よ、現在過去の十方無量無邊の諸佛、大光明を放ち、來りて我が身と、宮殿と、住處とを照したまひければ、彼が最後の生まで、我悉く母と爲れり。善男子よ、我唯此の大願智幻の法門を知るのみ。諸の大菩薩は、大悲藏を具して、衆生を敎化し、心に厭き足ること無く、自在の法を得て、一一の毛孔より一切の佛の自在神力を現ず。我當に云何んが彼の功德の行を能く知り、能く說くべき。』

爾の時に摩耶夫人、善財に告げて言はく、『善男子よ、此の世界の三十三天に於て、王有り正念王と名け、王に童女有り天主光と名く。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道

を修するやと。』

時に善財童子、敬んで其の敎を受け、頭面に禮を作し、繞ること無數帀、戀慕し瞻仰し、郤行して退き、遂に天宮に往きて、彼の童女に見え、足を禮して圍繞し、合掌して、前み住して、白して言さく、『聖者よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。我、聖者は、能く誘誨したまふと聞けり。願はくは我が爲めに說きたまへ。』

天女答へて言はく、『善男子よ、我菩薩の解脫を得、無礙念淸淨莊嚴と名く。善男子よ、我過去を念ふに、最勝の劫有り、靑蓮華と名けき。我彼の劫の中に於て恒河沙に等しき諸佛如來を供養したてまつりき。彼の諸の如來初め出家より、我皆瞻奉し、守護し供養し、僧伽藍を造り、什物を營辦せり。又彼の諸佛の菩薩と爲り母胎に住せし時より、誕生の時、七步を行く時、大師子吼の時、童子の位に住して宮中に在せし時、菩提樹に向ひて正覺を成ぜし時、正法輪を轉じ佛の神變を現じて衆生を敎化し調伏せる時、是の如き一切諸の所作の事、初發心より乃し法の盡くるに至るまで、我皆明らかに憶ひて、遺餘有ること無く、常に現在前し、念持して忘れず。又過去を憶ふに劫を善地と名く、我彼に於て十恒河沙に等しき諸佛如來を供養したてまつり。又過去の劫を爲妙德と名く、我彼に於て一佛世界の微塵に等しき諸佛如來を供養したてまつり。又劫を無所得と名く、我彼に於て八十四億

百千那由他の諸佛如來を供養したてまつり。又劫を善光と名く、我彼に於て閻浮提の微塵に等しき諸佛如來を供養したてまつり。又劫を無量光と名く、我彼に於て二十恒河沙に等しき諸佛如來を供養したてまつり。又劫を精進德と名く、我彼に於て一恒河沙に等しき諸佛如來を供養したてまつり。又劫を善悲と名く、我彼に於て八十恒河沙に等しき諸佛如來を供養したてまつり。又劫を勝遊と名く、我彼に於て六十恒河沙に等しき諸佛如來を供養したてまつり。又劫を妙月と名く、我彼に於て七十恒河沙に等しき諸佛如來を供養したてまつりき。善男子よ、是の如く恒河沙の劫を憶念するに、我常に諸佛如來・應供・正等覺を捨てざりき。彼の一切諸の如來の所に隨ひて、此の無礙念淸淨莊嚴の菩薩の解脫を聞き、受持し修行して、恒に間斷せず。隨順して趣入せり。是の如き先劫の所有る如來の初の菩薩より、乃し法の盡くるに至るまでの、一切の神變は、我淨嚴解脫の力を以て、皆隨ひて憶念し、明了に現前に持して順行し、曾て懈廢すること無し。善男子よ、我唯此の無礙念淸淨の解脫を知るのみ。諸の菩薩摩訶薩の、生死の夜を出でて、朗然として明徹し、永く癡冥を離れて、未だ曾て惛寐せず、心に諸蓋無く、身行輕安にして、諸の法性に於て淸淨に覺了し、十力を成就して群生を開悟せるが如きは。我云何んが彼の功德の行を能く知り、能く說くべき。

善男子よ、迦毗羅城に童子師有り、名けて徧友と曰ふ、汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、聞法を以ての故に、身心徧悅し、不思議の善根を流派し增廣して、頭面に天主光の足を敬禮し、繞ること無數帀、戀仰して辭し去り、天宮より下りて、漸く彼の城に向ひ、徧友の所に至り、足を禮して圍繞し、合掌し恭敬して、一面に於て立ち、白して言さく、『聖者よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。我、聖者は能く誘誨したまふと聞けり。願はくは我が爲めに說きたまへ。』

徧友答へて言はく、『善男子よ、此に童子有り善知衆藝と名け、菩薩の字智を學べり。汝之に問ふ可し。當に汝が爲めに說くべし。』

爾の時に善財卽ち其の所に至りて、頭頂禮敬して、一面に於て立ち、白して言さく、『聖者よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。我聖者は善能く誘誨したまふと聞けり。願はくは我が爲めに說きたまへ。』

時に彼の童子、善財に告げて言はく、『善男子よ、我菩薩の解脫を得て、善知衆藝と名く。(一)我恒に此の解脫に入る根本の字を唱持せり。阿字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、菩薩の威德各別の境界と名け。羅字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、平等一味最上無邊と名け。波字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、法界無異相と名け。者字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、普輪斷差別と名

【一】此の一段には四十二字門を說く、卽ち梵語の四十二字を唱へて其の字義を觀ずる一種の觀法なり。

け。多字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、得無依無上と名け。邏字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、離依止無垢と名け。荼字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、不退轉の行と名け。婆字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、金剛場と名け。荼字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、名けて普輪と曰ひ。沙字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、名けて海藏と爲し。他字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、普生安住と名け。那字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、圓滿光と名け。邪字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、差別積集と名け。史吒字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、普光明息諸煩惱と名く。迦字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、差別一味と名け。娑字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、霈然法雨と名け。摩字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、大流湍激衆峯齊峙と名け。伽字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、普上安立と名け。娑他字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、眞如藏徧平等と名け。社字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、入世間海清淨と名け。室者字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、一切諸佛正念莊嚴と名け。拖字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、觀察圓滿法聚と名け。奢字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、一切諸佛教授輪光と名け。佉字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、淨修因地現前智藏と名け。叉字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、息諸業海藏蘊と名け。娑多字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、蠲諸惑障開淨光明と名け。壤字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、作世間了悟因と名け。頗字を唱ふる時、般

若波羅蜜門に入るを、智慧輪斷生死と名け。婆字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、一切宮殿具足莊嚴と名け。車字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、修行戒藏各別圓滿と名け。娑摩字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、隨十方現見諸佛と名け。訶婆字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、觀察一切無緣衆生方便攝受令生海藏と名け。訶字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、修行趣入一切功德海と名け。伽字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、持一切法雲堅固海藏と名け。吒字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、十方諸佛隨願現前と名け。拏字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、不動字輪聚集諸億字と名け。娑頗字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、化衆生究竟處と名け。娑迦字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、諸地滿足無著無礙解脫光明輪徧照と名け。闍字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、宣說一切佛法境界と名け。多娑字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、一切虚空法雷徧吼と名け。侘字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、曉諸迷識無我明燈と名け。陀字を唱ふる時、般若波羅蜜門に入るを、一切法輪出生藏と名く。善男子よ、我是の如き諸の解脫に入る根本の字を唱ふる時、此の四十二の般若波羅蜜門を首と爲して、無量無數の般若波羅蜜門に入る。◎善男子、我唯此の善知衆藝の菩薩の解脫を知るのみ。諸の菩薩摩訶薩の如きは、能く一切世出世間の善巧の法に於て、智を以て通達して、彼岸に到り、殊方の異藝を、咸く綜べて遺すこと無く、文字算數に、其の深解を蘊み、醫藥呪術をもつて善く衆の病を療し、諸の衆生の、鬼魅に持せられ、怨憎呪

詛し、悪星の變怪、死屍奔逐し、癲癇羸瘦、種種諸の疾有らんも、咸能く之を救ひて、痊愈を得しめ。又善く金玉・珠貝・珊瑚・瑠璃・摩尼・硨磲・雞薩羅等の、一切寶藏の出生する處、品類の不同、價直の多少を別知し、村營鄕邑の大小・都城・宮殿・苑園・巖泉・藪澤、凡そ是の一切人衆の居る所を、菩薩は咸能く方に隨ひて攝護せり。又善く天文地理、人相の吉凶、鳥獸の音聲、雲霞の氣候、年穀の豐儉、國土の安危を觀察し、是の如き世間の所有る技藝を該諫して其の源本を盡さざること莫し。又能く出世の法を分別して、名を正し義を辯じ、體相を觀察し、隨順し修行して、智其の中に入り、疑ふこと無く、礙ふること無く、愚闇無く、頑鈍無く、憂惱無く、沈沒無く、現證せざること無し。而も我云何んぞ彼の功德の行を能く知り、能く說くべき。

善男子よ、此の摩竭提國に一聚落有り、彼の中に城有り、(三)婆咀那と名け、優婆夷有り、號けて賢勝と曰ふ。汝彼に詣で問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、頭面に衆藝の足を敬禮し、繞ること無數帀、戀仰して辭し去り、聚落の城に向ひ、賢勝の所に至り、足を禮して圍繞し、合掌し恭敬して、一面に於て立ち、白して言さく、

『聖者よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。我、聖者は善能く誘誨したまふと聞けり。願はくは我が爲めに說きた

【三】婆咀那（Vardhana）。圓備又は增益と譯す。

まへ。』

賢勝答へて言はく、

『善男子よ、我菩薩の法門を得て、無依處道場と名く。既に自ら開解し、復た人の爲めに説く。又無盡三昧を得たり。彼の三昧の法は有盡無盡には非ず。能く一切智性の眼を出生すること、無盡なるを以ての故に。又能く一切智性の耳を出生すること、無盡なるが故に。又能く一切智性の鼻を出生すること、無盡なるが故に。又能く一切智性の舌を出生すること、無盡なるが故に。又能く一切智性の身を出生すること、無盡なるが故に。又能く一切智性の意を出生すること、無盡なるが故に。又能く一切智性の種種の慧明を出生すること、無盡なるが故に。又能く一切智性の周徧神通を出生すること、無盡なるが故に。又能く一切智性の海の波濤の如き、無量の功德を出生すること、皆無盡なるが故に。又能く一切智性の徧世間の光を世生すること、無盡なるが故に。善男子よ、我唯此の無依處道場の法門を知るのみ。諸の菩薩摩訶薩の一切無著の功德の行の如きは、我云何んぞ盡く能く知りて説くべき。

善男子よ、南方に城有り、名けて沃田と爲す。彼に長者有り、堅固解脫と名く。汝往きて問ふべし、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

爾の時に善財、賢勝の足を禮し、繞ること無數帀、戀慕し瞻仰し、辭退して南に行き、彼の城に到

り、長者の所に詣りて、足を禮して圍繞し、合掌し恭敬して、一面に於て立ち、白して言さく、『聖者よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。我、聖者は能く誘誨したまふと聞けり。願はくは我が爲めに說きたまへ。』

長者答へて言はく、『善男子よ、我菩薩の解脫を得て、無著淸淨念と名く。我自ら是の解脫を得てより已來、發願充滿して、十方の佛の所に於て、復た希ひ求むること無し◎善男子、我唯此の淨念解脫を知るのみ◎諸の菩薩摩訶薩の、畏るる所無き大師子吼を獲て、高廣福慧の聚に安住せるが如きは、我云何んぞ彼の功德の行を能く知り、能く說くべき。

善男子よ、卽ち此の城の中に一長者有り、名けて妙月と爲す。其の長者の宅に常に光明有り。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子、堅固の足を禮して、繞ること無數帀、辭退して行き、妙月の所に向ひ、足を禮して圍繞し、合掌し恭敬して、一面に於て立ち、白して言さく、『聖者よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。我聖者は善能く誘誨したまふと聞けり。願はくは我が爲めに說きたまへ。』

妙月答へて言はく、『善男子よ、我菩薩の解脫を得て、淨智光明と名く。善男子よ、我唯此の智光解脫を知るのみ◎諸の菩薩摩訶薩の、無量の解脫の法門を證得せるが如きは、我云何んぞ彼の功德の

行を能く知り能く説くべき。

善男子よ、此の南方に於て城有り、出生と名け。彼に長者有り無勝軍と名く。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

是の時に善財、妙月の足を禮し、繞ること無數帀、戀仰して辭し去り、漸く彼の城に向ひ、長者の所に至り、足を禮して圍繞し、合掌し恭敬して、一面に於て立ち、白して言さく、『聖者よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。我、聖者は善能く誘誨したまふと聞けり。願はくは我が爲めに説きたまへ。』

長者答へて言はく、『善男子よ、我菩薩の解脱を得て、無盡相と名く。我此の菩薩の解脱を證せしを以て、無量の佛を見たてまつり、無盡の藏を得たり。善男子よ、我唯此の無盡相の解脱を知るのみ。諸の菩薩摩訶薩の、無限の智と、無礙の辯才とを得たるが如きは、我云何んぞ彼の功徳の行を能く知り、能く説くべき。

善男子よ、此の城南に於て一聚落有り、之を名けて法と爲す。彼の聚落の中に婆羅門有り、尸毘最勝と名く。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、無勝軍の足を禮し、繞ること無數帀、戀仰して辭し去り、漸次に南に行き、彼の聚落に詣りて、尸毘最勝に見え、足を禮して圍繞し、合掌し恭敬して、一面に於て立ち、白して言さ

く、『聖者よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。我、聖者は善能く誘誨したまふと聞けり。願はくは我が爲めに說きたまへ。』

婆羅門答へて言はく、『善男子よ、我菩薩の法門を得て、誠願語と名く。過去現在未來の菩薩、是の語を以ての故に、乃し阿耨多羅三藐三菩提に至るまで退轉すること有る無し。已に退きしこと無く、現に退くこと無し。當に退くべきこと無し。善男子よ、我誠願語に住するを以ての故に、意に隨ひて作す所成滿せざること莫し。善男子よ、我唯此の誠願語の法門を知るのみ。諸の菩薩摩訶薩は、誠願語と行止して違ふこと無く、言は必ず誠にして、未だ曾て虚妄ならざるを以て、無量の功德は之に因りて出生せるが如きは、我云何んぞ能く知り、能く說くべき。

善男子よ、此の南方に於て城有り、妙意華門と名く。彼に童子有り名けて德生と曰ふ。復た童女有り名けて有德と爲す。汝彼に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」と。』

時に善財童子は、法を尊重し、婆羅門の足を禮し、繞ること無數帀、戀仰して去り、漸次に南に行き、彼の城に至り、童子童女に見えて、其の足を頂禮し、圍繞すること畢已りて、前に於て合掌し、是の言を作さく、

『聖者よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、

菩薩の道を修するやを知らず。唯願はくは慈哀をたれ、我が爲めに宣說したまへ。』

時に童子童女、善財に告げて言はく、

『善男子よ、我等は菩薩の解脫を證得し、名けて幻住と爲す。斯の淨智を以て觀ずるに、諸の世間は皆幻住なり、因緣より生ずるが故に。一切衆生は皆幻住なり、業煩惱の起す所なるが故に。一切の法は皆幻住なり、無明有愛等展轉して緣より生ずるが故に。一切の三界は皆幻住なり、顚倒智の生ずる所なるが故に。一切衆生の生滅・生老病死・憂悲苦惱は、皆幻住なり、虛妄分別の生ずる所なるが故に。一切の國土は皆幻住なり、想倒・心倒・無明の現ずる所なるが故に。一切の聲聞辟支佛は皆幻住なり、智斷分別の成ずる所なるが故に。一切の菩薩は皆幻住なり、能く自ら衆生を調伏し教化する殊勝の智心、及び諸の行願の成ずる所なるが故に。一切の菩薩の衆會・變化・調伏、諸の施爲する所は、皆幻住なり、願及び智の攝成する所なるが故なり。善男子よ、幻の境は自性不可思議なり。善男子よ、我等二人は、但能く此の菩薩の解脫を知るのみ。諸の菩薩摩訶薩の如きは、善く無邊の諸事幻網に入る。彼の功德の行は、我等云何んぞ能く知り、能く說くべき。』

(三)時に童子童女自の解脫を說き已りて、諸の善根力不思議なるが故に、善財の身をして柔輭にして光澤ならしめ、自ら本願を說けり。又是の言を作さく、

【三】以下攝德成因相の知識彌勒菩薩を明かす。第一、往を勸め問を教ふ。

『善男子よ、此の南方に於て一國土有り、名けて海澗と曰ふ。彼に園林有り大莊嚴藏と名く。彼の林中に於て大樓觀有り、嚴淨藏と名け、菩薩の往昔の善根の起せし所なり。菩薩の諸願、自在の諸通、智力の巧妙、方便の功德、大悲の法門の起せし所なり。彼の園中に菩薩摩訶薩有り、名けて彌勒と曰ひ、常に父母・親戚・眷屬、及び同行の者を化す。又復た其の餘は無量の衆生の善根を長養して、大乘に住せしめ、亦汝が爲めに菩薩の方便の法門を顯現せんと欲し、菩薩の受生の自在を明さんと欲し、一切衆生に對現し教化して諸有を厭はしめんと欲し、菩薩の大慈悲力を宣明し、菩薩の無相の法門を覺悟し、諸の有趣は悉く自相無きことを明したまはんとす。◎ 【四】汝彼に詣でて問へ、云何んが菩薩は菩薩の道を淨め、云何んが菩薩は菩薩の戒を學び、云何んが菩薩は菩薩の心を淨め、云何んが菩薩は諸の大願を發し、云何んが菩薩は功德の具を積み、云何んが菩薩は菩薩地を得、云何んが菩薩は一切諸の波羅蜜を滿足し、云何んが菩薩は諸の忍法を得、云何んが菩薩は功德の行に住し、云何んが菩薩は善知識に近づくや」と。何を以ての故に、彼の菩薩摩訶薩は、一切諸の菩薩の行を究竟し、衆生の心行を分別し了知し、巧便智を以て之を教化し、一切諸の波羅蜜を滿足し、菩薩地に住し、諸の忍門を得、菩薩の離生の法を證し、諸佛の所に於て受記を得、菩薩の法に於て自在に遊戲し、諸佛の持を持し、無量の諸佛は一切智の甘露の正法を以て其の頂に灌ぎたまひければなり。◎ 善男子よ、彼の菩薩摩訶薩は、能く汝を示導する眞の

【四】教起の十問を擧げ、廣釋の所以を釋す。

善知識にして、菩提心を堅くし、善根を長養し、正直心に住せしめ、菩薩の根を現ぜしめ、無礙の法、平等の諸地を說き、菩薩の出生する所の道を讃歎し、諸の菩薩の願行の功德を具へ、能く廣く普賢の所行を演說したまはん。善男子よ、汝應に一善根の中に於て知足の想を生じ、一の光明法、一行、一願、一の授記別、得法忍門、六波羅蜜、菩薩の諸地、所淨の佛刹、近善知識、是の事の中に於て知足の想を生ずべからず。何を以ての故に、善男子よ、

(五)菩薩摩訶薩は、應に一向に無量の善根を求め、無量の菩提の具を積集し、無量の菩提の因緣を積集し、無量の諸の大回向を修習し、無量の衆生を敎化し成就し、無量の諸の衆生心と、諸の根・欲・性と、衆生の所行とを了知し、無量の衆生の煩惱・結業・習氣を除滅し、無量の衆生の邪見と、諸の染汚心とを除滅し、無量の諸の淸淨心を發さしめ、無量の諸の苦惱の刺を拔出し、無量の愛欲の海を消竭し、無量の愚癡闇冥を遠離し、無量の大憍慢の山を壞散し、無量の生死の繫縛を解散し、無量の煩惱有流を越度し、無量の受生海の源を煎竭し、無量の愛欲の淤泥より拯拔し、三界の獄に於て苦難を免濟し、悉く八聖道支に安立せしめ、普く三毒の熾然を除滅せしめ、無量の諸魔の鉤餌を斷絕し、無量の諸の惡魔の業を遠離し。無量の菩薩の直心を淨修し、菩薩の無量の方便を長養し、菩

【五】次に總じて八十句の無量あり、初の二十句は救生斷障の行、次の十句は已が心志根欲の行、次の九句は力用自在の行、次の十句は攝德治惑の行、次の十句は供佛攝生の行、次の十句は求法攝生の行、次の十句は菩薩の深願を攝成する行、後の九句は無盡を結す。

薩の無量の諸根を出生し、菩薩の無量の欲性を淨修し、深く菩薩の無量の等法に入り、菩薩の無量の勝行を修行し、菩薩の無量の功德を淸淨にし、菩薩の無量の威儀を淨修し、菩薩の無量の隨順世閒を示現し、無量の不壞の信心を發起し。無量の大精進力を發起し、無量の諸の正念力を淨修し、無量の諸の三昧力を成滿し、無量の諸の大慧力を開發し、無量の諸の欲性力を堅固にし、無量の諸の功德力を積聚し、無量の諸淨智力を長養し、無量の菩薩の諸力を發起し、無量の諸の如來力を成滿し。悉く無量の法門を分別して知り、普く無量の諸法の方面に入り、無量の法門を淨修し、無量の法明を發起し、無量の法、無量の諸根を照し、無量の諸の煩惱病を了知し、無量の諸の妙法藥を積習し、善方便を以て衆の結病を療じ、無量の甘露の正法を修習し。諸の佛刹に詣でて無量の如來を恭敬し供養し、徧く菩薩大衆の源底に入り、無量の如來の正法を護持し、無量の衆生の罪咎を譏らず、無量の惡道の諸難を除滅し、無量の衆生をして天人の中に生せしめ、無量の諸の衆生の類を總攝し、無量の陀羅尼門を淨修し、無量の諸の大願行を成滿し、無量の大慈願力を修習し。壽命を惜まずして無量の法を求め、無量の寂滅法力を修習し、無量の淨智通明を出生し、無量の衆生の諸趣の受生を知りて爲めに無量の化身を應現し、無量の心諸の語言の法を知り、悉く菩薩の無量の諸行に入り、菩薩の法を修し、菩薩の甚深の法門を觀察し、菩薩の難知の境界を覺悟し、諸の菩薩の難至の趣に到り。菩薩の勇猛の功德を攝持し、菩薩の離生淨妙難證の法を證り、菩薩の諸の莊嚴行を覺悟し、一

切處に於て菩薩の自在神力を顯現し、菩薩の無壞の法雲を受持し、菩薩の無量無邊の淨智慧の行を增廣し、無量の諸の波羅蜜を究竟し、菩薩の無量の記別を受け、深く菩薩の無量の忍門に入り、菩薩の不思議の地、諸の正法門を修治し、無量劫に於て大弘誓を以て自ら莊嚴して、諸佛を供養し、不可說の諸佛の世界を淨め、不可說の菩薩の願行を發すべし。善男子よ、畧して說くに菩薩は一切の衆生を教化し一切劫に於て菩薩の行を行じ、一切趣に於て應現受生し、明淨の智を以て一切の三世を了り、一切刹を淨め、一切の願を滿じ、一切の佛を供養し、一切の菩薩と同じく願行を修して、一切諸の善知識に親近すべし。

（六）是の故に善男子よ、應に一向に諸の善知識を求むべし。若し法を見聞せば恭敬し供養し、善知識に於て嫌疑を生じ、身心懈厭すること勿れ、一切の善知識をして心大いに歡悅せしめよ。

（七）何を以ての故に、善知識に因りて、一切の諸の菩薩の行を究竟し、一切の菩薩の功德、一切の菩薩の大願、一切の菩薩の善根、一切の菩薩の助道法を成滿し、一切の菩薩の法明を生じ、一切の菩薩の法門を淨め、一切の菩薩の禁戒、一切の菩薩の禪定三昧、一切の菩薩の堅固なる無上菩提の心をえ。一切の菩薩の總持辯才を淨修し、一切の菩薩の功德藏を淨め、一切の菩薩の大願に同じうし、一切の菩薩の密法を解り、一切の菩薩の法寶、一切の菩薩の諸根を長養し、一切の菩薩の智聚を積集し、一切

【六】次に正しく善知識を求めんことを勸む。七段あり、初に總じて敬求を勸む。

【七】二に行は善友に因ること明かす。

の菩薩の功德の法藏を護り、一切の菩薩の受生を清淨にし、一切の菩薩の法雲を聞持し。一切の菩薩の正道を出生し、一切の菩薩の道心を發起し、一切諸佛の菩提と、一切の菩薩の諸行とを成就し、十方一切の法界を了知して、一切の菩薩の直心の功德を讃し、一切の菩薩の大慈悲力を起し、一切の菩薩の無量の善根を攝し、一切の菩薩の道支を得、一切の菩薩の衆生を饒益する心を得。惡道を遠離して大乘に安住し、菩薩の行を修して、惡知識を遠ざけ、菩薩の法に於て心退轉せず、凡夫・聲聞・緣覺を超出し、一切の世間の心に惑亂無く、染著する所無く、廣く菩薩の無量の諸行を修し、一切諸善の功德を長養し、煩惱を除滅し、一切諸魔も能く沮壞すること莫し。善知識に因りて悉く能く是の如き等の事を成辦す。

【八】三に、善友は能く障を除き行を成ぜしむることを釋す。

(八)何を以ての故に、善知識は能く諸の障礙を除滅せしむるが故なり。不善の法を遠け、惡知識を離れ、無明の闇と、諸の邪見の縛とを滅し、生死一切の世間を超出し、魔の鉤餌を斷ち、苦惱の刺を拔き、無智の險難と、邪惑の山澗とを出でしめ、有流の諸の惡邪の徑を越度せしめ。清淨なる菩提の正道を示導し、菩薩の法を敎へ、四道を修習し、慧眼を明淨にし、薩婆若を安立し、菩薩心を增長し、廣大の慈悲をもつて波羅蜜を修し、菩薩地に住し、深き法忍を得、一切の善根を淨め、一切の菩薩の功德を積集し、一切の菩薩の功德を施與し、一切の佛を見たてまつりて心に大いに歡喜し、淨戒を護持し、眞實の義を解し、正法門を出だし、諸の邪道を離れ、明法門を現

じ、普く一切を照して無量の諸佛の法雲を聞持せしめ。一切の煩惱を滅し、一切智を增益し、一切の佛法に住せしむればなり。

(九)復た次に善男子よ、善知識は則ち爲慈母なり、佛家に生ずるが故に。善知識は則ち爲慈父なり、無量の事を以て衆生を益するが故に。善知識は則ち爲養育なり、守護して一切の惡を爲さざらしむるが故に。善知識は則ち爲大師なり、敎化して菩薩の戒を學ばしむるが故に。善知識は則ち爲導師なり、敎化して彼岸の道に至らしむる故に。善知識は則ち爲良醫なり、一切の煩惱の患を療治するが故に。善知識は則ち爲雪山なり、明淨智慧の藥を長養するが故に。善知識は則ち爲勇將なり、一切諸の恐怖を防護するが故に。善知識は則ち爲牢船なり、悉く生死の海を越度せしむるが故に。善知識は則ち爲船師なり、一切智の法寶の洲に至らしむるが故に。是の故に善男子よ、應當に是の如く諸の善知識を正念し思惟すべし。◎(一〇)又善男子よ、善知識に詣でて大地の心を發すべし、一切の事を持して疲倦無きが故に。金剛の心を發すべし、堅固正直にして壞す可からざるが故に。金剛山の心を發すべし、一切の苦患も壞すること能はざるが故に。無自の心を發すべし、彼の意に隨ふが故に。弟子の心を發すべし、一切の敎に違はざるが故に。僮僕の心を發すべし、一切の苦役も疲厭せざるが故に。養育の心を發すべし、煩惱に汚染せらるることを畏れざるが故に。傭作の心を發すべし、受くる

【九】四に、善友は要らず勝れたることを顯はす。

【一〇】五に、勝心を起すことを敎ふ。

所の教に随ひて違逆せざるが故に。卑下の心を發すべし、自の大增上慢を遠離するが故に。成熟の心を發すべし、善く時と非時とを知るが故に。寶馬の心を發すべし、懭悷不調を離るるが故に。大車の心を發すべし、一切を載するが故に。大象の心を發すべし、諸根を伏するが故に。大山の心を發すべし、一切の惡風も動ずる能はざるが故に。小犬の心を發すべし、瞋恚を離るるが故に。(二)旃陀羅の心を發すべし、憍慢を離るるが故に。折角の心を發すべし、威勢を離るるが故に。大風の心を發すべし、所著無きが故に。大船の心を發すべし、彼此の岸に於て往反して疲れざるが故に。橋梁の心を發すべし、善知識の教に度るが故に。孝子の心を發すべし、善知識を見て厭足無きが故に。王子の心を發すべし、君の教に順ふが故に。◎又善男子よ、應に自身に於て病苦の想を生じ、善知識に於て醫王の想を生じ、所說の教に於て良藥の想を生ずべし。又自身に於て遠行の想を生じ、善知識に於て導師の想を生じ、所說の教に於て正路の想を生ずべし。又自身に於て彼岸に趣くの想を生じ、善知識に於て知濟の想を生じ、所說の法に於て涼池の想を生ずべし。又自身に於て農夫の想を生じ、善知識に於て龍王の想を生じ、所說の法に於て時澤の想を生じ、隨說の行に於て成熟の想を生ずべし。又自身に於て貧窮の想を生じ、善知識に於て毗沙門寶天王の想を生じ、所說の教に於て珍寶の想を生ずべし。又自身に於て弟子の想を生じ、善知識に於て大師の想を生じ、所說の法に於て修學の想を生ずべ

【二】旃陀羅(Caṇḍāla)。暴惡、屠者、等と譯し、印度の四姓の下に位して、漁獵、屠殺等の生殺慘忍の賤業を營む最下卑の種族なり。

し。又自身に於て怯劣の想を生じ、善知識に於て勇健の想を生じ、所說の法に於て器仗の想を生ずべし。又自身に於て商人の想を生じ、善知識に於て導師の想を生じ、所說の法に於て珍寶の想を生じ、隨聞說行に勝寶の想を生ずべし。又自身に於て子息の想を生じ、善知識に於て慈父の想を生じ、所說の法に於て立家の想を生ずべし。又自身に於て王子の想を生じ、善知識に於て大臣の想を生じ、所說の法に於て王敎を學ぶの想あるべし。善男子よ、善知識に詣でて、應に正しく思念して、是の如きの想を發すべし。

(一二)何を以ての故に。淨き直心に依りて善知識を見、其の敎に隨順して、善根を增長するは、雪山に依りて衆の藥草を出だすが如く。佛法の器と爲ること、海の流を吞むが如く。諸の勝德を生ずること、海の寶を出す如く。菩提心を淨むること、眞金を錬るが如く。世閒を超出すること、(一三)海と須彌との如く。世閒に染まざること、(一四)水と蓮華との如く。諸惡に沒せざること、(一五)海と死屍との如く。白淨の法を長ずること、月の盛滿なるが如く。普く法界を照すこと、日の迥かに曜くが如く。菩薩の身を長ずること、母の子を養ふが如し。

(一六)善男子よ、略して說くに、菩薩摩訶薩は、若し能く善知識の敎に隨順せば、十不可說の百千億那由他の諸の功德を得、十不可說の百千億那由他の淨直の深心を明かにし、十不可說の百千億那由他

【一二】六に勝想の所因を釋す。
【一三】須彌山の大海に超出するが如しとの意。
【一四】蓮華の泥水に染まざるが如しとの意。
【一五】海に死屍を宿さざるの意。
【一六】七に順友成益を明かす。

の菩薩の諸根を增長し、十不可說の百千億那由他の菩薩の諸持を淨め、十不可說の百千億那由他の諸の障礙の法を滅し、十不可說の百千億那由他の諸の惡魔の業を超え、十不可說の百千億那由他の菩薩の法門に入り、十不可說の百千億那由他の諸の妙功德を滿じ、十不可說の百千億那由他の菩薩の所行を修し、十不可說の百千億那由他の菩薩の大願を具へん。

善男子よ、略して說くに、菩薩は善知識に因りて、一切の菩薩の行、一切の菩薩の波羅蜜、一切の菩薩の地、一切の菩薩の忍、一切の菩薩の陀羅尼、一切の菩薩の三昧門、一切の菩薩の通明智の自在、一切の菩薩の回向、一切の菩薩の大願を究竟せり。善男子よ、是の如き等の一切の法は、善知識を本と爲し、善知識に依りて起り、善知識に依りて生じ、善知識に依りて取り、善知識に依りて發し、善知識に依りて長じ、善知識に依りて住し、善知識に依りて得べし。

(一七)爾の時に善財、是の如き等の善知識を讃ずる諸の菩薩の行、如來の正法を聞きて、心大いに歡喜し、踊躍すること無量にして、正念に菩薩の所行を思惟して、漸漸に遊行して海澗國に向へり。

(一八)「過去際に修せし身業の力と、及び淸淨の身とを以て、惡行を遠離し、世間の虛妄惑倒を超出し、佛法の實義を求め、諸根を長養し、大願を滿足し、精進力を具へ、身命を惜まずして衆生を饒益し、菩薩の行を修し、佛の法を積集し、諸の如來を見たてまつり、一切の刹を淨め、法師を供養し、

【一七】次は教に依りて行を起こすことを明かす。

【一八】次には、見て敬禮し教を請ふことを叙す。初に依報を見ることを明かす。

正法を護持し、菩薩の諸の淨願身を成就し、善く緣起を知り、不可思議の善根を修習せん』と。是の念を作し已りて、淨心に一切の菩薩を信敬して世尊の想の如くし、善根を修習して心顚倒せず、正念に恭敬して世間の想を離れ、諸願を滿足して、無量の菩薩の化身を出生し、三世一切の諸佛菩薩の法門を讃歎し、智慧をもつて如來菩薩の一切至處の自在神力、乃至一毛孔の中に佛菩薩の身は皆悉く充滿せることを覺悟し、無礙の智眼をもつて十方の法界、及び虛空界の三世の諸法を觀ず。爾の時に善財、是の如く恭敬し供養して、諸の願忍を具へ、無量の智を以て境界智を觀ぜり。

爾の時に善財、五體をもつて彼の嚴淨藏高大の樓觀を敬禮し。是の如きの念を作さく、『此は是れ諸佛菩薩、諸の善知識なり、是れ諸佛の塔なり、是れ如來の像なり、諸佛菩薩の法寶の住する處なり、是れ聲聞・緣覺なり、亦是れ其の塔なり、此は是れ衆聖なり、亦是れ父母なり、亦是れ福田なり、此は是れ一切法界の境界なり』と◎是の念を作し已りて、又復た等觀するに猶ほ虛空の如く、等觀するに法界の如く障礙有ること無し。等觀するに實際の如く一切處に至る。等觀するに如來の如く諸の虛妄を除き染著する所無し。等觀するに影の如く、夢の如く、電の如く、響の如く、悉く緣より起り、有に非ず無に非ず◎深心に諸業の因に隨ひて果報を受くることを信解し、信心より等正覺を成ずることを知り、佛の功德を解するに因りて、諸佛を供養し、恭敬の心に因りて佛の化身を出だし、善根を修することに因りて諸佛の法を起し、般若波羅蜜に因りて、一切の波羅蜜を起し、堅固の願に因

りて諸佛の法を起し、諸の回向に因りて一切の菩薩行、一切智の境界法界を起し。回向を解了するに常に非ず斷に非ず、生に非ず滅に非ず、因無くして作るに非ず。有見諸の顚倒の惑、謂く自在よりして諸法を生じ、本有の實性あり、次第に出づといふを捨離し。我我所を離れ、深く緣起に達して諸の法界に入る。有爲の法を見るに猶ほ鏡像の如く、有無の見を離れ、不生不滅にして、邪癡の惑を滅し、諸法は空にして悉く自在無しと了り、諸相を超出して無相の際に入り、而も亦種の芽を生ずるの法に達はず。悉く一切は因緣より生ずることを知る。印に因るが故に印像を生ずるが如く、鏡中の像の如く、電の如く、夢の如く、響の如く、幻の如く、各因に隨ひて有り、一切の諸法も亦復た是の如く、業に隨ひて報を受け、善方便を以て諸法を潤澤す。◎爾の時に善財禮して未だ起たざる閒に、法を知ること是の如くして、不思議の善根を得、身心柔輭となれり。

（一九）稽首し禮し畢りて、敬ひ繞ること十帀、合掌し諦觀して。（二〇）復た是の念を作さく、『此は是れ空・無相・願を解る者の所住の處、虚妄を離れたる者の所住の處、法界に住する者、衆生の實有に非ざることを了知する者、不生を知る者、一切の世閒は所著無しと知る者、方便をもつて一切衆生を分別する者、一切所依無き者、一切の相を離れたる者、一切法の無自性を知る者、虚妄に一切の業を取らざる者、一切の心意識の相を了知する者、一切の道は出に非ず不出に非ざることを知る者。一切甚深の大智

【一九】以上、禮し觀察することを竟り、次に身遶りて念讃することを明かす、中に三業あり、初は身業遶旋。
【二〇】以下、意業の念觀。

度に住する者、方便をもつて普門の法界に充滿する者、一切衆生の煩惱を寂滅する者、智慧をもつて見・愛・慢・を斷除する者、一切の禪定解脱三昧をもつて神通遊戲する者、一切菩薩の三昧の境界を修する者、一切の如來の所に安住する者。一劫を以て一切劫と爲し、一切劫を以て一劫と爲す者、一切刹を以て一刹と爲し、一刹を以て一切刹と爲すも、而も亦諸刹の相を壞せざる者、一法を以て一切法と爲し、一切法を以て一法と爲すも、而も亦諸法の相を壞せざる者、一衆生を以て一切衆生と爲し、一切衆生を以て一衆生と爲すも、而も衆生に差別無しと解る者、一佛を以て一切佛と爲し、一切佛を以て一佛と爲すも、而も諸佛に二有ること無しと解る者、三世を以て一念と爲し、一念を以て三世と爲す者、一念の中に於て一切の刹に詣る者、普く照して一切衆生を饒益する者、一切入を得たる者、衆生を出過するも教化せんが爲めの故に而も捨離せざる者、一切の刹に依らずして而も遊行して一切の世界を莊嚴し佛を供養する者、一切の佛に詣でて染著すること無き者、善知識に依りて法を味はざる者、一切の魔宮に住して樂欲せざる者、一切相に入りて而も一切智を捨離せざる者、一切衆生の身は我無く衆生無しと了りて二の觀無き者、自身に一切の世界を容受して而も法性を壞せざる者、盡未來劫に諸の願行を修して而も劫の長短の相を取らざる者、一毛端の處を離れずして而も一切の世界に現じ普く衆生の爲めに正法を説く者、尊重す可き者、甚深の法を解る者、無二に達する者、無性を了る者、善く對治する者、法空を體する者、慈悲に住する者、一切の聲聞・緣覺の地を遠離する者、一切

の魔の境界を超出する者、一切世間の境界に染まざる者、一切の菩薩の法門を究竟する者、一切の佛の法門に隨順する者、一切の生死を厭ふて聲聞の離生の法を證せざる者、一切の法は無生なりと知るも而も亦不生の見を起さざる者、不淨の法を觀ずるも離欲の法を證せずして染愛せざる者、大慈を修習するも瞋恚の法を除滅せんが爲めにせざる者、緣起を觀ずるも一切法の中に愚癡無き者。四禪に住するも隨生せざる者、四無量に住するも無色に生ぜずして敎化を爲す者、止觀を修習するも明脫を證せずして衆生を化する者、空三昧に住するも無見を滅する者。無相三昧に住するも衆生を化せんが爲めに相を捨てざる者、無願三昧に住するも菩薩の一切の願を捨てざる者、一切煩惱業の中に自在力を得るも、敎化せんが爲めの故に煩惱業に隨順することを示現する者、生死を離るるも而も受生を現じて敎化を爲す者、一切の趣を離るるも現じて諸趣に入り衆生を化する者、大慈悲を修するも愛に隨はざる者、喜心を修習するも衆生の苦を見て常に憂慼する者、捨心を修習するも而も利他の事を捨離せざる者。九次第定を得るも而も欲界の生を厭離せざる者、諸受を離るるも而も實際を證せざる者、三脫門に住するも而も聲聞の解脫法を證せざる者、四眞諦を觀ずるも而も諸果を證せざる者、緣起を觀ずるも邊見を離るる者、八正道を修するも而も永く生死の難を出でざる者、凡夫地を超ゆるも而も二乘地に墮せざる者。陰の熾然なることを觀ずるも而も永く五陰を滅せざる者、四魔の道を離るるも而も永く諸魔の覺を捨てざる者、六入の障を捨つるも而も現受する者、眞如の相を觀ずるも而も實際の法

を證せざる者、現に一切乘を學ぶも而も摩訶衍を捨離せざる者。此の如きの樓觀は、一切の功德に住する者の所住の處なり。』

〔二〕爾の時に善財、偈を以て頌して曰はく、

『大慈の心に安住する、彌勒摩訶薩は、妙功德を具足して、諸の群生を饒益したまふ、
灌頂地に住する、諸佛の長子は、佛の境界を思惟して、此の法堂に安住したまふ。

〔三〕一切諸の佛子は、常に大乘の行を履み、諸の法界に遊行して、
此の法堂に安住せり、
施と戒と忍と精進と、禪と智と方便と願とをもつて、彼岸を究竟する
者は、此の法堂に安住す、
無礙の智は空の如く、普く三世の法を照し、一切を了知する者は、此の法堂に安住す、
一切の法は、眞實に生相無く、鳥の空に遊ぶが如しと解了する者は、此の法堂に安住す、
貪・恚・癡と、一切諸の顚倒とを除滅して、常に寂靜を樂ふ者は、此の法堂に安住す、
三脫門の道をもつて、陰と入と界と緣起とを觀じ、惡道を遠離する者は、此の法堂に安住す、
深く無礙の智に入り、衆生と刹とを等觀して、法の無性を知る者は、此の法堂に安住す、
三世の法は無礙なること、猶ほ空中の風の如く、染著する所無き者は、此の法堂に安住す。

【二】次に語業の偈讚、五十五偈。初の二は總じて彌勒の德の勝れたることを顯はす。
【三】以下別釋の中　次の八偈は自分行の勝れたるを歎す。

(三)衆生は苦を受けて、歸依の處有ること無きを見て、大悲をもつて普く濟ふ者は、此の法堂に安住す、

盲冥なる衆生は、正を捨てて險路に入ることを見て、爲めに正道を示す者は、此の法堂に安住す、

諸の有爲の中にて、生・老・病・死に逼らるるを見て、恐怖を免れしむる者は、此の法堂に安住す、

衆生の結患を見て、智慧の藥を積集し、悲心醫王のごとき者は、此の法堂に安住す、

無量の衆生の、生死の海に漂溺するを見て、大悲の船をもつて度す者は、此の法堂に安住す、

深く生死の海に入りて、煩惱の流を摧滅し、佛の智寶を採る者は、此の法の中に安住す、

願地の慈悲の眼をもつて、(四)海を觀じて衆生を出だすこと、金翅鳥の如き者は、此の法堂に安住す、

法界の空中に行くこと、猶ほ淨き日月の如く、慧光普く照す者は、此の法堂に安住す、

一一の衆生の爲めに、未來際を盡す劫に、諸の苦を荷ひ負ふ者は、此の法堂に安住す。

【三】次の九偈は利他行の勝れたるを歎ず。

【四】生死の海より衆生を救ひ出だす義。

(二五)一一の諸刹の中にて、未來劫を盡くして修行し、金剛精進する者は、此の法堂に安住す。
一たび坐する處に、諸佛の法を聞持して厭くこと無き、大智慧海の者は、此の法堂に安住す、
遍く世界海、及び諸の大衆海に遊びて、佛海を供養する者は、此の法堂に安住す、
一切劫海の中に、諸の願行海を修し、功德を出生する者は、此の法堂に安住す、
一一の毛孔の中に、佛刹と劫と衆生とを、無礙の眼をもつて見る者は、此の法堂に安住す、
一念の中に遍く、不可說の諸劫に入り、念の無礙なるを知る者は、此の法堂に安住す、
一切刹は微塵に、衆生は水滴に等し、此等の願を生ずる者は、此の法堂に安住す、
無量劫に、總持・禪定・願と、解脫の法門とを修行する者は、此の法堂に安住す。

(二六)一切諸の佛子の、無量の德を出生して、衆生を饒益する者は、此の法堂に安住す、
無礙の智を成就し、通明と巧方便とをもつて、應に隨ひ生を現ずる者は、此の法堂に安住す、
初め道心を發してより、一切の行を究竟するまで、化身法界に滿ちて、自在力を顯現し、
一念に正覺を成じて、無量の智業に入り、能く測量する莫き者は、此の法堂に安住す、
無礙の淨慧力をもつて、諸の法界に遊行し、無垢の智をもつて觀ずる者は、此の法堂に安住す、

【二五】次の八偈は功德の勝れたるを歎す。
【二六】次の九偈は方便の勝れたるを歎す。

無礙の足を成就して、一切所著無く、刹の無二なることを了る者は、此の法堂に安住す、
諸の寂滅の法を觀ずるに、皆悉く虚空の如くにして、垢の境界を離れたる者は、此の法堂に安住す、
大悲をもつて衆生は、諸の苦に逼迫せらるることを觀じ、拔濟し饒益する者は、此の法堂に安住す、
一たび坐する處を離れずして、普ねく衆生の前に現じ、明淨なる日月の如く、魔の鉤餌を除滅す。

(三七)佛子此の堂に住して、諸の群生を哀愍し、無量の化身を出だして、諸の法界に充滿す、

【三七】次の十一偈は三昧の勝れたるを歎ず。

佛子此の堂に住して、徧く諸の世界の、一切如來の所に遊ぶこと、無量無數劫、
無依にして此の堂に入り、佛の境界を稱量して、無量無數の劫にも、其の心に厭倦無し、
佛子此の堂に住して、念念に諸定に入り、一一の三昧門に、佛の境界を顯現す、
佛子此の堂に住して、一切の刹と、三世一切の劫と、衆生と佛の名號とを覺了す、
佛子此の堂に住して、諸劫を一念と爲し、妄想の惑を遠離して、衆生に隨順す、
佛子此の堂に住して、諸の三昧を修習し、一一の心念の中に、三世の法を了達す、

佛子此の堂に住して、一處に跏趺して坐し、普く一切の刹、一切諸趣の中に現ず、
佛子此の堂に住して、悉く佛法の海を飲み、深く智慧の海に入りて、功德の海を超度す、
無礙の智をもつて、三世無數の刹と、諸劫の諸の如來と、無數の衆生の類とを思量す、
佛子此の堂に住して、常に一念の中に於て、三世の諸佛の、刹の成敗を了知す。

（三八）善く諸の最勝の、修する所の諸の行願と、幷びに衆生の諸根とを知りて、佛の境界を修習す、
一一の微塵の中に、一切の劫刹と、諸佛及び眷屬と、一切衆生の類とを見る、
佛子此の堂に住して、常に一切の法を觀ずるに、衆生と刹と世劫と、皆悉く自性無し、
衆生等しく、法等しく如來等しく、願等しく、世界等しく、三世悉く平等なりと觀察す、
佛子此の堂に住して、諸の群生を敎化し、諸の如來を供養し、諸の法界を思惟す、
無量の智慧の業は、諸の大願を滿足し、無數劫に演說すとも、窮盡することを得可からず、
一切諸の佛子の、無量の德を具足して、此の法堂に安住するを、我合掌して敬禮す、
諸佛の長子たる、彌勒の無礙の行を、我今合掌して禮す、唯願はくは慈をもつて矜憫みたまへ。』

【三八】後の八偈は願行の勝れたるを歎ず。

# 卷の第五十九

## 入法界品第三十四の十五

(一)爾の時に善財、樓觀の諸の菩薩を讃歎し已りて、合掌し恭敬し、供養し禮し訖りて、門下に於て立ち、彌勒菩薩を見たてまつらんと欲す。爾の時に、遙かに彌勒菩薩を見たてまつるに、無量の天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人・非人等と與に、大衆に圍繞せられ、外より來りたまへり。威德特に尊く、普く一切を照し、世法に染まず、一切世間の衆魔の境界を超出し、諸の障礙を滅し、深く如來菩薩の境界に入り、諸佛を供養し、諸佛の法に等しく、解脫の繒なる淨妙の天冠を冠むり、大智網に住し、諸佛の所に於て一切智を得、甘露をもつて灌頂し、諸佛の法を生じ、薩婆若を得たまへり。

【一】次に正報を見ることを明かす。
【二】次に敬を致して請問す。

(二)爾の時に善財、頭面に敬禮し、一心に合掌して、白して言さく、『大聖よ、云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや。既に修學し已りて、一切の佛法を具へ、請ふ所の衆生に隨ひて悉く度脫せしめ、大願を成就し、一切の菩薩の所行を究竟し、一切の

諸天と世人とを安慰し、本心に負かず、三寶に違はず、天人を欺かず、衆生を悶せず、佛種を斷せず、菩薩の家なる如來の正法を持す。是の如き等の事を、唯願はくは演說したまへ。』

(三)爾の時に彌勒、大衆を觀察し、善財を指して言はく、

『汝等是の童子の菩薩の行を問ひ、一切の功德を具足する者を見るや不や。此の童子は勇猛精進して、專ら實義を求め、正直心を以て不退轉を得、常に勝法を修して心に厭足無く、頭然を救ふが如くし、善知識を求めて親近し供養し、法を聞きて受持す。此の童子は、昔頻陀伽羅城に於て、文殊師利の敎を受け、善知識を求め、展轉して一百一十の諸の善知識を經由して、菩薩の行を問ひて心に疲倦無く、次に我が所に來れり。是の童子の如く大乘を學ぶ者は、甚だ爲希有なり。大願を成滿して能く大事を辨じ、大莊嚴を具して、常に大慈を以て衆生を救護し、大精進波羅蜜を起して大衆を示導し、大法の船に乘じて生死の海を度り、大道に住せしめ、大法の寶を得て大智を長養せしむ。是の如きの人は聞見すること得難く、親近して共に住し、同じく行ずることも亦難し。何を以ての故に、此の童子は發心して一切衆生を救護し、衆苦惡道の諸難、邪見の險路、愚癡の闇を除滅して、生死を超出し、一切趣輪を壞し、魔の境界を度り、一切世間に於て染著する所無く、欲の泥を出で、貪の縛を解き、邪倒を除き、慢の幢を摧き、使の刺を拔き、諸の蓋を廢し、愛の綱を裂き、無明を滅

【三】以下、已が法界を授く、中に於て、初に善財の法器利益を歎ず、六段あり、一に己が眷屬の爲に善財の德を歎ず。

し、有流を竭し、諂幻を離れ、心の垢を淨め、疑惑を釋く。無智の海を度り、生死の苦を厭ひ、大法の船に乘りて四使の流を濟り、大愛の河に於て智慧の橋を造り、愚癡の闇の中に智慧の燈を然し、生死の路に於ては示すに正道を以てし、煩惱の病者には法藥を服せしめ、生老死する者には甘露の法を授け、三毒の盛なる者には、滅するに定の水を以し清涼なることを得しめ、諸の憂怖する者には施すに無畏を以てし、三有の獄は開くに智の門を以てし、邪見の縛は斷つに慧の劍を以てし、三界の城に住するには解脫の門を開き、危險に在る者には安隱の處を示し、結の賊を懼る者には施すに無畏を以てし、三惡の塹に墜つる者には俯接して出でしめ、陰賊の爲めに害せらるる者は涅槃の城に置き、衆生に著する者には八正道を示し、六入の空聚に住する者は拯ふに慧明を以てし、津要を失ふ者には示すに正濟を以てし、惡知識に近づく者は善友に親ましめ、童蒙を樂ふ者は誘ふに聖法を以てし、生死の宅を樂ひ住する者は普く一切智の城に超入せしむ。一切衆生の類を救護して、淸淨を捨てず、菩提心を求め、大乘を積集して心に疲倦無く、正法の雨を飮んで厭足無く、勇猛にして諸の功德の事を究竟し、諸の法門を淨め、菩薩の行を修して、心に疲れ懈ること無く、方便を退せずして大願を出生し、善知識を見て、心に樂みて厭くこと無く、所爲を奉給して其の敎に隨順し、以て苦と爲さず。◎

諸の善男子よ、世間に能く無上菩提心を發起すること有る者は、甚だ爲希有なり。若し發心し已りて、是の如く精進して佛法を求むる者は、亦甚だ希有なり。是の如く淨き菩薩の道を樂欲し、菩薩の

行を具へ、身命を惜まずして、善知識を求め、其の教に違はず、菩提分を集めて利養を貪らず、菩薩の正直の心を捨てず、家業に著せず、五欲に染まず、父母及び諸の親族を戀せず、但樂ひて專ら一切種智を修む。是の如きの人は倍復た希者なり。諸の善男子よ、若し菩薩有りて是の如く學ばば、則ち能く菩薩の所行を究竟し、大願を成滿し、佛の菩提に近づき、一切の刹を淨め、衆生を敎化し、深く法界に入り、一切諸の波羅蜜を具足し、菩薩の行を廣め、本意の性を畢り、魔の業を出で、一切諸の善知識に値遇し、一生の中に於て能く普賢菩薩の諸行を具へん。此の童子は、威儀海と、諸の智慧海とに入り、菩薩海と、菩薩の行海とを修し、一切諸佛の願海を成滿し、諸の刹海に詣り、諸佛海を見、眷屬海に入り、供養海を行じ、正法海を聞き、妙法海を飲み、一切の菩薩の力海を成滿し。一切の自在力雲を顯現し、一切衆生見ざる者無く、一切の煩惱處を滅し、一切の佛處に入り、諸の法門處に入り、諸の三昧處に入り、諸の通明處に住し、法界處に遊行し、日月の出づるが如く一切の衆生處を照し、諸相に依らざること虚空の中の鳥の如く、常に寂靜無壞の法門を樂ひ、徧く因陀羅網の世界、諸佛の世界に遊びて、風の如く無礙なり、深く法界に入り、諸の世間に現じ、三世の佛を見たてまつりて、心大いに歡喜し、踊躍すること無量にして、諸佛の教に隨ひて聖法の器と爲り、諸の法門を得、菩薩の行を具へ、自在力を現す。

(四)善財よ、汝今最大の利を得て、無量劫に於ても聞見し難き者を、汝悉く聞見し、彼の功德を知れ

【四】二に、正しく善財の爲に德を歎じて喜ばしむ。

り◎所謂る、文殊師利を見ることを得て無量の德を積み、一切の險難惡道を遠離して正法に安住し、童蒙の地を過ぎ、諸の菩薩の功德地に住し、智慧地を具へて、諸佛の地と、菩薩の行海とを得、虚空に等しき諸佛の智藏を成滿し、專ら無量の諸の妙功德を求めて、心に厭倦無し◎若し能く是の如く堅き直心の者は、則ち能く諸の善知識を樂ひ求め、菩薩の行を具へ、衆生を敎化せん。不思議なる淸淨の信と、諸の妙功德と、正法の義とを具せん者は、悉く一切の佛子を覩見ることを得ん。善財よ、汝今大善利を獲て、次第に諸佛の眞子を覩見る。彼自ら願行の所得を說くに隨ひて、汝從ひて聞き已り、皆悉く具さに得たり。是の如きの行者は、無量劫に於ても辨じ難き所なり。是の因緣を以て、諸の佛子等は次第に爲めに說き、聞見し難き者を汝悉く聞見し、彼に從ひて法を聞き、自在力を現じ、一切の佛の爲めに護念せられ、菩薩に攝せられ、彼の敎に隨順して大善利を得、一切諸の菩薩の性を長養し、諸の功德を學び、佛種を斷ぜず、常に諸佛の甘露の灌頂と爲り、久しからずして當に諸の佛子と等しく、前の衆生に隨ひ、其の修善に因りて、皆悉く勝妙の果報を獲しむべし◎善財よ、汝應に大歡喜を發すべし、久しからずして當に大果報を得べきが故なり。無量の菩薩は無數劫に於て菩薩の行を修するも、汝は今一生に皆悉く具さに得たり、皆直心の精進力に由るが故なり。其れ是の如きの法を得んと欲する者有らば、當に善財の修學する所の如くなるべし、便ち諸の菩薩の行を究竟し、一切の願を滿じ、一切法に達することを得ん。譬へば慶雲の所覆の處に隨ひて

能く甘澤を降らすが如く、智慧の願に隨ひて菩薩の行を具ふることも、亦復た是の如し。善財、當に知るべし、我が顯說する所は、皆是れ普賢菩薩の所行なり、應當に了知して善知識に近づくべし。過去の諸佛は、專ら菩提を求めて、此の行を修習し、無量劫に於て諸の有爲の中に無量の苦を受けたるも、猶ほ過去の諸佛に値遇せず、是の行を具へず。善財よ、汝は今皆成就することを得て、諸佛の法を聞き、菩薩の行を行ぜり。其れ衆生有り、是の行を聞かん者は大善利を得、大願を成滿し、諸佛に親近し、佛の眞子と爲り、必ず佛道の清淨の解脫を成じ、諸の惡を除滅し、衆苦を遠離し、功德を積集し、清淨の法身は十方に遊行して、諸の如來、菩薩の大衆を見たてまつり、善根を長養すること、水と蓮華の如く、諸佛に値遇し、正法を聞持し、佛道に安住し、諸佛の願を具へ、諸佛の功德彼岸を究竟すべし。』

【五】三に勸めて文殊に歸らしむ。

(五)爾の時に彌勒、善財に告げて言はく、『汝往きて文殊師利に詣で、諸の法門と、智慧の境界と、普賢の所行とを問ふべし。彼當に汝が爲めに分別して演說すべし。』

爾の時に善財是の語を聞き已りて、悲泣して淚を流す。文殊師利は卽時に臂を伸べ、遙かに善財に華寶の瓔珞を授けたまへり。善財得已りて、歡喜して彌勒菩薩に供散せり。彌勒菩薩、卽ち右の手を以て善財の頂を摩で、讚めて言はく、『善い哉善い哉、佛子よ、汝亦久しからずして當に我と等しかるべし。』

(六)爾の時に善財、踊躍すること無量にして、偈を以て頌して曰はく。

『無量無數劫に、見聞することを得難き者を、我今、無上の善知識を奉覲することを得たり。

文殊は我尊ぶ所、功德の岸を究竟し、善知識を見ることを蒙れば、願はくは速かに還りて親近せん。』

爾の時に善財、五體をもつて彌勒菩薩を敬禮し、合掌して白して言さく、

『大聖よ、我已に先に阿耨多羅三藐三菩提心を發せるも、而も未だ菩薩は云何んが菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを知らず。大聖よ、今者已に諸佛の爲めに一生の記を授けられ、菩薩の離生の正法を證し、菩薩住に住し、一切諸の波羅蜜を究竟し、一切諸法の忍門を具足し、菩薩の一切諸地を成就し、自在に一切の法門に遊戲し、一切の三昧を得て、菩薩に到り、所至の趣に隨ひて、一切の陀羅尼、辯才方便光明を逮得し、菩薩の自在を具足し成就し、一切の助菩提分を積集し、巧方便の慧に遊戲し、一切の通明を得、修學する所に隨ひて悉く已に菩薩の諸行を究竟し、一切の願を具し、諸乘の門を知り、如來持を持し、佛の菩提を攝し、一切諸佛の法藏を守護し、智寶菩薩の功德と、如來の密敎とを出生し、常に菩薩大衆の上首と爲り。煩惱の賊に逼迫せらるる者の爲めには、勇猛力を以て能く爲めに摧滅して安隱を得しめ、生死の曠野にて正路に迷ふ者には、示すに正道を以てし、煩惱に患ふ者には、治するに良醫を以てし、諸

【六】四に、善財自ら慶び重ねて請ふことを明かす。

の衆生は尊んで天中の天と爲し、無上の聖にして二乘を勝出せりと爲し、生死海の者には、爲めに導師と作りて之を度脱せしめ、大敎の網を張りて生死海を絙し、諸の調伏の者は攝して之を取り、善根を長養して、菩薩を無礙の乘に安立し、一切諸の菩薩の事を究竟し、諸佛の所に住せしめたまふ。唯願はくは大聖よ、我が爲めに云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するやを演說したまへ。』

(七)爾の時に彌勒菩薩摩訶薩、善財を觀察し、大衆に指示して、其の功德を歎じ、偈を以て頌して曰はく、

『(八)善財童子は、淨き直心と智慧とをもつて、專ら菩薩の行を求めて、
我が所に來至せり。

(九)善來、大悲の雲、能く甘露の法を雨らし、三淨眼を具足して、菩薩の行に厭くこと無し、
善來、正直の心、精進して懈倦無く、諸根悉く調伏して、專ら菩薩の行を求む、
善來、無壞の行、常に善知識を求めて、一切の法に了達し、諸の群生を敎化す、
善來、淸淨の道、功德の路に安住し、勇猛精進の力をもつて、最勝の地を逮得す、
善來、離見の者、諸佛の功德の子は、諸の善根を增長して、深く無量の境に入る、

【七】五に、彌勒、偈を以て重ねて善財の德を歎ず。
【八】六十八偈あり　初の一偈は總じて專求を歎す。
【九】次の十偈は別して善く來れることを歎す。

善來、平等の者、利衰及び毀譽と、苦樂世間の法とは、其の心に所染無し、
善來、安樂の者、直心にして諂曲を離れ、憍慢と、瞋恚と、放逸の法とを除滅す、
善來、最勝の藏、一切の衆を觀察して、功德の藏を長養し、其の心に疲倦無し、
善來、三世の智、諸の法界を圓滿し、佛の功德藏を了り、其の心に疲倦無し、
善來、妙蓮華、名稱の雲を增長せる、諸の佛子敎へて來らしむ、我無礙の趣を示さん。

〔一〇〕智慧の網を成就して、不思議を了達し、廣く菩薩の行を修して、諸の群生を敎化す、
專ら佛の菩提を求めて、離垢の行を修習し、諸の大願を聞持し、此に至りて疲倦無し、

【一〇】次の八偈は、其の來意を歎ず。

去來現在の佛の、成じたまふ所の諸の行業を、善財修學せんと欲す、故に來りて我所に至れり、
眞の法師を志求し、正道の法を演說して、善く菩薩を敎ふる者、故に來りて我所に至れり、
佛子智慧を修め、菩提を具足し、善知識に親近す、故に來りて我所に至れり、
衆生は慈父母のごとく、諸の功德を長養し、菩提の道を究竟す、故に來りて我が所に至れり、
生・老・病・死の者には、無上の良醫王となり、衆生の釋天となりて、甘露の法藥を雨らす、
衆生の明淨日となり、普く諸の正道を照す、衆生の淨月となる、功德圓滿なるが故に。

〔二〕譬へば須彌山の如く、怨親に心動ぜず、猶ほ大海の水の如く、未だ曾て增減有らず、
猶ほ海導師の如く、無量の衆を度脫し、一切所著無し、故に來りて我が所に至れり、
勇猛精進の力をもつて、諸の衆生を拯救ひ、悉く安樂を得しめんとて、專ら善知識を求む、
正法幢を建立して、佛の功德を顯現し、惡道の苦を除滅して、諸の善趣門を開く、
能く諸の導師に詣でて、佛の妙身を覲見し、彼の密教を聞持せんとて、專ら黠慧の師を求む、
妙智の色を具へ、種姓の家に託生し、諸の功德を究竟せんと欲す、故に來りて我が所に至れり、
無比の正直心をもつて、善知識に親近し、其の說く所の敎を聞きて、皆悉く能く奉行せり、
昔の無量の德に因りて、文殊發心せしめ、其の敎命に隨順して、專ら佛の菩提を求む、
天宮と家屬と、父母と諸の親戚と、世閒の一切の樂とを捨てて、謙苦して知識を求む、
是の如きの淸淨の行は、此に於て命終し已りて、諸の勝妙の果を得、佛法の堂に昇入す。
〔三〕善財衆生を見るに、生老病死の苦あり、大悲の心を發さんが爲めに、專ら佛の菩提を求む、
五道の輪轉を見るに、衆苦に逼迫せらる、智の金剛輪を修して、苦趣の輪を壞散す、
衆生の田は荒穢して、貪・恚・邪見の刺あり、淨め修治せんが爲めの故に、專ら利智の犁を求む、

〔二〕次の十偈は行位の成立を歎ず。
〔三〕次の二十二偈は利他と兼ねては自行を歎ず。

衆生は癡闇に處し、盲冥にして正路を失ふ、善財は導師と爲りて、慧光をもつて正道を示す、
忍辱を密鎧と爲し、慧の利劍を執持し、三脫門に乘じて、煩惱の賊を摧滅す、
善財の勇猛の力は、普く三界の衆の爲めに、諸の恐怖を除滅し、安隱の處に置かしむ、
善財は海師と爲りて、大法の船を造立し、爾炎の海を越度し、淨寶の洲に住せしむ、
善財は一切の、法界の中に淨日と爲り、願と智慧との光を以て、普く衆生の類を照す、
善財は覺月と爲り、妙法悉く圓滿し、慈定の淸涼なる光は、諸の煩惱の熱を滅す、
善財は智海の依、直心金剛の地なり、菩薩の行漸く深くして、妙法の寶を出生す、

菩提心は龍王のごとく、法界の空に昇り、雲を興して甘露を雨らし、白淨の果を長養す、
淨き信心を炷と爲し、慈悲を香油と爲し、正念を寶器と爲し、彼の世を燿す燈を然す、
道心は(三)迦羅邏にして、慈悲を胞段と爲し、菩提分を肢節として、如來藏を長養す、
功德の藏を增益し、智慧の藏を淸淨にし、智慧の藏を熾盛にし、諸願の藏を成滿す、
是の如きの大莊嚴をもつて、諸の群生を救護するは、一切の天人の中に、聞き難く見ることを得難し、

【三】迦羅邏(Kalala)。凝滑と譯す、胎內五位の一にして、托胎後初七日の間を云ふ。

是の如きの智慧の樹は、根深くして動かす可からず、勇健は爲敷き茂りて、諸の群生を饒益す、
一切の法を開きて、諸の疑惑を除滅し、妙功德を具足せんと欲して、專ら善知識を求む、
煩惱の魔を摧滅し、邪愛の垢を消滅し、悉く解脫を得しめんとて、專ら智慧の者を求む、
功德の道に安住し、究竟して三塗を滅し、諸の善趣を開示して、涅槃の道を具へしめ、
八正路を顯現して、諸の邪見を除滅し、煩惱の網を壞り裂き、愛欲の海を消竭す、
善財は明淨の日のごとく、普く群萠の類を照し、能く調御師と爲りて、三有の衆を拯濟す、
一切を覺悟して、永く五欲の泥を出でしめ、虛妄の想を除滅して、爲めに解脫の門を開く。

【四】後の十七偈は自他行を雙結す。

(四)諸の法界を分別し、如來の剎を嚴淨し、一切の法を究竟す、善財應に歡喜すべし、
勇猛に方便を修し、信心壞す可からず、妙功德を積集して、諸の大願を成滿す、
久しからずして諸佛を見たてまつりて、一切の法を了達し、諸佛の剎を嚴淨して、佛の菩提を成就せん、
威儀海に隨順し、諸行の海を究竟して、一切無量の、衆生海を度脫せしめん、
諸の善法を出生し、妙功德を具足して、諸の佛子と等しく、解脫の法を圓滿す、
諸の大願を成滿して、一切の魔を降伏し、清淨の業を具足して、諸の煩惱を除滅す、

一切智を成就して、甚深の法を了達し、諸の群生の、煩惱衆苦の患を除滅す、
一切衆生の輪は、生死の輪を回流す、爲めに淨法輪を轉じて、衆苦の輪を除滅す、
佛の種姓を守護し、法の種姓を淨修し、僧の種姓を攝取して、三世の種姓を了る、
大願の網を成滿して、邪見の網を壞散し、諸の愛の網を劚裂して、衆苦の網を決破す、
直心の性を成就し、智慧の性を具足し、世界の性を嚴淨して、衆生の性を度脫せしむ、
善財は一切の、無量なる諸の群生と、諸佛及び菩薩をして、皆悉く大いに歡喜せしむ、
善財は淨慧光をもつて、普く諸刹の法と、一切衆生の類とを照し、皆無量の佛を見奉らしむ、
諸の世界を照明し、衆生界を淸涼にし、惡道を遠離し。三有の苦を除滅す、

【一五】六に廣く菩提心の無盡の德を歎ず。

衆をして邪道を離れて、諸の善道を顯現し、八正道を修習して、解脫の道に安立せしむ、
普く諸の群生をして、生死の海を度脫し、諸の煩惱を除滅して、功德の海に安住せしむ、
煩惱の海を消竭して、三有の海を度らしめ、諸根悉く調伏して、世間に染まざらしむ。』

(一五)爾の時に彌勒菩薩、是の如き等の善財の諸の妙功德を讚歎することを以て、無量の衆生をして道心を發さしめ已りて、善財に告げて言はく、

『善い哉善い哉、童子よ、乃ち能く阿耨多羅三藐三菩提心を發し、專ら一切の佛法を求め、一切の

世間を饒益し、一切の衆生を救護せり◎善男子よ、汝善利を得て、人身と壽命とありて、諸佛に値遇したてまつり、文殊師利大善知識を見ることを得、汝は法器となりて善根潤澤し、清白の法を長じ、欲性を淨勝にし、善知識の總攝する所と爲り、諸佛に護念せらる。何を以ての故に、(二六)菩提心は則ち爲一切諸佛の種子なり、能く一切諸佛の法を生ずるが故に。菩提心は則ち爲良田なり、衆生の白淨の法を長養するが故に。菩提心は則ち爲大地なり、能く一切諸の世間を持するが故に。菩提心は則ち爲淨水なり、一切の煩惱の垢を洗濯するが故に。菩提心は則ち爲大風なり、一切世間に障礙無きが故に。菩提心は則ち爲盛火なり、能く一切の邪見愛を燒くが故に。菩提心は則ち爲淨日なり、普く一切衆生の類を照すが故に。菩提心は則ち爲明月なり、諸の白淨法悉く圓滿するが故に。菩提心は則ち爲淨燈なり、普く一切諸の法界を照すが故に。菩提心は則ち爲淨眼なり、悉く能く邪正の道を視見るが故に。菩提心は則ち爲大道なり、皆一切智の城に入ることを得しむるが故に。菩提心は則ち爲正濟なり、悉く出要の處に到ることを得しむるが故に。菩提心は則ち爲大乘なり、一切諸の菩薩を容載するが故に。菩提心は則ち爲門戶なり、一切の菩薩の行に入らしむるが故に。菩提心は則ち爲宮殿なり、三昧の法に安住し修習するが故に。菩提心は則ち爲園觀なり、中に於て遊戲し法樂を受くるが故に。菩提心は則ち爲勝宅なり、一切衆生の歸依する所なるが故に。菩提心は則ち爲

【二六】以下廣く發心の功德を歎ず、中に二百十八句あり、初の一百十五句は菩提心の殊勝の功德は高く佛果に齊等なることを明かす。

依止なり、因りて一切の菩薩の行を修するが故に。菩提心は則ち爲守護なり、能く菩薩の諸の大願を滿ずるが故に。菩提心は則ち爲慈母なり、一切諸の菩薩を增長するが故に。菩提心は則ち爲養育なり、一切諸の菩薩を守護するが故に。菩提心は則ち爲善知識なり、一切の惡と諸の恐怖とを離るるが故に。菩提心は則ち爲大王なり、諸の聲聞緣覺の心に勝るるが故に。菩提心は則ち爲最勝なり、一切の無比の願を成滿するが故に。菩提心は則ち爲大海なり、悉く能く諸の功德を容受するが故に。菩提心は則ち爲須彌山王なり、等しく衆生の心を觀じて動ぜざるが故に。菩提心は則ち爲金剛圍山なり、一切諸の衆生を攝持するが故に。菩提心は則ち爲雪山なり、智慧淸涼の藥を長養するが故に。菩提心は則ち爲香山なり、一切の功德の香を出生するが故に。菩提心は則ち爲虛空なり、諸の妙功德に邊際無きが故に。菩提心は則ち爲蓮華なり、一切世間の法に染まざるが故に。菩提心は則ち爲寶象なり、悉く能く一切の根を調伏するが故に。菩提心は則ち爲寶馬なり、諸の惡と懦悷の法とを遠離するが故に。菩提心は則ち爲調御師なり、悉く能く摩訶衍を守護するが故に。菩提心は則ち爲良藥なり、一切の煩惱の病を療治するが故に。菩提心は則ち爲沃焦なり、一切の不善の法を消盡するが故に。菩提心は則ち爲金剛なり、一切諸の惡法を壞散するが故に。菩提心は則ち爲和香なり、一切の功德の香を出生するが故に。菩提心は則ち爲妙華なり、一切世間の愛樂する所なるが故に。菩提心は則ち爲白旃檀なり、五欲の諸の熱病を除滅するが故に。菩提心は則ち爲樂器なり、微妙の音聲法界に聞ゆる

が故に。菩提心は則ち爲勇健なり、煩惱諸の怨敵を摧滅するが故に。菩提心は則ち爲善(一七)鑷なり、一切煩惱の刺を拔出するが故に。菩提心は則ち爲尊主なり、餘の一切に於て能く勝るもの莫きが故に。菩提心は則ち爲毗沙門天王なり、一切諸の貧苦を捨離するが故に。菩提心は則ち爲妙德なり、一切諸の功德を莊嚴するが故に。菩提心は則ち爲莊嚴具なり。一切諸の菩薩を嚴飾するが故に。菩提心は則ち爲火災なり、一切の有爲の法を焚燒するが故に。菩提心は則ち爲無壞の藥王樹の根なり、一切諸佛の法を長養するが故に。菩提心は則ち爲龍珠なり、無量の煩惱の毒を除滅するが故に。菩提心は則ち爲水珠なり、諸の心垢と煩惱の濁とを淨むるが故に。菩提心は則ち爲如意珠なり、一切の功德の利を具足するが故に。菩提心は則ち爲(一八)天の德瓶なり、一切の欲樂する所を滿足するが故に。菩提心は則ち爲劫初の樹なり、一切の莊嚴具を出生するが故に。菩提心は則ち爲(一九)恒娑衣なり、一切諸の塵垢を受けざるが故に。菩提心は則ち爲正業なり、本性淨なるが故に。菩提心は則ち爲利犁なり、一切衆生の田を修治するが故に。菩提心は則ち爲那羅延の箭なり、悉く能く身見の鎧を鑒徹するが故に。菩提心は則ち爲厭離なり、決定して苦患の相を了知するが故に。菩提心は則ち爲利矟なり、能く一切の煩惱の賊を刺すが故に。菩提心は則ち爲甘露の雨なり、能く一切の煩惱の火を滅するが故に。菩提心は則ち爲利劍なり。

【一七】鑷はくぎ拔きなり。
【一八】天の德瓶とは索むる所の者は悉く皆中より出づ、猶ほ如意珠の如きなり。
【一九】恒娑(Haṃsa)は鵝毛と譯す、此を以て衣と爲せば水に濡ぐも著かずと云ふ。

一切の煩惱の惡を斬除するが故に。菩提心は則ち爲金槌なり、一切の憍慢の山を壞散するが故に。菩提心は則ち爲利刀なり、七使の煩惱の鎧を斬截するが故に。菩提心は則ち爲勇健の幢なり、一切諸の魔の幢を傾倒するが故に。菩提心は則ち爲斫斧なり、無知と諸の苦との樹を斫伐するが故に。菩提心は則ち爲器仗なり、一切諸の艱難を防護するが故に。菩提心は則ち爲善手なり、一切諸度の身を防護するが故に。菩提心は則ち爲妙足なり、一切諸の功德に安立するが故に。菩提心は則ち爲眼藥なり、一切無明の翳を除滅するが故に。菩提心は則ち爲善く刺を拔く、悉く能く身見の刺を拔出するが故に。菩提心は則ち爲安隱の牀なり、一切の生死の苦を除滅する牀なるが故に。菩提心は則ち爲善友なり、無量の生死の難を度脫せしむるが故に。菩提心は則ち爲善利なり、一切の衰耗の法を遠離するが故に。菩提心は則ち爲天人の師なり、善く菩薩の出要の道を知るが故に。菩提心は則ち爲寶藏なり、無量の功德盡く可からざるが故に。菩提心は則ち爲涌泉なり、清冷の智慧は窮盡すること無きが故に。菩提心は則ち爲淨鏡なり、一切諸の法門を顯現するが故に。菩提心は則ち爲淨池なり、一切諸の垢穢を洗濯するが故に。菩提心は則ち爲大河流なり、諸度と四攝法とを引くが故に。菩提心は則ち爲龍王なり、悉く能く普く甘露の法を雨らすが故に。菩提心は則ち爲命根なり、菩薩の大悲の法を任持するが故に。菩提心は則ち爲甘露なり、能く不死の法に安住せしむるが故に。菩提心は則ち爲羅網なり。一切の所應化を網取するが故に。菩提心は

則ち爲善［三〇］罥なり、一切諸の衆生を攝取するが故に。菩提心は則ち爲鉤餌なり、生死の淵に居る衆生を釣り出だすが故に。菩提心は則ち爲阿伽陀藥なり、一切諸の惡患を除滅するが故に。菩提心は則ち爲［三一］波羅提毗叉藥なり、悉く能く五欲の毒を療治するが故に。菩提心は則ち爲大池なり、無量の邪想の水を消滅するが故に。菩提心は則ち爲大風輪なり、一切諸の障蓋を壞散するが故に。菩提心は則ち爲寶洲なり、道品の功德の寶を出生するが故に。菩提心は則ち爲種姓なり、一切の白淨の法を長養するが故に。菩提心は則ち爲居宅なり、一切の功德の寶を納受するが故に。菩提心は則ち爲大城なり、菩薩の商人の所住の處なるが故に。菩提心は則ち爲金藥なり、煩惱の垢を消して清淨ならしむるが故に。菩提心は則ち爲香蜜なり、一切の功德の味を具足するが故に。菩提心は則ち爲正道なり、一切智の城に入らしむるが故に。菩提心は則ち爲寶器なり、一切の白淨の法を容受するが故に。菩提心は則ち爲時澤なり、悉く能く煩惱の塵を除滅するが故に。菩提心は則ち爲安住なり、菩薩の所住を出生するが故に。菩提心は則ち爲壽行なり、聲聞の諸の解脫を取らざるが故に。菩提心は則ち爲瑠璃寶なり、其の性淨妙にして垢を受けざるが故に。菩提心は則ち爲伊尼羅寶なり、諸の聲聞緣覺の智に勝るが故に。菩提心は則ち爲法鼓なり、煩惱に長く寢むる衆生を覺悟するが故に。菩提心は則ち爲淨水なり、其の性清淨にして垢濁無きが故に。菩提心は則ち爲閻浮檀金なり、有爲の

［三〇］罥は羂と同字にして、繩又は網を張りて獸を捕ふるわななり。

［三一］波羅提毗叉(Prativisa)。燈照藥と譯す。

善をして聚墨の如くならしむるが故に。菩提心は則ち爲山王なり、一切諸の世間を超出するが故に。菩提心は、則ち爲歸依なり、悉く能く諸の衆生を救護するが故に。菩提心は則ち爲實義なり、一切の虛妄の法を遠離するが故に。菩提心は則ち爲無上寶なり、悉く歡喜して滿足を得しむるが故に。菩提心は則ち爲大會なり、彼の須むる所に隨ひて充悅せしむるが故に。菩提心は則ち爲尊長なり、諸の衆生に於て倫匹無きが故に。菩提心は則ち爲寶藏なり、一切の諸佛の法を受持するが故に。菩提心は則ち爲因陀羅網なり、諸の煩惱阿修羅を攝するが故に。菩提心は則ち爲毘樓那風なり、衆生の心を震動し敎化するが故に。菩提心は則ち爲因陀羅火なり、一切の煩惱習を焚燒するが故に。菩提心は則ち爲無上塔なり、一切の天の人供養に應ずるが故に。佛子よ、菩提心は是の如きの無量功德を成就して、悉く一切の諸佛菩薩の諸の功德と等し。何を以ての故に、菩提心に因りて一切諸の菩薩の行を出生し、三世の諸佛正覺を成じたまふが故なり。

【三】次の一百三句は菩提心の自在の功德は廣多にして無量なることを明かす。

(三)善男子よ。譬へば人有り自在の藥を得て、五の恐怖を離るゝが如し。何等をか五と爲す。所謂る、火も燒くこと能はず、水も漂はすこと能はず、毒も中つること能はず、刀も傷くること能はず、熏も害すること能はず。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心を發して薩婆若を攝すれば、五の恐怖を離る。何等をか五と爲す。所謂る、欲火の燒く所と爲らず、諸有の流水も漂はす能はざる所、瞋恚

の惡毒も中つる能はざる所、煩惱の利刀も傷くる能はざる所、邪なる覺觀の煙熏ずるも害すること能はず。善男子よ、譬へば人有り解脱の藥を得れば、終に橫死せざるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の妙智慧の藥を得れば、生死の過患も害すること能はざる所なり。善男子よ、譬へば人有り龍王の藥を得んに、若し毒蟲有りて其の藥の氣を聞がば、卽ち避けて遠く去るが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の大龍王藥を得ば、一切の煩惱の諸の惡毒蟲、其の藥の氣を聞ぎて皆悉く散滅す。善男子よ、譬へば人有り不可壞の藥を得ば、一切の怨敵其の便を得ざるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の不壞の法藥を得ば、一切の煩惱・諸魔・怨敵の壞る能はざる所なり。善男子よ、譬へば人有り(三三)頻伽陀藥を得て、能く毒刺を出だすが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の頻伽陀藥を得ば、能く三毒の諸の邪見の刺を出だす。善男子よ、譬へば人有り善見藥王を得て、一切の病を滅するが如し。菩薩摩訶薩も又復た是の如く、菩提心の善見藥王を得ば、一切衆生の諸の煩惱の病を滅す。善男子よ、譬へば(三四)删陀那大藥王樹の如し。其衆生有りて彼の樹の蔭に在れば、身の諸の惡瘡皆除愈することを得ん。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の删陀藥樹を得んに、其衆生有りて此の樹に依りて蔭すれば、一切の煩惱と不善業との瘡は皆除き愈ゆることを得ん。善男子よ、譬へば藥王樹の無壞

【三三】 頻伽陀(Vigata)。又は毘笈摩(Vigama)と云ひ、除去又は普去と譯す、此の藥は能く毒惡を去るが故なり。

【三四】 删陀那 (Sandānika)。續斷藥と譯し、傷くる所の骨肉等を接ぎ復せしむる骨接ぎ藥なり。

根と名くるものの如く、其の力を以ての故に、一切の閻浮提の樹を長養す。菩提心の樹も亦復た是の如く、其の力を以ての故に、一切の學無學の菩提の善根を長養す。善男子よ、譬へば藥草の(三五)阿藍婆と名くるものの如し、若し用ひて體に塗れば、身柔澤なることを得、意諸惡を離る。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の阿藍婆藥を得ば、身口意の諸の善行の業を長ず。善男子よ、譬へば人有り念力の藥を得て、有所る聞法を終に忘失せざるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の念力藥を得ん者は、一切の佛法を聞持して忘れず。善男子よ、譬へば藥有り名けて蓮華と曰ふ、其の服すること有る者は住壽一劫なるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の蓮華藥を服する者は、阿僧祇劫にも自在を得ん。善男子よ、譬へば人有り翳身の藥を執れば、一切の衆生見ることを能はざる所なるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の翳身藥を得る者は、一切諸の魔の見ること能はざる所なり。善男子よ、譬へば大海に摩尼寶有り、積衆寶と名く、若し他方に至らざれば、設ひ火災起るも、乃至海水の一滴をも消滅せんこと、是の處り有ること無きが如し。菩提の心の積衆寶の珠も亦復た是の如く、菩薩の直心海の中に處して、乃至一善根を以て薩婆若に回向するも、忘失すること有らんは、是の處り有ること無し、而も薩婆若は染著する所無く、善根を離れず。善男子よ、譬へば摩尼の淨光明と名くるは、人有り此を以て身に瓔珞せん者は、餘の寶光を蔽ひて悉く聚墨の

【三五】阿藍婆、具さに阿羅底藍婆(Ratilambha)、得喜藥と譯す、身に塗れば身の痛を去り、心に喜悅を生ずるが故に此の名あり。

如くならしむるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の摩尼寶珠を以て、其の身に瓔珞せば、聲聞緣覺の心寶を映蔽す。善男子よ、譬へば水珠を濁水の中に置けば、水卽ち澄淸なるが如し。菩提心の珠も亦復た是の如く、一切の煩惱の垢濁を除滅す。善男子よ、譬へば人有り住水の寶珠を得て、其の身に瓔珞せば、深水の中に入るも而も沒溺せざるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の住水の寶珠を得ば、生死の海に入るも而も沈沒せず。善男子よ、譬へば人有り大龍の寶珠を得ば、往いて龍の所に到るも、龍は害を爲さざるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の大龍の寶珠を得ば、欲界の中に入るも、煩惱の惡龍に害すること能はざる所なり。善男子よ、譬へば帝釋の摩尼寶有りて其の身に瓔珞せば、天中に於て尊きが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の寶の瓔珞を著くる者は、悉く一切の三界の中に於て尊し。善男子よ、譬へば人有り隨意の珠を得て、一切の貧窮困苦を除滅するが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の隨意の寶珠を得ば、一切の邪命貧苦を除滅す。善男子よ、譬へば火珠の日光の、發するに因りて、能く猛炎を出だすが如し。菩提心の明淨の火珠を得るも亦復た是の如く、大慧の光の感發する所に因るが故に、智慧の火を出だす。善男子よ、譬へば月珠の月光の發するに因りて、淸涼の水を出だすが如し。菩提心の淨月の寶珠を得るも亦復た是の如く、彼の善根を回向する月光の感發する所に因り、善根諸の大願の水を出生す。善男子よ、譬へば龍王は如意寶の冠を著け、恐怖を遠離するが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心

の大悲の如意寶冠を著け、一切の惡道の諸難を遠離す。善男子よ、譬へば莊嚴一切衆生藏摩尼寶は悉く能く一切の所願を成滿して、損減する所無きが如し。菩提心の妙莊嚴藏摩尼寶珠を得る者は、菩薩及び餘の衆生の欲する所の願樂を成滿して、損減する所無し。善男子よ、譬へば轉輪王の摩尼寶を有して普く宮殿を照し、一切の闇を滅するが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の摩尼寶を得る者は、悉く能く普く五趣の宮殿を照し、一切の闇を滅す。善男子よ、譬へば人有り紺色寶の光明の觸る所と爲れば、卽ち其の色に同ずるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の紺色寶の光を得て、諸法を觀察し、善根を囘向して、薩婆若の色に同ず。善男子よ、瑠璃寶は、百千歲に於て不淨の中に處するも、爲めに染せられざるが如し。菩提の心の淨き瑠璃寶も亦復た是の如く、百千劫に於て欲界の中に住するとも、五欲の爲めに染汚せられず。其の性淨きが故なり。善男子よ、離垢の光ある淨き摩尼寶の、一切の寶を出だすが如し。菩提の心の離垢光の寶も亦復た是の如く、凡夫・聲聞・緣覺・菩薩・諸佛の功德の珍寶を出生す。善男子よ、譬へば大摩尼寶は、悉く能く一切諸の闇を除滅するが如し。菩提心の寶も亦復た是の如く、一切の無知の闇冥を除滅す。善男子よ、譬へば大海に無價の寶有りて、商人船車に之を載せて城に入れば、餘の摩尼寶は與に等しき者無きが如し。菩提心の無價の寶珠も亦復た是の如く、生死の海に處し、菩薩摩訶薩大願の船を以て載せて解脫の城に入れば、聲聞・緣覺の諸の功德の寶は、及ぶこと能はざる所なり。善男子よ、譬へば離垢の大摩尼寶は閻

浮提に處して、能く四萬由旬の日月の宮殿を照し、皆悉く顯現するが如し。菩提の心の離垢の寶珠も亦復た是の如く、生死に住して法界の空を照し、佛の境と、宮宅とを、悉く顯現せしむ◎善男子よ、譬へば摩尼風王は、能く日月の照す所の境界、所有る香華、一切の品類を持するが如し。菩提の心の摩尼風王も亦復た是の如く、悉く能く一切種智の照す所の境界、一切の天人・聲聞・緣覺・諸佛・菩薩、及び諸の有漏無漏の善根を攝持す◎善男子よ、譬へば海中に摩尼寶有り、名けて海藏と曰ひ、海中の諸の莊嚴事を顯現するが如し。菩提の心の海藏寶珠も亦復た是の如く、一切智の境界、諸の莊嚴事を顯現す◎善男子よ、譬へば閻浮檀金は如意寶を除きては一切の寶に勝れたるが如し。菩提の心の閻浮檀金も亦復た是の如く、一切智を除きては諸の功德に勝れたり◎善男子よ、譬へば人有り善能く龍を呪すれば、諸の龍の中に於て自在を得るが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の善き呪術の法を得れば、一切の煩惱の龍の中に於て自在を得◎善男子よ、譬へば勇士の鎧杖を被執すれば、一切の怨敵も壞る能はざる所なるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の大莊嚴具を被れば、一切の煩惱、諸魔怨敵も壞ること能はざる所なり◎善男子よ、譬へば（三六）優陀伽娑羅旃檀の、若し一銖を燒けば、香氣普く小千世界に熏じて、三千大千世界の珍寶も及ぶこと能はざる所なるが如し。菩提心の香も亦復た是の如く、妙功德を以て普く法界に熏ずれば、

【三六】優陀伽娑羅旃檀。具さに地毗烏羅伽娑羅旃檀（Uraga-sāra candana）と云ひ、妙腹行堅固と譯す、此の旃檀は龍宮に在りて堅固に勝出するが故に名く。

一切の聲聞緣覺の功德の及ぶこと能はざる所なり。善男子よ、譬へば白旃檀を以て其の身に塗れば、諸の惱熱を除き、淸涼の樂を得るが如し。菩提心の香も亦復た是の如く、覺觀・貪・恚・癡の熱を除滅して、智慧身をして悉く涼樂を得しむ。善男子よ、譬へば須彌山の衆生の品類は、彼の山に近き者は悉く其の色に同じうするが如し。菩提心の山も亦復た是の如く、若し近き者有れば皆彼の薩婆若の色に同じうすることを得。善男子よ、譬へば（二七）波利質多樹の華香は、閻浮提の中の諸の婆師華・薝蔔華等の及ぶこと能はざる所なるが如し。菩提心の香も亦復た是の如く、妙功德の香は、聲聞緣覺の、無漏の戒・定・智慧・解脫・解脫知見の及ぶこと能はざる所なり。善男子よ、譬へば波利質多樹の華未だ開敷せざる時に、其の香普く閻浮提の內に熏じ、一切の華香の及ぶこと能はざる所なるが如し。菩提心の華も亦復た是の如く、一切の天人の有漏無漏の功德の華香の及ぶこと能はざる所なり。善男子よ、譬へば波利質多樹の華は、一日衣に熏ずれば、薝蔔華・婆師華を千歲熏ずと雖も、及ぶこと能はざる所なるが如し。菩提心の華も亦復た是の如く、一日熏ずる所の功德の香は、十方の佛の所に徹し、一切の聲聞緣覺の無漏心を以て諸の功德を熏ずること、百千劫に於てするも及ぶこと能はざる所なり。善男子よ、譬へば（二八）那利羅樹の根莖枝葉、及び其の華果は、悉く衆生を益するが如し。菩提心の樹も亦復た是の如く、菩薩の大慈悲の生ず

【二七】波利質多(Paricitra)。香遍樹と譯し、其の枝葉果實皆香なるが故に此の名あり。

【二八】那利羅。具さに捺唎羅吉唎(Narikela)と云ふ。莖等能作と譯す、此の樹の莖果實等悉く有用にして衆生を益す。

るに因りて、初發心より、乃し一切の佛法を究竟するに至るまで、常に能く一切衆生を饒益す。善男子よ、譬へば一兩の〔二九〕阿羅婆藥を千兩の銅に變じ、以て眞金と爲すも、彼の藥分に於て損減する所無きが如し。菩提心の藥も亦復た是の如く、回向の智を攝して一切の煩惱業障を除滅し、一切法を淨め、薩婆若の色に同ずるも、煩惱惡業は損減すること能はず。譬へば小火も、焚燒する所に隨ひて其の炎轉た盛なるが如し。菩提心の火も亦復た是の如く、所緣の法に隨ひて慧火猛盛なり。譬へば一燈にて百千の燈を然すも、損減する所無きが如し。菩提心の燈も亦復た是の如く、悉く三世諸佛の慧燈を然すも、損減する所無し。譬へば明燈の大いなる闇室に入りて、悉く能く一切の闇冥を照除するが如し。菩提心の燈も亦復た是の如く、心の闇室に入りて、無量劫に於て積集する癡闇を悉く能く除滅して、菩薩の明淨なる智慧を具足せしむ。譬へば燈炷の其の精麤なるに隨ひて光明も亦爾なり。若し膏油を益せば、光明も轉た益すが如し。菩提心の炷も亦復た是の如く、其の本願に隨ひて智慧の光を出だし、普く法界を照し、大悲の油を增せば、衆生を敎化し、佛の世界を淨め、諸佛の事を行じて、窮盡有ること無し。譬へば他化自在天王の、閻浮檀金の自然の天冠を冠むれば、欲界諸天の壞ること能はざる所なるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の大願の天冠を冠むれば、聲聞緣覺の壞すること能はざる所なり。譬へば大いなる師子吼ゆれば、小なる師子聞きて皆悉く勇健となり、

〔二九〕阿羅婆。具さに阿吒迦阿羅婆（Hāṭakarasa）と云ひ、金光汁藥と譯す、山中の井より出で、之を飮めば仙人となると云ふ。

一切の禽獸は遠く避けて竄伏するが如し。佛師子吼したまひ、諸の菩薩等、若し菩提心を讃歎する聲を聞かば、法身を長養し、妄見の衆生潜伏し退散せん。◎譬へば人有り師子の筋を用ひて以て琴の絃と爲さんに、音聲既に奏すれば、餘の絃は斷絕するが如し。一切如來の波羅蜜身は菩提心の功德の音聲を出す。若し五欲二乘の法を樂ふ者は、聞きて悉く斷絕せん。◎譬へば牛馬羊の乳、合して一器に在るに、師子の乳を以て彼の器の中に投ずれば、餘乳は消盡し、直に過ぎて礙ふること無きが如し。如來の師子の菩提心の乳を、無量劫に積む所の諸の業煩惱の乳の中に著くれば、皆悉く消盡して聲聞緣覺の法の中に住せず。◎譬へば(三〇)迦毗伽鳥の㲉中に在る時、大勢力有りて餘鳥の及ばざるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、生死の㲉に於て菩提心を發さば、功德勢力は聲聞緣覺の及ぶ能はざる所なり。◎譬へば金翅鳥の初始めて生るる時、其の目は明淨にして、大勢力有り、大小の諸鳥の及ぶこと能はざる所なるが如し菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、如來の家に生れて菩提心を發し、慧眼明淨にして大勢力有り、聲聞緣覺の、百千劫に於て修習する智慧も及ぶこと能はざる所なり。◎譬へば健士の、那羅延金剛の利箭を以て、堅密の鎧を射るに、直に過ぎて礙ふること無きが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の智慧の利箭を以て、諸の邪見煩惱の密鎧を射るに、徹過して礙ふること無し。◎譬へば摩訶那伽大力勇士の、威を奮つて怒る時は、閻浮提の人能く壞る者無きが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、大

【三〇】迦毗伽は具さに迦陵頻伽(Kalaviṅka)と云ひ、美音鳥と譯す。

慈悲を發して菩提心を修すれば、一切世間の諸魔眷屬、及び煩惱業の壞すること能はざる所なり◎譬へば人有り大技術を學びて、未だ究竟せずと雖も、諸の餘の巧能は及ぶこと能はざる所なるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の願を學ばば未だ究竟せずと雖も、聲聞・緣覺・諸の餘の衆生の及ぶこと能はざる所なり◎譬へば人有り善射術を學ばば、先づ自ら安立するが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、一切智地を學ばば先づ自ら菩提の心に安立し、必ず一切の佛法を得ん◎譬へば幻師の、先づ幻術を讀み、然して後に一切の幻事を示現するが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心を發して、然して後に一切の諸佛菩薩の正法を顯現す◎譬へば幻術の色に非ずして色を現ずるが如し。菩提心の相も亦復た是の如く、法界の功德莊嚴を顯現す◎譬へば人有り閻浮檀金の莊嚴の具を著くれば、一切を映蔽して悉く聚墨の如くならしむるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く。菩提心の莊嚴の具を以て、諸の衆生・聲聞・緣覺の所有る功德を蔽ふ◎譬へば(三二)阿夜揵多鐵の如し、此の鐵は少分にして悉く能く一切の餘の鐵の、諸の鉤鎖の縛を毀壞す。菩提の心も亦復た是の如く、諸の邪見・煩惱・愛の縛を斷つ◎譬へば疾風の去るに隨ひて礙ふること無きが如し。菩提心の風も亦復た是の如く、所行の處に隨ひて諸の煩惱を除きて、悉く障礙無く、聲聞緣覺の解脫に住せず◎譬へば人有り善く大海に入りて沒溺せず、(三三)摩伽羅魚も害すること能はざる所なるが

【三二】阿夜揵多(Ayaḥkaṇḍa)。阿夜塞健那の略にして、勝伏鐵と譯し、鐵の最も勝れたる者なり。

【三三】摩伽羅(Makara)。極大の魚と譯す、巨鰲魚の類なり。

如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心を以て生死の海に入れば、生死の染汚する所と爲らず、亦實際を證せず、聲聞縁覺の摩伽羅魚も害すること能はざる所なり。◎譬へば人有り甘露を服食すれば、一切衆の患も害すること能はざる所なるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の甘露の法藥を服すれば、聲聞縁覺の地に墮せず、大悲を修習して願行を滿足す。◎譬へは人有り翳身藥を用ひて以て其の目に塗れば、自在に遊行して能く見る者無きが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心を得て大願を滿足すれば、自在に遊行して魔の境界に入るも、一切の衆魔は見ること能はざる所なり。◎譬へば人有り大王に依恃すれば餘人を畏れざるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の大力法王に依れば、障蓋を除滅し、惡道を畏れず。◎譬へば人有り深水の內に居れば火焚を畏れざるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の善根の水の內に居れば、聲聞縁覺の解脫の火も燒くこと能はざる所なり。◎譬へば人有り猛將に依持すれば怨敵を畏れざるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心に依れば諸の惡を畏れず。◎譬へば釋天の金剛を執持して、一切諸の阿修羅を降伏するが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心を執りて諸魔、及び餘の外道を摧滅す。◎譬へば人有り阿羅婆藥を服すれば痩せず老いず、延壽窮まり無きが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の阿羅婆藥を服すれば、無量劫に於て生死の中に在りて菩薩の行を修し、染著する所無し。◎譬へば阿羅婆藥は、初め淨水を用ふるが如し。菩提心の藥も亦復た是の如く、一切の菩薩の修する所の行の中にて、最も先

首と爲す。譬へば人有り諸根の法の中にて、命根を首と爲すが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、諸佛の正法は菩提の心を最も其の首と爲す。譬へば人有り命根斷つが故に、父母親族を利益すること能はざるが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心を離れては、一切衆生を饒益すること能はず。譬へば大海の能く壞する者無きが如し。菩提心の海も亦復た是の如く、聲聞緣覺は沮壞すること能はず。譬へば日光は諸の星宿の光の蔽ふこと能はざる所なるが如し。菩提心の日も亦復た是の如く、大願智慧の日光を圓滿し、聲聞緣覺の無漏の慧光の蔽ふこと能はざる所なり。譬へば太子初生のとき、已に大臣の尊重する所と爲るが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心を發せば、已に一切の聲聞緣覺の共に尊重する所と爲る、大悲を修するが故なり。譬へば王子は年幼少なりと雖も、一切の大臣皆悉く敬禮するが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心を發せば、聲聞緣覺皆悉く敬禮す。譬へば王子は未だ自在ならずと雖も、已に具さに國王の儀相を成就するが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、煩惱業障の爲めに覆はるると雖も、已に具さに菩提心の相を成就す。譬へば目瞖すれば眞の淨寶を見るも、爲不淨なりと謂ふが如し。菩提心の寶も亦復た是の如く、無智不信なれば不淨の想を起す。譬へば呪藥は、若し衆生有りて見聞し共に住すれば、一切衆の病は皆悉く除癒するが如し。菩提心の藥も亦復た是の如く、善根を長養し、智慧の藥を攝し、大願を滿足す。菩薩の慧身も、若し衆生有りて、見聞し共に住し、修し、正念する者は、皆悉く煩惱の諸病を除滅せん。

譬へば恒娑衣の塵垢を受けざるが如し。菩提心の衣も亦復た是の如く、一切生死の塵垢を受けず。一譬へば人有りて常に甘露を持し、專念して散せず、而も能く一切の諸法を分別するが如し。菩薩摩訶薩も亦復た是の如く、菩提心の甘露の正法を持し、正念して散せず、而も能く一切衆生を敎化し、大願を具し智慧身を成ぜしむ。譬へば犂の軛有ること無ければ、則ち用に堪へざるが如し。菩提の心も亦復た是の如く、正直心を離るれば、如來の法に於て實義有ること無し。譬へば轉輪王に妙天冠有り、名けて象藏と曰ふ、彼の冠を洗ふ時は、四種の兵衆虛空に遊行するが如し。菩提心の冠も亦復た是の如く、諸の菩薩の一切の善根を淨め、三有を遠離し、如來の智慧は無爲の境界の虛空の中に行く。一譬へば金剛は金性より生じて、餘寶より生ずるに非ざるが如し。菩提心の寶も亦復た是の如く、大悲をもつて衆生を救護するの性より生じ、餘の善より生ずるに非ず。譬へば樹有り、根より生ぜずして而も能く枝葉華果を長養するが如し。菩提心の樹も亦復た是の如く、依止する所無くして、而も能く一切種智を長養し、通明大願普く世間を覆ふ。譬へば金剛は一切器の盡く能く發明するに非ず、亦諸器の盡く能く容持するに非ざるが如し。菩提心の寶も亦復た是の如く、小心にして慳結なる無智の者の器は發明すること能はず。諂曲・邪見の衆生の器の中には容持すること能はず。譬へば金剛の能く衆寶を壞するが如し。菩提の心も亦復た是の如く、決定して一切の諸法を了知す。譬へば金剛の能く衆の山を壞するが如し。菩提の心も亦復た是の如く、一切諸の邪見の山を壞散す。譬へば金剛の

破れて全からずと雖も、一切の衆寶は猶ほ及ぶこと能はざるが如し。菩提の心も亦復た是の如く、少しく、懈怠すと雖も、聲聞緣覺の諸の功德の寶の及ぶこと能はざる所なり。◎譬へば破れたる金剛も、猶ほ能く諸の貧困の苦を除滅するが如し。菩提の心も亦復た是の如く、復た少しく威儀趣法を失ふと雖も、猶ほ能く諸の貧窮の苦を除滅す。◎譬へば小金剛も悉く能く一切の諸物を破壞するが如し。菩提の心も亦復た是の如く、小境界を緣じて能く一切の無知・癡・惑を破る。◎譬へば金剛は常人の得る所に非ざるが如し。菩提の心も亦復た是の如く、小心の衆生の能く得る所に非ず。◎譬へば金剛は智術無き者の識ること能はざる所なるが如し。菩提の心も亦復た是の如く、無智の衆生の識ること能はざる所なり。◎譬へば金剛は能く消滅すること無きが如し。菩提の心も亦復た是の如く、一切諸法も能く消盡せず。◎譬へば金剛の器仗は一切の衆生、乃至摩訶那伽も執持すること能はざるが如し、那羅延力をば除く。◎菩提の心も亦復た是の如く、聲聞緣覺は受持すること能はず、諸の菩薩摩訶薩をば除く。◎譬へば金剛の器仗の鑒徹せざること無きこと、餘の器仗の能く爲す所に非ざるが如し。菩提の心も亦復た是の如く、三世を觀察して衆生を敎化し、阿僧祇劫に無量の苦を受くること、聲聞緣覺の及ぶこと能はざる所なり。◎譬へば金剛は、餘の持する能はざるが如し、金剛の地をば除く。菩提の心も亦復た是の如く、菩薩の行願功德を出生し、聲聞緣覺の持すること能はざる所なり。薩婆若の正直心の者をば除く。◎譬へば金剛の器の中に水を盛るに、消盡す可からざるが如し。菩提の心も亦復た是く如く、勝妙に

安住し、善根を回向し、生死の趣に入り、諸の不善の法も消盡すること能はず。譬へば金剛の能く大地を持して墜沒せしめざるが如し。菩提の心も亦復た是の如く、諸の菩薩の一切の願行を持して、墜落して三界に沒せしめず。譬へば金剛は百千劫に於て水中に處するも而も爛壞せず、亦變異無きが如し。菩提の心も亦復た是の如く、無量劫に於て生死の中に處するも、諸の煩惱業も斷滅すること能はず、亦損滅すること無し。譬へば金剛は一切の六火も燒熱すること能はざるが如し。菩提の心も亦復た是の如く、一切生死の貪・恚・癡の火も燒熱すること能はず。譬へば金剛道場の座は、能く菩薩を持し諸魔を降伏し、等正覺を成じ、餘は持すること能はざるが如し。菩提の心も亦復た是の如く、能く一切の菩薩の願行、諸の波羅蜜・諸忍・諸地・回向・受記・菩提の道を修し、諸佛を供養し、聞法受行を持し、一切諸心の持すること能はざる所なり。

【三三】善男子よ、菩提の心は是の如き無量の功德を成就す。若し衆生有りて菩提心を發さば、則ち是の如き無量の功德を具へん。是の故に善男子よ、汝善利を得て、阿耨多羅三藐三菩提心を發し、菩薩の行を修すれば、是の如きの無量の功德を具足す。

【三四】善男子よ、汝先に問ひし所の、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修するや」とは、汝今是の明淨莊嚴の大樓觀に入らば、則ち能く菩薩の行を學び、菩薩の道を修することを了知して、無量の功德を具足し成就せん。』

【三三】後に前の功德の廣多無量なることを結す。

【三四】第二、正しく已が法界を授く、中に四段あり、一に法體を授く。

# 卷の第六十

## 入法界品第三十四の十六

爾の時に善財童子は、彌勒菩薩を敬ひ繞り、合掌して白して言さく、『唯願はくは大聖、樓觀の門を開き、我をして入ることを得しめたまへ。』

(一)爾の時に彌勒菩薩、卽ち右の指を彈きたまへば、門は自然に開き、善財卽ち入る。入り已りて還つて閉じたり。

(二)爾の時に善財、樓觀を觀察するに、廣大無量なること、猶ほ虚空の如し。衆寶を地と爲し、阿僧祇の窻牖有り、郤敵欄楯は七寶をもつて合成し、阿僧祇の旛幢は蓋をもつて莊嚴し、阿僧祇の寶瓔珞を垂帶とし、阿僧祇の大師子の幢、半月の寶像、諸寶の繒綵あり、又阿僧祇の天冠寶衣を以て莊嚴し、阿僧祇の寶網にて其の上に羅覆し、阿僧祇の金鈴は自然に微妙の音聲を演出し、又無量の寶華鬘雲、諸の妙香雲を出だし、阿僧祇の細末金屑を雨らし、阿僧祇の勝妙なる光明を放ちて普く一切を照せり。阿僧祇の異類の衆鳥有りて、和雅の音を出だし、阿僧祇の優鉢羅・鉢曇摩・分陀利華を雨らし、阿僧祇の摩尼寶の光

【一】彌勒加して入證せむ。
【二】以下、證所見の境界を明かす、初に依報の淨土を見て益を得ることを叙す。

を出だして普く一切を照せり。樓觀の內に於ては、百千諸の妙樓觀を具有し、相障礙せず、莊校嚴飾も亦上に說くが如し。

爾の時に善財は、樓觀の不可思議なる衆妙の莊嚴を覩見て、心大いに歡喜し、踊躍すること無量にして、其の心柔輭となり、諸の妄想を離れ、一切の愚癡闇障を除滅し、正念に思惟して、專ら妙趣を求め、無礙の身を以て、恭敬して禮を作せり。禮し已りて、彌勒菩薩の威神力の故に、諸の樓觀の中に自ら其の身を見る。

【三】次に正報の因果を見ることを明かす。

(三)又無量なる自在神力の不思議の事を見る、或は彌勒の本の種姓に隨ひ、壽命・知識・善根を長養せしこと、諸劫の世界、一切の佛所、及び諸の眷屬、諸の大願に因りて、初め阿耨多羅三藐三菩提心を發したまひしを見。或は初に慈心三昧を得、因りて以て名と爲せしを見、或は彌勒菩薩の行を行じ、一切の諸波羅蜜・諸忍・諸地を滿足し、佛の世界を淨めしを見、諸の如來に法を聞きて受持し、正法を守護し、大法師と爲り、無生忍を得たることを見、某の方處、某の如來の所にて、劫數多少にして受記を得たることを知り。或は彌勒、轉輪王と爲りて、十善をもつて世を化し、或は四天王と爲りて一切衆生を饒益し、或は帝釋と爲りて五欲を訶責し、或は夜摩天王と爲りて不放逸を讃し、或は兜率天王と爲りて一生の菩薩の功德を讃歎し、或は化樂天王と爲りて自在の法を讃し。或は魔王と爲りて無常の法を說き、或は他化自在天王と爲りて菩薩の

莊嚴せる化身を讃歎し、或は梵王と爲りて四無量心を讃歎し、或は阿修羅王と爲りて眷屬を調伏し、大智の海に入りて諸法悉く幻化の如しと了達し、或は閻羅王と爲りて大光明を放ち、普く地獄を照して一切の苦を滅し、或は肴饍飲食を以て諸の餓鬼に施與し、或は畜生と爲りて種種の身を受け、爲に法を說きて其の癡闇を除き、或は四天王の眷屬の爲めに法を說き、乃至諸の梵天王の眷屬の爲めに法を說き、或は諸の龍の眷屬の爲めに法を說き、乃至人・非人等の眷屬の爲めに法を說き、或は聲聞・緣覺、及び諸の菩薩の大衆の爲めに法を說き、或は發心の菩薩、乃至十地の菩薩の爲めに法を說きたまひしを見、或は初發心の菩薩、乃至十地の菩薩の功德を讃歎せしを見る。或は一切の波羅蜜を滿足して、平等なる諸法の忍門、廣き三昧門、樂深の法門に入り、禪三昧を修して通明を出生し、一切に充滿して菩薩の行を行じ、世間に隨順して大願を成就したまひしを見、或は同行の菩薩と倶に衆生を饒益したまひしを見、或は一生の菩薩の諸佛の現前に記を授けられたる者と倶なりしを見、或は彌勒の百千劫に於て經行し、經卷を誦念し書寫して、懈怠有ること無く、或は法門を觀じ、實義を思惟し、或は諸禪四無量心に入り、解脫三昧一切に入りたまふ等を見、或は菩薩の通明を出生したまひしを見る。或は變化三昧を正受して、一一の毛孔より化身雲を出だしたまひしを見る、所謂る天身雲、諸の龍・夜叉、乃至摩睺羅伽身雲・四天王身雲、乃至梵王身雲・轉輪聖王・王子・大臣・長者・居士・聲聞・緣覺・如來身雲なり。復た一一の毛孔の中より一切衆生に等しき化身雲を出だし、或は菩薩の法門を出だし

たまひしを見る、所謂る菩提心の功德を讚歎する門。檀波羅蜜門、乃至願波羅蜜門・四攝・諸禪・無量の三昧・通・明・總持・諸諦・諸辯・止觀・解脫・緣起・念處・正勤・神足・根・力・覺・道の聲聞・緣覺の二乘の所行、菩薩の大乘の諸地・諸忍、菩薩の願行なり。是の如き等の一切の法門を現ず。

(四)或は樓觀に於て諸の如來、大衆に圍繞せられたまふを見る。又諸佛の家族同じからず、種姓同じからざるを知り、其の身の壽量・劫刹、無量の法門を教授すること、正法の世に住することも、分別し了知して、皆悉く同じからざるを知る。◎爾の時に善財、諸の樓觀の中にて、一樓觀を見るに、高廣にして嚴飾せること、前よりも勝妙にして、三千大千世界の百億の閻浮提、百億の兜率天を包容し、菩薩命終し、降神し、受胎し、出生し、遊行すること七步にして、十方を觀察して、大師子吼したまひ、帝釋梵王恭敬して奉侍し、童子の身を現じて宮殿の中に處し、園觀に出遊し、薩婆若の心を以て出家し苦行し、乳糜を受くることを現じ、道場に往詣して、衆魔を降伏し、菩提樹を觀じて、正法輪を轉じ、天の宮殿に昇り、方土の劫數、眷屬の壽量、菩薩の行を行じ、大願を滿足し、正法を演說して衆生を敎化し、舍利を分つことを現ずること、皆悉く同じからず。◎爾の時に善財、自ら己が身を見るに、諸佛の所に在りて是の如き等の諸の奇特の事を見る。

(五)又樓觀の諸の金鈴の中より、不思議なる微妙の音聲を出だすを聞く。所謂る初發菩提心の聲、

【四】次に、諸佛攝化の德を見ることを明かす。
【五】次に、法音を聞くことを明かす。

菩薩の行ずる所の諸の度願の聲、不可思議の諸佛を恭敬し供養する音聲、佛刹を淨むるの聲、佛の法雲の聲なり。諸の莊嚴具も亦是の如き等の微妙の音聲を出だす。又某の菩薩某の世界に在り、某の劫の中に於て某の知識に化せられ、善根を回向して大願を出生し、某の佛の所の大衆の中に於て、菩提心を發すの聲を聞く。又菩薩、諸行を修習し、劫數多少にして、某の刹の中に於て正覺を成ずるの聲を聞く。是の如きの名號、壽量の長短、大願を滿足し、衆生を敎化するの聲。諸の菩薩・聲聞・緣覺の大衆の中に於て、般涅槃を現じ、法世に住するの聲を聞く。又菩薩、某の世界に於て、悉く能く廣く檀波羅蜜を行じ、禁戒を淨持し、忍辱を修習し、精進を發行し、諸の禪定に入り、智慧を習應し、法を求めんが爲めの故に、諸の珍寶・國城・妻子・頭目・手足を捨てて、正法を守護し、大法師と爲りて淸淨の法を施し、大法會を設け、大法幢を建て、法鼓を撃ち、法螺を吹き、法雨を雨らし、塔廟を興立して種種に莊嚴し、衆生を安樂にし、佛の法藏を護ることを聞く。又某の佛某の世界に在し、某の劫の中に於て等正覺を成じ、眷屬の多少、壽命の長短、大願を滿足して衆生を敎化することを聞く。是の如き等の不可思議なる微妙の音聲を聞き、身心柔輭となり、歡喜すること無量にして、卽ち無量の陀羅尼門・辯才門・忍門・精進門・大願門・通明門・智慧門・解脫門・波羅蜜門・三昧門を得たり。

【六】終に、出生を見ることを明かす。

(五)爾の時に善財、寶鏡の中に於て、諸の如來及び其の眷屬、諸の大菩薩・聲聞・緣覺、淨き世界・不

淨の世界・雜世界、或は世界に佛有し、或は世界に佛無く、或は上中下の世界、或は世界有りて因陀羅網の如く、或は翻覆仰伏の世界有ることを見る。又復た平正の世界を觀見、悉く分別して五道の別異を知り、又無量阿僧祇の諸の大菩薩の、經行し、禪定し、諸法を觀察し、大悲心を發して普く衆生を覆ひ、種種の論を造りて衆の義趣を辯じ、或は經卷を書き、或は問ひ或は答ふることを見、或は三種の回向、及び諸の大願を出生することを見る。悉く皆是の如き等の事を觀見る◎又諸の寶柱の中より普く無量の青・黃・赤・白の淨玻瓈の色、因陀羅寶、閻浮檀金の諸の光明網を放つことを見る◎又諸の瓔珞の中より八功德の香水を出だし、瑠璃寶の中より無量の光明を出だすことを見る◎又優鉢羅・鉢曇摩・分陀利の中に、諸の妙華を生じ、大さ車輪の如きを見る。華の中に悉く男女の大少なる、釋・梵・四王・諸龍・夜叉、乃至人・非人等、及び諸の象馬・聲聞・菩薩、一切衆生の種種の形類は、皆悉く恭敬し合掌して佛を禮するを見る◎又寶樹の中に、悉く種種の妙色の身を見る。所謂る、如來の身・菩薩の身・天龍八部等の身・釋梵天の身・轉輪王の身・四部衆の身なり。各各衆の供養の具を執持して、尊重し讃歎し、恭敬し禮拜せり◎又半月像の中より阿僧祇の日月の光明を放つを見る。又彌勒、過去世に於て菩薩の行を修して、頭目髓腦・手足肢節・一切の身分・國城妻子・種種の諸物を布施し、其の須むる所に隨ひて盡く之を給施したまひしを見る。又彌勒、諸佛を讃歎し恭敬し供養し、或は醫王と爲りて衆の病を療治し、正路を失ふ者には示すに正道を以てし、或は大船師と爲り導きて寶

洲に至らしめ、或は馬王と爲りて衆生を荷負し鬼難を離れしめ、或は論師と爲りて諸の經論を造り。或は轉輪王と爲りて十善をもつて世を化するを見る、或は父母に孝順し、善知識に近づきて其の敎に違はず、或は聲聞・緣覺・菩薩・如來の形色を現じて衆生を敎化し、或は法師と爲りて佛法を讃歎し、禪思し誦念し、諸の福業を興し、塔廟、諸の妙形像を造立して、香華鬘を以て恭敬し供養し。或は衆生に(七)三歸・五戒・(八)八齋・十善を敎へて、出家して道を學び、法を聞きて受持し、正念に思惟し、菩提心に住せしむるを見る。又彌勒、無量劫に於て、六波羅蜜を行じて衆生を化したまふ事を見る。又彌勒の無量劫の中の諸の善知識を見る。

(九)爾の時に彌勒菩薩、善財に告げて言はく、

『善來、童子よ、汝、樓觀の諸の大菩薩の不可思議なる自在力を見しや不や。』

『唯然り、已に見たてまつりぬ。』

(一〇)譬へば人有り夢の中に山林・河池・大海・須彌・諸天の宮殿、四天下の中の一切の像類を視見るが如し。是の如きを見已りて、歡喜すること無量なり。爾の時の善財も亦復た是の如し。大菩薩の威神力を以ての故に、虛妄を遠離して三界の法を見るに、皆悉く夢の如し。

【七】三歸。佛法僧の三寶に歸依すること。

【八】八齋。八關齋のこと、一に不殺生戒、二に不偸盜戒、三に不邪婬戒、四に不妄語戒、五に不飮酒戒、六に不坐高廣大床戒、七に不著花鬘瓔珞戒、八に不習歌舞戲樂戒是れなり、この八禁戒を以て齋法を助成するが故に八關齋と名く、關は禁の義なり。

【九】以下、問答して其の見を辨定す。

【一〇】十喩を擧ぐ、一、夢に山海を見る喩、善財の妄を超えて勝境を見るに喩ふ。

菩薩の智慧無礙の法門は、諸の菩薩の莊嚴法門に入り、菩薩の不可思議なる諸の妙方便を究竟し、菩薩の神力自在を顯現す。(二)譬へば人有り命終らんとする時に當り、中陰の相を見るが如し。所謂る、惡業を行ずる者は、地獄・畜生・餓鬼に於て諸の楚毒を受くるを見、或は閻羅王 諸 の兵仗を持して囚執して將ゐ去るを見、或は刀山を見。或は劍樹を見。或は利葉をもつて衆生を割截するを見。或は鑊湯にて衆生を煮治するを見。或は種種に悲み苦む音聲を聞く。若し善を修する者は、命終らんとする時に當り悉く一切の諸天の宮殿を見、或は天女の種種に莊嚴して遊戲し快樂するを見る。是の如き等の諸の勝妙の事を見て、而も自ら此に死し彼に生ずることを覺らず。但不可思議なる行業の境界を見るなり。善財童子も亦復た是の如く、樓觀の內に於て、諸の菩薩の不可思議なる勝業の境界を見る。(三)譬へば人有り非人の爲めに持せられて、種種の形類を見、若し問難するもの有らば、悉く能く應答するが如し。善財童子亦復た是の如し。大菩薩の威神力を以ての故に、悉く能く分別して、正念に一切の諸法を思惟す。(三)譬へば人有り龍宮に入りて、七日・半月・一歲・百歲をも、爲須臾なりと謂ふが如し。善財童子も亦復た是の如く、彌勒菩薩の神力の宮殿に入りて、百千劫に於ても須臾の如しと謂ふ。(四)譬へば梵宮の莊嚴藏と名くるは、中に於て悉く三千世界の異類の形像を見るが如し。善財童子も亦復た是の如く、樓觀の中に於て悉く一切の未

【二】二、臨終業現の喩、難思の境の冥に現ずるに喩ふ。

【三】三、非人所持の喩、加持して勝法を見しむるに喩ふ。

【三】四、龍宮淹久の喩、長劫を須臾と謂ふに喩ふ。

【四】五、寶藏廣現の喩、一の中に多事を現ずるに喩ふ。

曾有なる事を見る。(一五)譬へば比丘の一切の入定を得ば行・立・坐・臥、彼の境界に隨ひて、悉く現じて前に在るが如し。善財童子も亦復た是の如く、樓觀の中に於て彼の境界に隨ひて悉く分別して知る。(一六)譬へば人の乾闥婆城を見るに、障礙する所無きが如し。善財童子も亦復た是の如く、樓觀の中に於て一切の法を見るに障礙する所無し。(一七)譬へば人有りて天の宮殿に昇り、人の住處を見るに、障礙する所無きが如し。(一八)譬へば大海の中に於て悉く三千世界の一切の品類を見るが如し。(一九)譬へば幻師の悉く能く一切の形色を顯現するが如し。善財童子も亦復た是の如く、樓觀の中に於て、彌勒菩薩の威神力の故に、悉く一切の未曾有なる事を見て障礙する所無し。

(二〇)爾の時に彌勒菩薩、威神力を攝して、卽時に彈指し、善財に告げて言はく、『善男子よ汝定より起てよ』。

定より起ち已りて、之に告げて言はく、『汝此の菩薩の神力自在の大願、功德の依果を視見し、菩薩の莊嚴、奇特なる諸の深妙行を修習すること、生死の道を出づること、一切の法門の無量の莊嚴、諸佛の大願、不可思議なる菩薩の三昧、是の如き等の事を、汝悉く見しや否や。』

善財答へて言はく、『唯然り、已に見たてまつりぬ、善知識の威神力を蒙るが故に。』

【一五】六、遍處定境の喩、勝境心に隨つて現ずるに喩ふ。

【一六】七、乾城無礙の喩、所見の無礙法に喩ふ。

【一七】八、昇天見人の喩、所見の法に於て自在を得るに喩ふ。

【一八】九、海に三千を現ずるの喩、所見の明了の德に喩ふ。

【一九】十、幻現無礙の喩、威力の奇を現ずる德に喩ふ。

【二〇】彌勒、威を攝して起たしむ。

（二一）爾の時に善財白して言さく、『大聖よ、此れ何の法門なりや。』

答へて言はく、『入三世智正念思惟莊嚴藏の法門なり。善男子よ、一生の菩薩は、是の如き等の不可說不可說の法門を得たり。』

（二二）『大聖よ、此の諸の奇特なる妙莊嚴の法は、何の所よりか來れる。』

答へて言はく、『菩薩の神力の出生する所にして、而も亦神力の中に在らず、來らず去らず、積聚する處無し。譬へば龍雨の身心よりせず、但發意を以て雨らさんと欲すれば則ち雨る、然も彼の境界は不可思議なるが如し。善男子よ、此の諸の奇特なる妙莊嚴の法も亦復た是の如く、從來する所無く、但菩薩の神力を以てのみ出生す。善男子よ、譬へば幻師の種種の事を現ずるも、來去の處無く、但幻力を以てのみ種種の事を現ずるが如し。此の諸の奇特なる妙莊嚴の法も亦復た是の如く、來ること無く、去ること無く、住すること無く、著すること無く、生ぜず滅せず、但菩薩の智願力を學ぶが故に、是の如きの事を現ず。』

（二三）爾の時に善財白して言さく、『大聖よ、何の所よりか來りたまへる。』

答へて言はく、『佛子よ、菩薩は無來の趣、無行住の趣、無所著の趣、不生不死の趣、不住不至の趣、不離不起の趣、不捨不著の趣、無業無報の趣、無起無依の趣、不常不斷の趣よりす。善男子よ、

【二一】以上、法體を授くること竟り、次に法の名を顯はす。
【二二】以下、來處を辯ず、初に依報を明かす。
【二三】次に正報を明かす。

菩薩は但衆生を教化し救護せんが爲めに、大慈悲より來る、衆生の苦を滅せんが故に。菩薩の淨戒の道より來る、其の樂ふ所に隨ひて自在に生ずるが故に。菩薩の大願の道より來る、本の發意なるが故に。菩薩の神通の道より來る、衆生の苦を滅して佛の所に住せしめんが故に。菩薩の增損無き趣より來る、身心の諸の善業を失はざるが故に。菩薩の慧方便より來る、一切衆生の類に隨順するが故に。菩薩の化身の趣より來る、電・鏡像の如くなるが故なり。善男子よ、汝問ひし所の我何の所よりか來れるとは、我生れし處の(二四)摩離國より來れるなり。彼に聚落有り、名けて樓觀と曰ひ、長者子有り(二五)瞿波羅と名く。我爲めに法を説きて、菩提を立てしめ。我本生れし處の、諸の群生等は化すべき所に隨ひて爲めに法を説き。亦父母、及び諸の親屬の爲めに、應に隨ひて法を説き、大乘に安立せしめて、來りて此に至れり。』

(二六)善財白して言さく、『大聖よ、何等をか菩薩の生處と爲す。』

答へて言はく、(二七)『善男子よ、菩薩に十種の生處有り、何等をか十と爲す。所謂る、菩提心は是れ菩薩の生處なり、菩薩の家に生るるが故に。正直心は是れ菩薩の生處なり、善知識の家に生るるが故に。諸地に安住するは是れ菩薩の生處なり、諸の波羅蜜の家に生るるが故に。大願を出生するは是れ菩薩の生處なり、菩薩行の家に生るるが故に。大悲は是れ菩薩の生處なり、四攝の家に生るるが故

【二四】摩離。具さに摩羅耶底數(Malaya-deśa)といひ鬘地と譯す、南天竺の國名なり。

【二五】瞿波羅(Gopāla)。守護地と譯す。

【二六】以下、生處を明かす。

【二七】初に法の家に依りて行德を生ずる處を明かす。中に於て、五段あり、一、所生の處を顯はす。

に。眞實の觀法は是れ菩薩の生處なり、般若波羅蜜の家に生るるが故に。摩訶衍は是れ菩薩の生處なり、方便波羅蜜の家に生るるが故に。衆生を教化するは、是れ菩薩の生處なり、菩提の家に生るるが故に。智慧方便は是れ菩薩の生處なり。無生法忍の家に生るるが故に。諸法に隨順するは、是れ菩薩の生處なり。三世の諸佛の家に生るるが故に◎

（二八）善男子よ、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を以て母と爲し、大方便をもつて父と爲し、檀波羅蜜を乳と爲し、尸波羅蜜を乳母と爲し、羼提波羅蜜を莊嚴の具と爲し、毗梨耶波羅蜜を養育者と爲し、禪波羅蜜を潔淨と爲し、善知識を師と爲し、菩提分を朋友と爲し、一切の善根を親族と爲し、一切の菩薩を兄弟と爲し、菩提心を家と爲し、説の如く修行するを家地と爲し、菩薩の所住を家處と爲し、菩薩の忍法を豪尊と爲し、大願を出生するを巨富と爲し、菩薩の行を具ふるを家法に順ずと爲し、摩訶衍を讃するを家法を紹ぐと爲し、甘露の灌頂せる一生の菩薩を王太子と爲し、能く淨く三世の佛家を修治す◎

（二九）佛子よ、是の如くして菩薩は凡夫地を超え、離生の法を證し、如來の家に生れ、佛の種姓に住し、三寶を斷たず、一切の菩薩の種姓を守護し所生の處を淨め、諸の惡道を離れ、悉く一切の天・人・釋・梵・沙門・婆羅門の爲めに、恭敬し供養せらる。佛家に生れ一切の大願藏を滿足せるを以ての故なり◎

（三〇）佛子よ、菩薩摩訶薩は是の如きの家に生れ、一切の法は悉く電光の如しと知る。一切趣の中に生を受けて厭ふこと無く、趣は化の如しと了り。中

【二八】二、生縁の眷屬を明かす。
【二九】三、校量して勝れたることを顯はす。
【三〇】四、所知自在を明かす。

に現處すと雖も而も所著無く、一切の法は悉く我有ること無しと達して、心に憂ひ悔ゆること無く、大慈悲を以て衆生を敎化して疲倦せず。生死は皆悉く夢の如しと了達して、一切劫に於て菩薩の行を行じて疲懈せず。五陰は皆悉く幻の如しと了知して、生死を畏れず、諸の法界を知りて、心に所著無く一切の法は熱時の燄の如しと了り、一切の行に於て倒惑を生ぜず、幻法に遊戲して、魔の境界を超え。淨法身を得て煩惱業を離れ、諸趣の中に於て自在を得、顚倒の惑無し。(三一)善男子よ、我が淨法身は一切の法界に充滿し、一切衆生に等しき色、一切衆生に等しき音聲、一切衆生に等しき名號、一切衆生に等しき威儀を現じ、一切衆生に等しき隨順世間を現じ、一切衆生に等しき受生を現じ、一切衆生に等しき童子身と、一切衆生に等しき想とを現じ、一切の菩薩の大願を出生して、變化身と爲りて、衆生と等しく法界に充滿す。

(三一)　五、業用廣大を明かす。
(三二)　次に事の家に依りて化身を生ずることを明かす。

(三二)若し諸の同行にして道心を失ふ者は、還つて菩提心を發起せしめんが故に、我此の閻浮提の南界、摩離國の内の、拘提聚落の、婆羅門の家の種族の中に於て生れたり。彼の高慢心を滅せんと欲するが爲めの故に、父母及び親族を化度せんが故に、中に於て生を受けたり。善男子よ、我南方に於て、諸の衆生の所應に隨ひて示現して之を化度し、此の命終に於て兜率天に生る。彼の諸天を化度せんと欲するが爲めの故に、勝妙なる智慧の功德を顯現して、欲の渴愛を消し、諸行は皆悉く無常にし

て、天趣は壽命なるも、盛なるは必ず衰ふること有るを知らしめ。摩訶衍に入れる一生の菩薩は、皆悉く雲のごとく集まり、諸の同行を敎化せんと欲するが爲めの故に、釋迦牟尼世尊の化したまふ所の蓮華を開かしめんと欲し、彼の受生を現ずべし。善男子よ、我彼の中に於て壽終りて下生し、正覺を成ずる時、汝及び文殊師利は倶に我を見ることを得ん。

（三三）善男子よ、汝今往て文殊師利に詣でて問へ、「云何んが菩薩は菩薩の行を學び、菩薩の道を修し、普賢の所行を具足し成就するや」と◎彼當に汝が爲めに分別し演說すべし。何を以ての故に、文殊師利は無量億那由他の菩薩の願行を滿足して、常に無量億那由他の諸佛の母と爲り、又無量億那由他の諸の菩薩の師と爲り、勇猛精進して衆生を敎化し、名稱普く十方世界に聞こえ、常に一切諸佛の衆中に於て大法師と爲り、悉くの諸佛の爲めに讚歎せられ、甚深なる智慧の法門に安住して一切の法界を分別し、了知し、無量劫に於て諸の法門を修し、普賢菩薩の所行を究竟したまへり◎善男子よ、文殊師利は是れ汝が善知識なり。能く汝をして如來の家に生ずることを得、善根を長養し、功德の聚を積ましめん、能く汝に諸の善知識は、大願を滿足し、一切の菩薩の不可思議なる功德を顯現することを示し語らん。是の故に善男子よ、汝應に一心に尊重し恭敬して、其の所に往詣すべし。何を以ての故に、汝先に見えし所の諸の善知識によりて、菩薩の行を修し、大願を滿足し、諸の法門を得しは、皆文殊師

【三三】以下、智照無二相の知識を明かす。善財此に於て文殊菩薩に再見す。

利の威神力に由るが故なり。』

時に善財童子は、頭面に彌勒菩薩を敬禮し、繞ること無數帀、辭退して行けり。

爾の時に善財童子は、是の如く百十一の城を經遊して、普門城の邊に到り、思惟して住し、十方を觀察して一心に專ら文殊師利を求め、『何ぞ當に會遇して面り慈顏を奉ずべき』と。

（三四）是の念を作せし時、文殊師利は遙かに右の手を伸べたまひ、百十一由旬を過ぎて普門城に至り、善財の頂を摩でて、是の言を作したまはく、

『善い哉、善い哉、善男子よ、若し信根を離れなば、憂悔に心沒し、功行具はらず、精勤を退失して、少功德に於て便ち以て足れりと爲し、一の善根に於て心に住著を生じ、菩薩の行を發起せず、善知識の攝護する所と爲らず、如來の憶念したまふ所と爲らず。是等は皆悉く是の如きの法性、是の如きの理趣、是の如きの所行、是の如きの所住を了知すること能はず。若しは周徧して知り、若しは種種に知り、若しは源底を盡し、若しは漸に趣入し、若しは解說し、若しは分別し、若しは證知し、若しは獲得せんこと、皆悉く能はず。』

【三四】次に正しく法界を證することを明かす。

是の時に文殊師利は、善財童子の爲めに、敎誨を示し已り、慰喩して、其をして歡喜踊躍せしめ、阿僧祇の法門を成就することを得、無量の大智の光明、無量の菩薩の陀羅尼、無量の大願、無量の三昧、無量の神通、無量の智慧を得、皆悉く成就せしめ。復た普賢の所行の道場の内に入ることを得

しめたまへり。既に善財を自ら住せる所に置き已り、文殊師利は還り攝して現せず。爾の時に善財は、三千大千世界の微塵に等しき諸の善知識を見ることを得て、其の教に違はず。薩婆若と大慈悲藏とを增長し、淨き慧眼を以て普く衆生を觀じ。菩薩の寂靜の法門に安住し。諸法の境界を分別し了知して、佛の甚深なる大功德海に入り。解脫の道を具へて、精進し長養し。薩婆若の爲めに正直心を修して、三世の甚深なる法海に入り、諸佛の清淨なる法輪に隨順して、現じて諸趣に入り。一切劫に於て菩薩の行を修して大願を滿足し。明淨なる慧光をもつて一切智の境を照し、菩薩の根を淨め。淨き慧光を以て愚癡の翳を除きて、一切の法を照し、法界の一切の佛刹、及び諸の衆生を了達して、障礙の山を壞し。無礙の法に住して、諸地の法藏を具足し成就し。普賢菩薩の所行を修習せり。

〔三五〕善財童子は、普賢菩薩の名號・行願・功德・諸地・地具・地法・地得・地次第・地修・地住・地境界・地持・地共・地正道を聞くことを得て、一心に普賢菩薩に見えんと欲へり。

〔三六〕爾の時に善財正念して、如來の金剛藏道場の一切寶蓮華藏の師子座の心、虛空界に等しき心、一切無著の心、一切刹を淨めて障礙無き心、一切法の境界に於て障礙無き心、一切十方に充滿する心、薩婆若の境界を得たる無量の心、道場を莊嚴する心、深く入りて法海を分別する心、一切衆生を

【三五】以上總じて文殊般若門を竟り、以下顯因廣大相の知識、普賢菩薩に見え法界に證入することを明かす、卽ち是れ普賢法界門なり。第一、法を擧げ、修を勸む。

【三六】第二、敎に依りて趣入することを明かす。

教化し成就する廣大の心、一切劫に於て菩薩の行を行じ如來の十力を究竟する心を起せり。爾の時に善財是の心を起せる時、自の善根力と、佛の威神力と、普賢菩薩の諸の善根力とをもつて、卽ち十種の瑞相を見る。何等をか十と爲す。所謂る、一切の淨刹は菩提を莊嚴せるを見、一切刹に諸の惡道無きことを見、一切刹は淨きこと蓮華の如きを見、一切刹の一切の衆生の身心柔輭なるを見、一切刹の無量の莊嚴を見、一切刹の一切の衆生は三十二相をもつて其の身を莊嚴せるを見、一切刹は莊嚴の雲に覆はれたるを見、一切刹の一切衆生は慈心を成就せるを見、一切刹の莊嚴せる道場を見、一切刹の一切の衆生は皆悉く念佛三昧を修習せるを見る。是を十と爲す。又十種の光相を見る。一切世界の微塵は、一一の微塵の中より、一切如來の光明網雲を放ちて、一切世界の微塵と等しく。一一の微塵の中より、一切佛の種種の色光を放ちて、一切世界の微塵と等しく普く法界を照し。一一の微塵の中より、一切の寶雲光明を放ちて、一切世界の微塵と等しく普く法界を照し。一一の微塵の中より、如來の光炎輪雲を放ちて、普く法界を照し。一一の微塵の中より。一切の香雲を出だして、普く法界に熏じ、普賢菩薩の所行、一切の大願、諸の功德海を讃歎し。一一の微塵の中より、一切の日月光雲を放ち、普賢菩薩の光明を放ちて、普く法界を照し。一一の微塵の中より一切衆生に等しき身雲を出だして、相好莊嚴し、佛の光明を放ちて普く法界を照し。一一の微塵の中より、一切菩薩の身雲を出だし、一切の行を究竟して法界に充滿し。一一の微塵の中より、一切の寶形像雲を出だし、

十方一切の世界に充滿し。一一の微塵の中より、一切如來の身雲を出だして、一切世界の微塵と等しく、普く一切の甘露の正法を雨らして、法界に充滿す、是を十と爲す◎

爾の時に善財は、十種の瑞相を見已りて、卽ち是の念を作さく、『我今必ず普賢菩薩を見たてまつりて、善根を增長し、菩薩の妙行を究竟して、一切の佛を見たてまつらん。若し普賢菩薩を見たてまつらば一切智の想を得ん』と。一心に恭敬して普賢菩薩を見たてまつらんと欲す。

(三七)爾の時に善財、卽ち普賢菩薩を見たてまつるに、金剛藏道場に在して、如來の前に於て、蓮華藏師子の座に處し、大衆に圍繞せられ、心虛空の如くして染著する所無く、障礙を除滅し、一切刹を淨め、無礙の法を以て十方に充滿し、一切智に住し、諸の法界に入りて衆生を敎化し、一切劫に於て菩薩の行を行じ、一切の諸佛を恭敬し供養し、心に退轉無く、衆生の中に於て最勝最上にして、一切の世間能く壞る者無く、一切の菩薩も其の智慧の境界を察すること能はず、不思議なる諸の妙功德を具へ、普く三世等の諸の如來を觀じたまふ。

【三七】第三、正しく法界を證することを明かす、八段あり、一、見身得益。

爾の時に善財、普賢菩薩を見たてまつるに、一一の毛孔より一切世界の微塵に等しき光明を放ちて、普く一切の虛空法界に等しき世界を照したまひ、一切衆生の苦患を除滅し、悉く能く菩薩の善根を長養し。一一の毛孔より種種の香雲を出だして、普く十方一切の如來、及び諸の眷屬に熏じ。一一

の毛孔より一切世界の微塵に等しき華雲を出だし。一一の毛孔より一切世界の微塵に等しき諸の香樹雲を出だし、衆の妙音を出だして法界を莊嚴し。一一の毛孔より一切世界の微塵に等しき妙寶衣雲を出だして、虛空を莊嚴し。一一の毛孔より一切世界の微塵に等しき種種の寶樹を出だして、虛空に充滿し、以て莊嚴と爲し、種種の寶を雨らして佛の大衆に供へ◎一一の毛孔より一切世界の微塵に等しき色界の天身を出だし、一切法界の一切の衆生界に充滿して菩提を讃歎し。一一の毛孔より一切の梵王の身雲を出だして、如來に妙法輪を轉じたまはんことを勸請し。一一の毛孔より一切の欲天の身雲を出だして、皆悉く諸佛の法輪を護持し。一一の毛孔より念念の中に一切世界の微塵に等しき三世の諸佛を出だして、虛空に充滿し、無依の衆生の爲めに歸依と作り◎一一の毛孔より念念の中に、一切世界の微塵に等しき淸淨の佛刹を出だして、諸佛菩薩其の中に充滿し、無量の衆生を敎化し成就し。一一の毛孔より念念の中に、一切世界の微塵に等しき淨不淨の佛刹を出だして、虛空に充滿し、染汚の者をして皆淸淨なることを得しめ。一一の毛孔より念念の中に、一切世界の微塵に等しき不淨の刹を出だして、不淨の衆生を調伏し◎一一の毛孔より念念の中に、一切世界の微塵に等しき一切衆生の身雲を出だし、世間に隨順して衆生を敎化し。一一の毛孔より念念の中に、一切世界の微塵に等しき菩薩の身雲を出だして、諸佛を讃歎し、一切衆生の善根を長養し。一一の毛孔より念念の中に一切世界の微塵に等しき初發心の菩薩の身雲を出だして、一切刹に於て初發の菩提の心を示現し。一一の毛孔よ

り念念の中に、一切世界の微塵に等しき菩薩の身雲を出だし、一一の刹に於て一切の佛の功德の願海と、普賢菩薩の行ぜし所の妙行とを讃し。一一の毛孔より念念の中に、一切世界の微塵に等しき普賢の所行を出だし、甘露の法を雨らして、一切の衆生をして薩婆若を修めしめ。一一の毛孔より念念の中に、一切世界の微塵に等しき佛、初め正覺を成じ、世に出興したまふことを出したまへり。爾の時に善財、是の如き等の不可思議なる自在神力を見たてまつる。見已りて歡喜し、踊躍すること無量にして、重ねて普賢の一一の身分を觀たてまつるに、一一の肢節の、一一の毛孔の中に、悉く三千大千世界の風輪・水輪・火輪・地輪、大海寶山・須彌山王・金剛圍山、一切の舍宅・諸の妙宮殿・衆生の等類、一切の地獄・餓鬼・畜生・閻羅王の處・諸天・梵王・乃至、人・非人等、欲界・色界、及び無色界、一切の劫數、諸佛菩薩の衆生を敎化したまふことを見る。是の如き等の事皆悉く顯現せり。十方一切の世界も亦復た是の如し。此の娑婆世界の盧舍那如來・應供・等正覺の現じたまふ所の自在力の如く、東方の蓮華妙德世界の賢首佛の所に、神力を顯現することも亦復た是の如し。賢首佛の所の如く、是の如く東方の一切世界の一切佛の所に、神力を顯現することも亦復た是の如し。東方の如く、南西北方四維上下の、一切世界の一切佛の所に、神力を顯現することも亦復た是の如し。一切世界の一一の微塵の中に於て、自在力を現ずることも亦復た是の如し。

爾の時に善財、普賢菩薩の不可思議なる自在神力を見たてまつりて、卽ち十の不可壞の智慧の法門

を得たり。何等をか十と爲す。所謂る念念の中に於て能く一身を以て一切刹に徧じ。念念の中に於て一切佛の所に詣で。念念の中に於て一切の諸佛を恭敬し供養し。念念の中に於て一切の佛の所にて正法を聞持し、一切の佛の法輪智波羅蜜門を得。不思議なる佛の自在の智波羅蜜門を得。無盡辯の智慧の法門を得。般若波羅蜜觀諸法門を得。一切法界海の大方便波羅蜜門を得。一切衆生の欲性を知る智慧波羅蜜門を得。普賢の所得の智慧波羅蜜門を得たり。

(三八)爾の時に普賢菩薩、卽ち右の手を伸べて善財の頂を摩でたまふ。摩づること已りて、善財復た一切世界の微塵に等しき諸の三昧門を得たり。一一の三昧門は、各一切世界の微塵に等しき三昧有りて以て眷屬と爲せり。一一の三昧の中に一切世界の微塵に等しき諸の如來海を見、一切世界の微塵に等しき諸の功德具を長養し、薩婆若を生じ、大願海を滿じ、正道に安住し、一切諸の菩薩の行を究竟し、薩婆若を發し、勇猛精進して、一切の佛の光明の照す所と爲る。◎此の娑婆世界の盧舍那佛の所の普賢菩薩、善財の頂を摩でたまひて、一切世界の微塵に等しき三昧門と、諸の妙功德とを得しめたまひしが如く。普賢菩薩は十方の一切世界の諸の如來の所に在して、善財の頂を摩でたまひ、得る所の功德も亦復た是の如し。

(三九)爾の時に普賢菩薩、善財に告げて言はく、『善男子よ、汝今、我が自在神力の奇特の事を見るや

【三八】二、頂を摩して定を得たることを叙す。

【三九】三、因深く果厚きことを明かす。

不や。』

答へて言はく、『唯然り、已に見たてまつる、此の不思議は能く測る者莫し。唯如來をば除く。』

『善男子よ、我過去の不可說不可說の世界海の微塵に等しき劫に於て、菩薩の行を修して、専ら菩提を求め。一一の劫の中に不可說不可說の世界海の微塵に等しき佛を見たてまつりて、菩提心を修し。一一の劫の中に、一切の世界に於て不可說不可說の廣大の施會を設け、一切を給施し、或は妻子・城邑聚落・頭目髓腦・肢節血肉、一切の身分を施し、壽命を惜まず、一向に専ら一切種智を求め。一一の劫に於て不可說不可說の世界海の微塵に等しき佛を恭敬し供養したてまつり、彼の佛の所に於て出家學道して、正法を受持し、未だ曾て貪・恚・癡の心、我・我所の心、生死に樂著する虛妄の心、他を輕慢する心、諸の障礙の心を生ぜず、壞す可からざる佛の菩提心を修して、未だ曾て忘失せず。善男子よ、我が修行せし所の菩薩の諸行は、佛の世界を淨め、衆生を敎化し、大悲を長養し、諸佛、及び善知識を供養し、正法を護持し、悉く一切內外の諸物を捨て、世間出世間の智を修習し、一切衆生をして生死の苦に背かしめ、一切諸佛の功德を讃歎せるなり。是の如き等の事は不可說不可說の劫の中に於て演說せんに、劫は猶ほ盡く可くとも、此の諸の功德は窮め盡す可からず。善男子よ、我是の如きの功德具の力、諸の善根力、勝法を樂ふ力、功德を修する力、諸法の寂滅性を觀察する力、淨き慧眼の力、佛の威神力、諸の大願力、大慈悲の力、淨き通明の力、善知識の力を得たり。是の力を得たるが

故に、本性清淨の法身を逮得して、三世にも壞せず、又無上清淨の色身を得て、一切世間を超出し、應に化すべき者に隨ひて、覩見せざる無く、一切刹に遊びて處として至らざる無く、自在力を現じて見る者厭くこと無し。

(四〇)善男子よ、汝且らく我が清淨の法身を觀ぜよ。無量劫海に菩薩の行を行じて成就する所、無量劫の中にも聞き難く見難し、少善根を種ゑたる聲聞菩薩は、猶尙我が名字すら聞くことを得ず。況んや我が身を見んをや。

【四〇】四、益を擧げて、觀を勸む。

善男子よ、若し衆生有りて我が名を聞かん者は、阿耨多羅三藐三菩提に於て復た退轉せじ。若しは見、若しは觸れ、若しは迎へ送り、若しは隨順し、若しは光明を見、若しは諸佛の世界を震動することを見、乃至夢中にも我を見聞せん者は亦復た是の如し。若しは思惟して我を念ずること、若しは一日一夜、若しは七日七夜、若しは半月、若しは一月、若しは一歲、若しは百歲、若しは一劫、若しは百劫、乃至不可說不可說の世界の微塵に等しき劫、若しは一生に我を念じ、若しは百生、乃至不可說不可說の世界の微塵に等しき生に、我を念せんも亦復た是の如し。是の如き等の世界の微塵に等しき諸の妙方便を以て、一切衆生をして阿耨多羅三藐三菩提心を發し、不退轉に住せしむ。◎善男子よ、若し衆生有りて、我が修習して佛刹を淨めたることを聞かん者は、必ず清淨の世界に往生することを得ん。若し衆生有りて我が身を見聞せば、必ず我が

清淨身の中に生ずることを得ん。
（四一）善男子よ、汝復た我が清淨法身を觀ぜよ。』

爾の時に善財は、普賢菩薩の相好の肢節、諸の毛孔の中に於て、不可說不可說の世界海の諸佛充滿し、一一の如來は不可說不可說の大菩薩衆を以て眷屬と爲したまへるを見る。彼の一一の如來の刹海は、所依同じからず。形色も各異り、金剛圍山に、大雲の彌覆せること、佛世間に興りて、轉じたまふ所の法輪、是の如き等の事、皆悉く同じからざるを見る。又普賢菩薩、十方の刹に於て一切世界の微塵に等しき如來の化身を出だして、衆生を教化し、阿耨多羅三藐三菩提心を發さしめたまふを見る。

（四二）爾の時に善財童子は、一佛世界の微塵に等しき諸の善知識を經由し親近して、得し所の功德は、普賢菩薩を見たてまつりて得る所の功德に於て、百分が一にも及ばず、百千萬分、乃至算數も譬喩も及ぶこと能はざる所なり。何を以ての故に、善財童子は、念念の中に於て不可說不可說の佛の世界海に入り、不可說不可說の微塵に等しき諸の功德藏を得、諸佛海の次第に興世し、菩薩衆海の眷屬に圍繞せらるるを知り、衆生の根を了り、自在力を現じて之を化度し、或は一世界に一劫の中に於て菩薩の行を修し、乃至不可說不可說の世界の微塵に等しき劫に、菩薩の行を修し、此の世界に沒せず、彼の世界に生ぜずして、而も能く無量無邊の世

【四一】五、奇特を觀見することを明かす。
【四二】六、所得を校量することを明かす。

界の衆生を敎化して、阿耨多羅三藐三菩提心を發さしむればなり。

(四三)爾の時に善財童子は、能く自ら普賢の行ぜし所の諸の大願海を究竟し、久しからずして當に一切の佛と等しく、一身一切の世界に充滿し、刹も等しく、身も等しく、行も等しく、正覺も等しく、自在力も等しく、轉法輪も等しく、諸の辯才も等しく、妙音聲も等しく、方便も等しく、無畏の力も等しく、佛の所住も等しく、大慈悲も等しく、不思議の法門自在力も等しかるべし。

(四四)爾の時に普賢菩薩、重ねて此の義を明さんと欲し、偈を以て頌して曰はく、

(四五)『汝等煩惱を離れて、清淨の心をもつて諦聽せよ、佛の一切行と、眞實の波羅蜜とを說かん、

諸の世界に超出したまへる、無上の調御士は、煩惱の垢を遠離して、清淨なること虛空の如し、

圓滿なる智慧の日は、煩惱の闇を除滅して、普く一切の法を照し、諸の群生を安樂ならしむ、

如來は無量劫に、時に乃し世に出興したまふ、譬へば優曇華の、見難く値遇し難きが如し、

普く諸の群萠の爲めに、苦行して無量劫に、諸の世間に隨順したまふも、其の心に染著無し。

(四六)時に諸の菩薩衆は、既に普賢の敎を聞きたれば、敬心に如來の、自在眞實の義を聽かん、

【四三】七、位滿じて佛と齊しきことを明かす

【四四】八、偈頌。九十九頌半あり。

【四五】初の五偈は聽を誡め說を許す、略して佛德を歎ず。

【四六】次の三偈は衆、勸を領して說を歎じ、聽受せんことを頌す。

普賢は佛の眞子にして、一切の行を究竟し、常に佛の歎じたまふ所と爲り、言必ず虚妄ならず、
普賢の功德の華は、三界の法に染まず、大衆を勸發して、無盡の智慧海を聽かしむ。

(四七)諸佛の微妙なる智は、淸淨なること虚空の如く、明かに一切の行を了りて、其の心に所著無し、
一念に悉く、三世の一切法を了達し、善く衆生の根を知りて、其の應に化すべき所に隨ふ、
衆生心の煩惱と、諸業の善・不善と、樂ふ所とを皆悉く知りて、爲めに正法を說く。
或は如來の坐したまふを見るに、十方界に充滿すれども、衆生は罪に障へられ、近しと雖も而も見たてまつらず、
或は初め發心してより、諸の放逸を遠離し、無量無數劫に、菩薩の行を修習することを見るも、
或は諸の最勝の、妙音をもつて法を演說したまふを聞くも、罪垢の衆生等は、佛の名號をも聞きたてまつらず、
或は大菩薩は、三千界に充滿して、普賢の行を究竟し、如來爲めに法を說きたまふを見る。
或は盧舍那の、無量無數劫に、此の世界を嚴淨して、最正覺を成ずることを得たまふを見、
或は賢首佛、普賢大菩薩、斯等は悉く、蓮華妙德の剎に充滿したまふを見、

【四七】次の二十偈半は通じて十方の報佛の勝德を歎ず。

或は阿彌陀、觀世音菩薩、灌頂し記を受けたる者の、諸の法界に充滿したまふを見、
或は阿閦佛、香象大菩薩、斯等は悉く、妙樂淨嚴の刹に充滿したまふを見、
或は月慧佛、金幢大菩薩、斯等は悉く、明淨鏡の妙刹に充滿したまふを見、
或は日藏佛、智灌大菩薩、斯等は悉く、淸淨光明の刹に充滿したまふを見、
或は十方界の、諸佛光明を放ちて、衆の爲めに法輪を轉じ、愚癡の闇を除滅したまふを見る。
或は一毛孔の、不可說の佛刹に、諸佛の莊嚴身は、佛子の衆に圍繞せられ、爲めに正法輪を轉じ、諸の群生を度脫したまふを見、
或は一毛孔に於て、普く諸の佛子の、無數億劫の中に、菩薩の行を修習するを見、
或は一一の塵に於て、悉く無量の刹を見る、或は淨あり或は垢穢あり、諸の行業の起す所なり、
或は盧舍那、彼に於て法輪を轉じ、自在力を顯現して、方便をもつて涅槃に入りたまふを見る、
衆生の類の、一切の業煩惱を觀察し、自在力を顯現して、之を化して度脫せしめたまふ。
是の如きの諸の法王は、十方世界の中に、自在力を顯現したまふ、我今少分を說かん。
(四八)或は釋迦文、初め等正覺を成じ、諸の群生を饒益したまひ、一切能く測ること莫きを見、

【四八】次は別して釋迦佛化身の功德を歎ず、中に於て、初の二十偈半は佛の意業を歎ず、初の五は六度行の智用、次の三は天身八相の用、次の二は常在恒滅の用、次の四は巧化隨機の用、次の六半は身光壽刹の用を明かす。

或は菩薩と爲りて、一切の佛を供養し、或は童子地に住して、自在力を顯現したまふを見、
或は施・戒・忍辱・勤精進を行じ、深く諸の禪定に入り、慧方便地に住したまふを見、
或は究竟じて、一切種智の地に住し、三昧陀羅尼、諸の通明を出生したまふを見、
或は無量劫に、菩薩の行を修習し、不退轉を逮得し、甘露の灌頂をもつて記せられたまふを見る。
或は梵身・帝釋・四天王・刹利・婆羅門と爲り、此等の身を示現したまふを見、
或は兜率より、命終し降神して生れたまふを見、或は宮殿に住し、欲を捨てて出家したまふを見、
或は道場に坐し、魔を降して正覺を成じ、淨妙の法輪を轉じ、涅槃したまひて後に塔を起つることを見る。
或は無量壽の、最勝なる天人尊、爲めに灌頂の記を授けたまひ、無上の導師と成りたまふを見、
或は十力の尊、敎化し已り周く訖りて、般涅槃したまひしより已來、無量無數劫なるを見る。
或は論師月となりて、梵王の宮に處することを現じ、亦大自在を、魔王の宮殿中に現じたまふを見、
或は兜率の宮に、諸の天衆に圍繞せられ、彼が爲めに正法を說き、悉く大いに歡喜せしめたまふを見、

或は夜摩・帝釋・四天王・諸龍・夜叉王。八部の宮殿の中に處したまふことを見、錠光如來の所にて、供養して受記を得、是の如き等の方便をもつて、諸の群生を教化したまふをみる。

光明・身・壽命・淨慧、及び眷屬、教化威儀の聲、皆悉く數ふ可からず、佛は衆生に同じく、或は身は須彌の如く、或は跏趺の坐を現じ、世界に充滿したまふを見、或は光一尋、或は百千由旬なるを見、或は現じて法界を照し、或は一切刹を照し、或は壽百歲、百千萬億歲、無量那由他、不可思議劫なるを現じ、無礙にして清淨なる慧をもつて、一念に三世を知り、悉く因緣より起り、而も實には自性無し、一刹に正覺を成じたまひて、普く諸の世界に現じ、能く一世界を現じたまひて、而も無量の刹と作し、無量の刹を示現して、而も一世界と爲したまふ。

(四九)無上道に安住し、無畏の力を具足し、無礙の智慧をもつて、十二の行法輪を轉じたまふ、苦集の盡道と、十二支の緣起とを知り、四辯の無礙智をもつて、一切法を演說したまふ、

【四九】次の十九偈は佛の語業を歎ず、中に於て初の五は三乘の法輪を轉ずることを明かし、次の五は六度覺品對治の法を明かし、次の五は五乘の總別乃至多乘を明かし、次の四は平等の語業一切に應ずることを明かす。

我無く我所無く、亦自性有ること無く、生も無く亦滅も無く、來も無く亦去も無し、
皆悉く虚空の如くにして、而も諸業を壞せず、如來は衆生の爲めに、方便をもつて分別して説きたまふ、

此の法輪を轉じたまふ時、一切刹の、大海と金剛山とを震動して、恐怖する者有ること無し。

如來は一音をもつて説きたまひ、各所應に隨ひて解し、諸の煩惱の垢を滅して、薩婆若に住せしむ、

如來は一音をもつて説きたまふに、或は施・戒・忍・精進・禪・智慧・慈悲及び喜捨、
四念・四正勤・如意・諸根・力・覺・道・止觀・念・神通の諸の法門なりと聞く、

如來は一音をもつて説きたまふに、八部・人・非人・梵・釋・四天王は、類に隨ひて音聲を解す、
若し貪・恚・癡、憍慢・慳・嫉・結多く、八萬四千の垢あらんも、各對治の法を聞く。

未だ淨業を修せざる者は、十善道を説きたまふと聞き、已に施戒を修せし者は、般涅槃を説きたまふと聞く、

生死に染著する、懈怠の諸の群生は、解脱の門を説きたまふと聞きて、生死の苦を除滅す、
少欲にして足ることを知る者は、樂ひて閑靜に處す、是の如き等の衆生は、二乘の音を説きたまふと聞く、

或は廣大心を修し、諸の功德藏を具へ、諸佛に親近する者は、大乘を說きたまふ聲を聞く。

或は一世界有り、一乘を說きたまふ音を聞き、或は二三四五、乃至無量乘なりときく。

智慧と行とに異り有るも、解脫には差別無し、猶ほ虛空の性の如く、若干の相有ること無し、

如來の微妙なる音も、其の性亦是の如く、應に所化の者に隨ひて、所聞各同じからず、

佛は過去の行を以て、一微妙の音を得、彼此に心無くして、而も能く一切に應じたまふ、

佛の口より妙光を放ちたまふこと、八萬四千の數にして、普く諸の世界を照して、衆の煩惱を除滅したまふ。◎

(五〇)智と功德とを具足して、三種の衆生に順ひ、世を離るること虛空の如くにして、常に世間に現じたまふ、

復た世に隨ひて、生・老・病・死の苦を現じ、或は復た住壽を現じたまふと雖も、其の性は虛空の如し、

如來は、一切衆生の類の、諸根及び性欲を分別して知り、薩婆若に住せしめたまふ。

諸佛尊導師は、大衆に入ることを示し、其の化すべき所に隨ひて、善く威儀の法を現じたまふ、

諸の聲聞の爲めには、出家の威儀法を現じ、常に寂滅を樂修して、無餘涅槃を證したまふ。

【五〇】次の十五偈は身業を歎ず、中に於て初の三は凡身を示現し、次の二は聲聞身を現じ、次の三は外道身を現じ、次の三は大力身を現じ、後の四は諸天の身を現ずることを明かして結す。

婆羅門衆の中には、羸老の身を示現し、縈髮して苦行し、語論窮り盡くること無し、
氣を服し或は食を斷ち、五熱を以て身を炙り、是の如く苦行を現じて、諸の異學を降伏したまひ、
或は異道の戒を持ち、善算・多くの方術、星歷・地動の相、種種の衆生の相をもつてしたまふ。
深く諸の禪定、三昧及び解脫に入り、種種に嬉戲を現じて、薩婆若を得しめたまふ、
衣服を樂ふことを示現して、種種に身を莊嚴し、勇健にして兵法を善くしたまふ、刹利を降伏せんが故なり。
治正の法と、時節諸の義利とを知り、輭語をもつて衆生を攝したまふことを現ず、大臣を降伏せんが故なり。
或は四天王、八部鬼神の所に、方便をもつて爲めに法を說き、皆大いに歡喜せしめたまふ、
或は現じて帝釋と爲り、善法堂に安住して、諸の天衆に圍繞せられ、彼が爲めに法を演說したまふ、
夜摩或は兜率・化樂・化自在・梵王より淨居に至るまで、彼が爲めに法を演說したまふ。
是の如く無數なる、種種の威儀法を現じ、無量の方便力をもつて、諸の群生を度脫したまふ。
〔五二〕譬へば工みなる幻師の、能く種種の事を現ずるが如く、佛は衆生を化せんが爲めに、種種の

〔五一〕次の八偈半は三業を喩顯す、中に於て、初の五は身業に喩へ、次の一は意業に喩へ後の二半は口業に喩ふ。

身を示現したまふ、
月の虚空に遊び、視る者增損ありと謂ひ、影は諸の河池に現じて、螢火の光を映蔽するが如し、
如來の淨智の月は、增損有ることを示現し、直心の水に處して、二乘の光を映蔽す、
譬へば深き大海の、珍寶盡す可からず、中に於て悉く、衆生の形類の像を顯現するが如し、
甚深の因緣海は、功德の寶盡くること無く、清淨の法身の中に、像として現ぜざる無し。
譬へば明淨の日の、世閒の闇を照除するが如く、如來の淨智の日は、悉く三世の闇を除く。
龍の慶雲を興して、普く一切に雨らし、身心より雨を降らすにあらずして、熱を除き清涼を得せしむるが如し、
如來も亦是の如く、大悲の雲を興起して、普く甘露の法を雨らし、三毒の火を滅除したまふ、此の法も亦、如來の身心より出づるにあらず。

【五二】最後の六偈は法身の德を歎ず。

【五二】如來の淨法身は、三界に倫匹無し、諸の世閒を超出して、有に非ず亦無に非ず、
其の實所依無く、去らずして而も徧く至る、譬へば夢の所見の如く、亦空中の畫の如し、
色に非ず無色に非ず、相に非ず無相に非ず、有に非ず亦無に非ず、其の性は虚空の如し、
海の摩尼寶の、能く種種の寶を出だし、衆生の諸の光明は、光に所有無きが如し、
導師も亦是の如く、有なりと雖も而も有に非ず、一處の中に於て、功德の寶を積集せず、

大仙の現じたまふは虚空のごとく、如・自性・實際・涅槃・離欲・滅、皆悉く是れ一性なり。
衆生心の微塵も、海水の滴をも數ふ可く、虚空も亦量る可くとも、佛の德は說くとも盡すこと
無し、
此の法を聞きて歡喜し、心に信じて疑ふこと無き者は、速かに無上道を成じて、諸の如來と等し
からん。』

國譯大方廣佛華嚴經 終

入法界品第三十四の十六

衆下三本俱有生字○誦同作頌

# 大方廣佛華嚴經卷第四十

(麗問)(宋道)(元道)(明問)

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅　譯

## 離世間品第三十三之五

佛子菩薩摩訶薩有十種不共法何等爲十所謂菩薩摩訶薩修習六波羅蜜不由他悟平等心施無所慳吝持戒清淨遠離惡戒忍辱成就心不可動勤修精進於一切劫未曾退轉深入禪定離一切亂出生智慧遠離邪見是爲菩薩摩訶薩修習六波羅蜜隨順波羅蜜道不由他悟第一不共法菩薩摩訶薩攝一切衆生而饒益之常以法施於一切衆生和顏愛語遠離惡言於一切衆生常起樂心眞實利益令一切衆生解悟菩提遠離惡心具足成就平等實義是爲菩薩摩訶薩攝取衆生隨順攝道不由他悟第二不共法菩薩摩訶薩善解迴向不求果報隨順迴向諸佛菩提不著一切世間三昧迴向佛智饒益衆生是爲菩薩摩訶薩善解迴向專求一切諸佛善根無上智慧饒益衆生不由他悟第三不共法菩薩摩訶薩善巧方便究竟彼岸隨順世間親近世間而無疲厭正向聖行遠離一切聲聞緣覺出要之道教化成熟一切衆生不著己樂善知一切諸禪解脫三昧正受三昧起於諸三昧而得自在於生死中心無疲厭遊於生死如園觀想安住一切諸魔宮殿示現帝釋梵王無量自在於一切生死慧光明淨照除癡闇於一切衆捨家出家不著異見示現一切世間書疏文誦談論語言算術印法一切娛樂現爲女身才術巧妙能轉人心於世間法離世間法悉能問答究竟彼岸於世間事離世間事亦悉究竟到於彼岸常觀衆生示現一切聲聞緣覺不轉威儀不忘大乘於念念中現成如來無上菩提而亦不斷菩薩所行是爲菩薩摩訶薩具足修習巧妙方便到於彼岸不由他悟第四不共法菩薩摩訶薩善知俱變三昧翻覆三昧遊戲智慧通明究竟智慧彼岸常在涅槃而現生死門知無衆生際而教化成熟一切衆生常在究竟寂滅彼

岸。而示現處熾然煩惱。常在金剛一妙法身。而現衆生無量身門。常能正受諸禪三昧。而現衆生五欲娛樂。常樂寂靜遠離三界。而敎化一切衆生。長養善根常樂正法。而現百千天女圍遶共相娛樂。百福相好莊嚴其身。而現貧賤鄙陋之形。常離諸惡長養善業。而現受生一切惡道。究竟到於佛智彼岸。而亦不捨菩薩智身。菩薩成就如是等無量智慧。一切聲聞緣覺無能知者。何況一切童蒙衆生。是爲菩薩摩訶薩第五不共法。菩薩摩訶薩身口意業智慧爲首。一切威儀諸業清淨。成就大慈永離殺心。乃至遠離邪見具足正見。是爲菩薩摩訶薩身口意業隨智慧行第六不共法。菩薩摩訶薩。成就大悲。不捨一切衆生。代一切衆生。受諸地獄畜生餓鬼閻羅王苦。利益衆生心無疲厭。度脫一切諸群生界。於一切欲樂心無染著。常爲衆生滅諸苦陰不捨大悲。是爲菩薩摩訶薩第七不共法。菩薩摩訶薩。爲一切衆生之所愛敬。帝釋梵王四天王等。皆恭敬供養。一切衆生心常樂見無有厭足。何以故。菩薩本修行業心無染著。皆悉清淨威儀具足故。一切衆生樂見無厭。是爲菩薩摩訶薩第八不共法。菩薩摩訶薩。一切智心堅固正直。以大莊嚴而莊嚴之。雖至難處諸惡人處聲聞緣覺處。終不退失一切智心。清淨妙寶。譬如水珠名曰淨光。雖處濁水寶性無異。能令濁水悉皆清淨。菩薩亦復如是。雖在衆難諸惡人處聲聞緣覺處。終不捨離一切種智清淨寶心。令一切衆生滅除邪見煩惱垢濁。住一切智清淨寶心。是爲菩薩摩訶薩第九不共法。菩薩摩訶薩。自覺智法到於彼岸受無師記。雜垢法繒以冠其頂。於如來所不捨恭敬供養之心。亦不捨離諸善知識。是爲菩薩摩訶薩第十不共法。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種不共法。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得一切諸佛無上大不共法。佛子。菩薩摩訶薩。有十種業。何等爲十。所謂世界業。悉能嚴淨一切世界故。如來業。奉給供養一切佛故。菩薩友善業。善根同故。衆生業。敎化成熟一切衆生故。未來世業。攝取一切盡未來際故。神力業。不捨本處而能遊行一切世界故。淨光業。放無量無邊色光。一一光端悉有七寶清淨蓮華。一一華臺各有菩薩。結跏趺坐悉顯現故。三寶不斷業。一切諸佛滅度之後。受持守護佛正法故。變化業。遊十方說法化衆生故。持業。隨所發心示現衆生。令滿一切諸大願故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種業。若菩薩摩訶薩。安住此業。則得一切諸佛無上大業。佛子。菩薩摩訶薩。有十種身。何等爲十。所謂菩薩不來身。於一切趣不受生故。菩薩不去身。一

能同作在

界同作世

三本俱佛子已下爲卷第四十一離世間品第三十三之五○有下同無七字○遊下元明俱有行字

切下三本俱有諸字

切趣求不可得故。菩薩不寶身。如一切世間之所得故。菩薩不虛身。如諸世間解眞實故。菩薩不盡身。未來際不可斷故。菩薩堅固身。一切衆魔不能壞故。菩薩不動身。一切衆魔及諸外道不能動故。菩薩相身。示現清淨百福相故。菩薩無相身。法相究竟無衆相故。菩薩普至身。悉與三世如來等故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種身。若菩薩摩訶薩。安住此身。則得一切諸佛無上無盡之身。佛子。菩薩摩訶薩。有十種身業。何等爲十。所謂以一長充徧一切世界菩薩身業。於一切衆生前悉爲現身菩薩身業。於趣趣中悉現受生菩薩身業。遊行一切世界菩薩身業。往詣一切佛所及諸大衆菩薩身業。以一手掌悉能普覆一切世界菩薩身業。一切金剛圍山能以手摩悉如微塵菩薩身業。於己身中示一切衆生一切佛刹成壞菩薩身業。能以一身徧覆一切衆生菩薩身業。於己身中普現一切嚴淨佛刹一切衆生究竟成就無上菩提菩薩身業。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種身業。若菩薩摩訶薩。安住此業。則得一切諸佛無上大法。悉能開悟一切衆生。佛子。菩薩摩訶薩。有十種身。何等爲十。所謂波羅蜜身。正向菩提故。四攝身。不捨衆生故。大悲身。代一切衆生。受無量苦無疲厭故。大慈身。救護一切衆生故。功德身。饒益一切衆生故。智慧身。一切諸佛金剛身故。淨法身。遠離諸趣生死故。方便身。普能示現一切衆生故。神力身。示現一切自在力故。菩提身。隨一切時成菩提故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種身。若菩薩摩訶薩。安住此身。則得一切諸佛無上大智慧身。佛子。菩薩摩訶薩。有十種口。何等爲十。所謂柔輭口。安樂一切衆生故。甘露口。清涼一切衆生故。不虛口。說眞實故。如實轉口。乃至夢中無虛言故。尊重口。一切釋梵四天王等恭敬尊重故。甚深口。顯現眞實法故。堅固口。說無量法不可盡故。正直口。一切音聲具足辯故。莊嚴口。隨時隨業報普示現故。一切智口。隨其所應度衆生故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種口。若菩薩摩訶薩。安住此口。則得一切諸佛無上清淨妙口。佛子。菩薩摩訶薩。有十種清淨業莊嚴菩薩口業。何等爲十。所謂樂聞如來清淨音聲淨菩薩口業。樂聞菩薩清淨音聲淨菩薩口業。不說一切衆生不樂聞語淨菩薩口業。於過去世離口四過淨菩薩口業。歡喜讚歎如來淨菩薩口業。於如來塔廟高聲讚佛如實功德淨菩薩口業。一向普施衆生正法淨菩薩口業。音樂歌頌讚歎如來淨菩薩口業。於諸佛所不惜身命聽受正法淨菩薩口業。一向不捨菩薩法師聽受正法奉給供養淨菩薩口業。佛子。是

乹宋作軋
天下三本俱有王字
遠同作速
世同作佛○闇宋作闇元明俱作闇
發三本俱作業○滿心同作心滿
提同作薩

爲菩薩摩訶薩十種淨業淨菩薩口業。出生菩薩清淨口業。佛子。菩薩摩訶薩。出生如是清淨口業。則得十種守護。何等爲十。所謂諸天王及諸天守護。龍王夜叉王乹闥婆王。阿脩羅王。迦樓羅王。緊那羅王。摩睺羅伽王。梵王及諸梵天。一切諸佛法王所共守護。佛子。是爲菩薩摩訶薩出生清淨口業得十種守護。若菩薩摩訶薩。出生如是清淨口業。得十種守護者。則能成辦十種大事。何等爲十。所謂令一切衆生界皆悉歡喜。一切剎界無不聞知。悉能發起一切諸根。悉能清淨一切性界。拔出一切諸煩惱界。遠離一切諸習氣界。明淨一切諸直心界。長養一切諸深心界。充滿一切諸法性界。照明一切大涅槃界。是爲十。佛子。菩薩摩訶薩。有十種心。何等爲十。所謂大地等心。持一切衆生諸善根故。大海等心。受持無量無邊諸佛智慧大法海故。須彌山王等心。令一切衆生安住無上善根故。摩尼寶心。遠離煩惱淨直心故。金剛心。決定了知一切法故。堅固金剛圍山心。一切諸魔外道不能壞故。蓮華等心。一切世法不能染故。優曇鉢華等心。於一切劫難値遇故。淨日等心。除滅一切衆生愚癡曀障闇故。虛空等心。一切衆生無能量故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種心。若菩薩摩訶薩。安住此心。則得一切諸佛無上清淨大心。佛子。菩薩摩訶薩。有十種發心。何等爲十。所謂發度脫一切衆生心。發拔出一切衆生煩惱心。發斷除一切習氣心。發斷除一切疑惑具足清淨無疑惑心。發除滅一切衆生苦惱心。發除滅一切惡道諸難心。發隨順一切諸佛敎心。發一切菩薩所學心。發覺悟一切諸佛菩提示現一切衆生非凡愚所入心。發擊大法鼓音聲聞于一切世界普照一切衆生諸根心。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種發心。若菩薩摩訶薩。安住此心。則得一切諸佛無上發心。佛子。菩薩摩訶薩。有十種滿心。何等爲十。所謂滿一切虛空界。衆生無邊故。滿一切法界。深入無量無邊故。滿一切三世。於一念中悉解脫故。滿一切佛。降神受胎出生捨家得道轉正法輪。乃至大般涅槃悉明了故。滿一切衆生界。決定了知希望習氣及諸根故。滿智慧光。隨順了知一切法界故。滿無量無邊。解一切法如幻網故。滿無生。一切諸法無自性故。滿無礙。自心他心無障礙故。滿自在。於念念中現成菩提故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種心滿。若菩薩摩訶薩。安住此心。則能成滿一切佛法無上無量莊嚴。佛子。菩薩摩訶薩。有十種根。何等爲十。所謂歡喜根。於一切佛信不壞故。樂菩薩根。覺悟一切佛菩提故。不退菩薩根。究竟一切事故。住菩薩根。安住一

燄明作炎

此下同有深字

學下三本俱無一切學三字

曠同作廣次亦同

授明作受

切菩薩行故。甚深根。覺般若波羅蜜巧方便故。不休息根。究竟一切衆生事故。金剛等根。決定了知一切法故。金剛光明燄根。普照一切佛境界故。不雜根。一切如來同一身故。無礙際根。深入如來十種力故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種根。若菩薩摩訶薩安住此根。則得一切諸佛無上淨根。佛子。菩薩摩訶薩。有十種直心。何等爲十。所謂不染一切世間法直心。不染聲聞緣覺直心。隨順菩提直心。不違一切智道直心。一切衆魔及諸外道不能沮壞直心。不染如來圓滿清淨智慧直心。隨所聞法悉能攝取受持直心。於一切受生處無所選擇直心。深入細微智慧直心。善巧修習一切佛法直心。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種直心。若菩薩摩訶薩。安住此心。則得一切諸佛無上清淨直心。佛子。菩薩摩訶薩。有十種深心。何等爲十。所謂不退深心。長養一切諸善法故。離疑深心。解一切佛微密語故。正持深心。不捨菩薩大願行故。無上正直深心。深入一切諸佛法故。了達深心。於一切佛法得自在故。殊勝深心。深入種種方便法故。爲首深心。於一切境界悉究竟故。自在深心。莊嚴一切三昧自在不斷絕故。具足深心。攝取本大願故。不捨深心。敎化一切群生類故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種深心。若菩薩摩訶薩。安住此心。則得一切諸佛無上清淨深心。佛子。菩薩摩訶薩。有十種方便。何等爲十。所謂布施方便。悉捨一切不求報故。學一切學持一切戒具行頭陀威儀清淨方便。不輕他故。離一切纏顚倒瞋恚我慢忍一切衆生諸惡方便。遠離一切彼我想故。精進不退方便。究竟身口意業一切境界不忘失故。一切諸禪三昧解脫諸通方便。遠離一切五欲諸煩惱故。正向智慧方便。長養一切功德心無厭足故。大慈方便。說一切衆生無衆生故。代一切衆生受諸苦惱不捨大悲方便。解一切法無自性故。十力覺悟方便。決定無礙智示現一切衆生故。轉不退法輪方便。轉至衆生心故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種方便。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得一切諸佛無上大智方便。佛子。菩薩摩訶薩。有十種樂修。何等爲十。所謂樂修最勝。尊重方便諸善根故。樂修莊嚴。出生種種諸莊嚴故。樂修曠事。心彌曠故。樂修寂滅。深入甚深方便法故。樂修無邊。發無量心故。樂修善持。一切諸佛所護念故。樂修不壞。一切魔業不能壞故。樂修決定。解了一切諸業報故。樂修現在。隨意能現自在神力大變化故。樂修聽受。於一切佛得授記故。樂修自在。隨意隨時成菩提故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種樂修。若菩薩摩訶薩。安住此修。則得一切諸佛無上

闡元明俱作開

樂修。佛子。菩薩摩訶薩。有十種解脫深入世界。何等爲十。所謂一切世界入一世界。一世界入一切世界。一蓮華座一如來身充滿一切世界。示現一切世界皆悉虛空諸佛莊嚴莊嚴一切世界。一菩薩身充滿一切世界。於一毛孔中安置一切世界。一切世界入一衆生身。一佛道場一菩提樹充滿一切世界。一妙音聲充滿一切世界。隨其所應無不聞解皆爲歡喜。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種解脫深入世界。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得一切諸佛出生佛刹無上解脫。佛子。菩薩摩訶薩。有十種入衆生性。何等爲十。所謂一切衆生界入無身性。一切衆生界悉入一衆生身。一切衆生界悉入菩薩身。一切衆生界悉入如來性藏。一切衆生界悉入一衆生界。一切衆生界悉入諸佛法器。一切衆生界悉入帝釋梵王。隨衆生形類而普示現。一切衆生界示現入一切聲聞緣覺不轉威儀。一切衆生界入菩薩功德莊嚴莊嚴一切衆生。一切衆生界入如來相好莊嚴色身寂靜威儀示現衆生。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種入衆生性。若菩薩摩訶薩安住此性。則得一切諸佛無上自在性。佛子。菩薩摩訶薩。有十種習氣。何等爲十。所謂菩提心習氣。善根習氣。敎化衆生習氣。見佛習氣。於淸淨土受生習氣。菩薩行習氣。大願習氣。波羅蜜習氣。出生平等法習氣。種種分別境界習氣。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種習氣。若菩薩摩訶薩。安住此法。則能除滅一切衆生煩惱習氣。得佛無上大智習氣。佛子。菩薩摩訶薩。有十種熾然。何等爲十。所謂熾然一切衆生界。敎化究竟令成熟故。熾然世界。悉嚴淨故。熾然如來。究竟菩薩一切行故。熾然善根。積集如來功德諸相好故。熾然大悲。除滅一切衆生苦故。熾然大慈。令一切衆生安住如來無上樂故。熾然波羅蜜。積集菩薩諸莊嚴故。熾然巧方便。隨其所應悉示現故。熾然菩提。得無礙智故。略說菩薩皆悉熾然。一切諸法明達了知一切法故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種熾然。若菩薩摩訶薩。安住此法。則能究竟不斷菩薩諸行。除滅一切煩惱熾然。則得一切諸佛無上熾然正法。佛子。菩薩摩訶薩。有十種趣。何等爲十。所謂趣波羅蜜。趣學。趣智。趣實義。趣正法。趣出生善根。趣見佛。趣菩薩諸行門。趣無上菩提。趣轉法輪。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種趣。若菩薩摩訶薩。安住此趣。則得一切諸佛無上趣法。佛子。菩薩摩訶薩。有十種事。則能具足一切佛法。何等爲十。所謂深信善知識具足佛法。深信佛敎具足佛法。不謗正法具足佛法。離放逸行摧滅憍慢巧妙方便廻向善根具足佛法。深信諸佛境

姓明作性下同

界無量具足佛法。深入一切世界具足佛法。安住法界具足佛法。離諸魔界具足佛法。正念一切佛具足佛法。深信如來成就十力具足佛法。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種事則能具足一切佛法。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得具足一切諸佛無上大智。佛子。菩薩摩訶薩。有十種退失佛法。應當遠離。何等爲十。所謂於善知識生憍慢心失佛法道。畏生死苦失佛法道。厭菩薩行失佛法道。厭惡受生失佛法道。樂著三昧失佛法道。於諸善根起疑惑心失佛法道。誹謗正法失佛法道。斷菩薩行失佛法道。樂求聲聞及緣覺乘失佛法道。起瞋恚心失佛法道。應當遠離。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種退失佛法。若菩薩摩訶薩。遠離此法。則得一切菩薩正趣離生聖行正道。佛子。菩薩摩訶薩。有十種離生。何等爲十。所謂出生般若波羅蜜菩薩離生。觀察一切衆生遠離一切邪見斷一切縛度脫一切衆生菩薩離生。不念一切相亦不捨離著相衆生菩薩離生。不著三界亦復不著一切世界菩薩離生。永離煩惱而親近衆生菩薩離生。於諸法中得離欲法常以大悲哀念衆生菩薩離生。現處眷屬令樂寂靜菩薩離生。離世界生現此沒彼生行菩薩行菩薩離生。行一切世間事而不染世法菩薩離生。決定了知無上菩提而亦不捨菩薩行願菩薩離生。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種離生永離世間大聖正法。不共一切衆生及聲聞緣覺。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得一切菩薩十種決定法。何等爲十。所謂於一切如來種姓中生。深入一切如來境界。深解一切諸菩薩行。正向一切諸波羅蜜。出生一切諸佛善根。安住一切如來無上姓中。安住一切諸佛淨力。隨順一切如來菩提。與一切佛共同一身。與一切佛同住而無有異。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種決定法。佛子。菩薩摩訶薩。有十種出生佛道法。何等爲十。所謂隨順善知識出生佛道法。同善根故。深信一切佛法出生佛道法。樂求如來無盡自在故。於一切大願得正希望出生佛道法。修習廣心故。決定了知己身善根出生佛道法。所行諸業無虛妄故。於一切劫修菩薩行出生佛道法。盡未來際無疲厭故。於阿僧祇世界諸處受生出生佛道法。善巧方便教化一切衆生故。修習不斷菩薩所行出生佛道法。長養大悲故。以無量心出生佛道法。於一念中充滿一切虛空界故。深入甚深諸大願行出生佛道法。本生善根不壞不失故。善持守護一切如來種姓出生佛道法。令一切衆生發菩提心。志常樂求無上菩提。長養一切善根故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種出生佛道法。若菩薩摩

薩下三本俱有埵字

際下同無無際二字

切下同有施字

訶薩。安住此法。則得善男子十種名號。何等爲十。所謂菩薩名號。菩薩智身故摩訶薩名號。住大乘故。第一薩埵名號。最第一無閒道法故。勝薩埵名號。覺勝菩提故。無比薩埵名號。智慧無比故。上薩埵名號。上精進故。無上薩埵名號。開示顯現無上法故。力薩埵名號。廣知十力故。無等薩埵名號。一切衆生無與等故。不思議薩埵名號。隨其心念覺菩薩故。佛子。是爲菩薩摩訶薩得善男子十種名號。佛子。菩薩摩訶薩。有十種道。何等爲十。所謂一道是菩薩道。不捨菩提心故。二道是菩薩道。出生智慧方便故。三道是菩薩道。空方便無相際無際無願三昧三界無染故。四行是菩薩道。悔過除罪隨喜功德。恭敬勸請無量諸佛。善知廻向故。長養五根是菩薩道。住有信根不可沮壞。發大精進究竟一切事而不退轉。安住正念除滅亂想。三昧方便決定了知。智慧境界善巧分別故。六通自在是菩薩道。天眼。悉見一切世界有色衆生死此生彼。天耳。悉聞一切諸佛所說經法。皆能受持廣爲一切衆生解說。出生無礙知他心智。悉知一切衆生心念。宿命智通。悉知過去一切阿僧祇劫長養善根身通自在。隨其所應現大神變。漏盡智通。知見實際生菩薩道不斷絕故。七念是菩薩道。念佛。於一毛道見一切佛敎化衆生。念法。不離一如來衆。於一切佛所對面聞法悉能受持。隨應衆生諸根希望而度脫之。念僧。見不退轉菩薩大衆。令一切衆生常見菩薩大衆。念施。行一切菩薩布施。正念長養菩薩布施功德。念我。不離菩提心一切善根廻向衆生。念天。念兜率陀天一生補處菩薩。念一切衆生。善巧方便智慧敎化。悉令安隱隨順無上菩提故。八正道分是菩薩道。所謂正見。遠離邪見。正思惟。正念一切智遠離虛妄。正語。隨順聖敎離口四過。正業饒益。敎化一切衆生未曾失時。正命。安住四聖種成頭陀功德。具足淨威儀。遠離一切惡。正精進。勤修一切菩薩苦行。修佛十力無所罣礙。正念。悉能憶持一切音聲。除滅世間一切亂想。正定。善巧方便。於一三昧。出生菩薩不可思議法門一切三昧故。九次第定是菩薩道。所謂離欲惡不善法因覺觀起。一切口業無所障礙。說法敎化一切衆生。令得一切智喜悅。遠離退過休息喜悅。離世苦樂常見諸佛。逮得無上菩提快樂。不動三昧出生四無色定。亦不離欲界色界受生。正受滅盡三昧。而亦不息菩薩行故。如來十力是菩薩道。所謂巧方便善知是處非處。善知一切衆生去來現在業因果報。善知一切衆生種種諸根。隨彼諸根而爲說法。善知衆生無量諸性。善知一切衆生種種欲樂。隨

積三本俱作修

語言同作言語

燄明作炎

應說法.菩薩淨身.皆悉充滿一切衆生一切刹一切世一切劫.普現如來具足威儀.而亦不捨菩薩所行.善巧方便.知一切禪三昧解脫垢淨起.知時非時.出生菩薩無量法門.善知一切衆生死此生彼.於一念中.善知三世一切阿僧祇劫.善知一切衆生.除滅一切煩惱結使及諸習氣.而亦不捨菩薩行故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種道.若菩薩摩訶薩.安住此道.則得一切諸佛無上巧方便道.佛子.菩薩摩訶薩.有無量道無量道具無量修道無量莊嚴道.何以故.菩薩摩訶薩.有十種無量道故.何等爲十.所謂虛空界無量.法界無量.衆生界無盡無量.世界無分齊無量.阿僧祇劫無盡究竟無量.衆生語法無量.如來身無量.佛音聲無量.如來力無量.一切智無量.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種無量道.何以故.如虛空界無量.菩薩積集道具.亦復如是.如法界無量無邊.菩薩積集道具.亦復如是.如衆生界無盡無量.菩薩積集道具.亦復如是.如世界無分齊無量.菩薩積習道具.亦復如是.如一切劫算數不可盡.菩薩積集道具.亦復如是.一切衆生悉共算數所不能盡.如一切衆生語言無量.菩薩積集道具出生智慧諸語言法.亦復如是.如如來身無量.菩薩積集道具.充滿一切衆生一切刹一切世一切劫.亦復如是.如佛音聲無量.出一言音.皆悉充滿一切法界.一切衆生無不聞知.菩薩積集道具.亦復如是.如如來力無量.菩薩積集道具長養如來力.亦復如是.如一切智無量.菩薩積集道具.亦復如是.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種道具.若菩薩摩訶薩.安住此法.則得一切諸佛無量無邊智慧.佛子.菩薩摩訶薩.有十種修道.何等爲十.所謂不著不出修.身口意無妄失故.無增減修.知諸法眞實故.非有非無修.入非有非無性故.如幻如夢如電如響如鏡中像如熱時燄如水中月修.於一切法無所著故.空無相無願修.見三界不捨長養諸善根故.不可言說修.不著法施設故.不壞法界修.決定了知一切法故.如實際不可壞修.如如虛空際平等至一切故.菩薩智修.不捨勇猛精進力故.如來十力四無所畏一切智平等修.於一切法悉除疑惑故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種修道.若菩薩摩訶薩.安住此法.則得一切諸佛無上一切智巧方便修.佛子.菩薩摩訶薩.有十種莊嚴道.何等爲十.所謂菩薩摩訶薩.不離欲界.悉能正受色無色界禪定解脫.亦不因此於彼受生.是爲第一莊嚴道.菩薩摩訶薩.入聲聞道.亦不乘此道出於三界.是爲第二莊嚴道.菩薩摩訶薩.入緣覺道.亦不捨大悲.是爲第三莊嚴道.菩薩摩訶薩.雖百千

天女眷屬圍遶．端嚴殊特顏容無倫．技術悉備音樂巧妙．菩薩聞此妙音．未曾暫捨諸禪解脫三昧．是爲第四莊嚴道．菩薩摩訶薩．與一切衆生設衆妓樂共相娛樂．乃至一念不捨諸禪解脫三昧．是爲第五莊嚴道．菩薩摩訶薩．不著一切世間諸法．究竟世間得到彼岸度脫衆生．是爲第六莊嚴道．菩薩摩訶薩．安住正智修習正道趣於邪道．欲令衆生遠離邪道．於此邪道．不取眞實淸淨之相．是爲第七莊嚴道．菩薩摩訶薩．遠離身口意惡業．常持淨戒．一向正求如來淨戒．示現一切凡愚童蒙衆生持戒威儀．爲敎化成熟犯戒衆生故．菩薩具足成滿一切淸淨功德．正趣菩薩趣．而現受生地獄畜生餓鬼閻羅王及諸難趣．令彼衆生離惡趣故．而實菩薩不攝彼趣．是爲第八莊嚴道．菩薩摩訶薩．於一切佛法不由他悟．得無礙辯明淨智慧．普照一切諸佛正法．安住一切諸佛自在．共一切佛淸淨法身．具足成就一切堅固大人明淨正法．安住一切平等諸乘．向一切佛境界法門．一切衆生所應讚歎恭敬供養．爲一切衆生作無上師．專求正法未曾捨離．示現於法有疑．示現師受恭敬供養和尚阿闍梨．而實爲一切天人無上法師．何以故．菩薩摩訶薩．善知方便住菩薩道．隨其所應方便示現．是爲第九莊嚴道．菩薩摩訶薩．具足成就甚深智慧．究竟菩薩一切無上法行．一切如來．以甘露法而灌其頂．究竟一切法自在彼岸．離垢無礙淸淨法繒以冠其首．於一切世界．普現如來無礙法身．轉不可壞淸淨法輪．淸淨法身．於一切世界無處不至．究竟一切法自在彼岸．具足成就一切菩薩自在之法．巧妙方便於一切刹示現受生．與三世佛共一境界．而亦不斷菩薩所行．不捨菩薩法．不轉菩薩業．不捨菩薩道．未曾廢捨菩薩威儀．不捨菩薩熾然．不捨善巧方便．不離菩薩事．修菩薩行心無疲厭．不離菩薩受持法行．何以故．菩薩摩訶薩．欲速成阿耨多羅三藐三菩提故．不捨菩薩行．觀察衆生．是爲第十莊嚴道．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種莊嚴道．若菩薩摩訶薩安住此道．則得一切諸佛無上道寶莊嚴．而不捨菩薩道

# 大方廣佛華嚴經卷第四十

# 大方廣佛華嚴經卷第四十一

〔麗問〕〔宋道〕〔元道〕〔明道〕

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅　譯

## 離世間品第三十三之六

右三本俱作善

三本俱佛子已下爲卷第四十二離世間品第三十三之六

佛子。菩薩摩訶薩。有十種足。何等爲十。所謂淨戒足。積集成滿一切大願故。精進足。積集一切菩提枝至不退轉故。諸通足。隨衆生願令歡喜故。身通足。不離一坐而能悉詣一切佛刹故。深心足。究竟一切勝妓法故。堅誓足。所求諸事悉究竟故。攝右法足。不違一切尊重教故。聞法無厭足。聞持一切佛所說法無疲倦故。如法資生具足。入一切衆諸根無異故。正向菩薩行足。離一切惡故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種足。若菩薩摩訶薩。安住此足。則得一切諸佛無上勝足。能一擧足。皆悉徧至一切世界。佛子。菩薩摩訶薩。有十種手。何等爲十。所謂信手。於一切佛所說正法。一向信心究竟受持故。不著財施手。有來乞者令歡喜故。先意善來問訊手。右掌相顯現故。恭敬供養一切佛手。長養無量功德無疲厭故。善解多聞手。除一切衆生諸疑惑故。遠離三界離世寂靜手。拔欲汙泥衆生類故。安置彼岸手。救濟四流漂沒衆生故。離吝法手。盡能開說一切法故。一切世間離世間諸論智手。除滅一切身心病故。智慧寶手。除滅一切煩惱癡闇。示現一切不可稱說法光明故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種手。若菩薩摩訶薩。安住此手。則得一切諸佛無上之手。能以一掌。普覆十方一切世界。佛子。菩薩摩訶薩。有十種腹。何等爲十。所謂離諂曲腹。直心淸淨故。離幻僞腹。身口意業皆眞正故。不爲事腹。離藏惡故。無窮盡腹。於一切法無所著故。滅煩惱腹。智明淨故。淸淨心腹。離一切惡故。觀察一切食想腹。正念眞實法故。觀察一切行腹。善覺緣起故。善覺一切道腹。具足成就正希望故。離一切煩惱諸邪見腹。令一切衆生得如來腹故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種腹。斯菩薩摩訶薩。安住此腹。則得一切諸佛無上之腹。悉能容受一切衆生。佛子。菩薩摩訶薩。有十種藏。何等爲

姓明作性

住下三本俱無住字

十。所謂不斷如來種姓是菩薩藏。廣說佛法長養無量諸善法故。受持守護如來正法是菩薩藏。開示衆生大智明故。長養僧寶是菩薩藏。攝取不退正法輪故。覺悟正定衆生是菩薩藏。度脫衆生不失時故。教化成熟不定衆生是菩薩藏。善根相續因不斷故。發大悲心救護邪定衆生是菩薩藏。起彼未來善根因緣故。滿足如來十力不可沮壞是菩薩藏。降伏衆魔具足成就不退善根故。住四無畏大師子吼是菩薩藏。令一切衆生悉歡喜故。得佛十八不共法是菩薩藏。一切智慧無不至故。平等覺悟一切衆生一切剎一切法一切佛是菩薩藏。於一念中深入平等故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種藏。若菩薩摩訶薩。安住此藏。則得一切諸佛無上善根大智慧藏。佛子。菩薩摩訶薩。有十種心。何等爲十。所謂勇猛心。所發事業悉究竟故。無懈怠心。積集相好諸善根故。勇健力心。摧伏一切諸惡魔故。正思惟心。除滅一切煩惱垢故。不退轉心。往詣道場究竟菩提故。性清淨心覺心。無所至無所著故。知衆生心。隨衆生性令彼覺悟得解脫故。入大梵天住住佛法心。種種衆生性悉救護故。空無相無願無行心。遠離相見不著三界故。金剛莊嚴心。衆生數等魔乃至不能動一毛故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種心。若菩薩摩訶薩。安住此心。則得一切諸佛無上金剛藏心。佛子。菩薩摩訶薩。有十種莊嚴。何等爲十。所謂大慈莊嚴。救護一切衆生故。大悲莊嚴。堪忍一切苦故。大願莊嚴。所可發願悉究竟故。迴向莊嚴。建立一切諸佛功德妙莊嚴故。功德莊嚴。饒益一切衆生故。波羅蜜莊嚴。度脫一切衆生故。智慧莊嚴。除滅一切衆生煩惱愚癡闇故。方便莊嚴。出生普門諸善根故。一切智心堅固不亂莊嚴。不樂異乘故。決定莊嚴。於正法中滅疑惑故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種莊嚴。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得一切諸佛無上莊嚴。降一切魔。佛子。菩薩摩訶薩。有十種器仗。何等爲十。所謂遠離慳吝惠施心仗。除滅一切慳貪垢故。持戒仗。拔出一切諸惡戒故。平等觀察一切法仗。遠離一切虛妄法故。智慧仗。除滅衆生諸煩惱故。正命仗。遠離一切諸邪命故。方便仗。一切示現故。略說貪恚癡一切煩惱是菩薩仗。以煩惱門化衆生故。生死仗。不斷菩薩行教化衆生故。說實法仗。一切無著故。一切智門仗。不離菩薩行門故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種器仗。若菩薩摩訶薩。安住此法。則能除滅一切衆生長夜積集煩惱結使習氣。佛子。菩薩摩訶薩。有十種頭。何等爲十。所謂涅槃首。無見頂故。恭敬尊重首。一切世間天人恭敬供養故。深妙首。

色上元明俱有現字

呰明作呰

熟三本俱作就

於一切三千大千世界最第一故。一切善根首。三界衆生應供養故。荷負一切衆生首。得無上金剛頂故。無量無邊首。攝取一切最勝法故。般若波羅蜜首。樂法王法故。方便首。示現一切衆生平等首故。敎化成熟一切衆生首。爲一切衆生無上師故。守護如來正法首。不斷三寶故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種頭。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得一切諸佛無上智頂。佛子。菩薩摩訶薩。有十種眼。何等爲十。所謂肉眼。見一切色故。天眼。見一切衆生死此生彼故。慧眼。見一切衆生諸根故。法眼。見一切法眞實相故。佛眼。見如來十力故。智眼。分別一切法故。明眼。見一切佛光明故。出生死眼。見涅槃故。無礙眼。見一切法無障礙故。普眼。平等法門見法界故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種眼。若菩薩摩訶薩。成就此眼。則得一切諸佛無上大智慧眼。佛子。菩薩摩訶薩。有十種耳。何等爲十。所謂聞讚歎聲。斷除貪愛。聞毀呰聲。斷除瞋恚。聞聲聞緣覺聲。不起求心。聞菩薩道聲。發起歡喜奇特之心。聞地獄畜生餓鬼閻羅王阿脩羅一切難處貧苦音聲。發起大悲莊嚴而自莊嚴。聞天人趣勝妙音聲。觀一切法皆悉無常。聞佛功德音聲。勤修精進究竟滿足一切功德。聞波羅蜜四攝菩薩經藏音聲。發究竟心到於彼岸。聞十方世界一切音聲。悉了如響。菩薩摩訶薩。從初發心乃至道場。常正受法耳。而亦不捨敎化成熟一切衆生。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種耳。若菩薩摩訶薩。成熟此耳。則得一切諸佛無上大智慧耳。佛子。菩薩摩訶薩。有十種鼻。何等爲十。所謂所聞穢氣觀察不臭。所聞香氣觀察不香。所聞香臭觀察平等。聞非香非臭觀察捨離。聞衣服牀褥臥具及身肢節香。則知彼人貪恚愚癡等分煩惱。聞大寶藏諸藥草香。悉能了知一切寶藏。聞下至阿鼻地獄上至非想非非想處衆生之香。悉能了知諸根本行。聞聲聞施戒聞慧香。住一切智心未曾散亂。聞一切菩薩行香。攝取如來智地。聞一切佛智境界香。不斷菩薩所行。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種鼻。若菩薩摩訶薩。成就此鼻。則得一切諸佛無量無邊無上淸淨鼻。佛子。菩薩摩訶薩。有十種舌。何等爲十。所謂分別解說一切衆生無盡行舌。分別解說無盡法舌。讚歎諸佛無盡功德舌。無盡辯舌。演說無盡大乘法舌。普覆十方虛空界舌。普照一切佛世界舌。平等讚歎一切衆生舌。隨順諸佛令歡喜舌。降一切魔及諸外道。除滅一切生死煩惱。悉令衆生至涅槃舌。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種舌。若菩薩摩訶薩。成就此舌。則得諸佛無上大金剛舌。普覆一切世界。佛子。菩薩摩訶薩。有

授明作受下同

成下元明俱有就字

道三本俱作導

十種身.何等爲十.所謂人身.敎化成熟一切人故.非人身.敎化成熟地獄畜生餓鬼閻羅王故.天身.敎化成熟欲
界色界無色界衆生故.學身.示現學地故.無學身.示現阿羅漢地故.緣覺身.敎化令入緣覺地故.菩薩身.積集大
乘故.如來身.授如來智記故.摩㝹摩身.巧方便出生無量功德故.無漏法身.以少方便普現一切衆生身故.佛子
是爲菩薩摩訶薩十種身.若菩薩摩訶薩.成就此身.則得一切諸佛無上法身.佛子.菩薩摩訶薩.有十種意.何等
爲十.所謂上首意.出生一切善根故.隨順佛敎意.如說修行故.深入意.解一切佛法故.內意.深入衆生希望故.不
亂意.不爲煩惱所亂故.淸淨意.不受垢染故.善調伏意.不失時故.正思惟業意.遠離一切惡故.調伏諸根意.於境
界中諸根不馳騁故.深定意.佛三昧不可稱量故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種意.若菩薩摩訶薩.成就此意.則得
一切諸佛無上意.佛子.菩薩摩訶薩.有十種行.何等爲十.所謂聞法行.樂聽受法故.說法行.利益衆生故.不隨愛
瞋癡怖行.調伏自心故.欲界行.敎化成熟欲界衆生故.色無色界三昧行.令速轉故.義法行.速成淨慧故.一切趣
行.敎化衆生故.一切佛刹行.恭敬禮拜供養一切佛故.涅槃行.斷生死相續故.成滿諸佛行.不斷菩薩行故.佛子.
是爲菩薩摩訶薩十種行.若菩薩摩訶薩.成就此行.則得一切諸佛行非行如來行.佛子.菩薩摩訶薩.有十種住.
何等爲十.所謂菩提心住.未曾妄失故.波羅蜜住.不厭功德故.樂聞正義住.明淨智慧故.阿練者處住.成就諸大
三昧故.隨順一切智頭陀威儀四聖種住.少欲知足故.隨順住.順正法故.親近如來住.成滿佛威儀故.諸明住.滿
足大智故.無生忍住.受記滿足故.道場菩提住.滿足力無畏一切佛法故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種住.若菩薩
摩訶薩.安住此住.則得一切諸佛無上一切智住.佛子.菩薩摩訶薩.有十種坐.何等爲十.所謂轉輪王坐.與十善
故.四天王坐.欲於一切世界諸佛正法得自在故.帝釋坐.於一切衆生最第一故.梵天坐.自心他心得自在故.師
子坐.分別演說甚深義故.正法坐.欲明陀羅尼諸力辯故.堅固三昧坐.究竟大誓故.大慈坐.令惡心衆生悉歡喜
故.大悲坐.能忍一切諸苦惱故.金剛坐.調伏衆魔諸外道故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種坐.若菩薩摩訶薩.安住
此坐.則得一切諸佛無上尊坐.佛子.菩薩摩訶薩.有十種臥.何等爲十.所謂寂靜臥.身心憺怕故.禪定臥.正念思
惟觀諸法故.諸三昧臥.身心柔輭故.梵天臥.不惱自他故.思惟業臥.後心無悔故.順正法臥.不可傾動故.正道臥.

善知證覺悟故.妙願臥.善知廻向故.一切事畢臥.所作究竟故.捨方便臥.究竟本事故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種臥.若菩薩摩訶薩.安住此法.則得一切諸佛無上道臥.悉能覺悟一切衆生.佛子.菩薩摩訶薩.有十種住.何等爲十.所謂大慈住.等心觀察一切衆生故.大悲住.不輕未學衆生故.大喜住.滅憂惱故.大捨住.有爲無爲悉平等故.一切波羅蜜住.菩提心爲首故.一切種空住.善解諸法故.無相住.離生受證不退轉故.無願住.捨受生故.念慧住.忍法成滿故.一切法平等住.得授記法故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種住.若菩薩摩訶薩.安住此住.則得一切諸佛無上無礙住.佛子.菩薩摩訶薩.有十種行.何等爲十.所謂正念行.滿足四念處故.諸趣行.正覺法趣故.慧行.隨順諸佛故.波羅蜜行.滿足一切智故.四攝行.敎化成熟諸衆生故.生死行.長養一切諸善根故.一切衆生言戲行.拔出衆生故.貪熾然行.覺悟一切衆生諸根故.巧方便行.長養般若波羅蜜故.道場行.覺一切智不斷菩薩行故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種行.若菩薩摩訶薩.安住此行.則得一切諸佛無上大智慧行.佛子.菩薩摩訶薩.有十種觀察.何等爲十.所謂觀察善業.乃至微色悉照見故.觀察死此生彼.不著一切衆生故.觀察一切衆生諸根.決定了知無根法故.觀察妙法.法界不可壞故.觀察現前.於一切佛法修佛眼故.觀察智慧.隨器說法故.觀察無生法忍.決定得佛法故.觀察不退佛地.除滅一切煩惱.超出三界二乘地故.觀察甘露灌頂法地.於一切佛法得自在不動故.觀察佛三昧.於一切十方作佛事故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種觀察.若菩薩摩訶薩.安住此法.則得一切諸佛無上大智觀察.佛子.菩薩摩訶薩.有十種周徧觀察.何等爲十.所謂周徧觀察諸來求者.慈心施與滿彼意故.周徧觀察諸犯戒者.安置如來淸淨戒故.周徧觀察害心衆生.安置如來堪忍力故.周徧觀察諸懈怠者.令彼生彼勤修精進究竟大乘故.周徧觀察亂心衆生.除彼亂心安置如來一切智地故.周徧觀察愚癡衆生.除彼疑惑一切有見故.周徧觀察諸善知識.隨如來敎住佛法故.周徧觀察隨所聞法.具足成就無上義故.周徧觀察一切衆生.不捨大悲故.周徧觀察一切佛法.覺一切智故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種周徧觀察.若菩薩摩訶薩.安住此法.則得一切諸佛無上大智周徧觀察.佛子.菩薩摩訶薩.有十種奮迅.何等爲十.所謂色奮迅.於天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽等一切衆中現最勝故.象奮迅.示現象寶心故.龍奮迅.興大法

福明作富次同

菩明作善

雲普覆一切．曜明解脫電光．震實義雷．降諸根力覺意禪定解脫三昧甘露法雨故．大金翅鳥王奮迅．壞滅愚癡闇曀㲉膜．消竭愛水．於大苦海．搏撮煩惱諸惡龍故．師子奮迅．安住無畏被執平等大智鎧仗．摧伏衆魔諸外道故．勇健奮迅．能於生死大戰陣中．摧滅一切煩惱大怨敵故．智慧奮迅．決定了知陰界諸入十二緣起．現一切佛自在法故．陀羅尼奮迅．聞持一切法未曾忘失．廣爲群生分別說故．辯才奮迅．分別一切句身味身無所罣礙．隨問卽答悉令歡喜言不虛故．如來奮迅．坐師子座降伏衆魔調伏外道．滿足一切智．具一念相應慧．所得所知所覺所成．皆悉覺知．成無上菩提故．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種奮迅．若菩薩摩訶薩．安住此法．則得一切諸佛無上自在奮迅．佛子．菩薩摩訶薩．有十種師子吼．何等爲十．所謂我必成佛．是菩提心師子吼．於一切衆生起大悲心．未度者度．未脫者脫．未安者安．未涅槃者令得涅槃．是大悲師子吼．守護受持不斷三寶性．是報如來恩師子吼．令一切佛刹皆悉淸淨．是究竟大誓師子吼．除滅一切惡道諸難．是自持淨戒師子吼．滿足如來身口意相好莊嚴．是積集功德無厭足師子吼．成滿一切諸佛智慧．是積集智慧衆具無厭足師子吼．除滅一切魔事．專求正道．是除滅煩惱師子吼．知一切法無我無我所無命無福伽羅空無相願．觀一切法淨如虛空．是於一切法得無生忍師子吼．一生補處菩薩摩訶薩．嚴淨震動一切佛刹．釋梵四天王咸悉請求．降神下生．以無礙慧眼普觀世間．一切衆生無勝我者．示現出生遊行七步大師子吼．我於世間最勝第一．我永究竟生老死法．是如說修行師子吼．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種師子吼．若菩薩摩訶薩．安住此法．則得一切諸佛無上大師子吼．佛子．菩薩摩訶薩．有十種淨施．何等爲十．所謂平等心施．無惡衆生故．隨意施．滿一切願故．無亂心施．不退轉故．隨應供施．分別了知福伽羅故．不選擇施．不求果報故．一向施．於一切物心無著故．內外一切施．究竟淸淨故．迴向菩提施．遠離有爲無爲故．教化成熟衆生施．乃至道場不捨離故．三種圓滿淸淨施．施者受者財物平等．淸淨如虛空故．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種淨施．若菩薩摩訶薩．安住此施．則得一切諸佛無上淸淨大施．佛子．菩薩摩訶薩．有十種淨戒．何等爲十．所謂身淨戒．防護身三惡故．口淨戒．遠離口四過故．心淨戒．永離貪恚諸邪見故．具一切淨戒．於天人中最勝妙故．守護菩提心淨戒．不樂小智故．守護如來所說淨戒．乃至微細罪大怖畏故．微密淨戒．善拔

慧上三本俱有智字

明下同無內字

犯戒諸衆生故.不作一切惡淨戒.積集一切諸善法故.遠離一切有見淨戒.於戒無著故.守護一切衆生淨戒.出生大悲故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種淨戒.若菩薩摩訶薩.安住此戒.則得一切諸佛遠離衆惡無上淨戒.佛子.菩薩摩訶薩.有十種淨忍.何等爲十.所謂若他罵辱悉能堪忍.護彼心故.若他刀杖加害亦能堪忍.護彼我故.知一切瞋恚忍.自然不動故.自在處忍.能害不害故.衆生歸趣忍.不惜身命故.遠離我慢忍.不輕未學故.割截肢節忍.觀察如幻故.一切惡事忍.離自他想故.煩惱忍.遠離煩惱境界故.隨順一切菩薩方便智忍.得無生忍.於一切智境界不由他悟故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種淨忍.若菩薩摩訶薩.安住此忍.則得一切諸佛無上法忍.不由他悟佛子.菩薩摩訶薩.有十種淨精進.何等爲十.所謂淨身業精進.恭敬供養奉給一切諸佛菩薩.尊重福田不退轉故.淨口業精進.聞持一切諸佛正法未曾忘失.讚歎如來隨所聞法.廣爲人說無疲倦故.淨意業精進.巧方便入慈悲喜捨禪定解脫三昧相續起無退轉故.淨直心精進.遠離諂曲正直.一切事一切方便究竟不退轉故.淨深心精進.常趣勝趣.積集無上智慧白淨法故.行不虛妄淨精進.攝取布施戒忍多聞聲不放逸.乃至道場不中息故.降伏一切衆魔怨敵淨精進.悉能除滅貪恚愚癡煩惱邪見諸纏障蓋故.滿足慧光淨精進.有所施作悉善思惟心無中悔.究竟衆事.得一切佛不共法故.無所染著淨精進.離心境界身口心相非相甚深法門.普觀境界決定了知眞實如如故.具足成就法明淨精進.次第進入一切諸地.於諸佛所.得甘露灌頂受法王記.無漏法身現捨天壽.降神世間出家成道.轉淨法輪入大涅槃.究竟具足普賢行故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種淨精進.若菩薩摩訶薩.安住此法.則得一切諸佛無上大淨精進.佛子.菩薩摩訶薩.有十種淨禪.何等爲十.所謂常樂出家淨禪.捨離一切有故.親近善知識淨禪.諮受修習正法道故.樂阿練若處淨禪.遠離我我所法故.離言戲憒鬧處淨禪.樂寂滅故.心柔輭淨禪.諸根不亂故.智慧寂靜淨禪.一切音聲諸禪定刺不能亂故.七覺八道淨禪.於一切境界智慧決定故.離味禪等諸煩惱垢淨禪.不取欲界故.諸通明內淨禪.決定了知一切衆生諸根故.以少方便現前遊戲神通淨禪.如來三昧不可稱量故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種淨禪.若菩薩摩訶薩.安住此禪.則得一切諸佛無上淨禪.佛子.菩薩摩訶薩.有十種淨慧.何等爲十.所謂知因淨慧.不壞果報故.解一切緣淨慧.不壞

和合故.解一切法不常不斷淨慧.了緣起如如故.拔出一切邪見淨慧.不取衆生相故.解一切衆生心心所行淨慧.觀一切法皆如幻故.諸辯勝智淨慧.隨問能答無罣礙故.降伏衆魔及諸外道出過聲聞緣覺淨慧.深入如來方便智故.見一切佛淸淨法身見一切衆生皆悉淸淨見一切法皆悉寂滅見一切世界皆悉虛空淨慧.於一切相智慧無礙故.攝取一切陀羅尼辯諸波羅蜜巧方便淨慧.得一切勝智故.一念相應金剛智覺一切法平等淨慧.具足成就無上智故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種淨慧.若菩薩摩訶薩.安住此慧.則得一切諸佛無上大智.佛子.菩薩摩訶薩.有十種淨慈.何等爲十.所謂等心淨慈.不選擇衆生故.饒益淨慈.於一切衆生有所施作悉能辨故.救護淨慈.究竟度脫一切衆生生死嶮難故.哀愍不捨一切衆生淨慈.長養有爲善根故.解脫淨慈.滅一切衆生諸煩惱故.出生菩提淨慈.令一切衆生樂求菩提故.於一切衆生無礙淨慈.放無量光明普照衆生故.虛空淨慈.救護一切衆生故.法緣淨慈.覺悟眞實法故.無緣淨慈.證取菩薩離生法故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種淨慈.若菩薩摩訶薩.安住此慈.則得一切諸佛無上淸淨大慈.佛子.菩薩摩訶薩.有十種淨悲.何等爲十.所謂.不共淨悲.自大悲故.不厭淨悲.代一切衆生受大苦故.處一切惡道淨悲.受生死度衆生故.一切天人中受生淨悲.示現一切法悉無常故.爲邪定衆生淨悲.於無量劫大誓莊嚴不捨離故.不著己樂淨悲.與衆生樂故.不求報淨悲.自心淸淨故.除滅一切衆生倒惑淨悲.說實法故.知一切法自性淸淨.空無所有客塵所染.菩薩於彼而起淨悲.設眞淨法故.解一切法如虛空足跡.衆生癡曀不知眞實.菩薩於彼而起淨悲.欲令衆生發大乘心.究竟涅槃故.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種淨悲.菩薩摩訶薩.安住此悲.則得一切諸佛無上淸淨大悲

# 大方廣佛華嚴經卷第四十一

光下元明俱無明字

眞下三本俱有實字

# 大方廣佛華嚴經卷第四十二

(麗問)(宋道)(元道)(明道)

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

## 離世間品第三十三之七

佛子。菩薩摩訶薩。有十種淨喜。何等爲十。所謂發菩提心淨喜。捨一切所有淨喜。於犯戒人不生惡心教化成就淨喜。於一切諍訟衆生悉令和合得無上智淨喜。不惜身命守護正法淨喜。遠離五欲常樂正法淨喜。令一切衆生不著資生之具常樂正法淨喜。見一切佛恭敬供養無有厭足而不壞法界淨喜。令一切衆生常樂禪定解脱三昧相續淨喜。令一切衆生專求寂靜除滅亂想得無上慧遠離邪見滿足諸願究竟菩薩苦行淨喜。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種淨喜。若菩薩摩訶薩安住此喜。則得一切諸佛無上淸淨大喜。佛子。菩薩摩訶薩。有十種淨捨。何等爲十。所謂一切衆生恭敬供養不生愛著一切衆生輕慢毀辱不生瞋恚淨捨。常行世間不爲八法之所染汙淨捨。於器知時於非器不生惡心淨捨。不求聲聞緣覺學無學淨捨。遠離五欲一切煩惱乃至不生一念惡心淨捨。不歎修行二乘及厭生死淨捨。遠離世間語非涅槃語非離欲語戲笑語惱他語聲聞緣覺語乃至一切障菩提語淨捨。若有衆生待時受化菩薩淨捨。若有衆生應受佛化菩薩淨捨。菩薩摩訶薩遠離二法無上無下無取無捨無虚無實觀察平等安住眞實得忍淨捨。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種淨捨。若菩薩摩訶薩。安住此捨。則得一切諸佛無上淸淨大捨。佛子。菩薩摩訶薩。有十種義。何等爲十。所謂多聞義。如說修行故。法義。善巧方便分別解故。空義。解第一空故。寂滅義。令一切衆生離生死故。不可説義。一切語言無所著故。如義。一切三世等觀察故。入法義。悉一味故。如來義。順如來故。實際義。覺眞實故。大般涅槃義。滅一切苦不斷菩薩行故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種義。若菩薩摩訶薩。安住此義。則得一切諸佛無上一切智義。佛子。菩薩摩訶薩。有十種法。何等爲十。

具下三本俱無遠字

長下明無養字（無上同有養字

燄明作炎

字元明俱作雲

福明作富

所謂眞實法．如說修行故．無害法．遠離瞋恚故．無諍法．除滅一切諸煩惱故．寂滅法．離熾然故．離欲法．永離欲垢諸煩惱故．不虛法．離虛妄故．不生法．一切諸法悉虛空故．無爲法．離三相故．性淨法．自然淸淨故．報身煩惱滅無餘涅槃法．行菩薩行受持不捨故．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種法．若菩薩摩訶薩．安住此法．則得一切諸佛無上之法．佛子．菩薩摩訶薩．有十種功德具．何等爲十．所謂勸發衆生起菩提心是功德具．不斷三寶故．隨順十種迴向是功德具．斷一切不善法集一切善法故．智慧正敎是功德具．於三界功德最殊勝故．心無疲厭是功德具．度脫一切衆生到彼岸故．悉能捨離內外所有是功德具．於一切物悉無著故．相好滿足精進不退是功德具．止心馳騁故．不輕三品善根是功德具．善巧方便迴向菩提故．於邪定犯戒衆生不起輕慢增長大悲是功德具．顯現大人法故．恭敬供養一切如來．於一切菩薩超如來想．於一切衆生所作究竟是功德具．長養守護正直心故．菩薩摩訶薩．於阿僧祇劫．具足修習一切善根．皆悉能捨與一衆生心無憂悔．如一衆生．一切衆生亦復如是．是爲第十虛空界等大功德具．具足成就廣大智慧故．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種功德具．若菩薩摩訶薩．安住此法．則得一切諸佛無上大功德具．佛子．菩薩摩訶薩．有十種智具．何等爲十．所謂親近眞實多聞善知識．恭敬尊重禮拜供養．奉給隨順不違其敎．是第一智具．遠離諂曲故．離慢下意心無放逸．身口及意皆悉柔輭．無有輕躁心．常歡喜護持淨戒．和顏愛語先意問訊．遠離邪僞．是第二智具．自然成就佛法器故．安住念慧不捨正覺除滅亂想．修習六念行六和敬不求其報．是第三智具．出生長養十種智故．樂法樂義勤修正法．學無厭足．遠離世論及世間語．樂聞離世間語．遠離小乘樂求大乘．是第四智具．修習正念不可思議故．正求六波羅蜜受持修習．具足成就四種梵住．順諸明法能問智人．遠離惡趣專向善趣．慈心調伏．離訶責議論．防護他心．是第五智具．如說修行諸佛眞實法故．常樂出家不樂三界．守護自心遠離三覺不生惡心．身口及意皆悉柔輭．善知心性．是第六智具．令自他心俱淸淨故．觀陰如幻界如毒蛇入如空聚．觀一切法如化如燄水月鏡像．如夢．如電．如呼聲響．如旋火輪．如空中字．如因陀羅陣．如日月光．非常非斷．無來無去無住．深心信解不起誹謗．是無生住滅第七智具．具足成就一切法空淨智慧故．無我無衆生．無福伽羅．無思無義．無貪恚癡．無所有．無毀無譽．無取無捨．無主無行．

彼上三本俱無到字

三本俱佛子已下爲卷第四十三離世間品第三十三之七

明下元明俱有足字

究竟涅槃。若菩薩摩訶薩。聞此深法。能信能解除滅疑惑。是第八智具。究竟具足深解脫故。以正方便思惟止觀。調伏諸根一切諸法無所造作。無生無爲皆悉寂滅。衆生計我者究竟無所有。無縛無脫。無身口心。亦無精進觀察一切衆生一切法一切心一切行。無前無後皆悉平等。是第九智具。遠離一切相究竟到彼岸故。菩薩摩訶薩。善知緣起故見法清淨。見法清淨故見刹清淨。見刹清淨故見虛空清淨。見虛空清淨故見法界清淨。見法界清淨故則見智慧。是第十智具積集一切智故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種智具。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得一切諸佛一切法中無上無礙清淨大智。佛子。菩薩摩訶薩。有十種明足。何等爲十。所謂深知佛法明足。一切法中除癡闇明足。遠離邪見明足。慧光清淨普照諸根明足。正方便勤修精進明足。深入菩薩眞諦正趣離生明足。滅煩惱業成就盡智無生智明足。思惟淨慧清淨天眼明足。清淨憶念念宿命明足。具足淨地清淨諸明除滅諸漏漏盡智明足。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種明足。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得一切諸佛一切法中無上大明。佛子。菩薩摩訶薩。有十種求法。何等爲十。所謂直心求法。離於諂曲虛僞心故。精勤求法。離懈怠故。一向求法。不惜身命故。爲斷一切衆生煩惱求法。不求資生具故。爲饒益一切衆生求法。不自利故。爲深入智慧求法。不輕彼故。欲令正法常堅固求法。不樂世間故。爲愍悼衆生求法。不捨菩提心故。爲隨一切衆生所問能答求法。悉能除滅諸疑惑故。爲具滿佛法求法。不樂餘乘故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種求法。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得一切諸佛法中無上無礙智不由他悟。佛子。菩薩摩訶薩。有十種明了法。何等爲十。所謂隨順世間明了法。爲欲長養一切世間凡夫善根故。無礙不壞信明了法。解法眞性信行人故。安住法界明了法。解法行人故。遠離八邪向八正道明了法。解八人故。除滅衆結。斷生死漏。見眞實諦明了法。解須陀洹故。觀味是患。還來受生明了法。解斯陀含故。乃至須臾不樂三界。不著受生。專求盡漏明了法。解阿那含故。六通自在遊八解脫。隨意正受九次第定諸辯明了法。解阿羅漢故。常樂寂靜。因外緣解知足少事不由他悟。成就智慧明了法。解緣覺故。成就勝智諸根明利。心常解脫。長養無量功德智慧。滿足諸佛十力四無所畏。一切佛法明了法。解菩薩故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種明了法。若菩薩摩訶薩。安住此法。則得一切諸佛無上大智慧明了法。佛子。菩薩摩訶薩。有十種向法。何等

佛下三本俱有所字

瞋下同有心字〇戒下同無者是爲魔業五字

釁同作覺〇謙同作言

誦同作頌

墮同作隨

爲十。所謂隨順恭敬善知識向法。覺悟諸天向法。於一切佛常懷慙媿向法。哀念衆生不斷生死向法。究竟一切事不起虛妄心向法。遠離餘乘專修菩薩大乘向法。遠離邪道專求正道向法。降伏衆魔滅除煩惱向法。安住佛地知一切衆生諸根隨應聞法廣爲演說向法。安住無量無邊淸淨法界向法。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種向法。若菩薩摩訶薩安住此法。則得一切諸佛無上向法。佛子。菩薩摩訶薩有十種魔。何等爲十。所謂五陰魔。貪著五陰故。煩惱魔。煩惱染故。業魔。能障礙故。心魔。自憍慢故。死魔。離受生故。天魔。起憍慢放逸故。失善根魔。心不悔故。三昧魔。味著故。善知識魔。於彼生著心故。不知菩提正法魔。不能出生諸大願故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種魔。應作方便速遠離之。佛子。菩薩摩訶薩有十種魔業。何等爲十。所謂忘失菩提心修諸善根。是爲魔業。惡心布施瞋持戒者是爲魔業。棄捨惡性解怠衆生。輕慢厭惡亂心無智衆生。是爲魔業。慳惜正法。訶責法器衆生。貪求利養爲人說法。爲非器人說深妙法。是爲魔業。不聞波羅蜜。雖聞不修行。生懈怠心。不求深妙無上菩提。是爲魔業。遠離善知識。親近惡知識。樂求二乘。於受生處。起離欲寂靜除滅之心。是爲魔業。於菩薩所起瞋恚心。說其過惡。斷彼利養。常求罪釁惡眼視之。是爲魔業。誹謗正法。不聞契經。聞不讚歎。若有法師說法。不能恭敬下意自謙。我說是義彼說非義。是爲魔業。學世間論。巧於文字。善於句味。手筆文誦樂說二乘。隱覆深法開演雜語。於非器所說甚深法。遠離菩提安住邪道。是爲魔業。已度已安者。親近恭敬而供養之。未度未安者。永不親近恭敬供養。亦不教化。是爲魔業。墮增上慢增長諸慢輕懱衆生。不求正法眞實智慧。諸根散亂難可化度。是爲魔業。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種魔業。菩薩摩訶薩。應速遠離正求佛業。佛子。菩薩摩訶薩有十種捨離魔業。何等爲十。所謂親近善知識捨離魔業。不自尊舉不自讚歎捨離魔業。信佛深法不生誹謗捨離魔業。未曾忘失一切智心捨離魔業。安住不放逸修習甚深法。捨離魔業。安住菩薩藏正求一切法。捨離魔業。常欲聽法樂聞深義心無疲倦。捨離魔業。歸依十方一切諸佛。捨離魔業。信心正念一切諸佛菩提樹。捨離魔業。一切菩薩出生善根皆悉不二。捨離魔業。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種捨離魔業。若菩薩摩訶薩安住此業。則離一切諸魔業道。佛子。菩薩摩訶薩。有十種見佛。何等爲十。所謂無著佛安住世間成正覺故。願佛出生故。業報佛信故。持佛隨順故。涅槃佛永度故。法

實三本俱作過

界佛無處不至故。心佛安住故。三昧佛無量無著故。性佛決定故。如意佛普覆故。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種見佛。若菩薩摩訶薩。安住此法。則能覩見無上如來。佛子。菩薩摩訶薩。有十種佛業。何等爲十。所謂勸化衆生是第一佛業。隨順長養諸佛法故。夢中見佛是第二佛業。發起過去諸善根故。多聞是第三佛業。逮得無疑決定智故。爲悔纏所纏者。善巧方便說悔過法。是第四佛業。除滅一切諸疑悔故。若有衆生。起慳心無智心聲聞心緣覺心害心疑心憍慢心者。現如來身相好莊嚴化斯等類。是第五佛業。出生長養過去諸善根故。正法難時廣爲衆生說淨妙法。衆生聞已便得具足陀羅尼智慧神通如應示現饒益衆生。是第六佛業。心力淸淨故。若魔事起種種方便速遠離之。以虛空界等微妙音聲。亦不輕嬈他人。除滅一切魔業。具足忍辱。是第七佛業。正直功德故。行無量行。不證聲聞緣覺離生聖行。諸根未熟者。不爲彼人說解脫果。但除愛本。是第八佛業。出生本願故。斷除一切生死漏縛一切諸結。出生菩薩行。於一切衆生長養大悲。深心信解菩薩所行究竟涅槃。是第九佛業。不斷菩薩行故。菩薩摩訶薩。爲自他故。求解脫道而無厭足。離一切行及一切法。於如來色身無所染著。精勤專求無礙智慧不由他悟。令一切佛刹嚴飾淸淨。決定了知皆悉虛空。教化成熟一切衆生。而不捨無我性。安住法界。諸通自在。具足成就一切種智。而不捨菩薩行。轉淨法輪令一切衆生皆得歡喜。廣爲衆生說甚深法。示現如來無量自在。而不捨菩薩身。現大涅槃而不捨離一切處生。佛子。菩薩摩訶薩。出生如是等乃至翻覆三昧。是第十佛業。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種佛業。若菩薩摩訶薩。安住此業。則得一切諸佛無上無師大業不由他悟。佛子。菩薩摩訶薩。有十種慢業。何等爲十。所謂於尊重福田和尙阿闍梨父母沙門婆羅門所。而不尊重恭敬供養。是爲慢業。有諸法師得勝妙法。乘於大乘。深知出生死道。得陀羅尼成就多聞。具智慧藏善能說法。而不信受恭敬供養。是爲慢業。聽受法時。若聞深法發離欲心歡喜無量。而不讚法師令衆歡喜。是爲慢業。起憍慢心自高降彼。不省己實不調自心。是爲慢業。起計我心見有功德智慧者不讚其美。見無德者反說其善。若聞讚他於彼人所起嫉妒心。是爲慢業。若有法師。知是法是律是實是佛語。以憎嫉故說言非法非律非實非佛語。欲壞他信心故。是爲慢業。自敷高座。我爲法師不應執事。不應宗敬供養餘人。諸修梵行尊長有德。悉應恭敬供養於我。是爲慢業。遠離

頻蹙惡眼視彼．常以和顏等觀衆生．言常柔輭無有麁獷．離恚恨心．而於彼法師求其過惡．是爲慢業．以我慢心．於多聞者不往恭敬．起聞法留難．亦不諮問．何等爲善何等不善．何等應作何等不應作．作何等業長夜饒益一切衆生．作何等行不益衆生．作何等行從明入明作何等行從冥入冥．如是人輩爲我心漂沒．不能得見出要正道．是爲慢業．起慢心故．不値諸佛難得之法．消盡宿世所種善根．不應說而說．起訶責心更相譏論．住如是法應入邪道．但菩提心力故．而不永捨菩薩所行．雖不捨菩薩道．而於無量百千萬劫尙不値佛．何況聞法．是爲慢業．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種慢業．若菩薩摩訶薩．離此慢業．則得一切諸佛十種無上淸淨意業．佛子．菩薩摩訶薩．有十種智業．何等爲十．所謂信解因緣不壞因果．是爲智業．不捨菩提心常念一切佛．是爲智業．親近一切諸善知識．恭敬供養心無懈怠．是爲智業．樂法樂義多聞無厭．專求正法遠離邪念修習正念．是爲智業．於一切衆生不起我心．於一切菩薩起如來想．愛樂菩薩猶造己身．愛重正法如惜己命．愛敬如來如護己目．於持戒者生諸佛想．是爲智業．離身口意諸不善業．修行淸淨身口意業．歎諸賢聖隨順菩提．是爲智業．不違緣起諸離邪見．除滅癡闇照一切法．是爲智業．於十廻向起慈母想．於諸波羅蜜起慈父想．於巧方便起菩提想．是爲智業．於布施淨戒多聞．專求止觀功德智慧．心無疲厭．是爲智業．若業諸佛所讚．能降衆魔．滅除煩惱諸纏障礙．敎化衆生．順智律儀攝取正法．嚴淨佛刹正向通明．是爲智業．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種智業．若菩薩摩訶薩．安住此業．則得一切諸佛出生巧妙方便無上智業．佛子．菩薩摩訶薩．有十種魔所攝持．何等爲十．所謂懈怠心魔所攝持．捨佛正法魔所攝持．貪求無厭魔所攝持．專念自度魔所攝持．不發大願魔所攝持．遠離煩惱常樂寂靜魔所攝持．斷生死瀬魔所攝持．捨菩薩行魔所攝持．捨敎化成熟一切衆生心魔所攝持．於正法中生疑惑心誹謗佛法魔所攝持．佛子．是爲菩薩摩訶薩十種魔所攝持．應速遠離．若菩薩摩訶薩．能棄捨此魔所攝持．則得一切諸佛十種攝持．何等餘十．所謂佛攝持故．初發菩提心．佛攝持故．常於生生未曾忘失菩提之心．佛攝持故．覺一切魔事能悉遠離．佛攝持故．聞六波羅蜜如說修行．佛攝持故．知生死苦而不厭惡．佛攝持故．觀甚深法得解脫果．佛攝持故．爲衆生說聲聞緣覺解脫而下樂彼乘．佛攝持故．觀無爲性心不樂住．於有爲法不生二相．佛攝持故．令

漂宋作[illegible]

止宋明俱作正

性三本俱作法

姓明作性

薩明作法○業上元明俱有事字

不相續得寂滅相續。佛攝持故。得一切智自在。而不捨衆生種姓所行。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種佛攝持。若菩薩摩訶薩。安住此持。則得一切諸佛十力所持。佛子。菩薩摩訶薩。有十種法攝持。何等爲十。所謂一切行無常法所攝持。一切行苦法所攝持。一切法無我法所攝持。寂滅涅槃法所攝持。從緣起無緣則不起法所攝持。不正思惟故起無明行乃至老死。不正思惟滅故則無明滅。無明滅故乃至老死滅。法所攝持。三解脫門出生聲聞乘。決定無諍法出生緣覺乘。法所攝持。六波羅蜜四攝法出生大乘。法所攝持。知一切刹一切法一切衆生一切世間是佛境界。法所攝持。斷一切念捨一切取離過去未來隨順涅槃。法所攝持。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種法攝持。若菩薩摩訶薩。安住此持。則得一切諸佛無上法持。佛子。菩薩摩訶薩。住兜率天有十種業。何等爲十。所謂菩薩摩訶薩。爲欲界諸天說離欲法。縱逸自在皆悉無常。一切快樂皆悉苦惱。勸發開導彼諸天子發菩提心。是爲住兜率天第一所行事業。菩薩摩訶薩。爲色界諸天。說諸禪解脫三昧。相續起彼諸禪支。有味著者。因味起身見邪見無明煩惱。爲說實智。於一切妙色起顚倒心。妄想取淨。爲說不淨觀察無常。勸發開導彼諸天子發菩提心。是爲住兜率天第二所行事業。菩薩摩訶薩。住兜率天。正受三昧名光明莊嚴。於自身中放大光明。普照一切三千大千世界。隨其所應以種種音聲而爲說法。彼諸衆生聞說法已皆大歡喜。起恭敬心。命終之後生兜率天。復爲說法皆悉令發菩提之心。是爲住兜率天第三所行事業。菩薩摩訶薩。以無礙淨眼。普觀十方一切兜率天菩薩摩訶薩。彼諸菩薩亦見此菩薩摩訶薩。各相見已。爲彼菩薩廣說正法。謂降神母胎出生世間。捨家求道往詣道場。以大莊嚴而自莊嚴。發起過去所行。憶過去行成就功德。不離此座現如是等一切諸事。是爲住兜率天等四所行事業。菩薩摩訶薩。住兜率天。十方一切兜率天菩薩。欲見此菩薩摩訶薩恭敬供養禮拜故。皆來詣此。爾時菩薩摩訶薩。欲令彼諸菩薩。皆悉歡喜滿其願故。說大法門。隨彼菩薩所住之地。所行所斷所修所證。具足廣說。彼諸菩薩聞說法已皆大歡喜。各還本剎所住宮殿。是爲住兜率天第五所行事業。菩薩摩訶薩。住兜率天講說正法時。欲界主天魔波旬眷屬圍遶。詣菩薩所壞亂說法。爾時菩薩住金剛智所攝般若波羅蜜巧妙方便。深入智門說甘露法。承佛神力說如來法。皆悉降伏彼諸魔衆。時彼魔衆見菩薩如是自在神力。又聞說法。皆發阿

行三本俱作生

坐明作住

供養恭敬三本俱作恭敬供養

觸下同有光字

耨多羅三藐三菩提心.是爲住兜率天第六所行事業.菩薩摩訶薩.住兜率天.知欲界天子不識苦故.不樂聞法.爾時菩薩摩訶薩.放大音聲告諸天子.今日菩薩摩訶薩出內眷屬.若欲見者應速詣此.聞是音已.無量億那由他天子悉往詣彼.爾時菩薩摩訶薩.普現宮內一切眷屬.彼諸天子未曾聞見.見已皆大歡喜.此菩薩眷屬音樂之中.出如是聲而告之言.諸天子.一切衆生皆悉無常.一切衆行皆悉大苦.一切諸法皆悉無我.寂滅涅槃.又復告言.汝等皆應修菩薩行.究竟菩提.具一切智.時諸天子聞是音已.心大恐怖.一向正求無上菩提.是爲住兜率天第七所行事業.菩薩摩訶薩.住兜率天.下捨兜率天所坐之處.悉能往詣一切佛所.見諸如來恭敬禮拜供養聽法.爾時諸佛爲菩薩說甘露灌頂授記之法.一切諸明菩薩行地.欲令菩薩以一念相應慧具足一切枝.一切種深入一切智.是爲住兜率天第八所行事業.菩薩摩訶薩.住兜率天.以法界虛空界等一切供養恭敬供養一切世界諸佛.見此供養時.無量無邊衆生發菩提心.是爲住兜率天第九所行事業.菩薩摩訶薩.住兜率天.出生無量無邊法門.示現一切世界中種種色種種形.種種威儀種種方便.隨其所應而爲說法.欲令一切衆生悉歡喜故.是爲住兜率天第十所行事業.佛子.是爲菩薩摩訶薩住兜率天十種所行事業.若菩薩摩訶薩.具足此業.則能下生人間.佛子.菩薩摩訶薩.於兜率天臨命終時.有十種示現事.何等爲十.所謂菩薩於兜率天臨命終時.於足下相輪放大光明.名安樂莊嚴.普照三千大千世界.一切諸難惡道.衆生觸斯光者.滅一切苦.皆得安樂.爾時衆生咸作是念.今日忽有奇特大人出現于世.是爲第一所示現事.菩薩摩訶薩.於兜率天臨命終時.放眉間白毫相光.名曰覺悟.普照三千大千世界.觸彼宿世同行菩薩摩訶薩身.觸已咸作是念.彼菩薩摩訶薩.於兜率天今將命終.時諸菩薩即化作無量無邊供養之具.疾往詣彼菩薩摩訶薩所.是爲第二所示現事.菩薩摩訶薩.臨命終時.於右掌中出大光明.名淨境界.悉能嚴淨三千大千世界.此世界中若有無漏諸辟支佛.覺斯光者即捨壽命.若不覺者.光明力故.徙置他方餘世界中.一切諸魔及衆外道.有見衆生.悉皆徙置他方世界.除如來住持所化衆生.是爲第三所示現事.菩薩摩訶薩.從其兩膝放大光明.名曰離垢清淨莊嚴.普照最下諸天宮殿.上至淨居諸天宮殿無不明了.時諸天子咸作是念.今此菩薩摩訶薩.於兜率天將捨壽命.時諸天子疾辦供具香

此明作諸

華瓔珞塗香末香衣蓋幢幡及諸音樂.詣菩薩所恭敬供養.我等咸皆隨侍守護.從此命終乃至示現大般涅槃是爲第四所示現事.菩薩摩訶薩.於兜率天臨命終時.從其心中放大光明.名曰金剛淨妙莊嚴.普照一切世界金剛力士.爾時百億金剛力士咸作是念.此是菩薩摩訶薩.於兜率天將欲命終故.以此相示現我等.我等咸當隨侍守護.乃至示現大般涅槃.是爲第五所示現事.菩薩摩訶薩.於兜率天臨命終時.從一切毛孔放大光明.名曰分別一切衆生.普照三千大千世界.徧觸一切諸菩薩身.觸已復觸一切諸天世人.時諸菩薩咸作是念.我等當往詣彼.恭敬供養如來.并復敎化彼諸衆生.是爲第六所示現事.菩薩摩訶薩.於兜率天臨命終時.於摩尼寶藏正法堂中.放大光明名善調伏.隨彼菩薩所降神處.普照王宮.彼諸菩薩各作是念.隨此菩薩所生之處.若於其家.若於聚落.若於城邑.若閻浮提內受生之處.我當生彼.爲欲敎化諸衆生故.是爲第七所示現事.菩薩摩訶薩.於兜率天臨命終時.天樓閣中放大光明.名淨莊嚴一切宮殿.放斯光明照所生母.照已彼菩薩母安隱快樂.具足成就一切功德.其母身內自然樓閣七寶莊嚴.爲欲安處菩薩身故.是爲第八所示現事.菩薩摩訶薩.於兜率天臨命終時.放足下光明.名曰安住.若諸天子及諸梵天其命將終.蒙斯光故.皆得住壽供養菩薩.從此命終.乃至示現大般涅槃.是爲第九所示現事.菩薩摩訶薩.於兜率天從其小相放大光明.名嚴淨日眼.示現菩薩種種諸業.時有人天.或見菩薩在兜率天.或見命終.或見處胎或見出生.或見捨家或見成佛.或見轉法輪.或見如來大般涅槃.是爲第十所示現事佛子.菩薩摩訶薩.或於坐處.或於樓閣.或於宮殿.放如是等百萬阿僧祇光.放斯光時.顯現無量諸菩薩業.佛子.菩薩摩訶薩.具足如是等一切淨業故.從兜率天下生世間.佛子.菩薩摩訶薩.有十種事故.降神母胎.何等爲十.所謂爲敎化成就小心衆生故.示現處胎.不令小心衆生作如是念.菩薩自然化生.善根智慧不從行得.是爲第一事示現處胎.又復欲令父母諸親.長養宿世同行善根故.是爲第二事示現處胎.菩薩摩訶薩.初受胎時遠離愚癡.正念思惟除滅亂想.成就念慧心未曾亂.是爲第三事示現處胎.菩薩摩訶薩.處母胎時常講說法.十方世界諸菩薩衆.釋梵四天王來詣菩薩.菩薩卽時廣爲說法.示現菩薩自在神力.菩薩摩訶薩.具足成就無量無邊諸智慧故.現如是等奇特之事.是爲第四事示現處胎.菩薩摩訶薩.於母胎中

爲化衆生故。令彼衆生本願滿故。是爲第五事示現處胎。菩薩摩訶薩。於人中成道。應具人法受生故。是爲第六事示現處胎。菩薩摩訶薩。於母胎中。三千大千世界衆生。普見菩薩處於母胎。如明鏡中見其面像。爾時大心諸天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等。悉詣菩薩恭敬供養。是爲第七事示現處胎。菩薩摩訶薩處母胎時。餘方世界一生補處在母胎者。悉共講說菩薩無盡智慧之藏。是爲第八事示現處胎。菩薩摩訶薩。初受胎時。正受離垢三昧。一切兜率天宮。一切供養莊嚴之具。悉入母胎。三昧力故令其母身無諸苦患。是爲第九事示現處胎。佛子。菩薩摩訶薩處母胎時。具足成就無量無邊功德藏故。十方世界一切供具。悉以供養一切如來。彼諸如來爲此菩薩演說無量無邊法界法門。是爲第十事示現處胎。若菩薩摩訶薩。住此法門。則能示現菩薩十種微細趣。何等爲十。所謂菩薩摩訶薩。處母胎時示現初發菩提之心。乃至甘露灌頂授記之地。在母胎中。又復現處兜率陀天。在母胎中示現出生。在母胎中示現童子地。在母胎中現在宮殿色味之間。在母胎中示現出家。在母胎中現行苦行。往詣道場成等正覺。在母胎中現轉法輪。在母胎中示現大般涅槃。在母胎中示現微細諸法。一切菩薩行。一切如來自在神力無量行門。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種微細趣。若菩薩摩訶薩。安住此趣。則得一切諸佛無上智慧大微細趣

胎下元明俱有佛子二字

大方廣佛華嚴經卷第四十二

# 大方廣佛華嚴經卷第四十三

〔麗問〕〔宋道〕〔元道〕〔明道〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

## 離世間品第三十三之八

佛子.菩薩摩訶薩.有十種生.何等爲十.所謂離愚癡生.放大光明網普照三千大千世界生.除滅一切未來世最後身生.不生生.知三界諸劫悉如幻生.於十方世界普現身生.具足一切智身生.放一切如來光明普照覺悟一切衆生生.正受大智自在諸禪三昧身生.佛子.菩薩生時.一切佛刹六種震動.一切衆生皆得解脫.一切惡道皆悉除滅.映蔽一切諸魔光明.悉如聚墨.無量菩薩普來雲集.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種生.爲欲化度衆生類故.示現是生.佛子.菩薩摩訶薩.有十種大莊嚴而自莊嚴.何等爲十.所謂菩薩摩訶薩.作如是念.一切世間沒五欲泥.除我一人無能濟彼.如是知故.發大莊嚴而自莊嚴.煩惱愚癡覆衆生眼皆悉盲瞽.我今智慧自在.當普開導衆生慧眼悉令淸淨.發大莊嚴而自莊嚴.我今因此假名身故.得如來無上淸淨法身.充滿三世.發大莊嚴而自莊嚴.菩薩摩訶薩.以無礙淨眼.悉徧觀察十方一切諸梵天處.乃至大自在天處.是等衆生皆自謂我成就自在智慧之力.菩薩悉能摧滅彼我慢心.發大莊嚴而自莊嚴.菩薩摩訶薩.見諸衆生於過去世種諸善根今欲退沒.我今還令彼諸衆生住不退地.發大莊嚴而自莊嚴.欲令衆生種少善根得無量果.發大莊嚴而自莊嚴.見佛無量自在神力.發大莊嚴而自莊嚴.觀見過去同行菩薩.染著餘事不成正覺.發大莊嚴而自莊嚴.菩薩摩訶薩.見諸天人疲頓厭倦退正希望.發大莊嚴而自莊嚴.菩薩摩訶薩.爲一切如來光明觸故.長養一切大正希望.發大莊嚴而自莊嚴.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種大莊嚴.爲敎化衆生故.發此莊嚴而自莊嚴.佛子.菩薩摩訶薩.有十種事故遊行七步.何等爲十.所謂現菩薩力故遊行七步.現七寶故遊行七步.滿地神願故遊行七步.現超出三

最下三本俱無勝字

現同作照

修同同作同修

界相故遊行七步。現大象王牛王師子王最勝行故遊行七步。現金剛地相故遊行七步。欲與衆生力故遊行七步。現七覺寶相故遊行七步。具足成就一切佛法不由他悟故遊行七步。欲自稱我於世最勝無倫匹故遊行七步。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種事故遊行七步。敎化衆生故作是示現。佛子。菩薩摩訶薩。有十種事故現童子地。何等爲十。所謂書數算計刻印方便現此業故現童子地。現乘象馬車乘弓射諸武藝故現童子地。欲學一切世間巧妙談論諸嬉戲故現童子地。離身口意一切惡業故現童子地。現正向般涅槃正受三昧充滿一切諸世界故現童子地。現菩薩力過天人龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽釋梵四天王故現童子地。現殊妙色出過一切釋梵四天王故現童子地。欲令衆生遠離五欲常樂正法故現童子地。爲現尊重正法供養一切世界諸如來故現童子地。常樂正法普現一切受持正法故現童子地。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種事故現童子地。佛子。菩薩摩訶薩。現童子地已。有十種事故現處中宮。何等爲十。所謂令修同行者增長善根故現處中宮。欲明菩薩諸善根故現處中宮。爲著樂天人故現處中宮。於五濁世隨應化故現處中宮。於深宮內正受三昧欲明菩薩功德力故現處中宮。欲令宿世同行衆生滿本願故現處中宮。欲令父母親屬滿本願故現處中宮。欲以妓樂出妙法音供養一切佛故現處中宮。菩薩摩訶薩於其宮內入甚深三昧成等正覺乃至示現大般涅槃故現處中宮。隨順守護法故現處中宮。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種事故現處中宮。以此事故最後生菩薩示現出家。佛子。菩薩摩訶薩。有十種事故示現出家。何等爲十。所謂欲令衆生厭離家故示現出家。爲著家衆生故示現出家。欲現隨順諸賢聖道故示現出家。欲宣揚讚歎出家法故示現出家。欲令衆生離二見故示現出家。欲令衆生離欲樂我樂故示現出家。欲現出三界相故示現出家。欲顯自在不由他悟故示現出家。欲隨順如來十力四無畏故示現出家。一切最後生菩薩法應爾故示現出家。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種事故示現出家。爲化衆生故。佛子。菩薩摩訶薩。爲十種事故示現苦行。何等爲十。所謂菩薩摩訶薩。欲敎化成熟小心衆生故示現苦行。爲拔著邪見衆生故示現苦行。爲無業報邪見衆生欲令知業報故示現苦行。爲隨順五濁世界衆生故示現苦行。爲懈怠衆生故示現苦行。欲令衆生樂求法故示現苦行。爲著欲樂我樂衆生故示現苦行。爲顯菩薩殊勝行故示

三本俱佛子已下爲卷第四十四離世間品第三十三之八

現苦行。欲令未來衆生發精進故示現苦行。諸天世人諸根未熟待時熟故示現苦行。佛子。是爲菩薩摩訶薩爲十種事故示現苦行。佛子。菩薩摩訶薩有十種事故往詣道場。何等爲十。所謂欲普照一切世界故往詣道場。爲震動一切世界故往詣道場。欲於一切世界普現身故往詣道場。爲覺悟一切菩薩一切衆生一切同行故往詣道場。爲示現道場莊嚴事故往詣道場。爲隨應受化示現莊嚴菩提樹故往詣道場。欲對見十方世界一切佛故往詣道場。欲於擧足下足念念悉入無量正受諸三昧門成等正覺故往詣道場。爲受一切天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽乃至釋梵四天王等恭敬供養各不相知故往詣道場。欲以無礙智眼普觀一切世界正念一切佛於一切刹現成佛故往詣道場。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種事故往詣道場。爲敎化衆生故。佛子。菩薩摩訶薩。有十種事故坐於道場。何等爲十。所謂種種震動一切刹故坐於道場。普照一切諸世界故坐於道場。除滅一切諸惡道故坐於道場。變一切刹爲金剛故坐於道場。觀一切佛師子吼故坐於道場。離一切虛妄心淨如虛空故坐於道場。示現隨順淨身威儀故坐於道場。隨順圓滿金剛三昧故坐於道場。受一切佛淸淨坐處故坐於道場。自善根力悉能受持一切衆生故坐於道場。佛子。是爲菩薩摩訶薩十種事故坐於道場。佛子。菩薩摩訶薩。坐道場時。有十種奇特未曾有法。何等爲十。所謂菩薩摩訶薩。坐道場時。十方世界一切諸佛。觀此菩薩咸擧右手讚言。善哉善哉無上導師。是一奇特未曾有法。菩薩摩訶薩。坐道場時。一切如來應供等正覺皆悉護持。是二奇特未曾有法。菩薩摩訶薩。坐道場時。宿世同行菩薩。悉來雲集。以種種莊嚴具恭敬供養。是三奇特未曾有法。菩薩摩訶薩。坐道場時。十方一切世界草木叢林非衆生類。皆悉曲躬歸向道場。是四奇特未曾有法。菩薩摩訶薩。坐道場時。正受三昧名善知法界。得此三昧故究竟菩薩一切諸行。是五奇特未曾有法。菩薩摩訶薩。坐道場時。得陀羅尼。名曰離垢勝妙海藏。菩薩摩訶薩。住此陀羅尼故。一切諸佛降甘露法雨此菩薩。是六奇特。未曾有法。菩薩摩訶薩。坐道場時。以神通力恭敬供養一切諸佛。是七奇特未曾有法。菩薩摩訶薩。坐道場時。入於無上智慧法門善巧方便。悉知一切衆生諸根。是八奇特未曾有法。菩薩摩訶薩。坐道場時。正受三昧名曰善覺。菩薩摩訶薩。入此定已得淨法身。滿虛空界一切三世。是九奇特未曾有法。菩薩摩訶薩。坐道場時。淸淨身

業攝取三世.無礙智慧普照一切.是十奇特未曾有法.佛子.是爲菩薩摩訶薩坐道場時得十種奇特未曾有法.
佛子.菩薩摩訶薩.坐道場時.有十種義故示現降魔.何等爲十.所謂五濁惡世衆生等相征伐.欲顯菩薩功德力
故.示現降魔.悉滅天人諸疑惑故.示現降魔.爲欲化度魔眷屬故.示現降魔.諸天世人樂征伐者令集受化故.示
現降魔.集天人已顯現菩薩功德之力不可破壞調伏衆生故.示現降魔.發起一切衆生力故.示現降魔.哀愍未
來一切衆生故.示現降魔.乃至道場現有魔事.悉能超出衆魔境故.示現降魔.顯現煩惱力勢羸劣.大悲善根勢
强盛故.示現降魔.順五濁世諸衆生故.示現降魔.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種義故坐道場時示現降魔.佛子.菩
薩摩訶薩.有十種覺如來力.何等爲十.所謂超出一切衆魔事業除滅煩惱.究竟一切菩薩所行.覺如來力.於一
切菩薩三昧而得自在.覺如來力.具足成就一切菩薩諸禪三昧.覺如來力.滿足一切諸白淨法.覺如來力.分別
善法調伏世間法.覺如來力.以淨法身滿一切刹.覺如來力.所出淨音悉與一切衆生心等.覺如來力.悉能受持
一切佛法.覺如來力.得與三世如來身口意等.於一念中知三世法.覺如來力.得善覺三昧具佛十力.所謂是處
非處智乃至漏盡智.覺如來力.佛子.是爲菩薩摩訶薩十種覺如來力.菩薩摩訶薩.具此力故得名如來.佛子.如
是得成如來應供等正覺已.能轉十行淸淨法輪.何等爲十.一者具足淸淨四無所畏.二者出生四辯淨妙音聲.
三者明了四諦.四者隨順諸佛無礙法門.五者淸淨等心悉能普覆一切衆生.六者所說不虛決定濟度衆生苦
際.七者宿世大悲所持.八者以妙法音充滿世界一切衆生無不聞知.九者阿僧祇劫常說正法未曾暫息.十者
轉諸根力覺意解脫諸禪三昧相續不絕.佛子.如來應供等正覺.轉如是十行等無量行法輪.佛子.如來應供等
正覺.淸淨法輪.因十種白淨法故.轉入衆生心.出生無相決定不虛.何等爲十.所謂過去願力故.大悲所持故.不
捨衆生故.智慧自在隨其所應爲說法故.未曾失時故.隨彼法器不增減故.決定了知三世智故.身行最勝故.口
行無虛故.智行隨音聲悉覺悟故.佛子.是爲因十種白淨法故能轉法輪入衆生心出生無相決定不虛.佛子.如
來應供等正覺.究竟佛事已.有十種義.示現大般涅槃.何等爲十.所謂明一切行悉無常故.明一切有爲非安隱
故.明般涅槃趣最安隱故.明般涅槃遠離一切諸怖畏故.以諸天人樂著色身.明色身無常是磨滅法.令求常住

來下三本俱有世字

淨法身故。明無常力强不可轉故。明有爲法不隨愛行不自在故。明三界法悉如坏器無堅牢故。明般涅槃最爲眞實不可壞故。明發涅槃遠離生死非起滅故。佛子。以此十種義故。如來應供等正覺示現大般涅槃。佛子。一切如來應供等正覺法皆如是所願已成已轉法輪。所應度者皆悉已度。已與菩薩授尊記號。一切佛事皆悉究竟。安住不變示現大般涅槃。佛子。是爲如來應供等正覺以十義故示現大般涅槃。佛子。是爲菩薩摩訶薩淸淨勝行大妙法門。諸佛所說無量深義。能令一切諸有智者皆悉歡喜。究竟一切菩薩大願。不斷所行。佛子。若有衆生聞此經者。信心淸淨不起誹謗。如說修行。彼諸衆生。速成阿耨多羅三藐三菩提。何以故。菩薩摩訶薩如說行故。佛子。是故菩薩摩訶薩。應如說行一心敬信受持此經。佛子。此經出生一切菩薩諸行功德深妙義華。深入智慧。攝一切法門。遠離世間聲聞緣覺一切衆生所不共法。悉能普照一切法門。長養善根度脫衆生。是故菩薩摩訶薩。應一心聽受護持此經。若菩薩摩訶薩。受持此經。則能出生一切諸願。以少方便疾得阿耨多羅三藐三菩提。說此出生一切菩薩諸行功德深妙義華。深入智慧攝一分法門遠離世間聲聞緣覺一切衆生所不共法悉能普照一切法門長養善根度脫衆生經時。佛神力故。此經法如是故。十方無量阿僧祇世界六種震動。大光普照。爾時十方諸佛面對觀視普賢菩薩歡喜讚言。善哉佛子。乃能說此出生一切菩薩諸行功德深妙義華深入智慧攝一切法門遠離世間聲聞緣覺一切衆生所不共法悉能普照一切法門長養善根度脫衆生經。佛子。汝已善學此法。善知此法。快說此法。我等諸佛亦說此法。一切諸佛亦復如是。是故佛子。我等悉共守護此經。令未來菩薩未聞者聞。爾時普賢菩薩。承佛神力。觀察十方一切大衆一切法界。以偈頌曰

無量無數劫　勤修諸苦行　供養無量佛　生此眞佛子　化度無量衆　安立無上道　菩薩無等行
我說善諦聽　供養無量佛　皆悉無染著　化度一切衆　不起衆生想　常求佛功德　其心無所依
說彼勝妙行　令衆悉歡喜　降伏一切魔　滅三界煩惱　已具聖功德　示現童子地　滅惡煩惱癡
其心常寂然　示現無量行　我說彼功德　遠離一切惡　究竟到彼岸　無量衆生中　種種現變化
知心生住滅　示現一切事　說彼妙功德　令衆悉歡喜　見三有衆生　無量苦逼迫　流轉於生死

煩惱火熾然　欲令彼解脫　一向求菩提　略說彼淨德　一心善諦聽　施戒忍精進　禪定得自在
具足慧方便　大慈度衆生　無量無數劫　樂修悲喜捨　我說彼功德　仁等當諦聽　枯槁無量身
常正求菩提　不惜其壽命　究竟無上道　常爲利衆生　不求自安樂　慈悲心牟尼　我說彼勝行
無量無數劫　說少分不盡　虛空可度量　海水可渧數　菩薩功德海　無可爲譬諭　饒益衆生故
略說其小分　持衆生善根　長養白淨法　遠離憍慢心　求法無厭足　令衆得安止　長養智慧樹
菩薩心如地　饒益一切衆　柔輭慈心根　無上大悲莖　功德葉智華　持戒爲妙香　如來淨慧光
開敷菩薩華　不著有爲水　普令衆生喜　直心爲種子　慈悲爲根芽　智慧方便莖　五度爲枝條
禪葉諸明華　一切智爲果　法樹神力鳥　普覆三世間　眞實諦爲足　白淨法爲身　正念爲頸項
智首解脫頂　慈悲明淨眼　實義幽谷出　菩薩法師子　調伏一切魔　生死爲曠野　煩惱諸惡道
邊見爲賊難　癡盲迷正路　菩薩大導師　見彼迷冥者　開示其出道　引至安隱處　貪恚諸煩惱
常惱害衆生　無量衆苦患　長夜而逼切　菩薩見彼苦　爲發大悲心　見說八萬四　對治濟度之
菩薩爲法王　正道化衆生　遠惡修衆善　一向求菩提　一切諸佛所　受自在智記　廣施賢聖珍
令具七覺寶　清淨戒爲轂　精進以爲輻　三昧正受輞　三轉淨法輪　清淨心爲櫓　明利智慧劍
摧滅諸煩惱　外道衆魔怨　甚深智慧海　正法一味水　禪覺寶充滿　一切莫能知　直心淨彌廣
一切智爲潮　菩薩智慧海　演說不可盡　世間高無上　於彼無所著　禪明智慧山　堅正不傾動
若有親近者　疾得同彼慧　住智須彌頂　普觀一切世　深心如金剛　一切悉堅固　三寶一切智
信心不可壞　降伏一切魔　除滅諸煩惱　安住無所畏　度脫諸群生　興起大慈雲　普覆於一切
明曜大悲電　雷震法洪音　四辯澍法雨　八正甘露水　除滅煩惱火　安住一切義　白淨法爲城
智慧爲牆壁　無上智樓閣　慙愧爲深塹　三空解脫門　正念爲防守　四道爲正路　遊之出三界
建無上法幢　摧滅一切魔　法身金翅鳥　四如意爲足　慈悲明淨眼　住一切智樹　菩薩金翅王

---

淨三本俱作功
小同作少
櫓元明俱作盾

生死大海中　搏撮天人龍　安置涅槃岸　淨戒圓滿日　清淨智光明　神足爲疾行　消竭愛欲水
覺長夜衆生　長養根力藥　菩薩明淨日　一切無不照　圓滿法界月　衆生觀無厭　映蔽於二乘
小智螢火光　菩薩淸涼月　遊於畢竟空　垂光照三界　心法無不現　自在諸法王　功德色嚴身
方便淨智眼　安住勝妙法　相好莊嚴身　一切觀無厭　彼法自在王　如法治衆生　除滅欲煩惱
超出於三界　常樂勤修習　慈悲喜捨法　菩薩大梵王　普現種種身　演出淨妙音　三界無不聞
遠離一切行　境界常淸淨　逮得不退智　具足法自在　永離二乘道　諸佛所授記　乘於無上乘
究竟一切智　心淨如虛空　永離一切有　行方世間事　其心無所依　究竟白淨行　亦令衆生然
菩薩慧彌廣　淸淨如虛空　無量方便地　饒益諸群生　淸涼慈悲水　消滅熾煩惱　智慧猛盛火
燒盡煩惱習　風馳遊十方　廣作諸佛事　菩薩如意寶　除滅衆貧苦　智慧如金剛　摧滅諸邪見
無量德莊嚴　悉令衆生喜　究竟無上行　安住如來處　菩薩功德華　七覺令開敷　諸願爲寶鬘
嚴飾世間頂　菩薩淨戒香　遠離諸惡戒　以此淨戒香　塗薰一切衆　菩薩無上蓋　普覆諸世間
建立智慧幢　摧滅衆魔幢　菩薩莊嚴行　淨妙智慧幡　慙媿功德衣　普覆一切衆　菩薩無上乘
乘之出三界　其心善調順　安住寶象王　菩薩大龍王　具足自在力　普降甘露法　澤潤諸群生
菩薩甚難値　猶如優曇華　降伏一切魔　除滅諸煩惱　佛所轉法輪　彼能隨順轉　慧燈除衆闇
普令見正道　菩薩功德河　隨順正道流　常爲生死橋　度人無休息　菩薩正法船　汎遊諸願海
智慧悉成滿　度人到彼岸　菩薩淨園林　實樂樂衆生　正法解脫華　明淨智宮殿　菩薩雪山頂
出生藥樹王　除滅煩惱病　悉令一切喜　菩薩等如來　覺悟諸衆生　除滅愚癡闇　得成等正覺
最勝所從來　菩薩如是來　逮得平等智　究竟到彼岸　菩薩大導師　敎化諸群生　自然成正覺
一切智境界　具足無量力　一切莫能壞　安住無所畏　知法了衆生　乃至色界中　所有諸衆生
一切語言音　皆悉能隨順　過色至無色　現彼一切事　一切諸衆生　說之不能盡　菩薩悉成就

如是等功德　解了性非性　所有無所有　具足眞實智　除滅一切縛　究竟一切智　其心無所著
說彼甚深行　令衆悉歡喜　了達一切法　皆悉如幻化　發起方便悲　一切佛護持　出生智化門
普現無量事　仁等當諦聽　菩薩諸功德　一身無邊際　普現無量身　非心非心境　應現一切衆
出于一妙音　究竟語言法　悉攝衆生類　一切諸言音　遠離煩惱身　隨應示現身　無量方便身
一切音說法　其心常寂滅　清淨如虛空　以心莊嚴刹　示現一切衆　示現種種身　於彼無所著
遠離一切生　亦不壞彼因　隨順一切趣　受生無所著　了身如虛空　隨其所應現　菩薩現如是
無量無邊事　恭敬供養彼　最勝兩足尊　塗香末香華　幢蓋幡音樂　無上供養具　直心供諸佛
不離一佛會　普在諸佛所　善巧能問難　聽受深妙法　聞此正法故　逮得諸三昧　一一三昧中
生無量定門　又復能普現　無量三昧起　智慧巧方便　究竟到彼岸　覺悟一切法　皆悉如幻化
示現種種身　出生無量音　入衆生想網　其心無染著　或時現衆生　隨順世間義　或示菩提行
無量無有邊　布施持淨戒　忍辱勤精進　定慧四無量　修行四攝法　或現行成滿　或得無生忍
或受灌頂記　或一生補處　或現聲聞乘　或復現緣覺　無量刹涅槃　不捨菩薩行　或現爲帝釋
或現梵天王　或天女圍遶　或復獨宴默　或現比丘像　淨戒調諸根　或現自在王　或現入法網
或現巧術女　或現修苦行　或現在五欲　或復在禪定　或現般涅槃　或復現受生　或現童子身
或復現衰老　若有思議者　迷亂心發狂　或在天宮殿　或現終下生　或現處母胎　成佛轉法輪
或復現出生　或現般涅槃　或現童子術　或復現出家　或現坐道場　或成無上道　或復示現轉
自在正法輪　或現求正法　或現爲佛身　充滿無量刹　下退菩薩行　深入無量劫　究竟到彼岸
無量劫一念　一念無量劫　一切劫非劫　示現衆生劫　無來無積聚　示現諸劫事　於一微塵中
普見一切佛　一切諸群生　無處不有佛　一切諸佛刹　及衆生境界　悉能分別知　一切諸法印
一切劫可盡　法印無窮已　如是知衆生　無量無有邊　彼一衆生有　無量百千萬　那由他等身

其明作甚

餤明作炎下同

因緣亦如是　如彼一衆生　一切亦復然　如是究竟知　亦令一切學　悉知衆生根　上中下不同
諸根常流轉　知是器非器　一根一切根　展轉相依持　菩薩微細智　皆悉分別知　亦知諸欲性
種種煩惱垢　了過去心行　未來今現在　悉知衆生行　究竟到彼岸　知行無所行　爲衆說妙法
如是知心行　染汙及淸淨　菩薩一念中　逮得一切智　深入如來心　究竟難思議　一念悉能知
諸佛無上智　究竟神力智　具足諸通明　能於一念中　悉詣十方剎　如是疾遊行　無量無數劫
不離本坐處　安住甚深法　猶如工幻師　種種現形色　非色非無色　幻化無所有　菩薩亦如是
深知廣方便　示現衆變化　充滿一切世　譬如明淨日　出現於世間　悉能除衆冥　一切靡不照
菩薩智慧日　明淨甚圓滿　出淨心境界　普照一切法　猶如人夢中　造作種種事　無量劫可盡
夢性無窮盡　菩薩於一念　示眼夢等法　無量劫可盡　智慧無終極　常樂居山澤　遠離世間語
究竟語言道　其心無染著　菩薩悉了知　諸法眞實性　普說衆生音　不起虛妄想　譬如春月時
衆生見餤氣　愚者謂爲水　尋之增渴愛　菩薩如是見　衆生煩惱覆　如餤增渴愛　一向求解脫
知衆生非實　而更增大悲　觀色如聚沫　受如水上泡　想如春時餤　衆行如芭蕉　心如工幻師
示現種種事　善分別五陰　其心無所著　諸入悉空寂　遠離自在事　諸界無實性　示衆生界分
第一眞實諦　決定寂滅性　廣演分別法　而心不染著　菩薩知五陰　無有去來今　因由煩惱業
轉此三苦輪　演說緣起法　非有亦非無　深解眞實義　於彼無所著　菩薩淨智慧　解說三世法
示現諸群生　皆悉是一念　欲色無色界　示現衆生事　三乘戒解說　究竟一切智　了知處非處
知業知諸根　欲性諸煩惱　一切至處道　宿命智天眼　除滅諸煩惱　知佛十種力　而猶未究竟
隨順諸佛法　深解諸法空　悉滅衆煩惱　而不盡諸漏　廣入甚深道　教化諸群生　佛子住無畏
不捨菩薩行　無謬無漏失　亦不捨正念　精進欲三昧　智慧無損減　三種常淸淨　明達於三世
大慈念衆生　一切無障礙　深入諸法門　具足如是行　我說其少分　莊嚴功德義　無量無數劫

說之不可盡　我所說少分　如大地一塵　常依如來智　而亦無所依　常修奇特想　大悲堅强故
安住淸淨戒　常勤修精進　敎化諸群生　授眞佛子記　究竟佛功德　知刹知衆生　分別三世劫
其心無疲倦　具陀羅尼力　深解眞實義　思惟無等法　逮得無上道　一切妙功德　發願求菩提
慈悲因緣力　令菩提淨勝　具足波羅蜜　隨順善究竟　決定諸智力　覺悟無上道　成就方便智
樂說甚深法　隨順世守護　逮得法王處　安住勝妙法　於彼無所著　出生智慧化　覺悟勝菩提
住持一切劫　菩薩得正望　安住甚深法　除滅衆生疑　修習甚深智　善能分別法　究竟定慧境
覺悟一切智　智入諸解脫　究竟到彼岸　具足諸通明　離垢淸涼園　具足白淨法　示現種種行
普現莊嚴法　皆悉不可議　善知衆生心　能說令究竟　淸淨菩提印　智光照一切　一切莫能稱
遠離懈怠法　安住如山王　具功德智海　金剛妙寶法　安住大莊嚴　究竟諸大事　一切莫能壞
得授菩提記　安住廣大心　得佛無盡藏　覺悟一切法　世智常自在　遊戲諸神通　一切法境界
自在無障礙　身願行自在　智慧亦自在　無量億自在　示現於一切　具足諸自在　遊戲諸通力
深入佛境界　一切莫能壞　黠慧所莊嚴　無畏不共法　修行佛子業　遠離一切惡　淸淨身身業
淸淨口口業　諸佛守護故　成辦十大事　心心所起住　顯現無上事　安住諸根定　逮得最勝根
淸淨正直心　遠離諸諂曲　深入衆生性　示現種種事　除滅煩惱習　究竟無上行　具足深智慧
逮得一切智　遠離一切惡　方便趣寂滅　出生功德道　善學一切學　無量道心境　修習無所著
安住深智慧　示現道莊嚴　手足及心腹　無上智慧藏　其心如金剛　智慧爲器仗　智慧觀察頂
深入菩提行　淸淨戒爲鼻　除滅諸熾然　四辯廣長舌　無處不至身　淨妙智慧心　諸善行爲行
道場安隱住　師子座爲坐　梵住爲安臥　無礙第一義　觀察善逝智　普照於一切　徧觀衆生行
種種妙功德　以此爲奮迅　離貪爲淨施　不慢淸淨戒　不動爲淨忍　不轉淨精進　自在爲淨禪
不行愚癡智　虛空慈普救　不憂惱爲悲　淸淨法爲喜　離諸煩惱捨　寂靜爲深義　境界爲正法

---

知同作如

化三本俱作華

法宋作知元明俱作智

壞下三本俱無得授乃至一切法四句〇礙下明有身願行自在遊戲諸神通一切法境界自在無障礙四句〇通力三本俱作神通

座爲坐宋作坐爲座元明俱作牀爲座〇切下元明俱有薩婆若光明照生死昏夜二句

諸三本俱作諂

悉無著同作無所著

廻向功德具　智具如利劒　普照爲衆明　聞法無厭足　是爲正求法　不惜身壽命　是爲明正法
隨順諸佛教　除滅諸魔道　淸淨正直心　攝取諸佛業　遠離衆魔業　長養諸智慧　遠離魔所持
安住諸佛持　究竟得法持　住無住智慧　作業已命終　降神入母胎　示現微細趣　又復現出生
獨稱我最勝　示現行七步　現爲童子地　復現處深宮　現出家學道　莊嚴諸道場　普放無量光
覺悟諸群生　降伏一切魔　得成無上道　現轉淨法輪　示現如來地　增長白淨法　現大般涅槃
菩薩修諸行　無量無有邊　如我向所說　略擧其少分　無量劫修習　令衆住菩提　衆生諸法行
於彼無染著　如是具足行　成就力自在　以無量諸刹　安置一毛道　掌持無量刹　徧遊諸世界
還置於本處　衆生無恐怖　菩薩以一切　嚴淨諸佛刹　安置一毛孔　衆生無不見　能以一毛孔
悉受一切海　大海不增減　衆生無嬈害　示現如是等　一切諸事相　無量金剛山　手摩爲微塵
以此一切塵　徧散諸佛刹　復末塵下刹　徧布餘世界　一切塵可知　智慧不可盡　於一毛孔中
放演淨光明　普照一切世　悉蔽日月光　珠火天神光　隱沒悉不現　除滅惡道苦　爲說無上法
菩薩一言音　出生一切音　一切諸衆生　無不悉聞者　以聞此法音　皆得大歡喜　具足廣宣暢
諸佛所說法　過去一切劫　安置未來今　未來現在劫　廻置過去世　十方一切刹　皆悉現成壞
以一切衆生　安置一毛道　過去及現在　一切諸如來　具足自在力　悉於身中現　深知變化法
善能隨所應　普現無量身　於彼悉無著　帝釋梵王身　四天大王身　諸天淸淨身　一切衆生身
聲聞緣覺身　如來淸淨身　普現一切身　善修菩薩行　現入衆想網　上中下諸品　一切智所持
善現佛及刹　具足深智慧　除滅諸想網　示現菩薩行　究竟成菩提　示現如是等　無量自在力
一切無不現　擧世莫能知　示現無所現　究竟無有上　隨順應衆生　爲說決定行　淨身等虛空
妙音滿世間　淨戒爲塗香　慙媿衣普覆　離垢正法繒　一切智摩尼　功德莊嚴身　拜署無上王
波羅蜜金輪　諸通爲象寶　神足爲馬寶　淨慧無上珠　妙行爲女寶　四攝寶藏臣　方便主兵寶

無上轉輪王　勝妙三昧城　空觀妙宮殿　慈悲大莊嚴　智慧爲利劒　堅强正念弓　明利根爲箭
諸佛護持蓋　建立智慧幢　直入諸魔軍　忍力悉摧滅　陀羅尼平地　淨妙行流水　深智爲涌泉
淨慧淸涼林　空爲澄淨池　七覺妙華敷　神足以莊嚴　三昧爲娛樂　法門爲歌頌　思惟正法女
甘露法之食　解脫味爲漿　御調順三乘　遊戲無上園　此等諸勝行　及餘無上法　無量劫修學
其心無疲倦　如養一切佛　嚴淨一切刹　普令一切衆　安住一切智　一切刹微塵　悉可知其數
一切虛空界　皆悉可度量　一切衆生心　念念可知數　佛子諸功德　說之不可盡　欲具此功德
及餘勝妙法　欲滅一切苦　安樂諸群生　欲與諸如來　身口意齊等　應發金剛心　究竟此勝行

大方廣佛華嚴經卷第四十三

---

御調三本倶作調御

臍明作齊

# 大方廣佛華嚴經卷第四十四

〔麗問〕〔宋道〕〔元道〕〔明道〕

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅譯

## 入法界品第三十四之一

爾時佛在舍衛城祇樹給孤獨園。大莊嚴重閣講堂。與五百菩薩摩訶薩俱。普賢菩薩。文殊師利菩薩。而為上首。夜光幢菩薩。須彌山幢菩薩。寶幢菩薩。無礙幢菩薩。華幢菩薩。離垢幢菩薩。日光幢菩薩。正幢菩薩。離塵幢菩薩。明淨幢菩薩。大池端嚴菩薩。寶端嚴菩薩。大慧端嚴菩薩。金剛智端嚴菩薩。離垢端嚴菩薩。法日端嚴菩薩。功德山端嚴菩薩。智光端嚴菩薩。普妙德端嚴菩薩。大地藏菩薩。虛空藏菩薩。蓮華藏菩薩。寶藏菩薩。日藏菩薩。淨德藏菩薩。法印藏菩薩。明淨藏菩薩。臍藏菩薩。蓮華藏菩薩。善德眼菩薩。普見眼菩薩。清淨眼菩薩。離垢眼菩薩。無礙眼菩薩。普眼菩薩。善觀眼菩薩。青蓮華眼菩薩。金剛眼菩薩。寶眼菩薩。虛空眼菩薩。善眼菩薩。天冠菩薩。普照法界慧天冠菩薩。道場天冠菩薩。普照十方天冠菩薩。生諸佛藏天冠菩薩。一切世間最上天冠菩薩。明淨天冠菩薩。無量寶天冠菩薩。受一切如來師子座天冠菩薩。普照法界虛空天冠菩薩。梵王周羅菩薩。龍王周羅菩薩。一切佛化光明周羅菩薩。道場周羅菩薩。一切願海音摩尼寶王周羅菩薩。出生如來光衆寶自在周羅菩薩。莊嚴一切虛空寶摩尼寶王周羅菩薩。一切如來自在光幢摩尼王網普覆周羅菩薩。一切佛音轉法輪周羅菩薩。三世慧音周羅菩薩。大光菩薩。離垢光菩薩。寶光菩薩。離塵光菩薩。夜光菩薩。法光菩薩。寂靜光菩薩。日光菩薩。自在光菩薩。天光菩薩。功德幢菩薩。智幢菩薩。法幢菩薩。諸通幢菩薩。光幢菩薩。華幢菩薩。摩尼幢菩薩。菩提幢菩薩。梵幢菩薩。普光幢菩薩。梵音菩薩。海音菩薩。大地音菩薩。世主音菩薩。山相擊音菩薩。充滿一切法界音菩薩。一切法海雷音菩薩。降伏一切魔音菩薩。大悲方便雲雷音菩薩。滅一切苦安慰音菩薩。法上菩薩。勝上菩薩。

生三本俱作垢

一上三本俱無如來法三字

智上菩薩。功德須彌山上菩薩。功德珊瑚上菩薩。稱上菩薩。普光上菩薩。大慈上菩薩。智海上菩薩。如來性起上菩薩。光妙德菩薩。勝妙德菩薩。上妙德菩薩。明淨妙德菩薩。法妙德菩薩。月妙德菩薩。虛空妙德菩薩。寶妙德菩薩。妙德幢菩薩。智妙德菩薩。婆羅林王菩薩。法爲菩薩。衆生王菩薩。梵王菩薩。山王菩薩。寶王菩薩。離生王菩薩。寂靜王菩薩。不動王菩薩。仙王菩薩。勝王菩薩。寂靜音菩薩。無礙音菩薩。說大地音菩薩。大海雷音菩薩。雲音菩薩。法光音菩薩。虛空音菩薩。一切衆生善根雷音菩薩。開悟過去願音菩薩。圓滿道音菩薩。智須彌山音菩薩。虛空覺菩薩。離垢覺菩薩。無礙覺菩薩。善覺菩薩。普照三世覺菩薩。廣覺菩薩。普光覺菩薩。法界光覺菩薩。如是等五百菩薩。此諸菩薩。皆悉出生普賢之行。境界無礙。充滿一切諸佛刹故。持無量身。悉能往詣一切佛故。具足無礙淨眼。見一切佛明自在故。至無量處一切諸佛成正覺時。悉能往詣現前見佛無休息故。無量智光。普照一切諸法海故。於無量劫說不可盡辯清淨故。究竟虛空界智慧境界悉清淨故。無所依止。隨其所應現色身故。除滅癡瞖。善分別知衆生界故。虛空智慧放大光網。普照一切諸法界故。復與五百大聲聞俱。悉覺眞諦。證如實際。深入法性。離生死海。安住如來虛空境界。離結使縛。不著一切。遊行虛空。於諸佛所疑惑悉滅。深入信向諸佛大海。復與諸天王俱。悉已恭敬供養過去諸佛。長夜饒益一切衆生。心常行慈。未曾忘失。守護群生。入勝智門。不捨一切衆生。出生諸佛正法境界。守護佛法。受持佛性。生如來家。專求一切智門。爾時諸菩薩聲聞天人及其眷屬。咸作是念。如來行。如來智境界。如來持。如來力。如來無畏。如來三昧。如來住。如來勝妙功德。如來身。如來智。如來法。一切天人無能知。無能度。無能得底。無能受。無能思惟。無能觀察。無能分別。無能開發。無能宣明。無能爲人如實解說。除佛持力。自在力。威神力。如來本願力。過去善根力。親近善知識力。清淨信心力。方便力。樂求勝妙法力。清淨正直菩提心力。深心一切智願力。又諸大衆種種意。種種欲。種種解。種種語。種種地。種種根。種種方便。種種心境界。種種依如來功德。種種樂聞法。世尊往昔發一切智。願求一切智。菩薩諸願清淨波羅蜜。菩薩諸地。菩薩滿足行。菩薩莊嚴。菩薩方便莊嚴。菩薩道莊嚴。菩薩出生方便海莊嚴。菩薩自在莊嚴。菩薩本生海。菩提門自在海。如來自在轉法輪。如來刹清淨自在。如來方便莊嚴衆生界。如來法王法。如來道明普照一切。如來自在入一切衆

校同作嚴
竇向宋作撩迴
元明俱作撩向
○莊元明俱作
嚴

生處。如來爲一切衆生作最上福田。如來爲一切衆生說功德嗟嘆。三輪化度一切群生。唯願世尊。大悲慈愍具足顯現。爾時世尊。知諸大衆心之所念。以大悲身。大悲門。大悲爲首。大悲隨順方便法。入師子奮迅三昧。令一切衆生樂淸淨法。入三昧已。時大莊嚴重閣講堂忽然廣博無量無邊不可破壞。金剛寶地淸淨莊嚴。一切摩尼寶王徧布其地。散無量寶華。奇妙衆寶瑠璃爲柱。以明淨寶而莊嚴之。衆寶莊校微密無間。閻浮檀寶以爲樓閣。衆寶欄楯却敵竇向阿僧祇欄楯而以莊飾。諸天王寶堅固衆寶而莊嚴之。摩尼寶網彌覆其上。建衆寶幢懸諸幡蓋。放大光網普照法界。又以不可說衆雜妙寶莊嚴其外。四邊階道衆寶合成。爾時佛神力故。令祇洹林忽然廣博。與不可說佛刹微塵數世界等。衆寶莊嚴不可說寶徧布其地。阿僧祇寶以爲垣牆。寶多羅樹列植道側。無量香河微流盈滿。一切寶華以爲波浪。皆悉右旋。演說一切佛法。音聲不可思議。芬陀利華皆悉開敷。彌布水上。衆寶華樹高顯榮茂。列植其岸。不可思議樓閣摩尼寶網羅覆其上。阿僧祇妙寶莊嚴光明普照。阿僧祇摩尼寶王嚴飾。其他出衆妙香。建立無量摩尼王幢香幢。衣幢幡幢。繒幢華幢。莊嚴具幢。鬘幢。寶垂帶幢。衆寶蓋幢。大摩尼幢。普照摩尼寶幢。出佛音幢。師子寶王幢。出一切佛本生海幢。一切法界幢。摩尼寶王幢。以爲莊嚴。時祇洹林上虛空中。有不可思議天寶宮殿雲。不可思議衆香樹雲。不可說須彌山雲。莊嚴虛空。不可說不可說衆寶樂器。演妙法音讚詠如來。不可說寶樹雲彌覆虛空。不可說衆寶座雲覆以寶衣。菩薩處上歎佛功德。不可說天寶像雲以爲莊嚴。不可說白淨眞珠網雲以爲莊嚴。不可說解脫樓閣雲以爲莊嚴。不可說妙解脫音樂雲雨以爲莊嚴。何以故。如來善根不可思議故。如來白淨法不可思議故。如來威神不可思議故。如來一身充滿一切法界自在不可思議故。一切佛刹莊嚴入一佛身不可思議故。一微塵中現一切佛一切法界不可思議故。一毛孔中盡過去際一切如來次第顯現不可思議故。放一光明照一切刹不可思議故。如來一毛孔中出一切佛刹微塵等化身雲充滿一切世界不可思議故。如來一毛孔中現一切佛刹成壞不可思議故。如此祇樹給孤獨園見嚴淨佛刹。一切法界虛空界一切世界所見嚴淨亦復如是。如來充滿來詣祇洹。菩薩充滿一切如來大衆海安住。普雨一切妙莊嚴雲。雨一切衆寶光明普照一切摩尼王雲。雨一切蓋雲。莊嚴一切天身雲。雨一切華樹雲。莊嚴一切

雜色衣雲。雨一切鬘雲。流注莊嚴一切摩尼寶王莊嚴雲。雨一切衆生身雜色香雲。雨寶華雲。諸天女雲。各持妙
寶。於虛空中廻轉莊嚴。一切衆寶鉢曇摩華。雜寶師子座。莊嚴虛空。爾時東方。過不可說佛刹微塵等世界海。有
世界。名金剛雲明淨燈莊嚴。佛號明淨妙德王。彼大衆中有菩薩。名明淨願光明。與不可說佛刹微塵等菩薩俱
來向此土。與種種雲莊嚴虛空。所謂與天華雲。散天末香雲。垂天鬘帶雲。雨天寶雲。天莊嚴雲。天寶蓋雲。天寶衣
雲。天幢蓋雲。充滿虛空。以可悅樂衆寶莊嚴。來詣佛所禮拜供養。即於東方化作一切莊嚴樓閣寶蓮華藏師子
之座。如意寶網羅覆其身。與其眷屬結跏趺坐。南方過不可說佛刹微塵等世界。有世界。名金剛藏。佛號普照妙
德王。彼大衆中有菩薩。名不可壞精進勢王。與不可說佛刹微塵等菩薩俱來向此土。皆悉齎持一切妙香。神力
持故。普熏一切佛世界海。執時一切摩尼寶網。華鬘瓔珞。寶衣寶像。妙德光明諸莊嚴具。一切妙師子寶以爲莊
嚴。神力持故充滿一切諸佛世界。來詣佛所禮拜供養。即於南方化作白淨妙寶樓閣普照十方寶蓮華藏師子
之座。結跏趺坐。以寶華網羅覆其身。西方過不可說佛刹微塵等世界。有世界名寶燈須彌山幢。佛號法界智燈。
彼大衆中有菩薩。名無上普妙德王。與世界海微塵等菩薩俱來向此土。與不可說佛刹微塵等種種色香須彌
山雲。充滿一切法界。不可說佛刹微塵等種種色香水須彌山雲。充滿一切法界。不可說佛刹微塵等種種色摩
尼寶王須彌山雲。充滿一切法界。不可說佛刹微塵等種種色光明莊嚴寶幢須彌山雲。充滿一切法界。不可說
佛刹微塵等種種色金剛藏摩尼寶王須彌山雲。充滿一切法界。不可說佛刹微塵等閻浮檀寶幢須彌山雲。充
滿一切法界。不可說佛刹微塵等摩尼寶王徧照一切法界須彌山雲。普覆虛空。一切如來不可說佛刹微塵等
相好摩尼寶王普照須彌山雲。充滿一切衆生境界。一切如來爲菩薩時不可說佛刹微塵等所行須彌山雲。充
滿法界。一切如來示現不可說佛刹微塵等莊嚴道場。來詣佛所禮拜供養。即於西方化作一切香王樓閣以眞
珠寶網羅覆其上如帝釋幢寶蓮華藏師子之座。結跏趺坐。金色寶網羅覆其身。如意寶王爲髻明珠。北方過不
可說佛刹微塵等世界。有世界。名寶衣光明幢。佛號法界虛空妙德。彼大衆中有菩薩。名無礙妙德藏王。與世界
海微塵等菩薩俱來向此土。以一切寶繒雲莊嚴虛空。神力持故充滿虛空。雜寶衣雲。雜香熏衣雲。日幢摩尼寶

眼下元明俱有王字

方下元明俱有便字

衣雲.金色妙衣雲.衆寶網衣雲.閻浮檀金色莊嚴衣雲.白淨寶衣雲.明淨寶王衣雲.妙光寶衣雲.海莊嚴寶王衣雲.莊寶虛空.神力持故皆悉充滿一切虛空.來詣佛所禮拜供養.卽於北方化作大海摩尼寶王樓閣瑠璃寶蓮華藏師子之座.結跏趺坐.妙寶王網羅覆其身.淸淨寶王爲髻明珠.東北方過不可說佛刹微塵等世界.有世界.名放離垢歡喜光明網.佛號無礙眼.彼大衆中有菩薩.名法界善化願月王.與世界海微塵等菩薩俱來向此土.興寶樓閣雲.皆悉充滿一切世界.香樓閣雲.香煙樓閣雲.華樓閣雲.栴檀樓閣雲.金剛樓閣雲.摩尼樓閣雲.金樓閣雲.寶衣樓閣雲.鉢曇摩樓閣雲.皆悉普覆一切佛刹.來詣佛所禮拜供養.卽於東北方化作一切法界門寶山樓閣不可稱香王寶蓮華藏師子之座.結跏趺坐.摩尼華網羅覆其身.妙莊嚴藏摩尼寶王以爲天冠.東南方過不可說佛刹微塵等世界.有世界.名香雲莊嚴幢.佛號龍自在王.彼大衆中有菩薩.名法義慧燄王.與世界微塵等菩薩俱來向此土.興無量金色圓滿光雲.普覆虛空.無量寶色圓滿光雲.佛白毫相圓滿光雲.衆寶雜色圓滿光雲.寶蓮華藏圓滿光雲.衆寶樹華圓滿光雲.如來無見頂相圓滿光雲.閻浮檀金色圓滿光雲.日光圓滿光雲.月光圓滿光雲.普覆虛空.來詣佛所禮拜供養.卽於東南方化作明淨摩尼寶王樓閣金剛寶蓮華藏師子之座.結跏趺坐.寶燄光網羅覆其身.西南方過不可說佛刹微塵等世界.有世界.名曰光藏.佛號法月普照智王.彼大衆中有菩薩.名壞散一切衆魔智幢王.與世界微塵等菩薩俱來向此土.一一毛孔.普興虛空界等寶華燄雲.徧照一切世界.放香燄雲.衆寶燄雲.金剛燄雲.香煙燄雲.大龍自在電光燄雲.明淨摩尼寶燄雲.金色寶燄雲.妙德藏摩尼寶王網燄雲.一一毛孔.各放虛空界等如來光明海雲.普照三世.來詣佛所禮拜供養.卽於西南方.化作一切方門光網普照法界摩尼樓香閣燈燄寶蓮華藏師子之座.結跏趺坐.摩尼寶藏王妙光明網羅覆其身.冠一切衆生向解脫音摩尼寶王冠.西北方過不可說佛刹微塵等世界.有世界.名淨願摩尼寶藏.佛號普明淨妙德須彌山王.彼大衆中有菩薩.名明淨願智幢王.與世界微塵等菩薩俱來向此土.於念念中.一切相好一切毛孔.皆出三世一切諸佛身雲.充滿一切虛空界.又出一切菩薩身雲.一切如來眷屬身雲.一切如來變化身雲.一切如來本生身雲.一切聲聞緣覺身雲.一切如來道場菩提樹雲.一切如來自在雲.一切世界王身雲.一切嚴淨

佛剎雲．於念念中．一切相好一切毛孔．皆出如是等雲充滿虛空．來詣佛所禮拜供養．卽於西北方．化作諸方淸淨摩尼妙寶樓閣淸淨一切衆生摩尼寶蓮華藏師子之座．結跏趺坐．堅固充明眞珠寶網羅覆其身．首冠普覆摩尼寶冠．下方過不可說佛剎微塵等世界．有世界名一切如來光圓滿淸淨．佛號無礙虛空智幢王．彼大衆中有菩薩．名壞散一切障智慧勢王．與世界微塵等菩薩俱來向此土．於一切毛孔．出一切衆生語海雲音．三世菩薩行海音雲．一切菩薩願音雲．一切菩薩成滿淸淨波羅蜜音雲．一切菩薩行妙音聲雲．充滿一切世界一切菩薩積集自在音雲．一切菩薩往詣道場降伏衆魔成最正覺自在音雲．一切諸佛轉正法輪修多羅音雲．隨其所應化度衆生方便音雲．令一切衆生隨時方便得妙智慧善根音雲．來詣佛所禮拜供養．卽於下方．化作諸佛寶光明藏莊嚴樓閣寶蓮華藏師子之座．結跏趺坐．普照道場摩尼寶王爲髻明珠．上方過不可說佛剎微塵等世界．有世界．名說無盡覺．佛號圓滿普智光音．彼大衆中有菩薩．名分別法界智通王．與世界海微塵等菩薩俱．來向娑婆世界釋迦牟尼佛所．一切相好．一切毛孔．一切肢節．一切身分．一切莊嚴具．一切衣服中．出盧舍那等過去一切諸佛未來一切已受記佛未受記佛現在十方一切世界一切諸佛及眷屬雲．皆悉顯現．過去所行檀波羅蜜及受施者．皆悉顯現．過去所修尸波羅蜜持戒淸淨．過去羼提波羅蜜．割截肢節心不動亂．過去修習毗梨耶波羅蜜．過去修習一切如來禪波羅蜜海．過去修習一切如來轉淨法輪．過去一切悉捨不著壽命．過去歡喜樂求諸菩薩道．過去出生菩薩淸淨大莊嚴願．過去一切菩薩力波羅蜜．過去一切菩薩圓滿智慧．皆悉具足．出如是等諸自在雲．充滿法界皆悉顯現．來詣佛所禮拜供養．卽於上方．化作金剛莊嚴藏樓閣靑金剛寶蓮華藏師子之座．結跏趺坐．一切寶網羅覆其身．三世佛號摩尼寶王爲髻明珠．是諸菩薩及其眷屬．皆悉具足普賢行願．成就三世諸佛淸淨智眼．轉一切佛淨妙法輪．攝取諸佛勝妙音聲修多羅海．具足一切菩薩自在究竟彼岸．於念念中．悉詣一切諸如來所．現自在力．一身充滿一切世界．能於一切如來衆中現淸淨身．於一微塵悉能示現一切世界．隨所應化成熟衆生未曾失時．於一毛孔出一切佛妙法雷音．知衆生界皆悉如幻．知一切佛悉如電光．知一切有趣皆悉如夢．知一切果報如鏡中像．知一切生如熱時焰．知一切世間皆如變化．具足成就如來

梨明作離

力明作尸

生上元明俱有衆字

勝上三本俱有以字

姓明作性

十力無所畏法。於大衆中能師子吼。深入無盡一切辯海。決定了知一切衆生語言法海。於淨法界行無礙行。知一切法皆悉無諍。具足菩薩諸通妙智。勤修精進摧伏諸魔。安住三世勝妙智慧。無所染著。淸淨妙行得佛莊嚴一切智地。知一切有悉無所有。深入一切法界智海。以不壞智入一切世界。於一切世界普現自在。示現一切世界受生。知一切世界種種形色。以微細境界現廣佛刹。以廣佛刹現微細境界。於一念中住一切佛住。得一切佛住持智身。得淸淨慧。了知十方一切刹海。於一念中悉能出生無量自在。徧滿一方一切世界海。此諸菩薩。皆悉成就如是等無量功德。滿祇洹林。皆是如來威神力故。爾時諸大聲聞。舍利弗。目揵連。摩訶迦葉。離婆多。須菩提。阿泥盧豆。難陀。金毗羅。迦旃延。富樓那彌多羅尼子。如是等諸大聲聞在祇洹林。而悉不見如來自在。如來莊嚴。如來境界。如來變化。如來師子吼。如來妙功德。如來自在行。如來勢力。如來住持力。淸淨佛刹。如是等事皆悉不見。亦復不見不可思議菩薩大會。菩薩境界。自在變化。菩薩眷屬隨所來方妙寶莊嚴諸師子座。菩薩宮殿三昧自在周徧觀察。菩薩奮迅勤行精進供養諸佛。菩薩授記長養善根。菩薩受身淸淨法身智身願身色身相好。無量光明圓滿莊嚴放大光網變化身雲。菩薩充滿一切方網菩薩諸行圓滿具足。如是等事。一切聲聞諸大弟子。皆悉不見。何以故。修習別異善根行故。本不修習能見如來自在善根。亦不修習淨佛土行。又不讚歎見佛自在所得功德。不於生死中敎化衆生發阿耨多羅三藐三菩提心。亦不安立衆生於佛菩提。亦不守護如來種姓。令不斷絕。亦不攝取一切衆生。亦不成就諸波羅蜜。不爲衆生偁歎勝妙智慧眼地。亦不修習一切智行。不求諸佛離世善眼。亦不出生自在淨刹。不求菩薩諸通明眼。不修菩薩境界不壞善根。亦不出生佛力住持菩薩大願。又亦不知諸法如幻菩薩集會悉皆如夢。亦不修習菩薩離生聖行之心。不得普賢淸淨智眼。是諸功德。不與聲聞辟支佛共。以是因緣。諸大弟子。不見不聞。不入不知。不覺不念。不能徧觀。亦不生意。何以故。此是菩薩智慧境界。非諸聲聞智慧境界。是故諸大弟子在祇洹林。不見如來自在神力。亦無三昧淸淨智眼於微細處見諸境界。亦無法門神力境界。亦無諸力勝妙功德。亦無是處智。亦無智眼能見聞覺知及生意念。亦不樂說。不能讚歎。不能顯現。不能施與。不能勸化安立衆生放彼妙法。何以故。以聲聞乘出三界故。又以滿足聲聞之道住聲聞果。不能

流三本俱作池

曀三本俱作翳

具足無所有智。住眞實諦。常樂寂靜遠離大悲。常自調伏捨離衆生。是故雖與如來對面而坐不能覺知神變自
在。譬如餓鬼裸形飢渴。擧身燒然。爲諸虎狼毒獸所逼。往詣恒河欲求水飲。或見枯竭或見灰炭。所以者何。悉由
宿行罪業障故。一切聲聞亦復如是。雖在祇洹不覩如來自在神力。所以者何。無明障曀覆淨眼故。譬如有人於
大會中昏寢。夢見諸天城郭帝釋宮殿。園觀林流衆寶莊嚴。散諸雜華。寶樹行列妙衣覆上。諸天男女遊戲其中。
自然妙音共相娛樂。受天快樂。其人自覩安住此處。見天宮殿無量莊嚴。其餘大會悉不知見。所以者何。覺夢異
故。一切菩薩世界諸王。亦復如是。如彼夢中無所不見。深入菩薩妙法門故。積集善根出生一切智願故。決定明
了佛功德故。正向菩薩弘誓道故。滿足一切智故。滿足普賢諸行願故。得一切菩薩圓滿地故。得一切菩薩三昧
自在故。行一切菩薩無礙智故。是故一切諸大菩薩。悉覩如來不可思議神變境界。深入明達究竟彼岸。一切聲
聞諸大弟子皆不能知。譬如雪山有諸藥草。賢明良醫悉分別知。雖有捕獵放牧人等遊止彼山。悉不能知。菩薩
摩訶薩亦復如是。具足一切智。出生一切菩薩自在。是了如來神足變化。彼諸聲聞大弟子衆。雖處祇洹悉不覺
知。所以者何。常求自安不廣濟故。譬如地中有諸寶藏。唯呪術者悉能別知。記錄庫藏。以自資給奉養父母。賑卹
親屬拯濟貧乏。菩薩摩訶薩亦復如是。以淨慧眼。入佛自在不可思議神力境界。普入無量方便大海諸三昧海。
恭敬供養一切諸佛。守護正法。以四攝法攝取衆生。諸大聲聞雖處祇洹。不覩如來自在神變。譬如盲人至大寶
洲。行住坐臥不見衆寶。此諸聲聞亦復如是。在祇洹林大法寶洲。親侍世尊。不覩如來自在神變菩薩大衆。所以
者何。不得菩薩清淨眼故。不能次第覺法界故。譬如有人以明淨藥而用治眼。於夜暗中處在大衆。悉見衆人行
住坐臥。餘人不見。如來亦爾。逮得無礙清淨智眼。悉能知見一切世間。示現無量自在神變及菩薩衆。諸大聲聞。
不覩如來自在神變及菩薩衆。譬如比丘在大會中入一切處定。所謂地水火風天衆生境界。其餘大衆。悉不能
見地水火風乃至境界諸一切處。如來所現不可思議。菩薩悉見。諸大聲聞不知不見。譬如有人以曀身藥自塗
其目。行住坐臥無能見者。唯有彼人悉能覩見。如來亦復如是。永離世間無能見者。唯一切智菩薩境界。非諸聲
聞之所能知。如人從生有二種天常隨侍衞。一曰同生。二曰同名。天常見人人不見天。如來神變亦復如是。非諸

原明作源

三本俱爾時已下爲卷第四十六入法界品第三十四之二

聲聞所能知見。唯諸菩薩乃能覩見。譬如比丘於大衆中入滅盡定。不捨諸根亦不滅度。而不知見諸大衆事。所以者何。滅定力故。諸大聲聞亦復如是。處祇洹林大衆之中。諸根現前。而不覩見如來神變。不入不知。不覺不念。不生心意。所以者何。如來境界甚深彌曠。難知難見難得原底。無有限量。遠離世間。不可思議無能壞者。非諸聲聞緣覺境界。爾時明淨願光明菩薩。承淨神力。觀察十方。以偈頌曰。

瞻察堅固人　菩提難思議　祇洹林顯現　無量自在法　如來神力持　顯現無量德　世間悉迷惑
不知諸佛法　法王甚深法　無量難思議　顯現大變化　一切莫能測　如來莊嚴相　讚歎不可盡
以法無相故　宣明一切佛　最勝於祇洹　顯現自在力　甚深不可議　遠離語言道　觀察無量德
菩薩衆雲集　不思議刹來　供養於最勝　悉滿諸大願　常修無礙行　一切諸世間　莫能知其心
一切諸緣覺　無量大聲聞　皆悉不能知　菩薩行境界　菩薩大智慧　一切莫能壞　遠離諸亂想
究竟深智地　最大名稱人　深入無量定　顯現自在力　充滿諸法界

爾時不可壞精進勢王菩薩。承佛神力。觀察十方。以偈頌曰

瞻察眞佛子　功德智慧藏　究竟菩薩道　安隱諸世間　無量智明鑒　禪定心不動　智慧甚深廣
境界不可測　閑靜祇洹林　無量妙莊嚴　菩薩皆充滿　悉依正覺住　無量大衆海　一切無所著
十方來會此　處華師子座　除滅衆虛妄　一切無所染　離垢無礙心　究竟諸法界　建立智慧幢
不動如金剛　諸法無變化　示現無量變　一切十方界　無量億佛刹　悉能徧往詣　而亦不分身
瞻仰釋師子　無量力自在　以佛威神故　十方大衆集　佛子悉究竟　一切語言道　佛法不可壞
安住法界地　法性不可壞　牟尼甚深法　句身及味身　分別無窮盡

爾時無上普妙德王菩薩。承佛神力。觀察十方。以偈頌曰

瞻察堅固人　智慧廣圓滿　善知時非時　爲衆演說法　遠離諸外道　調伏諸論師　隨其所應化
爲現自在力　正覺非量法　亦非無量法　牟尼悉超越　有量無量法　譬如明淨日　除滅一切闇

道三本俱作導

道師智亦然　普照三世法　譬如十五日　圓滿明淨月　最勝亦如是　白淨法圓滿　譬如虛空中
淨日光明耀　普照於一切　佛自在亦然　譬如虛空性　一切無障礙　世間燈如是　自在無障礙
譬如大地性　能持諸群生　世間燈法輪　能持亦如是　譬如大風性　飄疾無障礙　佛法亦如是
速徧諸世間　譬如大水輪　世界所依住　智慧輪亦然　三世佛所依

爾時無礙妙德藏王菩薩。承佛神力。觀察十方。以偈頌曰

譬如大寶山　饒益諸群生　如來功德山　饒益亦如是　譬如大海水　清涼而澄淨　如來亦如是
能除熱渴愛　譬如須彌山　安峙於大海　如來山亦然　安住深法海　譬如大海中　能出一切寶
無師智亦然　覺難覺無難　導師甚深智　無量無有數　顯現自在力　無能思議者　譬如工幻師
示現種種事　佛智亦如是　現諸自在力　譬如如意珠　能滿一切意　最勝亦如是　悉滿諸淨願
譬如明淨寶　悉能照一切　導師智如是　普照一切法　譬如隨方寶　正住諸方現　無礙燈亦然
諸法於中現　譬如淨水珠　澄清諸濁水　見佛亦如是　諸根悉清淨

爾時法界善化願月王菩薩。承佛神力。觀察十方。以偈頌曰

譬如靑寶珠　能靑一切色　若有見佛者　皆悉同菩提　一一微塵中　最勝現自在　悉能淨無量
無邊諸菩薩　逮得甚深法　種種莊嚴事　唯諸菩薩境　世間莫能測　具足諸莊嚴　如來淨妙行
成就菩薩道　深入諸水界　正覺所示現　不可思議剎　一切現在佛　菩薩悉充滿　釋師子成就
無量自在法　示現大神變　無量無有邊　菩薩種種行　無量無有邊　如來自在力　爲之悉顯現
佛子善修學　甚深諸法界　成就無礙智　明了一切法　如來威神力　爲衆轉法輪　出生勝功德
令世悉清淨　如來淨境界　甚深圓滿智　實智大龍王　度脫一切衆

爾時法義慧燄王菩薩。承佛神力。觀察十方。以偈頌曰

最勝有三世　聲聞諸弟子　皆悉不能知　如來擧足事　去來今現在　一切諸緣覺　亦復不能知

如來擧足事　何況世凡夫　結使所纏縛　愚闇覆淨眼，而能知導師　最勝無量德　具足諸智慧
超出語言道　一切莫能知　譬如明淨月　光明無能知　導師亦如是　功德不可議　如來一方便
出生無量化　無數劫思算　不能知少分　如來一方便　出生無量德　一切智正法　皆悉無能知
若有求菩提　修習菩薩行　是彼之境界　所能分別知　不思議方便　超度生死海　若滅吾我心
是則能究竟　清淨心無量　大願悉成滿　逮得佛菩提　最勝之境界

# 大方廣佛華嚴經卷第四十四

# 大方廣佛華嚴經卷第四十五

〔麗問〕〔宋道〕〔元道〕〔明道〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

## 入法界品第三十四之二

爾時壞散一切衆魔智幢王菩薩。承佛神力。觀察十方。以偈頌曰

大智無礙身　非身難思議　如來淨法身　一切莫能測　不思議行業　起此清淨身　無量妙莊嚴
不染於三界　普明照一切　清淨諸法界　開發菩提門　出生深定智　永離諸垢染　除滅一切障
世間明淨日　普放慧光明　永絕生死流　悉令三界淨　具足菩薩德　成就佛菩提　顯現無量色
於彼無所染　所可現衆色　一切莫能思　人王勝智慧　能於念念中　具無量菩提　一切莫能知
具足無盡智　一切莫能壞　彼於一念中　明達三世佛　分別一切業　正念思菩提　於思而非思
思法寂滅故　甚深不可說　遠離語言道　如來從此起　佛業難思議

爾時明淨願智幢王菩薩。承佛神力。觀察十方。以偈頌曰

離癡清淨念　聞持一切法　深慧能分別　諸佛無盡海　菩薩決定心　修習菩薩行　出生甚深智
除滅諸疑惑　其心無疲厭　遠離於懈怠　常勤修精進　究竟諸佛法　具足信智慧　安住不可動
常樂甚深法　觀察無所著　無量無邊劫　積集諸功德　專心常迴向　諸佛甚深法　雖在生死中
其心無染著　安住諸佛法　常樂如來行　世間諸所有　陰界等諸法　無畏悉除斷　安住佛正法
世間顛倒惑　生死輪常轉　修習無礙行　實利益衆生　菩薩行難稱　一切莫能知　除滅一切苦
安樂諸群生　普覺菩提智　普照諸世間　除滅愚癡闇　度脫一切衆

化下明無悉滿彼大願五字

說三本俱作謂

爾時壞散一切障智慧勢王菩薩。承佛神力。觀察十方。以偈頌曰

無量無數劫　佛音難得聞　何況親奉覲　除滅諸疑惑　如來世間燈　究竟一切法　無上勝福田
令衆悉淸淨　如來妙色身　一切莫能思　無量劫諦觀　其心無厭足　佛子善觀察　如來妙色身
除滅一切障　究竟成菩提　如來妙色身　出生淨妙音　無礙諸辯才　廣開菩提門　普照一切衆
無量難思議　建立大乘智　授以菩提記　功德圓滿日　出興照世間　長養一切世　無量功德身
若有値如來　遠離諸惡道　除滅一切苦　具足智慧身　若有見如來　能發無量心　長養無數智
値遇諸導師　若有見如來　得定菩提心　能自決定知　我必成菩提

爾時分別法界智通王菩薩。承佛神力。觀察十方。以偈頌曰

菩薩見如來　無量淨功德　皆悉善迴向　究竟一切智　饒益衆生故　如來出世間　具足大悲心
爲世轉法輪　一切無能報　大仙普慈恩　不可思議劫　代衆受苦故　無量億劫中　受諸地獄苦
不捨一切衆　悉令得見佛　普能代衆生　具受無量苦　其心無疲倦　爲度一切故　一切諸世間
所有惡道苦　如來常處中　悉令聞正法　一一地獄住　不可思議劫　具受無量苦　終不離諸佛
所以無量劫　常在三惡道　欲令諸群生　長養智慧故　衆生見如來　除滅諸苦惱　安立於大智
一切佛境界　若有見佛者　除滅一切障　長養功德藏　究竟成菩提　如來能除滅　世間諸疑惑
隨其所應化　悉滿彼大願

爾時普賢菩薩。觀察一切大衆。欲重開發顯現照明。以法界等方便。廣說師子奮迅三昧。法界等。虛空界等。三世等。一切衆生界等。一切劫等。一切業性等。衆生希望等。衆生欲等。法光明等。隨時敎化等。一切衆生根等。爲諸菩薩十種廣說師子奮迅三昧。何等爲十。所謂廣說一切法界中。一切佛刹微塵等佛。次第與世演說正法。廣說虛空界等一切佛刹中。盡未來劫一切諸佛所說廣說一切佛刹中。一切如來現成正覺。廣說虛空界等一切佛刹中。佛坐道場眷屬圍遶。菩薩大衆皆悉往詣。廣說一念中三世一切佛出變化身充滿一切法界。廣說一身充滿

一切世界海。一切佛刹海平等照持。廣說一一境界中。顯現三世一切諸佛自在功德地。廣說一一微塵中。顯現三世一切佛刹。微塵等佛自在神力。廣說一一毛孔出三世一切佛大願海音。開發化導。盡未來劫一切菩薩。廣說處法界等師子之座。大衆圍遶莊嚴道場。各隨其處轉妙法輪。盡未來劫未曾斷絕。佛子。此師子奮迅三昧。有如是等不可說佛刹微塵等廣說。唯是如來智慧境界。爾時普賢菩薩摩訶薩。欲重明師子奮迅三昧。承佛神力。觀察如來觀察大衆。觀察如來不可思議境界。觀察諸佛三昧。觀察不可思議世界。觀察不可思議智慧。觀察一切法皆悉如幻。觀察不可思議諸佛平等。觀察無量無邊一切音聲語言道故。以偈頌曰

一一毛孔中　普現最勝海　佛處如來座　菩薩衆圍遶　一一毛孔中　無量諸佛海　道場處華座
轉淨妙法輪　一一毛孔中　一切刹塵等　最勝跏趺坐　演說普賢行　最勝坐一刹　充滿十方界
無盡菩薩雲　來詣於佛所　無量億佛刹　塵數菩薩集　圍遶於如來　爲說諸法界　顯現諸佛刹
入法界智海　安住普賢行　滿足諸佛刹　安住於如來　一切諸世界　深入菩薩行　樂聞勝法雲
一一刹無量　億劫修諸行　修習彼行已　究竟深法海　滿足大願海　安住如來地　出生最勝法
具足普賢行　成就功德海　得無量自在　如來身雲覆　一切諸佛刹　普雨甘露法　令衆住佛道

爾時世尊。欲令諸菩薩安住師子奮迅三昧故。放眉間白毫相光。名普照三世法界門。不可說世界微塵等光明以爲眷屬。普照十方一切世界海。時祇洹林菩薩大衆普雲集者。悉見一切法界。虛空界等一切佛刹。種種色。種種清淨。種種安住。種種形。如是等一切世界諸大菩薩。現坐道場。菩薩圍遶。諸天供養。成等正覺。或見於不可說佛刹微塵等諸眷屬中。出妙音聲。充滿法界。轉淨法輪。或見在天宮殿。在龍宮殿。夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽及人非人等諸宮殿中。或見在人聚落城邑大王京都。現種種身。種種姓名。種種色。種種圓光。種種光網。種種辯。種種眷屬。種種持。種種教持。種種音聲。而爲說法。如此間。如來爲諸菩薩。現甚深三昧神力變化。一切法界虛空界等。十方一切世界海中。現國土身及衆生身諸業所起。乃至一毛孔中一切悉現。亦復如是。而不壞三世。不壞衆生。普照一切諸衆生心。色身清淨。隨所應化。普現一切衆生類前。開示一切諸佛妙法。調伏衆

及人三本俱作人及

王同作正
性宋元俱作姓
住三本俱作刹

生.顯現如來自在神力.其有衆生.見聞念知如來自在神通力者.皆佛宿世善知識也.皆悉修習四攝善根.一向專求無上菩提.攝諸善根成就方便.逮得如來不可思議自在三昧.悉與法界虛空界等.或得法身.或得色身.或得菩薩具足諸行.或得淸淨諸波羅蜜.或得菩薩圓滿淨行.或得菩薩諸地.或得菩提自在.或得如來不壞三昧.或得如來諸行智力.或得如來無礙辯才.此諸菩薩.得如是等十不可說佛刹微塵等諸妙功德.所謂種種道.種種門種種人.種種度.種種方便.種種至.種種方.種種光明.種種功德.種種功德具.種種自在.深入菩薩諸三昧海.所謂普莊嚴法界菩薩三昧.普照三世無礙三昧.不壞法界智三昧.隨時深入如來境界三昧.普照虛空三昧.行如來力三昧.如來無畏莊嚴師子奮迅三昧.一切法界方便藏三昧.無礙法界淨月三昧.淸淨莊嚴法雲三昧.除滅癡障法王幢三昧.一一境界中悉見一切佛海三昧.一切世間不可壞身淸淨光明智幢三昧.深入佛身無壞三昧.隨順一切世藏三昧.諸法無迹無依三昧.圓滿普照寂滅三昧.無所有善化普化徧照三昧.攝持一切佛刹三昧.莊嚴一切佛刹現成菩提三昧.行一切王法三昧.行一切衆生境界無礙三昧.生一切諸佛三昧.究竟一切佛德海三昧.一一境界出生盡未來際功德三昧.解了一切如來本生海三昧.護持盡未來際一切如來種性三昧.令現在十方一切佛刹海悉淨三昧.於一念中普照一切佛住三昧.遠離障礙深入一切境界三昧.令一切刹入一佛刹三昧.出一切佛化身三昧.決定智慧金剛王入一切根海三昧.住持一切佛身皆一身藏無差別三昧.於一念中住一切佛法界方便無盡三昧.於一切法界佛刹中示現涅槃三昧.住無上地三昧.令一切世界衆生悉見其身無別異三昧.一切佛智現前三昧.知一切法實相三昧.於一念中具分別知三世三昧.於一念中知一切法界藏三昧.皆隨順知如來智師子行三昧.於一切境界慧眼圓滿三昧.十力境界等三昧.於一切境界以平等眼示現三昧.出生一切妙色衆生見無厭足三昧.無動藏三昧.一法攝一切法三昧.一言普說一切音聲三昧.一切佛無二法三昧.離三世三昧.分別一切劫不壞智三昧.微細方便十力內三昧.一切劫出生菩薩行無斷三昧.一切十方普雲現前三昧.菩提自在法界無礙三昧.分別一切覺正希望安隱幢三昧.一切莊嚴莊嚴虛空三昧.於念念中出生化雲三昧.離垢如空如來月光三昧.一切佛持如空三昧.一切法莊嚴法光三昧.開一切法義

知三本俱作別

燈三昧.十力圓滿光三昧.三世一切佛幢三昧.一切佛同一藏三昧.於念念中發起究竟一切事三昧.無盡功德
藏三昧.示現無量無邊諸佛境界三昧.住一切法金剛師子座三昧.出生顯現一切如來變化無不知見三昧.一
切念如來日三昧.一日悉覺三世三昧.自然寂靜解脫三昧.見一切佛三昧.鉢曇摩華莊嚴一切法界決定智三
昧.一切法無著虛空淨眼三昧.一方攝十方海三昧.深入無底法界三昧.一切法海三昧.放一切光寂靜身三昧.
一念出生一切通明願三昧.一切時一切處成菩提三昧.一切法界入一莊嚴三昧.一切佛住持三昧.一切衆生
勝地智明三昧.一念中一身充滿法界三昧.一身中顯現淸淨法界三昧.普門入法界顯現大莊嚴三昧.一切佛
法圓滿輪智住持三昧.一切法方便一方便莊嚴三昧.因陀羅網攝衆生界諸願精進住持三昧.分別一切世界
輪三昧.蓮華妙德自在三昧.分別一切衆生身三昧.對現一切衆生身三昧.分別一切音聲海三昧.了知一切衆
生地三昧.不可壞大悲藏三昧.一切佛入如來際三昧.修習一切佛法門三昧.觀察師子奮迅菩薩三昧.如是等
不可說佛刹微塵等三昧門.入如來海.入一切佛自在三昧.於念念中充滿法界.彼諸菩薩.一一皆有妙師子座.
悉與十佛世界等.現大自在甚深智慧.悉得諸地明淨智慧.普觀一切從智性生.專求一切智.具足成就離癡慧
眼.悉爲衆生作調御師.修行諸佛平等正法.決定了知一切境界.分別了知一切世界.樂寂滅法.遠離世間.常好
閑靜.遊諸佛刹無所染著.於一切法心無所依.安住莊嚴妙法宮殿.敎化成熟一切衆生.爲一切衆生顯現佛刹.
具足成就無上智門.順離欲際得智慧身.消竭一切諸有爲海.爲一切衆生顯眞實際法海慧光具足圓滿.皆悉
安住堅固三昧.以大悲心.常念衆生.解一切衆生皆悉如夢.一切如來悉如電光.一切言音皆悉如響.了一切法
皆悉如化.滿足諸願具菩薩行.普智圓滿方便淸淨.心樂寂靜.成滿一切諸陀羅尼.智慧境界.具足十力遠離恐
怖.安住法界具淨法眼.得一切法無所有門.修行無量智慧大海.究竟到於智慧彼岸.悉得般若波羅蜜力.成就
神通波羅蜜.度衆生海.於三昧波羅蜜悉得自在.善知一切智無錯謬.巧妙方便開示法藏.具足辯才成就大願.
具足諸力法雲無盡.於大衆中能師子吼而無所畏.常求正法心無所著.以淨慧眼滅除癡闇.智月圓滿照世生
滅.成就智慧.放大光明.照一切諦.善巧方便.智慧功德.金剛之山.超出三世.一切法王覺無所畏.智功德幢.滅諸

一念三本俱作十劫

讚下三本俱無歎字

魔幢。建立精進圓滿智幢。具足成就無上之身。得一切法無礙智慧。覺了無盡智眞實際。安住眞際。修行決定無相三昧。巧方便生諸菩薩行。無二智慧諦見境界。世間諸趣普照佛刹無所染著。於一切法除滅癡闇。究竟智慧皆悉圓滿。放淨法光照十方界。爲一切衆生作不虛福田。若見聞者所願成滿。爲一切世間功德須彌。遠離恐怖伏諸外道。以微妙音徧一切刹。常見諸佛心無厭足。成就如來自在法身。隨其所應而化度之。能以一身滿一切刹。以少方便具足清淨自在神力。普遊十方無所障礙。智慧圓滿徧照法界。爲一切衆生耀明淨日。隨其所應讚歎功德。了一切衆生諸根希望。於一切法得無諍境界。分別了知諸法自性。大小相攝。決了如來甚深之地。說句味身諸法深義無有窮盡。於一言中普說一切修多羅海。究竟一切諸陀羅尼。廣智慧身。究竟無量劫陀羅尼。於一念中決定了知不可說劫。於一念中。了達三世法陀羅尼。普照無量諸佛法海。爲一切衆生起淨智慧。轉正法輪無能壞者。成就如來智慧境界。常入普現三昧正受。遠離障礙深入諸法。於一切法得勝智自在。清淨莊嚴一切境界。深入十方甚深法界。攝取十方一切法界。於一一微塵中。理成正覺。於無色性現一切色。能以一方攝一切方。彼諸菩薩。具足成滿如是等無量功德智慧之藏。常爲一切諸佛讚歎。以句味身說其功德。不能窮盡。皆悉雲集於祇洹林。爾時彼諸菩薩。深入如來功德大海。入已於菩薩身中及樓閣中。莊嚴具中。師子座中。以樂法力故。不可思議力故。於念念中。各放無量光明雲。普照法界覺悟衆生。所謂出一切寶香光明雲。讚歎三世諸佛功德。微妙音聲充滿十方。出一切衆生雲。境界光明。說一切衆生清淨業報。微妙音聲充滿十方。出一切菩薩願行莊嚴光雲。說一切菩薩願行功德。出一切佛變化身雲。一切如來微妙音聲充滿十方。出一切菩薩身雲。相好莊嚴。於一切佛刹。以微妙音讚歎諸佛充滿十方。出三世佛莊嚴道場雲。現一切佛成等正覺。充滿十方。於一切境界中。出龍王雲。雨一切香充滿十方。出一切佛身雲。歎普賢行充滿十方。出一切佛刹淨光明雲。一切如來轉法輪音充滿十方。時諸菩薩威神力故。此法力故。出如是等不可說佛刹微塵等雲。爾時文殊師利菩薩摩訶薩。承佛神力。觀察十方。欲讚歎祇洹林中無量莊嚴。以偈頌曰

觀察祇洹中　如來自在力　一切境界出　無量功德雲　無量淨妙色　種種而莊嚴　皆悉普照現

寶同作雲

光下宋無明字〇明下三本俱有門字〇現元明俱作說

十方諸佛刹　佛子身毛孔　出佛音聲雲　種種寶莊嚴　充滿十方刹　其身如梵王　威儀常安靜
徧遊十方刹　演出妙音聲　如來毛孔出　不可思議身　皆悉如普賢　衆妙相莊嚴　菩薩普成就
三世功德海　充滿於虛空　出生莊嚴雲　於此祇洹中　演出妙音聲　普說一切衆　善淨業果報
一一境界中　悉現佛刹海　三世諸如來　無量自在力　如來毛孔中　一切諸世界　微塵等佛刹
皆悉分別現　一切境界中　出生諸佛雲　無量善方便　度脫一切衆　華雲香燄雲　清淨摩尼寶
種種莊嚴雲　充滿於十方　三世一切佛　莊嚴妙道場　於此祇洹林　一切悉顯現　普賢等佛子
無量種莊嚴　衆生等劫中　所修嚴淨刹　如是諸世界　悉現祇洹林

時彼一切諸菩薩衆．以如來三昧照故．一一皆得不可說佛刹微塵等大悲法門．饒益安樂攝取衆生．彼諸菩薩．於一一毛孔．各出不可說佛刹微塵等光明．一一光明端．各出不可說佛刹微塵等菩薩．其身尊重．於諸世間最爲殊勝．隨其所應皆悉顯現．充滿法界敎化衆生．未度者度．未脫者脫．現不可說佛刹微塵等諸天宮殿無常死相．一切諸法皆悉如夢．讚歎道場．說一切菩薩諸大願門．或於一切世界．示現受生．爲一切衆生．廣現檀波羅蜜門．或現一切諸佛圓滿淨戒功德尸羅波羅蜜門．或現斷一切肢節羼提波羅蜜門．或現勤修精進毗梨耶波羅蜜門．或現一切菩薩禪定三昧相續解脫法門．如來圓滿智慧光明．專求一切佛法．爲一一句身味身義故．能捨無量無數之身．詣諸佛所．問無量法門．善知時會．隨其所應而爲現法．令一切衆生住一切智．逮得方便智光海門．悉能供養諸佛菩薩．降伏衆魔制諸外道．悉能顯現菩薩力門．知一切技術明淨智地．欲令衆生得勝妙法．悉能了知衆生諸根．煩惱習氣．種種業報．及智慧地．以如是等不可說佛刹微塵等法門．敎化衆生．或現天宮．或現龍宮夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽等宮．或現梵宮．或現人宮．或現閻羅王宮．或現地獄餓鬼畜生處．大悲智慧及諸大願不可沮壞．攝取衆生不捨方便．或以名號敎化．我以憶念敎化．或以音聲敎化．或以圓滿光明敎化．或以光明網敎化．隨其所應悉現其前．現處處莊嚴．不離佛所．不離樓閣座．而普現十方．或放化身雲．或現無二身．遊行十方敎化衆生．或現聲聞色像．或現梵天色像．或現一切苦行色像．或現良醫色像．或現商

足上元明俱有具字

遊三本俱作退

人色像．或現正命色像．或現伎人色像或現天色像．或現一切技術色像或現一切城邑聚落京都色像隨其所應往詣其所．或現種種色身音聲．教化衆生．或現諸語言法．種種威儀．種種菩薩行．種種巧術．一切智明爲世間燈．普照衆生．業報莊嚴．分別諸方悉行圓滿菩薩諸行．悉現一切城邑聚落京都．化度衆生．爾時文殊師利童子．從善安住樓閣出．與一切同行諸菩薩俱．金剛力士常隨侍衞．本願足天．樂聞法地天．常習大悲泉池方天．除滅愚癡夜天．出生佛晝日天．莊嚴正法界虛空河天．度衆生生死海天．長養一切善根薩婆若山天．莊嚴一切衆生身滿足諸願供養一切佛身天．守護一切衆生城天．守護一切衆生夜叉王．令一切衆生歡喜乾闥婆王．除滅一切餓鬼趣鳩槃茶王．於生死海拔濟衆生迦樓羅王．正求薩婆若阿脩羅王．見佛歡喜無厭足摩睺羅伽王．常厭生死諸天王．常敬禮佛諸梵天王等．俱詣佛所頭面禮足．設諸供養已．辭遊南方．爾時尊者．舍利弗承佛神力．見文殊師利童子．以菩薩莊嚴而自莊嚴．出祇洹林遊行南方．見已作如是念．我今當與文殊師利菩薩俱行．爾時尊者舍利弗．與六千比丘眷屬圍遶．從自房出來諸佛所．禮足辭退．向文殊師利．此六千比丘．是舍利弗共行弟子．皆新出家．其名曰海智比丘．大善調伏比丘．功德光比丘．大童子比丘．電光興比丘．淸淨行比丘．天妙德比丘．因陀羅慧比丘．梵天比丘．寂靜慧比丘．如是等六千比丘．已曾供養過去諸佛．於諸佛所種種善根．性樂淸淨信心明徹．行諸大願觀佛境界．了法實相饒益衆生．常樂專求諸佛功德．此等比丘．皆是文殊師利之所化度．爾時尊者舍利弗．觀察大衆．告海智比丘言．汝可觀察文殊師利菩薩淸淨之身．相好莊嚴．一切天人莫能思議．光明圓滿．令無量衆生發歡喜心．放大莊嚴妙光明網．除滅衆生無量苦惱．觀其眷屬成就善根．觀其遊步威儀庠序．所遊行處自然平正．十方無礙．觀其功德所行道路．其傍悉有衆妙寶藏．自然發出．觀其供養過去諸佛．善根依果．從衆林樹出莊嚴藏．觀彼一切諸天大王．恭敬禮拜供養雲雨．海智．汝觀文殊師利．一切如來眉間毫相．放無量光．說諸佛法．悉入其頂．爾時尊者舍利弗．爲諸比丘．讚說文殊師利無量功德諸大莊嚴．彼諸比丘聞讚歎已．皆悉歡喜．其心淸淨．離諸垢穢．身體柔軟．調伏諸根．遠離障礙．現見諸佛．正求菩提．逮得菩薩淸淨諸根．具菩薩力．長養大悲．入諸波羅蜜．發弘誓願．悉見十方諸如來海．時諸比丘．白尊者舍利弗言．唯然大師．願俱往詣文殊

上明作倘

師利。爾時尊者舍利弗。與諸比丘往詣其所。到已謂文殊師利。此諸比丘。皆新出家。欲見仁者。爾時文殊師利童子。即爲顯現菩薩自在。如象王廻顧視比丘。時諸比丘頭面禮足。却住一面合掌而立。作如是念。我等以此禮拜功德。知法實相如和上舍利弗。釋迦牟尼世尊。得淸淨身相好音聲神力自在。如文殊師利。爾時文殊師利。告諸比丘。汝等當知。若善男子善女人。成就十種大心。則得佛地況菩薩地。何等爲十。所謂發廣大心。長養一切善根。究竟不退。心無厭足。見一切佛。恭敬供養。心無厭足。正求一切佛法。心無厭足。徧行菩薩諸波羅蜜。必無厭足。具足一切菩薩三昧。心無厭足。於一切三世流轉。心無厭足。嚴淨佛刹。充滿十方。心無厭足。敎化成熟一切衆生。心無厭足。於一切刹一切劫中。行菩薩行。心無厭足。發廣大心。修習一切佛刹微塵等諸波羅蜜。度脫一切衆生。具佛十力。心無厭足。若善男子善女人。成就如是十種大法。則能長養一切善根。離生死趣。一切世間性。超出聲聞緣覺之地。生如來家。具足成就菩薩大願。行菩薩行。住菩薩地。成就如來功德之力。降伏衆魔。制諸外道。彼諸比丘聞此法已。皆得無礙淨眼三昧。悉見十方一切如來。及其眷屬無量衆生。亦見種種世界形類。衆寶宮殿。及諸微塵。乃至如來十眼境界。皆悉視見彼諸如來以種種句身味身。種種辯才。微妙音聲。所說法海。皆悉聞知。彼世界中一切衆生。心念諸根。皆悉了知。知彼衆生過去未來諸趣受生。又能知彼過去未來各十劫事。知彼如來十種本生。十種成就菩提自在。十種轉法輪。十種神力。十種敎誡。十種說法。十種辯才。得此三昧時。具足成就十種實際菩提之心。一萬三昧。一萬淨波羅蜜。得大智慧圓滿光明。菩薩十明住菩提心。爾時文殊師利菩薩。勸諸比丘。修普賢行住普賢行。彼諸比丘出生大願海。生大願海已。身心淸淨。得不死通明。得是明已。不離此處。出生一切如來法身。充滿十方。具足一切佛法。爾時文殊師利菩薩。建立彼諸比丘菩提心已。與其眷屬漸遊南方。至覺城東。住莊嚴幢娑羅林中大塔廟處。過去諸佛所遊止處。亦是過去諸佛爲菩薩時修苦行處。此處常爲一切天龍夜叉乾闥婆阿脩羅人非人等之所供養。時文殊師利。即於此處。說普照一切法界修多羅。有百萬億修多羅。以爲眷屬。說此法時。於大海中有無量千億龍王。與眷屬俱來詣文殊師利。聞此法已。厭離龍趣。正求佛道。捨龍身已生天人中。一萬龍王。於阿耨多羅三藐三菩提。得不退轉。時覺城人。聞文殊師利在莊嚴幢娑羅林中大塔

須三本俱作修

與元明俱作興

芽三本俱作牙次亦同〇二元明俱作三

座三本俱作坐

廟處、聞已。優婆塞。優婆夷。童男童女。皆悉往詣文殊師利。時有優婆塞。名曰大智。與千優婆塞眷屬俱。其名曰須達多優婆塞。婆須達多優婆塞。功德光優婆塞。名稱德優婆塞。寂靜德優婆塞。歡喜德優婆塞。善慧優婆塞。大慧優婆塞。賢優婆塞。賢妙德優婆塞。如是等千優婆塞俱。頭面禮足退坐一面。復有五百優婆夷。其名曰大慧光優婆夷。善光優婆夷。善身優婆夷。可樂身優婆夷。跋陀羅優婆夷。賢德優婆夷。賢光優婆夷。光明幢優婆夷。妙德光優婆夷。善眼優婆夷。如是等五百優婆夷俱。頭面禮足退坐一面。復有五百童子。其名曰善財童子。善行童子。善戒童子。善威儀童子。善精進童子。善心童子。善慧童子。善覺童子。善眼童子。善臂童子。善光勝童子。如是等五百童子俱。頭面體足退坐一面。復有五百童女。其名曰善行童女。跋陀羅童女。悅樂顏童女。堅固慧童女。妙功德童女。勝體童女。梵天與童女。功德光童女。善光明童女。如是等五百童女俱。頭面禮足退坐一面。爾時文殊師利。知覺城大衆集已。隨其所應。以大慈力令彼淸涼。大悲現前將爲說法。甚深智慧分別其心。以大辯力而爲說法。觀察善財童子。以何因緣名曰善財。此童子者。初受胎時。於其宅內有七大寶藏。其藏普出七寶樓閣。自然周備。金銀瑠璃玻瓈眞珠硨磲碼碯。從此七寶生七種芽。時此童子處胎十月。出生端正肢體具足。其七種寶芽。高二尋廣七尋。又其家內自然具有五百寶器。盛滿衆寶。金器盛銀。銀器盛金。金剛器盛衆香。衆香器盛寶衣。玉石器盛上味饌。摩尼器盛雜寶。種種寶器盛酥油蜜。及以醍醐資生之具。瑠璃器盛衆寶。玻瓈器盛硨磲。硨磲器盛玻瓈。碼碯器盛赤珠。赤珠器盛碼碯。火珠器盛淨水珠。淨水珠器盛火珠。如是等五百寶器。自然行列。又雨衆寶。滿諸庫藏。以此事故。婆羅門中善明相師。字曰善財。此童子者。已曾供養過去諸佛。深種善根。常樂淸淨。近善知識。身口意淨。修菩薩道。求一切智。修諸佛法。心淨如空。具菩薩行。爾時文殊師利菩薩。如象王廻。觀察善財。而告之曰。吾當爲汝說微妙法。卽爲分別諸佛正法。分別諸佛次興世法。淨眷屬法。轉梵輪法。諸佛色身相好淸淨莊嚴之法。一切諸佛具法身法。諸佛音聲妙莊嚴法。說一切如來平等正法。爾時文殊師利。知善財等一切大衆聞說此法。皆大歡喜發菩提心。顯明過去諸善根已。不捨本座。如應化度覺城衆生已。遊行南方。爾時善財童子從文殊師利。聞佛如是諸妙功德。專求菩提。隨從文殊師利。以偈頌曰

闉三本俱作垣
繫同作纏
嶮明作險
樂我三本俱作我樂

三有爲城郭　高慢爲闉牆　諸趣爲却敵　染愛爲深塹　愚癡闇覆蔽　三毒常熾然　惡魔爲君王
童蒙依止住　貪愛所纏縛　諂曲壞正行　疑惑障慧眼　流轉諸邪道　慳嫉所繫縛　趣向餓鬼難
生老病死逼　愚癡轉趣輪　圓滿無上悲　清淨智慧日　消竭煩惱海　願顧少觀察　圓滿無上慈
慧光安衆生　一切無不曜　月王願照我　一切法界王　淨法爲四兵　常轉正法輪　願化我妙法
具足菩提願　積集功德藏　饒益一切衆　大師願度我　忍鎧莊嚴身　執持智慧劒　於魔嶮惡道
濟我免衆難　住法須彌頂　妙定天女侍　降伏阿脩羅　帝釋觀察我　具足離垢力　分別一切有
世間明淨燈　願示我正趣　遠離諸惡道　悉令善趣淨　開我解脫門　超出諸世難　著常樂我淨
迷惑於生死　清淨智慧眼　願開解脫門　遠離諸顚倒　無畏知正道　了達諸正趣　示現我菩提
安住正見地　諸佛功德樹　常雨正覺華　願示我菩提　世間明淨日　三世諸如來　如法而來去
願令我悉見　分別一切業　深知諸法性　決定智慧乘　示我摩訶衍　諸願輪成滿　大悲不可盡
淨妙德莊嚴　安我菩提乘　具足淨法界　大慈爲觀察　功德華莊嚴　賜我第一乘　安住梵行座
三昧女朝侍　微妙法音樂　示我法王道　無盡四攝藏　功德莊嚴智　光明照一切　願速示勝道
施惠圓滿光　旃檀戒塗身　忍辱大莊嚴　願速示正道　深入諸禪定　教化群生類　具足方便乘
安我勝法乘　諸願圓滿輪　永絕生死輪　具足持智力　安我妙法乘　一切悉殊妙　大悲觀衆生
究竟勝妙行　安我實智乘　安住金剛慧　究竟一切智　除滅諸障礙　安我賢聖乘　慈悲甚彌廣
安樂諸群生　法界等淨眼　安我無上乘　除滅衆苦陰　諸業煩惱輪　降伏一切魔　安我正法乘
智慧照十方　莊嚴諸法界　滿足衆生願　安我勝妙乘　心淨如虛空　除滅邪見愛　饒益一切衆
安我勝法乘　安住如風輪　普持一切刹　令衆住定地　安我殊勝乘　安住如大地　具足大悲力
智慧益衆生　安我最勝乘　四攝光圓滿　饒益群生類　總持清淨光　示我明淨日　開發淨慧眼
莊嚴妙智王　冠以無上冠　法王慈顧我

大方廣佛華嚴經卷第四十五

入法界品第三十四之二

# 大方廣佛華嚴經卷第四十六

〔麗問〕〔宋道〕〔元道〕〔明道〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

## 入法界品第三十四之三

爾時文殊師利。如象王迴。觀善財童子。作如是言。善哉善哉。善男子。乃能發阿耨多羅三藐三菩提心。求善知識親近善知識問菩薩行求菩薩道。善男子。是爲菩薩第一之藏。具一切智。所謂求善知識。親近恭敬而供養之。是故善男子應求善知識。親近恭敬。一心供養而無厭足。問菩薩行。云何修習菩薩道。云何滿足菩薩行。云何清淨菩薩行。云何究竟菩薩行。云何出生菩薩行。云何正念菩薩道。云何緣於菩薩境界道。云何增廣菩薩道。云何菩薩具普賢行。爾時文殊師利。爲善財童子以偈頌曰

善哉功德藏　能來詣我所　發廣大悲心　專求無上道　先發諸大願　除滅衆生苦　究竟菩薩行
成就無上道　若有諸菩薩　不厭生死苦　具足普賢行　一切莫能壞　功德光勝來　清淨功德海
正求普賢行　饒益一切衆　無量無有邊　世界諸佛所　聞說淨法雲　受持不忘失　悉於十方界
普見無量佛　成滿諸願海　具足菩薩行　究竟方便海　安住如來地　隨順諸佛敎　逮得一切智
一切世界中　法王積劫行　具足普賢道　究竟佛菩提　一切剎劫海　修習菩薩行　滿足諸大願
成就普賢乘　無量諸衆生　聞彼名號者　修習普賢願　得成無上道

爾時文殊師利。說此偈已。告善財言。善男子。於此南方。有一國土。名曰可樂。其國有山。名曰和合。於彼山中。有一比丘。名功德雲。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行。修菩薩道。乃至云何具普賢行。善男子彼比丘者。善能顯說菩薩所行。時善財童子。從文殊師利。聞法歡喜。頭面禮足。遶無數帀。瞻仰悲戀。泣涕辭退。漸漸南行。向可樂國。登和合

三本俱爾時已下爲卷第四十七入法界品第三十四之三

山。於彼山中十方周徧一心觀察。求覓太師爲在何所。如是尋求。乃至七日。爾時善財見彼比丘。乃在山頂靜思經行。見已馳詣。頭面禮足。右遶而住。白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行。修菩薩道。我聞大師善能宣暢。唯願垂慈。具足演說。時彼比丘告善財言。善哉善哉。善男子。乃能發阿耨多羅三藐三菩提心。問菩薩行。善男子。如是事者。難中之難。所謂能問菩薩所行。修菩薩道。入菩薩境界。出生淸淨菩薩之道。求於菩薩淸淨廣心。具足諸願。隨順世間所應化者。於生死中求解脫門。有爲無爲心不染著。善男子。我於解脫力。逮得淸淨方便慧眼。普照觀察一切世界。境界無礙。除一切障。一切佛化陀羅尼力。或見東方一佛二佛。十百千萬十億百億千億百千億佛。或見百億那由他千億那由他百千億那由他佛。或見無量阿僧祇。不可思議不可稱。無分齊無邊際。不可量不可說。不可說不可說佛。或見閻浮提微塵等佛。或見四天下微塵等佛。或見小千世界微塵等佛。或見二千世界微塵等佛。或見三千大千世界微塵等佛。南西北方四維上下亦復如是。種種形色。種種自在遊戲神通。種種眷屬莊嚴放大光網。種種淸淨莊嚴佛剎。隨受化者。示現自在菩提法門。見諸如來。於大衆中而師子吼。善男子。我唯知此普門光明觀察正念諸佛三昧。豈能了知菩薩圓滿淸淨智行。諸大菩薩得圓滿普照念佛三昧門。悉能覩見一切諸佛及其眷屬。嚴淨佛剎。得一切衆生遠離顚倒念佛三昧門。隨一切衆生所應悉令淸淨。得一切力究竟念佛三昧門。正念修習諸佛十力。得諸法中心無顚倒念佛三昧門。悉得覩見一切佛雲。於彼佛所聞法受持。得分別十方一切如來念佛三昧門。悉見一切世界海中諸如來海。得不可見不可入念佛三昧門。於微細境界。見一切佛自在境界。得諸劫不顚倒念佛三昧門。於一切劫。常見諸佛。未曾遠離。得隨時念佛三昧門。於一切時常要諸佛得嚴淨佛剎念佛三昧門。起一切佛剎。無能壞者。普見諸佛。得三世不顚倒念佛三昧門。悉見三世諸佛及其眷屬。得無壞境界念佛三昧門。於一切境界。悉見諸佛。得寂靜念佛三昧門。於一念中。悉見一切世界中一切如來。示現涅槃。得離月離時念佛三昧門。於一日中。悉見一切如來遊行敎化。得廣大念佛三昧門。見一佛身結跏趺坐充滿法界。得微細念佛三昧門。於一毛孔。見一切佛成等正覺。得莊嚴念佛三昧門。於一念中。見一切佛。於一切世界。成等正覺。神力自在。得淸淨事念佛三昧門。見一切佛。

善下元明俱有根字

行下三本俱無爾時善財童子六字

高元明俱作憍

慧光普照。轉妙法輪。得淨心念佛三昧門。自心明了。見一切佛。得淨業念佛三昧門。見一切衆生諸業如鏡中像。得自在念佛三昧門。見一切莊嚴法界諸佛充滿。得虛空等念佛三昧門。見如來身普照法界及虛空界。爾時功德雲比丘告善財言。善男子。南方有國。名曰海門。彼有比丘。名曰海雲。汝應詣彼問菩薩行。善男子。彼比丘者。能分別說善根。具因善根。大地善根。大力善。能讚歎菩提因緣。廣摩訶衍。增廣波羅蜜力。顯現一切菩薩行海。善能淸淨圓滿大願。能令出生淸淨普門莊嚴法門生大悲力。時善財童子。從功德雲比丘。聞法歡喜。頭面禮足。遶無數帀。眷仰顧戀。辭退南行。爾時善財童子。一心正念善知識教。智慧光明菩薩法門。菩薩三昧。觀察一切菩薩諸方便海圓滿功德。心常樂見一切菩薩。念一切佛次第興世淸淨功德。漸趣南方海門國土。詣海雲比丘。頭面禮足。右遶畢。退住一面。白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。欲度一切智慧大海。而未知菩薩云何離生死性。得不退轉生如來家。度生死海。逮得如來一切智海。捨凡夫地。得如來地。斷生死流。入菩薩流。滅諸趣輪。滿諸願輪。降伏衆魔。具佛功德。竭愛欲海。長大悲海。閉諸惡道。開天人路。諸解脫門。出三界城。到一切智城。捨離一切玩好之具。發弘誓願。攝取衆生。爾時海雲比丘。告善財言。善男子。汝已發阿耨多羅三藐三菩提心耶。答言唯然。善男子。若不深植善根。則不能發阿耨多羅三藐三菩提心。得普門善根。普照光明法門。長養正道。三昧慧光。出生種種功德海藏。長白淨法。未曾退失。親近善知識。恭敬供養。不惜身命。無所藏積。離諸高慢。心安不動。猶如大地。大慈愍念一切群生。遠離一切諸生死門。好樂佛境界者。能發菩提心。大悲心救護一切衆生故。大慈心安樂一切衆生故。無疲倦心滅一切衆生諸苦惱故。饒益心滅一切衆生不善法故。無畏心除滅一切諸惱害故。無礙心滅一切障故。廣大心充滿一切法界故。無邊心等虛空界故。廣心見一切如來故。淸淨心於三世法智不違故。智心究竟一切智海故。善男子。我住此海門國。十有二年。境界大海。觀察大海。思惟大海無量無邊。思惟大海甚深難得源底。思惟大海漸漸深廣。思惟大海無量妙寶而莊嚴之。思惟大海無量水聚。思惟大海水色種種不可思議。思惟大海大身衆生之所依止。思惟大海水性所居。思惟大海大雲彌覆。思惟大海未曾增減。善男子。我如是思惟時。復作是念。世間頗更有法廣此大海。深此大海。莊嚴於此大海者不。作是念已。卽見海底水輪之際。

辨明作辯

百下元明俱有萬字

妙寶蓮華自然涌出。伊那尼羅寶爲莖。閻浮檀金爲葉。沈水香寶爲臺。碼碯寶爲鬚。彌覆大海。百萬阿脩羅王。悉共執持百萬摩尼寶莊嚴網羅。覆其上。百萬龍王。雨以香水。百萬迦樓羅王。銜妙寶繒帶。垂下莊嚴。百萬羅刹王慈心觀察。百萬夜叉王。恭敬禮拜。百萬乾闥婆王。讚歎供養。百萬天王。雨天香華末香幢幡妙寶衣雲。百萬梵王。稽首敬禮。百萬淨居天。各敬禮已合掌而住。百萬轉輪王。七寶莊嚴。百萬海神王。從大海出恭敬禮拜。百萬夜光寶光明網。普照一切。百萬淨寶。百萬明淨寶。以爲莊嚴。百萬寶藏。出無量光明普照一切。百萬閻浮檀寶。安住莊嚴。百萬金剛師子寶。不可沮壞。清淨莊嚴。百萬日藏寶。明淨光明普照一切。百萬不可壞摩尼寶。出生長養一切善行。百萬如意寶珠。無盡莊嚴。彼寶蓮華如來無上善根所起。悉令一切菩薩諸願成滿。十方世界無不顯現。出生一切諸法如幻。從淨法生。無諍方便法之所莊嚴。行如夢法無爲法印。究竟到於無礙方便。普覆十方一切法界。唯佛境界。隨順世間。無量阿僧祇劫歎不可盡。見彼華上。有一如來。結跏趺坐。彼佛淨身。上至非想非非想天。無不充滿。見彼如來坐此莊嚴寶蓮華座。不可思議大衆圍遶。見不可思議圓滿光明莊嚴。見不可思議相好莊嚴。見不可思議神力自在。見不可思議如來妙色。見不可思議無見頂相。見不可思議廣長舌相。念不可思議清淨音聲。思惟不可思議圓滿音聲。見不可思議如來諸力解了不可思議清淨無畏。解了不可思議一切諸辯。憶念菩薩過去不可思議大劫本行。見不可思議菩提自在。見不可思議正法雲。見不可思議普門莊嚴身。見不可思議身左右端嚴。見辨一切不可思議事饒益衆生。時彼如來卽申右手。而摩我頂。說普眼經。唯是如來境界。出生一切菩薩淨行。普照一切法界。攝取圓滿一切法界。普照一切嚴淨佛刹。降伏一切衆魔外道。悉令一切衆生歡喜。普照一切衆生所行。隨其所應無不顯現。普照一切衆生根輪。善男子。我從佛聞此普眼經。皆悉受持讀誦通利。正念思惟。善男子。假使有人。以大海等墨。須彌聚筆。書寫此經。一一品。一一法門。一一方便。一一生法門。一一句中義味。猶不能盡。善男子。我於佛所。千二百歲聞受此經。於一一日受阿僧祇品多聞陀羅尼光明力故。究竟阿僧祇品。百門陀羅尼光明力故。攝取阿僧祇品無量旋陀羅尼光明力故。分別阿僧祇品隨順分別諸地陀羅尼光明力故。淨阿僧祇品嚴勝陀羅尼光明力故。出生阿僧祇品隨諭莊嚴陀羅尼光明力故。說阿僧祇品明

人三本俱作大

滿同作具〔捨

淨音聲陀羅尼光明力故.照阿僧祇品.虛空藏陀羅尼光明力故.廣阿僧祇品樹提沙陀羅尼光明力故.成阿僧祇品海藏陀羅尼光明力故.其有十方諸天天王.諸龍龍王.夜叉夜叉王.乾闥婆乾闥婆王.阿脩羅阿修羅王.迦樓羅迦樓羅王.緊那羅緊那羅王.人人王.梵天梵天王.若來聞我.我即爲彼開發顯現.分別讚說.悉令安住此普眼經.善男子.我唯知此一法門.豈能盡知菩薩諸行.何以故.諸菩薩等究竟一切行故.究竟大願海.一切劫海不斷絕故.入衆生海.應受化者悉隨順故.深入一切衆生心海.出生如來十力智光明故.悉知一切衆生諸根.隨所應化不失時故.入一切佛刹海.出生佛刹堅固願故.究竟恭敬供養一切佛海大願力故.度一切法海解脫智故.深入功德海.如說修行故.度一切衆生語言海.於十方刹轉法輪故.善男子.汝詣南方.六十由旬.有一國土名曰海岸.彼有比丘名曰善住.應往問彼.云何菩薩修淸淨行.時善財童子.頭面禮足遶無數帀.眷仰無量辭退南行.

爾時善財童子.正念善知識敎.正念普眼經.思惟彼佛自在神力.受持彼佛句味法雲.修習正法入深法海.盡法源底攝取勝法.除滅癡曀了法寶洲.至海岸國.周徧十方.推求大師.今在何所.見彼比丘經行虛空.阿僧祇天眷屬圍遶.時諸天衆.爲供養善住比丘故.於虛空中散諸天華.作衆妓樂出微妙音.阿僧祇寶藏莊嚴虛空.時諸龍王.爲供養故.興不可思議沉水香雲.徧滿虛空.緊那羅王.爲供養故.作諸妓樂出妙音聲.充滿虛空.諸海神王.爲供養故.嘯和稚音.阿脩羅王.爲供養故.興不可思議寶雲.莊嚴虛空.放不可思議光明.普照一切.以不可思議珍玩之具.莊嚴虛空.不可思議緊那羅王.充滿虛空.離殺害心.恭敬供養善住比丘.不可思議諸羅刹王.與諸惡形羅刹鬼等眷屬圍遶.充滿虛空.善住比丘大慈力故.不可思議諸夜叉王.與夜叉衆俱.充滿虛空.爲守護善住比丘故.周帀圍遶.不可思議諸梵天王.在虛空中合掌敬禮.以八音聲讚彼比丘.於一面住.不可思議諸淨居天.與宮殿俱.爲供養故.詣善住比丘.爾時善財童子.見虛空中如是供養.合掌敬禮善住比丘.白言大聖.我已先發阿耨多羅三藐三菩提心.而未相菩薩云何正向佛法.專求佛法.恭敬佛法.修諸佛法.長養佛法.積集佛法.熏修佛法.淨諸佛法.徧淨佛法.至諸佛法.我聞大聖善能敎授諸菩薩法.云何菩薩修習佛法.常見諸佛.未曾遠離.常見菩薩同其善根.不離佛法智慧.滿足.不捨大願.於一切衆生究竟其事.於一切劫修菩薩行.心無疲倦.不捨佛刹.

明作離

呪三本俱作祝次亦同

堂下明有坐於說三字○論三本俱作法○子下同有之字

普能莊嚴一切世界．悉能相見諸佛自在．不離有爲修菩薩行．悉了如幻入一切趣．現受生死者無起滅．常聞正法未曾遠離．悉能受持諸佛法雲．不離慧光普照三世．爾時善住比丘．告善財言．善哉善哉．善男子．乃能發阿耨多羅三藐三菩提心．能問佛法一切智法及無師法．善男子．我已成就菩薩無礙法門．我已修習分別明了．逮得無礙明淨慧光．得慧光已．觀察一切衆生心行無所障礙．觀一切衆生死此生彼無所障礙．於宿命智無無障礙．於未來智無所障礙．於現在世知一切衆生無所障礙．於一切衆生語言法中無所障礙．若一切衆生來問難者悉能應答無所障礙．知一切衆生根無所障礙．敎化衆生無所障礙．分別了知一切刹那羅婆摩睺姤路無所障礙．於三世海無所障礙．己身充滿十方佛刹無所障礙．何以故．依無所有無作神通力故．善男子．我得此神通力故．於虛空中行住坐臥．遊騰十方．於一念中．徧至東方一佛世界百佛世界千佛百千佛無量佛世界．乃至不可說不可說諸佛世界．閻浮提微塵等世界．乃至不可說不可說佛刹微塵等世界．悉得覩見彼世界中一切諸佛及其眷屬．以一切華香末香塗香．寶鬘幢幡．雜綵繒蓋．衆妙寶網．一切形像．供養彼如來應供等正覺．彼諸如來所可開現．宣明讚歎．悉聞受持．分別通達．彼佛所有過去淨刹．我悉憶念．南西北方四維上下亦復如是．若有衆生得見我者．皆悉畢定阿耨多羅三藐三菩提．如我所見．一切衆生若大若小．若好若醜若苦若樂．爲化度故．隨其所應現同彼身．若有衆生來至我所．悉令安住於此正法．善男子．我唯知此一無礙法門．云何能說菩薩修大悲戒．諸波羅蜜戒．乘大乘戒．不捨菩薩道戒．滅障礙戒．菩薩藏戒．不捨菩提心戒．一切佛法深心戒．念一切智不忘失戒．如虛空戒．一切世間無所依戒．不可壞戒．無譬諭戒．不濁戒．不雜戒．離疑戒．淸淨戒．離塵戒．離垢淨戒．善男子．菩薩有如是等無量功德．我豈能知如實解說．善男子．於此南方．有一國土名曰自在．城名呪藥．彼有良醫名曰彌伽．汝詣彼問．云何菩薩向菩薩行．時善財童子．禮善住比丘足．乃至辭退南行．爾時善財童子．一心正念法光法門．具足法力正念諸佛．不斷三寶歎離欲性．念善知識．普照三世．念諸大願．究竟一切法界衆生．於一切有爲心無所著．觀察一切諸法無常．悉能嚴淨一切佛刹．心無懈怠．於一切佛及其眷屬．心無所著．漸至彼國．入呪藥城．求良醫彌伽．今在何所．爾時童子．見彼良醫處正法堂．論師子座．與一萬大衆前後圍遶．爲說輪字莊嚴

諂下元明俱有良字

方下元明俱有便字

光經。時善財童子。詣醫彌伽。頭面禮足。右遶畢。退住一面。合掌白言。大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何向菩薩行。云何學菩薩行。云何於生死中。常能不失菩提之心。云何得平等心。而無所趣。云何逮得堅固正直之心。一切世間無能壞者。云何生大悲力而無憂惱。云何證淨普門陀羅尼力。云何生智慧光。於一切法除滅癡闇。云何證諸辯力。分別諸法眞實之藏。云何得正念力。受持一切淸淨法輪。未曾忘失。云何得淨趣力。於一切趣普照諸法。云何得智慧力。於一切法得決定智了眞實義。爾時良醫。謂善財言。善男子。汝已先發阿耨多羅三藐三菩提心耶。答言唯然。爾時良醫下師子座。五體投地敬禮善財。禮已。散妙金華。諸雜寶華。無價摩尼。勝末栴檀。無價寶衣。而以覆之。以如是等衆妙供具而供養之。敬重讚歎。作如是言。善哉善哉。善男子。乃能發阿耨多羅三藐三菩提心。善男子。若有能發阿耨多羅三藐三菩提心者。則爲守護一切佛性。嚴淨一切諸佛刹性。化衆生性。爲一切衆生說如法性。順一切業性。成滿一切菩薩行性。不斷一切諸大願性。解離欲性。智慧明淨普照三世一切法性。建解脫性。爲一切佛之所護持。一切諸佛常共護念。善能隨順一切菩薩。一切賢聖皆悉隨喜。爲一切梵王恭敬禮拜。一切諸天恭敬供養。一切夜叉王之所建立。一切羅刹王恭敬供養。一切龍王而頂戴之。一切緊那羅王敬心讚歎。一切世界王皆悉敬念。彼爲安慰一切衆生。滅三惡道。遠離衆難。救拔一切貧窮根本。安置天人快樂之處。遇善知識未曾遠離。聞佛妙法發菩提心。因淨菩提心枝。得明淨光照菩薩道。順菩薩智住菩薩地。善男子。當知菩薩能爲一切衆生。作甚難事。難値難見。爲一切衆生而作父母。莊嚴衆生攝取一切諸天世人。除滅衆生無量苦難。守護衆生遠離憂惱。菩薩爲大風輪。安持衆生。不令墜落三惡道故。菩薩爲大地。生長一切諸善根故。菩薩爲大海。具足無盡功德藏故。菩薩爲日。明淨慧光普照世間滅癡闇故。菩薩爲須彌山王。功德善根最高大故。菩薩爲月。令一切衆生悉淸涼故。菩薩爲大將。悉能降伏一切魔故。菩薩爲善丈夫。於法城中爲君王故。菩薩爲火。能燒衆生諸貪愛故。菩薩爲雲。雨甘露法故。菩薩爲正見。悉能長養諸妙根故。菩薩爲方顯法海故。菩薩爲橋。令諸衆生度生死海故。爾時良醫。偏揚讚歎善財童子及諸菩薩。已卽從口中放大光雲。普照三千大千世界。照已。時大千世界大神力天乃至諸梵天等。悉詣良醫。時彼良醫。卽爲方便隨順分別廣演顯

身明作深

佛下三本俱無心字

現。說輪字莊嚴光經。時彼大衆。聞此經已。於阿耨多羅三藐三菩提。得不退轉。所應作已還昇本座。告善財言。善男子。我已成就所言不虛法門。分別了知三千大千世界諸天語言。諸龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等一切語言。如此三千大千世界。十方無量無邊不可說不可說三千大千世界。亦復如是。善男子。我唯知此菩薩所言不虛法門。云何能說諸菩薩行。彼諸菩薩隨順深入衆生一切相海。隨順深入衆生一切施設海。隨順深入諸名號海。隨順深入諸語言海。隨順深入諸句相續海。隨順深入諸解說句次第海。隨順深入諸解說句相續次第海。隨順深入諸如來海。隨順深入分別諸句海。隨順深入一切衆生諸語言海。逮得一切圓滿莊嚴微妙音聲。出生分別諸文字輪。善男子。於此南方有一國土名曰住林。彼有長者名曰解脫。汝詣彼問。云何菩薩。向菩薩道修菩薩道。成菩薩道思菩薩道。時善財童子。於良醫所聞此法門。發深淨信心。恭敬於法。決定知見。因善知識得薩婆若。頭面禮足。乃至辭退南行。爾時善財童子。正念菩薩所言不虛法門。入菩薩語言海。念一切衆生微細方便海。思惟菩薩諸垢淨法。出生菩薩善根光明。淨修菩薩敎化衆生巧方便門。明淨菩薩攝衆生智。堅固菩薩正直心力。長養菩薩深心之力。淨修菩薩種種欲力。信菩薩心。遠離諸惡願。心堅固。以大莊嚴而自莊嚴。心無疲倦。勇猛精進。心不退轉。具不可壞淨信心力。金剛那羅延。所不能壞。攝取一切善知識敎。無礙境界皆悉清淨。無垢境界妙心現前。逮得普眼方便光明陀羅尼地。了法界地心常現前。知平等地非地。莊嚴清淨不著我所無二境界。逮得清淨無礙智慧。了知法地無所障礙。知諸方地而不退轉。分別了知一切業地。嚴淨顯現諸佛大地。得智慧輪分別三世。逮得普樂光明三昧。徧照身心。順至一切諸境界地。如來智慧普照境界。與起一切智慧波浪身。常不離佛法勢力。爲諸如來之所護持。其心悉與一切佛等。隨順智慧普照一切。其身充滿一切刹網。成就大願。己身容受一切法界。如是念已。漸漸遊行。經十二年至住林國。周徧推求解脫長者。見已禮足。於一面住。作如是念。我得善利。見善知識。善知識者出興世難。至其所難。得値遇難。得見知難。得親近難。得共住難。得其意難。得隨順難。念已白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。欲値一切佛。欲見一切佛。欲得一切佛意。欲知一切佛心。欲得一切諸佛三昧。隨順一切佛一切大願。欲滿一切佛一切大願。欲求一切佛智慧光明。

道三本倶作行

王元明倶作主

告明作吉

欲自身中出一切佛。欲得諸明知一切佛自在神通。欲淨一切佛力無畏法。欲聞一切佛法心無厭足。欲受一切佛法。欲持一切佛法。欲分別一切佛法。欲護一切佛教。欲與一切諸菩薩同。欲與菩薩同善根友。欲具菩薩諸波羅蜜。欲滿一切諸菩薩行。欲發菩薩清淨大願。欲得一切諸佛菩薩因緣法藏。欲得一切菩薩無量法藏智慧光明。欲得一切菩薩諸三昧藏。欲出生一切菩薩諸通明藏。欲發大悲藏教化衆生無有窮盡。欲分別知遊戲神通藏。欲分別知自在之藏。欲於自在藏心得自在。欲清淨十種藏一向專求此諸功德詣長者所。欲滿諸願。欲超出生死。欲得自在法。欲具恭敬門。欲具方便門。欲遠離諸垢。欲清淨莊嚴。欲身心柔輭。欲調伏諸根。白言。我聞大聖善教菩薩方便正道。普照一切顯現妙法。云導津濟開正法門。除滅顚倒拔疑惑刺。心離迷垢照除重闇。離諸煩惱永得清涼。棄捨諂曲超出生死。離不善根長養善根。遠離諸趣無所染著。滅一切障求薩婆若。到法王城。其心安住大慈大悲。教菩薩行修諸三昧。其心安住隨順法門。發廣大心具足諸力。照明一切諸群生心。唯願大聖。爲我分別云何菩薩。向菩薩道修菩薩道。既修習已。令速清淨菩薩之行。具成菩薩圓滿淨行。時解脫長者。以過去善根力佛威神力文殊師利憶念力故入菩薩三昧門。其三昧門名攝一切佛刹無量旋陀羅尼。入已得清淨身。於其身內。十方各見十佛世界微塵等佛及嚴淨刹。一切大衆過去所行彼諸如來神力自在。一切大願功德之具。諸清淨行莊嚴正道。成等正覺轉淨法輪。教化衆生究竟諸法。於其身內皆悉顯現。而無雜亂不相障礙。如本相住。形色不同。種種莊飾。菩薩大衆圍遶莊嚴。顯現一切諸佛自在。說諸願門。示現無量自在神力。或於一刹處兜率天。而作佛事。或於一刹示現命終。或現受胎。或現處胎。顯自在力。或現出生。或現處中宮。或現出家。或現往詣莊嚴道場。或現降魔。或現成佛。或現天宮夜叉乾闥婆諸世界王。大衆圍遶請轉法輪。或現轉法輪。或現入諸趣。或現般涅槃。或現分舍利。或現起塔種種莊嚴。彼諸如來爲種種衆生諸衆生海種種方便種種根種種煩惱習氣。或於小衆而現大衆。所謂一由旬衆現十由旬衆。乃至不可說佛刹微塵等由旬衆。而爲說法。彼諸如來以微妙音所說正法。善財童子悉聞受持。又見彼佛自在神力不可思議菩薩三昧。爾時解脫長者從三昧起。告善財言。善男子。我已成就如來無礙莊嚴法門。得此法門已。覩見東方閻浮檀光世界星宿王如來應供等正覺明

化元明俱作華

提元明俱作薩

淨藏菩薩等一切大衆。又見南方諸力世界。普香如來應供等正覺。心王菩薩等一切大衆。又見西方香光世界。須彌燈王如來應供等正覺。無礙心菩薩等一切大衆。又見北方聖服幢世界。自在神力無有能壞如來應供等正覺。自在勢菩薩等一切大衆。又見東北方一切樂寶世界。無礙眼如來應供等正覺無礙化菩薩等一切大衆。又見東南方香燄光世界。香智如來應供等正覺自在慧燄光菩薩等一切大衆。又見西南方普照慧日世界。法界輪幢如來應供等正覺。散一切化幢菩薩等一切大衆。又見西北方普淨現世界。一切佛寶無上幢如來應供等正覺法幢王菩薩等一切大衆。又見上方無盡佛性世界。無量慧光圓滿幢如來應供等正覺法界地幢王菩薩等一切大衆。又見下方佛解脫光世界。無礙慧幢如來應供等正覺。一切衆生世界幢王菩薩等一切大衆。善男子。我見十方各一萬佛刹微塵等如來。彼諸如來不來至此。我不往彼。善男子。我若欲見安樂世界無量壽佛。隨意卽見。妙樂世界阿閦如來。善住世界師子如來。善現圓滿光明世界月慧如來。寶師子莊嚴世界毗樓遮那如來。善男子。如是等一切諸佛。隨意卽見。彼諸如來不來至此。我不往彼。知一切佛無所從來。我無所至。知一切佛及與我心皆悉如夢。知一切佛悉如電光。了知己心如水中像。知一切佛皆悉如幻。己心亦爾。知一切佛音聲如響。己心亦爾。如是知。如是解。如是入。善男子。當知菩薩皆由己心。得諸佛法修菩薩行。淨一切刹教化衆生。出諸大願一切智城。遊戲神通不思議門。諸佛菩提一切自在無礙境界。皆由己心。具甚深智了一切法。是故善男子。以諸善根增長己心。雨甘露法潤澤其心。於境界中令心清淨。勤修精進令心堅固。專念正法令心不亂。智慧明淨遠離心垢。明淨慧光照察其心。生自在心發廣大心。與諸佛等。如來十力以照其心。善男子。我唯修此如來無礙法門。云何能說菩薩諸行。無障礙智。無礙淨行。安住觀察現在諸佛三昧。得無涅槃三昧。具足三世平等正法。善知平等三昧境界之地。具足淨身住諸佛住。不壞境界。一切諸方法門境界。智門圓滿。智慧觀察。普照一切。於己身中悉現一切世界成壞。而於己身及諸世界不生二想。究竟衆行功德具足。善男子。於此南方。有一國土名曰莊嚴閻浮提頂。彼有比丘名曰海幢。汝詣彼問。云何菩薩。向菩薩道修菩薩行。時善財童子。頭面敬禮解脫長者足。右遶畢。讚歎無量阿僧祇功德。眷仰觀察。心無厭足。悲泣流淚。專念善知識。順善知識。觀善知識。由善知

識得一切智．於善知識遠離諂曲．於善知識發慈母心．遠離一切無益法故．於善知識發慈父心．能生一切諸善法故．辭退南行

# 大方廣佛華嚴經卷第四十六

三本倶第四十七爲第四十八

# 大方廣佛華嚴經卷第四十七

〔麗問〕〔宋道〕〔元道〕〔明道〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅譯

## 入法界品第三十四之四

爾時善財童子。正念思惟解脱長者敎。念不可思議菩薩法門。思惟不可思議菩薩慧光。隨順深入不可思議甚深法界。攝取菩薩不可思議淨妙功德。顯現如來不可思議自在神力。解了不可思議莊嚴佛刹。分別知佛不可思議住持莊嚴安住境界。思惟不可思議菩薩境界三昧莊嚴。分別不可思議世界究竟無礙。向不可思議菩薩堅固淨業深心受持不可思議淨業諸願。漸趣南方至莊嚴閻浮提頂國。周徧推求海幢比丘。見在靜處結跏趺坐三昧正受滅出入息。身安不動寂然無覺。從其足下出阿僧祇長者。阿僧祇婆羅門。皆悉頂冠衆寶天冠各齎妙寶上味飮食一切寶衣香華寶鬘末香塗香資生之具。攝諸貧窮安慰撫接。雨衆寶物。令一切衆生皆大歡喜充滿十方。從其兩膝出刹利婆羅門。皆悉聰慧。形色威儀服飾莊嚴皆悉不同。以微妙音訓導衆生離惡修善住眞實義。説四攝法。令衆生歡喜充滿十方。從腰兩邊出一切衆生數等五通仙人。或服草衣或樹皮衣。皆執澡瓶持三奇杖。威儀庠序無有變異。遊行虚空讃歎三寶。爲衆生説清淨梵行。調伏諸根演眞實義。攝取世間。令諸衆生入智慧海。又復演説世間諸論。令次第住一切善根。充滿十方。從其兩脇出不可思議龍。不可思議龍女。顯現不可思議諸龍自在。攝取衆生。雨不可思議香莊嚴雲。華莊嚴雲。鬘莊嚴雲。寶蓋莊嚴雲。寶幡莊嚴雲。衆寶莊嚴雲。無價摩尼寶莊嚴雲。寶瓔珞莊嚴雲。寶座莊嚴雲。寶宮殿莊嚴雲。寶蓮華莊嚴雲。寶冠莊嚴雲。天形像莊嚴雲。天女莊嚴雲。雨如是等雲。各不可思議。普照十方一切世界。而以供養一切如來。普令衆生皆大歡喜。充滿法界。從胷德字出無量阿僧祇阿脩羅王。示現阿脩羅王不可思議自在神力。震動一切諸大海水及百千世界。令諸

奇元明倶作岐

高同作僑

婆下三本俱無女字

辨明作辦下同

王三本俱作主

山王皆相衝擊。震動一切諸天宮殿。映蔽一切諸魔光明。悉如聚墨。降伏一切諸魔軍衆。除滅衆生放逸高慢。離怒害心滅不善法。壞煩惱山棄捨戰諍。又以神力覺悟衆生。厭離諸惡永絕生死。不著諸趣普令衆生常樂寂滅。住菩提心。淨菩薩行。住諸波羅蜜。究竟菩薩地。照一切法。普照諸佛方便之法。充滿法界。從其背出阿僧祇聲聞緣覺。應以二乘化衆生故。著我見者敎不淨觀。貪欲多者敎慈心觀。瞋恚多者敎緣起觀。愚癡多者敎方便智觀察諸法。爲等分者說無著法。著境界者說妙願境界。樂寂滅者敎入諸趣饒益衆生。充滿法界。從其兩肩出阿僧祇諸夜叉王。諸羅刹王。種種惡身。長短形色。乘種種乘。各與其衆而自圍遶。其有衆生能行善者。及衆賢聖諸菩薩等。若向正道若得果證。皆悉防衛而守護之。或作金剛力士守護諸佛及佛住處。若有衆生。遭諸恐怖。亦防護之悉令無畏。諸疾病者令得除愈。諸在難者悉令解脫。除滅橫死離諸熱惱。敎化衆生令得實利。壞生死輪讚歎法輪摧外道輪。充滿法界。從其腹出百千阿僧祇緊那羅王。各與百千阿僧祇阿僧祇緊那羅女眷屬圍遶。出百千阿僧祇乾闥婆王。各與百千阿僧祇阿僧祇乾闥婆女眷屬圍遶。出百千阿僧祇天娛樂音。說實相法讚歎諸佛。僴導菩提及菩薩行。歎菩提門入法輪門。好樂一切自在法門。演說一切般涅槃門。攝持一切諸佛敎門。歡喜一切諸佛之門。嚴淨一切諸佛刹門。講說一切諸法界門。除滅一切諸障礙門。宣明一切諸善根門。充滿法界。從其口出百千阿僧祇轉輪聖王。七寶具足四兵圍遶。放無慳光雨摩尼寶。諸貧苦者悉令富樂。無財施者令得惠施。爲諸群生歎離殺盜邪婬之法。修習慈心。常說愛語。饒益衆生。除滅妄語。遠離惡口。攝取衆生。遠離兩舌說和合語。離無義語說甚深法。悉令衆生遠離口過。讚歎大悲。令衆生歡喜離瞋恚心。分別世間一切正法。觀察因緣照明眞諦。拔諸群生邪見毒刺。除滅疑惑離一切障。明法實義。充滿法界。從其兩目出百千阿僧祇日普照十方滅一切闇。悉令衆生除滅垢曀。遠離一切惡道苦毒。令寒者得溫。於垢濁佛刹。放明淨光。廣說乃至普照金銀瑠璃等一切世界及衆生類。除滅衆生心之重闇。悉令歡喜。能辨衆生無量事業。莊嚴一切世界。妙法境界。充滿法界。從其眉間出百千阿僧祇天王帝釋。無量雜寶以爲莊嚴。持釋王法。普照一切諸天宮殿。震動一切須彌山王。悉令諸天於天境界生厭離心。歎功德力明智慧力。起直心力長深心力。嚴淨志力堅固菩提心。遠離欲樂讚歎

力同作方

樂見一切諸佛．不歎樂境界樂．歎聞法樂．離世間樂．觀察諸法智慧之樂．離阿脩羅戰鬪恐怖．滅煩惱軍遠離死畏．願降衆魔興妙法山．說須彌山等廣大法句．能辦衆生無量事業．充滿法界．從其額上出無量梵天．妙色端嚴世界無倫威儀庠序．演出妙音讚歎諸佛勸請說法．令衆生歡喜．乃至能辦衆生無量事業．充滿法界．從其頭上．出阿僧祇諸菩薩衆．種種形色相好嚴身．放無量光網．現檀波羅蜜讚歎布施．遠離慳吝無所貪著．莊嚴一切世界．儞揚淨戒遠離惡戒．安立衆生菩薩律儀．歎大乘戒．出生大悲功德之藏．說一切有皆悉如夢．說五欲樂無有滋味．安立衆生離煩惱法．儞揚讚歎金色身業．讚歎慈心遠離殺害．滅畜生趣．歎多聞力．安立衆生於忍辱力．歎普照自在．遠離放逸．安立衆生於不放逸．歎禪波羅蜜．心得自在．拔邪見刺．讚歎正見．般若波羅蜜．樂智自在．歎隨世間遠離生死．而於諸趣自在受生．歎願力滿足．出諸通明自在壽命．讚歎一切陀羅尼力．出生願力．淨三昧力．現自在生．讚歎智慧．普照一切衆生諸根．分別演說諸心心行．照十力智．讚歎自在薩婆若．充滿法界．從其頂上．出百千阿僧祇佛身分．具足相好莊嚴．猶如金山．普照一切．出妙音聲充滿法界．顯現無量無邊神力自在．普雨一切甘露法雲．爲坐道場菩薩．雨平等法雲．爲灌頂菩薩．雨普門法雲．爲深忍菩薩．雨普莊嚴法雲．爲童眞菩薩．雨堅固山法雲．爲不退菩薩．雨海藏法雲．爲成就直心菩薩．雨普境界法雲．爲方便道菩薩．雨自性地音聲法雲．爲生貴菩薩．雨隨順世間法雲．爲修行菩薩．雨厭離法雲．爲治地菩薩．雨長養法藏法雲．爲初發心菩薩．雨精進法雲．爲信行者．雨無盡門法雲．爲色界衆生．雨無盡平等法雲．爲大梵天．雨普藏法雲．爲大自在天．雨生力法雲．爲魔天王．雨心幢法雲．爲化樂天．雨淨念法雲．爲兜率天．雨淨意法雲．爲夜摩天．雨歡喜法雲．爲帝釋天．雨莊嚴虛空法雲．爲夜叉王．雨歡喜法雲．爲乾闥婆王．雨自在圓滿法雲．爲阿脩羅王．雨大境界法雲．爲迦樓羅王．雨無量世界法雲．爲緊那羅王．雨饒益衆生勝智法雲．爲諸人王．雨不可樂法雲．爲諸龍王．雨歡喜幢法雲．爲摩睺羅伽王．雨寂靜法雲．爲地獄衆生．雨不亂念莊嚴法雲．爲諸畜生．雨智慧法雲．爲閻羅王處．雨無畏法雲．爲餓鬼處．雨正希望法雲．悉令衆生向賢聖門．充滿法界．彼諸如來．一一毛孔．各放阿僧祇淨光明網．阿僧祇妙色．阿僧祇莊嚴．阿僧祇境界．辦阿僧祇事．充滿十方．爾時善財．一心觀察海幢比丘．念彼三昧法門．思惟不可思議菩薩

境界.思惟無量無作現在莊嚴普門法門.觀察法界莊嚴智慧.依佛智住.出菩薩力.建菩薩願力.增廣菩薩諸行.如是正立觀察一日一夜.乃至七日七夜.半月一月.乃至六月六日.過此以後.海幢比丘從三昧起.爾時善財.歎未曾有.合掌白言.甚奇大聖.如此三昧最爲甚深.如此三昧最爲廣大.如此三昧境界無量.如此三昧不可思議神力自在.如此三昧不可稱量.如此三昧慧光明淨.如此三昧阿僧祇莊嚴.以爲莊嚴.如此三昧境界不可壞.如此三昧無有退轉.如此三昧普照十方一切世界.如此三昧具有無量義趣方便.大聖.其有菩薩入此三昧.能爲一切除滅衆苦.永絕地獄餓鬼畜生一切楚毒.遠離諸難.令天人趣悉得寂靜.令衆生歡喜.常樂甚深禪定境界.厭離有爲.超出三界.發菩提心.長養智慧功德因緣.長養彌廣無上大悲.生大願力.照菩薩道.智慧莊嚴大波羅蜜.究竟出生大乘境界.智慧徧照普賢所行.得菩薩諸地智慧光明.具一切菩薩淸淨願行.證一切智境.大聖.此三昧者.名爲何等.善男子.此三昧名普眼捨得.又名淸淨光明般若波羅蜜境界.又名淸淨莊嚴普門.善男子.修習般若波羅蜜故.得此三昧.得此三昧時.即得百萬阿僧祇三昧.大聖.此三昧唯有此功德境界.復有餘耶.善男子.此三昧者.分別一切世界.無所障礙.究竟一切世界.無所障礙.遊行一切世界.無所障礙.莊嚴一切世界.無所障礙.修治一切世界.無所障礙.嚴淨一切世界.無所障礙.見一切佛.無所障礙.觀一切佛功德.無所障礙.知一切佛自在神力.無所障礙.究竟一切佛力.無所障礙.度一切佛功德大海.無所障礙.雨一切佛淨妙法雲.無所障礙.度一切佛法.無所障礙.得一切佛轉法輪智不可破壞.無所障礙.得一切佛淸淨大衆海之源底.無所障礙.隨順普入十方世界.無所障礙.隨順觀察十方佛法.無所障礙.大悲攝取十方衆生.無所障礙.大慈充滿十方世界.無所障礙.見十方佛心無厭足.無所障礙.隨順徧入衆生大海.無所障礙.了知衆生一切根海.無所障礙.分別一切諸衆生海.無所障礙.善男子.我唯知此淸淨光明般若波羅蜜三昧法門.云何能說諸大菩薩究竟之行.諸大菩薩皆悉深入智慧大海.善能分別淸淨法界.智慧究竟一切法趣.慧光無量.充滿一切.得大陀羅尼自在光明.一切三昧圓滿淸淨.出生一切自在通明.深入一切無盡辯海.雷震一切諸地音聲.悉能救護一切衆生.我尚不能說彼所行.況其功德.顯其境界.說其境界.照其法門.明其積聚諸功德藏.說其正道.諸三昧流平等智慧.善男子.

立元明俱作意〇以三本俱作已

大元明俱作六

境下同有界字

流元明俱作海

衣宋作丞

藏明作幢○柱
同作住

絞三本俱作交

於此南方有一住處。名曰海潮。彼有園林名普莊嚴。有優婆夷名曰休捨。汝詣彼問。云何菩薩。修菩薩
道。時善財童子。歡喜無量。於海幢比丘所。不堅固中而得堅固。於不實中而得眞實。究竟功德妙藏境界。得明淨
智。普照一切。逮得甚深三昧光明。到淨解脫方便。觀察一切世界。淨諸法門。明淨智慧。普照十方。頭面禮足遶無
數帀。眷仰觀察辭退南行。爾時善財童子。正念思惟海幢比丘。心未曾捨。樂見無厭。顧戀聖音。目想慈顏。正念思
惟。其心境界。三昧境界。願行境界。正念思惟明淨智慧。敬善知識。向善知識。念善知識。敬於善知識起愛恭敬。又
作是念。因善知識得見諸佛。善知識者。開示顯現一切佛法。善知識者是奇特法。令人得見諸佛法故。善知識者
爲明淨眼。令人見佛如虛空故。善知識者爲善津濟。令人於佛華池得源底故。漸漸南行至海潮處。見普莊嚴園
林。七寶垣牆周帀圍遶。諸妙寶樹行列莊嚴。一切華樹雨華如雲布散其地。香樹芬馨普薰十方。鬘樹垂鬘寶樹
雨寶徧布莊嚴。衆寶衣樹彌覆一切。諸音樂樹出微妙音。以如是等諸珍玩具而以莊嚴。此園林中有一萬講堂
衆寶合成。一萬樓閣閻浮檀金以覆其上。一萬宮殿毘樓遮那寶藏莊嚴。一萬浴池衆寶合成。七寶欄楯周帀圍
遶。八功德水湛然盈滿。閻浮檀金沙淨水寶珠徧布池底。四面寶階端嚴齊正。寶多羅樹周帀行列。鳧鴈鴛鴦孔
雀哀戀異類衆鳥遊戲其中。出和雅音。覆以金網。風自然起出微妙聲。設衆寶帳寶樹周遍。建阿僧祇殊勝寶幢。
放大光明照百由旬。百萬池沼黑栴檀泥凝積池底。生寶蓮華充滿其中。從彼蓮華出大光明普照一切。彼園林
中有大宮殿名莊嚴幢。海藏妙寶以爲其地。瑠璃寶柱莊嚴殊妙。巍巍高大猶若金山。衆生見者無不喜樂。有阿
僧祇淨摩尼寶普照一切。出自然香。謂明相香。香王香。覺悟香等。數衆寶座。謂蓮華藏座。照諸方藏座。明淨藏座。
衆生悅樂藏座。師子藏座。離垢寶藏座。不思議藏座。普門摩尼妙寶藏座。光嚴藏座。大海藏座。金剛師子藏座。無
量總牖妙寶莊飾。又張一萬衆妙寶帳。謂寶衣帳。妙寶華帳。寶樹枝帳。摩尼寶帳。金帳。莊嚴帳。香帳。娛樂帳。自在
龍王帳。馬王帳。釋天莊嚴寶帳。一萬寶網絞絡其上。謂金鈴網。　寶蓋網。衆寶像網。海藏珠網。青瑠璃摩尼寶網。
師子吼網。月摩尼網。香像網。衆寶山網。寶王網。一萬光明普照世界。謂夜光摩尼光明。日藏摩尼淨寶光明。月幢
摩尼妙寶光明。香燄光明。妙藏摩尼寶光明。鉢曇摩光明。夜光摩尼淨寶光明。大燈摩尼淨寶光明。普照諸方摩

大同作火

錠三本俱作定

功元明俱作福

尼光明。又出十種大香雲光。雨十種雲。出過諸天。謂十種黒栴檀雲。十種曼陀羅華雲。十種莊嚴雲。十種寶雲。十種雜色衣雲。十種寶雲。十種天子雲。十種天女雲。十種菩薩雲。常樂聞法。爾時休捨優婆夷處金色藏座海藏寶莊嚴網羅覆其身。吉由羅莊嚴出過諸天。大摩尼網莊嚴其首。師子珠寶無量如意淨摩尼寶嚴飾其身。無量億衆恭敬圍遶合掌而住。東方無量衆生。諸梵天王梵身大梵梵輔他化自在天王。乃至人及非人一切諸王。來詣其所。南西北方四維上下亦復如是。其有得見此優婆夷者。一切衆病皆悉除愈。心淨離垢拔邪見刺。除滅障礙淨無礙地。於彼地中長養善根成就諸根。方便攝一切智。一切陀羅尼門。一切三昧門。皆現在前。發一切願門。究竟一切行門。出生一切淨門。其心廣大。出世一切通。得無礙身靡所不至。爾時善財童子。入普莊嚴園林。周徧觀察。見休捨優婆夷處金色座。往詣其所。頭面禮足遶無數帀。白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行。修菩薩道。唯願爲我具足演說。答言善男子。我唯成就一法門。若見聞念知親近我者。皆悉不虛。善男子。若有衆生。不種善根。不親近善知識。不爲諸佛所護念者。後諸衆生不能見我。善男子。若有衆生。能見我者。則於阿耨多羅三藐三菩提得不退轉。東方諸佛常來我所。處寶師子座爲我說法。南西北方四維上下一切諸佛悉來我所。處寶師子座爲我說法。善男子。我常見諸佛菩薩。未曾遠離。善男子。我此大衆有八萬四千億菩薩。皆我同行於阿耨多羅三藐三菩提得不退轉。此普莊嚴園林一切衆會。亦於阿耨多羅三藐三菩提得不退轉。善財白言。大聖。發菩提心來。爲久如耶。答言。善男子。我念過去。於錠光佛所。出家求道淨修梵行。恭敬供養聞法受持。次於離垢佛所。出家求道淨修梵行。恭敬供養聞法受持。次於妙幢佛。妙德佛。功德藏佛。毗樓遮那佛。普眼佛。梵壽佛。自在佛。善ㇷ佛。善男子。我於如是等三十六恒河沙佛所。出家求道淨修梵行。恭敬供養聞法受持。了知一切諸佛智慧。初發菩薩心。充滿法界。無量大悲攝取衆生。發諸菩薩無量大願。究竟十方法界。無量大悲普覆衆生。於一切刹一切劫中。修習菩薩無量諸行無量三昧力。不捨不轉菩薩正道。菩薩無量陀羅尼力。善能護持一切衆生。菩薩無量淨智慧力。方便正念普照三世。菩薩無量諸通明力。徧遊一切諸世界網。菩薩無量諸辯才力。能以一言悅一切衆。善男子。我有菩薩無量自在神力。能以一身滿一切刹。善財白言。大聖久如

見元明俱作良

當成阿耨多羅三藐三菩提。善男子。菩薩不爲教化一衆生故發菩提心。不爲教化百衆生。乃至不爲教化不可說不可說轉衆生故發菩提心。廣說如阿僧祇品。不爲教化一世界衆生故發菩提心。乃至不爲教化不可說不可說世界衆生故發菩提心。不爲教化閻浮提微塵等衆生故。不爲教化三千大千世界微塵等衆生故。乃至不爲教化不可說不可說三千大千世界微塵等衆生故發菩提心。菩薩不爲恭敬供養一如來故發菩提心。乃至不爲恭敬供養不可說不可說諸如來故發菩提心。菩薩不爲淨一剎故發菩提心。乃至不爲淨不可說不可說剎故發菩提心。菩薩不爲淨閻浮提微塵等剎故發菩提心。乃至不爲淨不可說不可說三千大千世界微塵等剎故發菩提心。菩薩不爲護持一佛法故發菩提心。廣說如上。菩薩不爲滿一願故發菩提心。不爲莊嚴一剎故。不爲知一佛眷屬故不爲受持一佛法故。不爲知一衆生心海故。不爲度一衆生根海故不爲知一世界諸劫次第成敗故。不爲知一衆生煩惱習氣故。不爲斷一衆生煩惱故。不爲滿一衆生行故。發菩提心。欲教化一切衆生故發菩提心。欲恭敬供養一切諸佛。欲嚴淨一切佛剎。欲守護受持一切佛法。欲滿足一切大願。欲知一切佛眷屬。欲知一切衆生心海。欲知一切衆生心心所行。欲知一切衆生諸根輪。欲知一切世界一切劫數次第成敗。欲知一切衆生煩惱習氣。欲斷一切衆生煩惱。欲滿一切衆生行故發菩提心。善男子。略說菩薩有如是等百萬阿僧祇方便法門。菩薩悉應究竟了知。隨順智慧。究竟修習菩薩等行。淨一切佛剎。心無倒惑。善男子。是故我發此願。淨一切剎。我願乃滿。斷一切衆生煩惱習氣。我願乃滿。大聖。此法門者。名爲何等。善男子。此法門名離憂安隱幢。我唯知此法門。諸大菩薩其心如海。悉能容受一切佛法。我當云何能知其行。諸菩薩心堅固正直。如須彌山。諸大菩薩則爲見藥。若有見者除滅煩惱。諸大菩薩則爲淨日。除滅一切衆生癡闇。諸大菩薩則爲大地。悉能載持一切衆生。諸大菩薩則爲智風。長養一切衆生實義。諸大菩薩則爲自在。以淨智光普照一切。諸大菩薩則爲慶雲。隨其所應雨甘露法。諸大菩薩則爲淨月。放諸功德光明之網。諸大菩薩則爲帝釋。悉能守護一切衆生。我當云何能知其行。善男子。於此南方有一國土。名曰海潮。彼有仙人名毗目多羅。善能解說菩薩諸行。汝詣彼問。時善財童子。頭面禮足遶無數帀。觀察無厭悲泣流淚。正念思惟。得菩提難。遇善知識難。得與上人共同止難。得

不上同有光字

菩薩諸根難。滿足菩薩正直心難。値遇同意善知識難。觀眞實難。如法正敎難。出生妙心難。念一切智難。長養法明難。作是念已。辭退南行。爾時善財童子。思惟隨順菩薩正敎。淨菩薩行。心能長養菩薩德力。心見諸佛。心欲菩提。心能發起長養大願。心照十方一切諸法。心見法實。心覆一切無有散亂。心淨智慧。觀諸法界除滅癡闇。心淨正直除滅障礙。心能降伏一切衆魔。漸漸遊行至海潮國。周徧推求仙人毗目多羅。時彼仙人在大林中。阿僧祇樹莊嚴此林。寶葉普覆。諸華果樹常以嚴飾。寶樹雨寶徧散其地。大栴檀樹周帀行列。諸沈水樹常出妙香。尼拘律樹。閻浮檀樹。雨甘香果。優鉢羅。鉢曇摩。分陀利華。以爲莊嚴。爾時善財。見彼仙人在此林中。服樹皮衣縈髮草座。一萬仙人以爲眷屬。如栴檀林栴檀圍遶。往詣其所五體敬禮。念善知識能開導我薩婆若門。念善知識現眞實道。念善知識能安置我一切智地。念善知識然智寶燈。明淨慧光長養十力智慧光明。善知識道卽一切智無盡之藏。善知識爲燈。照一切智境界故。善知識爲橋。度生死故。善知識爲蓋。生大慈力覆一切故。善知識爲不虛。照一切法眞實相故。善知識爲海潮。滿足大悲故。作是念已。遶無數帀合掌而立。白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行。修菩薩道。時彼仙人。觀察大衆而作是言。汝等當知。此童子者。已發阿耨多羅三藐三菩提心。請一切衆生普施無畏。饒益一切衆生。向深智海。欲飲一切諸佛法雨。欲盡一切法海源底。欲成世間智慧大海。欲興大悲重雲。欲雨甘露法雨。欲出世間明淨智月。欲滅世間諸煩惱闇。欲長養一切衆生善根。爾時大衆。各持種種金色妙華香可悅樂。散童子上。頭面禮足曲躬敬遶。作如是言。此童子者。悉能救護一切衆生。滅三惡道。離閻羅趣一切諸難。消竭欲海除滅苦陰。捨愚癡闇斷貪愛縛。能昇功德金剛圍山。建立世間智慧須彌。於世間出明淨智日。顯曜一切善根諸法。示導世間明識善惡。時彼仙人。告大衆言。若有能發阿耨多羅三藐三菩提心者。得一切智。淨一切佛功德之地。時彼仙人告善財言。善男子。我已成就菩薩無壞幢智慧法門。善財白言。大聖。彼法門者。境界云何。時彼仙人卽申右手摩善財頂。摩已執善財手。卽時善財自見其身。在於十方十佛世界微塵等佛所。見彼諸佛相好莊嚴。以阿僧祇寶珍玩之具。莊嚴其剎。又見彼佛眷屬大海。所從聞法悉能受持。乃至不失一句一味。分別受持正法梵輪。受諸法雲入佛大願。淨修諸力淸淨願行。究竟諸功

三本俱爾時已下爲卷第四十九入法界品第三十四之五〇處元明俱作法〇至處三本俱作處至

德藏。見彼諸佛。隨應化度一切衆生。見一切佛淸淨圓滿大光明網。見已隨順無礙智慧光明。究竟佛力。或自見身於一佛所。一日一夜。或復自見於餘佛所七日七夜。如是次第。於餘佛所。或有半月一月一歲百歲千歲。或百千歲百千億歲。或百億那由他歲。或半劫一劫百劫千劫百千劫。或百億那由他劫。乃至不可說不可說那由他劫。或閻浮提微塵等劫。乃至不可說不可說世界微塵等劫。爾時善財。爲無壞幢智慧法門照故。得明淨藏三昧。無盡法門三昧照故。得遊一切方陀羅尼光明。金剛圓滿光明法門照故。得分別智意樓閣三昧。住平地莊嚴法藏般若波羅蜜精進照故。得佛虛空藏三昧光明。一切諸佛法輪三昧光明相照故。得三世圓滿智無盡光明。時彼仙人放善財手。爾時善財卽自見身還在本處。時彼仙人問善財言。汝憶念耶。答言唯然。大聖善知識力故。善男子。我唯知此菩薩無壞幢智慧法門。我豈能知大菩薩行。諸大菩薩。皆得一切衆生自在三昧。於一切時輪而得自在。出生諸佛無盡智慧。證一切佛嚴淨慧燈。於一念中了三世事。於一切世間現淨慧身。充滿法界。隨衆生所應悉現其前。了知一切衆生所行。圓滿淸淨悉可愛樂。我豈能知大菩薩行。妙功德願。嚴淨佛刹。善察論機。智慧境界。甚深三昧。神力自在。解脫境界。遊戲神通。法身音聲。究竟智慧。如是等事非我境界。善男子。於此南方。有一國土。名曰進求。有婆羅門名方便命。汝詣彼問云何菩薩向菩薩道。修菩薩道。時善財童子。歡喜無量。恭敬禮已遶無數帀。瞻仰觀察辭退南行。爾時善財童子。爲無壞幢智慧法門所照。決了諸佛不可思議自在神力。善知菩薩不可思議法門。又不可思議菩薩三昧智慧。以照其心。得一切時三昧光明。得一切相三昧境界光明。得明淨智。令一切衆生得勝妙處。得一切至處道法門。隨順世間行。心無有二。以明淨智普照境界。得一切聲聞明淨忍藏。得無生忍。知法實相。常行菩薩行。不捨菩薩心。增長薩婆若心。得十力明普照一切。樂妙法音心無厭足。如說修行住薩婆若。究竟一切智境界。出生無量菩薩莊嚴心。滿足菩薩淸淨大願。於一念頃。徧至一切諸佛刹網。敎化成熟無量衆生海。心無懈倦。悉見菩薩無量行境界。悉分別見一切世間。見諸佛刹種種莊嚴。於微細境界。悉能安置無量世界。又能見彼種種莊嚴。悉能分別無量世界諸語言法。又知無量衆生欲樂。知諸衆生無量所行。以無量方便敎化衆生。善知殊方。隨其所應化度衆生。念善知識漸漸遊行至進求國。周徧推求彼婆羅門。時

崖明作峻

身下元明俱有時字

婆羅門．修諸苦行求一切智．四面火聚猶如大山．中有刀山高崖無極．從彼山上自投火聚．爾時善財．詣婆羅門．頭面禮足合掌而立．白言大聖．我已先發阿耨多羅三藐三菩提心．而未知菩薩云何學菩薩行．修菩薩道．願爲我說．答言．善男子．汝今若能登此刀山投火聚者．菩薩諸行皆悉清淨．爾時善財．作如是念．得人身難．離諸難難．得無難難．得淨法難．値佛世難．具諸根難．聞佛法難．遇善知識難．得與同止難．得聞正敎難．得正命難．順趣正法難．此將非魔魔所使耶．非善知識而現善知識相．將非惡菩薩耶．而今爲我作壽命難．作善根難．薩婆若難．此非正敎險惡道耳．遠離法門薩婆若等一切佛法．作是念時．十萬梵天在虛空中．作如是言．善男子．莫作是念．莫作是念．此是大聖．具足金剛智慧光明．精進不退．悉已究竟一切境界．欲竭一切衆生貪愛大海．欲裂一切諸邪見網．欲燒一切衆生煩惱．除滅愚闇普照一切．令一切衆生離生死險難．除滅三世愚癡闇冥．放淨光明普照一切．時諸梵天及自在天．衆生主天等諸邪見天．作如是言．我造衆生．我爲一切世間最勝．成爲最上．我爲第一．是諸天等．見婆羅門修大苦行．五熱炙身．見如是已．各於諸禪不得滋味．來詣其所．時婆羅門．以自在力而爲說法．令滅邪見捨離我心．發大慈悲普覆衆生．長養菩提正直之心．開四種道求佛法身．隨所應化悉能示現．佛微妙音一切悉聞無有障礙．復有一萬魔．在虛空中．以種種摩尼寶華散婆羅門．告善財言．善男子．此婆羅門苦行力故．放大光明．令我宮殿諸莊嚴具悉如聚墨．我不復樂．卽與無量諸天天女眷屬圍遶來詣其所．爲我說法．悉於阿耨多羅三藐三菩提得不退轉．復有一萬他化自在天．在虛空中．各持天華恭敬供養．作如是言．善男子．此婆羅門苦行力故．放大光明．令我宮殿諸莊嚴具悉如聚墨．我不復樂．卽與眷屬來詣其所．爲我說法．令我於心而得自在．於煩惱中而得自在．於受生中而得自在．除滅障礙而得自在．於一切三昧而得自在．於莊嚴具而得自在．於壽命中而得自在．乃至令我於一切佛法而得自在．復有一萬化自在天．在虛空中．以天妓樂恭敬供養．作如是言．善男子．此婆羅門五熱炙身．放大光明．照我宮殿及莊嚴具．照已悉令我等不樂五欲．不求欲樂．身心柔軟．與眷屬俱來詣其所．爲我說法．淨心．明淨心．善奇特心．柔軟心．歡喜心．乃至逮得清淨十力．長養離生．出生無量清淨之身．乃至得佛清淨法身．得清淨口．微妙音聲徧至一切無所障礙．乃至得一切智．復有一萬兜率陀天．與

高三本俱作憍

荼明作茶次亦同

蹴宋元俱作胡明作敬

其眷屬在虛空中雨一切末香雲恭敬供養作如是言善男子此婆羅門五熱炙身時我自於宮殿不樂須臾來詣其所爲我解說無著之法少欲知足長養善根發菩提心乃至究竟一切佛法復有一萬諸天三十三天及阿脩羅與眷屬俱在虛空中雨曼陀羅華雲摩訶曼陀羅華雲恭敬供養作如是言善男子此婆羅門五熱炙身時我於天樂不須臾樂著來詣其所爲我說法遠離欲樂乃至爲我說無常法變易不住斷除一切放逸|高慢長養發起菩提之心又善男子我見此婆羅門時須彌山頂六種震動我於爾時心大恐怖專求一切智復有一萬大龍王伊那槃那難陀跋難陀等興黑栴檀香雲諸龍王女出妙樂音雨天華雲天香水雲恭敬供養作如是言善男子此婆羅門五熱炙身時放大光明普照一切龍王宮殿令諸龍王離熱沙苦金翅鳥怖滅瞋恚熱身體清涼發歡喜心發喜心已而爲說法厭惡龍趣至誠悔過除滅業障發阿耨多羅三藐三菩提心乃至住一切智復有一萬夜叉王種種供養此婆羅門及以善財作如是言善男子此婆羅門五熱炙身時我及羅刹鳩槃|荼等悉於衆生發大慈心無所嬈害慈心力故不樂宮殿與眷屬俱來詣其所彼婆羅門以大慈心蔭覆我等令我歡喜身心柔軟安隱快樂爲我說法乃至令無量夜叉羅刹鳩槃|荼等發阿耨多羅三藐三菩提心復有一萬乾闥婆王在虛空中作如是言善男子此婆羅門五熱炙身時放大光明照我宮殿悉令我等得不思議樂來詣其所爲我說法乃至令發阿耨多羅三藐三菩提心得不退轉復有一萬阿脩羅王在虛空中右膝|蹴跪一心合掌恭敬供養作如是言善男子此婆羅門五熱炙身時一切阿脩羅宮殿大地大海皆悉震動我等爾時除滅高心來詣其所爲我說法遠離一切諂曲幻心得深法忍安住不動具足十力復有一萬迦樓羅王勇力持等化爲外道童子在虛空中作如是言乃至爲我說法安立大慈讚歎大悲度生死海沒於五欲泥者歎淨直心門生慧方便翅隨其所應皆悉化度復有一萬緊那羅王在虛空中作如是言善男子此婆羅門五熱炙身時於我寶多羅樹中金鈴網中寶瓔珞中諸寶樹中種種樂器中自然演出微妙音聲佛聲法聲比丘僧聲不退轉諸菩薩聲菩提心聲某方某國有某菩薩發菩提心修行苦行修大布施莊嚴道場往詣道場成正覺聲善男子我聞是聲卽大歡喜來詣其所爲我說法令無量衆生於阿耨多羅三藐三菩提得不退轉復有無量欲界諸天在虛空中供養恭敬

作如是言。善男子。此婆羅門五熱炙身時。放大光明。乃至普照阿鼻地獄。除滅苦痛。若有衆生見斯光者命終生天。知報恩故捨五欲樂。來詣其所樂觀無厭。爲我說法。乃至令無量衆生發菩提心。爾時善財童子。聞奇特法。心大歡喜。於婆羅門所發起眞實善知識心。頭面禮足。如是白言。向疑聖教。違知識教。唯願大聖受我悔過。時婆羅門。爲善財童子。而說偈言

欲求菩提者　當順知識教　除滅諸疑惑　一心常恭敬　修習於正道　知法眞實相　安住於道場
成就佛菩提

爾時善財童子。即登刀山自投火聚。未至中間。即得菩薩安住三昧。既至火燄。復得菩薩寂靜安樂照明三昧。得三昧已。白言。甚奇大聖。如是刀山及大火聚。我身觸時安隱快樂。時婆羅門。告善財言。善男子。我唯成此菩薩無盡法門。明淨法王。諸菩薩行。滿足諸願。悉滅衆生煩惱邪見。得不退轉。不可盡心。離懈怠心。一切無畏得金剛那羅延藏。究竟大境界。無有疲倦。遠離諸垢。不動如風輪。精進不退。以大莊嚴而自莊嚴。饒益衆生。如是法門。我當云何能知能說。善男子。於此南方有城名師子奮迅。有一童女名彌多羅尼。汝詣彼問云何菩薩學菩薩行。修菩薩道。時善財童子。頭面禮足遶無數帀。觀察無厭辭退南行

燄元明俱作聚
大下同有心字

# 大方廣佛華嚴經第四十七

# 大方廣佛華嚴經卷第四十八

〔麗問〕〔宋道〕〔元道〕〔明道〕

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅 譯

## 入法界品第三十四之五

爾時善財童子。起不可思議恭敬之心。好樂淨法專向大乘。求諸佛智親近如來。觀法境界無所障礙。決定實際住實境界。至三世際。解了三世如虛空際。決定了知三世法際。不作法際。住無礙際。不違業際。決定了知佛際非際。住如來住。滅一切妄想。不著一切佛。一切眷屬。一切世界。知一切衆生非我無實。一切音聲離語言道。解一切色猶如電光。漸漸南行。至彼城已。周徧推問彌多羅女。爲在何所。時有人答。今在師子幢王宮內。聞已卽詣門下。求見彼女。時無量人衆悉入宮中。善財問言。諸人今者爲詣何所。答言。我等欲詣彌多羅女聽受正法。爾時善財。作如是念。此王宮門。自在出入無所障礙。善財卽入。見彼女人處在明淨寶藏法堂。地玻瓈色。瑠璃爲柱。金剛爲壁。閻浮檀金欄楯窻牖。光明普照。阿僧祇摩尼寶而莊校之。又千寶藏摩尼寶鏡圓滿莊嚴。衆生所樂明淨妙寶。以爲嚴飾。又阿僧祇摩尼寶網羅覆其上。百千金鈴出微妙音。有如是等不可思議衆寶校具莊嚴講堂。見彼女人。身如眞金。目髮紺色。處淨水香寶師子座。覆以金網。敷衆寶衣。大衆圍遶。以梵音聲而爲說法。見已頭面禮足遶無數帀。合掌恭敬於一面住。白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行。修菩薩道。答言。善男子。汝諦觀此法堂莊嚴。爾時善財。見一一瑠璃柱中。一一金剛壁中。一一摩尼鏡中。一一形像中。一一寶中。一一莊嚴中。一一金鈴中。一一寶樹中。一一寶形像中。一一寶瓔珞中。悉見法界等一切如來。從初發心。修菩薩行。成滿大願。功德莊嚴。成等正覺。轉淨法輪。乃至示現無餘涅槃。如淨水中見月影像。善財童子。於一切境界莊嚴具中見一切佛。從初發心。乃至示現無餘涅槃。亦復如是。皆是彼女過去善根依果力故。爾時善財。

恒下同有河字

方下元明俱有便字○言語三本俱作語言

門下元明俱有出世間法陀羅尼門八字

盡三本俱作量

正念諸佛。恭敬合掌。白言大聖。此何法門。答言。善男子。是般若波羅蜜普莊嚴法門。我於三十六恒沙佛所。修此法門。彼諸如來各以異門。令我入此般若波羅蜜普莊嚴法門。善財白言。大聖。此法門者。境界云何。答言。善男子。我入此法門。正念思惟。分別受持。生平等時。得普門陀羅尼等百萬阿僧祇陀羅尼門。以爲眷屬。所謂佛刹陀羅尼門。佛陀羅尼門。法陀羅尼門。衆生陀羅尼門。過去陀羅尼門。未來陀羅尼門。現在陀羅尼門。安住實際陀羅尼門。功德陀羅尼門。功德具陀羅尼門。智陀羅尼門。知具陀羅尼門。諸願陀羅尼門。分別諸願陀羅尼門。行陀羅尼門。修集行陀羅尼門。淨行陀羅尼門。滿足行陀羅尼門。業陀羅尼門。不違業陀羅尼門。業流陀羅尼門。業所作陀羅尼門。遠離惡業陀羅尼門。向正業陀羅尼門。業自在陀羅尼門。善行陀羅尼門。善行三昧陀羅尼門。三昧陀羅尼門。隨順三昧陀羅尼門。分別三昧陀羅尼門。無壞三昧陀羅尼門。諸通明陀羅尼門。心海陀羅尼門。種種心陀羅尼門。淨心地陀羅尼門。普照重惡心陀羅尼門。心喜調御師陀羅尼門。發起衆生陀羅尼門。煩惱陀羅尼門。習氣陀羅尼門。煩惱方便陀羅尼門。欲陀羅尼門。衆生所行陀羅尼門。衆生種種業行陀羅尼門。衆生世間自性陀羅尼門。衆生相陀羅尼門。方陀羅尼門。說法陀羅尼門。大悲陀羅尼門。大慈陀羅尼門。寂滅陀羅尼門。諸言語道陀羅尼門。方便非方便陀羅尼門。隨順陀羅尼門。分別陀羅尼門。攝取陀羅尼門。無礙實際陀羅尼門。普陀羅尼門。佛法陀羅尼門。菩薩法陀羅尼門。緣覺法陀羅尼門。聲聞法陀羅尼門。世間法陀羅尼門。世界起陀羅尼門。世界滅陀羅尼門。世界形色陀羅尼門。淨世界陀羅尼門。垢世界陀羅尼門。於淨世界現垢濁刹陀羅尼門。於垢世界現淸淨刹陀羅尼門。純淨世界陀羅尼門。純垢世界陀羅尼門。平等世界陀羅尼門。飜覆世界陀羅尼門。伏住世界陀羅尼門。入因陀羅網陀羅尼門。迴轉世界陀羅尼門。住相陀羅尼門。小處置大陀羅尼門。大處置小陀羅尼門。分別佛身陀羅尼門。放佛莊嚴光明網陀羅尼門。分別如來圓滿音聲陀羅尼門。佛正法輪陀羅尼門。生佛法輪陀羅尼門。分別佛法輪陀羅尼門。無壞佛法輪陀羅尼門。無辯法輪陀羅尼門。向佛法輪陀羅尼門。能作佛事陀羅尼門。向諸佛衆陀羅尼門。分別諸佛大衆陀羅尼門。諸佛無盡大眷屬海陀羅尼門。普照佛力陀羅尼門。如來三昧陀羅尼門。如來三昧神力自在陀羅尼門。究竟佛事陀羅尼門。住佛所在陀羅尼門。佛持陀羅尼門。佛

化陀羅尼門．佛知衆生心心所行陀羅尼門．佛神力自在陀羅尼門．住兜率天陀羅尼門．乃至示現入般涅槃陀羅尼門．饒益無量衆生陀羅尼門．諸甚深法陀羅尼門．諸莊嚴法陀羅尼門．菩提心色法方便陀羅尼門．菩提心起色陀羅尼門．願色陀羅尼門．行色陀羅尼門．通明色陀羅尼門．出生死色陀羅尼門．清淨智色陀羅尼門．清淨慧色陀羅尼門．菩提無量色陀羅尼門．自心淨色陀羅尼門．善男子．我唯知此般若波羅蜜普莊嚴法門．諸大菩薩心如虛空．入深法界功德成滿．安住出世法．遠離世間行．具足清淨離癡慧眼．決定了知無量法界．智慧無量與虛空等．得無礙眼．於一切境界無所障礙．住無礙地藏普照一切．善能分別一切法義．一切世間無能壞者．行世間行無所染著．善巧方便饒益攝取一切衆生．隨其所應悉能示現．於一切時轉正法輪而得自在．如是功德我當云何能知能說．善男子．於此南方．有一國土名曰救度．彼有比丘名曰善現．汝詣彼問．云何菩薩學菩薩行．修菩薩道．時善財童子．頭面禮足．遶無數帀．辭退南行．爾時善財童子．正念思惟菩薩深法門．思惟甚深法界．思惟甚深法地．思惟甚深衆生．思惟甚深諸行．思惟甚深衆生心流．思惟甚深衆生如光．思惟甚深諸法之性．思惟甚深衆生語法．思惟甚深法界圓滿莊嚴．思惟甚深種諸業行．思惟甚深世間業所莊飾．漸漸遊行至救度國．於城都聚落村邑市里．仙人住處山林曠野．周徧推求善現比丘．見彼比丘在林經行．形貌端嚴顏容姝妙．其髮右旋如紺青色．頂有肉髻身色紫金．其目長廣如青蓮華．脣口丹色如頻婆果．頸項圓直脩短得所．胷有德字．勝妙莊嚴．七處平滿．其臂纖長．手指縵網．金輪莊嚴．[月*庸]髀鹿腨．腰腹不現．師子上身如淨居天．其身圓滿如尼拘樹王．相好莊嚴．如雪山王．出諸良藥．圓光一尋．諸根調伏．目視安諦．智慧無礙．猶如大海．其心不動．一切世間．所不能壞．天龍八部恭敬圍遶．彼比丘經行時．地天持地步天．出寶蓮華隨覆其迹．無盡圓滿天．除滅衆闇．覺天．雨雜華雲．不動藏天．現諸寶藏．普光勝虛空天．莊嚴虛空．妙德海天．散寶供養．離垢藏須彌山天．合掌禮侍恭敬供養．無礙力天．起香華風雲而供養之．夜天．以莊嚴身五體敬禮．常覺日天．持明淨寶幢．莊嚴虛空除滅闇冥．爾時善財往詣其所．頭面禮足．白言大聖．我向阿耨多羅三藐三菩提．求菩薩行．我聞大聖．善能開導諸菩薩道．云何菩薩學菩薩行．修菩薩道．願分別說．答言．善男子．我年既少出家日近．自我生來．於三十八恒沙佛所．淨修梵行．或於一

間明作界

流下三本俱有注字○光下同有影字

髀三本俱作䏶○腨同作踹

財下宋明俱有童子二字

歲下三本俱無億字

說下元明俱有不可說三字

淨上同有清字〇一明作足

佛所。七日七夜淨修梵行。或餘佛所。半月一月。一歲百歲。億那由他歲。乃至不可說不可說歲。或一小劫半劫一劫。或阿僧祇劫。乃至不可說不可說阿僧祇劫。淨修梵行。彼諸佛所。聞法受持。不違其敎。莊嚴諸願。究竟淨修菩薩諸行。具足六波羅蜜。知菩提境界。知種種法輪。守護佛法。乃至正法滅盡。嚴淨一切諸佛世界。出生三昧大願力故。究竟菩薩一切淨行。出生菩薩一切行願力故。淨一切佛諸波羅蜜。出生普賢諸行力故。善男子。我不離此經行處。悉見十方。智慧無礙故。一切法界。悉現在前。於一念中。過不可說不可說諸世界故。於一念中。嚴淨不可說諸佛世界。出生大願力故。不可說不可說衆生方便門。悉現在前。具十力智。出生普賢菩薩行願力故。見不可說不可說諸佛。悉現在前。於一念中。恭敬供養不可說不可說世界微塵等佛恭敬供養如來。願力故。能聞受持不可說不可說諸佛法雲。分別了知阿僧祇諸法趣。出生法輪陀羅尼力故。不可說不可說菩薩行。悉現在前。一切諸行皆悉淸淨。滿足菩薩因陀羅網行願力故。不可說不可說諸三昧海。悉現在前。一切三昧皆悉淨。滿一三昧。出生一切三昧力故。不可說不可說諸根海。皆現在前。一切根輪。隨順時輪。出生安住諸根際願力故。不可說不可說時輪。悉現在前。能一切時轉淨法輪。出生究竟衆生願力故。一切三世海。悉現在前。分別一切世界三世。出生隨順智慧光明願力故。善男子。我唯知此隨順菩薩燈明法門。諸金剛燈菩薩生諸作家。具足成就不死命根。無盡智慧。成無壞身。肢體具足。隨其所應悉能顯現。具妙形色世無倫匹。毒刃火烖所不能害。身如金剛不可沮壞。降伏衆魔。制諸外道。身眞金色超出世間。隨其所應無不聞見。普觀世間雨甘露法。普照一切滅諸障礙。見者無厭。拔斷一切諸不善根。起妙善根。難遇難見。我當云何能知能說彼功德行。善男子。於此南方。有一國土名曰輸那。彼有童子名釋天主。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行。修菩薩道。時善財童子。專求菩薩莊嚴正道。菩薩諸力照心修行。菩薩無壞無盡諸功德行。成滿菩薩堅固大願。以大莊嚴而自莊嚴。一切無畏。不退堅固正直之心。受持一切菩薩行雲。受持菩薩正法之雲。而無厭足。恭敬一切菩薩功德。攝取一切衆生。常欲超出生死曠野。樂欲見聞恭敬親近。於善知識心無厭倦。頭面禮足恭敬無量。隨順敎誨辭退南行。爾時善財童子。與天龍大衆眷屬圍遶。至輸那國。周徧推求釋天主童子。時虛空中有諸天龍。而告之曰。善男子。此童子。在善域門外河水之側。

挊三本俱作弄
利明作梨次同
百下元明俱有千字
弘三本俱作彌
涼明作淨

爾時善財。見釋天主與一萬童子|挊沙嬉戲。卽詣其所。頭面禮足遶無數帀。合掌恭敬於一面住。白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行。修菩薩道。唯願解說。答言。善男子。文殊師利。敎我相黶子法。算數法。印法。我因知此三種法故。得一切巧術智慧法門。善男子。我因此法門故。知黶子算數印性。疾病中毒。爲鬼所著。諸魔所持。悉能消伏。立大小城都邑聚落善惡之相。田業商估一切衆生身肢節相。善趣惡趣行業之相。知此衆生之於善趣。知此衆生之於善趣。此聲聞。此緣覺。此如來地。諸方便相。如是等事我悉了知。普令衆生修學此法。復次善男子。我亦了知菩薩算數之法。所謂百千爲一羅叉。百千羅叉爲一拘|利。百千拘利爲一那由他。廣說如阿僧祇品。善男子。若有無量|百由旬等大砂聚。我悉分別算知其數。善男子。如算法能知沙聚。算知東方一切世界。南西北方四維上下亦復如是。算知一切世界中。一切劫一切佛。一切法。一切菩薩。一切業。算數了知。一切世界中。一切四諦名號。亦復如是。善男子。我唯知此巧術智慧法門。諸大菩薩深入一切算數法門。算數一切法。深入三世算數之法。算數一切衆生。算數一切法。算數一切佛。算數一切佛名號。算數一切菩薩。一切算數轉自在輪。菩薩我當云何能知能說彼功德行。發明境界。讚歎諸力。顯正直心。說功德具說諸大願。顯現清淨諸波羅蜜。說功德藏勝妙智慧。善男子。於此南方。有城名曰海住。有優婆夷名曰自在。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行。修菩薩道。時善財童子。聞善知識敎歡喜無量。得未曾有奇特正直心寶。其心|弘廣普覆衆生。得算數諸佛次第出世自在法門。淨法圓滿智慧究竟。分別顯現一切諸趣。於三世境界無所障礙出世無盡功德海心。得大智慧自在光明。斷三界縛。頭面禮足。右遶三帀。辭退南行。爾時善財童子。於善知識心無厭足。猶如大海呑納衆流。善知識日。明淨慧光開發其心。猶蓮華敷。長養一切善根萌芽莖節枝葉功德大樹。善知識月。能以清|涼敎法光明。除衆熱惱。善知識者如夏雪山。衆獸所集樂。善知識心。猶如大海衆寶充滿。善知識敎。長養法身。如閻浮樹華果具足。心常樂住。善知識敎法。譬如龍王於虛空中神變自在。善知善敎起大寶山。顯現一切。以善知識敎而自圍遶。猶如帝釋降阿脩羅無能壞者。漸漸遊行至海住城。周徧推求自在優婆夷。時有人言。善男子。此優婆夷。在此城中深宮之內。善財聞已。往詣宮門敬心而立。彼優婆夷所住之所。廣博嚴飾。衆寶垣墻。周帀圍遶。開

殊三本俱作姝
衆同作寶
膳同作欲
座同作坐

置四門．阿僧祇寶以爲莊嚴．善財進入見優婆夷．處師子座年在盛美．容色殊妙．觀者無厭．除莊嚴具．素服被髮．身色光明．除佛菩薩餘無能及．於其宮內敷十億牀出過天人．菩薩宿世行業所造．衣服飲食衆妙寶物諸莊嚴具．常開四門周給一切而無窮盡．一萬女衆眷屬圍遶．容色威儀悉如諸天．猶如莊嚴衆妙寶樹．口常演出天妙音聲．敬樂觀察此優婆夷．禮拜供養．彼諸女身．常出妙香普熏大城．若有聞者．皆得不退菩提之心．無怒害心．無怨敵心．無慳嫉心．無幻僞心．無諂曲心．無貪愛心．無瞋恚心．無懈怠心．無量心．平等心．大慈心．益衆生心．淨持戒心．無欲求心．聞彼音聲皆悉歡喜身心柔輭．其有見者皆得離欲．爾時善財．頭面禮彼優婆夷足．敬心右遶於一面住．白言大聖．我已先發阿耨多羅三藐三菩提心．而未知菩薩云何學菩薩行．修菩薩道．答言善男子．我成就無盡功德藏莊嚴法門．以一器食施百衆生．隨其所欲皆得充滿．千衆生．百千衆生．億衆生．千億衆生．百千億衆生．那由他衆生．百那由他衆生．百千那由他衆生．乃至不可說不可說衆生．閻浮提微塵等衆生．乃至不可說不可說佛刹微塵等衆生．隨其所欲皆悉充滿而無損減．又復施與上味美膳．輦輿衣服華鬘妙香末香塗香寶莊嚴具．又施牀座車乘妙蓋幢幡．如是等種種諸物．隨其所欲悉令充滿皆大歡喜．善男子．於東方一世界．乃至不可說不可說世界．閻浮提微塵等世界．乃至不可說不可說佛刹微塵等世界中．一切聲聞緣覺食我食已．悉成道果．又於東方．乃至不可說不可說佛刹微塵等世界中．一生補處菩薩．食我食已．降魔成道．南西北方四維上下亦復如是．善男子．汝見我此一萬眷屬女不．唯然已見．善男子．如是等百萬阿僧祇菩薩．悉我同行．同願．同善根．同修道．同欲性．同淨正念．同清淨趣．同善根無量．同得諸根．同心依果．同境界．同正趣離生．同眞實義．同明正法．同具菩薩清淨妙色．同無量力．同堅精進．同正法音．同語言道．同諸功德．同清淨業．同清淨報．同清淨大悲救護一切．同清淨業不違因緣．同清淨口業．於一切佛衆隨其所應悉爲說法．同恭敬供養諸佛．同決定知一切諸法．同得菩薩清淨諸地．此諸菩薩．取我器食．於一念頃徧遊十方．供養一切聲聞緣覺菩薩諸佛．及施餓鬼悉令滿足．而我器食無所損減．善男子．我此器食．隨應諸天悉令充滿．乃至施人亦復如是．善男子．且待須臾汝自見之．善財即見無量人衆從四門入．彼優婆夷皆令安坐．隨所適樂悉令充悅．善男子．我唯得此無盡功德藏莊嚴

城三本俱作藏

三本俱爾時已下爲卷第五十入法界品第三十四之六

法門.諸大菩薩無盡功德藏海.猶如虛空.以無量功德熏修其心.如隨意寶.滿足一切衆生願故.大功德城悉滅一切諸貧苦故.功德須彌雨衆寶故.大功德藏開法城門故.功德燈明滅貧闇故.大功德蓋勝妙善根覆一切衆生故.我當云何能知能說彼功德行.善男子.於此南方有城.名曰大興.彼有長者名甘露頂.汝詣彼問云何菩薩學菩薩行.修菩薩道.時善財童子.頭面禮足無遶數帀.憶念不捨辭退南行.爾時善財童子.得無盡功德光明法門.正念思惟彼功德海.觀察彼虛空功德.趣彼功德聚.登彼功德山.攝彼功德藏.盡彼功德底.度彼功德海.城彼圓滿功德.周徧觀察彼諸功德.隨彼功德藏.持彼功德.敎淨彼功德性.漸漸遊行至大興城.周徧推求長者甘露頂.樂求善知識.以善知識熏其身心.於善知識起正直心.觀善知識常無厭足.學善知識勇猛精進.求善知識一切善根.同善知識一切善根.於善知識無嫌恨心滿功德藏.學善知識種種方便.雖不由他悟.而常親近諸善知識.長諸善根.淨修菩提正直之心.增長一切菩薩諸根.成就一切善根.滿足大願.發廣大悲.近一切智.不離諸佛.增長普賢菩薩所行.如來光明常照其心.爾時善財.見甘露頂.於彼城內.處七寶堂阿僧祇寶師子座上.金剛伊尼羅寶以爲座足.離垢寶藏而以校飾.五百寶像以爲莊嚴.建衆寶幢.垂衆繒幡.張衆寶帳.無量寶網羅覆其上.有人手執閻浮檀金蓋.瑠璃爲竿.復有執持離垢寶佛.侍立左右.衆妙雜香而以熏之.雨天華雲.作五百種勝妙妓樂.娛樂城內.一萬大衆周帀圍遶.顏容姝妙天人無倫.成就菩薩直心.莊嚴衆生.悉常隨順甘露頂.敎宿世同修諸善根故.爾時善財.頭面禮足遶無數帀.恭敬合掌於一面住.白言大聖.我爲利益一切衆生故.發阿耨多羅三藐三菩提心.所謂滅一切衆生苦惱.令安隱住究竟快樂.度生死海到法寶洲.銷竭貪愛.修大悲念.除五欲渴樂一切智.令究竟度生死曠野.常樂一切諸佛功德.超出三界至薩婆若城.而未知菩薩云何學菩薩行.修菩薩道.攝一切衆生.長者答言.善哉善哉.童子.乃能發阿耨多羅三藐三菩提心.若能發心學菩薩道.修菩薩行.此人難得.求善知識.見善知識.親近恭敬.於善知識其心不退而無厭足.善男子.汝見我此一萬眷屬不.唯然已見.我本爲彼說種種法.令發阿耨多羅三藐三菩提心.生如來家.修白淨法.滿足無量諸波羅蜜.具佛十力.離世間姓立如來姓.壞生死輪.轉淨法輪.滅三惡道.立正法趣.善男子.當知菩薩悉能救護一切衆生.善男子.我成就此如

意功德寶藏法門。隨其所須悉滿彼願。謂以衆寶車乘象馬僮僕。衣服飲食香華末香。燈明湯藥幢幡繒蓋。隨意眷屬天冠寶飾。一切珍玩資生之具。盡給施之。乃至以法廣施衆生。善男子。且待須臾。汝自見之。卽時善財。見諸方國城邑聚落。一切衆生來詣其所。悉命令坐。時甘露頂。仰視虛空。隨諸來會一切所須。悉從空下。滿足其願。既充願已。爲說正法。悉令長養諸功德藏。消生死愛渴仰佛法。乃至具足大人味味之相。滅貧窮苦富甘露財。降伏衆魔無能壞者。成就十力無上智慧。如是等類。悉滿願已。皆大歡喜。隨所來方各還本處。善男子。我唯知此如意功德寶藏法門。諸大菩薩具足一切自在功德。成就寶手覆一切刹。雨無量雲。謂衆寶雲。種種色莊嚴雲。種種色寶天冠雲。種種色衣雲。種種妙聲雲。種種華雲。種種周羅摩尼寶雲。種種色香雲。種種色蓋雲。種種色幢幡雲。皆悉充滿一切世界一切佛刹。一切諸佛及其眷屬。爲教化一切衆生。令供養一切佛故。我當云何能知能說彼菩薩行顯其自在。善男子。於此南方有城。名師子重閣。彼有長者。名法寶周羅。汝詣彼問云何菩薩學菩薩行。修菩薩道。時善財童子。歡喜踊躍。頭面敬禮。遶無數帀。如弟子法。作如是念。因善知識。得一切智。於善知識生無壞心。聞善知識教。悉能隨順。調伏諸根。作是念已。辭退南行。爾時。善財童子正念如意功德寶藏法門。守護彼功德藏。淨彼功德須彌山王。得彼功德海之源底。開彼功德藏。觀彼功德藏。圓滿清淨彼功德藏。攝彼功德藏。出生長養彼功德藏力。漸漸遊行至於彼城。周徧推求長者法寶周羅。於道遇見。頭面禮足。合掌恭敬。於一面住。白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行。修菩薩道。時彼長者。執善財手。將詣其家。善男子。且觀我家。爾時善財。徧觀舍宅。悉閻浮檀金色。七寶爲牆。周帀圍遶。瑠璃莊嚴。硨磲爲柱。敷赤眞珠寶師子座。建師子寶幢。張瑠璃寶帳。如意珠網羅覆其上。阿僧祇寶而莊嚴之。馬碯寶池。八功德水盈滿其中。一切寶樹周帀圍遶。其宅廣大十重八門。爾時善財。見最下重。設衆肴膳。惠施一切。見第二重。施雜寶衣。見第三重。施惠一切寶莊嚴具。見第四重。施內眷屬。悉履善行巧於語言。見第五重。乃至五住菩薩。雲集其中。結集正法。離世間樂。出一切論。諸陀羅尼三昧法印。分別三昧智慧光明。見第六重。得般若波羅蜜菩薩充滿其中。具甚深智。得寂靜明智慧藏地無礙法門。超出三有境界無礙。念不二法。結集般若波羅蜜門。分別解說般若波羅蜜門。所謂寂滅藏

帀三本俱作徧
○肴膳三本俱作餚饍

出下明有巧字〇智下同有慧字

般若波羅蜜門。分別一切衆生般若波羅蜜門。不動轉般若波羅蜜門。離欲普照般若波羅蜜門。不可壞藏般若波羅蜜門。一切衆生淨眼般若波羅蜜門。海藏般若波羅蜜門。普眼般若波羅蜜門。一切無盡方便海般若波羅蜜門。隨順衆生普照無礙般若波羅蜜門。慶雲漸下般若波羅蜜門。結集如是等百萬阿僧祇般若波羅蜜門。彼菩薩衆。不可說莊嚴而莊嚴之。見第七重。響忍菩薩充滿其中。出方便智。悉能聞持諸佛法雲。見第八重。常住菩薩充滿其中。具諸神通。徧一切剎。照一切衆生。一切法界。具足法身。詣一切佛無所障礙。悉能受持一切佛法。見第九重。補處菩薩充滿其中。見第十重。一切如來充滿其中。從初發心修菩薩行。超出生死。滿足大願。神力自在。一切佛剎及其眷屬。轉淨法輪。化度衆生。顯現住持。爾時善財。見如是等奇特事已。白言大聖。我未曾見如是淸淨大衆。昔於何處種諸善根。今得如是勝妙果報。善男子。我憶過去。無量光明法界普莊嚴王如來應供等正覺明行足善逝世間解無上士調御丈夫天人師佛世尊。出興于世。彼佛入城。我以香華妓樂而供養之。供養已。持此善根迴向三處。謂滅除貧苦。常見諸佛菩薩及善知識。恒聞正法。故獲斯報。善男子。我唯知此滿足大願法門。諸大寶海菩薩。得不可壞淸淨法身。不可壞法雲普覆一切。具足成就不可壞功德。不可壞大功德網。普覆一切。入不可壞三昧境界。具足菩薩不可壞善根。住不可壞如來所住。不可壞智慧。究竟三世。住一切劫。而無疲倦。住不可壞普眼境界地。我當云何能知能說彼功德行。善男子。於此南方。有一國土。名實利根。城名普門。彼有長者。名普眼妙香。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行。修菩薩道。時善財童子。頭面敬禮法寶周羅足已。辭退南行

圍明作遍○嶮同作峻○普上三本俱無見字

狂同作枉

肴膳同作餚饍

# 大方廣佛華嚴經卷第四十九

〔麗道〕〔宋垂〕〔元垂〕〔明道〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

## 入法界品第三十四之六

爾時善財童子．思惟諸佛無量法門．逮得菩薩無量諸行．菩薩無量妙方便道．普照身心．樂求無量方便法門．成就菩薩清淨解脫．菩薩無量清淨諸根．菩薩無量諸清淨力．心隨菩薩無量諸行．出生菩薩無量大願力．逮得菩薩不可沮壞妙智慧幢．普照一切．漸漸遊行至於彼國．求普門城．心無休息精進不退．念善知識．讚善知識．隨順善知識諸根．專向普門法門．遠離一切諸放逸行．開淨慧眼度生死海．見普門城．百千小城周帀圍遶高嶮堅固．妙巧無比種種莊嚴．見普眼妙香長者．於此城中坐衆香座．往詣其所頭面禮足．恭敬合掌於一面住．白言大聖．我已先發阿耨多羅三藐三菩提心．而未知菩薩云何學菩薩行．修菩薩道．答言．善哉善哉．善男子．乃能發阿耨多羅三藐三菩提心．善男子．我知一切衆生病．風寒熱病．及諸雜病．狂横病．鬼著病．毒病．諸呪術病．如是等類．一切諸病我悉了知．隨其所應皆能療治．善男子．十方衆生諸有病者．來詣我所．我悉能治．除其患已．沐浴香湯．香華瓔珞．名衣上服而莊嚴之．肴膳飲食而供養之．無量珍寶而惠施之．然後爲說種種法門．貪欲多者敎下淨觀．瞋恚多者敎慈心觀．愚癡多者敎法相觀．等分行者敎勝法門．偈揭讚歎諸佛功德．發菩提心故．說長養大悲．於無量生死苦．心不厭故．分別廣說諸波羅蜜．長養無量淨智慧故．說諸大願．敎化成熟一切衆生故．說普賢菩薩行．顯現清淨尸波羅蜜故．說不可思議如來功德．顯現羼提波羅蜜故．說如來無壞清淨法身．顯現毗梨耶波羅蜜故．說如來無與等者．顯現如來禪波羅蜜故．說清淨法身．顯現般若波羅蜜故．說一切淨法身．令一切衆生皆悉覩見．顯現方便波羅蜜故．說於生死中住一切劫．顯現願波羅蜜故．說嚴淨一切佛刹．顯現諸力波羅蜜故．說

丸明作九

聞見同作見聞 ○原元明俱作源

睡宋明俱作埵

藏明作幢

疊元明俱作氎

---

淨法身。隨其所應悉令歡喜。顯現智波羅蜜故。說常樂見淸淨法身。遠離一切不善法故。善男子。我以如是等種
種法施。悉令滿足歡喜而還。善男子。我又善知和衆香法。所謂不可稱王香。新頭香。勝香。覺香。明相香。沈水香。堅
固香。栴檀香。雲香。不動諸根香。知如是等一切諸香。燒此香時。一心向佛發大誓心。滿一切願。所謂救護一切衆
生。嚴淨一切佛剎。恭敬供養一切諸佛。乃至燒一丸香時。充滿十方一切法界。一切如來及其眷屬。香帳莊嚴一
切法界香。宮殿香。垣牆香。樓閣香。欄楯香。却敵香。窻牖香。半月香。蓋香。幢香。幡香。網香。形像香。光明香。莊嚴具香
雲雨。莊嚴十方一切法界。一切諸佛及其眷屬。善男子。我唯知此令一切衆生歡喜普門法門。見一切佛身。諸大
藥王菩薩。若有聞見。親近憶念。執持名號。皆悉不虛。其有見者。煩惱悉滅。得諸如來法之原底。滅除苦陰。永離一
切生死恐怖。得無所畏。具一切智。破壞無量生死高山。安住正法。我當云何能知能說彼功德行。善男子。於此南
方有城。名曰滿幢。王名滿足。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行。修菩薩道。時善財童子。頭面敬禮普眼妙香長者。遶
無數帀。辭退南行。爾時善財童子。次第憶念諸善知識。正念思惟善知識敎。復作是念。善知識者。能攝取我。能守
護我。令我不退阿耨多羅三藐三菩提。如是思惟。得大歡喜心。無量歡喜心。發淸淨心。寂滅心。廣大心。莊嚴心。無
著心。無礙心。虛空心。見諸佛菩薩心。自在心。順諸法心。於一念中充滿一切佛剎心。見如來心。念十力心。不捨諸
佛善知識心。漸經人衆城邑聚落。至滿幢城。問滿足王今在何所。有人答言。今在正殿。行於王法。敎化衆生。應攝
取者而攝取之。應罰者罰。應治者治。諸有諍者斷其諍訟。有恐怖者施以無畏。讚歎不殺。不盜。不邪婬。不妄言。不
兩舌。不惡口。不無義語。無貪恚癡。爾時善財。遙見彼王處金剛師子座。阿僧祇寶而以莊嚴。無量寶像以爲莊飾。
種種香雲而普熏之。無量寶衣以敷其上。又復建立無量寶幢。無量寶幡。周徧垂下。張衆寶帳。頂冠如意摩尼寶
冠。閻浮檀金半月莊嚴。髮紺青色。耳普垂睡。身佩無價摩尼瓔珞。百千寶網羅覆其上。閻浮檀金蓋。衆寶爲鈴。常
出妙音。瑠璃爲竿。夜光寶藏。普照諸方。彼滿足王。有大勢力。離諸怨敵。無量自在。一萬大臣。各處常位。修理王事。
勇將一萬。持丈侍衞。爾時善財。見無量衆生犯王法者。身被五縛。或斷手足。或截耳鼻。或挑雙目。或斬身首。或投
沸灰。或疊纏油灌。以火焚之。如是等無量楚毒。而苦治之。爾時善財作如是念。我爲一切衆生。故學菩薩行修菩

薩道.今見此王.行大惡道諸不善法.此乃惡中之惡.第一惡人.作是念時.虛空有天.而告之曰.善男子.汝當憶念普眼妙香善知識教.善財即時仰觀虛空.而答之言.我常憶念.天又語言.若常憶念.何故疑怪.善男子.菩薩方便不可思議.菩薩智慧不可思議.攝取衆生不可思議.調伏衆生不可思議.教化衆生不可思議.愍念衆生不可思議.度脫衆生不可思議.爾時善財.聞天教已.詣彼王所頭面禮足.白言大聖.我已先發阿耨多羅三藐三菩提心.而未知菩薩云何學菩薩行.修菩薩道.時滿足王.王事訖已.手執善財.將入宮內.命就寶師子座.而告之曰.善男子.汝觀我家.善財即觀.廣大無極.七寶垣牆周帀圍遶.七寶講堂.無量百千衆寶樓閣.而莊嚴之.乃至不可思議摩尼寶網.羅覆其上.五百侍女端嚴如天.如上所說.善男子.見我此報所因業不.答言已見.善男子.我成就菩薩幻化法門.我此國土殺生偸盜.乃至邪見諸群生類.不可教化離諸惡業.我爲調伏令解脫故.化作人衆種種苦治.令捨十不善道一切諸惡.具足十善彼究竟樂.發阿耨多羅三藐三菩提心.具足一切智.善男子.當知我身口意.乃至螘子不生害心.何況人耶.人是福田生諸善根.善男子.我唯知此幻化法門.諸大菩薩得無生法忍.知一切有趣皆悉如幻.知菩薩行悉如變化.一切世間悉如電光.一切諸法皆悉如夢.深入無礙法界.具菩薩妙行境界無礙.攝一切行.於無量旋陀羅尼.而得自在.我當云何能知能說彼功德行.善男子.於此南方有城.名曰善光.王名大光.汝詣彼問.云何菩薩學菩薩行.修菩薩道.時善財童子頭面禮足.遶無數帀.辭退南行.爾時善財童子.一心正念彼王智慧幻化法門.觀一切法皆悉如幻.分別諸業專求正法.一心思惟彼王變化救度衆生.思惟世間一切如幻.分別了知三世順行悉如幻化.入淨法界.漸經人衆聚落城邑曠野諸難.心無疲倦.至善光城.問衆人曰此城何名.答言善光.爾時善財作如是念.我善知識在此城中.我今必定見善知識.聞菩薩行.菩薩正法.及諸法門.菩薩功德不可思議.境界不可思議.自在不可思議.平等法門不可思議.勇猛之力不可思議.我今必聞菩薩究竟境界.作是念已入善光城.見城七寶無量莊嚴.七重深塹周帀圍遶.八功德水盈滿其中.底布金沙.優鉢羅.鉢曇摩.拘牟頭.分陀利華.徧滿其中.七寶垣牆七重圍遶.所謂金剛師子垣牆.不可壞金剛垣牆.精進金剛垣牆.不可壞精進垣牆.無底垣牆.淨網金剛垣牆.離欲清淨金剛垣牆.是七重垣牆.阿僧祇寶而莊嚴之.其城奇

具下三本俱無足字

螘同作蟻○忍上同無法字

垣上明有金剛

二字次亦同重下三本俱無垣字○巖明作峻
宿明作星
罄三本俱作殼
肴膳同作餚饍

特高巖廣大。十億街巷。一一街巷。各有無量億那由他阿僧祇人衆。阿僧祇閻浮檀金樓閣。瑠璃寶網。羅覆其上。不可思議白銀樓閣。赤眞珠網。羅覆其上。不可思議瑠璃樓閣。莊嚴藏摩尼寶網。羅覆其上。不可思議玻瓈樓閣。離垢摩尼寶藏網。羅覆其上。不可思議明淨寶樓閣。日藏摩尼寶網。羅覆其上。阿僧祇因陀尼羅寶樓閣。妙寶光明網。羅覆其上。阿僧祇堅固寶樓閣。夜光寶𦦨網。羅覆其上。不可思議金剛樓閣。不可壞幢摩尼寶網。羅覆其上。不可思議沈水栴檀樓閣。摩訶曼陀羅華網。羅覆其上。如是等不可稱說妙寶樓閣。以種種網羅覆其上。不可思議妙寶網。不可思議金鈴網。不可思議香網。不可思議華網。不可思議衣網。羅覆其上。又張不可思議諸妙寶帳。不可思議珍妙寶蓋。以覆其上。建立不可思議雜寶幢幡。而莊嚴之。當此城中。有一樓閣。名曰衆生樂見無厭。阿僧祇摩尼寶。而以莊嚴。彼大光王常處其中。爾時善財。於此一切嚴飾珍妙。心無染著。一心樂欲見善知識。見大光王。處於法堂寶師子座。結跏趺坐。衆寶莊嚴。敷以寶衣。萬阿僧祇寶像以爲莊嚴。種種妓樂而娛樂之。有二十八大人之相八十種好。而以莊嚴。身眞金色如明淨日。普照一切。如盛滿月衆宿中明。如梵天王處於大衆。如大海中有衆珍寶。如雪山中出諸良藥。如大龍王雷震。諸法實相音聲。如虛空清淨不受塵垢。如須彌山四種寶色。普照衆生性海。譬如寶洲智寶充滿。彼王殿前及諸街巷城四門外。處處安置衆珍寶聚及諸寶衣。無量億那由他諸采女衆。容飾端嚴五欲無倫。姿好巧妙迴動天人。六十四術無不備舉。無量乳牛其角金色。乳味甘香一罄一石。又有無量諸莊嚴具種種甘香。百味肴膳。無量音樂。及諸湯藥。資生之具。一一街巷兩邊。各有二十億菩薩。以此一切資生之具而用惠施。攝衆生故。悅衆生故。淨衆生心故。滅衆生煩惱故。令衆生解實義故。安立衆生一切智故。令衆生離惡心故。拔出衆生邪見刺故。淨衆生業道故。爾時善財。五體敬禮大光王已。右遶一帀於一面住。白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩薩心。而未知菩薩云何學菩薩行。修菩薩道。我聞大聖善能解說。唯願敷演。答言。善男子。我成就菩薩大慈幢行。清淨滿足。我於無量不可說不可說諸佛菩薩所。聞此妙法。觀察清淨。修習莊嚴。善男子。我住此行。如法治國。觀察衆生。順行世間。如法教化衆生。攝取衆生。安置衆生。饒益衆生。如法熏衆生。如法教衆生。令修善根。觀法眞實。令諸衆生。得慈心。大慈心。大慈力心。饒益心。離恐怖心。攝衆生心。不

牆明作墻

捨衆生心。發於大願滅諸苦心。安隱衆生令得快樂。身心柔輭遠離心垢。捨生死樂常樂正法。除煩惱垢得清淨心。以一切善熏衆生心。斷生死流入深法海。滅諸有趣出無礙心。得一切智淨諸心海。信力堅固無能壞者。善男子。我以如是安住此行。如法治國。令諸人民離衆怖畏。有貧窮者來至我所。隨所求索。常開庫藏而告之曰。恣意取之。勿作衆惡。此城衆生悉向大乘。各見此城種種不同。或見垢穢。或見清淨。或見木石。或見瑠璃。或見無壞幢牆周帀圍遶。或見不可思議樓閣阿僧祇寶而以莊嚴。以正直心修諸善根。於諸佛所求一切智。爲我宿世所攝衆生修菩薩行者。乃見此城衆寶嚴淨。餘見垢穢。善男子。此城衆生五濁惡時。行諸不善。我愍念彼。入於菩薩大慈爲首順世三昧。入此定時。彼諸衆生惡心惱心諍心害心皆悉除滅。所以者何。此三昧力法如是故。善男子。且待須臾。汝自見之。時王卽入大慈爲首順世三昧。入已。善光大城六種震動。諸寶垣牆樓閣宮殿欄楯窻牖却敵半月寶鈴羅網諸寶形像。出妙音聲讚歎彼王。其城內外一切人民。皆大歡喜一心合掌敬禮彼王。諸畜生等慈心相向。亦禮彼王。山原樹林皆悉曲躬而向彼王。河池泉流皆悉向王。一萬龍王。興黑重雲。雷震曜電雨衆香水。一萬釋天王。夜摩天王。刪兜率天王。化自在天王。他化自在天王等。於虛空中作億那由他妓樂音聲。阿僧祇天采女衆妙音歌頌。雨阿僧祇華雲香雲末香雲鬘雲蓋雲雜色衣雲。阿僧祇寶幢幡蓋莊嚴虛空。供養彼王。伊那槃那龍王。敷大蓮華普覆虛空。垂阿僧祇妙綵繒帶。阿僧祇寶而莊嚴之。阿僧祇寶鬘瓔珞。天莊嚴具。諸妙華香。充滿虛空。供養彼王。阿僧祇天女充滿虛空。偁讚彼王。阿僧祇羅刹鬼等。常在大海閻浮提住。飲血食肉。水陸惡獸。常害衆生。皆得慈心及寂靜心。明信後世遠離諸惡。心大歡喜五體投地。敬禮彼王。皆得無量身心快樂。阿僧祇毗舍闍鬼及四天下毒害衆生。三千大千世界。乃至十方各百萬億那由他世界中毒害衆生。亦復如是。時大光王。從三昧起。告善財言。善男子。我唯知此菩薩大慈幢行三昧。諸大菩薩以大慈蓋普覆救護一切衆生。上中下品等觀無二。慈如大地載育衆生。菩薩滿月。出功德光除衆惱熱。菩薩淨日。智慧光明普照一切。菩薩明燈。除滅重闇。菩薩淨水珠。滅衆生心海煩惱垢濁。菩薩如意寶珠。隨衆生心悉令滿足。菩薩疾風。速令衆生修習三昧入一切智城。我當云何能知能說彼功德行。讚歎稱量彼功德山。觀彼功德。知大願風輪。得眞實地。分別了知莊

汝下三本俱有善字

嚴大乘普賢菩薩之所修行及諸三昧。讚大悲雲。善男子。於此南方有城。名曰安住。有優婆夷。名曰不動。汝詣彼問云何菩薩學菩薩行。修菩薩道。時善財童子。敬禮彼王。遶無數帀。辭退南行。爾時善財童子。正念思惟大光王敎。思惟菩薩大慈幢行大慈爲首隨順世間三昧。出生不可思議功德願力長養菩薩不可思議堅固智慧。思惟菩薩不共之法。思惟不可思議諸法實相。思惟菩薩不可思議眷屬。思惟菩薩不可思議衆事。作是思惟已。得歡喜心。離欲心。極踊躍心。謙下心。離垢心。明淨心。堅固心。無畏心。無盡心。作是念時。悲泣流淚。復作是念。見善知識。則能出生一切功德。起菩薩行。淸淨正念陀羅尼。出生菩薩三昧光明。見一切佛。雨諸佛法雲。分別解說菩薩諸願。出生菩薩不可思議智慧光明。長養菩薩堅固諸根。念善知識。能離險道。念善知識。開示正路。念善知識。順平等法。念善知識。顯摩訶衍。念善知識。究竟普賢菩薩所行。念善知識。現一切智城。念善知識。度一切法界海。念善知識。普照三世一切法海。念善知識。長養一切諸白淨法。念善知識。成滿一切諸賢聖法。善財如是悲心念時。如來使天。隨菩薩天。於虛空中而告之曰。善男子。其有隨順善知識敎。諸佛歡喜。其有隨順善知識敎。近一切智。於善知識敎。心無厭故。一切諸義悉現在前。善男子。汝詣安住王城。不動優婆夷所。是汝知識不久當見。爾時善財。從智慧光明三昧起。漸漸遊行。至安住城。推問不動優婆夷今在何所。時有人言。善男子。不動優婆夷在其家內。父母守護親近。眷屬周帀圍遶。爲無量衆演說正法。爾時善財。歡喜無量即詣其門。入彼家內見其宮殿。金色光明皆悉普照。觸斯光者身心柔輭。爾時善財。光明觸身。卽得五百三昧門。所謂覺一切三昧門。奇特幢三昧門。寂靜三昧門。遠離一切衆生三昧門。普眼三昧門。如來藏三昧門。得如是等五百三昧門。身心柔輭如七日胎。又聞妙香出過天人。前詣其所合掌恭敬。一心觀察見彼形色。天龍八部諸采女衆。所不能及。十方世界一切女人無與等者。容色妙絕十方無倫。況有勝者。唯除諸佛。其宮殿嚴飾。十方世界無與等者。口出妙香。十方世界無與等者。其莊嚴具十方世界無與等者。其眷屬衆。十方世界無與等者。何況有勝。除如來衆。如是勝妙。不令衆生起染著心。其有見者除滅煩惱。如梵天王。欲界煩惱不現在前。其有得見此優婆夷。一切煩惱皆悉除滅。十方衆生樂觀無厭。除明行足。爾時善財。見彼女人不可思議法。不可思議三昧。不可思議無比妙色無量光明網一切無障。

於明作于



不可思議饒益衆生.不可窮盡諸眷屬海.觀察不可思議身.無有厭足.爾時善財.以偈頌曰

常持清淨戒　精進修忍辱　譬如盛滿月　星中獨明耀

爾時善財.偈讚歎已.白言大聖.我已先發阿耨多羅三藐三菩提心.而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道.我聞大聖善能解說.願爲敷演.爾時彼女.以善語愛語.答善財言.善哉善哉.善男子.乃能發阿耨多羅三藐三菩提心.我成就菩薩無壞法門.修學菩薩堅固之行.得一切法平等地陀羅尼.得一切法平等法門.得離有莊嚴三昧.善財白言.菩薩無壞法門.乃至離有莊嚴三昧.境界云何.善男子.是處難知難說.善財白言.唯願大聖.承佛神力.爲我解說.我當因善知識.信知分別正念觀察一心隨順.遠離虛妄解了平等.爾時優婆夷答言.善男子.於過去世離垢劫中.有如來應供等正覺.號曰脩臂.出興於世.時有國王.名曰電光.我爲王女.中夜寂靜廢音樂時.五百侍女皆悉昏寐.我在樓上仰觀星宿.見彼如來在虛空中.如寶山王.天龍八部.不可思議大菩薩衆.恭敬圍遶.放大光明網.普照十方.彼佛毛孔出微妙香.我聞是香身體柔輭.心大歡喜.恭敬禮拜一心合掌.仰觀彼佛不見頂相.觀身左右不見邊際.相好莊嚴見無厭足.善男子.我於爾時.作如是念修何等業.出生如是身.長養如是身.具足如是身.清淨如是身.自在如是身.光明眷屬.諸莊嚴具.功德智慧.三昧陀羅尼.諸辯才藏.不可譬諭.善男子.時彼如來.知我心念.而告我言.汝應發不可壞心.除滅煩惱發勝妙心.不著一切有.發不懈怠心.隨順深入方便之法.發忍辱心.調伏衆生諸惡心海.發離癡心.遠離一切諸生死趣.發無厭心.見一切佛心無厭倦.發無知足心.悉飮一切諸佛法雲.發寂靜心.以一切佛方便.隨順世間.發守護心.護持一切諸佛法輪.發分別心.隨其所應演說法寶.皆令歡喜.善男子.我於爾時.從彼如來.聞此法教.清淨法門.求一切智.如來十力.所言不虛.光明莊嚴.清淨法身.相好莊嚴.如來眷屬.嚴淨佛剎.如來威儀.如來壽命.我發是心時.一切煩惱.聲聞緣覺.金剛諸山所不能壞.善男子.我發此心已.於閻浮提微塵等劫.不生欲想.何況其事.於爾所劫.自於眷屬不生瞋心.何況餘人.於爾所劫.不生我見心.況我所心.於爾所劫.不生愚癡心.不生無記心.乃至胎中常起正念.何況餘時.於爾所劫.乃至夢中見一切佛.況十眼觀.於爾所劫.聞持一切諸佛法雲.未曾忘失一句.乃至世間語言.尚不忘失.況如來語.於爾所

劫。悉飲一切諸佛法海。乃至世法亦分別知。出生一切方便諸三昧門。心無虛妄。於爾所劫。受持一切諸佛法輪。於法輪中。不失一法。乃至無有二智。除化衆生。於爾所劫。見一法佛海。及諸化佛。於彼佛所滿足大願。於爾所劫。於一切菩薩海所。具足出生清淨菩薩行海。於爾所劫。若有衆生。得見我者。皆發阿耨羅多三藐三菩提心。乃至不生一念二乘之心。於爾所劫。於一切佛法。乃至一句一味不生疑惑。無有二想。無虛妄想。無種種想。無染著想。無好醜想。無愛恚想。善男子。我初發心來。常見諸佛菩薩及善知識。聞佛大願修菩薩行。諸波羅蜜。智慧諸地無盡法藏。普入無量無邊一切世界。分別無量衆生界。不離淸淨智慧光明。除滅一切衆生煩惱。長養發起衆生善根。隨其所應悉能顯現。未曾捨離。微妙音聲。其有聞者皆悉歡喜。善男子。我入此無壞法門。觀察一切法平等陀羅尼。顯現無量自在神變。汝欲見不。唯然欲見。爾時不動優婆夷。入萬三昧門。正念觀察。所謂專求莊嚴正法心無疲厭三昧門。離癡莊嚴三昧門。十力三昧門。佛無盡藏三昧門。住如是等三昧門時。十不可說佛刹微塵等世界六種震動。淨如瑠璃。一一世界中各見百億如來。一一如來大衆圍遶。放大光明普照十方。或現兜率天。或現於一切世界。以妙音聲轉淨法輪。乃至示現大般涅槃。時優婆夷。從三昧起。告善財言。善男子。汝見此不。唯然已見。善男子。我唯成就此無壞法門。爲一切衆生。說微妙法。皆令歡喜。諸大菩薩。遊行十方無有障礙。如金翅鳥王。悉得衆生大海源底。若見衆生有菩提因。從生死海而撮取之。安置菩提。譬如商人入大寶洲。專求如來十力大寶。遊生死海敎化衆生。除滅煩惱。如明淨日。消竭愛水。開敷一切衆生蓮華。譬如疾風。遊行十方。摧滅一切衆生邪見煩惱樹枝。譬如大地。長養一切衆生善根。如轉輪王。以四攝法攝取衆生。我當云何能知能說彼功德行。善男子。於此南方。有一國土。名不可稱。城名知足。有出家外道。名曰隨順一切衆生。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行修菩薩道。時善財童子。頭面禮足。遶無數帀。辭退南行。爾時善財童子。一心正念彼優婆夷。是我眞善知識。念彼正敎。念彼所說。念彼所發。念彼所開。念彼示現。念彼所歎。念彼所明。念彼廣演。念彼修習。隨順思惟。修徧修寂靜寂滅。照明觀察。漸漸經由城邑聚落。於日沒時入知足城。周徧推求隨順一切衆生外道。今在何所。於中夜時。見彼城北有一大山。光明照耀如日初出。爾時善財。天明出城登彼山上。遙見外道靜處經行。成就妙色超逾梵王。

一萬梵天眷屬圍遶。往詣其所。頭面禮足。却住一面。白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。答言。善哉善哉。善男子。乃能發阿耨多羅三藐三菩提心。善男子。我已安住至一切處菩薩之行。成就普觀三昧法門無依無作神足。以平等般若波羅蜜光明。觀察分別一切諸趣。一切衆生死此生彼流轉諸有。種種雜類形色好醜。種種欲樂諸趣受生。所謂天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽。地獄餓鬼畜生。閻羅王處人非人處。彼諸衆生或著邪見。或好二乘。或樂大乘。以妙智慧種種方便。饒益衆生。或敎世間種種技藝。欲令衆生得諸巧術陀羅尼門。或以四攝攝取衆生。欲令一切得薩婆若。或歎諸波羅蜜。欲令衆生得一切智迴向。或歎發菩提心。欲令衆生於諸善根不可沮壞。或歎菩薩行。欲令衆生嚴淨佛刹。滿足大願敎化衆生。或說厭離法。欲令衆生知惡行果受三塗苦。或說淨法。欲令衆生發歡喜心。於諸佛所植衆德本。得一切智果。或歎如來應供等正覺。欲令衆生發弘誓願。一向專求清淨法身。或歎如來功德。欲令衆生一向樂求佛無壞身。或歎如來無比妙法。欲令衆生得佛一切無壞功德。復次善男子。此知足城內。一切人民男女長幼。隨其所應我悉化度。彼諸衆生莫知我誰。此閻浮提九十六種。外道邪見。我悉爲彼種種說法。斷其邪見。三千大千世界。乃至十方一切世界諸衆生海。以種種智方便法門。種種諸事色像音聲。化度饒益。亦復如是。善男子。我唯知此菩薩至一切處行法門。諸大菩薩身與一切衆生數等。悉得分別一切衆生身三昧。出生變化輪。徧遊一切世界。一切諸趣。普現十方一切衆生前。其有見者樂觀無厭。悉能長養一切善根。住一切劫不捨大願。得因那羅莊嚴光明之行。不著一切。專求實義。隨順衆生。三世平等。照無我界。具足無盡大悲之藏。我當云何能知能說彼清淨行功德智慧。善男子。於此南方。有一國土。名甘露味。彼有長者。名靑蓮華香。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行修菩薩道。時善財童子。頭面敬禮彼外道足。遶無數帀。辭退南行。爾時善財童子。不惜身命。不著財寶。遠離熾然。不著諸趣。不著世間五欲快樂。不著眷屬勢力自在。常樂化度一切衆生。嚴淨一切諸佛世界。恭敬供養一切諸佛。心無厭足。知一切法眞實之相。欲得一切菩薩功德巨海滿足大願。於一切劫修菩薩行。詣一切佛及眷屬海。入一切菩薩三昧。悉能顯現一切菩薩神力自在。於一毛孔見一切佛。心無厭足。悉聞受持一切諸佛正法輪雲。心

一下三本俱無切字

有明作無

地下三本俱無香字

狂三本俱作枉

無厭足。專求此等一切菩薩諸佛功德。漸漸遊行。至甘露味國。詣靑蓮華香長者所。頭面禮足。遶無數帀。於一面住。白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。向無上道。志求一切諸佛智慧。欲滿一切諸佛大願。欲淨一切諸佛色身。欲見一切諸佛法身。欲知一切諸佛智身。欲淨滿一切菩薩諸行。欲照一切菩薩諸三昧門。欲成就一切菩薩諸陀羅尼。欲悉除滅一切障礙。欲徧遊一切諸佛世界。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。生一切智。答言。善哉善哉。善男子。乃能發阿耨多羅三藐三菩提心。善男子。我能善知一切諸香。一切和香。一切熏香。一切塗香一切末香。一切香王。一切天香龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等香。除滅一切衆疾病香。滅憂惱香。生一切衆生諸喜樂香。長養諸煩惱香。除滅諸煩惱香。喜樂有爲香。厭離有爲香。放逸香。不放逸香。念諸佛香。順正法香。賢聖人香。分別一切諸菩薩香。一切菩薩地香。一切菩薩住香。如是等香。我悉了知彼香生起。所行成就。具足淸淨安隱。方便境界。行業根本。皆悉了知。善男子。人中有香。名大象藏。因龍鬪生。若燒一丸。興大光網雲。覆甘露味國。七日七夜降香水雨。若著身者身則金色。若著衣服宮殿樓閣。亦悉金色。若有衆生得聞此香。七日七夜歡喜悅樂。滅一切病無有狂橫。遠離恐怖危害之心。專向大慈普念衆生。我知彼已而爲說法。令無量衆生。於阿耨多羅三藐三菩提。得不退轉

# 大方廣佛華嚴經卷第四十九

# 大方廣佛華嚴經卷第五十

〔麗道〕〔宋垂〕〔元垂〕〔明垂〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

## 入法界品第三十四之七

善男子.復有香.名牛頭栴檀.從離垢山王生.若以塗身火不能燒.復有香.名不可壞.從大海生.若以塗身.出妙音聲降伏怨敵.復有香.名蓮華黑沈水.從阿耨達池四岸邊生.若燒一丸.悉能普熏閻浮提界.若有衆生得聞此香.離一切惡具清淨戒.復有香.名曰明相.從雪王山生.若有衆生聞此香者.離諸垢染心得清淨.而爲說法.令彼悉得菩薩離垢圓滿三昧.復有香.名曰海藏.從羅刹國生.應轉輪王.若燒一丸.令四種兵列住虛空.復有香.名清淨莊嚴.從善法堂生.若燒一丸.悉令諸天得念佛三昧.復有香名曰淨藏.從夜摩天生.若燒一丸.令彼諸天皆悉雲集.詣夜摩王聽受正法.復有香.名先陀婆.從兜率天生.常在補處菩薩座前.若燒一丸.興大香雲.普覆十方一切法界.雨無量莊嚴.供一切佛及其眷屬.復有香.名曰轉意.從化自在天生.若燒一丸.於化自在天.七日七夜雨莊嚴雨.善男子.我唯知此香.諸大菩薩遠離一切不善習氣.永離五欲.滅除煩惱降伏衆魔.斷一切縛.離三有.越智慧妙香而自莊嚴.一切世間無所染著.具足成就無礙戒香.除滅障礙.智慧境界通達無滯.心常平等.我當云何能知能說彼功德行.清淨戒門.身口意業離一切惡.善男子.於此南方有城.名曰樓閣.彼有海師.名曰自在.汝詣彼問云何菩薩學菩薩行修菩薩道.時善財童子.頭面敬禮彼長者足.遶無數帀辭退南行.爾時善財童子.向樓閣城.觀察正道.專求正道.觀夷險道.垢淨道.安危道.復作是念.因善知識得菩薩道諸波羅蜜道.攝取衆生入無礙法界.隨順一切衆生.除滅一切煩惱熾然.一切邪見.拔一切不善刺.度一切生死海.必至一切智城.何以故.因善知識得一切善根.因善知識得一切智.作是念已.漸漸遊行至樓閣城.周徧推求自在海師.見在海岸船舶處

山下同無王字

徧三本俱作帀

若下同無道字

姤元明俱作姤

住。十萬商人及無量衆。而圍遶之。欲聞勝法。入大海法。佛功德海法。往詣其所。頭面禮足。却住一面。白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。答言。善哉善哉。善男子。乃能發阿耨多羅三藐三菩提心。能諮問我大乘妙寶。度生死海到一切智洲。得不可壞摩訶衍法。離二乘難住寂滅樂。遠離生死迴澓流淵。逮得菩薩至處道法陀羅尼輪。菩薩莊嚴道。薩婆若道波浪。成就普法門。於一切法無所障礙。度一切智海。善男子。我成就大悲幢淨行法門。在此海邊樓閣城中。爲貧窮者修諸苦行。欲令一切隨意所求。悉充足已廣爲說法。皆令歡喜發起善根。長養功德智慧之藏。利菩薩根。心菩提心。淨菩薩直心。增益菩薩深心。出生長養大悲之力。除生死苦。遊生死海。而無疲倦。攝取衆生海。令住功德海。得一切法智海光明。見一切佛海。度一切智海。善男子。我住此城。如是思惟。如是正念。饒益衆生。善男子。我知海中一切寶洲。一切寶相。一切生寶。一切淨寶及不淨寶。知一切寶價。一切寶器。知一切寶隨所應用。知作一切寶。智一切寶境界。知一切寶光明。知一切龍宮殿滅。一切龍難。知一切羅刹宮殿滅。一切羅刹難。知一切大身衆生宮殿滅。一切大身衆生難。知趣知捨迴澓恐怖能離波浪。知相水色。知日月星宿。知諸算數。知晝知夜。知刹那羅婆摩睺姤路。知去知住安危之法。知海船舶牢不牢法。明候風相。而迴轉之。了所至處。善男子。我已成就如是智慧。利益衆生。故入於大海。因爲說法。悉令歡喜。離生死怖。入一切智海。竭愛欲海。逮得三世光明智海。度一切苦海。淸淨一切衆生心海。嚴淨一切諸佛刹海。徧遊一切十方界海。無所障礙。知一切衆生諸根願海。隨順一切衆生行海。知一切衆生隨所應海。善男子。我成就此大悲幢淨行法門。若有見聞憶念我者。皆悉不虛。善男子。我唯知此法門。諸大菩薩行於生死煩惱大海。無所染著。離邪見海。入實法海。以善方便攝衆生海。住一切智海。滅一切衆生諸放逸海。善分別知時非時海。善方便知化衆生海。未曾失時。我當云何能智能說彼功德行。善男子。於此南方有城。名曰可樂。彼有長者。名無上勝。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行修菩薩道。時善財童子。頭面禮足。遶無數帀。悲泣流淚。辭退南行。爾時善財童子。增廣大慈大悲潤澤。長養功德智慧莊嚴。離煩惱垢。入平等法。心不放逸。拔不善刺。滅一切障。精進堅固。修習菩薩不可思議三昧。慧光普照寂靜快樂。功德水池解脫華敷。滿足大願。充滿法界無所障礙。趣一切智。一向專

荼明作荼

求菩薩正道。漸漸遊行至可樂城。周徧推求無上勝長者。城東有林。名離憂惱妙莊嚴幢。時彼長者在此林中。無量長者周帀圍遶。理斷國事。因爲說法。離我我所及一切有。遠離嫉妒。清淨心海。安住淨心。常見諸佛。得無垢信力。受諸佛法。起菩薩力行菩薩行。出生菩薩諸三昧力。顯現菩薩諸智慧力。演說菩薩正念之力。樂發無上菩提之心。爾時善財詣長者所。以敬法故。五體投地。良久乃起。白言大聖。我是善財。我是善財。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。教化衆生。常見諸佛。諮問正法。悉能受持諸佛法雲。專向一切諸方便門。於一切世界一切劫中。行菩薩行。知一切佛自在神力。能受一切諸佛所持。得諸佛力。時彼長者。告善財言。善哉善哉。善男子。乃能發阿耨多羅三藐三菩提心。善男子。我成就至一切趣菩薩淨行莊嚴法門。無依無作神足之力。善男子。何等爲至一切趣菩薩淨行莊嚴法門。善男子。此三千大千世界一切阿脩羅世間。一切迦樓羅。地獄餓鬼。夜叉羅剎。鳩槃荼。乾闥婆。人非人等世間。三十三天。須夜摩天。删兜率天。乃至魔天世間。欲界所住一切生趣。一切天宮。一切龍宮。一切夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽等宮。人中國土城邑聚落。於中說法。滅除諍訟諸恚害心。悉解繫縛皆令出獄。離諸恐怖。滅不善業殺害衆生乃至邪見。斷諸王事及國土事。遠不善法。悉令衆生除滅諸惡。教以巧術及種種論。饒益一切皆令歡喜。隨順一切諸外道衆。現勝妙智遠離邪見樂於佛法。乃至梵天。廣爲說法。如此三千大千世界。乃至十方不可說不可說億那由他佛剎微塵等世界中。廣說正法。所謂佛法。菩薩法。衆生法。聲聞法。緣覺法。說地獄餓鬼畜生閻羅趣法。現惡道苦。說諸天趣。現諸天樂。說世間法。離世間法。顯菩薩道。離生死惡。說一切智諸妙功德。滅愚癡苦及諸障礙。欲令衆生得離世樂。離諸虛妄解眞實法。遠離惡業滅諸煩惱。淨法法輪。善男子。我唯知此至一切趣菩薩淨行莊嚴法門。無依無作神通之力。諸大菩薩具足成就諸神通明佛剎等身。得普眼地。知語言道神力自在。具足智慧離諸諍訟。逮得大人廣長舌相。出微妙音無能壞者。分別一切三世諸佛。亦無二想。明淨智慧照三世法。境界無量淨如虛空。我當云何能知能說彼功德行。善男子。於此南方。有一國土。名曰難忍。城名迦陵伽婆提。有比丘尼。名師子奮迅。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行修菩薩道。時善財童子。頭面敬禮彼長者足。遶無數帀。眷仰觀察。辭退南行。爾時善財童

泥三本俱作尼
○衣明作依
渟宋作亭元明俱作停
沒足三本俱作足沒
逾明作踰

子。漸漸遊行至彼國城。周徧推問彼比丘尼。時有無量男女大衆。荅善財言。此比丘尼今在王園日光林中。以法饒益一切衆生。爾時善財。詣彼園林周徧觀察。見一大樹名曰滿月。放大光明照百由旬。復見大樹名曰普覆。其形如蓋放靑光明。復見華樹名曰華藏。高如雪山北衆華雲。如天帝釋波利質多羅樹。復見大樹名曰柔輭。光明普照常有果實。復見大樹名曰明淨。不可譬諭。摩泥莊嚴。出阿僧祇淸淨妙寶。復見衣樹。出阿僧祇妙寶衣藏。復見歡喜樹。自然演出微妙音聲。復見普莊嚴香熏樹。出一切香。普熏十方無所障礙。復見彼園泉流淵池。栴檀行樹周帀圍遶。七寶欄楯以爲莊嚴。黑栴檀泥凝渟其底。布以金沙。八功德水充滿其中。優鉢羅。鉢曇摩。拘牟頭。分陀利華。敷榮鮮茂徧覆其上。寶樹周徧端嚴殊妙。一一樹下。各敷無量師子之座。布以寶衣。熏以衆香。張衆寶帳。白淨寶網羅覆其上。金鈴網中出妙音聲。或有樹下敷蓮華藏師子之座。或有樹下敷香藏座。或有樹下敷龍莊嚴藏座。或有樹下敷寶聚師子座。或有樹下敷明淨普照藏座。或有樹下敷師子樂藏座。彼一一座。各有十萬寶師子座眷屬圍遶。無量莊嚴。散無量寶充滿其中如海寶洲。寶衣布地柔輭妙好。蹈則沒足。擧則還復。異類衆鳥出和雅音。超越帝釋歡喜之園。種種華樹常雨華雲。超勝帝釋照明之園。妙香普熏。超於帝釋善法講堂。寶樹樂樹出微妙聲。超過善口天女歌音。無量百千樓閣莊嚴。觀者無厭。超逾帝釋善現大城。此園一切諸莊嚴具。如梵天宮衆生樂見。爾時善財。見此園林。皆是菩薩業行所成。出諸世間善根所起。供養不可思議諸佛所得。無能壞者。此皆師子奮迅比丘尼。了法如幻。長養功德藏善根所成。三千大千世界天龍八部無量衆生。悉入此園而不迫迮。何以故。此比丘尼不可思議威神力故。爾時善財。見比丘尼偏處一切寶師子座。端嚴姝妙威儀庠序。其心寂靜調伏諸根。譬如龍象。如澄淨淵。如意寶珠。五欲不染猶如蓮華。心無所畏如師子王。安住淨戒不可傾動如須彌山。滅除衆生諸煩惱熱如涼香王。滅除衆病如良藥王。見者不虛。如婆樓那天。長養善根猶如良田。見處一座。淨居天衆眷屬圍遶。爲說不盡法門。又見處座。悅樂梵等梵衆圍遶。爲說普妙音聲法門。又見處座。無量他化自在天王等天子天女眷屬圍遶。爲說菩薩淸淨自在法門。又見處座。化自在天王等。天子天女眷屬圍遶。爲說淸淨一切莊嚴法門。又見處座。刪兜率天王等。天子天女眷屬圍遶。爲說心藏旋復法門。又見處座。夜摩天王等。

朝三本俱作乾

天子天女眷屬圍遶.爲說無量莊嚴法門.又見處座.釋天王等.天子天女眷屬圍遶.爲說厭離法門.又見處座.婆伽羅龍王.十光明龍王.難陀跋難陀龍王.摩那斯龍王.伊那槃那龍王.阿耨龍王等龍.子達龍女眷屬圍遶.爲說善方便救護衆生法門.又見處座.提頭賴吒天王等.[illegible]闥婆男女.眷屬圍遶.爲說無盡法門.又見處座.摩睺羅伽.阿脩羅王等.眷屬圍遶.爲說法界方便智莊嚴法門.又見處座.大勢力迦樓羅王等.眷屬圍遶.爲說於生死海無畏法門.又見處座.甄緊那羅王等.眷屬圍遶.爲說佛行光明法門.又見處座.雲山摩睺羅伽王等.眷屬圍遶.爲說佛喜法門.又見處座.無量男子女人童男童女.眷屬圍遶.爲說勝趣法門.又見處座.常奪衆生命羅刹王等.眷屬圍遶.爲說起大慈大悲法門.又見處座.樂聲聞者眷屬圍遶.爲說勝智光明法門.又見處座.樂緣覺者眷屬圍遶.爲說明淨如來功德光明法門.又見處座.樂大乘者眷屬圍遶.爲說普門三昧智慧光明法門.又見處座.初發心菩薩眷屬圍遶.爲說一切佛大願法門.又見處座.二地菩薩眷屬圍遶.爲說離垢三昧法門.又見處座.三地菩薩眷屬圍遶.爲說寂靜莊嚴法門.又見處座.四地菩薩眷屬圍遶.爲說一切智勢力境界法門.又見處座.五地菩薩眷屬圍遶.爲說淨心華藏法門.又見處座.六地菩薩眷屬圍遶.爲說明淨藏法門.又見處座.七地菩薩眷屬圍遶.爲說普地藏法門.又見處座.八地菩薩眷屬圍遶.爲說法界法身境界法門.又見處座.九地菩薩眷屬圍遶.爲說無有無著莊嚴法門.又見處座.十地菩薩眷屬圍遶.爲說無礙三昧法門.又見處座.金剛力士眷屬圍遶.爲說智慧金剛法門.見處如是等一切諸座.一切諸趣.一切衆生.眷屬圍遶.種善根者爲說善根長善根者爲說增長一切善根.隨其所應而爲說法.乃至於阿耨多羅三藐三菩提.得不退轉.何以故.此比丘尼成就百萬阿僧祇般若波羅蜜門故.所謂普眼般若波羅蜜門.說一切佛法般若波羅蜜門.分別法界般若波羅蜜門.壞散一切障礙般若波羅蜜門.出生長養一切衆生善法般若波羅蜜門.勝莊嚴般若波羅蜜門.無礙藏般若波羅蜜門.法界圓滿般若波羅蜜門.淸淨心藏般若波羅蜜門.一切衆生樂藏般若波羅蜜門.得如是等百萬阿僧祇般若波羅蜜門.於此園中.所有衆生.皆於阿耨多羅三藐三菩提.得不退轉.爾時善財.見師子奮迅比丘尼諸奇特事.所謂園林資生之具.經行威儀.寶師子座.大衆眷屬.諸妙功德.神力自在.微妙音聲.如是一切諸奇特事.又聞微妙淸淨音

在元明俱作王

相三本俱作想次亦同

一上元明俱有一字

方下三本俱無衆字

聲.宣揚讚歎不思議法.無量法雲之所潤澤.身心柔輭.五體投地.恭敬禮已.將欲遶旋.見比丘尼徧一切座.自見
已身及無量衆樹木園林.皆悉右旋.遶無數帀.如是見已.合掌恭敬於一面住.白言大聖.我已先發阿耨多羅三
藐三菩提心.而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道.唯願大聖.爲我解說.善男子.我成就菩薩一切智底法門.大
聖.如此法門體性云何.善男子此法門者.智光莊嚴.於一念中普照三世.大聖.此智光莊嚴法門境界云何.善男
子.入此法門.現前正受一切法林三昧時.十方一切世界諸佛.處兜率天者.於彼一一佛所.從其自身.出生不可
說不可說佛刹微塵等摩㝹摩身.恭敬禮拜.及齋不可說不可說佛刹微塵等華香瓔珞.諸妙寶鬘.末香塗香.衣
蓋幢幡種種寶華雲.乃至一切莊嚴具雲.寶寶網帳莊嚴網等種種寶座.以如是等諸供養具.供養如來.如兜率
天所興供養.降神母胎.出生|在宮.捨家學道.詣菩提樹.成最正覺.轉淨法輪.在諸天上人中.乃至般涅槃所
興供養.亦復如是.若有衆生.知我供養.皆於阿耨多羅三藐三菩提.得不退轉.其有衆生來至我所.卽爲彼說般
若波羅蜜.我不起衆生想.不取衆生|相.知一切語言而不著語言.見一切佛不取佛|相.深解法身故.受持一切諸
佛法輪.而亦不取法輪之|相.解了諸佛眞實|相故.於念念中.悉能充滿一切法界.而亦不取法界之相.了一切法
猶如幻故.善男子.我唯知此菩薩一切智底法門.諸大菩薩究竟法界一切無著.一身結跏趺坐充滿法界.於自
身內.悉能顯現一切佛刹.於一念中.悉能往詣一切佛所.於自身內.悉能顯現諸佛神力.能以一毛舉不可說不
可說諸佛世界.於|一毛孔.現不可說不可說世界成敗.於一念中.攝取不可說不可說衆生.於一念中.攝取不可
說不可說劫.我當云何能知能說彼功德行.善男子.於此南方.有一國土.名曰險難.城名寶莊嚴.有一女人.名婆
須蜜多.汝詣彼問.云何菩薩學菩薩行修菩薩道.時善財童子.頭面敬禮比丘尼足.遶無數帀.眷仰觀察.辭退南
行.爾時善財童子.大慧光明以照其心.具足長養一切種智.一心思惟諸法實相.建立一切語言陀羅尼藏.廣修
受持一切法輪陀羅尼.爲衆生歸.長大悲力.方便觀察一切種智.滿法界等淸淨大願.明淨慧光.普照十方|衆生.
一切莊嚴諸通明力.充滿十方一切世界.究竟成滿菩薩諸業.漸漸遊行.至險難國寶莊嚴城.推問婆須蜜多女.
今在何所.爾時有人.不知彼女深智慧者.作如是念.今此童子威儀庠序.其心寂靜.調伏諸根.遠離放逸顚倒惑

雲元明俱作雪

輪三本俱作論

得明作行

申三本俱作呻

亂．念慧現前視瞻詳審．言音和雅不著形色．正念思惟甚深法相．遠離懈倦心如大海．此非染欲顚倒之人．無情欲想．不沒欲泥．不隨諸根．行出魔界．不服五欲．不爲一切諸魔所縛．所不應作已能不爲．有何等意而求此女．其中有人．先知彼女有智慧者．作如是言．善哉童子．得大善利．乃能推求深智女人．當知童子．一向求佛．悉欲攝取一切衆生．拔諸欲刺壞散淨想．善男子．今此女人．在此城中深宮之內．爾時善財．聞此語已．心大歡喜往詣其門．見彼宮宅嚴飾廣大．十重寶牆周帀圍遶．列植十行寶多羅樹．十重深塹．八功德水充滿其中．底布金沙．妙寶蓮華．優鉢羅．鉢曇摩．拘牟頭．分陀利．敷榮鮮茂彌覆水上．出微妙香．能轉人心不生垢染．衆寶宮殿臺觀樓閣．阿僧祇寶以爲嚴飾．紺瑠璃地灑以香水．熏以沈香．塗以栴檀．寶網羅覆．閻浮檀金以爲垂鈴出和雅音．散衆寶華猶如降雲．諸妙莊嚴說不可盡．金剛摩尼眞珠寶藏充滿宅內．十種園林以爲莊嚴．爾時善財見彼女人處寶師子座．顏貌端嚴妙相成就．身如眞金目髮紺色．不長不短．不白不黑．身分具足．一切欲界無與等者．何況有勝．言音婉妙世無倫匹．善知字輪技藝諸論．成就幻智菩薩方便．以阿僧祇寶莊嚴其身．寶網羅覆．首冠天冠．大衆圍遶皆悉修善．同其願行成就善根不可沮壞．具足無盡功德寶藏．身出光明普照一切．觸斯光者歡喜悅樂．身心柔輭滅煩惱熱．爾時善財頭面禮足．遶無數帀．恭敬合掌．於一面住．白言大聖．我已先發阿耨多羅三藐三菩提心．而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道．答言．善男子．我已成就離欲實際淸淨法門．若天見我我爲天女．若人見我我爲人女．乃至非人見我．我爲非人女．形禮姝妙．光明色像殊勝無比．若有衆生．欲所纏者．來詣我所．爲其說法皆悉離欲．得無著境界三昧．若有見我得歡喜三昧．若有衆生．與我語者．得無礙妙音三昧．若有衆生．執我手者．得詣一切佛刹三昧．若有衆生．共我宿者．得解脫光明三昧．若有衆生．目視我者．得寂靜諸行三昧．若有衆生見我嚬申者．得壞散外道三昧．若有衆生．觀察我者．得一切佛境界光明三昧．若有衆生．阿黎宜我者．得攝一切衆生三昧．若有衆生．阿衆鞞我者．得諸功德密藏三昧．如是等類一切衆生．來詣我者．皆得離欲實際法門．善財白言．大聖．昔於何所種諸善根．修何等業得此法門．答言．善男子．過去有佛．號曰常住如來應供等正覺．出興于世．彼佛哀愍饒益諸群生故．入安樂城．足蹈門閫．即時大地六種震動．其城自然奇妙廣博衆寶莊嚴．散諸雜華．

門下元明俱有故字

方下三本俱有海上二字

自然演出娛樂之音。放大光明。一切諸天充滿虛空。廣說如佛入城經中現奇特事。善男子。我於爾時爲長者婦。名曰善女。見如是等諸奇特事。從夫長者出於道巷。奉彼如來妙寶天冠。時文殊師利。爲佛侍者。爲我說法。發阿耨多羅三藐三菩提心。善男子。我唯知此離欲實際法門。諸大菩薩。成就無量方便智慧廣大智藏。知慧境界無能壞者。我當云何能知能說彼功德行。善男子。於此南方有城。名首婆波羅。彼有長者。名曰安住。彼常供養栴檀佛塔。汝詣彼問云何菩薩學菩薩行修菩薩道。時善財童子。頭面敬禮彼女人足。乃至辭退南行。爾時善財童子漸漸遊行。至於彼城。詣長者所。乃至白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。答言善男子。我已成就不滅度際菩薩法門。住此法門。普見十方一切世界去來今佛無涅槃者。除化衆生方便滅度。善男子。我開栴檀佛塔戶時。念念正受無盡佛性三昧門。於念念中。得無量無邊勝妙諸法。白言大聖。此三昧者境界云何。答言。善男子。我入此三昧時。見此世界迦葉佛。拘那含牟尼佛。尸棄佛。毗婆尸佛。提舍佛。弗沙佛。無上勝佛。無上蓮華佛。見如是等不可說不可說諸佛。閻浮提微塵等佛。乃至不可說不可說佛刹微塵等佛。見此諸佛。從初發心神力自在。一切大願清淨妙行。諸波羅蜜。次第成就。菩薩諸地。得深法忍。降伏衆魔。長養成就自在菩提。淨諸佛刹。種種大衆。敎化衆生。放大光明。轉淨法輪。神力變化。皆悉受持正念思惟。智慧分別。彼諸佛法顯現衆生。見知未來彌勒佛等一切諸佛。現在盧舍那佛等一佛諸佛。亦復如是。如此世界見知十方三世一切諸佛聲聞緣覺菩薩。亦復如是。善男子。我唯知此不滅度際菩薩法門。諸大菩薩一念悉知三世諸法念際平等而無有二。住佛所住。於一切劫而無劫想。隨順諸佛平等正法。如來及我一切衆生等無有二。淨莊嚴智照三世閒。成就諸佛不轉威儀。分別一切法界境界。我當云何能知能說彼功德行。善男子。於此南方有山。名曰光明。彼有菩薩。名觀世音。汝詣彼問云何菩薩學菩薩行修菩薩道。時善財童子頭面敬禮彼長者足。遶無數帀。眷仰觀察。辭退南行。

# 大方廣佛華嚴經卷第五十

三本俱第五十一爲第五十二

次上元明俱有欲字

佛明作諸

瞬三本俱作眴

雲同作空

# 大方廣佛華嚴經卷第五十一

〔麗道〕〔宋垂〕〔元垂〕〔明垂〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅譯

## 入法界品第三十四之八

爾時善財童子。正念思惟彼長者教。隨順菩薩解脫之藏。正念菩薩諸憶念力。次第分別一切諸佛及諸佛法。心正念諸佛法流。憶念受持彼諸佛法。及佛莊嚴長養菩提。思惟正念一切諸佛不思議業。漸漸遊行至光明山。登彼山上周徧推求。見觀世音菩薩住山西阿。處處皆有流泉浴池。林木鬱茂地草柔軟。結跏趺坐金剛寶座。無量菩薩恭敬圍遶。而爲演說大慈悲經。普攝衆生。見已。歡喜踊躍不能自勝。合掌諦觀目不暫瞬。作如是念。善知識者則是如來。善知識者一切法雲。善知識者諸功德藏。善知識者十力妙寶。善知識者難見難遇。善知識者無盡智藏。善知識者功德山王。善知識者開發示導一切智門。能令一切入薩婆若海。究竟清淨無上菩提。時觀世音遙見善財。告言。善來童子。專求大乘攝取衆生。直心深心樂求佛法。長養大悲救護一切。向普賢行。清淨成滿一切大願。欲聞受持一切諸佛一切法雲。增長善根而無厭足。順善知識不違其教。從文殊師利智慧功德大海所起。成就善根。得佛勢力光明三昧。離懈怠心專求正法。常見諸佛。遠離衆惡修諸善行。智慧成滿如虛空。爾時善財詣觀世音。頭面禮足遶無數帀。恭敬合掌於一面住。白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。答言。善哉善哉。善男子。乃能發阿耨多羅三藐三菩提心。善男子。我已成就大悲法門光明之行。敎化成熟一切衆生。常於一切諸佛所住。隨所應化普現其前。或以惠施攝取衆生。乃至同事攝取衆生。顯現妙身不思議色攝取衆生。放大光網。除滅衆生諸煩惱熱。出微妙音而化度之。威儀說法。神力自在。方便覺悟。顯變化身。現同類身。乃至同止攝取衆生。善男子。我行大悲法門光明行時。發弘誓願。名曰攝取一

切下元明俱有衆生二字

切衆生。欲令一切離險道恐怖。熱惱恐怖。愚癡恐怖。繫縛恐怖。殺害恐怖。貧窮恐怖。不活恐怖。諍訟恐怖。大衆恐怖。死恐怖。惡道恐怖。諸趣恐怖。不同意恐怖。愛不愛恐怖。一切惡恐怖。逼迫身恐怖。逼迫心恐怖。愁憂恐怖。復次善男子。我出生現在正念法門名字輪法門故。出現一切衆生等身。種種方便。隨其所應。除滅恐怖而爲說法。令發阿耨多羅三藐三菩提心。得不退轉。未曾失時。善男子。我唯知此菩薩大悲法門光明之行。諸大菩薩一切普賢大願成滿。究竟成就普賢所行。不斷一切諸善根流。不斷一切菩薩諸三昧流。一切劫流。修菩薩行未曾斷絕順三世流。善知一切成敗諸世界流。斷一切衆生不善根流。出生一切衆生諸善根流。除滅一切諸生死流。我當云何能知能說彼功德行。爾時東方有一菩薩。名曰正趣。來詣此土。住金剛山頂。至此山時。娑婆世界六種震動。衆寶莊嚴。放大光明映蔽日月釋梵天龍八部光明。悉如聚墨。普照地獄餓鬼畜生閻羅王處。滅除衆苦。斷除煩惱及諸病苦。普雨寶雨充滿佛刹。乃至普雨一切莊嚴雲雨。供養如來。隨其所應示現其身。然後來詣觀世音所。時觀世音告善財言。善男子。汝見此衆中正趣菩薩不。答言。唯然已見。善男子汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行。修菩薩道。時善財童子。頭面敬禮觀世音足。遶無數帀。觀察無厭。正念聖教。深入智海。辭詣正趣。頭面禮足。右遶畢。恭敬合掌於一面住。白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行。修菩薩道。善男子。我已成就菩薩普門速行法門。白言大聖。於何佛所得此法門。所從來刹去此幾何。發來久如。答言。善男子。此處難知。一切諸天人非人等所不能了。唯精進不退。近善知識。佛所護念。具足善根。淨正直心。得菩薩根。開智慧眼。多聞多知菩薩境界。唯願大聖。爲我解說。我當承佛神力善知識力而得信解。答言。善男子。我所從來刹。名曰妙藏。佛號妙德。於彼佛所得此法門。從彼發來。已經不可說佛刹微塵等劫。於一念中。行不可說佛刹微塵等步。一步過不可說佛刹微塵等世界。所經諸國佛皆現在。以一切菩薩諸供養具而供養之。悉能了知彼世界中諸群生海。分別諸根。隨其所應而爲說法。放大光網普照十方。出妙音聲演說正法。饒益度脫彼諸衆生。乃至十方亦復如是。善男子。我唯知此菩薩普門速行法門。諸大菩薩。普於十方無所不至。境界無量無能壞者。淸淨法身充滿法界。分別了知諸衆生道。滿一切刹。順一切法。等觀三世。說平等法。隨順世間。不著佛道。普至諸道。無著無

男上三本俱有善字

如元明俱作若

阿三本俱作何

礙.我當云何能知能說彼功德行.善男子.於此南方有城.名婆羅波提.彼有一天.名曰大天.汝詣彼問.云何菩薩學菩薩行修菩薩道.時善財童子.頭面敬禮正趣菩薩.遶無數帀.眷仰觀察.辭退南行.爾時善財童子.正念思惟菩薩無障礙行.一向專求正趣菩薩智慧境界.出生通明境界.一切功德.精進堅固.歡喜無量.得不思議遊戲神通.決定了知諸功德地.諸三昧地.陀羅尼地.諸大願地.諸辯才地.具諸力地.漸漸遊行至於彼城.推問大天今在何所.時有人言.善男子.在此城內大法堂上.化現其身.大衆圍遶而爲說法.爾時善財往詣其所.頭面敬禮彼大天足.遶無數帀.恭敬合掌.於一面住.白言大聖.我已先發阿耨多羅三藐三菩提心.而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道.爾時大天出四長臂.取四海水.澡洗其面.洗已.取諸金華以散善財.作如是言.善男子.菩薩難聞難見.乃是世間奇特之法.諸男子中分陀利華.爲衆生歸依.攝取饒益載育衆生.普照一切.顯現正道.遠離愚癡.爲衆生師.救護正法.爲衆生將救護安隱.悉令得至一切智城.具足成熟淨身口業.永離衆惡.於衆生類.常以愛語.隨其所應悉現其前.未曾失時.善男子.我已成就菩薩雲網法門.白言大聖.此法門者境界云何.爾時大天.於善財前.積天金聚猶如山王.白銀瑠璃玻瓈硨磲碼碯夜光離垢藏寶.明淨寶.諸方便門摩尼寶.周羅寶.瓔珞寶.吉由羅寶.莊嚴髮寶.莊嚴童子寶.彌阿羅莊嚴寶.彌拘羅寶.赤眞珠寶.莊嚴一切諸肢節寶.如意珠寶.皆悉積聚猶若山王.一切華.一切香.一切塗香.一切末香.一切鬘.一切衣.一切蓋.一切幢.一切幡.一切娛樂具五欲境界.如是等積悉如山王.又復顯現阿僧祇諸童女衆.語善財言.善男子.汝取此諸物供養如來.惠施一切攝取衆生.悉令衆生.修檀波羅蜜.學檀波羅蜜.捨離一切.善男子.我以此物教汝惠施.教一切衆生亦復如是.悉令衆生以無貪善根普熏身心.近善知識.恭敬供養諸佛菩薩.出生長養一切善根.發阿耨多羅三藐三菩提心.復次善男子.若有衆生貪五欲者.爲彼顯現不淨境界.若瞋恚放逸憍慢諍訟.如羅刹鬼飲血食肉.悉教彼等修大慈悲.皆令永離瞋恚放逸.若懈怠者.爲現水火盜賊惡王怨敵等難.善男子.如是等類諸惡衆生種種方便滅不善根長養善根.除滅一切波羅蜜障礙怨敵.具足成滿諸波羅蜜.超出障疑得無礙法.善男子.我唯知此菩薩雲網法門.諸大菩薩帝釋天王.滅一切煩惱阿脩羅難.諸菩薩水.滅煩惱火.諸菩薩火.能燒一切衆生貪愛.諸菩薩風.能散一切諸

自明作目

修下三本俱無習字

授明作受

佛下三本俱無一切二字

染著心。菩薩金剛。摧滅一切吾我之想。我當云何能知能說彼功德行。善男子。此閻浮提內。有一國土。名摩竭提。有道場地神。名曰安住。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行修菩薩道。時善財童子。頭面敬禮彼大天足。乃至辭退。趣摩竭提國。詣彼道場安住地神。爾時一萬地天各作是言。此來童子能攝衆生。即是佛藏。能破一切衆生無明㲉膜。生法王家。離垢無礙寶繒以冠其頂。智慧寶藏摧外道輪。時安住地天等一萬地天。雨衆香水以灑其地。掃以香風而以莊嚴。放大光明普照三千大千世界。衆寶莊嚴。一切華樹開敷鮮茂。一切果樹悉成果實。一切泉源河池流相灌注。演出種種娛樂音聲。諸天衆寶莊嚴樓閣。異類衆鳥皆悉歡喜出哀和音。無量寶藏自然涌出。爾時安住地神。告善財言。善來童子。汝欲自見曾於此處所種善根果報不乎。爾時善財。頭面敬禮彼地神足。恭敬合掌於一面住。白言大聖。唯然欲見。時彼地神。即以足指案地。無量阿僧祇那由他寶藏開發顯現。善男子。汝昔所種善根果報致此寶藏。自在隨汝。善男子。我已成就菩薩不可壞藏法門。我於然燈佛來。常護菩薩。修習菩薩行。深入智慧境界。盡其源底。大願成滿。淨菩薩行。出生菩薩一切通明。具足菩薩諸力功德。成就菩薩不可壞法。遊諸佛剎。聞一切佛所授記法。轉一切法輪。一切修多羅法雲。以大法光明敎化衆生。受持諸佛自在神力。善男子。乃往古世過須彌山微塵等劫。有劫名莊嚴。世界名月幢。佛號善眼。於彼佛所得此法門。修集長養淨此法門。於其中間。常遇不可說不可說佛剎微塵等佛。彼諸如來往詣道場自在神力皆悉奉覲。於此佛所修集善根。善男子。我唯知此法門。諸大菩薩。常能隨侍一切諸佛。悉聞受持彼諸佛法。深入諸佛祕密敎法。於念念中。出淨法身等一切佛。佛一切影藏出一切佛法。所行無壞。我當云何能知能說彼功德行。善男子。此閻浮提有城。名曰迦毗羅婆。彼有夜天名婆娑婆陀。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行修菩薩道。時善財童子。頭面敬禮安住地神。遶無數帀。辭詣彼城。爾時善財童子。正念思惟安住天敎。菩薩不可壞藏法門。修諸三昧。明諸三昧。觀察菩薩諸法律儀。菩薩自在遊戲神通。觀察菩薩一切淨法。深入菩薩甚深智慧。究竟菩薩無壞法門。隨順菩薩無壞法門。深入菩薩諸法門海。漸漸遊行至於彼城。從東門入中城而住。爾時善財。日沒未久。隨順一切菩薩所敎。一心欲見婆娑婆陀夜天。於善知識發如來想。普眼境界顯現諸方。智慧悉至一切境界。清淨法眼普見一切諸法界海。大智慧

殊同作姝

闇下元明俱有中字

洄澓三本俱作廻復○王下元明俱有師子獸王四字

越明作衆

境下元明俱有界字

眼觀察十方。見彼夜天。於彼城上虛空中住。處寶樓閣香蓮華座。身如眞金目髮紺色。端嚴殊妙見者無厭。身服朱衣衆寶莊嚴。頂上結髮猶如梵王。於其身上。現一切星宿及其光明。化度無量世界衆生。遠離惡道。於一毛孔。皆悉覩見所化衆生。或有生天。或得聲聞緣覺。修菩薩行。種種方便。形色音聲。諸語言法。所說正教。化度衆生。隨所經劫。諸菩薩等。教化衆生。悉令修習菩薩諸行。勇猛精進修諸三昧諸神力門。菩薩自在神力境界。菩薩所住。菩薩光明。菩薩奮迅。菩薩法門以化衆生。於一毛孔皆悉見聞。爾時善財。見聞此已心大歡喜。頭面敬禮彼夜天足。遶無數帀恭敬合掌。於一面住。白言天神。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。信解因善知識得諸佛法。唯願天神。開示顯現一切智道。若有菩薩向此道者得十力地。爾時夜天。告善財言。善哉善哉。善男子。敬善知識隨順其教。若有菩薩隨其教者。疾得阿耨多羅三藐三菩提。善男子。我已成就菩薩光明普照諸法。壞散衆生愚癡法門。善男子。我於惡衆生發大慈心。於不善業衆生發大悲心。於修善衆生發歡喜心。於善惡衆生發無二心。於染汙衆生發淸淨心。於邪道衆生發正道心。於樂不淨衆生發樂淨心。於樂生死衆生發隨順法輪心。於樂聲聞緣覺衆生發安立一切智道心。善男子。我常如是思惟教化衆生。於夜闇人靜鬼神盜賊所遊行時。比丘離威儀時。重雲煙塵昏蔽日月不見色時。若有衆生。在城邑聚落山巖曠野。八方大海。乃至一切水陸衆生。於此衆生。以種種方便滅其恐怖。若於衆生。遭於海難山難。大風洄澓及以波浪。迷惑失道不見邊岸。遭如是等種種海難。我於爾時。或作船形。或作馬王象王狗王阿脩羅王海神王形。作如是等形。方便度脫衆生海難。爲陸地衆生。或作淨月及諸星宿。炬火電光諸寶光明。天身光明菩薩光明。以如是等無量方便救護衆生。發如是心。我爲一切衆生常作歸依。除滅煩惱。令畏死者得無畏法。令貧窮者皆得富樂。爲在山衆生。或作果樹或作流泉。迦陵頻伽鳥等出妙音聲。或作山神或作平地。以如是等無量方便度脫衆生。發如是心。令諸衆生免此山難。又令一切越生死山。爲曠野衆生。種種方便令其悅樂。入正見道。除滅饑渴。於如是等無量難中。救衆生已。復作是念願令衆生速滅衆苦。究竟一切安隱智道。見樂著國土衆生受諸苦惱。種種方便滅其樂著。作如是念。願令衆生除五陰著。住一佛切薩婆若境。見著聚落衆生受諸苦惱。種種方便而爲說法。令其厭離以法攝之。復作是念。令一切衆

道三本俱作導

普明作普

法三本俱作總

生。離六入空聚超出生死。究竟得入一切智城。復次善男子。若有衆生。迷於十方。以東爲西。以西爲東。乃至以上爲下。以下爲上。爲此衆生。無量方便斷其迷惑。若欲出者開示門戶。若失道者示導正路。若欲度者示以津濟。無舟檝者而賓給之。不知方域示其樂土。以如是等無量方便顯現開道而度脫之。發如是心。我已照除長夜昏冥。世間衆事無不宣叙。又令衆生永滅癡闇得清淨眼。離衆生相及諸邪見。常樂我淨。計著衆生及福伽羅。陰界諸入。不了因果。行不善道。殺害衆生。乃至邪見不孝父母。不供養沙門婆羅門。遠離正道行不善業。誹謗正道欲壞法輪。毀菩薩衆憎惡大乘。不讚菩提毀普賢聖。行惡人法造五逆業。如是等類諸惡衆生。我以明淨慧光除其愚闇。令發阿耨多羅三藐三菩提心。究竟普賢菩薩所行。開十力道遠離生死。現一切智城。諸佛境界諸佛神通具足諸力現法持力。安住諸佛平等正法。現一切佛悉同一身。復次善男子。我見貧苦老病衆生。種種方便而救濟之。復作是念。以無上法攝彼衆生。滅諸煩惱令得解脫。離生老病死憂悲苦惱惡道諸難。近善知識深入法界。離諸惡業淨佛法身。置無老病死常住法界。復次善男子。我見諸惡衆生。遠離正道趣於邪徑。著諸倒見虛妄迷惑。具行不善身口意業。種種放逸依止惡法。於非正覺爲正覺想。於正覺所非正覺想。近惡知識受諸苦惱。我見此已。無量方便除其邪惑安立正見。令於天人最爲殊勝。復作是念。令諸衆生。得出世間無上正道。不復退轉。於一切智。滿足普賢菩薩大願。得一切智。而亦不離菩薩諸地。不壞衆生性。爾時夜天。欲重宣明此法門義。承佛神力觀察十方。卽爲善財以偈頌曰

我所成妙法　知時諸門地　照除愚癡闇　普觀一切法　無量無數劫　我常修大慈　普覆諸群生
善財應速具　成就大悲海　出生三世佛　除滅一切苦　善財速究竟　佛子心歡喜　遠離世間惡
超出三界苦　受諸賢聖樂　遠離有爲惡　聲聞智解脫　滿足如來力　佛子應究竟　我以淨天眼
普觀十方刹　於彼世界中　見佛處道場　相好莊嚴身　無量衆圍遶　放大光明海　普照化衆生
覩諸衆生類　死此而生彼　廻流五趣中　常受無量苦　以淨天耳海　普聞十方音　一切語言海
皆悉能受持　一切諸如來　無量微妙聲　所轉淨法輪　悉聞能受持　我以淨鼻根　法海中無礙

能入諸法門　善財應究竟　我成大人相　清淨廣長舌　隨應演妙法　佛子應究竟　清淨妙法身
三世如如等　隨其所應化　一切無不現　我心無所染　清淨如虛空　普攝一切佛　而亦無所著
了知無量剎　群生諸心海　分別一切根　遠離諸虛妄　我以神通力　徧遊無量剎　普覆一切衆
調伏諸衆生　智慧如虛空　無比無盡藏　供養諸如來　饒益一切衆　清淨廣智慧　分別諸法海
除滅衆生惑　佛子應究竟　通達三世法　深入諸佛海　明了一切法　無能測量者　一一微塵中
悉見佛剎海　又覩諸如來　此是普力地　見盧舍那佛　道場成正覺　十方剎微塵　悉轉正法輪

爾時善財童子。白言天神。發阿耨多羅三藐三菩提心。爲幾時耶。得此法門其已久如。乃能如是饒益衆生。答言。佛子。乃往古世。過如須彌山微塵等劫。有世界名寶德。劫名寂靜。有五百億佛出興於世。時有大城。名蓮華光。有轉輪聖王。名善法度。如法王法成就七寶。城東有林名曰妙德。於此林中有菩提樹。名一切佛自在光明。爾時一切法雷王佛。坐此樹下成等正覺。放大光明普照世界。王玉女寶。名法慧月蓮華光。於彼城內有一夜天。名曰淨月。於中夜時。出微妙音告此玉女。汝應當知。一切法雷王佛。出興于世。爾揚讚歎彼佛功德。顯現如來自在神力。發阿耨多羅三藐三菩提心。讚歎普賢菩薩一切願行。時王玉女。供養彼佛及諸菩薩諸聲聞衆。善男子。爾時玉女法慧月蓮華光者。豈異人乎。我身是也。善男子。我於彼佛種善根力。於須彌山微塵等劫。不墮地獄餓鬼畜生閻羅王處。不生下賤之家。具足諸根除滅衆苦。常於天人中勝。不離善知識諸佛菩薩。不生五濁劫中。於彼諸佛菩薩所增長善根。於八十須彌山微塵等劫。安隱快樂。而未滿足菩薩諸根。復次善男子。過此須彌山微塵等劫已。復過一萬劫。有劫名離憂。世界名離垢勝。有須彌寂靜眼如來應供等正覺等五百如來。出興于世。其佛國土或淨或穢。彼世界中有一四天下。名曰離垢。城名莊嚴。我於爾時。爲明勝長者女。名勝慧光。端正殊妙。彼淨月天。以本願力生此城中。復作夜天。名淸淨眼。時彼夜天。復於中夜來詣我家。顯現妙色讚歎如來。又勸導我詣彼如來。放大光明在前引導。我於爾時與父母俱及其眷屬。往詣須彌寂靜眼如來所。供養恭敬。聽佛說法。得菩薩三昧。名曰見佛敎化衆生明淨慧光普照三世。得此三昧已。憶念過去須彌山微塵等劫所見諸佛。又聞彼佛所說。

輪下元明俱有相好自莊嚴猶若普賢身隨應受化者顯現無量身四句
照下同有一切二字
殊元明俱作姝
在明作住

放演元明俱作普放

刹明作利

經法。得光明普照諸法壞散衆生愚癡法門放大光明照十佛刹微塵等世界。見彼刹中一切如來。往詣其所。知彼衆生諸語言法心根欲性。爲彼衆生作善知識。隨其所應顯現其身。於念念中長養此法門。一身充滿世界微塵等世界。乃至充滿世界海微塵等世界海中一切如來。往詣其所。彼佛說法我悉聞持。分別了知彼諸如來本事願海。彼諸如來嚴淨佛刹。我亦嚴淨。於彼世界中。隨其所應示現其身化度衆生。念念長養於此法門。與法界等。善男子。我唯知此光明普照諸法壞散衆生愚癡法門。諸大菩薩。究竟無量無邊普賢所行。深入法界海。建智慧幢。得諸三昧。遊戲神通。大願成滿。守護受持十方世界一切佛法。於念念中。悉能嚴淨一切佛刹。滿功德海。於念念中。敎化一切諸群生海。智慧淨日普照三世一切世界。敎化一切衆生。離垢淨月。除滅一切衆生熱惱疑惑癡闇。於一切有海心無所著。演出清淨圓滿妙音。充滿十方一切法界。於一一微塵中。顯現一切自在神力。明淨慧光普照三世。我當云何能知能說彼功德行。善男子。此閻浮提摩竭提國有一夜天。名甚深妙德離垢光明。汝詣彼問云何菩薩學菩薩行修菩薩道。爾時善財。即以偈讚彼夜天曰

我見清淨身　相好自莊嚴　如文殊師利　亦如寶山王　具足淨法身　三世悉平等　普攝諸群生

其心無所著　放演淨光明　徧照一切趣　於一毛孔中　悉見諸星宿　離垢淸淨心　如空滿十方

攝取諸法王　明淨深智慧　一一毛孔中　悉放無量光　十方諸佛所　普雨功德雲　一一毛孔中

出諸變化身　充滿十方界　方便度衆生　本爲菩薩時　淨不思議刹　一一毛孔中　皆悉得顯現

若有見聞者　悉獲功德利　專求菩薩道　成就佛菩提　若有見聞者　發大歡喜心　遠離惡道難

除滅諸煩惱　千刹微塵劫　讚歎其功德　諸劫猶可盡　功德無窮已

時善財童子。頭面敬禮彼夜天足。遶無數帀眷仰觀察心無厭足。辭退遊行向摩竭國。爾時善財童子。一心思惟彼夜天神初發道心圓滿淸淨。思惟是已。卽得深入諸菩薩藏。出生菩薩諸大願海。淨諸菩薩波羅蜜道。逮得菩薩圓滿諸地。住諸菩薩圓滿行業。窮盡菩薩發趣道海。善能深入一切智海。皆悉救護一切衆生。長養增廣大慈悲雲。於一切刹。出生普賢諸大願行。漸漸遊行。至甚深妙德離垢光明夜天所。頭面禮足遶無數帀。恭敬合掌於

我下三本俱無已字
一上同有一字
則下元明俱有能字
法下三本俱無性字
近明作及

一面住。白言天神。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何修菩薩行具足諸地。答言。善哉善哉。童子。乃能發阿耨多羅三藐三菩提心。問菩薩行具足諸地。善男子。菩薩成就十法。則能具足菩薩所行。何等爲十。一者得現前三昧見一切佛。二者得清淨眼見一切佛相好嚴身。三者分別了知一切諸佛無量無邊功德大海。四者無量無邊佛光明海。悉能普照一切法界。五者於一毛孔。放一切衆生數等大光明海。隨其所應度脫衆生。六者於一一毛孔。悉見一切寶光燄海。七者於念念中。出一切佛變化大海。充滿法界。究竟一切諸佛境界。教化衆生而無障礙。八者出一切佛妙音聲海。轉三世佛清淨法輪。九者演說一切修多羅雲。究竟佛音。深入一切諸如來海。十者現不思議佛自在神力化度衆生。善男子。若有菩薩。具此十法。則滿足菩薩一切諸行。善男子。我已成就菩薩寂滅定樂精進法門。悉見三世嚴淨佛刹。一切諸佛及眷屬海。無量無邊佛神力海。分別了知佛名號海。轉法輪海。知彼諸佛壽命無量音聲微妙。法身清淨充滿法界。亦不著如來一切諸相。何以故。如來非過去。除滅世間一切取故。如來非未來。無所起故。如來非現在。無生身故。如來非滅。離語言道故。如來非實。現幻法故。如來非虛妄。饒益一切衆生出興世故。如來去無所至。滅死此生彼故。如來不可壞。法性無壞故。如來一性。離語言道故。如來無性。究竟法性故。善男子。我如是了知一切如來。開發增廣菩薩寂滅定樂精進法門。照明莊嚴。深入隨順平等堅固境界。分別了知遠離虛妄。發起大悲攝取衆生。未曾捨離。一心寂定正受初禪。除滅意業。得寂智力。攝取衆生。歡喜悅樂。入第二禪。捨離生死。寂滅涅槃。觀衆生性。修第三禪。滅一切衆生諸煩惱苦。修第四禪。增長一切智菩提心願。出生菩薩一切三昧海。巧妙方便究竟菩薩一切法門海。成就菩薩遊戲神通。出生菩薩自在所行。明淨智慧深入普門法界。善男子。我如是修習菩薩寂滅定樂精進法門。種種方便度脫衆生。在家放逸貪欲衆生。令修不淨想。不樂想。憂惱想。逼迫想。繫縛想。羅刹想。無常想。苦想。無我想。空想。不自在想。老死想。令彼衆生遠離五欲。常樂正法。信家非家。出家學道。思惟坐禪。爲障亂聲。除鬼神怖。若於中夜欲出行時。爲開門戶。光明照路。除滅闇冥。讚佛法僧及善知識。又復讚歎近善知識。令諸衆生。未生惡法方便不生。已生惡法方便令滅。未生善法方便令生。已生善法方便增廣。行菩薩行修波羅蜜。滿足大願。出生一切智。習大慈悲。欲令衆生得人

諸三本俱作足

天樂除滅妄想。增長善法順薩婆若。善男子。我唯知此菩薩寂滅定樂精神法門。諸大菩薩。滿普賢願。具足普賢菩薩所行。究竟得離癡闇法界。具諸善根。成就如來智力光明。於佛境界無所障礙。住生死中心無所染。薩婆若願具足成滿。深入一切諸佛刹海。攝取一切諸佛大海。受一切佛妙法雲海。滅一切衆生生死闇海。薩婆若光照生死夜。我當云何能知能說彼功德行。善男子。去此不遠。如來右面有一夜天。名曰喜目觀察衆生。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行修菩薩道。爾時甚深妙德離垢光明夜天。欲重宣明此法門義。以偈頌曰

入於現前定　普見三世佛　離垢清淨眼　分別諸佛海　觀察諸佛身　相好自莊嚴　一念無量力
自在滿法界　盧舍那如來　道場成正覺　一切法界中　轉於淨法輪　最勝知法相　寂滅無有二
妙色相莊嚴　顯現一切衆　佛身難思議　悉滿諸法界　普於十方刹　隨應悉現前　一念放光明
一切刹塵等　無量微妙色　普照諸法界　如來一毛孔　放不思議光　普照諸群生　除滅衆煩惱
如來一毛孔　出無盡化海　充滿諸法界　顯現衆生類　如來一妙音　充滿諸法界　普雨甘露法
令發菩提心　無量劫修行　攝取諸群生　普見諸佛刹　皆悉如電光　如來出世間　普見群萠類
衆生性境界　悉能分別知　一切諸菩薩　所住諸法門　於佛一毛孔　悉能分別知　不遠有夜天
名喜目觀察　汝往詣彼問　云何菩薩行

時善財童子。頭面敬禮彼夜天足。遶無數帀眷仰辭退。向喜目觀察衆生夜天

# 大方廣佛華嚴經卷第五十一

三本俱第五十二爲第五十三

戒宋作或元明俱作惑

# 大方廣佛華嚴經卷第五十二

〔麗道〕〔宋垂〕〔元垂〕〔明垂〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

## 入法界品第三十四之九

爾時善財童子．專求善知識．念因善知識生諸善法．善知識者．難見難遇．見善知識．滅諸亂想．見善知識．除滅一切諸纏障礙．見善知識．得薩婆若智慧光明．見善知識．深入佛海．見善知識．得正念法雲陀羅尼．受持一切佛淨法輪雲．見善知識．具大悲海救護衆生．見善知識．智慧明淨．悉能普照諸法界海．時喜目觀察衆生夜天．以威神力加善財童子．讚善知識詣善知識恭敬供養．善知識者則是菩提．善知識者則是精進．善知識者難見難遇．善知識者是不可壞力．因善知識徧遊十方斷生死流．悉能成辦一切大事．莊嚴正道．得普門法門一切無礙．見善知識．不離本處．徧至十方一切佛所．爾時善財．即時了知見善知識成滿無量諸大願海．得一切智饒益衆生．滅除未來無量劫苦．以大莊嚴而自莊嚴．一一微塵中．修行一切諸法界法．見十方海．知未來劫諸語言法及菩薩行．究竟一切諸菩薩行．於念念中得一切智．神力自在．諸莊嚴道．等三世佛．淨法界流．不離法界境界．而能往詣充滿法界善知識所．爾時善財．往詣喜目觀察衆生夜天．見彼夜天在如來所．於大衆中．處寶蓮華師子之座．正受普菩薩光喜幢法門．一切毛孔出衆妙雲．其有見者欣悅無厭．所謂智慧行雲．饒益衆生離於諍訟不著諸法．以平等心普攝衆生．顯三世菩薩修行布施．悉捨內外難捨之物．十方衆生皆悉覩見．又於一切毛孔．出衆生數等菩薩變化身雲．充滿法界現衆生前．顯示正受不動三昧覺悟衆生．不樂三界遠離世間滅除生死．現天人中種種成敗．敎諸衆生修不淨觀除淨想倒．說有爲行無常變易苦惱之法．令諸衆生深入佛戒．未曾暫離．受持諸佛清淨禁戒．現無疑戒及以香戒．戒香普熏一切衆生．又於一切毛孔．出衆生數等妙色身雲．顯示衆生截諸肢

愛三本俱作惡

涼三本俱作淨

節皆悉能忍堪受衆苦一切訶責惡罵皆悉忍受於彼衆生不生恚心恭敬讚歎不生愛心於一切衆生不起我慢顯現諸法自性之忍顯現無盡菩提心智除滅一切衆生煩惱修習忍法行菩薩行顯現清淨金剛之身顯現如來清淨無上色身隨其所應敎化衆生又於一切毛孔出諸趣種種色身雲勇猛精進現一切智勇猛精進現菩提境界而不退轉勇猛精進降伏諸魔勇猛精進於生死海悉能救度一切衆生勇猛精進除滅一切惡道諸難勇猛精進壞無智山勇猛精進恭敬供養一切如來心無疲倦勇猛精進受持守護諸佛法輪勇猛精進壞散一切諸障礙山勇猛精進嚴淨一切諸如來刹得諸如來清淨精進敎化度脫一切衆生又於一切毛孔出種種色身雲以諸方便除滅衆生愁憂苦惱悉令歡喜厭惡五欲讚歎慙愧調伏諸根修行無上清淨梵行身口意善顯現世間一切所欲皆不可樂建立衆生令樂正法出生正受九次第定除滅衆生一切煩惱顯現菩薩諸三昧海通明自在神力境界令諸衆生皆悉歡喜身心柔輭滅煩惱熱得清涼樂長養正法又於一切毛孔出諸趣種種身雲詣一切刹諸佛師長善知識所恭敬供養心無疲倦受持一切諸佛法輪究竟一切佛海顯現一切法海顯現一切諸法實相顯現一切諸三昧門清淨智慧分別一切衆生心海金剛智慧壞散一切衆生諸邪見山出生圓滿明淨慧日於一念中悉能除滅一切衆生愚癡闇冥令諸衆生皆悉歡喜得薩婆若又於一切毛孔出一切衆生數等身雲現種種色身不思議身隨其所應悉現其前以無量音爲諸衆生演說世間功德之藏世間行業一切三界皆不可樂歎離三界諸惡邪見遠離邪道向一切智超出聲聞緣覺之地於有爲無爲心無所著背捨生死正向涅槃而亦不捨諸趣往來不捨發菩提心成等正覺敎化衆生得一切智又於一一毛孔出一切佛刹微塵等變化身雲普現一切諸衆生前修普賢行滿普賢願讚歎究竟一切大願於念念中嚴淨一切諸世界海於念念中恭敬供養一切諸佛於念念中悉能受持一切法海於念念中一一微塵中出生一切世界海微塵等法界方便海住持一切刹一切劫淨一切智道未曾休息於念念中悉入一切諸如來力究竟三世方便海於一切刹現自在力令一切衆生修菩薩行成滿大願得一切智又於一一毛孔出一切衆生心等身雲悉現一切諸衆生前顯現無量一切智力不可窮盡無能壞者修不退轉菩薩諸行於生死法心無所染降伏衆魔滅煩惱

悅三本俱作快

身同作衆

力。壞散一切障礙山力。具大悲力。於一切劫修菩薩行心無疲倦。震動一切諸佛世界。令衆生喜轉淨法輪。建立法幢制諸外道。修菩薩行力波羅蜜得一切智。又於一一毛孔。出一切衆生心等種種色身雲。充滿無量諸衆生界。隨其所應現菩薩行。智力精進度衆生海。分別了知一切衆生心心所行海。一切衆生諸根海。一切衆生行海。教化衆生未曾失時。則淨智慧究竟於性。於念念中。明淨智慧充滿法界。了知一切世界成敗及其莊嚴。自在神力詣諸佛所。恭敬供養。守護受持正法輪雲。如是顯現智波羅蜜。悉令衆生皆大歡喜熙怡悅樂。身心柔輭除滅熱惱。遠離憂慼棄捨衆惡。調伏諸根心得解脫。於一切智得不退轉。如顯現諸波羅蜜化度衆生。顯現菩薩一切功德化度衆生。亦復如是。又於一切毛孔。顯現喜目觀察衆生夜天。從初發心所爲功德。求善知識往詣諸佛。恭敬供養修習善根。行檀波羅蜜。難捨能施。行尸波羅蜜。棄捐天下宮殿眷屬。出家學道淨修禁戒。行羼提波羅蜜。一切衆生悉加惡言。無量逼切皆悉能忍。行毘梨耶波羅蜜。修諸苦行專永菩提。其心堅固而不退轉。行禪波羅蜜。諸方便道滿足。清淨禪波羅蜜。於諸三昧而得自在。究竟一切諸三昧海。相續次第未曾斷絕。行般若波羅蜜。清淨菩薩圓滿知慧。出明淨慧日無盡慧藏。究竟智海。行方便波羅蜜。出生一切諸方便身。方便功德。方便清淨。方便本事。行願波羅蜜。出生一切諸願淨身。成滿諸願。隨應行願。及願波羅蜜本事。行力波羅蜜。力波羅蜜因緣功德。力波羅蜜方便海。分別演說力波羅蜜本事。行智波羅蜜。智波羅蜜出生。智波羅蜜淨身。智波羅蜜說。智波羅蜜境界。智波羅蜜所攝。智波羅蜜光明。智波羅蜜本事。智波羅蜜分別行。智波羅蜜深入智波羅蜜攝取諸法。隨順知法。知業。知刹。知劫。知三世。知佛出世。知佛智。知菩薩。知菩薩智。知菩薩住。知菩薩功德。知菩薩廻向。知諸大願。知轉法輪。知分別法。知入法海。知方便海。知法旋流。知諸法趣。如是等一切智法羅蜜。於一切毛孔皆悉顯現化度衆生。又於一切毛孔。出無量身雲。所謂阿迦尼吒天身雲。淨居天身雲。善現天身雲。不熱天身雲。果實天身雲。徧淨天身雲。無量淨天身雲。少淨天身雲。淨果天身雲。無量淨果天身雲。少淨果天身雲。光音天身雲。無量光音天身雲。少光音天身雲。大梵天身雲。梵輔天身雲。梵身天身雲。他化自在天王及他化自在天子天女身雲。化自在天王及化自在天子天女身雲。兜率天王及兜率天子天女身雲。夜摩天王及夜摩天子天女身雲。三十

荼明作茶

三天王及三十三天天子天女身雲。提頭賴吒天王及一切乾闥婆男女身雲。毗樓勒叉天王及一切鳩槃荼男女身雲。毗樓博叉天王及一切龍男女身雲。毗沙門天王及一切夜叉男女身雲。緊那羅王及一切緊那羅男女身雲。摩睺羅伽王及一切摩睺羅伽男女身雲。迦樓羅王及一切迦樓羅男女身雲。阿脩羅王及一切阿脩羅男女身雲。閻羅王及一切閻羅王男女身雲。人王身雲。男子女人童男童女身雲。出如是等一切諸趣身雲。聲聞緣覺仙人身雲。地水火風神。海神河神山神林神樹神穀神味神藥草神。園觀神城郭神道場神。夜神晝神。虛空神方神道路神。身形神金剛力士神。出如是等一切身雲。充滿十方一切世界法界。爲一切衆生。現喜目觀察衆生夜天。從初發心所行功德。積集無量諸波羅蜜。次第受生死此生彼及其名號。近善知識値遇諸佛聞持正法。行菩薩行得諸三昧。次第覩見一切佛刹。及諸如來次第諸劫。得淨智慧入深法界觀察衆生。知衆生海死此生彼。得淨天耳。次第悉聞一切音聲。知他心智。次第了知衆生心念。無依神足。次第自在充滿十方。得諸菩薩次第法門。究竟菩薩諸法門海。菩薩自在。菩薩精進。菩薩得證正趣離生衆生想。菩薩想菩薩勝妙淸淨功德。如是等類一切功德。彼化身雲。悉爲衆生。以諸音聲。分別解說開示顯現。所謂風輪音聲。水輪音聲。火燄音聲。大海音聲。大地震動音聲。山王相擊音聲。天城震動音聲。天寶音聲。諸天音聲。龍王音聲。夜叉王。乾闥婆王。阿脩羅王。迦樓羅王。緊那羅王。摩睺羅伽王等音聲。人王音聲。梵王音聲。天女歌頌音聲。天樂音聲。摩尼寶王音聲。如來音聲。菩薩音聲。如來化身音聲。以如是等種種音聲。爲諸衆生。分別演說。喜目觀察衆生夜天從初發心一切功德。彼一一身雲說此法時。念念中於一一方。嚴淨不可說不可說諸佛世界。無量無邊衆生滅惡道苦。無量無邊衆生成就天樂。無量無邊衆生度生死海。無量無邊衆生安立聲聞辟支佛地。無量無邊衆生得菩薩不可思議喜幢自在法門。於念念中無量無邊衆生住如來地。爾時善財童子。皆得見聞如上一切諸奇特事。正念思惟觀察分別。深入定智安住平等。何以故。與彼夜天先同行故。佛護念故。成就不可思議諸善根故。具足菩薩根故。生佛家故。得善知識力故。一切諸佛神力持故。盧舍那佛本願力故。善根熟故。堪受普賢菩薩行故。爾時善財。得菩薩歡喜淨光明海。得十方一切諸如來力。得彼夜天離垢喜幢法門。卽恭敬合掌。以偈讚歎彼夜天曰

無量無數劫　深學最勝法　隨應所受化　顯現妙色身　了知諸群生　愚癡顛倒惑　種種身方便
度脫衆生類　清淨妙法身　除滅煩惱熱　非二現有二　爲化衆生故　陰入及諸界　皆悉無所著
具行及色身　度脫一切衆　不著內外法　越度生死海　明淨智慧光　普照於一切　喜目天無著
除滅衆虛妄　衆生樂著世　爲現佛法力　無礙三昧力　一一毛孔中　出諸化身雲　供養十方佛
念念中出生　諸佛方便力　攝取諸衆生　究竟一切法　觀察諸有海　業行莊嚴身　演說無礙法
令衆清淨故　相好自莊嚴　猶若普賢身　隨應受化者　顯現無量身

爾時善財童子。偈讚歎已。白言天神。發阿耨多羅三藐三菩提心。爲幾時耶。得此法門其已久如。爾時夜天。以偈答言

憶念過去世　無量剎塵劫　爾時有一劫　名曰寂靜音　有都名香水　其王名智慧　十二億百千
那由四天下　彼聖轉輪王　清淨妙色身　三十二相具　八十好莊嚴　妙身清淨藏　閻浮檀金色
光明照一切　詳步遊虛空　彼王有千子　勇猛身端正　大臣有一億　知慧悉賢明　采女有十億
端嚴如天后　大慈心柔輭　瞻奉給侍王　彼聖轉輪王　常以正法治　統領諸山地　一切四天下
我時爲寶女　具足淨梵音　身出金色光　周照四萬里　日光既已沒　中夜閑寂然　我當於爾時
神瑞降善夢　見佛出世間　號曰功德海　顯現自在力　充滿十方界　放大光明海　一切剎塵等
無量自在身　充滿於十方　大地六種動　自然出妙音　如來興出世　天人悉歡喜　一切毛孔中
出佛化身海　充滿十方界　隨應而說法　我夢見如是　如是自在力　聞說深妙法　其心大歡喜
一萬夜天神　充滿虛空中　讚歎彼如來　聞已卽覺悟　彼天告我言　寶慧女速起　佛已與汝國
劫海難値遇　聞此音歡喜　卽見明淨光　觀察從何來　道場樹王所　時見如來身　猶若寶山王
一切毛孔中　放大光明海　見佛自在力　其心大歡喜　卽發弘誓願　令我獲此德　我時覺大王
普及諸眷屬　見彼佛光明　歡喜心無量　我時與彼王　無量那由他　眷屬四種兵　往詣如來所

---

中明作諸

詳三本俱作庠

已沒同作沒已

燄海同作炎佛

我於二萬歲　供養彼如來　七寶四天下　一切悉奉施　時彼如來說　功德普雲經　大願海莊嚴
隨應度衆生　我發如是願　來世作夜天　諸有放逸者　悉令遠離之　爾時我初發　無上菩提心
生死有爲中　未曾有忘失　從是後供養　十億那由佛　生死海受樂　饒益諸群生　初佛功德海
第二功德燈　第三寶幢佛　第四虛空智　第五蓮華藏　六無礙音月　第七法月王　九圓滿智燈
第九寶燄佛　無上天人尊　第十化音聲　我已悉供養　如是等諸佛　十億那由他　猶未得慧眼
究竟生死海　次第復有劫　名曰天妙勝　世界名寶光　五百佛興世　初佛圓滿月　第二明淨日
第三光明佛　四須彌山王　第五華燄海　第六智慧海　第七然燈佛　第八天德藏　九光明王幢
第十普智王　如是等諸佛　我已悉供養　未離樂五陰　非樂生樂想　次第復有劫　名莊嚴梵音
爾時有世界　名蓮華燈雲　彼有無量佛　及其大眷屬　我已悉供養　聞受持正法　初佛寶須彌
第二功德海　法界須彌幢　第四法須彌　第五法幢佛　第六法地佛　第七法力佛　第八虛空慧
第九光燄山　第十照明山　如是等諸佛　我已悉供養　猶未了眞實　究竟諸法海　次第復有劫
名曰歡喜德　爾時有世界　名曰功德幢　彼劫有八十　那由他諸佛　無量供養具　奉彼諸最勝
初乾闥婆王　二壽命樹王　三功德須彌　第四寶眼佛　第五盧舍那　六光明莊嚴　第七法勝佛
第八明淨德　第九世間主　十一切法王　如是等諸佛　我已悉供養　猶未得妙智　深入法界海
次第復有劫　名曰寂靜慧　爾時有世界　名普光明雲　有千佛興世　無量德莊嚴　除滅煩惱垢
一切衆清淨　初佛號無諍　第二無礙力　三法界光明　四一切燈王　五婆樓那天　第六衆生歸
七忍圓滿燈　八法具足燈　九光明嚴海　第十光明王　如是等諸佛　我已悉供養　猶未解眞法
遊行一切剎　次第復有劫　名曰香燈雲　爾時有世界　名曰清淨起　一億佛興世　嚴淨一切劫
彼佛所說法　我悉聞受持　初佛無量稱　第二法海佛　第三勇猛王　四功德法王　第五勝法雲
第六天冠佛　第七智燄佛　第八虛空音　第九等勝起　第十妙德光　供彼諸佛已　成就八正道

十三本俱作千

次第復有劫　名明淨堅固　爾時有世界　名曰寶幢王　五百佛興世　彼諸如來等　我已悉供養
求無礙法門　初佛圓滿德　第二寂靜音　第三功德海　第四日王佛　第五功德王　第六須彌相
第七法王佛　第八功德王　第九須彌山　第十光明王　如是等諸佛　我已悉供養　我皆悉嚴淨
一切最勝道　猶未得具足　究竟深法忍　次第復有劫　名曰爲勝王　爾時有世界　名寂靜音聲
八十那由他　諸佛興出世　我已悉供養　於彼修正道　初佛號華聚　第二海藏佛　第三功德起
第四天周羅　第五摩尼藏　第六金山佛　第七寶聚佛　第八寂靜幢　第九法幢佛　第十智王佛
如是等諸佛　我已悉供養　次第復有劫　名曰千功德　爾時有世界　名善化幢燈　六億那由他
諸佛興出世　我已悉供養　彼一切如來　初佛寂靜幢　第二智慧幢　第三百燈佛　四功德雲王
寂靜光明王　第六明淨日　第七法燈佛　第八光燄佛　九天功德藏　第十智慧燈　如是等諸佛
我已悉供養　未得無生忍　究竟諸法海　次等復有劫　名無著莊嚴　爾時有世界　名無量勝光
時有三十六　那由他佛出　如是等諸佛　我已悉供養　初功德須彌　第二虛空心　第三莊嚴智
第四莊嚴藏　五法音聲海　六持法音聲　第七化音聲　第八功德海　九功德海燃　第十功德幢
彼諸如來等　我皆悉値遇　功德幢如來　出興於世時　我爲功德天　供養彼最勝　時佛爲我說
莊嚴大願海　陀羅尼念力　皆悉能受持　我得明淨眼　三昧陀羅尼　於一一念中　悉見最勝海
出生大悲藏　深入方便雲　心淨如虛空　悉得諸佛力　觀察諸衆生　常樂我淨倒　愚癡闇所覆
煩惱起虛妄　邪見貪欲等　無量諸惡業　一切諸趣中　具受不善報　一切諸趣中　種種業受身
生死病死患　無量苦逼迫　我發無上心　安樂彼衆生　令至諸佛所　成滿如來力　滿足大願雲
常見一切佛　修習於正道　具足諸功德　一向廣專求　無量功德雲　法門波羅蜜　充滿諸法界
佛子我爾時　卽得普賢行　分別深法界　攝取一切法　成滿一切地　三世方便海　修習無礙行
一念具佛智

畜明作衆

善男子.爾時智慧轉輪王者.豈異人乎.文殊師利童子是也.紹繼轉輪王姓諸如來種.使不斷絕.時王賢慧寶女者我身是也.爾時夜天覺悟我者.普賢菩薩所變化也.我於爾時.初發阿耨多羅三藐三菩提心.發道心已.於佛剎微塵等劫.不墮惡道.常生天人.覩見諸佛.乃至功德幢佛所.得此普光喜幢法門.得此法門.已饒益化度無量衆生.善男子.我唯知此法門.諸大菩薩於念念中.普詣一切諸如來所.具足成就精進大海.於念念中.滿足一切諸大願海.於念念中.出生一切未來劫菩薩諸行.於一一菩薩行中.出生一切佛剎微塵等身.彼一一身.充滿一切諸法界海.於一一法界中.顯現一切佛剎.隨其所應現菩薩行.於一一佛剎中.究竟一切佛剎微塵等諸佛海.於一一佛所.究竟一切法界等如來自在神力.一一如來所.分別過去諸劫.行菩薩行.一一如來所.守護受持一切法輪.究竟三世如來諸方便海.我當云何能知能說彼功德行.善男子.此佛衆中有一夜天.名曰妙德救護衆生.汝詣彼問.云何菩薩學菩薩行具菩薩行淨菩薩行.時善財童子.頭面敬禮.喜目觀察衆生夜天足.辭退而行.

爾時善財童子.正念思惟普光喜幢法門.分別深入開發顯現.隨順善知識敎.一向專求見善知識身心諸根.普遊方面求善知識.思念善知識道.勇猛精進乃得值遇.同善知識一切善根.具足成就深妙方便.因善知識出生長養一切善根.發諸大願.於一切劫.不離善知識.往詣妙德救護衆生夜天所.爾時夜天.爲善財童子.顯現菩薩敎化一切世間法門境界.相好嚴身.眉間白毫相中放大光明.名曰普慧燄燈淨幢.無量光明以爲眷屬.普照一切世界.照已入善財頂充滿其身.爾時善財.卽得菩薩離垢圓滿三昧.得此三昧已.於一切地水火風微塵.衆寶微塵.香微塵.金剛微塵.摩尼微塵.碎末微塵.一切莊嚴具微塵.一切境界微塵.如是等一一微塵中.悉見佛剎微塵等世界成敗.風輪水輪金剛輪地輪.種種莊嚴衆山圍遶.無量大海諸天宮殿.諸雜寶樹種種莊嚴.諸龍宮殿夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等城郭宮殿.地獄餓鬼畜生閻羅王處.悉見五道衆生死此生彼.分別了知彼諸世界.或有世界淨.或有世界不淨.或有世界趣淨.或有世界趣不淨.或有世界淨不淨.或有世界不淨淨.或有世界一向淨.或有世界其形平正.或有世界其形如伏.或有世界其形四方.如是等一切世界.一切趣中.見彼夜天.於一切時.普現一切諸衆生前.隨其所應而度脫之.爲地獄衆生滅諸楚毒.爲諸畜生滅

惱害畏。爲餓鬼衆生除飢渴苦。爲諸龍等滅一切畏。爲欲界衆生除欲界苦。爲諸人類除闇冥畏。不活畏。惡名畏。大衆畏。惡道畏。死畏。失善根畏。失菩薩心畏。近惡知識畏。失善知識畏。聲聞緣覺地畏。生死畏。不同意畏。非時受生畏。生惡人家畏。行惡業畏。業障畏。煩惱障畏。報障畏。諸貪著畏。諸繫縛畏。滅如是等一切怖畏。又復敎化四生衆生。所謂卵生胎生。濕生化生。有色無色。有想無想。非有想非無想衆生。常現其前而敎化之。滿大願力故。菩薩三昧力故。諸通明力故。出生普賢菩薩行力故。出生長養大悲海故。無礙大慈覆一切衆生故。安樂一切衆生故。攝取一切衆生故。深入菩薩自在境界法門故。普現一切諸佛剎中爲嚴淨故。在一切法中智慧覺悟故。在一切佛所恭敬供養故。在一切佛法中守護正法故。在一切衆生心海中度脫衆生故。在一切衆生諸根中調伏諸根故。在一切衆生欲海中爲除障礙得清淨故。在一切衆生愚癡闇中出生一切智光明故。爾時善財。見彼夜天自在神力不可思議菩薩境界一切世界敎化衆生成就菩薩一切法門自在神力。歡喜無量。頭面禮足恭敬合掌。於一面住一心觀察。爾時夜天。即捨相好妙莊嚴身。現夜天形。而不捨離自在神力。爾時善財。以偈頌曰

善財合掌住　諦觀無厭足　見無量神力　其心大歡喜　我見尊妙身　相好自莊嚴　清淨如虛空
一切莫能壞　所放殊勝光　無量剎塵等　種種微妙色　普照於十方　一一毛孔放　衆生等光明
一一光明端　出生寶蓮華　從華出化身　除滅衆生苦　放諸香光明　普熏十方界　雨無量華雲
供養諸最勝　放無量寶光　一一如須彌　普照一切衆　除滅愚癡闇　口放淨光明　猶如無量日
普照盧舍那　無量之境界　眼放淨光明　猶如無量月　普照群生類　除滅愚癡瞖　妙相等衆生
出生化身海　充滿諸法界　度脫三有海　清淨微妙身　一切無不見　遠離水火賊　王等一切難
喜目觀察天　敎我詣尊所　見尊白毫相　演出明淨光　普照十方海　除滅一切闇　顯現自在力
從我頂上入　光明入身已　擧體柔輭樂　即得離垢定　普見十方佛　悉能分別知　一切諸微塵
一一微塵中　普見十方剎　或有淨世界　或有不淨剎　不淨世界中　衆生受諸苦　不淨世界中
衆生受苦故　示現三乘像　而往救度之　清淨佛國土　無量寶莊嚴　諸佛大菩薩　常樂於中住

---

四同作衆

勝三本俱作妙

一一微塵中　普中淨刹海　盧舍那積劫　令彼土清淨　一切佛刹中　現坐菩提樹　得成最正覺
而轉淨法輪　我見妙德天　詣彼嚴淨刹　一切如來所　恭敬而供養

爾時善財。偈讚歎已。自言天神。甚奇甚特。此菩薩法門最爲甚深。此法門者名爲何等。得此法門其已久如。本修何行而致之乎。善男子。此處甚深。一切人天聲聞緣覺所不能知。何以故。滿普賢菩薩行者境界。大悲菩薩藏境界。救護一切衆生菩薩境界。除滅一切惡道諸難菩薩境界。一切佛刹中守護一切佛法令不斷絕菩薩境界。一切劫中修菩薩行滿大願海菩薩境界。具足成就明淨慧光滅一切衆生愚癡闇障普照一切菩薩境界。於一念中明淨智慧普照三世諸方便海菩薩境界。善男子。諦聽諦聽。我當承佛神力爲汝解說。佛子。乃往古世。過世界微塵等劫。有劫名離垢圓滿。世界名明淨妙德幢。有須彌山微塵等如來。出現於世。其佛世界七寶合成。衆寶莊嚴。其土圓滿離垢清淨寶網羅覆。金剛圍山周帀圍遶。有十萬億那由他四域天下。或有天下清淨衆生亦淨。或有天下不淨衆生不淨。或有天下淨不淨雜衆生亦雜。或有天下清淨一切衆生善根具足無諸疾患。或有天下嚴淨殊勝。但諸菩薩彼世界東際。近金剛山有四天下。名華燈幢。妙寶樓閣臺觀宮殿。上味飲食自然具足。薝蔔華樹普覆一切種種香樹出妙香雲。諸寶鬘樹普雨鬘雲。諸雜華樹雨不思議衆妙華雲。諸末香樹雨末香雲。諸香王樹雨妙香雲。摩尼寶樹雨種種寶。諸音樂樹微風吹動出和雅音充滿虛空。日月明淨妙寶光明普照一切。彼四天下有百萬億那由他諸王京都。一一王都有千渠水。微流迴映衆華普被。自然演出天音樂聲。岸植寶樹行列莊嚴。衆寶爲地。一一水間。有十億千城。彼一一城。有十億百千那由他聚落圍遶。彼一一城。及一一聚落。各有無量億那由他妙寶樓閣而莊嚴之。彼閻浮提有一王都。名寶華燈。安隱豐樂人民熾盛。此諸衆生。具足修行十善業道。時彼城中有轉輪王。名曰明淨寶藏妙德。爲大法王。治以正法。從蓮華生。具三十二大人之相。七寶成就。王有千子端正勇猛。有十億大臣。王有寶女。名妙德成滿。端嚴姝妙目髮紺色身如天金。梵音清淨。身出光明照千由旬。彼有一女。名妙德眼。一切諸行皆悉具足。端正殊特觀者無厭。有十億百千那由他諸采女衆。皆與聖王同善根行。身眞金色。一切毛孔皆出妙香。衆寶莊嚴超逾天女。爾時衆生壽命無量。或有不定或有中天。形色

三本俱爾時善財已下爲卷第五十四入法界品第三十四之十

逾明作踰

陵三本俱作淩
寶下同有光字

不同長短名號音聲善根精進方便.亦悉不同.有好有醜有讚有毀.爾時有人.謂一人言.我色端嚴汝形鄙陋.共相陵毀作惡業已.壽命色力所受快樂.皆悉損減.時彼城北有道場樹.名普光明妙法音幢.衆寶爲根.無能壞者.莖節枝葉衆寶合成.皆悉齊等.出衆寶雲普覆一切.放衆寶光普照十方.演妙音聲宣揚如來自在神力.於其樹前有香水池.名寶華光明演法音雲.衆寶爲岸.有十億百千那由他寶樹圍遶.彼一一樹.如菩提樹寶瓔珞樹周帀垂下.淸淨妙寶以爲莊嚴.衆寶樓閣無量無數周徧道場.彼香池中有一蓮華.名三世一切佛莊嚴境界雲.最初妙德幢佛.於彼華上成等正覺.化衆生故.放大光明.名曰萬歲.衆生見者.知後萬歲佛當出世.次後放光.名一切衆生離垢觀喜燈.衆生見者.知九千歲佛當出世.次後放光.名離垢燈妙德藏.衆生見者悉覩妙色.知八千歲佛當出世.次後放光.名一切衆生業報音聲.衆生見者.分別了知自己業報.知七千歲佛當出世.次後放光.名起一切善根音聲.若有衆生諸根不具.觸斯光明皆悉具足.知六千歲佛當出世.次後放光.名曰顯現不可思議諸佛境界音聲.衆生見者.悉發明淨自在之心.知五千歲佛當出世.次後放光.名曰嚴淨一切佛刹.衆生見者.見一切如來嚴淨佛刹.知四千歲佛當出世.次後放光.名一切佛不可壞境界明淨燈.衆生見者.知佛自在無所不至.知三千歲佛當出世.次後放光名普照三世一切諸佛本事音聲.衆生見者.知一切如來過去本事無量大海.知二千歲佛當出世.次後放光.名離癡暗智如來淨燈.衆生見者.得平等淨眼.普見一切嚴淨佛刹.一切如來.一切衆生.知一千歲佛當出世.次後放光.名一切衆生見諸如來長養善根.衆生見者.知後七日佛當出世.次後放光.名一切衆生歡喜音聲.衆生見者.一心歡喜欲見如來.佛子.彼佛於一萬歲中.放如是等無量光明.敎化衆生.滿七日已.佛神力故.一切世界六種震動.爾時衆生.於念念中見一切佛刹.皆悉淸淨衆寶莊嚴.時彼世界衆生.悉詣道場.一切金剛圍山須彌山王.一切諸山.一切變化.一切音聲.一切大地.一切城邑垣牆宮殿.如是等一切諸物出微妙音歌頌讚佛.又出一切香雲.一切寶光明雲.一切寶形像雲.一切寶衣雲.一切華雲.一切末香雲.一切寶莊嚴雲.一切如來圓滿光雲.一切如來大願聲雲.一切如來妙音聲雲.一切如來諸相好雲.顯現不可思議.如來瑞應相雲.出如是等一切妙雲.供養如來.時彼三世一切佛莊嚴境界雲蓮華周帀.出生十佛世界微塵等衆

淨明作正〇人天三本俱作天人

寶蓮華。彼一一蓮華鬚上。有寶蓮華藏師子之座。彼師子座上。有十佛世界微塵等菩薩摩訶薩。爾時妙德幢佛。於一切世界。隨其所應轉淨法輪。令無量衆生離惡道苦。無量衆生生人天中。立無量衆生於聲聞緣覺之地。立無量衆生於勇猛精進菩薩之行。立無量衆生於離垢幢精進菩薩之行。立無量衆生於法光明菩薩之行。立無量衆生於清淨根菩薩之行。立無量衆生於平等諸力菩薩之行。立無量衆生於一向專求入正法城菩薩之行。立無量衆生於至一切處不可破壞神力自在菩薩之行。立無量衆生於一切方便菩薩之行。立無量衆生出生菩薩三昧安住菩提。立無量衆生修一切淨行安住菩提。立無量衆生發菩提心。立無量衆生住菩薩道。立無量衆生清淨諸波羅蜜。立無量衆生於菩薩初地。乃至立無量衆生於菩薩十地。立無量衆生於菩薩大願殊勝之行。立無量衆生於普賢菩薩清淨願行。何以故。如來轉不可得議自在法輪故。於念念中隨其所應。以種種身種種方便種種說法。度脫無量衆生。爾時普賢菩薩。知寶華燈城王都衆生。自恃色貌陵蔑他人。化現妙身端嚴殊特。往詣彼城。放大光明普照一切。時彼聖王身之光明。諸寶光明。寶女光明。寶樹光明。日月星宿光明。皆悉映蔽。猶如聚墨在眞金山。普賢菩薩身色光明。映蔽衆光亦復如是。爾時衆生。各作是念。今此光明。悉蔽我等不復顯現。爲是梵天諸天光耶

# 大方廣佛華嚴經卷第五十三

(麗道)(宋垂)(元垂)(明垂)

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅　譯

## 入法界品第三十四之十

爾時普賢菩薩在彼聖王寶宮殿上於虛空中而告之言大王當地佛興於世今在普光明妙法音幢菩提樹下時彼衆生見普賢菩薩相好嚴身無量光明聞妙音聲歡喜無量發如是願令我等所作善根得此妙身相好莊嚴威儀無異神力自在除滅一切衆生愚闇覺悟一切佛興于世趣趣受生願常不離此善知識時彼聖王與其寶女及諸眷屬千子大臣幷四種兵上昇虛空放大光明照四天下普爲衆生以偈頌曰

如來出世間　普救諸群生　汝等應速起　往詣導師所　無量無數劫　或有佛興世　演說深妙法
饒益一切衆　普見諸群生　愚癡顚倒惑　流轉生死苦　於彼起大悲　無量無數劫　修習菩薩行
爲化衆生故　發起無上悲　頭目手足等　難捨悉能施　無量無數劫　專求佛菩提　無量無邊劫
如來難値遇　其有見聞者　一切悉不虛　如來在道場　處佛正法座　降伏一切魔　得成最正覺
觀察如來身　放演無量光　種種微妙色　除滅一切闇　一一毛孔中　放光不思議　除滅愚癡曀
令衆悉歡喜　各辦衆供具　發大精進心　咸詣如來所　恭敬設供養

爾時轉輪聖王讚歎佛已以轉輪王功德善根與十種雲普覆虛空往詣道場供養如來所謂一切寶雲一切華雲一切衣雲一切寶衣雲一切寶網金鈴雲一切堅固香雲一切如意珠雲一切妙寶幢雲一切寶宮殿雲一切莊嚴雲普覆一切莊嚴虛空供養如來往詣佛所頭面禮足遶無數帀退坐普照寶藏之座爾時妙德眼女卽解身上諸莊嚴具奉散如來時莊嚴具於虛空中變成寶蓋衆寶莊嚴悉與一切諸宮殿等端嚴齊整十寶莊嚴金

頌三本俱作讚

提同作薩○邊同作數

剛圍山周帀圍遶。其形猶如明淨樓衆閣寶莊嚴。無量龍王悉共執持。寶樹圍遶妙香普熏。於其蓋中有菩提樹。枝葉榮茂普覆法界。以無量莊嚴而莊嚴之。見盧舍那佛坐此樹下。與不可說佛刹微塵等大菩薩俱。皆悉具足普賢菩薩一切所行。往菩薩住。無能壞者。又見一切世界諸王園遶如來。又見彼佛神力自在。又見一切諸劫次第世界成敗。又見一切諸佛次第出世。又見普賢菩薩在一切佛所恭敬供養敎化衆生。又見彼一一世界中。悉有佛刹微塵等世界。種種安住種種莊嚴。種種淸淨種種劫。種種如來出興于世。種種三世。種種國土。種種法界。種種諸道。種種入法界種種虛空。種種道場種種佛光。種種諸佛莊嚴師子之座。種種如來眷屬。種種如來方便。種種轉法輪。種種如來妙音說。種種音聲海說。種種修多羅雲。時彼女人見聞如是歡喜無量。爾時妙德幢佛。於大衆中說修多羅。名一切如來法輪妙音。十佛世界微塵等修多羅。以爲眷屬。時彼女人聞此經已。卽得一萬三昧。身心柔輭如初受胎。又如衆生初受勝業果報。又如初生堅固吉樹。所謂見現在一切諸佛三昧。普照一切佛刹三昧。深入三世三昧。一切如來妙音轉法輪三昧。知一切佛願海三昧。滅一切衆生生死苦惱三昧。滅一切衆生癡闇滿足莊嚴大願三昧。滅一切衆生諸苦三昧。令一切衆生具足快樂三昧。敎化一切衆生心無疲倦三昧。一切菩薩無礙幢三昧。菩薩降神母胎莊嚴三昧。得如是等一萬三昧。復得淨三昧心不動心。歡喜心。正希望心。廣大心。順善知識敎心。甚深薩婆若心。隨順方便海心。一切無著心。捨離一切世間境界心。究竟如來境界心。普照一切色海心。滅瞋恚心。愛念心。平等心。無疲倦心。不退轉心。離懈怠心。觀一切法寂靜心。隨順一切法海心。隨順分別一切法心。分別一切衆生海心。救護一切衆生心。普照一切世界心。滿一切佛大願海心。壞散一切障礙山心。積集無量功德山心。向佛十力心。普照一切菩薩境界心。長養一切菩薩諸功德心。充滿一切十方海心。發平等心。成滿佛刹微塵等諸願海心。願淨一切如來刹心。如是等心。出生十佛世界微塵等法門。所謂敎化一切衆生法門。分別一切法界法門。究竟一切法海法門。於一切世界盡未來劫出生菩薩行法門。於一切世界盡未來劫住菩薩行法門。往詣一切佛所法門。値遇一切善知識法門。恭敬供養一切佛法門。於念念中出生一切智不斷菩薩行法門。出生如是等十佛世界微塵等法門。出生普賢菩薩願行。專求一切智。時彼女人得諸如來初

名三本俱作號○無上同有金剛二字○德下同無住字

我上同無時字名下同無夜字而有出生二字○量下同有地字妓元明俱作仙

發心願。善男子。復於是前。過十大劫有世界。名日輪光照。佛號因陀羅妙德幢。此妙德眼女。因普賢菩薩善知識故。造蓮華如來像。衆寶莊嚴。發菩提心。善男子。爾時明淨寶藏妙德轉輪聖王者。豈異人乎。今彌勒菩薩是也。時寶女妙德成滿者。今寂靜音夜天是也。妙德眼女者。我身是也。善男子。我以莊嚴具供養妙德幢如來故。見佛無量自在神力。聞說正法。聞正法已。即得敎化一切衆生法門。恭敬供養須彌山微塵等一切如來。聞彼諸佛所說經法。皆悉受持。於一念中。見彼一切佛刹一切如來及菩薩衆。善男子。其後有劫名大光明。世界名種種莊嚴。有五百佛出興于世。我悉恭敬供養此諸如來。其最初佛。名大悲幢。我爲夜天恭敬供養。次後如來。名金剛那羅延幢。時我爲轉輪王。恭敬供養彼佛。爲我說修多羅。名起一切如來性。十佛世界微塵等修多羅。以爲眷屬。次後如來。名無礙妙德住。時我爲轉輪王。恭敬供養彼佛。爲我說修多羅。名普照一切衆生諸根。須彌山微塵等修多羅。以爲眷屬。悉聞受持。次後如來。名明淨燄妙德山莊嚴。時我爲長者。恭敬供養彼佛。爲我說修多羅。名普照三世藏。閻浮提微塵等修多羅。以爲眷屬。悉聞受持。次後如來。名一切法海起王。時我爲阿修羅。恭敬供養彼佛。爲我說經。名分別一切法界。五百修多羅。以爲眷屬。悉聞受持。次後如來。名甚深妙法海光。時我爲龍女。雨如意摩尼寶雲。恭敬供養彼佛。爲我說修多羅。名長養歡喜海。百萬億修多羅。以爲眷屬。悉聞受持。次後如來。名寶燄功德山燈。時我爲海神。雨衆寶華雲。恭敬供養彼佛。爲我說修多羅。名法界方便海。世界微塵等修多羅。以爲眷屬。悉聞受持。次後如來。名功德海光圓滿妙德。時我爲仙人。在雪山住。與六萬仙人俱。往詣彼佛。雨寶華雲。恭敬供養彼佛。爲我說修多羅。名法燈無所著。六萬修多羅。以爲眷屬。悉聞受持次後如來。名明淨妙德藏。時我爲地天。名夜半等義。與無量天俱。往詣彼佛。雨一切寶一切寶藏一切莊嚴雲。恭敬供養彼佛。爲我說修多羅。名起一切如來智藏。無量修多善以爲眷屬。悉聞受持。佛子。如是五百如來次第興世。其最後佛。名法界虛空寶山妙德燈。時我爲妓人。名曰善口。彼佛入城。我在空中。以一千偈讚歎如來。爾時世尊眉間白毫相。放大光明。名普照法界莊嚴。普照十方。照已入我身中。即得法界方便不退藏法門。佛子。如是等世界微塵等劫。諸佛興世。我悉恭敬供養彼諸如來。所說正法悉聞受持。未曾忘失一句一味。於一一佛所。得三世甚深法界清淨法身。一切智光普照一

方三本俱作力

光同作方

切。攝取普賢菩薩所行。於念念中。悉見無量無邊諸佛。得無量無邊淨慧光明。普照一切。先未得未證普賢所行。今悉成滿。何以故。說無量無邊故。爾時妙德救護衆生夜天。欲重明此義。以偈頌曰

善財應諦聽　甚深難見法　普照於三世　分別深法界　如我初發心　專求無上道　隨所得法門
諦聽我今說　過去久遠世　佛刹微塵劫　爾時有一劫　名離垢圓滿　時有世界名　明淨妙德幢
須彌微塵等　如來出興世　初佛妙德幢　二普慧光燄　法幢德須彌　第四師子佛　第五寂靜王
六號除滅惡　第七功德聚　第八須彌山　第九妙德佛　第十明淨月　如是十如來　彼劫初出世
次復有十佛　初虛空方便　第二普光明　三安住諸方　第四功德海　第五高無上　第六最勝雲
第七功德佛　第八光燄山　第九蓮華佛　第十法界化　是爲第二十　初光明幢王　第二智慧佛
第三心義佛　四陀羅妙德　第五妙天佛　第六勇猛王　第七智慧德　第八光明幢　第九如來號
超出一切世　第十蓮華佛　是爲第三十　第一光燄山　第二功德海　第三法光明　第四妙蓮華
第五衆生眼　第六香光明　七妙德寶山　八乾闥婆王　第九明淨智　第十寂靜色　初佛光智慧
第二寶光明　三虛空妙德　第四妙相佛　圓滿功德光　第六那羅延　第七妙須彌　八功德轉輪
九不可壞王　第十寶山佛　初佛婆羅王　第二妙德藏　第三光明王　第四眞實起　第五光明德
六陀羅尼德　七光明甚深　八法海音佛　第九須彌幢　光明妙德佛　寶光燄如來　是爲第十佛
初佛梵光燄　第二虛空音　第三法界光　第四圓滿光　第五分別光　第六光明幢　第七虛空燈
第八樂妙德　第九明淨光　妙功德如來　十寂靜妙德　大悲雲如來　初佛力光慧　二衆生現前
第三無上福　第四妙德光　第五法起佛　六風速妙德　第七淨幢佛　第八寶蓋佛　第九妙德佛
十普照三世　初佛號願海　第二光明德　第三金剛身　四須彌妙德　第五正念佛　六幢王妙德
第七智慧燈　第八無量寶　第九號方便　明淨法界佛　第十號法海　明淨智妙德　初佛號法寶
功德轉輪王　第三功德雲　第四忍辱燈　第五寂靜音　第六寂靜幢　第七衆生燈　第八大願佛

第九如來號　不可壞幢王　第十號智慧　燄起妙德佛　初佛號法王　第二無礙智　三照語言海
第四妙音聲　第五妙德音　第六自在佛　七十方一切　衆生現前佛　第八平等意　九無上如來
第十號自然．賢妙德最勝　如是等一切　須彌塵數佛　彼諸如來等　我已悉供養　佛刹微塵劫
所出諸如來　悉恭敬供養　逮得此法門　我於無量劫　修行得法門　善財聞思惟　應當速究竟

善男子．我唯知此教化衆生菩薩法門．諸大菩薩．究竟無量無邊菩薩所行．悉從種種性海中．起種種正直身心．滿諸根海．具足一切諸大願門．修行無量諸三昧門．具足成就無量神力．修行無量智慧之行．入種種智．諸法光明普照一切．我當云何能知能說彼功德行．善男子．於此道場去我不遠．有一夜天名寂靜音．處寶幢蓮華藏師子之座．百萬阿僧祇諸天眷屬圍遶．汝詣彼問．云何菩薩學菩薩行修菩薩道．時善財童子．頭面敬禮妙德救護衆生夜天足．遶無數帀．敬心辭退．爾時善財童子．往詣寂靜音夜天所．頭面禮足．遶無數帀．恭敬合掌．於一面住．白言天神．我已先發阿耨多羅三藐三菩提心．我依善知識．學菩薩行．入菩薩行．入菩薩行地．住菩薩行住．唯願天神．爲我解說．爾時夜天．告善財言．善哉善哉．善男子．乃能依善知識．求菩薩道．善男子．我成就菩薩無量歡喜莊嚴法門．白言天神．此法門者．爲何所作．境界云何．何等方便．爲何等行．答言．善男子．我能淸淨一切衆生心海．除滅塵垢．不斷淸淨莊嚴之心．得不退境界堅固之心．不可動心．決定了知功德寶山莊嚴無染著心．常現前護一切衆生心．見一切佛諸菩薩海無厭足心．淸淨菩薩正直力心．普照一切智慧海心．善男子．我爲衆生．滅除憂惱無量衆苦．令其永離諸惡色聲香味觸意法．除滅衆生愛別離苦怨憎會苦及餘一切諸惡因緣壞敗大苦．住生死苦生老病死憂悲惱苦．令得如來無上快樂．一切城邑聚落衆生．我悉救護．令得安樂．廣爲說法．教令漸求一切種智．若見衆生在家宮殿心樂著者．爲彼說法．令知諸法眞實之性．若見衆生．與父母兄弟歡娛讌集．爲彼說法．令與諸佛菩薩共會．若見衆生妻子歡會．爲彼說法．令竭生死愛欲之海．具足大悲等觀一切．若見衆生處王宮殿．爲彼說法．悉令逮得賢聖快樂．若見衆生著境界者．爲彼說法．令得如來甚深境界．若見衆生起瞋恚者．爲彼說法．令得如來羼提波羅蜜．爲懈怠者演說正法．令得菩薩淸淨毗梨耶波羅蜜．爲亂心者演說正法．令得

華下三本俱無藏字
退下同無爾時善財童子六字
法上明無意字

爲國土元明俱作爲著國上

如來禪波羅蜜。爲邪癡者演說正法。令得般若波羅蜜。爲著三界者演說正法。令出三有。爲樂小法者演說正法。令其滿足菩提大願。爲自安者演說正法。令具大願饒益一切。爲心劣者演說正法。令得菩薩力波羅蜜。爲無智者演說正法。令得菩薩智波羅蜜。爲無色者演說正法。令得如來清淨色身。爲危脆身者演說正法。令得無上清淨法身。爲惡色者演說正法。令得如來清淨妙色。爲苦惱者演說正法。令得如來無上快樂。爲貧窮者演說正法。令得菩薩諸清淨藏。爲園觀者演說正法。令一向求諸佛妙法。爲在路者演說正法。令得一切智道。爲聚落者演說正法。令出三界。爲國土者演說正法。令過聲聞緣覺及菩薩地。往如來地。爲在城郭者演說正法。令入法王城普照一切。爲在隅者演說正法。令得三世平等智慧。爲在方者演說正法。令一切智常現在前觀一切法。爲貪欲多者演說正法。令觀不淨滅生死愛。爲瞋恚多者演說正法。令得究竟大慈之海。爲愚癡多者演說正法。令得智慧觀諸法海。爲等分者演說正法。令其分別諸勝願海。離生死樂滅生死苦。顯佛正不法著五陰常行妙法。爲懈怠者演說正法。令得莊嚴勝道。爲憍慢者演說正法。令觀一切諸法平等。爲諂曲者演說正法。令得菩薩清淨直心。善男子。我以如是等無量法施。攝取衆生。滅惡道苦。處天人樂。永離三界。具諸功德。種種方便而化度之。歡喜無量。復次善男子。我常觀察菩薩大海種種願行。種種淨身。種種淨光。種種光燄。種種諸道趣薩婆若。入種種三昧海。顯現種種自在神力。出生種種妙音聲海。種種妙莊嚴身。種種方便入如來海。往詣種種諸佛刹海。究竟種種諸如來海。深入種種諸辯才海。普照種種如來境界。成就種種諸智慧海。超度種種三昧印海。安住種種遊戲法門。以種種門趣薩婆若。種種莊嚴虛空法界。種種莊嚴雲普覆虛空。觀察種種諸大衆海。十方世界一切刹中。諸如來所。菩薩眷屬普雨種種妙莊嚴雲。皆悉來會。安處種種莊嚴之座。深入如來方便大海。行諸法海。度種種智海。我見此已。起無量歡喜。與佛力等。又善男子。盧舍那佛不可思議清淨色身。相好莊嚴。我見此已。起無量歡喜。盧舍那佛。於念念中。放法界等光。普照一切諸法界海。我見是已。起無量歡喜。盧舍那佛。於念念中。一一毛孔。放無量佛刹微塵等光。一一光明。有無量佛刹微塵等光。以爲眷屬。普照一切充滿法界。除滅衆生一切苦惱。我見是已。起無量歡喜。盧舍那佛。於念念中。從頂上兩肩上。放一切佛刹微塵等寶光山雲。普照一切充滿法界。我

故下三本俱無
此法門者乃至
境界故十四字
者下同無是字
一下同無法字

見是已．起無量歡喜．盧舍那佛．一一毛孔．放一切佛刹微塵等香雲．普熏十方一切佛刹．我見是已．起無量歡喜
盧舍那佛．一一相中．出一切佛刹微塵等相．充滿一切諸世界海．我見是已．起無量歡喜．盧舍那佛．一一毛孔．出
一切佛刹微塵等自在力雲．初發心等淸淨波羅蜜．莊嚴菩薩諸地．我見是已．起無量歡喜．盧舍那佛．一一毛孔．
念念出生不可說不可說佛刹微塵等諸龍王身．爲見龍身而受化故．又出不可說不可說佛刹微塵等諸夜叉
身乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽等身．爲見彼身而受化故．我見是已．起無量歡喜．盧舍那佛．一一毛
孔．出不可說不可說佛刹微塵等轉輪王身雲．七寶成就．神力自在．充滿法界．爲見彼身而受化故．我見是已．起
無量歡喜．盧舍那佛．一一毛孔．出不可說不可說佛刹微塵等梵王身雲．出淨梵音．爲衆生說法．爲見聞彼而受
化故．我見是已．於念念中．起無量歡喜．悉與法界薩婆若等．起者非起．得者非得．見者非見．入者非入．度者非度．
滿者非滿．聞者非聞．何以故．分別了知法界性故．解三世法悉一性故．佛子．此菩薩無量歡喜莊嚴法門．有如是
等無量境界．佛子．此法門者無量無邊．究竟方便諸法海故．此法門者不可損減．薩婆若心不可壞故．此法門者
不可窮盡．衆生妄想不可盡故．此法門者最爲甚深．寂靜智境界故．此法門者最爲廣大．一切佛境界故．此法門
者不可破壞．菩薩智所知故．此法門者不可稱量．不可破壞滿法界故．此法門者卽是普門．於一相中．攝取一切
自在力故．此法門者是第一法．一切法無身行無二故．此法門者非生．一切諸法悉如幻故．此法門者如電．攝薩
婆若諸大願故．此法門者如化．善能變化菩薩行故．此法門者如大地輪．饒益一切諸衆生故．此法門者如大水
輪．以廣大悲潤衆生故．此法門者如大火輪．消竭衆生諸貪愛故．此法門者如大風輪．立一切衆生薩婆若故．此
法門者猶如大海．功德莊嚴一切衆生故．此法門者如須彌山．一切功德海中起故．此法門者如大城郭．一切法
街巷而莊嚴故．此法門者猶如虛空．三世諸佛自在最無上故．此法門者猶如慶雲．普雨衆生甘露法故．此法門
者猶如白日．普照一切滅癡闇故．此法門者猶如滿月．滿足衆生功德海故．此法門者如如．至一切故．此法門者
如影．善能慶化諸業報故．此法門者如響．隨其所應爲說法故．此法門者猶如電光．隨其所應悉照知故．此法門
者猶如樹王．一切諸佛功德妙華．成就一切智果實故．此法門者猶如金剛．一切世間無能壞故．此法門者如隨

了下三本俱有知字

炬同作燈

意寶王.出生無量自在力故.此法門者如離垢寶.悉分別知三世佛故.此法門者猶如寶幢.出一切佛平等法輪妙音聲故.佛子.如此諸諭非諭爲諭.爾時善財.白寂靜音夜天言.菩薩修何等法.得此法門.答言.佛子.菩薩修行十妙法故.得此法門.何等爲十.所謂菩薩修行布施.令一切衆生海皆悉歡喜.修行淨戒.成滿諸佛功德大海.修行忍辱.了知一切諸法眞性.修行精進.於薩婆若堅固不退.修行禪定.除滅一切衆生煩惱.修行智慧.分別了知一切法海.修行方便.敎化成熟一切衆生海.修行大願.於一佛刹刹海.盡未來劫修菩薩行.修行諸力.於念念中.現一切刹成等正覺.修行無盡智.了三世法.無所障礙.佛子.是爲十妙法.菩薩摩訶薩.修行此法.起此法門.得此法門.淨此法門.成此法門.長養增廣不可沮壞.善財白言.天神.發阿耨多羅三藐三菩提心.爲久如耶.答言.佛子.乃往古世.過二佛刹微塵等劫.有劫名普照幢.於此蓮華藏莊嚴世界海東.過十世界海.有一世界海.名曰離垢衆寶莊嚴.彼世界海中.有世界性.名一切佛光明願音.彼世界性中.有一世界.彼離垢光金色莊嚴.一名寶雲而莊嚴之.衆寶爲地.堅固不動.形如一切香妙德王.莊嚴樓閣皆悉淸淨.諸天宮殿充滿其中.彼有王都.名曰普滿妙德藏王.彼有道場.名一切衆寶莊嚴藏月光明.其佛號不退法界妙音.於此道場.得阿耨多羅三藐三菩提.我於爾時.爲菩提樹神.名功德燈無量光幢.我見彼佛成等正覺.顯現無量自在神力.我於爾時.發阿耨多羅三藐三菩提心.於彼佛所.逮得三昧.名普照佛功德海.彼道場上.次有如來出興于世.號法樹功德山.彼菩提樹神命終之後.還生此處.爲菩提樹夜天.名妙德慧功德光明.聞彼如來轉正法輪.復得無量歡喜.普照一切境界三昧.彼道場上.次有如來出興于世.號一切法海妙音聲王.値彼如來.復得三昧.名成就一切切地.彼道場上.次有如來出興于世.號寶光燄燈幢王.値彼如來.復得三昧.名分別一切普照雲.彼道場上.次有如來出興于世.號功德須彌光王.値彼如來.復得三昧.名照諸佛海.彼道場上.次有如來出興于世.號法雲妙音聲王.値彼如來.復得三昧.名一切法海燈.彼道場上.次有如來出興于世.號智慧炬明淨燈王.時我爲天女.値彼如來.復得三昧.名明淨燈滅衆生苦.彼道場上.次有如來出興于世.號法勇幢妙德.値彼如來.復得三昧.名三世佛普照藏.彼道場上.次有如來出興于世.號法燈勇猛智慧師子.値彼如來.復得三昧.名明淨智普照一切無所障礙.彼道場上.次有如

十下三本俱有方字

來出興于世。號智力山王。値彼如來復得三昧。名普照三世衆生根行。佛子。彼普照幢劫離垢光金色莊嚴世界如是次第有十佛世界微塵等如來。出興于世。我於爾時。或爲天王龍王夜叉王乾闥婆王阿脩羅王迦樓羅王緊那羅王摩睺羅伽王。或爲人王梵王。男子女人童男童女。皆悉値彼一切如來。恭敬供養。彼佛說法悉聞受持。於彼佛刹二佛世界微塵等劫。修菩薩行。經佛刹微塵等受生。最後命終。生此蓮華藏莊嚴世界海娑婆世界中。作道場夜神。値拘樓孫如來。得三昧眼名離垢一切香王光明。次値拘那含牟尼如來。復得三昧。名隨順普照一切刹海。次値迦葉如來。復得三昧。名妙音聲海。分別一切衆生音海。今復値見盧舍那佛。坐於道場菩提樹下。成等正覺。於念念中。顯現無量自在力海。復得菩薩無量歡喜莊嚴法門。得法門已。深入十不可說不可說世界海微塵等法界方便海。以此法界方便海。於一切佛刹微塵。一一微塵中。悉見十不可說不可說佛刹微塵等世界及彼諸佛。彼諸如來所說正法悉聞受持。又見盧舍那佛。於念念中。一切世界坐於道場成等正覺出生無量自在神力。一一神力滿法界海。我悉詣彼。所說正法悉聞受持。又復見彼一切諸佛。一一毛孔出化身海滿法界海。顯現種種自在神力。於一切佛刹海。一切世界性。一切世界。一切諸趣。一切衆生中。隨其所應轉正法輪。我以精進聞持陀羅尼故。悉能受持。正念思惟知味知義。明智慧藏圓滿淸淨。分別了知一切法海。觀察三世諸佛平等。出生一切方便法門。於一一方便。出生一切修多羅雲。一一修多羅雲。成就一切諸正法海。一一法海。攝取一切諸迴轉法。一一迴轉法。普出一切諸妙法雲。一一法雲。出生一切諸法波浪。一一波浪。逮得一切歡喜法海。一一歡喜法海。出生一切諸功德地。一一功德地。出生一切諸三昧海。一一三昧海。見一切佛海。一一佛所。得一切光明海。一一光明海。普照三世。得圓滿智地。普照十方。知無量佛過去行海。照一切佛無量本事海。難捨能施。持無量淨戒。行無量忍。長養淸淨菩薩精進。淸淨無量諸禪定海。了知如來般若波羅蜜海。普照如來無量方便海。了知如來長養功德智慧力波羅蜜。分別如來無量智波羅蜜海。普照如來過去無量菩薩諸地。無量佛地。神力自在。無量劫中所修習起。淨無量佛過去菩薩地。修無量佛過去智地。照無量佛諸智慧地。知無量佛爲菩薩時相續善根。知無量佛爲菩薩時於一切劫海中一切佛海所修菩薩行。知無量佛爲菩薩時出生佛刹海。無量菩薩

行充滿法界。種種方便門敎化衆生。普照十方諸世界海。爲諸衆生現自在力。普照如來一切智地轉淨法輪。悉聞受持一切法雲。顯現無量菩薩自在神力。普照諸佛相海行海力海。於念念中。知彼諸佛從初發心乃至無餘涅槃遺法滅盡。善男子。汝所問我發心已來爲幾時者。如上所說。乃至來生此剎。供養盧舍那佛。如此世界供養拘樓孫佛乃至盧舍那佛。供養賢劫未來諸佛亦復如是。如供養賢劫諸佛。供養一切世界未來諸佛亦復如是。而彼離垢光金色莊嚴世界。今猶現在。是故善男子。汝當一心修此法門。爾時寂靜音夜天。欲重明此法門義。以偈頌曰

善財應諦聽　我說此法門　應生歡喜心　勤修令究竟　無量諸劫海　修習菩薩行　心淨如虛空
入一切智藏　聞三世佛法　一心樂專求　於彼如來所　修習諸功德　我見過去佛　恭敬悉供養
聞佛說正法　歡喜心無量　亦已悉恭敬　供養於父母　一心樂專求　究竟此法門　老病貧窮等
諸根不具者　除滅彼苦惱　悉令得安樂　水火官賊難　怨敵諸恐怖　及海中諸難　我皆救濟之
衆生煩惱業　種種受報苦　摧破生死山　救護諸群生　一切諸惡道　無量楚毒苦　生老病死痛
我當悉除滅　我願無量劫　安隱一切衆　常見一切佛　滅除生死苦

善男子。我唯成就此無量歡喜莊嚴法門。諸大菩薩深入法海。分別一切劫。善知一切諸世界海成敗之事。我當云何能知能說彼功德行。善男子。此道場上。如來衆中。有一夜天。名曰妙德守護諸城。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行修菩薩道。爾時善財。讚歎寂靜音夜天。以偈頌曰

我受知識敎　來詣天神所　見無量淨身　安處天寶座　虛妄取諸相　染著一切法　無智衆生等
不能知境界　清淨妙色身　一切諸天衆　無量劫諦觀　其心無厭足　遠離於五陰　一切無所著
超出世疑惑　顯現自在力　不染內外法　無礙心不動　明淨知慧眼　見佛自在力　身爲正法藏
心是無礙智　成佛智慧光　普照諸群生　分別說心業　莊嚴諸世間　知心業自性　現身等衆生
知世悉如夢　了佛如電光　一切法如響　令衆無所著　念念悉除滅　三世衆生惑　不取三世相

三本俱爾時善哉童子以下爲卷第五十五入法界品第三十四之十一

姓明作性

而能演說法　一切佛刹海　一切諸佛海　無量衆生海　無著修法門

時善財童子。頭面敬禮彼夜天足。遶無數帀敬心辭退。爾時善財童子。正念思惟。智慧分別。隨順正趣。修廣身證無量歡喜莊嚴法門。往詣妙德守護諸城夜天所。見彼夜天。處普照一切宮殿寶師子座。不可說諸天眷屬圍遶。隨方面身。一切衆生色身普現一切衆生前身。一切衆生無所著身。一切衆生身身。一切衆生無上身。隨順敎化一切衆生身。遊十方身。至一切十方身。究竟佛身。究竟敎化一切衆生身。善財見此身已。歡喜無量。頭面禮足遶無數帀。恭敬合掌於一面住。白言天神。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩道饒益衆生。以無上攝法攝取衆生順如來業親近法王。時彼夜天。告善財言。善哉善哉。佛子。爲救護一切衆生故問菩薩行。爲嚴淨一切佛刹。供養一切佛。住一切劫。救護一切衆生。守護一切如來種姓。究竟十方一切法界海平等之心。充滿一切。悉聞受持一切諸佛所轉法輪。隨其所應雨甘露法故。問菩薩行。善男子。我已成就甚深妙德自在音聲法門。是故佛子。我爲勝大法師。無所罣礙。於一切法心無所著。分別如來一切法藏。安住如來大慈大悲。建立衆生於菩薩心。得一切利不捨菩提心。長養一切善根。爲一切衆生調御大師。安立衆生一切智道故。於一切世界爲明淨日。照一切衆生無量善根故。等心觀察一切衆生。不捨一切衆生。出生長養一切善根。甚深智慧觀淨爾燄。斷一切不善業行諸善業救護衆生。顯現一切諸佛世界。修行嚴淨諸本事業。立一切衆生淸淨善根。令値一切諸善知識無能壞者。立一切衆生佛正敎故。佛子。我常以法施爲首。出生長養諸白淨法。一切智心堅固不動。如金剛藏不可沮壞。心常依止佛力。魔力善知識力。心壞一切諸結業山。心能專求一切智圓滿白淨法無礙法門一切種智。佛子。我以如是智慧光明淨諸衆生。無量善法饒益一切。復次佛子。我以十行觀察法界。隨順法界攝取法界。何等爲十。所謂知法界無量。智慧無量故。知法界無量無邊。悉見一切諸如來故。知佛法界無量無邊。詣一切刹。恭敬供養一切佛故。知法界無分齊。於一切世界海。行菩薩行故。知法界不可壞。究竟如來不可沮壞圓滿智故。知法界一。如來妙音一切衆生無不聞故。知法界自然淸淨。敎化一切衆生滿佛願故。知法界徧至衆生。深入普賢菩薩行故。知法界一切莊嚴。普賢菩薩行自在莊嚴故。知法界不可滅。一切智善根充滿法界。

令諸衆生悉淸淨故。佛子。我以此十行觀察法界。增長善根。知佛奇特境界不可思議。佛子。我如是正念思惟。以一萬陀羅尼爲衆生說法。所謂攝取一切諸法圓滿陀羅尼。持一切法圓滿陀羅尼。一切法雲雷震圓滿陀羅尼。諸佛起住圓滿陀羅尼。轉一切佛名號輪圓滿陀羅尼。分別演說三世諸佛大願海圓滿陀羅尼。攝一切乘海圓滿陀羅尼。照一切衆生業海燈藏圓滿陀羅尼。一切法現前旋流勇猛圓滿陀羅尼。一切智勇猛圓滿陀羅尼。以如是等萬陀羅尼。爲一切衆生分別說法。

# 大方廣佛華嚴經卷第五十三

入法界品第三十四之十

# 大方廣佛華嚴經卷第五十四

〔麗道〕〔宋垂〕〔元垂〕〔明垂〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

## 入法界品第三十四之十一

復次佛子.我或爲衆生說聞慧法.或爲衆生說思慧法.或爲衆生說修慧法.或說一有.或說一切有海.或說一佛海.或說一切佛名號海.或說一世界.或說一切世界海.或說授一記.或說授一切記海.或說一佛眷屬海.或說一切佛眷屬海.或說一佛法輪.或說一切佛法輪海.或說一修多羅.或說一切佛修多羅海.或說一會.或說一切會海.或說一薩婆若心.或說一切菩提心海.或說一乘.或說一切乘海.佛子.以如是等無量方便.爲諸衆生敷演不可說不可說法.佛子.我深入此無壞法界.皆悉究竟如來正法.以無上法施攝取衆生.盡未來劫.修習普賢菩薩所行.佛子.我已成就此甚深妙德自在音聲法門.於念念中.悉能長養一切法門.充滿法界.爾時善財白夜天言.妙哉.天神.如此法門最爲甚深.得此法門其已久如.答言.佛子.乃往古世.過轉世界微塵等劫.有劫名離垢光明.時有世界.名法界妙德雲.有四天下微塵等香須彌山莊嚴.於蓮華中出一切佛妙願音聲.一切衆生淨業所起衆寶合成.形如蓮華.清淨無垢.有須彌山微塵等衆妙寶樹.周帀圍遶.有須彌山微塵等衆妙寶香.以爲莊嚴.有須彌山微塵等諸四天下.莊嚴世界.一一四天下.各有不可說不可說城.彼世界中有四天下.名莊嚴幢.彼四天下有王都城.名普寶華光.於彼城外有道場.名法王宮殿光明.其道場上.有須彌山微塵等佛.出興于世.其最初佛號法海雷音光明王.時有轉輪王.名離垢光明.於彼佛所守護正法.開持正法修多羅海.佛滅度後.出家學道.正法欲滅.於大劫中有惡劫起.煩惱熾盛.衆生恚怒忿毒交諍.諸比丘衆背功德利.心樂放逸.常好王論.賊論.女論國論海論世間之論.樂如是等種種諸論.時王比丘作如是念.如來無量阿僧祇劫修集妙法.云何此諸比丘

說明作記〇一下宋無切字

持明作時

名下三本俱無名字

而共毀滅.彼王比丘卽昇虛空.放大光明雲.無量種色.普照十方一切世界.除滅一切衆生煩惱.立無量衆生無上菩提.復令正法於六萬五千歲而得興盛.時有比丘尼.名法輪化光.是彼轉輪王女.十萬比丘尼以爲眷屬.見父王比丘光明神變.卽發阿耨多羅三藐三菩提心.得一切佛燈明三昧甚深妙德自在音聲法門.得已.身心柔輭.法海雷音光明王佛.神力自在.一切功德悉現在前.佛子.時轉輪王.隨彼如來.轉正法輪.興隆法者.豈異人乎今普賢菩薩摩訶薩是也.法輪化光比丘尼者.我身是也.我於爾時.守護佛法.建立十萬比丘尼衆.得不退轉地.又令攝取一切如來法門三昧.法輪光明三昧.又復建立入一切法海方便般若波羅蜜.佛子.次有如來.出興干世.名離垢法山.我得値遇.次有如來.名法圓滿光明周羅.次有如來.名法日妙德雲.次有如來.名法海分別妙音聲王.次有如來.名法日圓滿燈.次有如來.名法化幢雲.次有如來.名法燄山幢王.次有如來.名甚深法妙德月.次有如來.名法智普光明藏.次有如來.名普智境界覺悟衆生.次有如來.名妙德山王.次有如來.名普門普賢須彌山.次有如來.名一切法精進幢.次有如來.名寶華妙德雲.次有如來.名寂靜甚深光明周羅.次有如來.名法燄大慈光明月.次有如來.名光燄妙德海.次有如來.名智慧日普照一切.次有如來.名圓滿普智.次有如來.名無上智覺明王.次有如來.名功德燄華燈.次有如來.名智慧師子幢名.次有如來.名普日光明王.次有如來.名須彌相莊嚴.次有如來.名勇猛日普光明.次有如來.名法網覺妙德月.次有如以.名法蓮華敷善德妙音.次有如來.名相日.普光明.次有如來.名普光妙德正法音聲.次有如來.名無畏妙德那羅延師子.次有如來.名普智健幢.次有如來.名敷法蓮華身.次有如來.名功德華妙法海.次有如來.名道場覺妙德月.次有如來.名法炬妙德月.次有如來.名普照光明周羅.次有如來.名法幢燈.次有如來.名妙德海幢雲.次有如來.名名稱山妙德雲.次有如來.名栴檀妙德月.次有如來.名明淨普妙德華.次有如來.名普照衆生光明王.次有如來.名鉢頭摩華妙功德藏.次有如來.名香燄光明王.次有如來.名鉢頭摩因.次有如來.名明淨相山.次有如來.名普稱功德幢.次有如來.名普門光明須彌山.次有如來.名妙德法城光明.次有如來.名明淨功德山.次有如來.名勝相妙德.次有如來.名法力勇猛幢.次有如來.名法輪光明妙音.次有如來.名功德光燄樓閣智光.次有如來.名無上妙法輪月.次有如來.名明淨法鉢

賢下同有法字

主三本俱作王
〇實同作寶

頭摩覺幢。次有如來。名寶鉢頭摩光藏。次有如來。名寶尸棄雲燈。次有如來。名智覺華。次有如來。名種種燄妙德須彌山藏。次有如來。名圓滿燄妙德王。次有如來。名功德雲莊嚴光明。次有如來。名法山雲幢。次有如來。名普明淨功德山。次有如來。名法日雲燈王。次有如來。名法雲名聲自在王。次有如來。名法圓滿雲。次有如來。名善覺明淨智幢。次有如來。名法圓滿善覺妙德月。次有如來。名金色山賢。次有如來。名明淨寶妙德須彌山。次有如來。名普智慧雲妙聲。次有如來。名法力妙德樓閣。次有如來。名香燄妙德王。次有如來。名金色摩尼山妙聲。次有如來。名白毫藏一切法圓滿光明。次有如來。名明淨法輪。次有如來。名無上清淨尸羅山。次有如來。名普精進炬光照雲。次有如來。名廣三昧海天冠光明。次有如來。名寶燄妙德王。次有如來名法炬寶帳妙聲。次有如來。名法雲空光明師子。次有如來。各相好莊嚴幢月。次有如來。名光明燄山電雲。次有如來。名無礙虛空法光。次有如來。名樂智華敷。次有如來。名世間主光明妙聲。次有如來。名法三昧光明妙音。次有如來。名法音眞實藏。次有如來。名法光明燄妙聲海。次有如來。名普照三世相幢。次有如來。名法圓滿山光明。次有如來。名法界師子光明。次有如來。名法界師子燄。次有如來。名明淨妙德須彌山。次有如來。法一切三昧海師子。次有如來。法普智光明燈。佛子。於離垢光明劫中。如是等須彌山微塵等如來。出興于世。其最後佛。名法界城明淨智燈。彼諸如來我悉恭敬供養。聞法受持出家學道。守護佛法。於彼諸佛所。種種方便入此甚深妙德自在音聲法門。以種種方便化衆生海。復次。佛子。復有佛刹微塵等劫中諸佛出世。我亦皆悉恭敬供養。是故。佛子。一切衆生長寢生死。唯我獨覺。復能覺悟一切衆生。守護心城離三界城。入一切智無上法城。善男子。我唯成就此甚深妙德自在音聲法門。除滅衆生兩舌口過。令淨實語。諸大菩薩。決了衆生諸語言道。於一念中。覺悟一切衆生之心。深入衆生語言音海。善知衆生施設語法。分別了知一切法海。深入攝取一切諸法陀羅尼海。善巧方便爲衆生出一切法雲。究竟度脫一切衆生。攝取衆生立無上業。隨順淨智分別業藏。能師子尼法施一切。得諸法地圓滿陀羅尼。我當云何能知能說彼功德行。善男子。此佛衆中。有一夜天。名開敷樹華。汝詣彼問。云何菩薩學一切智。安立衆生於薩婆若。爾時妙德守護諸城夜天。欲重明此法門義以偈頌曰

壽元明俱作養

海三本俱作門〇原同作源〇諸明作於

死此明作此死

佛子深法門　虛空如如性　分別三世佛　無量諸法界　出生無量門　不思議諸法　長養無礙智
了達三世法　過轉剎塵劫　劫名離垢光　世界妙德雲　城名寶華光　彼劫次第有　須彌塵等佛
初佛號法海　雷音光明王　後佛法界城　明淨智慧燈　我皆悉供養　聞法大歡喜　見法海雷音
光明王如來　衆妙相莊嚴　猶如須彌山　見佛卽發心　專求一切智　心大如虛空　其性同如如
充滿於三世　諸佛菩薩衆　大悲心普覆　一切剎衆生　清淨妙法身　充滿諸佛剎　隨其所應化
悉爲顯現身　我初發心時　震動一切剎　敎化諸群生　悉令大歡喜　次値第二佛　聞法而供養
卽時得覩見　十剎海塵佛　如是次第値　須彌塵等佛　恭敬供養彼　一切諸如來　聞法悉受持
逮得此切門　廣度一切衆　究竟到彼岸　轉剎塵等劫　諸佛興出世　我亦悉詣彼　恭敬而供養
聞法悉受持　清淨此法門

爾時善財。得此甚深妙德自在音聲法門。入菩薩無量無邊諸三昧海。出生無量無邊陀羅尼海。得菩薩神通諸明光耀。入諸辯海。長養一切甚深法海。欲讚歎彼妙德守護諸城夜天。以偈頌曰

智慧海成滿　永度生死海　長壽智慧藏　普照於十方　了達內外法　皆悉如虛空　無礙清淨慧
究竟於三世　念念能分別　無量無有邊　一切諸境界　而心無所著　無量大悲心　度脫衆生海
明淨智慧眼　了衆生無性　深入佛法海　窮盡其原底　種種巧方便　化度諸群生　普於一切法
了達其眞性　修習薩婆若　令衆悉清淨　天是調御師　究盡一切智　充滿諸法界　說法化衆生
順盧舍那願　無礙度衆生　安住至處道　普見十方佛　天心甚深妙　除滅煩惱熱　清淨如虛空
離垢無染著　攝取於三世　佛剎諸如來　一切菩薩衆　一切群生類　一念分別知　剎那及羅婆
晝夜月半月　乃至無量劫　十方諸群生　有色及無色　有想無想等　知死此生彼　除滅一切衆
虛妄顚倒想　善知語言法　顯現菩提道　出盧舍那願　一切佛法海　無礙法身心　隨應現衆生

時善財童子。以偈讚歎彼夜天已。頭面禮足遶無數帀敬心辭退。爾時善財童子。正念思惟。增廣甚深妙德自在

芽元明俱作下

行修三本俱作道行

恚元明俱作慧

象三本俱作力

皆明作能

音聲法門．往詣開敷樹華夜天所．見彼夜天．在衆寶香樹樓閣之內．處寶樹芽師子法座．百萬諸天眷屬圍遶．爾時善財．頭面敬禮彼夜天足．遶無數帀恭敬合掌於一面住．白言天神．我已先發阿耨多羅三藐三菩提心．云何菩薩學菩薩行．修菩薩道趣薩婆若．唯願天神爲我解說．答言．善男子．我於日沒優鉢羅鉢曇摩華皆悉還合．若諸人衆遊園觀者．應捨縱逸歸其家時．爲放光明．在險徑者照示平路．令彼專求一切智道．若於山巖深水曠野．在如是等種種難處．悉放光照．令免衆苦得安隱樂．又善男子．若諸衆生放逸五欲．爲其顯現老病死苦．悉令覩見捨離放逸修習善根．爲慳貪者讚歎布施．若犯戒者．安立淨戒．爲瞋恚者．讚歎大慈安立忍辱．若懈怠者．敎令修行菩薩精進．若亂心者．敎令修習諸禪三昧．若愚癡者．令其深入般若波羅蜜．樂小法者．敎以大乘．著三界者．令住菩薩圓滿無著諸波羅蜜．若諸衆生功德羸弱．爲衆結業之所逼迫．令住菩薩力波羅蜜．順無智者．令住菩薩智波羅蜜捨離癡闇．善男子．我已成就無量歡喜知足光明法門．善財白言．天神．此法門者境界云何．答言．善男子．如來方便光明攝取衆生．佛子．若有衆生受快樂者．悉蒙佛力諸光明力．隨如來敎佛威神力．隨順佛道聞佛正法入佛善根．如來圓滿明淨智日．如來性淨業力．普照一切．悉蒙如是功德力故．普令衆生受諸快樂．佛子．我入此法門時．正念思惟．深入盧舍那如來應供等正覺過去所行菩薩行海．善男子．我知菩薩本發菩薩地心．時．見諸衆生著我我所．無明覆蔽人諸邪見隨順貪愛．欲恚所縛心亂顚倒．慳嫉所纏貧窮逼切．於生死中受衆苦惱．不値諸佛．見如是已．發大悲心攝取衆生除諸苦患普饒益之．令得一切無染著心．於諸施物不求果報．分別了知一切因緣諸法實相．具足成就大慈大悲．圓滿法蓋普覆衆生．以知足法養智慧象．摧散一切諸煩惱山．安樂衆生．隨所應化雨甘露法．以聖法利等施衆生．得十力果無上快樂．成就菩薩通力自在．充滿法界．悉現一切諸衆生前．雨一切物．悉令歡喜充足其意．救護衆生滅生死苦不求恩報．嚴淨一切衆生心寶．悉同一切諸佛善根．增長薩婆若．敎化成熟一切衆生．以無上淨法淨諸佛剎．於念念中．滿一切法界．以明淨智分別三世．充滿虛空．於一切時．轉淨法輪敎化衆生．令諸衆生生一切智淸淨諸持．覺悟一切諸佛菩提．分別一切未來諸劫．於一切劫行菩薩行心無有二．悉能遍遊一切世界．其身容受一切剎海．悉皆攝取一切世界．分別解說一切世界

種種形色。種種莊嚴種種依住。或不淨淨或淨不淨。或純清淨或純垢穢。或廣或狹或大或小或覆或仰。如是等諸世界海中生菩薩行證菩薩行。於念念中出生菩薩諸自在行。於念念中爲衆生現三世諸佛清淨法身。佛子。盧舍那佛。於過去世菩薩行時。見諸群生無智功德愚癡所覆。著我我所無明暗障。不正思惟入諸邪見。不識因果順煩惱業。不修聖道得無作法。常於生死險道流轉受種種苦。發起大悲令諸衆生出生菩薩無量諸行。修習一切諸波羅蜜。安立堅固勝妙善根。除滅衆苦長功德藏。了知因果不違業報。知法眞實悉分別知衆生欲樂及一切刹。守護受持一切佛法令不斷絶。滅不善法滿薩婆若。佛子。以如是等無量法施。攝取衆生。令一向求薩婆若法。修行菩薩諸波羅蜜。具賢聖利長薩婆若。滿善根海。顯現如來無量自在。以如是等種種方便攝取衆生。顯現如來無量功德。安立衆生於菩薩諸攝智慧。善財白言天神發阿耨多羅三藐三菩提心。其已久如。答言佛子。此事難知難信難入難說難得。一切諸天聲聞緣覺所不能知。除佛神力依善知識成滿善根淨正直心遠離諂曲滅諸染汙逮得普照智慧光明。哀愍衆生降伏諸魔。拔煩惱樹。必欲成就一切種智。除滅生死憂悲惱海。得如來樂。入佛功德精進之海。安住佛地滿足如來一切智力究竟十力。如此人者乃能信解能知能入能說能得。何以故。此佛境界。一切衆生及諸菩薩。所不能知。我當承佛神力爲調伏衆生。直心清淨廣修善根得甚深心樂聞此法。爲如此等隨其所應分別解說。爾時夜天欲重明此義。觀察三世諸佛境界。以偈頌曰

佛子此法門　甚深佛境界　不思刹塵劫　說之無窮盡　貪欲瞋恚癡　高慢衆生等　皆悉不能知
最勝寂靜法　慳嫉心諂曲　煩惱業覆者　一切不能知　甚深佛境界　著諸陰入界　及起吾我見
心想見顚倒　不知佛境法　清淨離虛妄　如來深境界　依住生死者　皆悉不能知　出生如來家
諸佛常守護　奉持佛法藏　慧眼之境界　親近善知識　滿足白淨法　究竟諸佛力　聞此法歡喜
心淨離虛妄　猶如虛空性　慧燈除癡闇　是彼之境界　以大慈悲心　普覆諸衆生　等心觀一切
是彼之境界　其心大歡喜　等觀衆生類　捨離於一切　離垢之境界　淨心離諸惡　乃至畏微罪
隨順諸佛法　離垢之境界　安住忍辱法　其心不可動　知實不違業　無盡心境界　勇猛勤精進

菩薩三本俱作菩提道〇諸攝同作攝諸
法同作果〇妄同作空

性同作往

涼三本俱作淨

安住不退心　究竟薩婆若　調伏之境界　入於寂定心　除滅煩惱熱　深入智慧海　寂靜起境界
了達群生類　諸法眞實相　深法之境界　是慧燈法門　覺悟衆生性　不著諸有海　普照一切心
是導師法門　悉從三世佛　清淨願性生　普於一切刹　窮盡未來劫　修習菩薩行　是普賢法門
入諸方便海　徧觀諸刹海　無礙深智慧　悉知刹成敗　一一塵中見　諸佛坐道場　成佛化衆生
無礙眼法門　善財至我所　親近善知識　聞此甚深法　精進勤修習　此盧舍那境　甚深難思議
我承佛神力　爲汝分別說

佛子．乃往古世．過世界海微塵等劫．有一世界海．名明淨山．彼有如來出興于世．號智慧法界山諸方寂靜普照王如來應供等正覺．彼佛爲菩薩時．淨彼世界海．彼世界海中．有佛刹微塵等世界性．彼一一世界性中．有世界微塵等佛．出興于世．一一如來．說世界微塵等修多羅．一一修多羅中．授佛刹微塵等諸菩薩記．顯現如來種種神力無量方便．種種諸乘敎化衆生．佛子．彼世界海中．有一世界性．名普門莊嚴．彼世界性中．有一世界．名曰一切寶色妙德．普照一切寶華海．以爲莊嚴．衆寶爲體．狀若天城．清淨嚴飾．普照一切諸佛道場．顯現諸佛變化光明．彼世界中．有須彌山微塵等四天下．彼四天下中．有一四天下．名寶山幢．彼四天下．有閻浮提．縱廣十萬由旬．彼閻浮提內．有十萬大城．彼諸城中．有一王都．名堅固寶莊嚴雲燈．有一萬城周帀圍遶．人壽萬歲．時有大王．名一切法師子吼圓蓋妙音．有五百大臣六萬采女七百王子．端正勇健．爾時彼王．威德普被一閻浮提．無有怨敵．彼大劫中有惡劫起五濁熾然．爾時人民行十惡業．遠離十善死入惡道．壽命短促形色鄙陋．貧窮下賤多苦少樂．更相諍訟互相謗毀．離他眷屬深入邪見．以諸貪著行非法故．風雨不時．卉木叢林百穀苗稼皆悉枯槁．彼時人民饑饉病瘦．悉詣王都高聲大呼．時諸人衆無量無數圍遶王城．或舉兩手或復合掌．或號天扣地．或舉身自撲．或右膝著地．或著弊衣服無光色．悲聲大叫．咸言大王．我等今者大苦大苦．饑渴寒凍疾病危困．無所歸依無救濟者．如在牢獄．種種苦逼轉趣死路．作如是等無量楚毒悲聲上訴．求自全濟安隱快樂．大王則是衆生寶藏清涼之池．善正治法大智大乘．爲大寶洲眞實利益．能與衆生天人之樂．時彼大王．聞此悲苦楚毒音聲．卽得百

令同作爲
頒三本俱作班
肴膳同作餚饍
殊同作姝
他同作化

萬阿僧祇大悲法門。一心思惟。卽發十大悲語。何等爲十。所謂嗚呼痛哉。一切衆生。墜於無底生死深阬。無所歸依。我當爲彼作歸依者。悉令逮得如來之地。哀哉衆生。爲煩惱亂無有救濟。我當爲彼作救護者。悉令安立一切善業。哀哉衆生。生老病死無有救護。我當爲彼作救護者。除滅一切身心苦痛。哀哉衆生。有諸恐怖無有救護。我當爲彼作救護者。令住一切智安隱之處。哀哉衆生。爲身見凝之所覆蔽。我當爲彼作明淨燈。普照一切現明淨智。哀哉衆生。爲愚癡覆。我當爲彼作大明炬。現一切智正法之城。哀哉衆生。爲諸慳嫉諂曲幻僞濁亂其心。我當令彼悉得無上淸淨法身。哀哉衆生。爲生死長流之所漂溺。我當令彼度生死海到佛彼岸。哀哉衆生。從生盲瞽。我當令彼見眞實義同一切佛。哀哉衆生。根不調伏。我當令彼調伏諸根。除滅障礙。得一切智。時彼大王。發如是等十大悲語。擊鼓宣令。一切衆生安隱勿怖。隨汝所須我皆資給。卽時頒下閻浮提內大小諸城都邑聚落。悉開庫藏。金銀珍寶衣服肴膳。香華瓔珞牀席被褥。宮殿宅舍諸妙寶幢。夜光寶幢摩尼寶幢。醫師湯藥。種種諸器盛衆雜寶。諸金剛器盛衆妙香。種種香器盛諸衣服。種種車乘幡綵幢蓋。又復擊鼓。宣令天下一切諸城都邑聚落。今施汝等國土城邑聚落妻子。頭目齒舌心肝血肉腸胃手足一切肢節。時城東門外有大會處。名曰明淨摩尼妙德。其地平正。廣博淸淨無諸雜穢。衆寶爲地散雜寶華。熏以衆香。一切香雲充滿虛空。寶樹圍遶無量華網及諸寶網羅覆其上。自然演出無量億那由他娛樂音聲。有如是等無量珍妙。而莊嚴之。皆是菩薩淨業果報。於彼會中王所住處。十寶爲地。十寶欄楯。十種寶樹周帀圍遶。形色金剛不可沮壞。衆寶莊嚴懸諸寶幡。白淨寶網。金鈴寶網。衆華寶網。摩尼寶網。雜衣寶網。羅覆其上。熏以名香。自然演出無量微妙歌頌音聲。時彼大王處師子座。端嚴殊妙。具大人相。肢節周備。那羅延身不可沮壞。王姓中生。以正治國。於財心法悉得自在。功德無量無違命者。衆妙寶蓋以覆其上。其蓋常出無量光明。閻浮金色。覆以淨妙摩尼寶網。金寶諸鈴出和雅音。宣揚善行。爾時閻浮提內無量阿僧祇衆生。悉來歸命。讚言。大王。王是智人。天下第一。功德須彌。功德明淨。猶如滿月。得菩薩心。等觀衆生。普施一切。時王見已歡喜無量。於彼大衆。發大悲心。善知識心。隨所求者悉令充足。而攝取之。時王卽得無量快樂。釋提桓因乃至化自在天王。無量百億那由他劫受諸快樂所不能及。他化自在天王。不思議劫受

說同作識

佚三本俱作泆

雨同作甘

諸快樂。亦所不及。大梵天王。不可說劫住梵住樂。亦所不及。乃至淨居天。無分齊劫住寂靜樂。亦所不及。復次善男子。譬如有人仁慈至孝。遭世事難違離父母。經歷年歲後忽遇會。瞻奉親顏欣慰踊悅。不能自勝。時彼大王。見來求者心大歡喜亦復如是。信心堅固長養菩提。何以故。此菩薩專求一切智。饒益安樂一切衆生。成滿大願。遠不善法修行諸善。救護衆生開薩婆若門。攝一切智滿衆生願。入一切佛諸功德海。壞一切煩惱魔業障山。隨順一切諸如來教。入深智流不違正道。出諸法流成滿大願。住大人法。滿足普門善根之藏。離一切惡心無所染。了達諸法猶如虛空。復次佛子。時彼大王見諸衆生。發一子想父母想福田想難報恩想。師想佛想。大慈悲心悉普覆之。隨其所須。衣服飲食華香末香塗香。釁蓋幢幡諸莊嚴具。牀座被褥。舍宅宮殿園觀浴池。車乘輦輿象馬衆寶。所住宮殿及其眷屬。內諸庫藏城邑聚落。如是一切悉施衆生普令充足。時彼會中有一童女。名寶光明。端正姝妙顏容無倫。身如眞金目髮紺色。口演妙音身出名香。衆寶莊嚴。常懷慚媿正念無亂。威儀庠序。於諸師長恭敬尊重。諸根寂定念慧現前。所聞諸法能持能解。宿世長養無量善根。諸妙善法潤澤其身。近善知識好樂大乘。心如虛空自安安彼。常樂見佛求薩婆若。與六十童女俱。去王不遠。一心恭敬合掌而住。作如是念。我得善利。見善知識遇善知識。於彼王所。起大師想善知識想慈悲人想。生此念時。歡喜無量。脫莊嚴具置彼王前。發如是願。今此大王。安隱無量無邊衆生。願我來世亦復如是。大王智慧。大王正道。大王所乘。大王相好。大王財寶。無能壞者。願我來世亦復如是。隨所生處我亦隨生。時彼大王。告此女言。我今悉捨內外所珍。恣汝取之。時彼女人倍增歡喜。以偈頌曰

大王未興世　堅固莊嚴都　一切不可樂　猶如餓鬼處　衆生相殘害　竊盜縱婬佚　兩舌不實語
無義麁惡言　貪利他財物　瞋恚懷害心　邪見不善行　命終墮惡道　如來衆生等　愚癡所覆蔽
種種行諸惡　天旱不降澤　以無時雨故　百穀悉不生　草木皆枯槁　泉流亦乾竭　大王未興世
一切諸河池　皆悉乾枯涸　猶如大曠野　大王初生時　天興慶重雲　降雨普流澤　河池悉盈溢
除滅一切惡　遠離諸恐怖　人民皆歡喜　大王生世故　往昔諸群生　各各相殘害　飲食人血肉

昔同作普○燥宋作操○日三本俱作王

方明作万

原三本俱作源○霑明作沾

池同作地

今悉修慈心　百穀昔不生　卉木皆枯燥　飢渴所逼迫　種種受苦惱　大王既興世　秔米自然生
樹出妙衣服　王世所歸故　昔日競微利　强弱相陵奪　今種種莊嚴　如釋難陀園　昔人貪欲重
種種放逸行　侵犯他妻色　而共相危害　今日諸人民　衆寶妙莊嚴　貞潔無邪婬　猶如兜率天
昔日諸衆生　妄言非法語　縱口無義言　諂曲取人意　今日群生類　遠離諸惡語　愛眼視衆生
口發柔和音　昔日諸衆生　種種行邪見　合掌恭禮敬　牛羊犬豕類　今聞王正法　遠離諸邪見
善知苦樂法　悉從因緣起　大王演妙音　無不愛樂者　梵釋等音聲　皆悉不能及　大王衆寶蓋
懸處虛空中　覆以諸寶網　普出妙香熏　金鈴自然出　如來和雅音　宣揚甚深法　除滅衆煩惱
次復廣演說　十方諸佛刹　一切諸劫中　如來及眷屬　又復次第說　過去十方刹　一切諸劫中
如來及眷屬　又出微妙音　充滿於天下　梵王諸群生　悉聞業果報　衆生聞音已　自知諸業藏
離惡修衆善　專求無上道　王父名淨光　母曰蓮華光　父於五濁世　正法治天下　五百蓮華池
寶樹悉圍遶　底布以金沙　寶華悉敷茂　於彼池岸上　有諸妙法堂　衆寶爲欄楯　種種寶莊嚴
末世惡法起　積年不降雨　池流皆枯竭　卉木悉燋然　七日王當生　先降靈瑞相　諸人見歡喜
救護出世間　彼時於中夜　大地六種動　自然演妙光　猶如明淨日　浴池有五百　功德水充滿
一切諸寶樹　如本悉榮茂　河流諸泉源　一切皆盈滿　靈澤普津液　霑洽閻浮提　樹木諸叢林
雜卉衆藥草　百穀苗稼等　生長普滋茂　巖崿諸高山　幽邃深險谷　普及一切地　自然悉平正
山陵諸卉木　沙礫雜穢等　悉於一念中　變成衆寶玉　人見此奇特　歡喜而發言　快哉大善利
我得清涼池　時彼淨光王　與內眷屬俱　一切大臣等　歡喜遊園觀　五百浴池中　有池名歡喜
池上妙法堂　王眷屬遊止　時王語夫人　我願悉成滿　國土還豐樂　人民普安隱　時彼浴池中
千葉寶華生　普放清淨光　明耀須彌頂　明淨金剛莖　衆寶爲華葉　閻浮檀金臺　諸妙香爲鬚
於彼蓮華中　出生一童子　相好莊嚴身　諸天悉敬禮　王見大歡喜　入池撫掬之　安置后膝上

涌三本俱作踊

汝子應欣慶　寶藏普涌出　寶樹生妙衣　天樂奏妙聲　充滿虛空中　時彼諸人民　合掌恭敬禮
歡喜如是言　此是世歸依　身放大光明　普照於一切　若有遇斯光　諸漏悉除滅　一切惡鬼神
毒害衆生類　悉捨不善心　自然生慈愍　惡名失善利　疾病鬼所持　如是衆苦滅　一切皆歡喜
天下諸群生　相視如父母　離惡修慈心　專求一切智　遠離諸惡趣　廣開天人路　顯現無上道
度脫諸群生　我等得善利　遇斯大施主　衆生失正路　導師今出世

爾時寶光明童女。偈讚王已。頭面禮足。遶無數帀。恭敬合掌。於一面住。王讚女言。善哉善哉。乃能信知他人功德。是爲希有。若有愚癡。不知報恩。無有智慧。濁心邪見。具如是等非法衆生。不知不信諸佛菩薩淸淨功德一切智境。汝今專求無上菩提。修菩薩行。攝取安隱饒益衆生。王讚女已。以無價衣手自授與。而告之曰。汝自著之。時彼女人以膝著地。敬禮合掌。頂受而著。時王復有六十女衣。彼著衣已。與眷屬俱。遶畢辭退。諸女衣中普出一切星宿光明。衆人見已咸歎之曰。此諸女等皆悉端正。如淨夜天星宿莊嚴。善男子。爾時一切法師子吼圓蓋妙音王者。豈異人乎。今盧舍那如來應供等正覺是也。淨光王者。今淨飯王是也。蓮華光夫人者。摩耶夫人是也。時國人者。今大衆是也。悉於阿耨多羅三藐三菩提得不退轉。或住初地乃至十地。大願成就。住諸法門修方便道。求一切法住諸解脫。爾時開敷樹華夜天。欲重明此義。以偈頌曰

我有淸淨眼　悉見世界海　生死五趣中　衆生常流轉　見諸佛菩薩　往詣菩提樹　得道轉法輪
化度諸群生　我以淨天耳　境界一切音　諸佛所說法　悉聞歡喜持　我有無二智　一切無等等
能於一念中　了衆生心海　我得宿命智　念一切劫海　自身及他人　分別悉了達　我於一念知
諸刹海塵劫　諸佛及菩薩　五道衆生類　彼佛初發願　專求佛菩提　究竟悉滿足　無量菩薩行
覺了等正覺　種種巧方便　轉淨妙法輪　顯現諸乘海　爲衆演說法　度脫於一切　乃至遺法住
我悉一念知　我於無量劫　修習此法門　眞佛子應速　究竟此法門

佛子。我唯知此菩薩無量歡喜知足光明法門。諸大菩薩。於一切佛所。修行一切諸佛行海。求一切智。淸淨滿足

一切大願。於一菩薩地。修行一切菩薩地海。於一菩薩行。攝取一切菩薩行海。於一法門自在。修攝一切法門。我當云何能知能說彼功德行。佛子。於此道場有一夜天。名願勇光明守護衆生。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行修菩薩道。成就衆生無上菩提。淨諸佛刹。値一切佛。修習一切如來正法。時善財童子。頭面敬禮彼夜天足。遶畢辭退

大方廣佛華嚴經卷第五十四

入法界品第三十四之十一

# 大方廣佛華嚴經卷第五十五

〔麗道〕〔宋垂〕〔元垂〕〔明垂〕

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅譯

## 入法界品第三十四之十二

爾時善財童子。往詣願勇光明守護衆生夜天所。見彼夜天在大衆中。處於普照摩尼王藏師子之座。摩尼王網羅覆其身。光明普照一切法界。一切日月星宿光明。以爲其身。一切衆生形類色像。悉於中現。又現一切諸色海身。諸威儀身。諸方面身。應現一切衆生前身。遊行十方自在力身。於一切時現衆生前不失時身。詣諸佛所敬禮之身。長養一切諸善根身。受持一切佛正法雲不忘失身。滿足一切菩薩願身。普照一切諸世界身。除滅癡闇普照一切明淨燈身。知法如幻離垢深慧了諸法身。覺悟一切普現意身。離熾然身。不可壞身。無所依住佛行持身。無有染汙清淨法身。善財見已五體投地。起佛世界微塵等念念彼天身良久乃起。恭敬合掌一心諦觀。於善知識得十種心。何等爲十。所謂得自己心。勇猛精進求薩婆若能受持故。得具一切智法心。隨順一切正敎道故。得自受生心。安住無上正法門故。得同行心。共普賢菩薩諸行願故。得具一切功德藏心。長養一切白淨法故。得勇猛心。長養諸佛大精進故。得具一切諸善根心。成滿一切諸大願故。得辦一切大利益心。具足菩薩自在力故。是爲於善知識得十種心。爾時善財。一心觀察彼夜天已。得世界微塵等菩薩共法。所謂正法共法。念十方三世一切佛故。大慧共法。分別了知一切法海故。諸趣共法。一切佛法輪不可壞故。覺悟共法。智如虛空普照三世一切方便海故。諸根共法。以明淨慧普照衆生一切根海故。淨心共法。修菩薩道得一切智無礙功德莊嚴故。境界共法。明淨智慧照佛境故。隨順方便共法。究竟一切智方便海普照一切故。知義共法。知一切法眞實性故。法無畏共法。壞散一切諸怨敵故。淸淨色身共法。隨其所應現淨身故。諸力共法。於薩婆若不退轉故。無畏共法。淨正直

慧三本俱作悲

淨身三本俱作身淨

佛三本俱作修

心如虛空故。精進共法。於一切劫行菩薩行不退轉故。辯才共法。明淨智慧深入諸法照一切故。無比共法。一切衆生無能勝故。語言共法。於大衆中說淨妙法無所畏故。妙聲共法。能師子吼出微妙聲滿一切法海故。淨音共法。一切衆生悉樂聞故。淨德共法。令一切衆生悉淸淨故。智地共法。於一切佛受法輪故。梵行共法。安住一切佛境界故。大慈共法。於念念中普覆一切衆生海故。大悲共法雨甘露法救一切衆生故。身業共法。於一切衆生隨所作故。口業共法。分別一切語言法故。意業共法。立一切衆生薩婆若心故。莊嚴共法。嚴淨一切諸佛刹故。詣一切佛共法。見一切佛出興世故。勸請共法。請諸如來轉法輪故。供養共法。供養一切諸如來故。教化共法。度脫一切諸衆生故。光明共法。照一切法故。三昧共法。於一切衆生心海得不動故。充滿共法。諸菩薩等自在神力滿諸佛刹故。菩薩法門共法。出生菩薩自在力故。眷屬共法。樂與菩薩共同止故。深入共法。分別一切諸世界故。了心共法。廣淨佛刹故。隨順共法。入一切佛世界海故。充滿方便共法。分別了知一切世界故。無上共法。普現一切諸佛刹故。不退共法。遊行十方無障礙故。除滅一切愚癡共法。得一切佛圓滿智故。不生共法。與一切佛爲眷屬故。滿一切佛刹網共法。恭敬供養一切佛故。決定智共法。分別了知諸法海故。如說修行共法。順入一切諸法門故。專求共法。欲求一切諸淨法故。淸淨共法。諸佛功德莊嚴身口意故。淨意共法。於一切法智滿淨故。勇猛共法。究竟一切事滿善根故。淨行共法。滿足一切菩薩行故。無癡共法。分別了知諸法相故。方便共法。具足自在智法門故。淨入共法。隨其所應現境界故。菩薩門共法。修行一切諸佛法故。護持共法。一切諸佛所護持故。離生共法。次第逮得菩薩地故。安住共法。安住一切菩薩住故。演說共法。了知諸佛授記法故。禪定共法。於一念中悉入一切諸三昧故。三昧起共法。一切佛事種種相故。淨念共法。知一切念故。菩薩行共法。盡未來劫行菩薩行不斷絕故。淨信共法。歡喜增長佛智慧故。長養共法。除滅一切諸障礙故。不退智共法。與一切佛智慧等故。受生共法。隨時應化一切衆生故。住共法。住一切智故。境界共法。法界境界故。無著共法。心不染著一切有故。善知法相共法。等心觀察一切法故。容受共法。於己身內受持一切諸佛法故。通明共法。分別了知一切世間故。神力共法。以少方便遊行一切佛刹海故。陀羅尼共法。普照一切陀羅尼海故。持一切佛法輪共法。悉能受持一切修多羅法。故深

三本俱爾時善財以下爲卷第五十六入法界品第三十四之十二

歎三本俱作難

色下同無顯字

入共法，解一切法如虛空故，淨光共法，普照一切諸世界故，明淨共法，隨其所應現衆生故，震動共法，動諸佛刹爲諸衆生現自在故，不虛共法，見聞念者悉不虛故，聖道共法，滿一切願十力智故，得如是等佛刹微塵等菩薩共法，爾時善財，入如是等菩薩共法，於善知識，得無量無邊淨正直心，偏袒右肩，恭敬合掌，以偈讚歎彼夜天曰

我以無上心　專求佛菩提、今於善知識　而起自己心　遠離諸惡業　成就淸淨行　由見善知識
得無盡白法　我見知識已　功德莊嚴心　盡未來刹劫　修行菩薩道　唯願善知識　哀愍攝取我
爲我悉顯現　正敎眞實法　閉塞諸惡趣　廣開天人路　佛一切智道∴爲我悉顯現　念彼善知識
一切功德藏　我於念念得　虛空功德海　授我波羅蜜」不思議功德　長養諸善福　智繒速冠頂
我念善知識　一切種智道　依止善知識　滿足白淨法　具足衆善利　功德普成滿　究竟一切法
成就薩婆若　知識爲大師　安立無上法　無量無數劫　不能報其恩

爾時善財，說偈讚已，白言天神，向所顯現不思議法，此法門者名爲何等，發道心來爲幾時耶，久如當成無上菩提，答言，善男子，此法門者，名隨應化覺悟衆生長養善根，善男子，我入此法門，覺悟一切諸法平等，知一切法眞實之相，遠離世間無所染著，解一切色非一非異，了色非色，而能顯現無量諸色，所謂種種色，淸淨色，莊嚴色，放一切莊嚴色，普現色，同一切衆生色，一切世間現前色，普照色，見無厭色，相好淨色，離惡色，現勇猛色，甚深色，一切世間無能盡色，歎無盡色，種種雲色，諸形像色，顯現無量自在力色，可愛樂色，一切善超色，隨應現前色，隨應度衆生色，普照無礙色，離垢色，不壞淨身色，不思議法方便光明色，非比非無比妙絕色，非明闇色，滅一切闇色，積集一切白淨法色，功德大海之所生色，過去修行恭敬生色，淨直心生如虛空色，勝廣大色，無斷無盡色，海光明色，一切世間無所依止不可壞色，充滿一切十方無礙色，念念色，海色，令一切衆生大歡喜色，攝取一切衆生堅固色，一切毛孔中如來功德師子吼色，淨一切衆生深心色，顯現一切法義色，圓滿光明無礙色，離垢虛空等色，不依垢無著色，普照離垢法界色，不可稱色，隨眼見色，照諸方色，隨時顯現應衆生色，寂靜色，滅一切煩惱色，一切衆生功德福田光明色，見不虛色，大智光色，無礙法身滿一切色，顯現威儀不虛色，積集大慈海色，具足功

色同作足

慧三本俱作者

實同作寶

脩明作修次同

德須彌山色。普照一切趣色。淨大智色。正念一切世間色。一切寶光色。淨寶藏色。不壞淨衆生色。趣薩婆若色。悅衆生眼色。一切寶莊嚴勝光明色。不取不捨一切衆生色。無決定無究竟色。顯現自在諸持力色。一切自在神足色。佛種姓色。遠離衆惡滿法界色。悉詣一切諸佛大衆照一切色。成諸海色。善行依果色。隨化授色。一切世間見無厭色。種種光明普照色。顯現三世一切色。顯現一切海色。放一切光明海色。種種光色。過一切世間一切香光色。顯現圓滿諸日雲色。持圓滿淨月雲色。放須彌山妙華雲色。出種種鬘雲色。顯現一切鉢曇摩華雲色。一切香像雲充滿法界色。散一切末香雲色。現一切佛淨願身色。一切音聲出師子吼法界海色。普賢菩薩清淨身色。於念念中現如是等色。充滿十方敎化衆生。或見或念而得度脫。或現轉法輪。或現隨時應。或現親近。或現覺悟。或現自在神力。或現種種變化。或現不可思議自在神力變化度脫衆生。滅不善法安立善法。滿足大願。一切智勢力菩薩法門勢力具足成就大慈大悲。佛子。我住此法門。現無量色身。分別了達一切色海。放無量無邊法雲。普照一切諸佛世界。現無量無邊諸佛。現無量無邊自在神力。覺悟衆生長養善根。於念念中。令不可思議衆生。於阿耨多羅三藐三菩提。得不退轉。佛子。如汝所問得此法門爲幾時者。我今承佛神力爲汝解說。佛子。菩薩圓滿智慧。離一切虛妄本性清淨。一切種智。超出一切諸障礙山。隨所應化皆悉普照。佛子。譬如日性無有闇冥。但日沒已天下則闇。出則大明。菩薩圓滿明淨智日。亦復如是。離一切虛妄。普照一切敎化衆生。佛子。譬如淨日出閻浮提。普照天下衆寶山樹。影現一切大海河池。衆生之類莫不對見。日亦不來入此池流。菩薩智日。亦復如是。出三有海。於佛實法虛空中行。住於寂滅。應現一切趣趣生處。同衆生身而化度之。實不生死無所染著。離一切虛妄。無脩短想。何以故。佛子。菩薩摩訶薩。離諸顚倒。了一切世悉如夢幻。解眞實法無有衆生。圓滿大悲皆悉對現。一切衆生而敎化之。佛子。譬如大船。不依此岸不樂彼岸不著中流。於大海中濟度衆生。菩薩摩訶薩。亦復如是。以波羅蜜力船。於生死海濟度衆生。不依此岸不樂彼岸而度衆生。於一切劫修菩薩行。不起劫想。亦不見劫有脩短相。佛子。譬如虛空出過法界。一切世界有成有敗。而彼虛空本性清淨。無所染汙不可沮壞。遠離恐怖一切障礙。而能普持未來諸劫。一切佛剎。菩薩摩訶薩心。亦復如是。以虛空等圓滿智慧莊嚴其心。發起一切大願風

婬泆明作淫泆
植三本俱作殖
榜三本俱作榜
○號同作呼
言同作曰
弑同作殺
法同作蘊
救拔同作拔救
恕明作赦

輪。持一切衆生。令滅惡道生諸菩提。心無憂喜。安立衆生一切智道。除滅煩惱生死過患。佛子。譬如化人無有實形生老病死飢渴等苦。菩薩出生如化智慧不可沮壞妙色法身亦復如是。於一切劫諸生死中化度衆生而無所著。亦無恐怖。無貪無恚。除滅一切熾然煩惱。心不貪樂一切趣生。佛子。菩薩智慧。雖復如是甚深難測。我當承佛神力爲汝解說。令未來世諸菩薩等。滿足大願成就諸力。佛子。乃往古世過世界海微塵等劫復過是數有劫。名善光。彼有世界。名曰寶光。於彼劫中。有萬如來出興于世。最初如來號法輪音聲虛空燈。彼閻浮提中有寶莊嚴王都。彼有大林名善光明。於此林中。有一道場名曰善華。彼道場上有寶蓮花師子之座。時彼如來。於此座上。成阿耨多羅三藐三菩提。爾時人民壽十千歲。殺盜婬泆妄言兩舌惡口綺語貪恚邪見。行如是等十不善道。時彼如來。於百歲中坐於道場。爲諸菩薩及諸天王幷閻浮提宿植德者。而爲說法。其餘衆生待善根熟。爾時國王名曰勝光。時彼人民行十不善貪著五欲。作種種惡遠離善法。不孝父母不敬沙門婆羅門。有無量衆生犯王治法。囚執囹圄受諸楚毒。爾時彼王。有一太子。名曰善伏。端正殊特成就妙色。具二十八大人之相。處在中宮采女圍遶。聞彼獄人楚毒音聲。聞已憂惱。起大悲心。入彼獄中見諸罪人。裸形亂髮繫縛榜笞。悲號流淚苦毒無量。太子見已發大悲心。慰諭之言莫恐莫怖。我今能令汝等解脫。於是太子往詣王所。白言大王。獄中罪人願施無畏。大王。哀愍幸垂衿赦。時彼大王。召諸群臣而共參議。此事云何。群臣答言。彼諸罪人竊盜官物。謀弑大王侵犯宮人。有如是罪必應刑戮。若救彼者罪應至死。時彼太子大悲深至。救護彼故作如是言。我代獄囚受諸楚毒。願苦治我。我爲救彼不惜身命。欲令罪囚悉得解脫。所以者何。若我不救此衆生者。云何能濟三界牢獄。諸在生死牢獄衆生。悉爲貪愛之所纏縛。愚癡所蔽受種種苦。身形鄙陋心常放逸。而不能知出要之道。無智慧光著諸法界。無有福慧遠離實智。染縛結垢幽閉苦獄。隨順惡魔生老病死。常爲憂惱之所逼迫。我當云何令彼解脫。我今應當捨自身命而救拔之。爾時五百大臣。咸發聲言。大王當知。如太子意。放獄囚者。毀壞王法危及我等。不治太子國不久立。王聞此言卽發威怒令誅太子。王后聞之毀容降服。與千采女馳詣王所。頭面禮足。如是請言。大王當知太子有罪。願垂慈恕賜其壽命。時彼大王卽召太子。太子既至。復白王言。願垂哀赦獄囚苦人。若不矜恕。我代

限既三本倶作既限

坐明作座

醫三本倶作毉

受苦。王言隨意。爾時太子。即入獄中。放諸罪人。代受楚毒。曾無中悔。一向正念一切種智。大悲爲首饒益衆生。夫人白王。願聽太子。在外半月。布施修福。然後隨王如法苦治。王即聽許。時彼都城北有一大林。名曰日光。太子詣彼設大施會。須食與食須衣與衣。乃至車乘華鬘塗香末香幢幡繒蓋。及餘一切寶莊嚴具。期限既滿。爾時國王及諸群臣長者居士男女大小。幷諸外道皆悉雲集。爾時法輪音聲虛空燈如來。知諸衆生應化時至。與大衆倶。天王圍遶。龍王供養。夜叉王守護。乾闥婆王讚歎。阿修羅王禮侍。迦樓羅王以清淨心散諸雜寶。緊那羅王歡喜讚歎。供養過去諸佛。摩睺羅伽王悲泣正觀。與如是等無量大衆前後圍遶。來詣彼會。爾時太子及諸大衆。遙見佛來。端嚴殊特諸根寂定。如大象王。神心燈明淨若淵海。顯現如來自在境界。勝妙功德相好嚴身。圓滿光明。普照一切。震動十方無量世界。一切毛孔。普出如來微妙香雲。普雨種種諸莊嚴雲。行佛威儀。除滅一切衆生煩惱。爾時太子。既見如來歡喜無量。五體投地。合掌白言。善來世尊。念哀取我。唯願世尊。處摩尼座。諸菩薩衆皆就寶座。周帀圍遶。時佛坐已。除滅一切衆生苦患。離諸障蓋堪聖法器。爾時如來。知諸衆生應受化者。而爲演說圓滿因緣修多羅。時彼大衆聞正法已。八十那由他衆生。皆起離垢清淨法眼。得無學地。一萬衆生得大乘道。滿足普賢菩薩行願。見十方佛轉正法輪。現自在力。百佛世界微塵等衆生。具摩訶衍。滅十方世界無量衆生惡道苦難。生天人趣。時彼太子。得隨應化覺悟衆生。長養善根法門。佛子。爾時太子。豈異人乎。我身是也。我於一切衆生。起大悲心普饒益之。不著三界。又亦不求名譽果報。捨離憍慢。不輕他人。不加彼惡。不貪財利。遠離三有。莊嚴大乘。開一切智門。普行菩薩無量諸行。佛子。我於爾時得此法門。時諸大臣今五百惡人調達眷屬是也。彼諸人等。佛皆敎化。令發阿耨多羅三藐三菩提心。過未來世須彌山微塵等劫。成等正覺。所住世界同名寶光。國界莊嚴。父母種姓。受胎出生。棄家學道。往詣道場。轉正法輪。說修多羅。語言音聲。光明眷屬。壽命法住。及其名號。皆悉不同。其最初佛號饒益月。第二佛號大悲師子。第三佛號救護衆生。最後如來號大醫王。佛子。當知本諸罪人。我所救者。即拘樓孫等賢劫千佛。及百萬阿僧祇諸大菩薩。於無量精進妙德慧佛所。發阿耨多羅三藐三菩提心。今悉現在十方國土。行菩薩行。修習增廣。此隨應化覺悟衆生。長養善根法門者是也。佛子。時王勝光者。今薩遮尼揵

子大論師是也時王宮人諸眷屬者。即彼尼揵六萬弟子。與師俱來。共佛論義。悉降伏之。授阿耨多羅三藐三菩提記者是也此諸人等當成正覺世界劫號皆悉不同佛子我於爾時救罪人已。父母聽我捨離國土妻子眷屬。於法輪音聲虛空燈佛所。出家學道。五百歲中淨修梵行。於此中間得一萬三昧。一萬陀羅尼門。一萬諸明。一萬法藏。一萬薩婆若勇猛精進。一萬清淨忍門。一萬寂滅禪定。一萬方便般若波羅蜜。各於十方現前對見一萬如來出生一萬菩薩大願。長養菩薩一萬諸力。又得菩薩一萬神通。於念念中。各遊十方一萬佛剎。於念念中。各憶十方一萬佛海。見彼如來一萬化海。普遊十方敎化衆生。於念念中見十佛世界衆生。於諸趣中死此生彼。或好或醜。或之善處或入惡道。知彼衆生諸心心法。心意所行及諸根海。行業善根皆悉明達。佛子我於爾時命終之後。即復於彼閻浮提中王宮受生作轉輪王。彼法輪音聲虛空燈如來滅度之後。我於爾時守護正法。次值法虛空妙德王佛。次爲釋王。即彼道場。值天藏佛。次爲燄摩天王。即彼世界。值大地功德山佛。復值法輪光音聲王佛。次爲化樂天王。即彼世界。值虛空燈智王佛。次爲阿脩羅王。即彼世界。值一切法雷震王佛。次爲他化自在天王。即彼世界值不可壞力幢佛。次爲梵王。即彼世界。值法輪化普光音佛。佛子。於彼寶光世界善光劫中。一萬如來出興于世。我悉值遇。次復有劫。名曰日光。六十億佛出興于世。時我爲王。名大智慧。值最初相好功德山佛。復值妙音聲佛。次爲大臣。值離垢童子佛。次爲阿脩羅王。值勇猛精進佛。復值究竟相好佛。次爲商人。值離垢臂佛。次爲城天。值師子行佛。次爲毗沙門天王。值天周羅佛。次爲乾闥婆王。值法上名稱佛。次爲鳩槃茶王。值光明天冠佛。恭敬供養。佛子。我諸趣受身。供養如是等六十億佛。於一一佛所。敎化無量無邊衆生。我於一一佛所。得種種三昧門種種陀羅尼門。具足諸辯。種種智慧。種種法光。照十方海諸佛剎海。見諸佛海。如一劫中值遇諸佛恭敬供養。於世界微塵等劫一切世界中諸佛興世我悉值遇恭敬供養。聞法受持守護正法。亦復如是。於諸佛所修此法明。爾時願勇光明守護衆生夜天。欲重明此義。以偈頌曰

歡喜恭敬心　能問甚深法　我當承佛力　爲汝分別說　過於不思議　世界海塵劫　爾時有一劫
名曰爲善光　彼時有世界　名曰爲寶光　於彼世界中　十千佛興世　我值彼諸佛　恭敬悉供養

姝三本俱作殊
至同作往
肴膳同作餚饍
問明作門

於彼如來所　修習此法門　爾時有王都　名曰可愛樂　廣博悉平正　種種妙莊嚴　衆生雜行起
世界有淨穢　時彼諸衆生　多行不善法　爾時有大王　號曰爲勝光　正法治天下　等心於一切
彼王有太子　號名曰善伏　端嚴甚姝妙　相好莊嚴身　時彼諸人民　有犯王法者　幽閉在牢獄
太子悉救之　爾時諸臣等　俱白大王言　太子欲危王　宜應加苦治　時王用臣言　如法治太子
諸臣送太子　至彼刑戮處　王后聞此已　來白大王言　願聽十五日　布施修功德　時王卽聽許
令其修福業　肴膳車乘等　隨欲悉給之　所期日已盡　將至刑戮處　彼時一切衆　悲感悉號泣
時法輪音聲　虛空燈如來　知衆生根熟　往詣大衆所　顯現自在力　演說圓滿經　無量諸衆生
悉授菩提記　爾時王太子　卽發菩提心　願我悉度脫　一切諸群萠　供養彼如來　卽隨佛出家
勇猛精進力　專求無上道　具足此法門　大悲念衆生　知法眞實相　劫海修菩提　一切諸導師
次第興出世　我皆悉恭敬　供養護持法　刹海微塵等　一切諸劫中　如來出興世　恭敬悉供養
善伏我身是　修習大悲心　不惜身壽命　救護彼苦人　逮得此法門　劫海常修習　念念悉增長
無量諸功德　所見諸最勝　方便爲我說　聞已卽修習　此寂滅法門　無量劫修此　不思議法門
佛雨甘露海　我已悉飲之　依止此法門　普遊十方界　一念悉分別　三世諸佛刹　依此法門故
見三世佛海　於諸最勝所　現身如電光　依此法門故　徧詣十方佛　各現大神力　勝妙威儀法
依此法門故　能爲問難海　不思議諸佛　所說聞受持　依此法門故　於十方世界　諸佛大衆中
自在顯神變　依此法門故　種種現色身　能於一身中　顯現諸佛身　依此法門故　一一毛孔中
放大光明海　除衆生煩惱　依此法門故　一一毛孔中　出化無量身　法雨濟衆生　此法難思議
菩薩所修學　依住此法門　盡來劫修行　除滅諸邪見　隨應化衆生　悉令得安住　一切種智地
不可思議趣　顯現種種身　隨其所應化　而爲演說法
佛子．我唯成就此法門．諸大菩薩．超出世間普照諸趣．悉能究竟一切境界．壞障礙山．了達法相．善巧方便．分別

諸法。解法無我。攝取教化度脫衆生。皆悉了知三世法界。善知一切語言道海。我當云何能入如是大知慧海。大智境界。三昧解脫法門自在。善男子。此閻浮提有一園林。名流彌尼。彼有天名妙德圓滿。汝詣彼問。云何菩薩行菩薩行。生如來家爲世間燈。盡未來劫修菩薩行心無疲倦。時善財童子。頭面敬禮彼夜天足。遶畢辭退。爾時善財童子。正念思惟彼夜天教。修習增長。隨所應化覺悟衆生。長養善根法門。漸漸遊行至彼林中。周偏推求妙德圓滿林天。見坐衆寶樓閣之上。二萬那由他諸天圍遶。爲說菩薩受生海經。生如來家。長養菩薩功德。爾時善財。頭面禮足。白言天神。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。云何菩薩行菩薩行。生如來家爲世間燈。答言。佛子。菩薩有十種受生法。若有菩薩行是法者。生如來家。於念念中長養善根。不退不怖不惱不亂。不懈不悔。至一切智。順知法界修解脫道。於一念中長養一切諸波羅蜜。捨離世間具足佛地。智慧猛盛。佛法現前。順眞實義。滿薩婆若。何等爲十。所謂供養一切佛方便虛空願藏菩薩受生法。滿菩提心枝藏菩薩受生法。現前方便觀察寂滅虛空藏菩薩受生法。以淨直心普照三世藏菩薩受生法。普照一切藏菩薩受生法。生如來家藏菩薩受生法。佛光明力藏菩薩受生法。具足分別薩婆若門藏菩薩受生法。一切法界化莊嚴藏菩薩受生法。勇猛精進至佛地藏菩薩受生法。佛子。何等爲供養一切佛方便虛空願藏受生法。此菩薩摩訶薩。發如是願。我當恭敬供養一切諸佛。無量喜心見佛無厭。具不壞信積集功德。供養諸佛心無厭足。佛子。是爲初受生法。薩婆若初門長養善根故。佛子。何等爲滿足菩提心枝藏受生法。此菩薩摩訶薩。發阿耨多羅三藐三菩提心。起大悲心。救護一切衆生故。値遇佛心。常見佛故。求正法心。無所惜故。大莊嚴心。向薩婆若故。發大慈心。普覆攝取一切衆生故。不捨一切衆生心。薩婆若莊嚴不可壞故。離諂曲心。得實智故。如說行心。得菩薩道故。不欺一切佛心。滿足諸佛大誓願故。爲薩婆若發大願心。教化未來一切衆生故。如是等佛刹微塵等菩提心枝滿足。生如來家。佛子。是爲第二受生法。佛子。何等爲現前方便觀察寂滅虛空藏受生法。此菩薩摩訶薩。觀察寂滅一切法海心。究竟滿足一切智道不疲倦心。正念善法業海心。一切菩薩諸三昧海淸淨心。具一切菩薩諸功德心。出生一切菩薩莊嚴道心。於無量劫勇猛精進不休息心。出生普賢行化一切衆生心。善學威儀住菩薩德一切諸有悉非有心。佛子。是爲第三受

提三本俱作薩

若同作如〇益
明作長

原元明俱作源

界下宋明俱有
境界二字元有
界字

生法．佛子．何等爲以淨直心普照三世藏受生法．此菩薩摩訶薩．淨直心界照佛菩提．深入菩薩方便法海．深心不壞猶若金剛．背一切有諸生死趣．向一切佛具自在力．趣諸勝道增益菩薩根．離垢淨心不可動轉．長養大願．常爲諸佛之所護念．壞散一切諸障礙山．悉爲衆生而作歸依．佛子．是爲第四受生法．佛子．何等爲普照一切藏受生法．此菩薩摩訶薩．具足方便敎化衆生不貪財利．以淸淨心悉捨一切．持無量淨戒．住佛境界．具足忍法．得一切佛忍光明法．勇猛精進．究竟一切智境界．修習諸禪．具足淸淨圓滿普門三昧智慧．以明淨慧日普照法界．得無礙眼見一切佛海．深入一切諸法源底．智者所讃．令衆生歡喜．修習正法見眞實相．佛子．是爲第五受生法．佛子．何等爲生如來家藏受生法．此菩薩摩訶薩．生如來家隨諸佛敎．具足一切甚深法門．同三世一切諸佛大願．同三世一切諸佛善根．同三世一切諸佛法身．遠離世間向離世間趣．長養白淨法．住大功德法門．得佛持定見諸如來．隨所應化淨諸衆生．不捨大願聞法受持．佛子．是爲第六受生法．佛子．何等爲佛光明力藏受生法．此菩薩摩訶薩．深入佛力徧遊十方．供養諸佛心無疲倦．知一切法如幻如夢．色如電光．成就如化自在通明．知一切有生趣如影．知一切佛所轉法輪皆悉如響．悉究竟說一切法界．佛子．是爲第七受生法．佛子．何等爲具足分別薩婆若門藏受生法．此菩薩摩訶薩．以童子身．住菩薩住．觀薩婆若．於無量劫．觀察一一諸智慧門．劫猶可盡諸智慧門不可窮盡．究竟菩薩自在境界諸三昧門．念念悉詣十方佛所．入不可壞三昧境界．不可壞法．不可壞智．無邊境界．得非境界．於少境界悉具足．得不可說地．於無量中得有量法．知諸世間名假施設．分別一切語言之法．佛子．是爲第八受生法．佛子．何等爲一切法界化莊嚴藏受生法．此菩薩摩訶薩．種種莊嚴無量佛刹．究竟衆生．諸變化身．佛應化身．無所依止．淸淨法化．悉行一切無礙法界．應受化者爲彼現身．敎示種種諸菩薩行．善能出生離諸障礙一切智門淨智慧藏．敎化衆生未曾失時．佛子．是爲第九受生法．佛子．何等爲勇猛精進至佛地藏受生法．此菩薩摩訶薩．悉於三世諸如來所受灌頂法．一切世界境界無障礙．菩薩悉知三世衆生死此生彼．修菩薩行．知諸衆生心次第起．知三世佛次第成正覺．善巧方便知法次第．知一切劫次第成敗．隨應衆生顯現莊嚴．成等正覺顯現次第轉正法輪．敎化無量無邊衆生．佛子是爲第十受生法．菩薩摩訶薩．住是法已．種種

莊嚴一切佛刹．無量億劫無量法海．無量境界．敎化衆生．覺悟無量諸法界流．顯現諸佛不可思議．如虛空等深法境界．無量諸行攝取衆生．現轉法輪．於一切世界護持佛法．悉於一切境界．以微妙音說不可說佛正法雲．住諸法門趣無礙道．以一切法莊嚴道場．隨所應度成佛興世．敎化成熟無邊衆生．時彼林天．欲重明此義．以偈頌曰

淸淨正直心　先發如是願　普見一切佛　供養無厭足　皆悉淨莊嚴　三世諸佛刹　以願莊嚴心
度脫諸群生　修習寂滅法　其心無厭足　三世無障礙　身心如虛空　深入大悲海　直心如須彌
窮盡大智海　是爲人中雄　大慈覆一切　增廣諸度海　敎化諸群生　此是無上人　知法眞實相
三世佛家生　究竟諸法海　是爲智慧者　淸淨妙法身　其心無障礙　已身滿十方　具足如來力
甚深智慧中　逮得自在力　專求一切智　究竟三昧海　嚴淨諸佛刹　敎化一切衆　顯現自在力
是爲稱莊嚴　淨入最勝力　長養薩婆若　法界無障礙　此是眞佛子

佛子．菩薩摩訶薩．具此十法．生如來家．爲世間燈．佛子．我成就此無量境界自在法門．爾時善財．白言天神．此法門者境界云何．答言．佛子．我已具足一切菩薩受生大願．是故我來生此林中．本願力故．正念菩薩受生之法．於後百年．菩薩從彼兜率陀天．降神下生．時此林中有十種瑞相．何等爲十．一者此林忽然廣博地平如掌．二者土石雜穢變爲金剛衆妙莊嚴．三者寶娑羅樹周帀行列．四者時此林中沈水末香．出過諸天種種莊嚴．五者諸妙華鬘寶莊嚴具皆悉充滿．六者諸寶樹中自然流出種種妙寶．七者諸池水中出芙蓉華．八者時此林中娑婆世界欲色諸天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽．恭敬作禮合掌而住．九者天女乃至摩睺羅伽女．齋供養具合掌恭敬於一面住．十者十方一切佛齋中放光明．名曰菩薩受生自在燈．普照此林．於彼一一諸光明中．現一切佛受生自在出家自在．一切菩薩功德自在．又出如來微妙音聲．佛子．是爲林中十種瑞相．此相現時．諸天王等．知必當有菩薩下生．我見此瑞歡喜無量．佛子．摩耶夫人出迦毗羅城．入此園林．生太子時．自然而有十種光明．因此光故．一切衆生得法光明．何等爲十．所謂寶芽藏光．一切香光．鉢曇摩光．出微妙聲讚善生光．

以元明俱作叉

芽明作牙

十方菩薩初發心光。一切菩薩得入諸地自在法光。一切菩薩諸波羅蜜大智慧光。出生菩薩無量大智願光。方便化度衆生智光。普照一切法界諸佛受胎出生棄家學道成正覺光。佛子。是爲十種光明。此光普照無量無邊諸衆生心。佛子。摩耶夫人。於此林中。在畢利叉樹下坐。時現菩薩十種受生自在。何等爲十。爾時欲界一切天王。天子天女。色界諸天。及龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽幷其眷屬。皆悉雲集。爲欲供養彼菩薩故。爾時摩耶夫人。放大功德妙色光明。普照一切。其餘光明悉蔽不現猶如聚墨。除滅衆生一切煩惱一切惡道苦。又於一切諸毛孔中放大光明。普照十方無所障礙。是爲菩薩第一受生自在。復次。佛子。摩耶夫人腹內。悉能容受三千大千世界。又能顯現百億四天下。於彼百億閻浮提中。王都京邑所住園林名字各異。摩耶夫人。徧坐彼處。諸天圍遶。悉爲顯現不可思議智慧自在。是爲菩薩第二受生自在。復次。佛子。摩耶夫人。一一毛孔中。顯現如來於過去世爲菩薩時。恭敬尊重供養諸佛。彼諸如來所說正法。於毛孔中皆悉得聞。譬如明鏡。淨池水中見日月像。摩耶夫人諸毛孔中。顯現如來於過去世爲菩薩時。恭敬尊重供養諸佛。彼諸如來所說正法皆悉得聞。亦復如是。是爲菩薩第三受生自在。復次。佛子。摩耶夫人一一毛孔中。顯現如來於過去世諸世界中。城邑聚落山林河池。一切諸處行菩薩行。隨彼諸劫所値諸佛淸淨善根。壽命名號及善知識。如是等事皆悉顯現。菩薩於彼諸受生時。摩耶夫人常爲其母。是爲菩薩第四受生自在。復次。佛子。摩耶夫人一一毛孔中。顯現如來於過去世爲菩薩時。其身色相行業威儀所受苦樂。是爲菩薩第五受生自在。復次。佛子。摩耶夫人一一毛孔中。顯現如來於過去世爲菩薩時。所行布施身體手足眼耳鼻舌。骨齒髓腦心血皮肉。妻子眷屬城邑聚落。宮殿寶物一切內外。幷諸受者皆悉顯現。又聞求者所言音聲。是爲菩薩第六受生自在。復次。佛子。摩耶夫人身中。普出過去諸佛本爲菩薩最後生時。莊嚴佛刹。衆生樹林。華鬘諸香塗香末香。摩尼寶王娛樂讚歎。如是等事充滿此林。皆悉聞見。是爲菩薩第七受生自在。復次。佛子。摩耶夫人身中。又出諸天宮殿龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽及人宮殿。衆寶莊嚴妙香普熏無能壞者。出過諸天。爲欲供養彼菩薩故。充滿此林。是爲菩薩第八受生自在。復次。佛子。摩耶夫人身中又出十不可說億那由他世界微塵等菩薩。其身色像相好莊嚴。光明自在及

其眷屬。皆悉同彼盧舍那佛。是諸大士。從彼出已。讃歎菩薩。是爲菩薩第九受生自在。復次佛子。菩薩生時。於摩耶夫人前地金剛輪中生大蓮華。金剛爲莖。有十世界微塵等寶葉。摩尼寶王以爲其臺。衆寶香鬘以阿僧祇寶網羅覆其上。一切天王所共執持。一切乾闥婆王普雨香雲。讃歎過去諸佛功德。一切夜叉王圍遶守護。自然出生衆妙寶華娛樂音聲。一切阿脩羅王皆悉降伏頭面敬禮。一切迦樓羅王以寶繒幡莊嚴虛空。一切緊那羅王歡喜諦觀以無厭足。讃歎歌頌菩薩功德。一切摩睺羅伽王歡喜踊躍。普雨種種莊嚴雲。是爲菩薩第十受生自在。佛子。摩耶夫人生菩薩時。如虛空中現明淨日。如雷電光。如山起雲。如闇中燈。菩薩爾時雖現出生。而悉解達一切諸法。如電夢幻不來不去不生不滅。佛子。我一念中。悉知菩薩此閻浮提受生自在出生自在。亦知百億閻浮提受生自在出生自在。亦知三千大千世界微塵等佛剎。十佛世界微塵等佛剎。乃至悉知一切世界微塵等佛剎。菩薩受生自在出生自在。亦復如是

# 大方廣佛華嚴經卷第五十五

薩明作摩

# 大方廣佛華嚴經卷第五十六 〔麗道〕〔宋垂〕〔元垂〕〔明垂〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅 譯

## 入法界品第三十四之十三

爾時善財.白圓滿妙德林天言.天神.得此菩薩受生自在法門其已久如.答言.佛子.乃往古世.過億佛刹微塵等劫.有劫名可悅樂.彼有世界名一切寶.彼劫世界中有八十那由他佛.出興于世.其最初佛.號不可壞自在幢王.彼世界中.一閻浮提有一王都.名莊嚴幢.王名寶燄眼光.第一夫人名善喜光.如此世界摩耶夫人.爲盧舍那佛母.彼世界中善喜光夫人.爲最初如來母.亦復如是.善喜光夫人生菩薩時.與二百萬那由他諸采女衆.詣金色園林.攀寶樹枝.生彼如來.時有乳母名離垢光.諸天王等.以雜香湯洗浴太子.抱授乳母.乳母敬受歡喜無量.即得菩薩普眼境界三昧.得三昧已.見十方佛無所障礙.復得菩薩受生自在法門.佛子.譬如初受胎識速疾無礙.得此法門.知一切佛受生自在.亦復如是.佛子.於意云何.彼乳母者.豈異人乎.我身是也.我從是來.念念常見菩薩受生自在法海.盧舍那佛敎化衆生自在神力.佛子.我念念中.悉得三千大千世界微塵等淨智慧眼.常見一切世界.復塵等刹及彼諸佛.知彼如來自在受生.又復了知盧舍那佛初發大願.乃至悉知十方諸佛初發大願.亦復如是.亦恭敬供養彼諸如來.彼佛說法我悉得聞受持修行.時彼林天.承佛神力觀察十方.欲重明此一切境界菩薩受生自在法門義.故以偈頌曰

佛子汝所問　最勝寂滅境　一心善諦聽　我今說因緣　過億刹塵劫　劫名可悅樂　八十那由他
如來出興世　最初如來名　無壞自在幢　我時見彼佛　金色松中生　乳母離垢光　今則我身是
太子金色身　天王抱授我　敬受無上人　觀察不見頂　圓體難思議　視之無厭足　離垢淸淨身

受三本俱作愛

正　元明俱作王

相好自莊嚴　我見妙寶像　歡喜心無量　思惟難思議　長養功德海　見彼自在力　我發菩提心
專求佛功德　具足諸願海　嚴淨諸世界　遠離三惡道　於諸世界中　供養一切佛　專求大願海
除滅衆生苦　聞彼初佛法　成就此法門　我於億刹塵　一切諸劫中　修習菩薩行　嚴淨此法門
彼劫中諸佛　我已悉供養　守護其正法　淨修法門海　億刹塵等劫　諸佛出興世　持彼正法輪
修難議法門　一念悉了知　一切刹微塵　一一微塵中　見無量刹海　彼佛初生時　顯現自在力
我於一念中　皆悉分別見　不可思議刹　見彼諸菩薩　或處兜率天　專求佛菩提　無量刹海中
見彼生自在　無量衆圍遶　而爲其說法　一念中悉見　無量諸刹海　一切諸菩薩　出家詣道場
不可思議刹　得成最正覺　顯現諸方便　除滅衆生苦　一一微塵中　轉無盡法輪　無盡妙音海
普雨甘露法　念念中悉見　一一微塵中　億刹塵等佛　示現般涅槃　見無量刹海　如來初受生
一一諸佛所　無量身供養　不思議刹海　無量諸群生　我以諸方便　爲說甘露法　佛子我知此
不思議法門　無量諸劫數　儞讚不可盡

佛子。我唯知此菩薩受生自在法門。諸大菩薩。能以諸劫爲一念藏。顯現一切諸妙方便。供養諸佛滿足大願。覺了一切諸佛正法。示現一切諸趣受生。生諸佛所敎化衆生未曾失時。爲衆生現受生自在。於諸佛刹現自在雲。常生一切諸如來家。我當云何能知能說彼諸功德。佛子。迦毗羅城有釋迦女名曰瞿夷。汝詣彼問云何菩薩遊生死中敎化衆生。時善財童子。頭面敬禮彼林天足。遶畢辭退。向於彼城。正念思惟增廣明淨菩薩受生自在法門。漸漸遊行。至菩薩會莊嚴講堂離憂妙德天所。爾時彼天。一萬諸天以爲眷屬。來迎善財。白言。善來大智慧人。修不思議菩薩法門。以淨直心滿足大願。廣菩薩行向正法城。究竟菩薩無量方便。我觀仁者。勇猛精進。修菩薩道心無懈倦。威儀庠序諸根調伏。不久必當逮得無上清淨莊嚴佛身口意。相好嚴身。十力智慧莊嚴其心。遊行十方敎化衆生。我觀仁者。修行勇猛精進力故。必當得見三世諸佛。受諸如來一切法雲。修習菩薩禪定法門寂滅之法。入於甚深如來法門。何以故。詣善智識親近供養。正念思惟善知識敎。無有退轉疲倦之心。除滅障礙。降

已三本倶作之

知下元明倶有津字

現三本倶作世

提同作薩

伏諸魔。無能壞者。令一切衆生得歡喜故。善財答言。如天所說。我願如是。欲令一切衆生歡喜。除滅煩惱諸不善法。具足善法得安隱樂。一切衆生。以衆惡業煩惱結故入三惡道受無量苦。菩薩見已起憂悲心。譬如有人唯有一子。愛念情重。忽有人來。割截其身肢節手足。慈父見已悼惻悲念。菩薩若見衆生造惡業緣煩惱結故入三惡道受無量苦見如是已痛心悲念。亦復如是。菩薩若見衆生具身口意諸善業故生天人中受身心樂。見如是已歡樂無量。何以故。菩薩摩訶薩。不自爲故求薩婆若。不貪生死五欲快樂。不隨心想諸見顛倒結使纏縛貪愛邪見。不著衆生種種樂想。不著禪味。不爲結礙流轉生死。菩薩但見諸有海中一切衆生受無量苦。發大悲願而攝取之。常以大悲大願力故。行菩薩行。供養諸佛求薩婆若。欲令衆生遠離煩惱。淨佛世界。調伏一切惡心衆生。悉令具足清淨身心。行菩薩行而無疲倦。若有菩薩如是行者。悉能莊嚴一切衆生。出生長養天人樂故。爲父母皆令安立菩提心故。爲養育皆令究竟菩薩道故。爲衞護皆令遠離三惡道故。爲大船師皆令得度生死海故。爲歸依。令捨諸魔煩惱怖故。爲導師。皆令逮得清涼處故。爲知濟。皆令得度佛刹海故。爲主藏臣。皆令得入法寶洲故。爲淨妙華。令開一切佛功德華故。爲大光明。普放功德智慧光故。爲歡喜。皆令端嚴勝殊妙故。爲所尊。遠離一切諸惡業故。爲普賢具足一切諸功德故。爲燈明。常放智慧淨妙光故。爲慶雲。常雨一切甘露法故。天神菩薩摩訶薩。如是行者。一切衆生。悉皆愛念樂正法故。爾時善財。將昇法堂。彼離憂妙德天與百萬眷屬。各各齋持妙香華鬘及諸雜寶。散善財上。以偈頌曰

無量無數劫　世燈或出現　普爲衆生故　正求佛菩提　無量億諸劫　難見難値遇　功德日今出
照除世間闇　見諸衆生類　愚惑癡所覆　廣發大悲心　專求無師道　清淨正直心　不惜身壽命
親近善知識　專求佛菩提　一切無所依　不著於世間　離垢清淨心　無礙如虛空　行諸菩薩行
具滿妙功德　放大智慧光　普照一切世　不離於世間　亦不著世間　行世無障礙　如風遊虛空
譬如火災起　一切無能滅　勇猛精進火　求道亦如是　勇猛大精進　一切莫能壞　金剛慧師子
遊行無所畏　一切法海中　一切諸佛海　親近善知識　速見彼諸佛

三本俱爾時以下爲卷第五十七入法界品第三十四之十三○慈同作悲

能不明作不能

爾時離憂妙德天。偈讚歎已。恭敬法故俱昇法堂。昇法堂已。周徧推求彼釋迦女。卽見坐於寶蓮華藏師子之座。八萬四千衆女圍遶。皆於貴族王者之女。悉於過去彼菩薩所修行諸行。同彼菩薩一切善根。常以布施愛語攝取衆生。求薩婆若利益一切。令諸衆生同佛菩提。大悲爲首。普念衆生如一子想。修習大慈普覆一切。過去已會於菩薩所。修不思議勝妙智慧。於阿耨多羅三藐三菩提得不退轉。具足成滿諸波羅蜜。心無所著。直心智慧皆悉清淨。求薩婆若。離障蓋網。超出諸難。得淨法身。行普賢行。長養菩薩一切諸力。成就圓滿淨智慧日。爾時善財。五體投地敬禮瞿夷。禮已合掌於一面住。白言大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何行生死中而無所染。覺了一切諸法實相。超出聲聞緣覺之地。住如來地而不捨離菩薩所行。修菩薩行。不離佛地。超出世間。法身圓滿。應世受生。普現種種諸方便身。知法無性。示現一切衆生之身。解甚深法。以妙音聲。而爲說法知衆生空。而能不捨化諸世間。知一切佛不生不滅。而能供養心無退轉。知無業報。而行善業無有休息。爾時瞿夷作如是言。善哉善哉。善男子。能問諸菩薩摩訶薩所行之法。修習普賢諸行願者。能如是問。諦聽諦聽。善思念之。我當承佛神力爲汝解說。善男子。若有菩薩。成就十法。則能滿足因陀羅網普智光明菩薩之行。何等爲十。所謂依善知識。廣發無量諸弘誓願。修淨勝妙。正眞希望。集一切智功德。聞佛出世歡喜無量。心常樂住三世佛所。隨順一切諸大菩薩。悉爲一切佛所護持。清淨大悲遠離生死。是爲十法。若有菩薩。成就此法。則能滿足因陀羅網普智光明菩薩之行。佛子。若諸菩薩。勇猛精進心無退轉。出世修習佛無盡法。値善知識故。佛子。菩薩有十法。値善知識。何等爲十。所謂不惜身命。不求世樂。智諸法相。而不捨離一切智願。觀察法界。離三有海。無所依住。深入一切菩薩諸願。普照一切諸佛世界。淨修菩薩圓滿智慧。是爲十法値善知識。爾時瞿夷承佛神力觀察十方。欲重明此義。以偈頌曰

無諂於知識　智慧廣無量　專求佛菩提　利益諸衆生　恭敬善知識　其心如佛想　勇猛精進力
具因陀網行　解脫心增廣　其量均虛空　攝取於三世　佛刹及衆生　直心如虛空　遠離煩惱垢
出生佛功德　是爲身雲行　不思議智慧　積集功德海　清淨福業藏　不染於世間　一切諸佛所

不善善根三本倶作不善根善根

諸三本倶作詣

聞法無厭足　智慧燈普照　是爲照世行　一念皆能詣　十方刹海佛　聞法分別知　是爲隨順行
見佛眷屬海　究竟三昧海　滿足諸大願　是因陀網行　未來劫修行　諸佛所護念　普照諸世界
是爲法光行　大悲見衆生　智日出世間　法光除癡闇　是爲智日行　見諸趣衆生　迴流生死中
爲轉淨法輪　是爲普賢行　智慧身無量　隨應而示現　普於一切趣　度脫諸群生　發起大慈悲
普覆於一切　徧照諸群生　令得佛菩提

善男子.我已成就分別觀察一切菩薩三昧海法門.善財白言.大聖.此法門者境界云何.答言.善男子.我入是法門.知此娑婆世界衆生佛刹微塵等劫中.死此生彼.作善惡樣受諸果報.在生死道出生死者.正定邪定及不定聚.有使善根無使善根.具足善根.不具足善根.不善善根.善根攝不善根.不善根攝善根.善根所起.不善根所起.一切善惡皆悉了知.彼諸劫中.佛興于世.我悉了知.知彼諸佛初發道心.行菩薩行.出生一切諸大願海.知彼供養一切諸佛.具菩薩行.成等正覺轉正法輪.現自在力化度衆生.知彼眷屬.聲聞緣覺之所修行.過去修習一切善根.得明淨智.成就寂滅自在法門.顯現種種自在神力.敎化衆生而般涅槃.知彼眷屬諸菩薩衆.初發道心修習善根.出生種種諸大願行.成就滿足諸波羅蜜.種種莊嚴菩薩之道.菩薩諸地自在之力.菩薩諸地住.分別修習諸菩薩地.淨菩薩地.修菩薩地.菩薩諸地相.菩薩諸地智.菩薩諸攝智.菩薩善巧方便敎化衆生.菩薩諸住.菩薩圓滿淨行.菩薩自在行.菩薩三昧海.菩薩方便.於念念中.悉知菩薩諸三昧海.一切種智電光法雲.得諸法忍.盡一切智底.知彼菩薩諸佛刹海.究竟法界.知衆生海.修習一切菩薩法門.滿足大願.顯現種種自在神力.如是等事我悉了知.如此娑婆世界.知十方世界.世界性.世界海.世界輪.世界圓滿.世界分別.世界旋.世界轉.世界蓮華.世界須彌.世界相中事.亦復如是.盧舍那佛本願力故.我悉深入分別念知.何以故.此法門者.悉知一切衆生心海.知一切衆生積集善根.知一切衆生有垢有淨.知一切衆生性.知一切聲聞三昧自在法門.知一切緣覺菩薩諸佛三昧自在法門.如是等事悉分別知.善財白言.大聖.發阿耨多羅三藐三菩提心來.其已久如.答言.佛子.乃往古世.過世界微塵等劫.有劫名勝光明.時有世界.名離恐怖.彼世界中有四天下.彼閻浮提中有一王都.名

妙德樹須彌山。於八十王都。最爲殊勝。彼有王。名一切寶主。有六萬采女。五百大臣。五百王子。端正勇健摧伏怨敵。其王太子名增上功德主。顏貌殊勝相好嚴身。與萬采女俱。持妙幢蓋。散衆寶華。作諸妓樂。乘妙寶車。詣香芽山遊戲園林。時彼道路坦然平正。種種莊嚴。散衆妙華。寶樹行列。衆妙寶帳以覆其上。於彼路側。積衆寶聚雜種寶衣。諸莊嚴具肴膳飲食。如是等事隨其所須皆給施之。時有母人。名曰善現。將一童女。名離垢妙德。端嚴姝妙脩短得所。顏容無倫。目髮紺色。脣齒丹素。口出梵音。才能巧妙。言語聽辯。修習慈心見者無厭。少貪恚癡常懷慚媿心無諂曲。乘妙寶車采女圍遶。從母遊觀先太子前。至香芽園。太子見已。生染愛心。語其母言。欲娉賢女以爲我妻。母語女言。太子今欲求汝爲妃。於意云何。女白母言。若欲便我爲彼妃者。當自殞滅。母報女曰。勿作此言。所以者何。今此太子。悉已具足轉輪王相。必爲聖主。有玉女寶。汝當爾時不堪給使。此處尊勝莫生難心。時彼園外有一道場。名法雲光。有勝日光如來應供等正覺。出興于世。於彼道場成無上道。時女夢見彼如來身。於夢覺已。空中有天而告之曰。汝夢所見是勝日光佛。成道已來始經七日。今在道場。無量菩薩大衆圍遶。彼佛衆會一切天龍八部鬼神。乃至無量淨居諸天。地神。風神。海神。火神。山神。樹神。叢林藥草城郭等神。皆悉雲集。奉勤世尊聽受正法。時彼女人聞是語已。詣太子所合掌而立。以偈白言

我色世間最　智慧無倫匹　才妙善言論　觀者無厭足
太子應當知　我心善貞潔　志向心端直
清淨無所染　遠離於瞋恚　貪欲及愚癡　以眞淨直心
饒益諸群生　我見太子身　相好自莊嚴
見已喜無量　諸根悉調伏　妙體猶淨金　髮美紺青色
額廣目明徹　必爲自在王　其身逾錢山
相好自嚴飾　我今太子所　合掌恭敬住　其目淨脩廣
方臆如師子　觀者無厭足　妙音應納我
舌相廣長妙　猶如赤銅色　演出梵音聲　聞者踊躍喜
口方牙深固　齒白而齋密　若有覩見者
一切皆歡喜　離垢清淨身　具相三十二　成就此妙相
必爲轉輪王

爾時太子。語彼女言。汝是誰女。爲誰守護。若先屬他。我則不宜起染愛心。爾時太子。說偈問言

清淨功德身　見者無厭身　誰爲汝父母　爲誰所守護
若先有所屬　我不起欲想　非分生婬心

幢下同無蓋字○衆同作諸○芽同作牙○寶明作種○名下元明俱有曰字○語三本俱作論
逾明作踰
脩明作修次同
言三本俱作曰

僞宮作曲

足知三本俱作知足

常三本俱作若

---

命終墮惡道　不應爲豪貴　種種富樂故　發起如是等　放逸貪亂心　種種生邪見　幻誑諸諂僞
如是造諸惡　流轉於世間　父母知識所　應起恭敬心　慈悲廣覆護　一切諸群萌　若於一切處
所從聞法者　能生諸善故　應起恭敬心　一切諸導師　正法菩薩衆　聖僧功德海　皆悉應恭敬
修習諸功德　遠離一切惡　安住於正法　廣行菩薩道　若無歸依者　應起大慈心　諸在三惡道
應發大悲念　一切諸法界　有成法有敗　捨心平等觀　莫隨煩惱魔　應發菩提心　覺悟諸群生
無量劫修行　不起疲倦想

時彼女母說偈白言

唯願太子聽　此女從生來　乃至今長成　一切諸因緣　太子所生日　女從蓮華生　其目淨脩廣
肢節悉具足　我曾於春月　遊觀娑羅園　覩見諸卉木　種種華榮茂　同遊八百女　容儀悉端嚴
皆已具足知　諸巧技能法　彼園有浴池　名曰衆莊嚴　我於池岸坐　采女衆圍遶　時彼浴池中
千葉蓮華生　寶葉瑠璃莖　閻浮檀金臺　衆妙寶香鬚　普放淨光明　徧照閻浮提　猶若日初出
時見此玉女　從彼蓮華生　覩者皆念言　此則善業報　目髮紺青色　其身如紫金　衆寶以莊嚴
觀者心無厭　離垢淨無穢　肢節悉具足　猶如眞金像　安處寶蓮華　毛孔栴檀香　普熏於一切
口出蓮華香　演妙梵音聲　此是玉女寶　世間所希有　身相悉具足　種種妙莊嚴　一切諸技術
世間言論法　究竟悉綜練　願爲哀納受　此是玉女寶　身分悉圓滿　功德具莊嚴　宿行之所得
善知衆生病　起患之所由　又知對治法　除滅衆疑惑　一切閻浮提　衆生語言法　種種妓樂音
無不善通達　此女修功德　遠離女人法　能轉衆生心　唯願哀納受　捨離嫉妬心　不醉於五欲
不起瞋恚心　修習忍智慧　精進持淨戒　能辨一切事　專求諸功德　太子願納受　若見諸貧窮
老病衆苦逼　無所歸依者　大悲普慈念　常欲利衆生　不求自安樂　功德莊嚴身　饒益於一切
於諸威儀中　常修不放逸　修習諸善法　見者無不悅　功德普莊嚴　遠離染汙心　常求善知識

恭敬樂供養　修習大慈法　棄捨怨結心　智慧無與等　唯願哀納受

爾時太子答言．善女．我已先發阿耨多羅三藐三菩提心．欲無量劫行菩薩行．積集一切功德智慧．淨修一切諸波羅蜜．恭敬供養一切諸佛．護持正法．嚴淨一切諸佛世界．令如來種相續不斷．教化衆生．滅生死苦住究竟樂．欲令衆生淨智慧眼．住菩薩道修菩薩行．具足一切菩薩諸地．令一切衆生心大歡喜．我當盡未來劫．行檀波羅蜜．悉捨一切國城妻子．肢節手足頭目髓惱．或在家布施出家修道．汝於爾時．莫作障礙壞我道心．爾時太子．重為彼女而說偈言

哀愍衆生故　我發菩提心　無量無數劫　積集智功德　無量劫海中　修習諸大願　廣修菩薩行
具足一切地　三世諸佛所　學六波羅蜜　聞法能修行　專求菩薩道　十方垢濁剎　我悉令嚴淨
除滅諸群生　三惡道苦患　以諸方便力　廣度一切衆　除滅愚癡闇　住一切智道　供養諸佛海
淨修一切地　發起大慈悲　內外一切捨　若我施來求　妻子諸眷屬　在家及出家　汝莫作除礙
若能如是者　我則納受汝

時女答言．敬從來教．乃至出家不敢有礙．卽說偈言

一切劫海中　地獄火燒身　若能眷納我　甘心受此苦　一切生死身　碎末如微塵　若能眷納我
甘心受此苦　無量劫頂戴　一切金剛山　若能眷納我　甘心受此苦　一切生死海　以我施無悔
若得法王處　願令我亦然　無量無數劫　修行菩薩道　有來求我者　歡喜願施與　太子見衆苦
發起菩提心　無量大慈悲　攝衆生及我　我不求豪富　不貪五欲樂　但願共行法　而為太子妻
修廣明淨眼　慈愍觀衆生　不起染汙心　必成菩提道　太子遊行時　地出衆寶華　此相無有疑
必為轉輪王　我昔於夢見　正覺勝日光　菩提樹下坐　大衆悉圍遶　夢中見彼佛　以手摩我頂
覺已大歡喜　踊躍無有量　空中時有天　名曰清淨身　彼天為我說　道場佛與世　我發如是念
若見太子者　當為分別說　勝日光佛與　我昔所志願　於今悉成滿　唯願俱往詣　供養彼如來

度明作受
提明作薩
躍同作踴○念同作願

音三本俱作聲
芽明作牙
散同作養
數明作量

爾時太子。聞彼如來出興于世。心大歡喜踊躍無量。欲見彼佛。以五百寶散彼女人。又與妙德光藏淨周羅寶幷妙衣服。時彼女母。卽爲太子。而說偈言

今此玉女寶　功德莊嚴身　我昔所志樂　此願今成滿　持戒不放逸　智慧諸功德　普於一切世
最勝無倫匹　此女蓮華生　種姓無譏嫌　遠離諸不善　太子同志願　此女身柔軟　猶如天繒纊
蒙彼手摩者　衆患悉除滅　毛孔所出香　芬馨無倫比　衆生若聞者　悉住於淨戒　其身淨無垢
譬如眞金像　若有覩見者　離害具慈心　口出微妙音　無不樂聞者　若有聽斯音　遠離諸惡業
心淨無瑕穢　質直無諂曲　隨其所聞法　如說能修行　恭敬善知識　及所尊重者　遠離貪欲心
專求於正法　此女心不恃　妙色蓮華生　世間諸榮樂　唯求無上道

時彼太子。與此女俱。幷一萬采女。出香芽園。各乘寶車。往詣道場。下車步進。遙見如來相好嚴身。其心澄淨如鏡淵渟。諸根調伏猶如象王。心大歡喜踊躍無量。與采女衆往詣佛所頭面禮足。恭敬供養遶無數帀。各持五百衆妙寶華。供散彼佛。爲彼如來。興立五百衆香樓閣雜寶嚴飾。時彼如來。爲說普門燈明修多羅。聞說經已。於一切法中得三昧海。所謂諸佛願海三昧。普照三世光藏三昧。對見一切諸佛三昧。普照一切衆生三昧。普照世界海淨智燈光明三昧。普照衆生根海智光明三昧。救護衆生光雲三昧。敎化衆生現前智燈明三昧。聞持諸佛法輪三昧。具普賢行淨雲三昧。於一切法中。得如是等諸三昧海。時彼玉女。於諸法中。得不可壞寂靜法門。於阿耨多羅三藐三菩提得不退轉。時彼太子。與諸眷屬禮彼如來。遶無數帀辭退還宮。詣父王所頭面敬禮。白言大王。彼道場上。勝日光佛始成正覺。王問太子。從誰聞乎。答言。從彼離垢妙德女聞。時王聞已歡喜無量。猶如貧人得大寶藏。作如是念。佛無上寶難値難遇。能滅衆生惡道貧苦。爲無上醫善對治法。除滅衆生諸煩惱患。爲善導師。於生死海濟度衆生置涅槃處。作是念已召諸小王及諸群臣。幷婆羅門剎利居士。皆悉集會而告之曰。我聞太子無上吉語云。勝日光佛出興于世。我聞是已歡喜無量。無以酬報。今捨王位授與太子。王捨位已。與諸眷屬往詣道場勝日光佛所。頭面禮足退坐一面。爾時如來。觀察彼王及諸眷屬。白毫相中放大光明。名曰一切衆生心燈。

瞪三本作翳次亦同

普照十方無量世界一切諸王．顯現如來不可思議自在神力．應受化者令彼心淨．具足不可思議功德．超出世間．其身清淨．以微妙音．爲大衆說離癡瞪法眞實燈陀羅尼門．佛刹微塵等陀羅尼以爲眷屬．彼王聞已．卽得廣大智慧光明．閻浮提微塵等菩薩得此陀羅尼．六十那由他人得諸漏盡．一萬衆生皆得離垢清淨法眼．無量衆生悉發阿耨多羅三藐三菩提心．又以不可思議自在神力．於十方刹以三乘法化度衆生．爾時彼王．作如是念．此諸功德．若不出家則不能辨．我今應當於如來所出家修道．前白佛言．今從世尊出家學道．佛答王言．宜知是時．時王卽與一萬眷屬出家修道．皆得離癡瞪法眞實燈陀羅尼門及世界微塵等陀羅尼．又得菩薩十明及無量辯．淨無礙身詣諸佛所．悉聞受持佛正法輪．爲大法師．以神通力徧諸世界．隨所應化爲彼現身．讚歎佛法幷諸過去菩薩所行菩薩本生．又讚歎佛無量無邊自在神力．守護正法．爾時太子．月十五日王得道時．於其正殿采女圍遶．七寶自至．一金輪寶．名勝自在．二象寶名曰青山．三紺馬寶．名勇疾風．四神珠寶．名光藏雲．五主藏臣寶．名曰大財．六玉女寶．名淨妙德．七主兵臣寶．名離垢眼．得是七寶．於閻浮提作轉輪王．時本千子．端正勇猛能伏怨敵．時彼人民熾盛豐樂自在．八萬王城．城各建立五百樓閣．大僧伽藍衆寶莊嚴．一一僧伽藍．起廣大塔．一切衆寶以爲莊嚴．香華繒蓋而供養之．一一王城．次第諸佛．以不思議衆妙供具．供養如來．時佛入城．無量衆生皆大歡喜．長養善根發菩提心．以廣大悲饒益衆生．正求佛法知眞實義．平等觀察三世諸法．明淨智慧普照三世．知三世佛次第出世．攝取衆生向菩薩道．行菩薩行．安住菩薩平等正法．逮得如來法輪智光．深入法海．能於己身見一切刹．善知諸根弘誓願海．得一切智．爾時如來．次第受彼諸王請時．如是饒益無量衆生．佛子．爾時太子增上功德主．豈異人乎．今釋迦牟尼佛是也．爾時王寶主寶華佛是也．寶華如來．今在東方過世界海微塵等世界海．有一世界海．名法界虛空光雲．中有世界．名佛圓滿光妙德燈．彼有道場．名曰一切天王光幢．彼佛始成正覺．與不可說佛刹微塵等菩薩大衆圍遶說法．彼寶華佛爲菩薩時．淨彼刹海．彼刹海中．三世諸佛出興世者．皆寶華佛爲菩薩時．教化令發阿耨多羅三藐三菩提心．爾時女母善現者．今我母善目是也．王眷屬者．彼如來所大衆是也．皆悉具足普賢諸行．成就大願．清淨法身普照世間．其心無壞．逮得菩薩諸三昧門．以清淨眼．皆悉

滅下三本俱無度字○淨下同無明字

光雲同作雲光○蓋同作淨

對見一切諸佛一切如來。以虛空等妙音聲雲。轉正法輪。悉聞受持。於諸法中得自在力。出入息頃。徧遊一切諸佛世界。以微妙音爲衆生說法。而未曾離一切佛所。盡未來劫修菩薩行。隨所應化悉爲現身。爾時離垢妙德寶女。共增上功德主轉輪王。四事供養。勝日光佛者。我身是也。彼佛滅度後。其世界中。有六十百千億那由他佛出興于世。其最初佛號明淨身。次名淨明月普照智。次名智觀幢。次名廣智光明王。次名精進金剛那羅延。次名不壞智。次名智普緣。次名淨德智雲。次名師子智光。次名周羅光明。次名功德光幢。次名智日幢。次名開寶蓮華身。次名功德光。次名智光雲。次名普明淨月。次名莊嚴蓋妙音。次名師子勇猛智照。次名法界慧月。次名覺衆生心虛空電光。次名善鼻妙香。次名寂滅響。次名甘露山。次名法海雷音。次名無壞智音。次名覺空電光周羅。次名月光白毫相雲。次名圓面淨慧。次名善覺智華光。次名寶燄山妙德王。次名廣德夜光。次名妙寶月幢。次名具三昧身。次名勝寶光王。次名現普智光。次名燄海門燈。次名離垢妙音王。次名無等功德。次名勝幢。次名脩臂。次名本願淨月。次名眞寶智燈。次名法上妙音。次名明淨妙德藏王。次名乘幢。次名法海滿華。佛子彼一劫中。如是次第。六十百千億那由他佛。出興干世。我悉親近恭敬供養。其最後佛。名廣解脫光。於彼佛所得淨智眼。佛子。爾時彼佛初成正覺。入城敎化。我時爲王夫人。與彼大王恭敬供養。聞彼佛說如來性起燈修多羅。聞已得淨智眼。又得觀察菩薩三昧海法門。佛子。我得此法門已。於世界微塵等劫。受持修習。是諸劫中。値無量佛出興于世。我悉恭敬供養。佛子。我或一劫。値一如來出興于世。恭敬供養。或二或三。或不可說。或於一劫。値世界微塵等佛出興于世。我悉恭敬供養。而未能知諸大菩薩身量像貌。及其身業心行智慧三昧境界。佛子。我若見修菩薩行者。歡喜無量恭敬供養。以諸方便而攝取之。令於阿耨多羅三藐三菩提得不退轉。佛子。我於世界微塵等劫。値遇諸佛恭敬供養。彼佛說法悉聞受持。時彼諸佛。各以種種修多羅。爲我說此法門。我聞是已。悉於三世佛刹海中諸如來所佛眷屬所。修此法門。又行菩薩行。菩薩大願海。種種法門中。修此法門。猶未能知普賢菩薩所行法門。何以故。佛子。普賢法門猶如虛空。無量無邊。又如衆生。及三世海。十方刹海。及諸法界。無量無邊。佛子。普賢菩薩法門。與諸佛身境界齊等。我於世界微塵等劫。觀菩薩身心無厭足。何以故。我於菩薩一一毛孔中念念悉見無量無

覩三本俱作現

志明作令
善同作喜

邊莊嚴世界佛坐道場成等正覺。於大衆中。以微妙音轉正法輪。說種種修多羅。種種諸乘。種種淸淨。復次佛子。我於菩薩一一毛孔中。念念悉見諸衆生海。各有所住。及其境界諸根不同。於三世中發菩提心。行菩薩行具大願海。淨諸菩薩無量無邊波羅蜜海。及諸菩薩本生之海。無量無邊大慈悲海。攝取衆生悉令歡喜。乃至悉見一切菩薩。現處中宮采女圍遶。佛子。我於菩薩一一毛孔中皆悉覩見如是等事。佛子。我唯知此法門。諸大菩薩。皆悉究竟諸方便海。顯現一切衆生等身。隨順世間。於一切毛孔。普放一切相海光明。了法無性。諸衆生類等如虛空。一切至處皆悉如如。顯現神變。於諸法衆得自在力。遊戲普門。一切諸地法門海中。我當云何能知能說彼功德行。爾時瞿夷語善財言。善男子。此迦毗羅城摩耶夫人汝詣彼問。云何菩薩修習諸行。不染世法。供養諸佛。於菩薩行得不退轉。除滅障礙。不由他悟入諸法門。常能應現一切佛所。攝取衆生。盡未來劫修菩薩行而不退轉。究竟滿足大乘諸願。長養一切衆生善根。爾時瞿夷。承佛神力。欲重明此義。以偈頌曰

我見樂修行　菩薩諸行者　歡喜心無量　皆悉攝取之　乃昔久遠世　過百刹塵劫　有劫明淸淨
世界名光明　爾時彼劫中　六十百千億　那由他諸佛　出興於世間　最後等正覺　號名法幢燈
彼佛滅度後　有王名智山　以大自在力　王領閻浮提　悉能廣降伏　一切諸怨敵　王子有五百
端正身姝妙　其體淨圓滿　見者無厭足　深信諸佛法　恭敬而供養　守護正法藏　受持樂修習
彼王有太子　名曰善光明　三十相嚴身　饒益諸群生　五百億人俱　出家行學道　勇猛精進力
護持彼佛法　王都名智樹　一億城圍遶　有林名靜德　衆寶樹莊嚴　善光住此林　廣說佛正法
辯才無窮盡　令衆悉淸淨　或爲乞食故　入彼王都城　庠序有威儀　見者莫不欣　遊步如師子
志意常安諦　諸根悉調伏　念慧現在前　爾時有長者　名曰歡喜幢　我爲長者女　名曰隨順光
時我於城中　遇見善光明　相好莊嚴身　歡喜心無量　次乞至我門　我以染心施　摩尼莊嚴具
投彼善光鉢　雖以染愛心　供養彼佛子　二百五十劫　不經三惡道　常於天人中　尊貴王家生
恒見善光明　妙相莊嚴身　於後所過劫　二百有五十　善現女家生　名離垢妙德　我見勝自在

發起供養心　不惜身壽命　隨其所施與　時與太子俱　覲佛勝日光　歡喜心無量　發起菩提心
彼劫最後佛　名廣解脫光　出興於世間　我値悉供養　從彼最後佛　得淨智慧眼　了知諸法相
除滅虛妄倒　得觀察菩薩　三昧海法門　一念悉覩見　不可思議刹　見彼諸佛刹　或淨或垢穢
於淨不貪樂　於穢不憎惡　普見諸世界　如來坐道場　一念見諸佛　不思議光海　亦見佛眷屬
一切三摩提　一切諸法門　皆悉無障礙　又知彼業行　隨其所住地　及諸大願海　一念悉了知
我於菩薩身　見諸菩薩等　無量劫修行　一切莫能測　一一毛孔見　阿僧祇劫刹　風輪水火輪
一切大地輪　種種所依住　世界形類相　諸妙莊嚴具　衆生身差別　又見世界海　一切諸世界
諸佛出興世　說法度衆生　我於無量劫　修習菩薩行　猶不知菩薩　身業心智慧

時善財童子。頭面敬禮彼瞿夷足。遶畢辭退

不元明俱作未

# 大方廣佛華嚴經卷第五十六

入法界品第三十四之十三

# 大方廣佛華嚴經卷第五十七

〔麗道〕〔宋垂〕〔元垂〕〔明垂〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

## 入法界品第三十四之十四

爾時善財童子作如是念。我當云何見善知識。善知識者遠離世間。住無處住不著諸入。超出障礙趣無礙道。具淨法身善業化身。以明淨智觀諸世間。大願成滿。持佛法身。如意法身。非生滅身。非來去身。非虛實身。非聚散身。一切諸相即一相身。離邊見身。無所著身。無窮盡身。滅衆虛妄如電光身。如幻夢身。如鏡像身。如淨日身。充滿一切諸方化身。於三世中無壞法身。非身之身。如是等身。一切世間所不能見。唯是普賢菩薩所見。彼善知識行無礙行。我當云何能見親近。知其相貌聞法受持。作是念已。時有城天。名曰寶眼。眷屬圍遶在虛空中。爲善財現妙莊嚴身。以天寶冠寶莊嚴具供養善財。作如是言。善男子。應守護心城。離生死故。應莊嚴心城。得十力故。應淨心城。遠離慳嫉諸諂曲故。應滅熾然猛燄心城。諸禪三昧法門相續得自在故。應照心城。常以般若波羅蜜光照如來海及眷屬故。應長養心城。攝取諸佛方便道故。應堅固心城。出生普賢諸行願故。應修心城。議魔魔民及餘怨敵莫能壞故。應明心城。得諸如來智光明故。應修無壞心城。能受如來正法雲故。應具足心城。己心悉受一切如來功德海故。應廣心城。大慈普覆一切衆生故。應蓋心城。以法普覆障不善故。應進心城。無量大悲救一切衆生故。應開心城門。正念一切三世佛故。應達心城。悉知諸佛轉正法輪修多羅法門因緣起故。應知心城道。開示顯現一切智道故。應持心城。具三世佛諸願海故。應知心城力。長養法界功德力故。應放心城普照光明。知一切衆生諸根欲性結業習氣諸垢淨故。應知心城自在力。攝取一切諸法界故。應瑩心城。住佛念故。應知心城實相。了達諸法無實性故。應知心城如幻。入一切智正法城故。菩薩摩訶薩。若如是知諸心城者。則能積集一切善根。何

曀明作翳

力三本俱作心

鬘同作鬘

以故.蠲除無量諸障礙故.所謂見佛障.聞法障.供養佛障.攝衆生障.淨佛刹障.佛子.菩薩摩訶薩.若有如是無障礙心.以少方便.能見一切諸善知識.究竟成就一切種智.爾時有天.名法妙德.在虛空中.妙聲讚歎摩耶夫人.又放種種色光明網.廣照無量諸佛世界.爾時善財.見光明網.照諸佛身遶一帀已.然後還來入善財頂.光滿其身.爾時善財.卽得離垢淨光明眼.除滅一切愚癡闇障.得離曀眼.了知一切衆生實性.得離垢眼.觀一切法性.得淨慧眼.觀一切刹性.得淨光眼.見佛法身.得普明眼.觀不思議如來色身.得無礙光眼.觀察一切世界成敗.得徧光眼.見一切佛轉正法輪出生修多羅.得普境界眼.觀察無量諸佛神力教化衆生.得普見眼.觀一切世界隨因緣起諸佛興世.時有守護菩薩法堂羅刹鬼王.名曰善眼.與妻子俱.一萬羅刹眷屬圍遶.在虛空中.散衆妙華.語善財言.善男子.若有菩薩.成就十法.則能親近諸善知識.何等爲十.所謂直心清淨遠離諂曲.不壞大悲攝取衆生.觀察衆生非眞實性.於薩婆若心不退轉.於佛大衆得堅信力.以淨慧眼觀諸法性.無壞大悲普覆衆生.明淨慧光了諸法界.善對治法雨甘露雲.除生死苦順善知識.以時淨眼觀諸法性相續不斷.菩薩成就此十法者.則能親近諸善知識.復次佛子.菩薩成就十三昧門.則能覩見諸善知識.何等爲十.所謂淨法虛空圓滿三昧.觀察一切方海三昧.分別一切境界三昧.對見十方諸佛三昧.長養功德藏海三昧.念念不捨善知識三昧.現前見一切如來功德善知識三昧.詣善知識三昧.常得不離一切善知識三昧.恭敬供養善知識無過失三昧.善男子.菩薩成就此十三昧門.則能覩見諸善知識.又得諸善知識微妙音聲.轉正法輪三昧法門.若有菩薩.住此法門.悉知一切諸佛平等.常能覩見諸善知識.爾時善財答羅刹言.善哉善哉.以哀愍故.方便教我見善知識.願爲我說.云何往詣善知識所.於何方處城邑聚落.求善知識.答言.善男子.敬禮十方求善知識.正念思惟一切境界求善知識.勇猛自在徧遊十方求善知識.知身知行.如夢如電.詣善知識.爾時善財隨順其教.卽時覩見大寶蓮華從地涌出.金剛爲莖.摩尼爲葉.淨寶爲臺.衆妙香鬘.以阿僧祇摩尼寶網羅覆其上.蓮華臺上有一樓觀.名曰攝取法界方藏.金剛爲地.樓有千柱.一切摩尼衆寶合成.種種莊嚴.懸阿僧祇法寶瓔珞.阿僧祇寶以爲欄楯.爾時善財.見樓觀中.有摩尼寶師子之座.衆寶莊飾.雜寶欄楯.敷衆妙衣.寶網覆上.建寶幢蓋.於金鈴中出妙音聲.雨妙香

願同作修○月上同無寶字
住下同無持字
身下同無於字
歎元明俱作斷○相色明作色相

華．諸寶鈴中．出諸菩薩願行音聲．寶月幢中出佛化身．淨摩尼中．顯現如來次第受生．日摩尼中．放無量光照十方剎．摩尼寶王光明幢中放一切佛圓滿光明．明淨寶中出衆供具一切衆生燈佛正法雲．如意寶中．念念出生普賢自在充滿法界．須彌幢中．出天妙聲讚歎如來．爾時善財．見此不可思議莊嚴高座．不可思議眷屬圍遶．見摩耶夫人處彼座上．端正姝妙．具淨色身．出三世間色身．一切世間對現色身．遠離一切有趣色身．隨其所應敎化色身．一切衆生不染色身．起廣大色身．與一切衆生等色身．一切衆生無等色身．一切衆生見不虛色身．種種色身．隨所應化顯現色身．無量形像色身．普門形像色身．一切衆生對現色身．廣大自在門莊嚴色身．敎化一切衆生色身．一切衆生對現垂形色身．一切時現種種不壞色身．一切衆生究竟不究竟住持色身．不去色身．於一切趣無所滅故．不來色身．於一切趣無所生故．不起色身．不起不現故．不滅色身．離一切世間語言道故．不虛色身．隨所得故．不歎色身．隨應世間故．無所至色身．不生不死故．不壞色身．法性無壞故．無相色身．三世語言斷故．一相色身．無相善說相故．如電色身．隨應一切衆生心故．如幻色身．智幻滿故．如燄色身．持衆生想故．如影色身．一切衆生本願相續不斷故．如夢色身．隨應衆生不可壞故．究竟法界色身．淨如虛空故．現大悲色身．成就一切衆生故．顯現無礙門色身．於念念中滿法界故．無量無邊色身．淨一切世間離語言道故．無所依色身．敎化衆生究竟願故．住持色身．能辨一切衆生事故．不生色身．幻願滿故．無比色身．出世間故．隨應色身．隨應度故．不雜色身．隨業相續故．如意珠色身．滿足一切衆生願故．離虛妄色身．一切衆生虛妄起故．離覺觀色身．一切衆生不能思察故．不究竟色身．除滅生死故．淸淨色身．離如來覺觀故．如是色非色．色如電故．受非受．除滅世間苦受故．離一切想．分別一切衆生想故．出生行非行．諸業如幻故．離識境界．滿足菩薩智慧願故．空無所有．一切衆生語言斷故．色身成就．妙色不滅故．爾時善財．見摩耶夫人隨應衆生．示現如是種種無量色身．衆生或見過他化自在天王女身．乃至過四天王女身．或見過龍王女身．乃至過人王女身．爾時善財．見如是等種種色身．長養一切衆生善根．行不可壞檀波羅蜜．大悲普念一切衆生．出生如來無量功德．勇猛精進求薩婆若．知一切法皆寂滅相．入深忍海．具足一切無壞禪定．修習一切三昧境界．逮得如來圓滿禪定．滅一切衆生諸煩惱海．皆悉嚴淨一切

三本俱爾時菩薩以下爲卷第五十八入法界品第三十四之十四

法界。分別了知諸佛法輪。以明淨智觀一切法海。見一切佛心無厭足。次第觀察三世如來。開一切佛門。見三世佛次第與世。淨佛道戒。如如如空。攝一切衆生而敎化之。得淨法身。淨一切佛刹諸大誓願。究竟化度一切衆生。一念充徧諸佛境界。出生菩薩自在神力。顯現無量淸淨色身。降一切魔力。增長功德力。生善法力。得一切佛力。具菩薩力。生一切智力。如來智慧善照一切。悉知無量衆生心海。了知衆生諸根欲性。一身充滿十方無量無邊佛刹。悉分別知佛刹成敗。開淨智眼。見三世海諸佛法海。出生一切如來功德。知一切菩薩所修功德。從初發心乃至究竟。長養一切衆生善根。於一切世間讚歎一切諸佛功德。成滿一切菩薩母願。爾時善財。見摩耶夫人有如是等閻浮提微塵等未曾有事。卽變化己身。悉與摩耶夫人身等。合掌敬禮五體投地。卽得無量無邊諸三昧門。正念修習分別觀察。隨順出生印證。證已從三昧起。起已敬遶摩耶夫人及諸眷屬。恭敬合掌於一面住。白言大聖。文殊師利菩薩。往昔敎我發阿耨多羅三藐三菩提心。求善知識親近供養。我已漸求至大聖所。願爲滿說。云何菩薩學菩薩行修菩薩道。答言佛子。我已成就大願智幻法門。得此法門故。爲盧舍那如來母。於此閻浮提迦毗羅城淨飯王宮。從右脅生悉達太子。顯現不可思議自在神力。善男子。菩薩。於兜率天命終時。一一毛孔放大光明。名一切如來受生圓滿功德。顯現不可說不可說佛刹微塵等菩薩受生莊嚴。普照一切世界。照已來觸我頂。徧入我身一切毛孔。入已普見菩薩受生自在莊嚴。又見出家往詣道場成等正覺。菩薩天人大衆圍遶恭敬供養轉正法輪。彼諸如來。於過去世行菩薩行。於諸佛所恭敬供養。發菩提心淨諸佛刹。無量化身充滿法界。敎化衆生。乃至示現大般涅槃。如是等事皆悉覩見。又善男子。彼妙光明來入我身。我身爾時。超出世間與虛空等。亦不過人身。悉能容受十方菩薩莊嚴宮殿。爾時菩薩。從兜率天降神下時。與十佛刹微塵等菩薩俱。皆悉同行。大願善根莊嚴法門。智慧自在一切諸地。淸淨法身無量色身。究竟普賢諸大願行。悉皆同等。如是菩薩眷屬圍遶。又與八萬諸龍王俱。娑伽羅龍王等及諸夜叉八部神等恭敬供養。降神下時。放大光明普照世界。現自在力。除滅一切諸惡道苦。以巧方便敎化不可思議衆生。皆悉令知宿世業行。令諸菩薩修不放逸無所染著。救護衆生令悉覩見此菩薩身。現如是等諸奇特事。與大衆俱來處我胎。彼諸菩薩。於我胎內遊行自在。或以三千大

千世界。以爲一歩。或不可說不可說佛刹微塵等世界。以爲一歩。又念念中十方一切世界。一切佛所。不可說不可說菩薩眷屬。及四天王忉利天王乃至梵王。如是等一切天王。皆入我胎。欲見菩薩恭敬供養聽受正法。悉皆容受如是等衆。而胎不廣大。亦不迫迮。於此世界。示現如是神變受生。十方一切閻浮提中亦復如是。亦不分身。種種現化隨其所應爲菩薩母。何以故。修此大願智幻法門故。善男子。我爲盧舍那佛母。拘樓孫佛。拘那含牟尼佛。迦葉佛。彌勒佛。師子佛。法幢佛。善眼佛。淨華佛。妙德華佛。提舍佛。弗沙佛。歡喜意佛。自在佛。離垢佛。明淨月佛。執炬佛。樂靜佛。金剛楯佛。淸淨義佛。阿私陀佛。度彼岸佛。高燄山佛。執燈佛。寶蓮華佛。功德稱佛。無量德持佛。妙德燈佛。莊嚴身佛。善威儀佛。妙德慈佛。善幢佛。智盛佛。無量音佛。無諍佛。散疑佛淸淨佛。廣光佛。速淨佛。妙德雲佛。莊嚴頂髮佛。樹王佛。莊嚴寶冠佛。智海佛。淨寶佛。堅天冠佛。具諸願佛。大自在佛。妙德王佛勝妙德佛。栴檀雲佛。廣淨眼佛。殊勝慧佛。修習智佛。高王佛。自在慧佛。離色佛。師子喜佛。無上王佛。妙德頂佛。金剛智山佛。妙德藏佛。寶網嚴身佛。善慧佛。自在天佛。大地天佛。無著功德佛。衆牙佛。慧光佛。妙德天佛。無上坐佛。無上德佛。仙人伏根佛。隨順語佛。自在德幢佛。明淨幢佛。分別支佛。毗舍佉佛。放一切衆生香光明佛。金剛寶嚴佛。歡喜眼佛。滅欲塵佛。高大身佛。善天佛。無上天佛。向寂滅佛。覺智佛。離塵垢佛。光燄王佛。安住佛。毗舍佉天佛。金剛山佛。智燄盛妙德佛。安隱佛。優波提舍佛。具淨德佛。樂寶德佛。第一義勇佛。百光燄佛。一增上佛。深音聲佛。大地王佛。白淨佛。山音聲佛。殊勝佛。不可壞佛。無上醫佛。功德月佛。不違逆佛。功德聚佛。月出佛。功德天佛。光明盛佛。婆羅陰佛。藥王佛。勝寶佛。金剛慧佛。八十妙德佛。一切無壞佛。大名稱王佛。勇進持佛。無量光佛。大莊嚴燄佛。法王。不虚佛。不退地佛。明淨天佛。苦行佛。淨天佛。同意佛。解脫音佛。無壞王佛。滅諂僞佛。淨薝蔔光佛。善勝月佛。執明炬佛。莊嚴身佛。不可說佛。觀衆生佛無量光佛。無畏音佛。最勝天佛。無畏智盛佛。妙德華佛。月光燄佛。不退慧佛。離愛佛。不著慧佛。長養德聚佛。滅惡道佛。無量。化師子吼佛。義不退佛。見無礙佛。降衆魔佛。不著相佛。離虛妄海佛。淸淨海佛。不可沮壞須彌山佛。無著智佛。無量坐佛。與魔戰佛。隨師行佛。無上調佛。常月佛。饒益王佛。不動陰佛。饒益名佛。饒益慧佛。壽持佛。壽名佛。滿稱佛。無壞盛佛。色明淨佛。無相智佛。勇無動佛。難思妙德佛。同月行佛。無量身佛。

坐元明倶作座

勇下元明倶有健字〇行下三本倶無佛字〇薝明作瞻、化下元明倶有佛字〇坐同作座

明三本俱作彼
彼下同有一字

行下同無爾時
乃至言十二字
○三十乃至主
光同作中忉利
天上有天名正
念彼天有女○
道下宋有夾註
已下一段久年
脫洛今新寫入
十二字

隨順王佛。增壽天佛。佛子。如是等賢劫一切佛。於此世界成等正覺。我悉爲母。亦於十方一切世界敎化衆生。爾時善財白言大聖。得此法門其已久如。答言。佛子乃往古世。過不可思議非諸菩薩通明境界不可數劫。有劫名淨光明。有世界名曰妙德須彌山王。其土淸淨無諸垢穢。衆寶合成。種種嚴飾。見者無厭。彼世界中。有千億四天下。諸四天下中。有一四天下。彼四天下中。有八十億大王之都。彼王都中。有一王都名曰智幢。有轉輪王名曰勇盛。彼王都北。有一道場名月光明。其道場神名慈妙德。時有菩薩名離垢幢。坐於道場臨成正覺。時有惡魔名金剛光明。與眷屬俱至菩薩所。壞其道行。時勇盛王。具足菩薩神力自在。化作兵衆。多彼魔軍而摧伏之。時彼菩薩得成正覺。時道場神見此事已。歡喜無量發如是願。此轉輪王乃至成佛。我爲其母。善男子我曾於彼道場。供養十那由他佛。善男子。彼道場神。豈異人乎。我身是也。轉輪王者。盧舍那佛是也。善男子。我從爾時發願已來。盧舍那佛。於一切有。行菩薩行敎化衆生。乃至最後愛生。我常爲母。復次善男子。現在過去十方無量無邊諸佛。放大光明來照我身宮殿住處者。彼最後生。我悉爲母。善男子。我唯知此大願智幻法門。諸大菩薩具大悲藏。敎化衆生心無厭足。得自在法。一一毛孔。現一切佛自在神力。我當云何能知能說彼功德行。爾時摩耶夫人告善財童子言。善男子。於此世界三十三天。有王名正念。王有童女。名天主光。汝詣彼問云何菩薩學菩薩行修菩薩道。時善財童子敬受其敎。頭面作禮遶無數帀。戀慕瞻仰却行而退。遂往天宮見彼童女。禮足圍遶合掌前住。白言聖者。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。我聞聖者善能誘誨。願爲我說。天女答言。善男子。我得菩薩解脫。名無礙念淸淨莊嚴。善男子。我念過去。有最勝劫。名靑蓮華。我於彼劫中。供養恒河沙等諸佛如來。彼諸如來。從初出家。我皆瞻奉守護供養。造僧伽藍營辦什物。又彼諸佛。從爲菩薩住母胎時。誕生之時。行七步時。大師子吼時。住童子位在宮中時。向菩提樹成正覺時。轉正法輪現佛神變敎化調伏衆生之時。如是一切諸所作事。從初發心乃至法盡。我皆明憶無有遺餘。常現在前念持不忘。又憶過去。劫名善地。我於彼供養十恒河沙等諸佛如來。又過去劫名爲妙德。我於彼供養一佛世界微塵等諸佛如來。又劫名無所得。我於彼供養八十四億百千那由他諸佛如來。又劫名善光。我於彼供養閻浮提微塵等諸佛如來。又劫名無量

茶明作荼次同○同下明無夾註

那三本俱作邪

光。我於彼供養二十恒河沙等諸佛如來。又劫名精進德。我於彼供養一恒河沙等諸佛如來。又劫名善悲。我於彼供養八十恒河沙等諸佛如來。又劫名勝遊。我於彼供養六十恒河沙等諸佛如來。又劫名妙月。我於彼供養七十恒河沙等諸佛如來。善男子。如是憶念恒河沙劫。我常不捨諸佛如來應正等覺。從彼一切諸如來所。聞此無礙念清淨莊嚴菩薩解脫。受持修行恒不間斷。隨順趣入。如是先劫所有如來。從初菩薩乃至法盡。一切神變。我以淨嚴解脫之力。皆隨憶念明了現前。持而順行曾無懈廢。善男子。我唯知此無礙念清淨解脫。如諸菩薩摩訶薩。出生死夜朗然明徹。永離癡冥未嘗惛寢。心無諸蓋身行輕安。於諸法性淸淨覺了。成就十力開悟群生。而我云何能知能說彼功德行。善男子。迦毗羅城有童子師。名曰徧友。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行修菩薩道。時善財童子。以聞法故身心徧悅。不思議善根流派增廣。頭面敬禮天主光足。遶無數帀戀仰辭去。從天宮下漸向彼城。至徧友所禮足圍遶。合掌恭敬於一面立。白言聖者。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。我聞聖者善能誘誨。願爲我說。徧友答言。善男子。此有童子。名善知衆藝。學菩薩字智。汝可問之。當爲汝說。爾時善財。卽至其所。頭頂禮敬於一面立。白言聖者。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。我聞聖者善能誘誨。願爲我說。時彼童子告善財言。善男子。我得菩薩解脫名善知衆藝。我恒唱持。入此解脫根本之持。唱阿字時。入般若波羅蜜門。名菩薩威德各別境界。唱羅字時入。般若波羅蜜門。名平等一味最上無邊。唱波字時。入般若波羅蜜門。名法界無異相。唱者字時。入般若波羅蜜門。名普輪斷差別。唱多字時。入般若波羅蜜門。名得無依無上。唱邏字時。入般若波羅蜜門。名離依止無垢。唱茶(徒假反)字時。入般若波羅蜜門。名不退轉之行。唱婆字時。入般若波羅蜜門。名金剛場。唱茶字時。入般若波羅蜜門。名曰普輪。唱沙字時。入般若波羅蜜門。名爲海藏。唱他字時。入般若波羅蜜門。名普生安住。唱那字時。入般若波羅蜜門。名圓滿光。唱那字時。入般若波羅蜜門。名差別積聚。唱史吒字時。入般若波羅蜜門。名普光明息諸煩惱。唱迦字時。入般若波羅蜜門。名差別一味。唱娑字時。入般若波羅蜜門。名霈然法雨。唱麼字時。入般若波羅蜜門。名大流湍激衆峯齊峙。唱伽字時。入般若波羅蜜門。名普上安立。唱娑他字時。入般若波羅蜜門。名眞如藏徧平等。唱社字

光上同無脫字

佗下明無夾註

時入般若波羅蜜門名入世間海淸淨唱室者字時入般若波羅蜜門名一切諸佛正念莊嚴唱拖字時入般若波羅蜜門名觀察圓滿法聚唱奢字時入般若波羅蜜門名一切諸佛敎授輪光唱佉字時入般若波羅蜜門名淨修因地現前智藏唱叉字時入般若波羅蜜門名息諸業海藏蘊唱娑多字時入船若波羅蜜門名蠲諸惑障開淨光明唱壤字時入般若波羅蜜門名作世間了悟因唱頗字時入般若波羅蜜門名智慧輪斷生死唱婆字時入般若波羅蜜門名一切宮殿具足莊嚴唱車字時入般若波羅蜜門名修行戒藏各別圓滿唱娑摩字時入般若波羅蜜門名隨十方現見諸佛唱訶娑字時入般若波羅蜜門名觀察一切無緣衆生方便攝受令生海藏唱訶字時入船若波羅蜜門名修行趣入一切功德海唱伽字時入般若波羅蜜門名持一切法雲堅固海藏唱吒字時入般若波羅蜜門名十方諸佛隨願現前唱拏字時入般若波羅蜜門名不動字輪聚集諸億字唱娑頗字時入般若波羅蜜門名化衆生究竟處唱娑迦字時入般若波羅蜜門名諸地滿足無著無礙解脫光明輪徧照唱闍字時入般若波羅蜜門名宣說一切佛法境界唱多娑字時入般若波羅蜜門名一切虛空法雷徧吼唱佗(恥加反)字時入般若波羅蜜門名曉諸迷識無我明燈唱陀字時入般若波羅蜜門名一切法輪出生之藏善男子我唱如是入諸解脫根本字時此四十二般若波羅蜜門爲首入無量無數般若波羅蜜門善男子我唯知此善知衆藝菩薩解脫如諸菩薩摩訶薩能於一切世出世間善巧之法以智通達到於彼岸殊方異藝咸綜無遺文字算數蘊其深解醫藥呪術善療衆病有諸衆生鬼魅所持怨憎呪詛惡星變怪死屍奔逐癲癇羸瘦種種諸疾咸能救之使得痊愈又善別知金玉珠貝珊瑚瑠璃摩尼硨磲雞薩羅等一切寶藏出生之處品類不同價値多少村營鄕邑大小都城宮殿苑園巖泉藪澤凡是一切人衆所居菩薩咸能隨方攝護又善觀察天文地理人相吉凶鳥獸音聲雲霞氣候年穀豐儉國土安危如是世間所有技藝莫不該練盡其源本又能分別出世之法正名辯義觀察體相隨順修行智入其中無疑無礙無愚闇無頑鈍無憂惱無沈沒無不現證而我云何能知能說彼功德行善男子此摩竭提國有一聚落彼中有城名婆呾那有優婆夷號曰賢勝汝詣彼問云何菩薩學菩薩行修菩薩道時善財童子頭面敬禮衆藝之足遶無數帀戀仰辭去向聚落城至賢勝所禮足圍遶合掌恭敬

法三本俱作發

於一面立.白言聖者.我已先發阿耨多羅三藐三菩提心.而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道.我聞聖者善能誘誨.願爲我說.賢勝答言.善男子.我得菩薩法門.名無依處道場.既自開解.復爲人說.又得無盡三昧.非彼三昧法有盡無盡.以能出生一切智性眼無盡故.又能出生一切智性耳無盡故.又能出生一切智性鼻無盡故.又能出生一切智性舌無盡故.又能出生一切智性身無盡故.又能出生一切智性意無盡故.又能出生一切智性種種慧明無盡故.又能出生一切智性周徧神通無盡故.又能出生一切智性如海波濤無量功德皆無盡故.又能出生一切智性徧世間光無盡故.善男子.我唯知此無依處道場法門.如諸菩薩摩訶薩一切無著功德行.而我云何盡能知說.善男子.南方有城.名爲沃田.彼有長者.名堅固解脫.汝可往問.云何菩薩學菩薩行修菩薩道.爾時善財.禮賢勝足.遶無數帀.戀慕瞻仰.辭退南行.到於彼城.詣長者所.禮足圍遶.合掌恭敬.於一面立.白言聖者.我已先發阿耨多羅三藐三菩提心.而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道.我聞聖者善能誘誨.願爲我說.長者答言.善男子.我得菩薩解脫.名無著清淨念.我自得是解脫已來.法願充滿.於十方佛所無復希求.善男子.我唯知此淨念解脫.如諸菩薩摩訶薩.獲無所畏大師子吼.安住高廣福慧之聚.而我云何能知能說彼功德行.善男子.卽此城中有一長者.名爲妙月.其長者宅常有光明.汝詣彼問云何菩薩學菩薩行修菩薩道.時善財童子.禮堅固足.遶無數帀.辭退而行.向妙月所.禮足圍遶.合掌恭敬.於一面立.白言聖者.我已先發阿耨多羅三藐三菩提心.而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道.我聞聖者善能誘誨.願爲我說.妙月答言.善男子.我得菩薩解脫.名淨智光明.善男子.我唯知此智光解脫.如諸菩薩摩訶薩.證得無量解脫法門.而我云何能知能說後功德行.善男子.於此南方.有城名出生.彼有長者.名無勝軍.汝詣彼問云何菩薩學菩薩行修菩薩道.是時善財.禮妙月足.遶無數帀.戀仰辭去.漸向彼城.至長者所.禮足圍遶.合掌恭敬.於一面立.白言聖者.我已先發阿耨多羅三藐三菩提心.而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道.我聞聖者善能誘誨.願爲我說.長者答言.善男子.我得菩薩解脫.名無盡相.我以證此菩薩解脫.見無量佛得無盡藏.善男子.我唯知此無盡相解脫.如諸菩薩摩訶薩.得無限智無礙辯才.而我云何能說能說彼功德行.善男子.於此城南有一聚落.名之爲法.彼聚落中有婆羅門.名尸毗最

老下三本俱有病字

勝。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行修菩薩道。時善財童子。禮無勝軍足遶無數帀戀仰辭去漸次南行。詣彼聚落見尸毗最勝。禮足圍遶合掌恭敬於一面立。白言聖者。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。我聞聖者善能誘誨。願爲我說。婆羅門答言。善男子。我得菩薩法門。名誠願語。過去現在未來菩薩。以是語故。乃至於阿耨多羅三藐三菩提無有退轉。無已退無現退無當退。善男子。我以住於誠願語故。隨意所作莫不成滿。善男子。我唯知此誠願語法門。如諸菩薩摩訶薩。與誠願語行止無違。言必以誠未曾虛妄。無量功德因之出生。而我云何能知能說。善男子。於此南方。有城名妙意華門。彼有童子名曰德生。復有童女名爲有德。汝詣彼問。云何菩薩學菩薩行修菩薩道。時善財童子。於法尊重。禮婆羅門足。遶無數帀戀仰而去。漸次南行至於彼城。見童子童女。頂禮其足。圍遶畢已。於前合掌。而作是言。聖者。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。唯願慈哀爲我宣說。時童子童女告善財言。善男子。我等證得菩薩解脫。名爲幻住。以斯淨智觀諸世間皆幻住。因緣生故。一切衆生皆幻住。業煩惱所起故。一切法皆幻住。無明有愛等展轉緣生故。一切三界皆幻住。顚倒智所生故。一切衆生生滅生老死憂悲苦惱皆幻住。虛妄分別所生故。一切國土皆幻住。想倒心倒見倒無明所現故。一切聲聞辟支佛皆幻住。智斷分別所成故。一切菩薩皆幻住。能自調伏敎化衆生殊勝智心及諸行願之所成故。一切菩薩衆會變化調伏諸所施爲皆幻住。願及智所攝成故。善男子。幻境自性不可思議。善男子。我等二人但能知此菩薩解脫。如諸菩薩摩訶薩。善入無邊諸事幻網。彼功德行我等云何能知能說。時童子童女。說自解脫已。諸善根力不思議故。令善財身柔軟光澤。自說本願。

右第二十行光澤下。宋有來註以上一段五紙餘經。自東晉義熙年覺賢禪師翻譯之後。傳寫之人脫落也。歷涉朝代補綴攸闕。　聖宋元祐年。福州等覺禪院。開大藏經印板。方撿唐垂拱年中天竺國日照法師續法界品。及于闐法師實叉難陀新經。較勘合入。貫文理接續法寶無缺矣。九十七字〇。同下。元明俱有夾註賢首藏師探玄記云。自下九位知識。皆是舊翻于闐本所欠。應是西域覺賢之所略耳。余共日照三藏。勘天竺諸本。及崑崙本并于闐別行本。並皆同有此文。是以於大唐永隆年西京西太原寺。三藏法師地婆訶羅。唐云日照。共

京十大德道成律師等。奉敕譯補。沙門復禮親從筆受。百八字」

# 大方廣佛華嚴經卷第五十七

# 大方廣佛華嚴經卷第五十八

〔麗道〕〔宋垂〕〔元垂〕〔明垂〕

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅　譯

## 入法界品第三十四之十五

又作是言。善男子。於此南方有一國土。名曰海澗。有園林。名大莊嚴藏。於彼林中有大樓觀。名嚴淨藏。菩薩往昔善根所起。菩薩諸願自在諸通智力巧妙方便功德大悲法門所起。彼園中有菩薩摩訶薩。名曰彌勒。常化父母親戚眷屬及同行者。又復長養其餘無量衆生善根。令住大乘。亦欲爲汝顯現菩薩方便法門。欲明菩薩受生自在。欲對現敎化一切衆生令厭諸有。宣明菩薩大慈悲力。覺悟菩薩無相法門。明諸有趣悉無自相。汝詣彼問。云何菩薩淨菩薩道。云何菩薩學菩薩戒。云何菩薩淨菩薩心。云何菩薩發諸大願。云何菩薩積功德具。云何菩薩得菩薩地。云何菩薩滿足一切諸波羅蜜。云何菩薩得諸忍法。云何菩薩住功德行。云何菩薩近善知識。何以故。彼菩薩摩訶薩。究竟一切諸菩薩行。分別了知衆生心行。以巧便智而敎化之。滿足一切諸波羅蜜。住菩薩地得諸忍門。證於菩薩離生之法。於諸佛所而得授記。於菩薩法自在遊戲。持諸佛持。無量諸佛以一切智甘露正法而灌其頂。善男子。彼菩薩摩訶薩。能示導汝眞善知識。堅菩提心。長養善根。住正直心。現菩薩根。說無礙法。平等諸地。讚歎菩薩所出生道。具諸菩薩願行功德。能廣演說普賢所行。善男子。汝不應於一善根中生知足想。一光明法。一行一願。一授記。別得法忍門。六波羅蜜。菩薩諸地所淨佛刹。近善知識。於是事中生知足想。何以故。善男子。菩薩摩訶薩。應一向求無量善根。積集無量菩提。具積集無量菩提因緣。修習無量諸大迴向。敎化成熟無量衆生。了知無量諸衆生心諸根欲性衆生諸行。除滅無量衆生煩惱結業習氣。除滅無量衆生邪見諸染汙心。令發無量諸淸淨心。拔出無量諸苦惱刺。消竭無量愛欲之海。遠離無量愚癡闇冥。壞散無量大憍慢山。解散無

免三本俱作勉
支宋元俱作枝
○滅除三本俱作除滅○淨修同作修淨
別明作剔

量生死繫縛越度無量煩惱有流．煎竭無量受生海源．拯拔無量愛欲淤泥．於三界獄免濟苦難．悉令安立八聖道支．普令滅除三毒熾然．斷絕無量諸魔鉤餌．遠離無量諸惡魔業．淨修無量菩薩直心．長養菩薩無量方便．出生菩薩無量諸根．淨修菩薩無量欲性．深入菩薩無量等法．修行菩薩無量勝行．清淨菩薩無量功德．淨修菩薩無量威儀．示現菩薩無量隨順世間．發起無量不壞信心．發起無量大精進力．淨修無量諸正念力．成滿無量諸三昧力．開發無量諸大慧力．堅固無量諸欲性力．積聚無量諸功德力．長養無量諸淨智力．發起無量菩薩諸力．成滿無量諸如來力．悉分別知無量法門．普入無量諸法方面．淨修無量法門．發起無量法明．照無量法無量諸根．了知無量諸煩惱病．積集無量諸妙法藥．以善方便療衆結病．修習無量甘露正法．詣諸佛刹．恭敬供養無量如來．徧入菩薩大衆源底．護持無量如來正法．不譏無量衆生罪咎．除滅無量惡道諸難．令無量衆生生天人中．總攝無量諸衆生類．淨修無量陀羅尼門．成滿無量諸大願行．修習無量大慈願力．不惜壽命求無量法．修習無量寂滅法力．出生無量淨智通明．知無量衆生諸趣受生．而為應現無量化身．知無量心諸語言法．悉入菩薩無量諸行．修菩薩法．觀察菩薩甚深法門．覺悟菩薩難知境界．到諸菩薩難至之趣．攝持菩薩勇猛功德．證於菩薩離生淨妙難證之法．覺悟菩薩諸莊嚴行．於一切處顯現菩薩自在神力．受持菩薩無壞法雲．增廣菩薩無量無邊淨智慧行．究竟無量諸波羅蜜．受於菩薩無量記別．深入菩薩無量忍門．修治菩薩不思議地．諸正法門．於無量劫以大弘誓而自莊嚴．供養諸佛．淨不可說諸佛世界．發不可說菩薩願行．善男子．略說菩薩敎化一切衆生．於一切劫行菩薩行．於一切起應現受生．以明淨智了一切三世．淨一切刹．滿一切願．供養一切佛．與一切菩薩同修願行．親近一切諸善知識．是故善男子．應一向求諸善知識．若見聞法．恭敬供養．於善知識．勿生嫌疑身心懈厭．令一切善知識心大歡悅．何以故．因善知識．究竟一切諸菩薩行．成滿一切菩薩功德．一切菩薩大願．一切菩薩善根．一切菩薩助道法．生一切菩薩法明．淨一切菩薩法門．淨修一切菩薩禁戒．一切菩薩禪定三昧．一切菩薩堅固無上菩提之心．一切菩薩總持辯才．淨一切菩薩功德藏．同一切菩薩大願解．一切菩薩密法．一切菩薩法寶．長養一切菩薩諸根．積集一切菩薩智聚．護一切菩薩功德法藏．清淨一切菩薩受生．聞持一切菩薩法

支宋作枝元作故明作文

辨明作辦

詣元明俱作諸

不上同無心字

雲。出生一切菩薩正道。發起一切菩薩道心。成就一切諸佛菩提。一切菩薩諸行。了知十方一切法界。讚一切菩薩直心功德。起一切菩薩大慈悲力。攝一切菩薩無量善根。得一切菩薩道支。得一切菩薩饒益衆生心。遠離惡道安住大乘。修菩薩行遠惡知識。於菩薩法心不退轉。超出凡夫聲聞緣覺。一切世間心無惑亂無所染著。廣修菩薩無量諸行。長養一切諸善功德。除滅煩惱一切諸魔莫能沮壞。因善知識。悉能成辨如是等事。何以故。善知識者。能令除滅諸障礙故。遠不善法離惡知識。滅無明闇諸邪見縛。超出生死一切世間。斷魔鉤餌拔苦惱刺。出無智險難邪惑山澗。越度有流諸惡邪徑。示導淸淨菩提正道。教菩薩法。修習四道。明淨慧眼安立薩婆若。增長菩提心。廣大慈悲。修波羅蜜。住菩薩地。得深法忍。淨一切善根。積集一切菩薩功德。施與一切菩薩功德。見一切佛心大歡喜。護持淨戒解眞實義。出正法門離諸邪道。現明法門普照一切。聞持無量諸佛法雲。滅一切煩惱。增益一切智。住一切佛法。復次善男子。善知識者則爲慈母。生佛家故。善知識者則爲慈父。以無量事益衆生故。善知識者則爲養育守護。不爲一切惡故。善知識者則爲大師。教化令學菩薩戒故。善知識者則爲導師。教化令至彼岸道故。善知識者則爲良醫。療治一切煩惱患故。善知識者則爲雪山。長養明淨智慧藥故。善知識者則爲勇將。防護一切諸恐怖故。善知識者則爲牢船。悉令越度生死海故。善知識者則爲船師。令至一切智法寶洲故。是故。善男子。應當如是正念思惟詣善知識。又善男子。詣善知識。發大地心。持一切事無疲倦故。發金剛心。堅固正直不可壞故。發金剛山心。一切苦患不能壞故。發無自心。隨彼意故。發弟子心。不違一切教故。發僮僕心。一切苦役不疲厭故。發養育心。不畏煩惱所汙染故。發傭作心。隨所受教不違逆故。發卑下心。遠離自大增上慢故。發成熟心。善知時非時故。發寶馬心。離𢤱悷心。不調故。發大車心。載一切故。發大象心。伏諸根故。發大山心。一切惡風不能動故。發小犬心。離瞋恚故。發栴陀羅心。離憍慢故。發折角心。離威勢故。發大風心。無所著故。發大船心。於彼此岸往反不疲故。發橋梁心。度善知識教故。發孝子心。見善知識無厭足故。發王子心。順君教故。又善男子。應於自身生病苦想。於善知識生醫王想。於所說教生良藥想。又於自身生遠行想。於善知識生導師想。於所說教生正路想。又於自身生越彼岸想。於善知識生知濟想。於所說法生涼池想。又於自身生農夫想。於善知識生龍王

持三本俱作根

寶同作寶

想。於所說法生時澤想。於隨說行生成熟想。又於自身生貧窮想。於善知識生毗沙門寶天王想。於所說敎生珍寶想。又於自身生弟子想。於善知識生大師想。於所說法生修學想。又於自身生怯劣想。於善知識生勇健想。於所說法生器仗想。又於自身生商人想。於善知識生導師想。於所說法生珍寶想。隨聞說行生勝寶想。又於自身生子息想。於善知識生慈父想。於所說法生立家想。又於自身生王子想。於善知識生大臣想。於所說法學王敎想。善男子。諳善知識。應正思念發如是想。何以故。因淨直心見善知識。隨順其敎增長善根。如依雪山出衆藥草。爲佛法器如海呑流。生諸勝德如海出寶。淨菩提心如練眞金。超出世間如海須彌。不染世間如水蓮華。不沒諸惡如海死屍。長白淨法如月盛滿。普照法界如日迴耀。長菩薩身如母養子。善男子。略說菩薩摩訶薩若能隨順善知識敎。得十不可說百千億那由他諸功德。明十不可說百千億那由他淨直深心。增長十不可說百千億那由他菩薩諸根淨十不可說百千億那由他菩薩諸持。滅十不可說百千億那由他諸障礙法。超十不可說百千億那由他諸惡魔業。入十不可說百千億那由他菩薩法門。滿十不可說百千億那由他諸妙功德。修十不可說百千億那由他菩薩所行。具十不可說百千億那由他菩薩大願。善男子。略說菩薩因善知識究竟一切菩薩行。一切菩薩波羅蜜。一切菩薩地。一切菩薩忍。一切菩薩陀羅尼。一切菩薩三昧門。一切菩薩通明智自在。一切菩薩迴向。一切菩薩大願。善男子。如是等一切法。善知識爲本。依善知識起。依善知識生。依善知識取。依善知識發。依善知識長。依善知識住。依善知識得。爾時善財。聞如是等讚善知識諸菩薩行如來正法。心大歡喜踊躍無量。正念思惟菩薩所行。漸漸遊行向海澗國。以過去際修身業力及淸淨心。遠離惡行。超出世間虛妄惑倒。求佛法實義。長養諸根。滿足大願具精進力。不惜身命饒益衆生。修菩薩行積集佛法。見諸如來淨一切刹。供養法師護持正法。成就菩薩諸淨願身。善知緣起。修習不可思議善根。作是念已淨心信敬一切菩薩。如世尊想。修習諸根心不顚倒。正念恭敬離世間想。滿足諸願。出生無量菩薩化身。讚歎三世一切諸佛菩薩法門。智慧覺悟如來菩薩一切至處自在神力。乃至一毛孔中佛菩薩身。皆悉充滿。無礙智眼。觀十方法界及虛空界三世諸法。爾時善財。如是恭敬供養。具諸願忍。以無量智觀境界地。爾時善財。五體敬禮彼嚴淨藏高大樓觀。作如是念。此是諸佛

芽宋元俱作牙

煩上元明俱有生字

者上三本俱無法字

---

菩薩諸善知識。是諸佛塔。是如來像。諸佛菩薩法寶住處。是聲聞緣覺。亦是其塔。此是衆聖。亦是父母。亦是福田。
此是一切法界境界。作是念已。又復等觀猶如虛空。等觀如法界無有障礙。等觀如實際至一切處。等觀如如來。
除諸虛妄無所染著。等觀如影如夢如電如響。悉從緣起非有非無。深心信解。隨諸業因而受果報。知從信心成
等正覺。因解佛功德供養諸佛。因恭敬心出佛化身。因修善根起諸佛法。因般若波羅蜜起一切波羅蜜。因堅固
願起諸佛法。因諸迴向起一切菩薩行。一切智境界法界解了迴向。非常非斷。非生非滅。非無因作。捨離有見諸
顚倒惑。謂從自在而生諸法。本有實性次第而出。離我我所。深達緣起。入諸法界。見有爲法猶如鏡像。離有無見。
不生不滅。滅邪癡惑。了諸法空悉無自在。超出諸相入無相際。而亦不違種生[芽法。悉知一切從因緣生。如因印
故而生印像。如鏡中像。如電如夢如響如幻。各隨因有。一切諸法亦復如是。隨業受報。以善方便潤澤諸法。爾時
善財。禮未起間。知法如是。得不思議善根柔輭身心。稽首禮畢。敬遶十帀。合掌諦觀復作是念。此是解空無相願
者之所住處。離虛妄者之所住處。住法界者。了知衆生非實有者。知不生者。知一切世間無所著者。方便分別一
切衆生者。一切無所依者。離一切相者。知一切法無自性者。不虛妄取一切業者。了知一切心意識相者。知一切
道非出非不出者。住一切甚深大智度者。方便充滿普門法界者。寂滅一切衆[煩惱者。智慧斷除見愛慢者。一切
禪定解脫三昧神通遊戲者。修一切菩薩三昧境界者。安住一切如來所者。以一劫爲一切劫。以一切劫爲一劫
者。以一切刹爲一刹。以一刹爲一切刹。而亦不壞諸刹相者。以一法爲一切法。以一切法爲一法。而亦不壞諸法
相者。以一衆生爲一切衆生。以一切衆生爲一衆生。而解衆生無差別者。以一佛爲一切佛。以一切佛爲一佛。而
解諸佛無有二者。以三世爲一念。以一念爲三世者。於一念中詣一切刹者。普照饒益一切衆生者。得一切入者。
出過衆生爲敎化故而不捨離者。不依一切刹。而遊行莊嚴一切世界供養佛者。詣一切佛無染著者。依善知識
不昧法者。住一切魔宮不樂欲者。入一切知而不捨離一切智者。了一切衆生身無我無衆生無二觀者。自身容
受一切世界。而不壞法性者。盡未來劫修諸願行。而不取劫長短相者。不離一毛端處。而現一切世界。普爲衆生。
說正法者。可尊重者。解甚深[法者。達無二者。了無性者。善對治者。體法空者。住慈悲者。遠離一切聲聞緣覺地者。

超出一切魔境界者。不染一切世間境界者。究竟一切菩薩法門者。隨順一切佛法門者。厭一切生死。而不證聲聞離生法者。知一切法無生。而亦不起不生見者。觀不淨法。不證離欲法不染愛者。修習大慈。不爲除滅瞋恚法者。觀於緣起。一切法中無愚癡者。住於四禪不隨生者。住四無量。不生無色爲教化者。修習止觀。不證明脫化衆生者。住空三昧。滅無見者。住無相三昧。爲化衆生不捨相者。住無願三昧。不捨菩薩一切願者。一切煩惱業中得自在力爲教化故。示現隨順煩惱業者。離於生死而現受生爲教化者。離一切趣現入諸趣化衆生者。修大慈悲不隨愛者。修習喜心。見衆生苦常憂慼者。修習捨心。而不捨離利他事者。得九次第定。而不厭離欲界生者。離於諸受。而不證實際者。住三脫門。而不證聲聞解脫法者。觀四眞諦。而不證諸果者。觀於緣起。離邊見者。修八正道。而不永出生死難者。超凡夫地。而不隨於二乘地者。觀陰熾然。而不永滅於五陰者。離四魔道。而不永捨諸魔覺者。捨六入障。而現受者。觀眞如相。而不證於實際法者。現學一切乘。而不捨離摩訶衍者。如此樓觀。住一切功德者之所住處。爾時善財。以偈頌曰

安住大慈心　彌勒摩訶薩　具足妙功德　饒益諸群生　住於灌頂地　諸佛之長子　思惟佛境界
安住此法堂　一切諸佛子　常履大乘行　遊行諸法界　安住此法堂　施戒忍精進　禪智方便願
究竟彼岸者　安住此法堂　無礙智如空　普照三世法　了知一切者　安住此法堂　解了一切法
眞實無生相　如鳥遊空者　安住此法堂　除滅貪恚癡　一切諸顚倒　常樂寂靜者　安住此法堂
三脫門道觀　陰入界緣起　遠離惡道者　安住此法堂　深入無礙智　等觀衆生剎　知法無性者
安住此法堂　三世法無礙　猶如空中風　無所染著者　安住此法堂　見衆生受苦　無有歸依處
大悲普濟者　安住此法堂　見盲冥衆生　捨正入險路　爲示正道者　安住此法堂　見諸有爲中
生老病死逼　令免恐怖者　安住此法堂　見衆生結患　積集智慧藥　悲心醫王者　安住此法堂
見無量衆生　漂溺生死海　大悲船度者　安住此法堂　深入生死海　摧滅煩惱龍　採佛智寶者
安住此法堂　願地慈悲眼　觀海出衆生　如金翅鳥者　安住此法堂　法界空中行　猶如淨日月

隨同作墮

者明作力

跌同作趺

慧光普照者　安住此法堂　爲一一衆生　盡未來際劫　荷負諸苦者　安住此法堂　一一諸刹中
盡來劫修行　金剛精進者　安住此法堂　一坐諸聞持　諸佛法無厭　大智慧海者　安住此法堂
偏遊世界海　及諸大衆海　供養佛海者　安住此法堂　一切劫海中　修諸願行海　出生功德者
安住此法堂　一一毛孔中　佛刹劫衆生　無礙眼見者　安住此法堂　一念中偏入　不可說諸劫
知念無礙者　安住此法堂　一切刹微塵　衆生水滴等　生此等願者　安住此法堂　無量劫修行
總持禪定願　解脫法門者　安住此法堂　一切諸佛子　出生無量德　饒益衆生者　安住此法堂
成就無礙智　通明巧方便　隨應現生者　安住此法堂　從初發道心　究竟一切行　化身滿法界
顯現自在力　一念成正覺　入無量智業　莫能測量者　安住此法堂　無礙淨慧力　遊行諸法界
無垢智觀者　安住此法堂　成就無礙足　一切無所著　了刹無二者　安住此法堂　觀諸寂滅法
皆悉如虛空　離垢境界者　安住此法堂　大悲觀衆生　諸苦所逼迫　拔濟饒益者　安住此法堂
不離一坐處　普現衆生前　如明淨日月　除滅魔鉤餌　佛子住此堂　哀愍諸群生　出無量化身
充滿諸法界　佛子住法堂　偏遊諸世界　一切如來所　無量無數劫　無依入此堂　稱量佛境界
無量無數劫　其心無厭倦　佛子住此堂　念念入諸定　一一三昧門　顯現佛境界　佛子住此堂
覺了一切刹　三世一切劫　衆生佛名號　佛子住此堂　諸劫爲一念　遠離妄想惑　隨順於衆生
佛子住此堂　修習諸三昧　一一心念中　了達三世法　佛子住此堂　一處跏趺坐　普現一切刹
一切諸趣中　佛子住此堂　悉飲佛法海　深入智慧海　超度功德海　無礙智思量　三世無數刹
諸劫諸如來　無數衆生類　佛子住此堂　常於一念中　了知於三世　諸佛刹成敗　善知諸最勝
所修諸行願　幷衆生諸根　修習佛境界　一一微塵中　見一切劫刹　諸佛及眷屬　一切衆生類
佛子住此堂　常觀一切法　衆生刹世劫　皆悉無自性　觀察衆生等　法等如來等　願等世界等
三世悉平等　佛子住此堂　敎化諸群生　供養諸如來　思惟諸法界　無量智慧業　滿足諸大願

愍明作憫

三本俱爾時以下爲卷第五十九入法界品第三十四之十五

辨明作辦下同

廢三本俱作發

老死元明俱作死路〇界同作畏

---

無數劫演說　不可得窮盡　一切諸佛子　具足無量德　安住此法堂　我今合掌敬禮　諸佛之長子

彌勒無礙行　我今合掌禮　唯願慈矜愍

爾時善財．讚歎樓觀諸菩薩已．合掌恭敬．供養禮訖．於門下立．欲見彌勒菩薩．爾時遙見彌勒菩薩．與無量天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等大衆圍遶從外而來．威德特尊普照一切．不染世法．超出一切世間衆魔境界．滅諸障礙．深入如來菩薩境界．供養諸佛等諸佛法．冠解脫繒淨妙天冠．住大智網．於諸佛所得一切智甘露灌頂．生諸佛法得薩婆若．爾時善財．頭面敬禮一心合掌．白言大聖．云何菩薩學菩薩行修菩薩道．既修學已．具一切佛法．隨所請衆生悉令度脫．成就大願．究竟一切菩薩所行．安慰一切諸天世人．不負本心．不違三寶．不欺天人．不罔衆生．不斷佛種．持菩薩家如來正法．如是等事．唯願演說．爾時彌勒．觀察大衆．指善財言．汝等見是童子問菩薩行具足一切功德者不．此童子者．勇猛精進專求實義．以正直心得不退轉．常修勝法心無厭足．如救頭然．求善知識．親近供養聞法受持．此童子者．昔於頻陀伽羅城．受文殊師利教．求善知識．展轉經由一百一十諸善知識．問菩薩行．心無疲倦．次來我所．如是童子學大乘者．甚爲希有．成滿大願．能辨大事．具大莊嚴．常以大慈救護衆生．起大精進波羅蜜．示導大衆．乘大法船度生死海．令住大道得大法寶長養大智．如是之人難得聞見．親近共住同行亦難．何以故．此童子者．發心救護一切衆生．除滅衆苦惡道諸難邪見險路愚癡之闇．超出生死．壞一切趣輪．度魔境界．於一切世間無所染著．出欲泥．解貪縛．除邪倒．摧慢幢．拔使刺．廢諸蓋．裂愛網．滅無明．竭有流．離諂幻．淨心垢．釋疑惑．度無智海．厭生死苦．乘大法船濟四使流．於大愛河造智慧橋．愚癡闇中然智慧燈．於生死路示以正道．煩惱病者令服法藥．生老死者授甘露法．三毒盛者滅法定水令得清涼．諸憂怖者施以無畏．三有獄者開以智門．邪見縛者斷以慧劒．住三界城開解脫門．在危險者示安隱處．懼結賊者施以無畏．墜三惡塹者俯接令出．爲陰賊害者置涅槃城．著衆生者示八正道．住六入空聚者拯以慧明．失津要者示以正濟．近惡知識者令親善友．樂童蒙者誘以聖法．樂住生死宅者普令超入一切智城．救護一切衆生之類．不捨清淨求菩提心．積集大乘心無疲倦．飲正法雨而無厭足．勇猛究竟諸功德事．淨諸法門脩菩薩

空上元明俱有虛字

得明作德

性宋元俱作姓

行心無疲懈。不退方便出生大願。見善知識心樂無厭。奉給所爲隨順其敎。不以爲苦。諸善男子。世閒有能發起無上菩提心者。甚爲希有。若發心已。如是精進求佛法者。亦甚希有。如是樂欲淨菩薩道。具菩薩行。不惜身命。求善知識。不違其敎。集菩提分。不貪利養。不捨菩薩正直之心。不著家業不染五欲。不戀父母及諸親族。但樂專修一切種智。如是之人倍復希有。諸善男子。若有菩薩。如是學者。則能究竟菩薩所行。成滿大願。近佛菩提。淨一切剎。敎化衆生。深入法界。具足一切諸波羅蜜。廣菩薩行。畢本意性。出於魔業。値遇一切諸善知識。於一生中。能具普賢菩薩諸行。此童子者。入威儀海諸智慧海。修菩提海菩薩行海。成滿一切諸佛願海。詣諸剎海見諸佛海。入眷屬海行供養海。聞正法海飮妙法海。成滿一切菩薩力海。顯現一切自在力雲。一切衆生無不見者。滅一切煩惱處。入一切佛處。入諸法門處。入諸三昧處。住諸通明處。遊行法界處。如日月出照一切衆生處。不依諸相如空中鳥。常樂寂靜無壞法門。偏遊因陀羅網世界諸佛世界。如風無礙。深入法界。現諸世閒。見三世佛。心大歡喜踊躍無量。隨諸佛敎。爲聖法器。得諸法門。具菩薩行。現自在力。善財。汝今得最大利。於無量劫難聞見者。汝悉聞見知彼功德。所謂得見文殊師利。積無量德。遠離一切險難惡道。安住正法。過童蒙地。住諸菩薩功德之地。具智慧地。得諸佛地菩薩行海。成滿虛空等諸佛智藏。專求無量諸妙功德。心無厭倦。若能如是堅直心者。則能樂求諸善知識。具菩薩行敎化衆生。具不思議淸淨之信諸妙功德正法義者。悉得覩見一切佛子。善財。汝今獲大善利。次第覩見諸佛眞子。隨彼自說現行所得。汝從聞已。皆悉具得如是行者。於無量劫之所離辨。以是因緣。諸佛子等次第爲說。難聞見者汝悉聞見。從彼聞法現自在力。爲一切佛之所護念。菩薩所攝隨順彼敎。得大善利。長養一切諸菩薩性。學諸功德。不斷佛種。常爲諸佛甘露灌頂。不久當與諸佛子等。隨前衆生。因其修善。皆悉令獲勝妙果報。善財。汝應發大歡喜。不久當得大果報故。無量菩薩。於無數劫修菩薩行。汝今一生皆悉具得。皆由直心精進力故。其有欲得如是法者。當如善財之所修學。更得究竟諸菩薩行。滿一切願達一切法。譬如慶雲隨所覆處能降甘澤。隨智慧願具菩薩行。亦復如是。善財當知。我所顯說。皆是普賢菩薩所行。應當了知近善知識。過去諸佛專求菩提修習此行。於無量劫諸有爲中受無量苦。猶不値遇過去諸佛。不具是行。善財。汝今皆得成就。聞

積功德聚三本俱作積集功德
申三本俱作伸
聞見同作見聞
覺明作境
來三本俱作是
亘同作絙
藏同作路

諸佛法行菩薩行。其有衆生。聞是行者。得大善利成滿大願。親近諸佛。爲佛眞子。必成佛道淸淨解脫。除滅諸惡遠離衆苦。積功德聚淸淨法身。遊行十方。見諸如來菩薩大衆。長養善根如水蓮華値遇諸佛聞持正法安住佛道具諸佛願。究竟諸佛功德彼岸。爾時彌勒。告善財言。汝可往詣文殊師利問諸法門智慧境界普賢所行。彼當爲汝分別演說。爾時善財。聞是語已。悲泣流淚。文殊師利卽時申臂。遙授善財華寶瓔珞。善財得已歡喜供散彌勒菩薩。彌勒菩薩卽以右手摩善財頂。讚言善哉善哉。佛子。汝亦不久當與我等。爾時善財。踊躍無量。以偈頌曰

無量無數劫　難得聞見者　我今得奉覲　無上善知識　文殊我所尊　究竟功德岸　蒙見善知識
願速還親近

爾時善財。五體敬禮彌勒菩薩。合掌白言。大聖。我已先發阿耨多羅三藐三菩提心。而未知菩薩云何學菩薩行修菩薩道。大聖今者。已爲諸佛授一生記。證於菩薩離生正法。住菩薩住。究竟一切諸波羅蜜。具足一切諸法忍門。成就菩薩一切諸地。自在遊戲一切法門。得一切三昧。到於菩薩隨所至趣。逮得一切陀羅尼辯才方便光明。具足成就菩薩自在。積集一切助菩提分。遊戲巧方便慧。得一切通明。隨所修學。悉已究竟菩薩諸行。具一切願。知諸乘門。持如來持。攝佛菩提。守護一切諸佛法藏。出生智寶。菩薩功德如來密教。常爲菩薩大衆上首。爲煩惱賊所逼迫者。以勇猛力能爲摧滅令得安隱。生死曠野迷正路者示以正道。煩惱患者治以良醫。諸衆生尊爲天中天。爲無上聖。勝出二乘。生死海者爲作導師而度脫之。張大敎網亘生死海。諸調伏者攝而取之。長養善根。安立菩薩於無礙乘。究竟一切諸菩薩事。住諸佛所。唯願大聖爲我演說。云何菩薩學菩薩行修菩薩道。爾時彌勒菩薩摩訶薩。觀察善財。指示大衆。歎其功德。以偈頌曰

善財童子者　淨直心智慧　專求菩薩行　而來至我所　善來大悲雲　能雨甘露法　具足三淨眼
菩薩行無厭　善來正直心　精進無懈倦　諸根悉調伏　專求菩薩行　善來無壞行　常求善知識
了達一切法　敎化諸群生　善來淸淨道　安住功德藏　勇猛精進力　逮得最勝地　善來難見者
諸佛功德子　增長諸善根　深入無量境　善來平等者　利衰及毀譽　苦樂世間法　其心無所染

智三本俱作習

段元明俱作胎

善來安樂者　直心離諂曲　除滅於憍慢　瞋恚放逸法　善來最勝藏　觀察一切衆　長養功德藏
其心無疲倦　善來三世智　圓滿諸法界　了佛功德藏　其心無疲倦　善來妙蓮華　增長名稱雲
諸佛子敎來　我示無礙趣　成就智慧網　了達不思議　廣修菩薩行　敎化諸群生　專求佛菩提
修習離垢行　聞持諸大願　至此無疲倦　去來現在佛　所成諸行業　善財欲修學　故來至我所
志求眞法師　演說正道法　善敎菩薩者　故來至我所　佛子修智慧　具足於菩提　親近善知識
故來至我所　衆生慈父母　長養諸功德　究竟菩提道　故來至我所　生老病死者　無上良醫王
衆生之釋天　雨甘露法藥　衆生明淨日　普照諸正道　衆生之淨月　功德圓滿故　譬如須彌山
怨親心不動　猶如大海水　未曾有增減　猶如海導師　度脫無量衆　一切無所著　故來至我所
勇猛精進力　拯救諸衆生　悉令得安樂　專求善知識　建立正法幢　顯現佛功德　除滅惡道苦
開諸善趣門　能詣諸導師　覲見佛妙身　聞持彼密敎　專求黠慧師　欲具妙智色　託生種姓家
究竟諸功德　故來至我所　無比正直心　親近善知識　聞其所說敎　皆悉能奉行　因昔無量德
文殊令發心　隨順其敎命　專求佛菩提　捨天宮家屬　父母諸親戚　世間一切樂　謙苦求知識
如是淸淨行　於此命終已　得諸勝妙果　昇入佛法堂　善財見衆生　生老病死苦　爲發大悲心
專求佛菩薩　見五道輪轉　衆苦所逼迫　修智金剛輪　壞散苦趣輪　衆生田荒穢　貪恚邪見刺
爲淨修治故　專求利智犁　衆生處癡闇　盲冥失正路　善財爲導師　慧光示正道　忍辱爲密鎧
執持慧利劍　乘於三脫門　摧滅煩惱賊　善財勇猛力　普爲三界衆　除滅諸恐怖　令置安隱處
善財爲海師　造立大法船　越度爾燄海　令住淨寶洲　善財爲一切　法界中淨日　以願智慧光
普照衆生類　善財爲覺月　妙法悉圓滿　慈定淸涼光　滅諸煩惱熱　善財智海依　直心金剛地
菩薩行漸深　出生妙法寶　菩提心龍王　昇於法界空　興雲雨甘露　長養白淨果　淨信心爲炷
慈悲爲香油　正念爲寶器　然彼耀世燈　道心迦羅邏　慈悲爲胞段　菩提分肢節　長養如來藏

增益功德藏　清淨智慧藏　熾盛智慧藏　成滿諸願藏　如是大莊嚴　救護諸群生　一切天人中
難聞難得見　如是智慧樹　根深不可動　方便爲敷茂　饒益諸群生　欲聞一切法　除滅諸疑惑
具足妙功德　專求善知識　摧滅煩惱魔　消滅邪愛垢　悉令得解脫　專求智慧者　安住功德道
究竟滅三塗　開示諸善趣　令具涅槃道　顯現八正路　除滅諸邪見　壞裂煩惱網　消竭愛欲海
善財明淨日　普照群萌類　能爲調御士　拯濟三有衆　覺悟於一切　永出五欲泥　除滅虛妄想
爲開解脫門　分別諸法界　嚴淨如來剎　究竟一切法　善財應歡喜　勇猛修方便　信心不可壞
積集妙功德　成滿諸大願　不久見諸佛　了達一切法　嚴淨諸佛剎　成就佛菩提　隨順威儀海
究竟諸行海　度脫於一切　無量衆生海　出生諸善法　具足妙功德　與諸佛子等　圓滿解脫法
成滿諸大願　降伏一切魔　具足清淨業　除滅諸煩惱　成就一切智　了達甚深法　除滅諸群生
煩惱衆苦患　一切衆生輪　迴流生死輪　爲轉淨法輪　除滅衆苦輪　守護佛種姓　淨修法種姓
攝取僧種姓　了三世種姓　成滿大願網　壞散邪見網　劚裂諸愛網　決破衆苦網　成就直心姓
具足智慧性　嚴淨世界性　度脫衆生性　善財令一切　無量諸群生　諸佛及菩薩　皆悉大歡喜
善財淨慧光　普照諸剎法　一切衆生類　皆見無量佛　照明諸法界　清淨衆生界　遠離諸惡道
除滅三有苦　令衆離邪道　顯現諸善道　脩習八正道　安立解脫道　普令諸群生　度脫生死海
除滅諸煩惱　安住功德海　消竭煩惱海　令度三有海　諸根悉調伏　不染於世間

---

方便宋作勇便元明俱作勇健
士三本俱作師
姓同作性次同
法同作世〇淨同作涼〇諸同作於

# 大方廣佛華嚴經卷第五十八

# 大方廣佛華嚴經卷第五十九

（麗道）（宋垂）（元垂）（明垂）

東晉天竺三藏佛䭾跋陀羅　譯

## 入法界品第三十四之十六

爾時彌勒菩薩。以如是等。讚歎善財諸妙功德。令無量衆生。發道心已。告善財言。善哉善哉。童子。乃能發阿耨多羅三藐三菩提心專求一切佛法。饒益一切世間救護一切衆生。善男子。汝得善利。人身壽命。値遇諸佛。得見文殊師利大善知識。汝爲法器。善根潤澤。長清白法。淨勝欲性。爲善知識之所攝。諸佛護念。何以故。菩提心者。則爲一切諸佛種子。能生一切諸佛法故。菩提心者。則爲良田。長養衆生白淨法故。菩提心者。則爲大地。能持一切諸世間故。菩提心者。則爲淨水。洗濯一切煩惱垢故。菩提心者。則爲大風。一切世間無障礙故。菩提心者。則爲盛火。能燒一切邪見愛故。菩提心者。則爲淨日。普照一切衆生類故。菩提心者。則爲明月。諸白淨法悉圓滿故。菩提心者。則爲淨燈。普照一切諸法界故。菩提心者。則爲淨眼。悉能覩見邪正道故。菩提心者。則爲大道。皆令得入一切智城故。菩提心者。則爲正濟。悉令得到出要處故。菩提心者。則爲大乘。容載一切諸菩薩故。菩提心者。則爲門戶。令入一切菩薩行故。菩提心者。則爲宮殿。安住修習三昧法故。菩提心者。則爲園觀。於中遊戲受法樂故。菩提心者。則爲勝宅。一切衆生所歸依故。菩提心者。則爲依止。因修一切菩薩行故。菩提心者。則爲守護。能滿菩薩諸大願故。菩提心者。則爲慈母。增長一切諸菩薩故。菩提心者。則爲養育。守護一切諸菩薩故。菩提心者。則爲善知識。離一切惡諸恐怖故。菩提心者。則爲大王。勝諸聲聞緣覺心故。菩提心者。則爲最勝。成滿一切無比願故。菩提心者。則爲大海。悉能容受諸功德故。菩提心者。則爲須彌山王。等觀衆生心不動故。菩提心者。則爲金剛圍山。攝持一切諸衆生故。菩提心者。則爲雪山。長養智慧清涼藥故。菩提心者。則爲香山。出生一切功德香故。菩提心者。

婆下元明俱有相字

椎三本俱作搥

曀同作翳

秏同作耗

則爲虛空。諸妙功德無邊際故。菩提心者。則爲蓮華。不染一切世間法故。菩提心者。則爲寶象。悉能調伏一切根故。菩提心者。則爲寶馬。遠離諸惡儱悷法故。菩提心者。則爲調御師。悉能守護摩訶衍故。菩提心者。則爲良藥。療治一切煩惱病故。菩提心者。則爲沃燋。消盡一切不善法故。菩提心者。則爲金剛。壞散一切諸惡法故。菩提心者。則爲和香。出生一切功德香故。菩提心者。則爲妙華。一切世間所愛樂故。菩提心者。則爲白栴檀。除滅五欲諸熱病故。菩提心者。則爲樂器。微妙音聲聞法界故。菩提心者。則爲勇健。摧滅煩惱諸怨敵故。菩提心者。則爲善鏑。拔出一切煩惱刺故。菩提心者。則爲尊主。於餘一切莫能勝故。菩提心者則爲毗沙門天王。捨離一切諸貧苦故。菩提心者。則爲妙德。莊嚴一切諸功德故。菩提心者。則爲莊嚴具。嚴飾一切諸菩薩故。菩提心者。得爲火𢦔。焚燒一切有爲法故。菩提心者。則爲無壞藥王樹根。長養一切諸佛法故。菩提心者。則爲龍珠。除滅無量煩惱毒故。菩提心者。則爲水珠。淨諸心垢煩惱濁故。菩提心者。則爲如意珠。具足一切功德利故。菩提心者。則爲天德瓶。滿足一切所欲樂故。菩提心者。則爲劫初樹。出生一切莊嚴具故。菩提心者。則爲恒婆衣。不受一切諸塵垢故。菩提心者。則爲正業。本性淨故。菩提心者。則爲利犂。修治一切衆生田故。菩提心者。則爲那羅延箭。悉能鑒徹身見鎧故。菩提心者。則爲厭離。決定了知苦患相故。菩提心者。則爲利矟。能刺一切煩惱賊故。菩提心者。則爲甘露雨。能滅一切煩惱火故。菩提心者。則爲利劒。斬除一切煩惱惡故。菩提心者。則爲金椎。壞散一切憍慢山故。菩提心者。則爲利刀。斬截七使煩惱鎧故。菩提心者。則爲勇健幢。傾倒一切諸魔幢故。菩提心者。則爲釿斧。斫伐無知諸苦樹故。菩提心者。則爲器仗。防護一切諸艱難故。菩提心者。則爲善手。防護一切諸度身故。菩提心者。則爲妙足。安立一切諸功德故。菩提心者。則爲眼藥。除滅一切無明曀故。菩提心者。則爲善拔刺。悉能拔出身見刺故。菩提心者。則爲安隱牀。除滅一切生死苦牀故。菩提心者。則爲善友。度脫無量生死難故。菩提心者。則爲善利。遠離一切衰秏法故。菩提心者。則爲天人師。善知菩薩出要道故。菩提心者。則爲寶藏。無量功德不可盡故。菩提心者。則爲涌泉。清冷。智慧無窮盡故。菩提心者。則爲淨鏡。顯現一切諸法門故。菩提心者。則爲淨池。洗濯一切諸垢穢故。菩提心者。則爲大河流。引諸度四攝法故。菩提心者。則爲龍王。悉能普雨甘露法故。菩提心者。則爲命根。任持菩薩大悲

地明作池

性三本俱作姓

法故。菩提心者。則爲甘露。能令安住不死法故。菩提心者。則爲羅網。網取一切所應化故。菩提心者。則爲善罥。攝取一切諸衆生故。菩提心者。則爲鉤餌。鈎出生死淵居衆生故。菩提心者。則爲阿伽陀藥。除滅一切諸惡忠故。菩提心者。則爲波羅提毗叉藥。悉能療治五欲毒故。菩提心者。則爲大地。消滅無量邪想水故。菩提心者。則爲大風輪。壞散一切諸障蓋故。菩提心者。則爲寶洲。出生道品功德實故。菩提心者。則爲種性。長養一切白淨法故。菩提心者。則爲居宅。納受一切功德實故。菩提心者。則爲大城。菩薩商人所在處故。菩提心者。則爲金藥。消煩惱垢令清淨故。菩提心者。則爲香蜜。具足一切功德味故。菩提心者。則爲正道。令入一切智城故。菩提心者。則爲寶器。容受一切白淨法故。菩提心者。則爲時澤。悉能除滅煩惱塵故。菩提心者。則爲安住。出生菩薩之所住故。菩提心者。則爲壽行。不取聲聞諸解脫故。菩提心者。則爲瑠璃寶。其性淨妙不受垢故。菩提心者。則爲伊尼羅寶。勝諸聲聞緣覺智故。菩提心者。則爲法鼓。覺悟煩惱長寢衆生故。菩提心者。則爲淨水。其性清淨無垢濁故。菩提心者。則爲閻浮檀金。令有爲善如聚墨故。菩提心者。則爲山王。超出一切諸世間故。菩提心者。則爲歸依。悉能救護諸衆生故。菩提心者。則爲實義。遠離一切虛妄法故。菩提心者。則爲無上寶。悉令歡喜得滿足故。菩提心者。則爲大會。隨彼所須令充悅故。菩提心者。則爲尊長。於諸衆生無倫匹故。菩提心者。則爲寶藏。受持一切諸佛法故。菩提心者。則爲因陀羅網。攝諸煩惱阿修羅故。菩提心者。則爲毗樓那風。震動教化衆生心故。菩提心者。則爲因陀羅火。焚燒一切煩惱習故。菩提心者。則爲無上塔。一切天人應供養故。佛子。菩提心者。如是無量功德成就。悉與一切諸佛菩薩諸功德等。何以故。因菩提心。出生一切諸菩薩行。三世諸佛成正覺故。善男子。譬如有人得自在藥。離五恐怖。何等爲五。所謂火不能燒。水不能漂。毒不能中。刀不能傷。熏不能害。菩薩摩訶薩。亦復如是。發菩提心。攝薩婆若。離五恐怖。何等爲五。所謂不爲欲火所燒。諸有流水所不能漂。瞋恚惡毒所不能中。煩惱利刀所不能傷。邪覺觀煙熏不能害。善男子。譬如有人得解脫藥。終不橫死。菩薩摩訶薩。亦復如是。得菩提心妙智慧藥。生死過患所不能害。善男子。譬如有人得龍王藥。若有毒蟲。聞其藥氣。卽避遠去。菩薩摩訶薩。亦復如是。得菩提心大龍王藥。一切煩惱諸惡毒蟲。聞其藥氣皆悉散滅。善男子。譬如有人得不可壞藥。一切怨敵不得其便。菩薩摩訶薩。亦

薩三本俱作提

復如是。得菩提心不壞法藥。一切煩惱諸魔怨敵。所不能壞。善男子。譬如有人得頻伽陀藥。能出毒刺。菩薩摩訶薩。亦復如是。得菩提心頻伽陀藥。能出三毒諸邪見刺。善男子。譬如有人得善見藥王。滅一切病。菩薩摩訶薩。亦復如是。得菩提心善見藥王。滅一切衆生諸煩惱病。善男子。譬如删陀那大藥王樹。其有衆生在彼樹蔭。身諸惡瘡皆得除愈。菩薩摩訶薩。亦復如是。得菩提心删陀藥樹。其有衆生依蔭此樹。一切煩惱不善業瘡皆得除愈。善男子。譬如藥王樹名無壞根。以其力故。長養一切閻浮提樹。菩提心樹。亦復如是。以其力故。長養一切學無學菩薩善根。善男子。譬如藥草名阿藍婆。若用塗體身得柔澤。意離諸惡。菩薩摩訶薩。亦復如是。得菩薩心阿藍婆藥。長身口意諸善行業。善男子。譬如有人得念力藥。有所聞法終不忘失。菩薩摩訶薩。亦復如是。得菩提心念力藥者。聞持一切佛法不忘。善男子。譬如有藥。名曰蓮華。其有服者住壽一劫。菩薩摩訶薩。亦復如是。服菩提心蓮華藥者。阿僧祇劫而得自在。善男子。譬如有人執翳身藥。一切衆生所不能見。菩薩摩訶薩。亦復如是。得菩提心翳身藥者。一切諸魔所不能見。善男子。譬如大海有摩尼寶。名積衆寶。若不至他方。設火燄起。乃至消滅海水一滴。無有是處。菩提之心積衆寶珠。亦復如是。處於菩薩直心海中。乃至以一善根迴向薩婆若。有忘失者無有是處。而薩婆若無所染著。不離善根。善男子。譬如摩尼名淨光明。有人以此瓔珞身者。蔽餘寶光悉如聚墨。菩薩摩訶薩。亦復如是。以菩薩心摩尼寶珠。瓔珞其身。映蔽聲聞緣覺心寶。善男子。譬如水珠置濁水中。水卽澄淸。菩提心珠。亦復如是。除滅一切煩惱垢濁。善男子。譬如有人得住水寶珠。瓔珞其身。入深水中而不沒溺。菩薩摩訶薩。亦復如是。得菩提心住水寶珠。入生死海。而不沈沒。善男子譬如有人得大。龍寶珠往到龍所龍不爲害。菩薩摩訶薩。亦復如是。得菩提心大龍寶珠。入欲界中。煩惱惡龍所不能害。善男子。譬如帝釋有摩尼寶。瓔珞其身。於天中尊。菩薩摩訶薩。亦復如是。著菩提心寶瓔珞者。悉於一切三界中尊。善男子。譬如有人得隨意珠。除滅一切貧窮困苦。菩薩摩訶薩。亦復如是。得菩提心隨意寶珠。除滅一切邪命貧苦。善男子。譬如火珠因日光發能出猛燄。得菩提心明淨火珠。亦復如是。因大慧光所感發故。出智慧火。善男子譬如月珠因月光發出淸涼水。得菩提心淨月寶珠。亦復如是。因彼迴向善根月光所感發已。出生善根諸大願水。善男子。譬如龍王著如意寶冠遠離恐怖。

者三本俱作珠

境下三本俱有界字

龍下同有中字

娑同作婆

師明作斯○薝同作瞻下同

---

菩薩摩訶薩.亦復如是.著菩提心大悲如意寶冠.遠離一切惡道諸難.善男子.譬如莊嚴一切衆生藏摩尼寶.悉能成滿一切所願.無所損減.得菩提心妙莊嚴藏摩尼寶者.成滿菩薩及餘衆生所欲願樂.無所損減.善男子.譬如轉輪王有摩尼寶.普照宮殿.滅一切闇.菩薩摩訶薩.亦復如是.得菩提心摩尼寶者.悉能普照五趣宮殿.滅一切闇.善男子.譬如有人爲紺色寶光明所觸.卽同其色.菩薩摩訶薩.亦復如是.得菩提心紺色寶光.觀察諸法善根迴向.同薩婆若色.善男子.如瑠璃寶.於百千歲處不淨中不爲所染.菩提之所淨瑠璃寶.亦復如是.於百千劫.住欲界中.不爲五欲之所染汙.其性淨故.善男子.如離垢光淨摩尼寶出一切寶.菩提之心離垢光寶.亦復如是出生凡夫聲聞緣覺菩薩諸佛功德珍寶.善男子.譬如大摩尼寶.悉能除滅一切諸闇.菩提心寶亦復如是.除滅一切無知闇冥.善男子.譬如大海有無價寶.商人船車載之入城.餘摩尼寶無與等者.菩提之心無價寶珠.亦復如是.處生死海.菩薩摩訶薩.以大願船.載入解脫城.聲聞緣覺諸功德寶所不能及.善男子.譬如離垢大摩尼寶.處閻浮提.能照四萬由旬.日月宮殿皆悉顯現.菩提之心離垢寶珠.亦復如是.住於生死照法界空.佛境宮宅悉令顯現.善男子.譬如摩尼風王能持日月所照境界.所有香華一切品類.菩提之心摩尼風王.亦復如是.悉能攝持一切種智所照境界.一切天人聲聲緣覺諸佛菩薩.及諸有漏無漏善根.善男子.譬如海中有摩尼寶.名曰海藏.顯現海中諸莊嚴事.菩提之心海藏寶珠.亦復如是.顯現一切智境諸莊嚴事.善男子.譬如閻浮檀金.除如意寶.勝一切寶.菩提之心閻浮檀金.亦復如是.除一切智.勝諸功德.善男子.譬如有人善能咒龍.於諸龍中而得自在.菩薩摩訶薩.亦復如是.得菩提心善咒術法.於一切煩惱龍.而得自在.善男子.譬如勇士被執鎧仗.一切怨敵所不能壞.菩薩摩訶薩.亦復如是.被菩提心大莊嚴具.一切煩惱諸魔怨敵.所不能壞.善男子.譬如憂陀伽娑羅栴檀.若燒一銖.香氣普薰小千世界.三千六千世界珍寶.所不能及.菩提心香亦復如是.以妙功德普薰法界.一切聲聞緣覺功德.所不能及.善男子.譬如白栴檀以塗其身.除諸惱熱.得淸涼樂.菩提心香亦復如是.除滅覺觀貪恚癡熱.令智慧身悉得涼樂.善男子.譬如須彌山.衆生品類近彼山者.悉同其色.菩提心山亦復如是.若有近者.皆得同彼薩婆若色.善男子.譬如波利質多樹華香.閻浮提中諸娑師華.薝蔔華等.所不能及.菩提心香亦復

臣皆悉敬禮。菩薩摩訶薩亦復如是。發菩提心。聲聞緣覺皆悉敬禮。譬如王子雖未自在。已具成就國王儀相。菩薩摩訶薩亦復如是。雖爲煩惱覺障所覆。以具成就菩提心相。譬如目翳見眞淨寶謂爲不淨。菩提心寶亦復如是。無智不信起不淨想。譬如呪藥。若有衆生見聞共住。一切衆病皆悉除愈。菩提心藥亦復如是。長養善根攝智慧藥。滿足大願菩薩慧身。若有衆生見聞共住。修正念者皆悉除滅煩惱諸病。譬如恒婆相衣不受塵垢。菩提心衣亦復如是。不受一切生死塵垢。譬如有人常持甘露。專念不散而能分別一切諸法。菩薩摩訶薩亦復如是。持菩提心甘露正法。正念不散。而能教化一切衆生。令具大願成智慧身。譬如犁無有枙則不堪用。菩提之心亦復如是。離正直心。於如來法無有實義。譬如轉輪王有妙天冠名曰象藏。洗彼冠時。四種兵衆遊行虛空。菩提心冠亦復如是。淨諸菩薩一切善根。遠離三有。如來智慧無爲境界虛空中行。譬如金剛從金性生。非餘寶生。菩提心寶亦復如是。大悲救護衆生性生。非餘善生。譬如有樹不從根生。而能長養枝葉華果。菩提心樹亦復如是。無所依止。而能長養一切種智。通明大願普覆世間。譬如金剛非一切器盡能發明。亦非諸器盡能容持。菩提心寶亦復如是。小心慳結無智者器。不能發明。諂曲邪見衆生器中。不能容持。譬如金剛能壞衆寶。菩提之心亦復如是。決定了知一切諸法。譬如金剛能壞衆山。菩提之心亦復如是。壞散一切諸邪見山。譬如金剛雖破不全。一切衆寶猶不能及。菩提之心亦復如是。雖小懈怠。聲聞緣覺諸功德寶所不能及。譬如破金剛猶能除滅諸貧困苦。菩提之心亦復如是。雖復小失威儀趣法。猶能除滅諸貧窮苦。譬如小金剛悉能破壞一切諸物。菩提之心亦復如是。緣小境界能破一切無知癡惑。譬如金剛非常人所得。菩提之心亦復如是。非小心衆生之所能得。譬如金剛無智術者所不能識。菩提之心亦復如是。無智衆生所不能識。譬如金剛無能消滅。菩提之心亦復如是。一切諸法不能消盡。譬如金剛器仗。一切衆生乃至摩訶那伽不能執持。除那羅延力。菩提之心亦復如是。聲聞緣覺不能受持。除諸菩薩摩訶薩。譬如金剛器仗無不鑒徹。非餘器仗之所能爲。菩提之心亦復如是。觀察三世教化衆生。阿僧祇劫受無量苦。聲聞緣覺所不能及。譬如金剛餘不能持。除金剛地。菩提之心亦復如是。出生菩薩行願功德。聲聞緣覺所不能持。除薩婆若正直心者。譬如金剛器中盛水。不可消盡。菩提之心亦復如是。安住勝妙迴

爲明作無○翳宋元俱作瞪明作瞪
有明作見
枙三本俱作軶
果宋元作菓
消三本俱作燒

三本俱爾時善財童子以下爲卷第六十入法界品第三十四之十六

向善根。入生死趣。諸不善法不能消盡。譬如金剛能持大地不令墜沒。菩提之心亦復如是。持諸菩薩一切願行。不令墜落沒於三界。譬如金剛於百千劫處於水中而不爛壞亦無變異。菩提之心亦復如是。於無量劫處生死中。諸煩惱業不能斷滅亦無損減。譬如金剛一切大火不能燒熱。菩提之心亦復如是。一切生死貪恚癡火不能燒熱。譬如金剛道場之座能持菩薩降伏諸魔成等正覺。餘不能持。菩提之心亦復如是。能持一切菩薩願行諸波羅蜜諸忍諸地迴向受記修菩提道供養諸佛聞法受行。一切諸心所不能持。善男子。菩提之心成就如是無量功德。若有衆生。發菩提心。則具如是無量功德。是故善男子。汝得善利。發阿耨多羅三藐三菩提心修菩薩行。具足如是無量功德。善男子。汝先所問。云何菩薩學菩薩行修菩薩道者。汝今入是明淨莊嚴藏大樓觀者。則能了知學菩薩行修菩薩道。具足成就無量功德。爾時善財童子。敬遶彌勒菩薩。合掌白言。唯願大聖。開樓觀門令我得入。爾時彌勒菩薩。卽彈右指門自然開。善財卽入入已還閉。爾時善財觀察樓觀。廣大無量猶如虛空。衆寶爲地。有阿僧祇窻牖。却敵欄楯七寶合成。阿僧祇幡幢蓋莊嚴。阿僧祇寶瓔珞垂帶。阿僧祇大師子幢半月寶像諸寶繒綵。又阿僧祇天冠寶衣。而以莊嚴。阿僧祇寶網羅覆其上。阿僧祇金鈴。自然演出微妙音聲。又雨無量寶華。鬘雲。諸妙香雲。雨阿僧祇細末金屑。放阿僧祇勝妙光明。普照一切。有阿僧祇異類衆鳥。出和雅音。雨阿僧祇優鉢羅鉢曇摩分陀利華。出阿僧祇摩尼寶光。普照一切。於樓觀內。具有百千諸妙樓觀。不相障礙。莊校嚴飾亦如上說。爾時善財。覩見樓觀不可思議衆妙莊嚴。心大歡喜踊躍無量。其心柔軟離諸妄想。除滅一切愚癡闇障。正念思惟專求妙趣。以無礙身恭敬作禮。禮已。彌勒菩薩威神力故。諸樓觀中自見其身。又見無量自在神力不思議事。或見彌勒隨本種姓。壽命知識。長養善根諸劫世界。一切佛所及諸眷屬。因諸大願。初發阿耨多羅三藐三菩提心。或見初得慈心三昧因以爲名。或見彌勒行菩薩行。滿足一切諸波羅蜜諸忍諸地淨佛世界。見諸如來。聞法受持守護正法。爲大法師得無生忍。知某方處某如來所劫數多少而得受記。或見彌勒爲轉輪王。十善化世。或爲四天王。饒益一切衆生。或爲帝釋。訶責五欲。或爲夜摩天王。讚不放逸。或爲兜率天王。讚歎一生菩薩功德。或爲化樂天王。讚自在法。或爲魔王。說無常法。或爲他化自在天王。讚歎菩薩莊嚴化身。或爲梵王。讚歎四

肴膳三本俱作
餚饍（施下同
有與字

授明作受

無量心．或爲阿脩羅王．調伏眷屬入大智海．了達諸法悉如幻化．或爲閻羅王．放大光明普照地獄滅一切苦．或以肴膳飲食施諸餓鬼．或爲畜生受種種身．而爲說法除其癡闇．或爲四天王眷屬說法．乃至爲諸梵天王眷屬說法．或爲諸龍眷屬說法．乃至爲人非人等眷屬說法．或爲聲聞緣覺及諸菩薩大衆說法．或爲發心菩薩乃至十地菩薩說法．或見讚歎初發心菩薩乃至十地菩薩功德．或見滿足一切波羅蜜．入於平等諸法忍門．廣三昧門樂深法門．諸禪三昧出生通明．充滿一切行菩薩行．隨順世間成就大願．或見與同行菩薩俱饒益衆生．或見與一生菩薩諸佛現前授記者俱．或見彌勒於百千劫經行誦念書寫經卷無有懈息．或觀法門思惟實義．或入諸禪四無量心．解脫三昧一切入等．或見出生菩薩通明．或見正受變化三昧．一一毛孔出化身雲．所謂天身雲．諸龍夜叉乃至摩睺羅伽身雲．四天王身雲．乃至梵王身雲．轉輪聖王王子大臣長者居士聲聞緣覺如來身雲．復見一一毛孔中．出一切衆生等化身雲．或出菩薩法門．所謂讚歎菩提心功德門．檀波羅蜜門．乃至願波羅蜜門．四攝諸禪無量三昧．通明總持諸諦諸辯．止觀解脫緣起．念處正勤神足根力覺道．聲聞緣覺二乘所行．菩薩大乘諸地諸忍．菩薩願行．現如是等一切法門．或於樓觀見諸如來大衆圍遶．又知諸佛家族不同種姓不同．其身壽量劫剎．敎授無量法門．正法住世．分別了知皆悉不同．爾時善財．諸樓觀中見一樓觀．高廣嚴飾勝妙於前．包察三千大千世界．百億閻浮提．百億兜率天．菩薩命終降神．受胎出生．遊行七步．觀察十方大師子吼．帝釋梵王恭敬奉侍．現童子身處宮殿中．出遊園觀．以薩婆若心出家苦行．現受乳糜．往詣道場降伏衆魔．觀菩提樹轉正法輪．昇天宮殿．方土劫敎眷屬壽量．行菩薩行滿足大願．演說正法敎化衆生．現分舍利皆悉不同

# 大方廣佛華嚴經卷第五十九

〔麗道〕〔宋垂〕〔元垂〕〔明垂〕

# 大方廣佛華嚴經卷第六十

東晉天竺三藏佛馱跋陀羅譯

## 入法界品第三十四之十七

爾時善財。自見己身在諸佛所。見如是等諸奇特事。又聞樓觀諸金鈴中。出不思議微妙音聲。所謂初發菩提心聲。菩薩所行諸度願聲。恭敬供養不可思議諸佛音聲。淨佛刹聲。佛法雲聲。諸莊嚴具。亦出如是微妙音聲。又聞某菩薩在某世界。於某劫中某知識化。迴向善根出生大願。於某佛所。大衆之中發菩提心聲。又聞菩薩修習諸行劫數多小。於某刹中成正覺聲。如是名號壽量長短。滿足大願化衆生聲。於諸菩薩聲聞緣覺大衆之中現般涅槃法住世聲。又聞菩薩於某世界。悉能廣行檀波羅蜜。淨持禁戒。修習忍辱。發行精進。入諸禪定。習應智慧。爲求法故。捨諸珍寶國城妻子頭目手足。守護正法。爲大法師施淸淨法。設大法會建大法幢。擊法鼓吹法螺雨法雨。興立塔廟種種莊嚴。安樂衆生護佛法藏。又聞某佛在某世界。於某劫中成等正覺。眷屬多小壽命長短。滿足大願敎化衆生。聞如是等不可思議微妙音聲。身心柔軟歡喜無量。卽得無量陀羅尼門。辯才門。忍門。精進門。大願門。通明門。智慧門。解脫門。波羅蜜門。三昧門。爾時善財。於寶鏡中。見諸如來及其眷屬。諸大菩薩聲聞緣覺淨世界。不淨世界。雜世界。或世界有佛。或世界無佛。或上中下世界。或有世界如因陀羅網。或有飜覆仰伏世界。又復覩見平正世界。悉分別知五道別異。又見無量阿僧祇諸大菩薩經行禪定觀察諸法。發大悲心普覆衆生。造種種論辯衆義趣。或書經卷。或問或答。或見出生三種迴向及諸大願。悉皆覩見如是等事。又見諸寶柱中。普放無量青黃赤白淨玻瓈色因尼羅寶閻浮檀金諸光明網。又見珠瓔珞中。出八功德香水。瑠璃寶中。出無量光明。又見優鉢羅鉢曇摩分陀利中。生諸妙華大如車輪。華中悉見男女大小釋梵四王諸龍夜叉乃至人非人等及

小三本俱作少次亦同

珠明作諸

見三本俱作現

鬻同作煑

入明作人

諸象馬。聲聞菩薩一切衆生種種形類。皆悉恭敬合掌禮佛。又寶樹中。悉見種種妙色之身。所謂如來身。菩薩身。天龍八部等身。釋梵天身。轉輪王身。四部衆身。各各執持衆供養具。尊重讚歎恭敬禮拜。又見半月像中。放阿僧祇日月光明。又見彌勒於過去世修菩薩行。布施頭目髓腦手足肢節。一切身分國城妻子種種諸物。隨其所須盡給施之。又見彌勒讚歎諸佛恭敬供養。或爲醫王療治衆病。失正路者示以正道。或爲大船師導至寶洲。或爲馬王荷負衆生令離鬼難。或爲論師造諸經論。或爲轉輪王十善化世。或見孝順父母近善知識不違其敎。或|見聲聞緣覺菩薩如來形色敎化衆生。或爲法師讚歎佛法。禪思誦念興諸福業。造立塔廟諸妙形像。以香華鬘恭敬供養。或敎衆生三歸五戒八齋十善。出家學道聞法受持。正念思惟住菩提心。又見彌勒於無量劫行六波羅蜜化衆生事。又見彌勒無量劫中諸善知識。爾時彌勒菩薩。告善財言。善來童子。汝見樓觀諸大菩薩不可思議自在力不。唯然已見。譬如有人夢中覩見山林河池大海須彌諸天宮殿四天下中一切像類。見如是已歡喜無量。爾時善財亦復如是。以大菩薩威神力故。遠離虛妄。見三界法皆悉如夢。菩薩智慧無礙法門。入諸菩薩莊嚴法門。究竟菩薩不可思議諸妙方便。顯現菩薩神力自在。譬如有人當命終時見中陰相。所謂行惡業者。見於地獄畜生餓鬼受諸楚毒。或見閻羅王持諸兵仗囚執將去。或見刀山或見劍樹。或見利葉割截衆生。或見鑊湯鬻治衆生。或聞種種悲苦音聲。若修善者。當命終時。悉見一切諸天宮殿。或見天女種種莊嚴遊戲快樂。見如是等諸妙勝事。而不自覺死此生彼。但見不可思議行業境界。善財童子亦復如是。於樓觀內。見諸菩薩不可思議勝業境界。譬如有人爲非人所持。見種種形類。若有問難悉能應答。善財童子亦復如是。以大菩薩威神力故。悉能分別正念思惟一切諸法。譬如有人|入於龍宮。七日半月一歲百歲謂爲須臾。善財童子亦復如是。入彌勒菩薩神力宮殿。於百千劫謂如須臾。譬如梵宮名莊嚴藏。於中悉見三千世界異類形像。善財童子亦復如是。於樓觀中。悉見一切未曾有事。譬如比丘得一切入定。行立坐臥隨彼境界悉現在前。善財童子亦復如是。於樓觀中。隨彼境界悉分別知。譬如人見乾闥婆城。無所障礙。善財童子亦復如是。於樓觀中見一切法無所障礙。譬如有人昇天宮殿。見人住處無所障礙。譬如大海於中悉見三千世界一切品類。譬如幻師悉能顯現一切形色。善財童

見同作現

曰三本俱作言

淨明作靜

子亦復如是。於樓觀中。彌勒菩薩威神力故。悉見一切未曾有事。無所障礙。爾時彌勒菩薩攝威神力。卽時彈指告善財言。善男子。汝從定起。從定起已。而告之曰。汝覩見此菩薩神力自在天願功德依果菩薩莊嚴修習奇特。諸深妙行出生死道。一切法門無量莊嚴。諸佛大願不可思議。菩薩三昧如是等事。汝悉見不。善財答言。唯然已見。蒙善知識威神力故。爾時善財。白言大聖。此何法門。答言入三世智正念思惟莊嚴藏法門。善男子。一生菩薩。得如是等不可說不可說法門。大聖。此諸奇特妙莊嚴法從何所來。答言。菩薩神力之所出生。而亦不在神力之中。不來不去無積聚處。譬如龍雨不從身心。但以發意欲雨則雨。然彼境界不可思議。善男子。此諸奇特妙莊嚴法亦復如是。無所從來。但以菩薩神力出生。善男子。譬如幻師現種種事。無來去處。但以幻力現種種事。此諸奇特妙莊嚴法亦復如是。無來無去。無住無著。不生不滅。但學菩薩智願力故。現如是事。爾時善財白言大聖。從何所來。答言。佛子。菩薩無來趣。無行住趣。無所著趣。不生不死趣。不住不至趣。不離不起趣。不捨不著趣。無業無報趣。無起無依趣。不常不斷趣。善男子。菩薩但爲敎化救護衆生。從大慈悲來。滅衆生苦故。從菩薩淨戒道來。隨其所樂自在生故。從菩薩大願道來。本發意故。從菩薩神通道來。滅衆生苦住佛所故。從菩薩無增損趣來。不失身心諸善業故。從菩薩慧方便來。隨順一切衆生類故。從菩薩化身趣來。如電鏡像故。善男子。汝所問我何所來者。我從生處摩離國來。彼有聚落。名曰樓觀。有長者子。名瞿波羅。我爲說法令立菩提。我本生處諸群生等。隨所應化而爲說法。亦爲父母及諸親屬。隨應說法安立大乘。而來至此。善財白言大聖。何等爲菩薩生處。答言。善男子。菩薩有十種生處。何等爲十。所謂菩提心是菩薩生處。生菩薩家故。正直心是菩薩生處。生善知識家故。安住諸地是菩薩生處。生諸波羅蜜家故。出生大願是菩薩生處。生菩薩行家故。大悲是菩薩生處。生四攝家故。眞實觀法是菩薩生處。生般若波羅蜜家故。摩訶衍是菩薩生處。生方便波羅蜜家故。敎化衆生是菩薩生處。生菩提家故。智慧方便是菩薩生處。生無生法忍家故。隨順諸法是菩薩生處。生三世諸佛家故。善男子。菩薩摩訶薩。以般若波羅蜜爲母。大方便爲父。檀波羅蜜爲乳。尸波羅蜜爲乳母。羼提波羅蜜爲莊嚴具。毗梨耶波羅蜜爲養育者。禪波羅蜜爲潔淨。善知識爲師。菩提分爲朋友。一切善根爲親族。一切菩薩爲兄弟。菩提心爲家。如說修行爲家

如三本俱作知
懈癈同作疲懈
姓同作族〇憍同作高

地。菩薩所住爲家處。菩薩忍法爲豪尊。出生大願爲巨富。具菩薩行爲順家法。讚摩訶衍爲紹家法。甘露灌頂一生菩薩爲王太子。能淨修治三世佛家。佛子。如是菩薩超凡夫地證離生法。生如來家住佛種姓不斷三寶。守護一切菩薩種姓。淨所生處離諸惡道。悉爲一切天人釋梵沙門婆羅門。恭敬供養以生佛家。滿足一切大願藏故。佛子。菩薩摩訶薩。生如是家。知一切法悉如電光。一切趣中受生無厭。了趣如化。雖現處中而無所著。達一切法悉無有我。心無憂悔。以大慈悲敎化衆生。而不疲倦。了達生死皆悉如夢。於一切劫行菩薩行。而不懈癈。了知五陰皆悉如幻。不畏生死知諸法界。心無所著。了一切法如熱時燄。於一切行不生倒惑。遊戲幻法超魔境界。得淨法身離惱惱業。於諸趣中而得自在。無顛倒惑。善男子。我淨法身充滿一切法界。現一切衆生等色。一切衆生等音聲。一切衆生等名號。一切衆生等威儀。現一切衆生等隨順世間。現一切衆生等受生。現一切衆生等童子身。一切衆生等想出生。一切菩薩大願。爲變化身與衆生等充滿法界。若諸同行失道心者。還令發起菩提心故。我於此閻浮提南界摩離國內。拘提聚落婆羅門家種姓中生。爲欲滅彼憍慢心故。化度父母及親族故。於中受生。善男子。我於南方。隨諸衆生所應示現而化度之。於此命終生兜率天。爲欲化度彼諸天故。顯現勝妙智慧功德。消欲渴愛。令知諸行皆悉無常。天趣壽命盛必有衰。入摩訶衍一生菩薩。皆悉雲集。爲欲敎化諸同行故。欲開釋迦牟尼世尊化所蓮華。現彼受生。善男子。我於彼中壽終下生成正覺時。汝及文殊師利俱得見我。善男子。汝今往詣文殊師利問。云何菩薩學菩薩行修菩薩道。具足成就普賢所行。彼當爲汝分別演說。何以故。文殊師利。滿足無量億那由他菩薩願行。常爲無量億那由他諸佛之母。又爲無量億那由他諸菩薩師。勇猛精進敎化衆生。名稱普聞十方世界。常於一切諸佛衆中爲大法師。悉爲諸佛之所讚歎。安住甚深智慧法門。分別了知一切法界。於無量劫修諸法門。究竟普賢菩薩所行。善男子。文殊師利是汝善知識。能令汝得生如來家。長養善根積功德聚。能示語汝諸善知識。滿足大願。顯現一切菩薩不可思議功德。是故善男子。汝應一心尊重恭敬往詣其所。何以故。汝先所見諸善知識。修菩薩行滿足大願得諸法門。皆由文殊師利威神力故。時善財童子頭面敬禮彌勒菩薩。遶無數帀辭退而行。爾時善財童子。如是經遊百一十城。到普門城邊。思惟而住。觀察十方一心專求文

伸宋元倶作申
一善根三本倶作一切善○不下同無善字
原同作源
已明作悉○於是三本倶作爾時
心同作念

殊師利。何當會遇面奉慈顏。作是念時。文殊師利遙伸右手。過百一十由旬。至普門城。摩善財頂。而作是言。善哉
善哉。善男子。若離信根憂悔心沒。功行不具退失精勤於少功德便以爲足。於一善根心生住著。不善發起菩薩
行。不爲善知識之所攝護。不爲如來之所憶念。是等皆悉不能了知。如是法性如是理趣。如是所行如是所住。若
周徧知若種種知。若盡原底若漸趣入。若解說若分別。若證知若獲得。皆悉不能。是時文殊師利。爲善財童子示
敎誨已。慰諭令其歡喜踊躍。令得成就阿僧祇法門。得無量大智光明。無量菩薩陀羅尼。無量大願無量三昧。無
量神通無量智慧。皆已成就。復令得入普賢所行道場之內。既置善財自所住已。文殊師利還攝不現。於是善財
得見三千大千世界微塵等諸善知識。不違其敎。增長薩婆若大慈悲藏。以淨慧眼普觀衆生。安住菩薩寂靜法
門。分別了知諸法境界。入佛甚深大功德海。具解脫道長養精進。爲薩婆若修正直心。入於三世甚深法海。隨順
諸佛淸淨法輪。現入諸趣。於一切劫修菩薩。行滿足大願。明淨慧光照一切智境。淨菩薩根。以淨慧光除愚癡翳。
照一切法。了達法界一切佛刹及諸衆生壞障礙山。住無礙法。具足成就諸地法藏。修習普賢菩薩所行。善財童
子。得聞普賢菩薩名號行願功德諸地。地具地法。地得知次第。地修地住。地境界地持。地共地正道一心欲見普
賢菩薩。爾時善財正念起如來金剛藏道場一切寶蓮華藏師子座心。虛空界等心。一切無著心。淨一切刹無障
礙心。於一切法境界無障礙心。充滿一切十方心。得薩婆若境界無量心。莊嚴道場心。深入分別法海心。敎化成
熟一切衆生廣大心。於一切劫行菩薩行。究竟如來十力心。爾時善財起是心時。自善根力。佛威神力。普賢菩薩
諸善根力。卽見十種瑞相。何等爲十。所謂見一切淨刹莊嚴菩提。見一切刹無諸惡道。見一切刹淨如蓮華。見一
切刹一切衆生身心柔輭。見一切刹無量莊嚴。見一切刹一切衆生三十二相莊嚴其身。見一切刹莊嚴雲覆。見
一切刹一切衆生成就慈心。見一切刹莊嚴道場。見一切刹一切衆生皆悉修習念佛三昧。是爲十。又見十種光
相。見一切世界微塵。一一微塵中。放一切如來光明網雲。與一切世界微塵等。一一微塵中。放一切佛種種色光。
與一切世界微塵等。普照法界。一一微塵中。放一切寶雲光明。與一切世界微塵等。普照法界。一一微塵中。放如
來光燄輪雲。普照法界。一一微塵中。出一切香雲。普熏法界。讚歎普賢菩薩諸行一切大願諸功德海。一一微塵

香明作普

悉同作得

中放一切日月光雲放普賢菩薩光明普照法界一一微塵中出一切衆生等身雲相好莊嚴放佛光明普照法界一一微塵中出一切菩薩身雲究竟一切行充滿法界一一微塵中出一切寶形像雲充滿十方一切世界一一微塵中出一切如來身雲興一切世界微塵等普雨一切甘露正法充滿法界是爲十爾時善財見十種瑞相已卽作是念我今必見普賢菩薩增長善根究竟菩薩妙行見一切佛若見普賢菩薩得一切智想一心恭敬欲見普賢菩薩爾時善財卽見普賢菩薩在金剛藏道場於如來前處蓮華藏師子之座大衆圍遶心如虛空無所染著除滅障礙淨一切刹以無礙法充滿十方住一切智入諸法界敎化衆生於一切劫行菩薩行恭敬供養一切諸佛心無退轉於衆生中最勝最上一切世間無能壞者一切菩薩不能察其智慧境界具不思議諸妙功德普觀三世等諸如來爾時善財見普賢菩薩一一毛孔放一切世界微塵等光明普照一切虛空法界等世界除滅一切衆生苦患悉能長養菩薩善根一一毛孔出種種香雲普熏十方一切如來及諸眷屬一一毛孔出一切世界微塵等華雲一一毛孔出一切世界微塵等諸香樹雲出衆妙香莊嚴法界一一毛孔出一切世界微塵等妙寶衣雲莊嚴虛空一一毛孔出一切世界微塵等種種寶樹充滿虛空以爲莊嚴雨種種寶供佛大衆一一毛孔出一切世界微塵等色界天身充滿一切法界一切衆生界讚歎菩提一一毛孔出一切梵王身雲勸請如來轉妙法輪一一毛孔出一切欲天身雲皆悉護持諸佛法輪一一毛孔念念中出一切世界微塵等三世諸佛充滿虛空無依衆生爲作歸依一一毛孔念念中出一切世界微塵等淸淨佛刹諸佛菩薩充滿其中敎化成熟無量衆生一一毛孔念念中出一切世界微塵等淨不淨佛刹充滿虛空令染汙者皆悉淸淨一一毛孔念念中出一切世界微塵等不淨淨刹調伏不淨衆生一一毛孔念念中出一切世界微塵等一切衆生身雲隨順世間敎化衆生一一毛孔念念中出一切世界微塵等菩薩身雲讚歎諸佛長養一切衆生善根一一毛孔念念中出一切世界微塵等初發心菩薩身雲於一切刹示現初發菩提之心一一毛孔念念中出一切世界微塵等菩薩身雲於一一刹讚一切佛功德願海普賢菩薩所行妙行一一毛孔念念中出一切世界微塵等普賢所行雨甘露法令一切衆生修薩婆若一一毛孔念念中出一切世界微塵等佛初成正覺出興于世爾時善財見如是等不

行三本俱作得

著明作者

可思議自在神力．見已歡喜踊躍無量．重觀普賢一一身分．一一肢節．一一毛孔中．悉見三千大千世界．風輪水輪火輪地輪．大海寶山須彌山王金剛圍山．一切舍宅諸妙宮殿衆生等類．一切地獄餓鬼畜生閻羅王處．諸天梵王乃至人非人等．欲界色界及無色界．一切劫數．諸佛菩薩敎化衆生．如是等事皆悉顯現．十方一切世界．亦復如是．如此娑婆世界盧舍那如來應供等正覺所現自在力．東方蓮華妙德世界賢首佛所．顯現神力亦復如是．如賢首佛所．如是東方一切世界一切佛所．顯現神力亦復如是．如東方．南西北方四維上下．一切世界一切佛所．顯現神力亦復如是．於一切世界一切微塵．一一微塵中．現自在力亦復如是．爾時善財．見普賢菩薩不可思議自在神力．卽得十不可壞智慧法門．何等爲十．所謂於念念中能以一身徧一切剎．於念念中詣一切佛所．於念念中恭敬供養一切諸佛．於念念中一切佛所聞持正法．得一切佛法輪智波羅蜜門．得不思議佛自在智波羅蜜門．得無盡辯智慧法門．得般若波羅蜜觀諸法門．得一切法界海大方便波羅蜜門．得知一切衆生欲性智慧波羅蜜門．得普賢所行智慧波羅蜜門．爾時普賢菩薩．卽伸右手．摩善財頂．摩已善財復得一切世界微塵等諸三昧門．一一三昧門．各有一切世界微微等三昧．以爲眷屬．一一三昧中．見一切世界微塵等諸如來海．長養一切世界微塵等諸功德．具生薩婆若．滿大願海．安住正道．究竟一切諸菩薩行．發薩婆若勇猛精進．爲一切佛光明所照．如此娑婆世界盧舍那佛所．普賢菩薩摩善財頂．令得具足一切世界微塵等三昧門諸妙功德．普賢菩薩．在於十方一切世界諸如來所摩善財頂．所得功德亦復如是．爾時普賢菩薩．告善財言．善男子．汝今見我自在神力奇特事不．答言．唯然已見．此不思議莫能測者．唯除如來．善男子．我於過去不可說不可說世界海微塵等劫．修菩薩行專求菩提．一一劫中．見不可說不可說世海微塵等佛．修菩提心．一一劫中．於一切世界．設不可說不可說廣大施會．給施一切．或施妻子城邑聚落頭目髓腦肢節血肉一切身分．不惜壽命．一向專求一切種智．於一一劫．恭敬供養不可說不可說世界海微塵等佛．於彼佛所．出家學道受持正法．未曾生於貪恚癡心．我我所心．樂著生死虛妄之心．輕慢他心．諸障礙心．修不可壞佛菩提心．未曾忘失．善男子．我所修行菩薩諸行．淨佛世界．敎化衆生．長養大悲．供養諸佛及善知識．護持正法．悉捨一切內外諸物．修習世間出生間智．令

行同作順

乃至明作至乃

一切衆生背生死苦讚歎一切諸佛功德如是等事於不可說不可說劫中演說劫猶可盡此諸功德不可窮盡善男子我得如是功德具力諸善根力樂勝法力修功德力觀察諸法寂滅性力淨慧眼力佛威神力諸大願力大慈悲力淨通明力善知識力得是力故逮得本性清淨法身三世不壞又得無上清淨色身超出一切世間隨應化者莫不覩見遊一切剎無處不至現自在力見者無厭善男子汝且觀我清淨法身無量劫海行菩薩行之所所就無量劫中難聞難見種少善根聲聞菩薩猶尚不得聞我名字況見我身善男子若有衆生聞我名者於阿耨多羅三藐三菩提不復退轉若見若觸若迎送若隨行若見光明若見震動諸佛世界乃至夢中見聞我者亦復如是若思惟念我若一日一夜若七日七夜若半月若一月若一歲若百歲若一劫若百劫乃至不可說不可說世界微塵等劫若一生念我若百生乃至不可說不可說世界微塵等生念我亦復如是以如是等世界微塵等諸妙方便令一切衆生發阿耨多羅三藐三菩提心住不退轉善男子若有衆生聞我修習淨佛剎者必得往生清淨世界若有衆生見聞我身必得生我清淨身中善男子汝復觀我清淨法身爾時善財於普賢菩薩相好肢節諸毛孔中見不可說不可說世界海諸佛充滿一一如來以不可說不可說大菩薩衆以爲眷屬見彼一一如來剎流所依不同形色各異金剛圍山大雲彌覆佛興世間所轉法輪如是等事皆悉不同又見普賢菩薩於十方剎出一切世界微塵等如來化身教化衆生令發阿耨多羅三藐三菩提心爾時善財童子經由親近一佛世界微塵等諸善知識所得功德於見普賢菩薩所得功德百分不及一百千萬分乃至算數譬諭所不能及何以故善財童子於念念中入不可說不可說佛世界海得不可說不可說微塵等諸功德藏知諸佛海次第與世菩薩衆海眷屬圍遶了衆生根現自在力而化度之或一世界於一劫中修菩薩行乃至不可說不可說世界微塵等劫修菩薩行不此世界沒不彼世界生而能教化無量無邊世界衆生令發阿耨多羅三藐三菩提心爾時善財童子能自究竟普賢所行諸大願海不久當與一切佛等一身充滿一切世界剎等身等行等正覺等自在力等轉法輪等諸辯才等妙音聲等方便等無畏力等佛所住等大慈悲等不思議法門自在力等爾時普賢菩薩欲重明此義以偈頌曰

間三本俱作界

必不明作不必

授明作受○嚴
淨同作淨嚴○
幢同作憧

汝等離煩惱　清淨心諦聽　說佛一切行　眞實波羅蜜　超出諸世間　無上調御士　遠離煩惱垢
清淨如虛空　圓滿智慧日　除滅煩惱闇　普照一切法　安樂諸群生　如來無量劫　時乃出興世
譬如優曇華　難見難值遇　普爲諸群萠　苦行無量劫　隨順諸世間　其心無染著　時諸菩薩衆
既聞普賢敎　敬心聽如來　自在眞實義　普賢眞佛子　究竟一切行　常爲佛所歎　言必不虛妄
普賢功德華　不染三界法　勸發大衆聽　無盡智慧海　諸佛微妙智　清淨如虛空　明了一切行
其心無所著　一念悉了達　三世一切法　善知衆生根　隨其所應化　衆生心煩惱　諸業善不善
所樂皆悉知　而爲說正法　或見如來坐　充滿十方界　衆生罪所障　雖近而不見　或見初發心
遠離諸放逸　無量無數劫　修習菩薩行　或聞諸最勝　妙音演說法　罪垢衆生等　不聞佛名號
或見大菩薩　充滿三千界　究竟普賢行　如來爲說法　或見盧舍那　無量無數劫　嚴淨此世界
得成最正覺　或見賢首佛　普賢大菩薩　斯等悉充滿　蓮華妙德刹　或見阿彌陀　觀世音菩薩
灌頂授記者　充滿諸法界　或見阿閦佛　香象大菩薩　斯等悉充滿　妙樂嚴淨刹　或見月慧佛
金幢大菩薩　斯等悉充滿　時淨鏡妙刹　或見日藏佛　智灌大菩薩　斯等悉充滿　清淨光明刹
或見十方界　諸佛放光明　爲衆轉法輪　除滅愚癡闇　或見一毛孔　不可說佛刹　諸佛莊嚴身
佛子衆圍遶　爲轉正法輪　度脫者群生　或於一毛孔　普見諸佛子　無數億劫中　修習菩薩行
或於一一塵　悉見無量刹　或淨或垢穢　諸行業所起　或見盧舍那　於彼轉法輪　顯現自在力
方便入涅槃　觀察衆生類　一切業煩惱　顯現自在力　化之令解脫　如是諸法王　十方世界中
顯現自在力　我今說少分　或見釋迦文　初成等正覺　饒益諸群生　一切莫能測　或見爲菩薩
供養一切佛　或在童子地　顯現自在力　或見行施戒　忍辱勤精進　深入諸禪定　住慧方便地
或見究竟住　一切種智地　三昧陀羅尼　出生諸通明　或見無量劫　修習菩薩行　逮得不退轉
甘露灌頂記　或見爲梵身　帝釋四天王　刹利婆羅門　示現此等身　或見從兜率　命終降神生

或見住宮殿　捨欲而出家　或見坐道場　降魔成正覺　轉淨妙法輪　涅槃後起塔　或見無量壽
最勝天人尊　爲授灌頂記　成無上道師　或見十力尊　教化已周訖　般涅槃已來　無量無數劫
或見論師月　現處梵王宮　亦現大自在　魔王宮殿中　或見兜率宮　諸天衆圍遶　爲彼說正法
悉令大歡喜　或見處夜摩　帝釋四天王　諸龍夜叉王　八部宮殿中　錠光如來所　供養得授記
如是等方便　教化諸群生　光明身壽命　淨慧及眷屬　教化威儀聲　皆悉不可數　見佛同衆生
或身如須彌　或現跏趺坐　充滿於世界　或見光一尋　或百千由旬　或現照法界　或照一切刹
或現壽百歲　百千萬億歲　無量那由他　不可思議劫　無礙淸淨慧　一念知三世　悉從因緣起
而實無自性　一刹成正覺　普現諸世界　能現一世界　而作無量刹　示現無量刹　而爲一世界
安住無上道　具足無畏力　無礙智慧轉　十二行法輪　知苦習盡道　十二支緣起　四辯無礙智
演說一切法　無我無我所　亦無有自性　無生亦無滅　無來亦無去　皆悉如虛空　而不壞諸業
如來爲衆生　方便分別說　轉此法輪時　震動一切刹　大海金剛山　無有恐怖者　如來一音說
各隨所應解　滅諸煩惱垢　令住薩婆若　如來一音說　或聞施戒忍　精進禪智慧　慈悲及喜捨
四念四正勤　如意諸根力　覺道止觀念　神通諸法門　如來一音說　八部人非人　梵釋四天王
隨類音聲解　若多貪恚癡　憍慢慳嫉結　八萬四千垢　各聞對治法　未修淨業者　聞說十善道
已修施戒者　聞說般涅槃　染著於生死　懈怠諸群生　聞說解脫門　除滅生死苦　少欲知足者
樂處於閑靜　如是等衆生　聞說二乘音　或修廣大心　具諸功德藏　親近諸佛者　聞說大乘聲
或有一世界　聞說一乘音　或二三四五　乃至無量乘　智慧行有異　解脫無差別　猶如虛空性
無有若干相　如來微妙音　其性亦如是　隨所應化者　所聞各不同　佛以過去行　得一微妙音
無心於彼此　而能應一切　佛口放妙光　八萬四千數　普照諸世界　除滅衆煩惱　具足智功德
三種順衆生　離生如虛空　常現於世間　雖復隨世現　生老病死苦　或復現住壽　其性如虛空

錠三本俱作定　○授明作受

習明作集

入同作人

熒三本俱作螢

畫元明俱作畵

如來分別知　一切衆生類　諸根及性欲　令住薩婆若　諸佛尊導師　示入於大衆　隨其所應化
善現威儀法　爲諸聲聞現　出家威儀法　常樂修寂滅　無餘涅槃證　婆羅門衆中　示現羸老身
縈髮而苦行　語論無窮盡　服氣或斷食　五熱以炙身　如是現苦行　降伏諸異學　或持異道戒
善算多方術　星曆地動相　種種衆生相　深入諸禪定　三昧及解脫　種種現嬉戲　令得薩婆若
示現樂衣服　種種莊嚴身　勇健善兵法　降伏刹利故　現知治正法　時節諸義利　輭語攝衆生
降伏大臣故　或詣四天王　八部鬼神所　方便爲說法　皆令大歡喜　或現爲帝釋　安住善法堂
諸天衆圍遶　爲彼演說法　奇摩或兜率　化樂化自在　梵王至淨居　爲彼演說法　如是現無數
種種威儀法　無量方便方　度脫諸群生　譬如工幻師　能現種種事　佛爲化衆生　示現種種身
如月遊虛空　覩者謂增損　影現諸河池　映蔽熒火光　如來淨智月　示現有增損　處於直心水
映蔽二乘光　譬如深大海　珍寶不可盡　於中悉顯現　衆生形類像　甚深因緣海　功德寶無盡
清淨法身中　無像而不現　譬如明淨日　照除世間闇　如來淨智日　悉除三世闇　如龍興慶雲
普雨於一切　身心不降雨　除熱得清涼　如來亦如是　興起大悲雲　普雨甘露法　滅除三毒火
此法亦不從　如來身心出　如來淨法身　三界無倫匹　超出諸世間　非有亦非無　其實無所依
不去而徧至　譬如夢所見　亦如空中畫　非色非無色　非相非無相　非有亦非無　其性如虛空
如海摩尼寶　能出種種寶　衆生諸光明　而光無所有　導師亦如是　雖有而非有　不於一處中
積集功德寶　大仙現虛空　如自性實際　涅槃離欲滅　皆悉是一性　衆生心微塵　海水渧可數
虛空亦可量　佛德說無盡　聞此法歡喜　信心無疑者　速成無上道　與諸如來等

# 大方廣佛華嚴經卷第六十

華嚴經梵本凡十萬偈。昔道人支法領。從于闐國得此三萬六千偈。以晉義熙十四年歲次鶉火三月十日。於揚州司空謝石所立道場寺。請天竺禪師佛度跋陀羅。手執梵文譯梵爲晉。沙門釋法業親從筆受。時吳郡內史孟顗右衛將軍褚叔度爲檀越。至元熙二年六月十日出訖

譯經因緣依明補

（岡山製本）

大正六年十一月二十六日印刷
大正六年十一月二十九日發行
大正七年三月三十一日再版發行
昭和三年二月十五日三版發行

國譯大藏經 經部 第七卷

【非賣品】



編輯兼發行者 東京市神田區小川町一番地 國民文庫刊行會

右代表者 東京市本郷區西片町十番地 鶴田久作

印刷者 東京市小石川區久堅町百八番地 君島潔

印刷所 東京市小石川區久堅町百八番地 共同印刷株式會社

發行所
電話神田 五三五番 八三八番
振替東京一八五七二番
國民文庫刊行會